森原下ノ原遺跡

１～３区

１．古代～近世編

2022

島根県教育委員会

1　遺構 1064 礎石建物、遺構 1044 集石出土遺物

2　3-4 層出土青銅鏡

3　3-4 層出土石釧

4　遺構 2144、3-4 層出土土製勾玉

5　5 層出土滑石製模造品

序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、令和元（2019）から令和２（2020）年度に実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本書で報告する森原下ノ原遺跡（１～３区）では、縄文時代から現代までの膨大な遺構・遺物が発見され、5,000 年以上にわたる人々の生活の様子が明らかとなりました。本書はその一部をまとめたものです。

遺跡では室町時代から戦国時代にかけての建物や鍛冶炉などが見つかり、多くの貿易陶磁器や鉄器が出土しました。その中でも県内最多となる甲冑の小札や建物の飾り金具などは注目されます。当時は石見銀山が発見された前後にあたり、江の川の水運を利用した交易や戦乱が盛んになる時期で、江の川流域の歴史を考える上で貴重な発見となりました。また、中国後漢時代の青銅鏡や古墳時代の腕輪形石製品など、広い交易や当時の中央政権とのつながりを示す貴重な遺物も出土し、古くから重要な場所であったことも明らかとなりました。本報告書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査および本報告書の作成にあたりご協力をいただきました江津市、森原地区の方々をはじめ、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和４年３月

島根県教育委員会

教育長　野津　建二

例　言

1．本書は国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が令和元年度から同２年度にかけて実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果の内、森原下ノ原遺跡（１～３区）の古代から近世までの遺構、弥生時代中期以降の包含層についてとりまとめたものである。なお、縄文から古墳時代までの遺構、縄文から弥生時代前期までの包含層、自然科学分析については『縄文～古墳時代編』に掲載する。

2．本報告書の発掘調査対象遺跡および事業年度は下記のとおりである。

令和元年度　発掘調査　森原下ノ原遺跡１・３区（江津市松川町八神 247 外）3,600㎡

令和２年度　発掘調査　森原下ノ原遺跡１・２区（江津市松川町八神 249 外）2,580㎡

整理等作業　森原下ノ原遺跡１区

令和３年度　整理等作業・報告書作成　森原下ノ原遺跡１～３区

3．発掘調査は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、１区を東森晋、２区を真木大空、３区を宮本正保・真木が担当した。

4．発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量など）については、次の機関に委託した。

令和元年度　株式会社堀工務店（大田市波根町）

令和２年度　大畑建設株式会社（益田市大谷町）

5．発掘調査および報告書作成にあたっては、次の方々から御指導をいただいた。（五十音順、肩書は当時）

岩本　崇（島根大学法文学部准教授）、内田律雄（元島根県教育庁埋蔵文化財調査センター調査第一グループ課長）、会下和宏（島根大学総合博物館教授）、榊原博英（浜田市教育委員会文化振興課係長）、佐藤寛介（東京国立博物館調査研究課主任研究員）、田中義昭（元島根県文化財保護審議会委員）、中村唯史（島根県立三瓶自然館企画情報課調整監）、藤田大輔（浜田市教育委員会文化振興課主任主事）

6．発掘調査および報告書作成に際しては、次の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた（順不同、肩書は当時）。

平郡達哉（島根大学法文学部准教授）、伊藤　創（江津市教育委員会社会教育課統括主任）、持田直人（同主事）、生田光晴（大田市教育委員会石見銀山課係長）、清水拓生（同主任）、高屋茂男（島根県立八雲立つ風土記の丘学芸課長）、西尾克己（松江市松江城調査研究室松江市史松江城部会長）、吉川　正（元邑南町郷土館長）、渡邉正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）、桃崎祐輔（福岡大学歴史学科教授）、久住猛雄（福岡市埋蔵文化財課文化財主事）、中村泰朗（広島大学大学院人間社会科学研究科助教）、村田　晋（広島県教育委員会文化財課主任）、尾上元規（古代吉備文化財センター統括副参事）、松田順一郎（関西大学非常勤講師）、二村真司（京都大学大学院文学研究科大学院生）、内山敏行（公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター調査課副主幹）、松江市、江津市教育委員会、松平地域コミュニティ交流センター、江津市土木建設課国県事業推進室

7．本調査にともなう自然科学分析は、次の方々、機関に委託し、その成果は『縄文～古墳時代編』

に掲載する。

鍛冶関連遺物分析　日鉄テクノロジー株式会社九州事業所

鉄製品 X 線 CT 撮影　島根県産業技術センター

8．出土鉄器の保存処理は次の機関に委託した。

令和元・２年度　（一財）大阪市文化財協会

9．本書に掲載した遺構の写真は宮本・東森・真木・柳浦俊一・松山智弘が撮影し、遺物の写真は林健亮・真木が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員などがおこなったほか、遺の分類・鑑定などは埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。

10. 本書の執筆・編集は真木がおこなった。

11. 本書に掲載した遺物および実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（島根県松江市打出町 33 番地）にて保管している。

12. 本書の編集にあたっては、DTP 方式を採用した。

凡　例

1．挿図中の方位北は、測量法にもとづく平面直角第Ⅲ座標系 X 軸方向を指し、座標系 XY 座標は世界測地系による。

2．挿図中のレベル高は海抜高を示す。

3．本書で使用した第３・４・11 図は国土交通省浜田河川国道事務所が作成した計画平面図 1/1,000 を、第７図は国土調査５万分の１都道府県土地分類基本調査地形分類図（温泉津、江津・浜田、川本・大朝）を、第 10 図は国土地理院の 1/25,000 地図（江津、浅利、都野津、川戸）を使用して作成したものである。

4．本書に記載する土層は『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所　色票監修）にしたがって記載した。

5．本書で使用した挿図の縮尺は基本的に以下の縮尺としている。

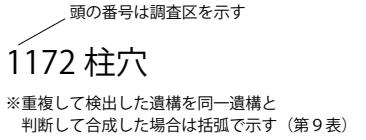
遺構配置図　1/250・1/500

遺構実測図　畑：1/50・1/200、建物：1/80、集石：1/30、土坑：1/30、ピット：1/30

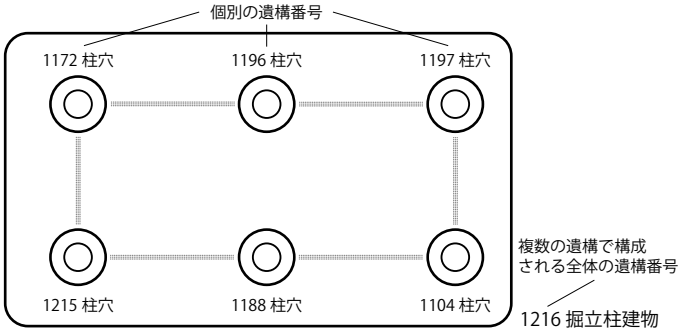
遺物実測図　陶磁器：1/3、須恵器・土器：1/4、ミニチュア土器：1/2、土製品：1/3、石製品：1/1・1/3、玉製品：1/1、金属器：1/2、古銭：1/1

6．本書で示した遺構番号は、現地で付与したものを基本的に使用し、以下のように表記する。

《遺構の表記方法》



《掘立柱建物などの表記方法》

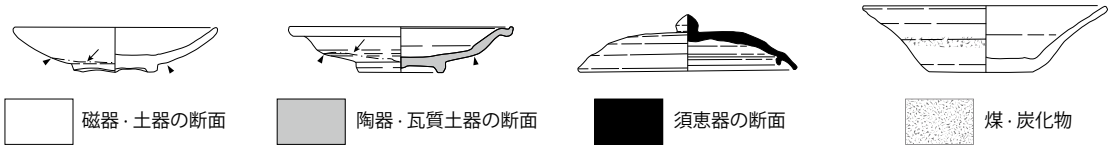


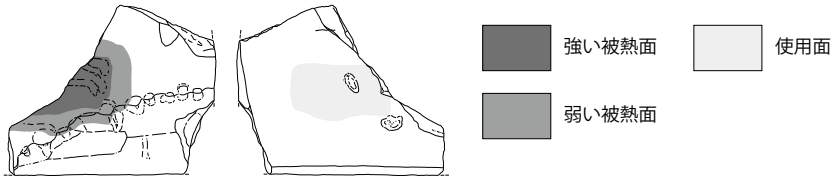
7．本書で使用した遺構・遺物の表現は以下による。

《遺構》

《遺物》

▼印、一点鎖線（↙箇所）は施釉範囲を示す





8．本書で用いた土器の分類および編年は、下記の論文・報告書に依拠している。

（1）縄文土器

小林達雄編 『総覧縄文土器』 アム・プロモーション 2008

柳浦俊一 「山陰における縄文後期土器の概要」『山陰地方における縄文文化の研究』雄山閣 2017

柳浦俊一 「島根県中・東部の突帯文土器－古屋敷遺跡を中心に－」『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第 25 集 島根県古代文化センター 2021

（2）弥生土器

松本岩雄 「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社 1992a

松本岩雄 「石見地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社 1992b

（3）土師器

東山信治 「益田平野の古墳時代の土器について」『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡』一般国道９号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書６ 島根県教育委員会 2010

松山智弘 「山陰」『前期古墳編年を再考するⅡ－古墳出土土器をめぐって－』中国四国前方後円墳研究会第 18 回研究集会 中国四国前方後円墳研究会 2015

松山智弘 「島根県」『中期古墳研究の現状と課題Ⅴ～古墳時代中期の土師器･須恵器をめぐって～』中国四国前方後円墳研究会第 24 回研究集会 中国四国前方後円墳研究会 2021

（4）須恵器

榊原博英 「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』 島根県古代文化センター 2010

岩本真実 「石見地域における須恵器の編年と地域性－「石見型須恵器」再考－」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第 22 集 島根県古代文化センター 2019

（5）土師質土器

東山信治 「益田地域の土師器」中世石見における在地領主の動向第5回検討会資料　2020

北島大輔 「大内式の設定－中世山口における遺物編年の細分と再編－」『大内氏館跡ＸⅠ』山口市埋蔵文化財調査報告第101集　山口市教育委員会　2010

（6）中近世陶磁器

上田秀夫 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会　1982

大成可乃 「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）－器種（小器種）の出土状況－」『東京大学構内遺跡調査研究年報7』 東京大学埋蔵文化財調査室　2011

岡山県備前市教育委員会 『備前焼詳細分布調査報告書』 2013

小野正敏 「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会　1982

片山まび 「高麗・朝鮮陶磁器の概要－14世紀中葉から17世紀初を中心に－」『第15回山陰中世土器検討会資料集　山陰における高麗・朝鮮陶磁』 2017

九州近世陶磁学会 『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』 2000

太宰府市教育委員会 『大宰府条坊跡XV －陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集　2000

東京大学埋蔵文化財調査室 『東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）』東京大学構内遺跡調査研究年報2別冊　1999

堀内秀樹 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」『東京大学構内遺跡調査研究年報1』東京大学埋蔵文化財調査室　1997

森田　勉 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2　日本貿易陶磁研究会　1982

9．註は各章ごとに連番を振り、章末に配置した。

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過 ……1
　第１節　調査に至る経緯 ……1
　　１．事業計画の概要 ……1
　　２．埋蔵文化財保護部局への照会と調整 ……2
　　３．遺跡の名称について ……4
　第２節　発掘作業と整理作業の経過 ……4
　　１．試掘確認調査 ……4
　　２．発掘作業 ……4
　　３．整理作業等 ……9
　第３節　調査体制 …… 10
第２章　遺跡の位置と環境 …… 12
　第１節　地理的環境 …… 12
　第２節　歴史的環境 …… 14
　　１．旧石器・縄文時代 …… 14
　　２．弥生時代 …… 14
　　３．古墳時代 …… 16
　　４．古代 …… 16
　　５．中世 …… 16
　　６．近世・近代 …… 17
　第３節　調査地周辺の地名 …… 17
第３章　調査の方法と成果 …… 19
　第１節　調査の方法 …… 19
　　１．発掘調査区とグリッドの設定 …… 19
　　２．表土・包含層掘削と遺構検出 …… 19
　　３．遺構掘削 …… 19
　　４．記録の作成 …… 19
　　５．整理作業 …… 20
　第２節　基本層序 …… 22
　第３節　遺物の分類方法 …… 28
　　１．管状土錘 …… 33
　　２．小札 …… 33
　　３．磨製石斧（成品・未成品） …… 34
　第４節　調査の成果 …… 34
　　１．２層の出土遺物 …… 34
　　２．3-2 層上面の遺構 …… 39
　　３．3-4 層上面の遺構 …… 49
　　４．3-1 ～ 3-4 層（西側）の出土遺物 …… 58

５．3-4 層（東側）の出土遺物 …… 64
６．4－1・2 層、５層上面の遺構 …… 85
７．4 層内の遺構 …… 119
８．4 層の出土遺物 …… 126
９．5 層の出土遺物 …… 145
第 4 章　総　括 …… 173
第 1 節　中世後半の遺構・遺物について …… 173
1. 建物について …… 173
2. 鍛冶遺構・遺物について …… 175
3. 出土遺物について …… 177
4. 小　結 …… 180
第 2 節　弥生・古墳時代の遺物について …… 181
1. 弥生土器について …… 181
2. 土師器について …… 183
3. 須恵器について …… 183
4. 青銅鏡について …… 184
5. 石釧について …… 185
6. 古墳時代後半期の祭祀について …… 186
7. 須恵器模倣土師器について …… 189

挿図目次

第 1 図　森原下ノ原遺跡の位置 …… 1
第 2 図　江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所（平成 28 年 2 月時点の計画段階） 2
第 3 図　試掘トレンチ配置と遺跡範囲・調査対象範囲 …… 5
第 4 図　グリッド・調査区配置 …… 6
第 5 図　試掘トレンチ土層 …… 7
第 6 図　試掘トレンチ出土遺物 …… 8
第 7 図　遺跡周辺の地形分類 …… 12
第 8 図　森原下ノ原遺跡周辺の地形 …… 13
第 9 図　遺跡周辺の東西断面模式図 …… 14
第 10 図　森原下ノ原遺跡と周辺の遺跡 …… 15
第 11 図　森原下ノ原遺跡の調査区配置 …… 20
第 12 図　グリッド・調査区・全遺構配置 …… 21
第 13 図　森原下ノ原遺跡の土層堆積模式図 …… 22
第 14 図　４ライン土層図 …… 23
第 15 図　７ライン土層図 …… 24
第 16 図　３区北壁土層図 …… 25
第 17 図　Ｆライン土層図 …… 26

第 18 図　２区東壁土層図 …… 27
第 19 図　３区東壁土層図 …… 28
第 20 図　１区西壁土層図 …… 29
第 21 図　２区西壁土層図 …… 30
第 22 図　森原下ノ原遺跡土層注記（東西） …… 31
第 23 図　森原下ノ原遺跡土層注記（南北） …… 32
第 24 図　管状土錘法量分布 …… 33
第 25 図　小札分類模式図 …… 33
第 26 図　磨製石斧分類模式図 …… 33
第 27 図　森原下ノ原遺跡の層別遺物出土数 …… 35
第 28 図　２層出土遺物（１） …… 36
第 29 図　２層出土遺物（２） …… 37
第 30 図　２層出土遺物（３） …… 38
第 31 図　２層出土遺物（４） …… 39
第 32 図　近世上層遺構配置（3-2 層上面） …… 40
第 33 図　近世上層遺構配置（１区部分） …… 41
第 34 図　遺構 1006・1007・1009 ～ 1011・2041・2042 畑 …… 42
第 35 図　遺構 2042 畑出土遺物 …… 43
第 36 図　遺構 2045 畑、遺構 2046 ～ 2050 ピット …… 44
第 37 図　遺構 1003・1004 鍛治炉および出土遺物 …… 45
第 38 図　遺構 1005 土坑および出土遺物 …… 46
第 39 図　遺構 1036 土坑 …… 47
第 40 図　遺構 1036 土坑出土遺物 …… 48
第 41 図　近世上層ピット・集石 …… 49
第 42 図　近世上層ピット・集石出土遺物 …… 50
第 43 図　近世下層遺構配置（3-4 層上面） …… 51
第 44 図　遺構 1057・1061・1063・1070・1073 畑 …… 52
第 45 図　遺構 2063 鍛治炉？および出土遺物 …… 53
第 46 図　遺構 3001・3002 溝および出土遺物 …… 54
第 47 図　遺構 3038 土器溜 …… 55
第 48 図　遺構 3038 土器溜出土遺物 …… 55
第 49 図　遺構 2051 土坑および出土遺物 …… 56
第 50 図　遺構 2079 ピットおよび出土遺物 …… 56
第 51 図　遺構 1014 集石、遺構 1087 焼土面 …… 57
第 52 図　遺構 1014 集石出土遺物 …… 58
第 53 図　遺構 2054 集石、遺構 2055 ～ 2059・2061 ピットおよび出土遺物 …… 59
第 54 図　遺構 3037 自然流路出土遺物 …… 60
第 55 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（１） …… 61
第 56 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（２） …… 62

第 57 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（３）…… 63
第 58 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（４）…… 64
第 59 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（５）…… 65
第 60 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（６）…… 66
第 61 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（７）…… 67
第 62 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（８）…… 68
第 63 図　3-4 層（東側）出土遺物（１）…… 69
第 64 図　3-4 層（東側）出土遺物（２）…… 70
第 65 図　3-4 層（東側）出土遺物（３）…… 71
第 66 図　3-4 層（東側）出土遺物（４）…… 72
第 67 図　3-4 層（東側）出土遺物（５）…… 73
第 68 図　3-4 層（東側）出土遺物（６）…… 74
第 69 図　3-4 層（東側）出土遺物（７）…… 75
第 70 図　3-4 層（東側）出土遺物（８）…… 76
第 71 図　3-4 層（東側）出土遺物（９）…… 77
第 72 図　3-4 層（東側）出土遺物（10）…… 78
第 73 図　3-4 層（東側）出土遺物（11）…… 79
第 74 図　3-4 層（東側）出土遺物（12）…… 80
第 75 図　3-4 層（東側）出土遺物（13）…… 81
第 76 図　3-4 層（東側）出土遺物（14）…… 82
第 77 図　3-4 層（東側）出土遺物（15）…… 83
第 78 図　中世後半遺構配置（4-1・2 層、5 層上面）…… 84
第 79 図　中世後半遺構配置（１区部分）…… 85
第 80 図　中世後半遺構配置（２区部分）…… 86
第 81 図　遺構 1064 礎石建物、遺構 1216・1413 掘立柱建物 …… 87
第 82 図　遺構 1064 礎石建物 …… 88
第 83 図　遺構 1064 礎石建物出土遺物 …… 89
第 84 図　遺構 1044 集石、遺構 1136 鍛治炉 …… 90
第 85 図　遺構 1044 集石出土遺物 …… 91
第 86 図　遺構 1136 鍛治炉出土遺物 …… 92
第 87 図　遺構 1216 掘立柱建物 …… 92
第 88 図　遺構 1216 掘立柱建物、遺構 1250 炭面出土遺物 …… 93
第 89 図　遺構 1413 掘立柱建物、遺構 1043 ピット …… 94
第 90 図　遺構 1413 掘立柱建物 …… 95
第 91 図　遺構 1043 ピット出土遺物 …… 95
第 92 図　遺構 1415・1416 掘立柱建物 …… 96
第 93 図　遺構 1415・1416 掘立柱建物出土遺物 …… 97
第 94 図　遺構 1417 柱穴列 …… 98
第 95 図　遺構 1131 布掘建物、遺構 1418 柱穴列および出土遺物 …… 99

第 96 図　中世後半の鍛治炉ほか関連遺構 …… 100
第 97 図　中世後半の鍛治炉ほか関連遺構出土遺物 …… 102
第 98 図　遺構 1410 土坑および出土遺物 …… 103
第 99 図　中世後半の土坑・ピット …… 104
第 100 図　中世後半の土坑・ピット出土遺物 …… 105
第 101 図　中世後半の土坑・ピット …… 107
第 102 図　中世後半の土坑・ピット出土遺物 …… 108
第 103 図　中世後半のピット・落ち込み・集石 …… 109
第 104 図　中世後半のピット・落ち込み・集石出土遺物 …… 110
第 105 図　遺構 1141 集石出土遺物 …… 111
第 106 図　遺構 1142 集石 …… 112
第 107 図　遺構 1142 集石出土遺物（１）…… 113
第 108 図　遺構 1142 集石出土遺物（２）…… 114
第 109 図　中世後半の集石・ピット …… 115
第 110 図　中世後半の集石・ピット出土遺物 …… 116
第 111 図　古代～中世前半全体図（１～３区）…… 117
第 112 図　遺構 2459 畑 …… 118
第 113 図　遺構 1347 ピットおよび出土遺物 …… 119
第 114 図　遺構 2144 集石 …… 119
第 115 図　遺構 2144 集石出土遺物 …… 120
第 116 図　遺構 2150 ～ 2156 集石（平面）…… 121
第 117 図　遺構 2150 ～ 2156 集石（断面）…… 122
第 118 図　遺構 2150 ～ 2156 集石出土遺物（１）…… 123
第 119 図　遺構 2150 ～ 2156 集石出土遺物（２）…… 124
第 120 図　４層出土遺物（１）…… 125
第 121 図　４層出土遺物（２）…… 126
第 122 図　４層出土遺物（３）…… 127
第 123 図　４層出土遺物（４）…… 129
第 124 図　４層出土遺物（５）…… 130
第 125 図　４層出土遺物（６）…… 131
第 126 図　４層出土遺物（７）…… 132
第 127 図　４層出土遺物（８）…… 133
第 128 図　４層出土遺物（９）…… 134
第 129 図　４層出土遺物（10）…… 135
第 130 図　４層出土遺物（11）…… 136
第 131 図　４層出土遺物（12）…… 137
第 132 図　４層出土遺物（13）…… 138
第 133 図　４層出土遺物（14）…… 139
第 134 図　４層出土遺物（15）…… 140

第 135 図　４層出土遺物（16）……141
第 136 図　４層出土遺物（17）……142
第 137 図　４層出土遺物（18）……143
第 138 図　４層出土遺物（19）……144
第 139 図　５層出土遺物（１）……145
第 140 図　５層出土遺物（２）……146
第 141 図　５層出土遺物（３）……147
第 142 図　５層出土遺物（４）……148
第 143 図　５層出土遺物（５）……149
第 144 図　５層出土遺物（６）……150
第 145 図　５層出土遺物（７）……151
第 146 図　５層出土遺物（８）……152
第 147 図　５層出土遺物（９）……153
第 148 図　５層出土遺物（10）……154
第 149 図　５層出土遺物（11）……155
第 150 図　５層出土遺物（12）……156
第 151 図　５層出土遺物（13）……157
第 152 図　５層出土遺物（14）……158
第 153 図　５層出土遺物（15）……159
第 154 図　５層出土遺物（16）……160
第 155 図　５層出土遺物（17）……161
第 156 図　５層出土遺物（18）……162
第 157 図　５層出土遺物（19）……163
第 158 図　５層出土遺物（20）……164
第 159 図　５層出土遺物（21）……165
第 160 図　５層出土遺物（22）……166
第 161 図　５層出土遺物（23）……167
第 162 図　５層出土遺物（24）……168
第 163 図　５層出土遺物（25）……169
第 164 図　５層出土遺物（26）……170
第 165 図　５層出土遺物（27）……171
第 166 図　５層出土遺物（28）……172
第 167 図　森原下ノ原遺跡における中世後半の主な遺構と遺物出土状況 ……174
第 168 図　層別陶磁器出土数 ……177
第 169 図　中世後半の遺物出土比率 ……178
第 170 図　中世後半の白磁・青磁・青花の出土比率 ……178
第 171 図　土師質土器の層別出土比率 ……178
第 172 図　鉄製品の種別出土量 ……179
第 173 図　５層における弥生時代後半期の時期別土器比率 ……181

第 174 図　５層における弥生時代後半期の時期別肩部文様比率 …… 182
第 175 図　５層における区別土師器出土数 …… 183
第 176 図　須恵器の時期別 (左) ・器種別 (右) 出土比率 …… 184
第 177 図　森原下ノ原遺跡における小型土器、その他特殊遺物出土状況 …… 187
第 178 図　遺跡別ミニチュア土器の法量標準偏差 …… 189

表目次

第 1 表　文化財保護法にもとづく提出書類 …… 3
第 2 表　中世の鍛治炉一覧 …… 175
第 3 表　包含層出土の鍛治関連遺物集計表 …… 175
第 4 表　中世の陶磁器・土器類集計表 …… 176
第 5 表　島根県出土の漢鏡一覧 …… 185
第 6 表　中国地方出土の石釧一覧 …… 186
第 7 表　島根県における古墳時代後半期の祭祀遺跡一覧 …… 188
第 8 表　島根県出土の須恵器模倣土師器一覧 …… 190
第 9 表　遺構観察表（古代～近世）…… 194
第 10 表　遺構出土遺物観察表 …… 199
第 11 表　２層出土遺物観察表 …… 204
第 12 表　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物観察表 …… 205
第 13 表　3-4 層（東側）出土遺物観察表 …… 207
第 14 表　４層出土遺物観察表 …… 213
第 15 表　５層出土遺物観察表 …… 219
第 16 表　近世陶磁器集計表 …… 226
第 17 表　５層出土石製品集計表 …… 227

写真目次

巻頭図版１　1　遺構1064礎石建物、遺構1044集石出土遺物
2　3-4層出土青銅鏡
3　3-4層出土石釧
4　3-4層・４層出土土製勾玉
5　５層出土滑石製模造品
図版１　1　令和元年度調査１区遠景(南東から)
2　令和元年度調査１区遠景(西から)
図版２　1　４ライン西半土層(南から)
2　４ライン東半土層(南から)
図版３　1　７ライン西半土層(南東から)
2　３区北壁土層(南東から)
図版４　1　１区西壁土層(南東から)
2　２区西壁土層(北東から)
図版５　1　１区Fライン北半土層(東から)
2　１区Fライン南半土層(南西から)
図版６　1　２区東壁土層(南西から)
2　３区東壁土層(南西から)
図版７　1　遺構1007畑検出状況(東から)
2　遺構1007~1010畑完掘状況(西から)
図版８　1　遺構2041・2042畑完掘状況(北西から)
2　遺構2045畑、2046~2050ピット完掘状況(西から)
図版９　1　遺構1003鍛冶炉半截状況(南から)
2　遺構1004鍛冶炉半截状況(西から)
3　遺構1003・1004鍛冶炉と遺構1006畑(西から)
4　遺構1005土坑粘土ブロック検出状況(北から)
5　遺構1036遺物出土状況(西から)
6　遺構1019管玉出土状況(北東から)
7　遺構1019完掘状況(北から)

図版10　1　遺構1022ピット半截状況(南から)
　　2　遺構1030ピット完掘状況(北から)
　　3　遺構1032ピット半截状況(南から)
　　4　遺構1018集石検出状況(東から)
　　5　遺構1028・1029集石検出状況(南から)
　　6　遺構1070畑検出作業状況(西から)
図版11　1　遺構2063鍛冶炉？半截状況(南から)
　　2　遺構3001・3002溝完掘状況(南東から)
　　3　遺構3001・3002溝横断土層(南から)
　　4　遺構3038土器溜検出状況(北から)
　　5　遺構2051土坑と遺構2042畑完掘状況(南西から)
　　6　遺構1079ピット検出状況(東から)
　　7　遺構1014集石検出状況(南西から)
図版12　1　遺構2054集石検出状況(北東から)
　　2　遺構2054集石と周辺ピット検出状況(北から)
　　3　遺構2055~2059・2061ピット完掘状況(東から)
　　4　遺構3037自然流路完掘状況(北西から)
図版13　1　遺構1064礎石建物検出状況(南から)
　　2　遺構1064礎石建物東側炭面検出状況(西から)
　　3　遺構1136鍛冶炉完掘状況(南東から)
　　4　遺構1044集石、遺構1136鍛冶炉検出状況(南から)
図版14　1　遺構1216掘立柱建物完掘状況(西から)
　　2　遺構1104柱穴検出状況(北西から)
　　3　遺構1188柱穴半截状況(南から)
　　4　遺構1196柱穴完掘状況(南から)
　　5　遺構1197柱穴完掘状況(西から)
図版15　1　遺構1068柱穴半截状況(北から)
　　2　遺構1081柱穴半截状況(西から)
　　3　遺構1082柱穴半截状況(北から)
　　4　遺構1102柱穴半截状況(南から)
　　5　遺構1103柱穴半截状況(西から)
　　6　遺構1153柱穴半截状況(南東から)
　　7　遺構1207柱穴半截状況(西から)
　　8　遺構1043柱穴半截状況(西から)
図版16　1　遺構1415・1416掘立柱建物調査状況(北東から)
　　2　遺構1241柱穴半截状況(東から)
　　3　遺構1239柱穴半截状況(東から)
　　4　遺構1095~1097柱穴検出状況(北から)
　　5　遺構1138石列検出状況(南西から)
　　6　遺構1261柱穴半截状況(西から)
図版17　1　遺構1131布掘建物検出状況(東から)
　　2　１区中世後半建物群調査状況(南東から)
図版18　1　遺構1065鍛冶炉半截状況(南から)
　　2　遺構1066鍛冶炉半截状況(南から)
　　3　遺構1072鍛冶炉半截状況(南西から)
図版18　4　遺構1137鍛冶炉、遺構1051鉄滓廃棄場遺物出土状況（北西から）
　　5　遺構1130土坑半截状況(南から)
　　6　遺構1132 ～ 1135鍛冶炉・ピット完掘状況(南から)
　　7　遺構1132鍛冶炉完掘状況(南から)
図版19　1　遺構1410土坑半截状況(南から)
　　2　遺構1325土坑完掘状況(西から)
　　3　遺構1194焼土面検出状況(西から)
　　4　遺構1233不整形土坑完掘状況(北東から)
　　5　遺構1245集石土坑半截状況(西から)
　　6　遺構1283土坑半截状況(西から)
　　7　遺構2139土坑半截状況(西から)
図版20　1　遺構2162土坑完掘状況(南から)
　　2　遺構1228ピット、遺構1230土坑完掘状況(北から)
　　3　遺構1067ピット完掘状況(南から)
　　4　遺構1111ピット半截状況(南東から)
　　5　遺構1166ピット完掘状況(南から)
　　6　遺構1167ピット完掘状況(南東から)
　　7　遺構1254・1255ピット完掘状況(北から)
　　8　遺構1257~1262ピット検出状況(東から)
図版21　1　遺構1295ピット半截状況(南東から)
　　2　遺構1314ピット半截状況(南東から)
　　3　遺構1315ピット検出状況(北から)
　　4　遺構2120ピット半截状況(北から)
　　5　遺構2124ピット完掘状況(西から)
　　6　遺構2133ピット完掘状況(南東から)
　　7　遺構2190ピット半截状況(東から)
　　8　遺構1328落ち込み完掘状況(北から)
図版22　1　遺構1088集石検出状況(東から)
　　2　遺構1141集石検出状況(西から)
　　3　遺構1142集石検出状況(南西から)
　　4　遺構2044集石検出状況(南西から)
　　5　遺構2185ピット半截状況(南から)
　　6　遺構2052集石検出状況(南西から)
　　7　遺構2123集石検出状況(北から)
図版23　1　遺構2459畑完掘状況(北西から)
　　2　遺構1347ピット半截状況(東から)
　　3　遺構2144集石検出状況(北から)
　　4　遺構2150・2156集石検出状況(西から)
　　5　遺構2151集石検出状況(東から)
図版24　1　遺構2153集石検出状況(南から)
　　2　遺構2154集石検出状況(南西から)
　　3　遺構2155集石検出状況(西から)

4 令和元年度１区重機掘削中3-4層須恵器甕出土状況(南西から)
図版25 1 令和２年度２区3-4層調査状況(南から)
2 令和２年度２区3-4層調査状況(南東から)
3 令和２年度２区3-4層調査状況(南から)
4 令和２年度２区3-4層石釧出土状況(南から)
5 令和元年度１区3-4層青銅鏡出土状況(東から)
図版26 1 令和２年度２区４層調査状況(南から)
2 令和２年度２区４層調査状況(南から)
3 令和２年度２区4-7層調査状況(北から)
4 令和２年度２区４層調査状況(南から)
5 令和２年度２区５層調査状況(南から)
6 令和２年度２区５層調査状況(南から)
図版27 1 令和元年度１区南壁3-1~3-4層(東)堆積状況(北東から)
2 令和元年度１区C2・3、D2・３グリッド中世後半遺構調査状況と4-1 ～ 4-10層堆積状況(北から)
図版28 1 令和２年度２区4-3層(左)・５層(右奥)検出状況(南東から)
2 令和２年度２区４層調査状況(南東から)
図版29 1 試掘出土遺物
2 遺構出土遺物(１)
図版30 1 遺構出土遺物(２)
2 遺構出土遺物(３)
図版31 1 遺構出土遺物(４)
2 遺構出土遺物(５)
図版32 1 遺構出土遺物(６)
2 遺構出土遺物(７)
図版33 1 遺構出土遺物(８)
2 遺構出土遺物(９)
図版34 1 遺構出土遺物(10)
2 遺構出土遺物(11)
図版35 1 遺構出土遺物(12)
2 遺構出土遺物(13)
図版36 1 遺構出土遺物(14)
2 遺構出土遺物(15)
図版37 1 遺構出土遺物(16)
2 遺構出土遺物(17)
図版38 1 遺構出土遺物(18)
2 遺構出土遺物(19)
図版39 1 遺構出土遺物(20)
2 遺構出土遺物(21)
図版40 1 遺構出土遺物(22)
2 遺構出土遺物(23)
図版41 1 遺構出土遺物(24)
2 遺構出土遺物(25)
図版42 1 遺構出土遺物(26)
2 遺構出土遺物(27)
図版43 1 ２層出土陶磁器
2 ２層出土土師質土器・須恵器・土師器
図版44 1 ２層出土土師器・土製品
2 ２層出土石製品
図版45 1 ２層出土鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品
2 3-1 ～ 3-4層(西側)出土陶磁器
図版46 1 3-1 ～ 3-4層(西側)出土陶磁器
2 3-1 ～ 3-4層(西側)出土土師質土器・土師器・弥生土器・縄文土器
図版47 1 3-1 ～ 3-4層(西側)出土土師質土器
2 3-1 ～ 3-4層(西側)出土土製品・石製品
図版48 1 3-1 ～ 3-4層(西側)出土鉄製品
2 3-1 ～ 3-4層(西側)出土鉄製品
図版49 1 3-1 ～ 3-4層(西側)出土鉄製品
2 3-1 ～ 3-4層(西側)出土鉄製品
図版50 1 3-4層(東側)出土陶磁器・土師質土器・須恵器
2 3-4層(東側)出土須恵器
図版51 1 3-4層(東側)出土須恵器
2 3-4層(東側)出土須恵器
図版52 1 3-4層(東側)出土須恵器
2 3-4層(東側)出土須恵器
図版53 1 3-4層(東側)出土須恵器
2 3-4層(東側)出土須恵器
図版54 1 3-4層(東側)出土須恵器
2 3-4層(東側)出土須恵器
図版55 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土土師器
図版56 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土土師器
図版57 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土土師器
図版58 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土土師器
図版59 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土土師器
図版60 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土土師器
図版61 1 3-4層(東側)出土土師器
2 3-4層(東側)出土弥生土器
図版62 1 3-4層(東側)出土弥生土器
2 3-4層(東側)出土弥生土器
図版63 1 3-4層(東側)出土土製品・石製品・青銅

製品
2 3-4層(東側)出土石製品
図版64 1 3-4層(東側)出土鉄製品
2 4層出土陶磁器
図版65 1 4層出土陶磁器
2 4層出土土師質土器
図版66 1 4層出土土師質土器・須恵器
2 4層出土須恵器
図版67 1 4層出土須恵器
2 4層出土土師器
図版68 1 4層出土土師器
2 4層出土土師器
図版69 1 4層出土土師器
2 4層出土土師器
図版70 1 4層出土土師器
2 4層出土土師器
図版71 1 4層出土土師器
2 4層出土土師器
図版72 1 4層出土土師器
2 4層出土弥生土器
図版73 1 4層出土弥生土器
2 4層出土弥生土器
図版74 1 4層出土弥生土器
2 4層出土弥生土器
図版75 1 4層出土縄文土器
2 4層出土土製品
図版76 1 4層出土弥生土器・石製品
2 4層出土石製品
図版77 1 4層出土石製品
2 4層出土石製品
図版78 1 4層出土鉄製品
2 4層出土鉄製品
図版79 1 4層出土鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品
2 4層出土鉄製品
図版80 1 4層出土鉄製品
2 5層出土陶磁器・土師質土器・須恵器
図版81 1 5層出土須恵器
2 5層出土須恵器
図版82 1 5層出土須恵器
2 5層出土須恵器
図版83 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版84 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版85 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版86 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版87 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版88 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版89 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版90 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版91 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版92 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版93 1 5層出土土師器
2 5層出土土師器
図版94 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版95 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版96 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版97 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版98 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版99 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版100 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版101 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版102 1 5層出土弥生土器
2 5層出土弥生土器
図版103 1 5層出土弥生土器・縄文土器・石製品
2 5層出土土製品
図版104 1 5層出土石製品
2 5層出土石製品
図版105 1 5層出土石製品
2 5層出土石製品
図版106 1 5層出土石製品
2 5層出土鉄製品
図版107 1 中世後半小札X線写真
2 中世後半建物の飾り金具・火打金・釘塊X線写真

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

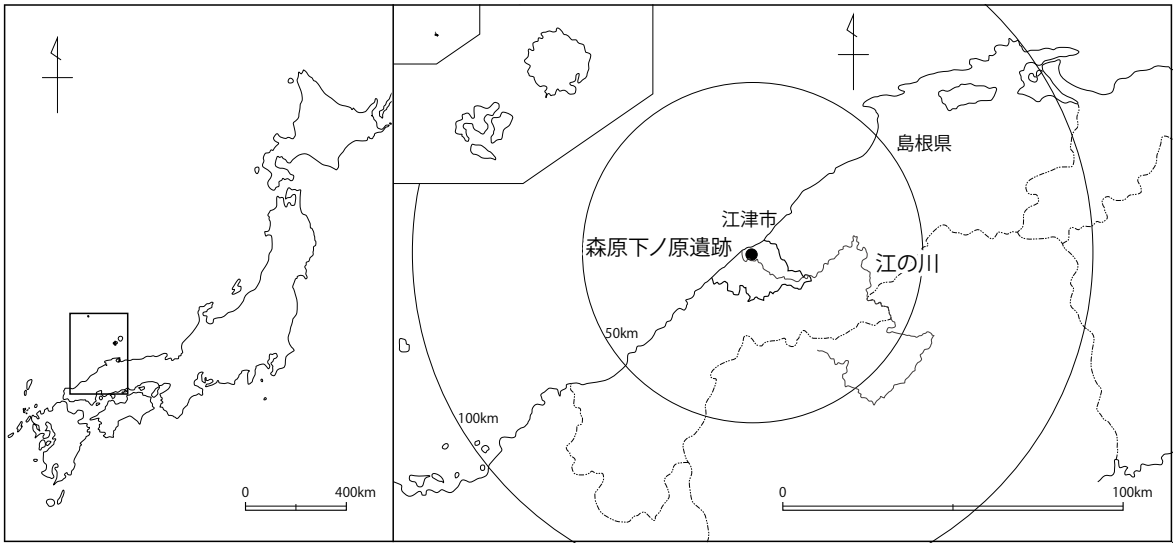
１．事業計画の概要

江の川は、広島県北広島町の阿佐山（標高1,218ｍ）に端を発し、中国山地を縦断して島根県江津市で日本海に注ぐ一級河川である。幹川流路延長194km、流域面積3,900㎢を誇る中国地方最大の河川であり、「中国太郎」の異名をもつ。上流域では江の川本流に馬洗川・西城川が合流し、増水時には急激な水位上昇が起こる一方、中・下流域は山間の狭隘部を流れるため増水した水が抜けにくく、水位が一気に跳ね上がるなど常に洪水の危険をはらんでいる。事実、1620年から1945年の325年間で133回もの洪水が記録されている。

昭和20（1945）年９月の枕崎台風は各地に甚大な被害をもたらし、江の川流域においても死者・行方不明者2,091人、家屋全・半壊および流失8,183戸、床上・床下浸水68,536戸の大災害となった。これを受けて、昭和28（1953）年から上流域で直轄河川改修事業が着手され、昭和41（1966）年には「江の川水系工事実施計画」が策定された。しかし、昭和47（1972）年の集中豪雨によって戦後最大の被害が発生し、これを契機として昭和48（1973）年には基本計画が改定され、新たな基本高水流にもとづく治水対策が進められている。

平成９（1997）年の河川法改正を踏まえ、平成19（2007）年に「江の川水系河川整備基本方針」が策定され、平成28（2016）年には向こう20～30年間の治水事業計画として「江の川水系河川整備計画」が整備された。現在はこれらの計画にもとづき、堤防の構築や水防災事業が進められている（第２図）。

遺跡の所在する江津市松川町八神地区は江の川下流（4.7km～7.0km右岸）にあたる。現堤防高の不足を解消し、洪水による氾濫防止を目的とした堤防整備が計画されており、計画高水位までの整備を第一段階、計画堤防高までの整備を第二段階とした段階施工による実施が予定されている。本事業により、100年に一度というような洪水が発生した場合にも、浸水面積の減少、人的被害の防止が図られることになっている。



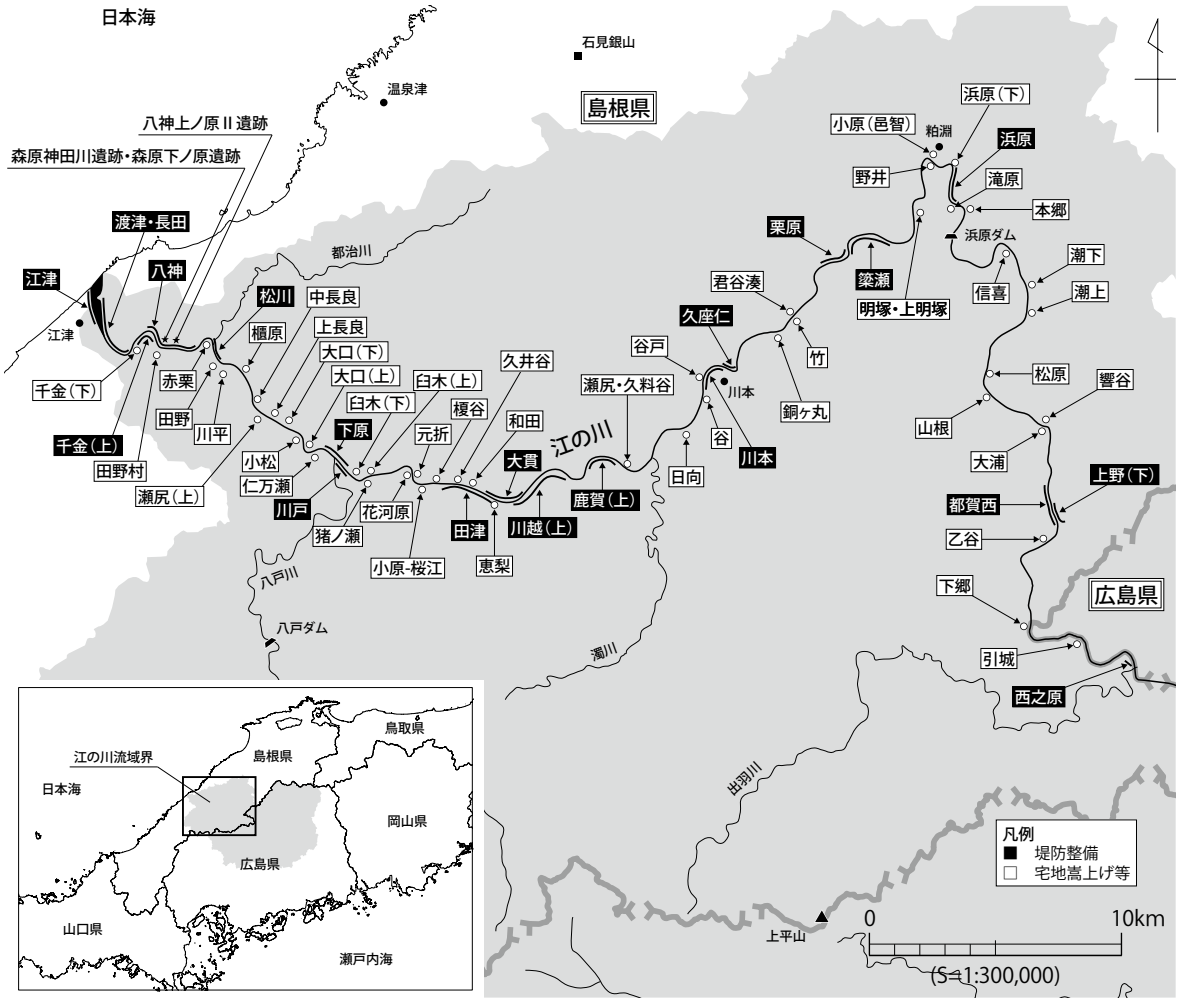
第１図　森原下ノ原遺跡の位置

2．埋蔵文化財保護部局への照会と調整

平成26（2014）年7月、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所（以下、国土交通省）から江津市教育委員会に対し、江の川直轄河川改修事業予定地内（八神地区）の埋蔵文化財の有無について照会があった。この際、島根県教育委員会を経由しなかったため、国土交通省と市教育委員会の間で対応が協議され、市教育委員会が平成27（2015）年度中に試掘確認調査を実施することとなった。

平成27年7月、「江の川水系河川整備計画」策定にかかる第1回連絡調整会議が開催され、国土交通省より県関係部局へ事業内容の説明会があった。これを受けて同年9月、国土交通省、県教育委員会（文化財課・埋蔵文化財調査センター）、市教育委員会の三者で協議がおこなわれ、国事業である河川整備事業に関する調査は県埋蔵文化財調査センターが対応することを確認した。また、これまでの経緯を考慮し、市教育委員会が試掘確認調査を実施した遺跡については、市教育委員会がそのまま発掘調査を実施することなど、当面の調整が図られた。同年11月、県土木部河川課を通じ、県教育委員会に対して「江の川水系河川整備計画（案）」の意見照会があり、埋蔵文化財については事前協議が必要な旨を回答した。

同年11月、国土交通省から県教育委員会に事業予定地内（江津市松川町太田から邑智郡美郷町竹）の埋蔵文化財の有無について照会（平成27年11月26日付け国中整浜河管第72号）があった。県教育委員会は、市教育委員会に照会の上、状況の明らかな江津市八神地区4遺跡について回答す



第2図　江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所（平成28年2月時点の計画段階）

第１表　文化財保護法にもとづく提出書類

遺跡の発見に関する通知と勧告（法第97 条第１項）

文書番号 日付	種類	所在地	発見 年月日	発見の事情	届出者	参考事項	勧告文書番号 日付	主な指示事項
第578 号 H27.3.27	集落跡	江津市松川町 八神248 番地1 外	H27.3.26	農地環境整備事業に伴う試掘調査	江津市教育委員会教育長	森原上ノ原遺跡	島教文財第41 号の30 H27.3.27	保存への配慮を 土地所有者へ伝達

埋蔵文化財発掘の通知と勧告（法第94 条）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	土地所有者	面積（㎡）	原因	届出者	期間	勧告文書番号 日付	主な指示事項
国中整浜河管 第83 号 H30.3.9	散布地 森原上ノ原遺跡	江津市松川町 八神地先	国土交通省	10,000	河川改修	国土交通省 浜田河川国道事務所	H32.4.1 ～ H36.3.31	島教文財 第49 号の131 H30.3.26	発掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99 条）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	面積（㎡）	原因	報告者	担当者	期間
島教埋第13 号 H31.4.5	散布地 森原上ノ原遺跡（１区）	江津市松川町八神247 外	2,140	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	東森　晋	H31.5.20 ～ H31.12.20
島教埋第219 号 R1.7.24	散布地 森原上ノ原遺跡（３区）	江津市松川町八神252-3 外	1,460	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	宮本正保	R1.8.1 ～ R1.12.20
島教埋第26 号 R2.4.7	集落跡 森原下ノ原遺跡（２区）	江津市松川町八神247 外	2,580	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長	真木大空	R2.5.11 ～ R2.12.25

埋蔵文化財の発見通知（法第100 条第２項）

文書番号 日付	物件名	出土地	発見者	土地所有者	現保管場所
島教文財第274 号の17 R2.3.7	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄器、青銅製品、土製品、石製品、動物遺存体　計149 箱	江津市松川町八神252-2 外	島根県教育員会教育長 新田英夫	国土交通省	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
島教文財第114 号の18 R2.12.28	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄器、青銅製品、土製品、石製品、ガラス製品　計192 箱	江津市松川町八神252-2 外	島根県教育員会教育長 新田英夫	国土交通省	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

終了報告

文書番号 日付	遺跡名	調査期間	面積（㎡）	提出者	提出先
島教文財第954 号 R2.2.25	森原上ノ原遺跡（１区・３区）	R1.6.3 ～R2.2.7	3,600	島根県教育委員会教育長 新田英夫	国土交通省浜田河川国道事務所長
島教文財第694 号 R2.7.1	森原下ノ原遺跡（１区）	R2.5.11 ～R2.6.29	500	島根県教育委員会教育長 新田英夫	国土交通省浜田河川国道事務所長
島教文財第805 号 R3.1.7	森原下ノ原遺跡（２区）	R2.5.22 ～R2.12.16	1,500	島根県教育委員会教育長 新田英夫	国土交通省浜田河川国道事務所長

るとともに、他の地区については、分布調査および試掘確認調査が必要な旨を付した（平成28年１月26日付け島教文財第818号）。これを受けて、平成28（2016）年２月には関係三者による協議がもたれ、今後各地区の事業進捗にあわせて分布調査と試掘確認調査を進めていくこととなった。江津市川平地区では同年３月から６月にかけて県教育委員会と市教育委員会が共同で分布調査および試掘確認調査をおこなって田渕遺跡を発見し、平成29（2017）年度には県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施し、平成30（2018）年６月に発掘調査報告書を刊行している。

八神地区では、市教育委員会により平成26年度から平成27年度にかけて試掘確認調査が実施され、八神上流工区で八神上ノ原遺跡（県営農地環境整備事業）と八神上ノ原Ⅱ遺跡、八神下流工区で森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡の４遺跡が発見された。これらは関係三者の協議にもとづき、八神上ノ原Ⅱ遺跡を市教育委員会、森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡を県教育委員会が対応することとなった。八神上ノ原Ⅱ遺跡は平成28年度に発掘調査を実施、平成30年３月に発掘調査報告書が刊行されている。森原神田川遺跡は調査区を２ヵ所に分けた上で平成29年度に大津地区、平成30年度に下ノ原地区の発掘調査を実施し、それぞれ令和２（2020）年７月、令和３（2021）年３月に発掘調査報告書が刊行されている。

森原下ノ原遺跡は、調査対象面積が約10,000㎡と広く、用地買収などの条件が不揃いであったため、遺跡北側から順次調査を開始し、令和元（2019）年度に１・３区、令和２年度に２区の発掘調査を県埋蔵文化財調査センターが実施した。なお、令和元年度の調査では想定を超える遺物・遺構量を検出したことから、１区の一部（約500㎡）を翌年に延長し、２区と同時に調査をおこなうことになった。

３．遺跡の名称について

森原下ノ原遺跡は、発見当初「森原上ノ原遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された。しかし、明治22年の地籍図から字名が「下ノ原」と考えられたことから、地域の歴史や実態をより正確に反映するため、国土交通省や市教育委員会と協議した上で令和２年２月に遺跡名を変更した。したがって、本書では第１表の文書類を除き、すべて「森原下ノ原遺跡」として記述する。なお、地名の由来については第２章に詳述した。

第２節　発掘作業と整理作業の経過

１．試掘確認調査

森原下ノ原遺跡は市教育委員会が平成26年度から27年度に実施した試掘確認調査で発見された（第３図）。平成26年度調査は県営農地環境整備事業にともなうもので、平野部の中央付近を横断するようにトレンチを20ヵ所設定した（H26TR）。その結果、TR６・TR７・TR10・追加TR1の地表下0.1 ～ 1.5ｍで遺物包含層を確認し、複数の遺構面の存在が推定された。続いて平成27年度に本事業地内の試掘確認調査を実施し、前年度調査対象地の西側隣接地にトレンチを19ヵ所設定した（H27TR）。その結果、TR２～７の地表下０～ 1.8ｍで遺物包含層を確認した。この結果を受け、試掘調査範囲の中央やや南側に位置する水路を基準として北側が森原神田川遺跡、南側が森原下ノ原遺跡の範囲とされた（第４図）。森原下ノ原遺跡の面積は約25,000㎡で、うち事業予定地内の調査対象面積は約10,000㎡である。

また、県埋蔵文化財調査センターが平成30年度に森原神田川遺跡下ノ原地区の発掘調査を実施した際、森原下ノ原遺跡の試掘確認調査を再度実施した。これは市教育委員会による確認が及んでいない、より深い部分の遺構・遺物の確認や土層堆積状況などの詳細を把握することを目的とするもので、翌年度に発掘調査を予定していた１・３区相当部分にトレンチを９ヵ所設定した（H30TR）。その結果、地表下１～２ｍで遺物包含層を確認し、弥生時代後期から古墳時代中期を中心とした複数の遺構面や中世から近世の旧河川の存在が推定された（第５・６図）。遺物はコンテナ３箱分にのぼる。

２．発掘作業

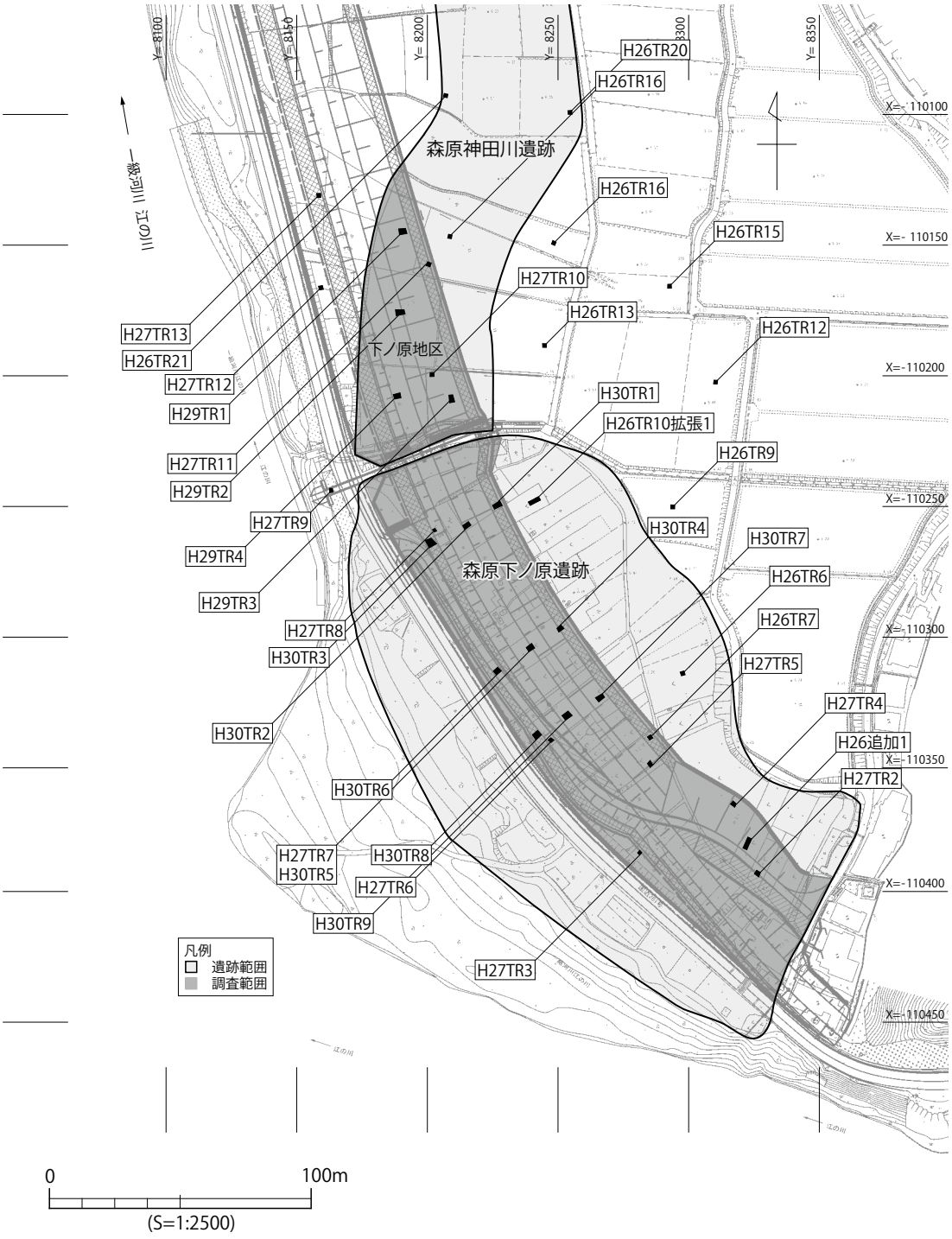
発掘調査は、令和元年度に１・３区、令和２年度に１区延長部分と２区を実施した。以下、調査年度ごとに発掘作業の経過を記載する。

（１）令和元年度

１区　令和元年度は、用地買収などの条件が整った１区から着手することとなり、５月28日に起工測量、６月６日に重機掘削を開始した。当初、試掘トレンチH30TR１～３で弥生時代後期から古墳時代中期の包含層（４～10、14層）が西に向かって大きく落ち込む地形を確認しており、１～３層を重機で除去する計画であった。しかし、３層を重機掘削中にほぼ完形の須恵器甕（第67図１）が出土したことから、計画を変更して２層および３層途中から人力による包含層掘削をおこなうことにした。土層観察用畦や調査区壁沿いに先行トレンチを設けつつ、調査区全体を３層まで掘削した。調査区西側に厚く堆積する３層はいくつかの層に分層でき、3-1～3-4層まで細分した。７月29日には三瓶自然館の中村氏の調査指導を受け、3-1～3-4層は江の川の氾濫によって運ばれ

た砂の堆積と人の活動が繰り返された結果であることが判明し、まず３層が厚く堆積する調査区西側の調査を進めることとなった。その結果、17世紀以降と考えられる畑や鍛冶炉を２面にわたって確認した。その下では調査区全体で中世後半の遺構面を検出し、礎石建物をはじめ、複数棟の建物や鍛冶炉などを確認した。10月６日には現地説明会を実施し、地元を中心に約30名の参加があった。

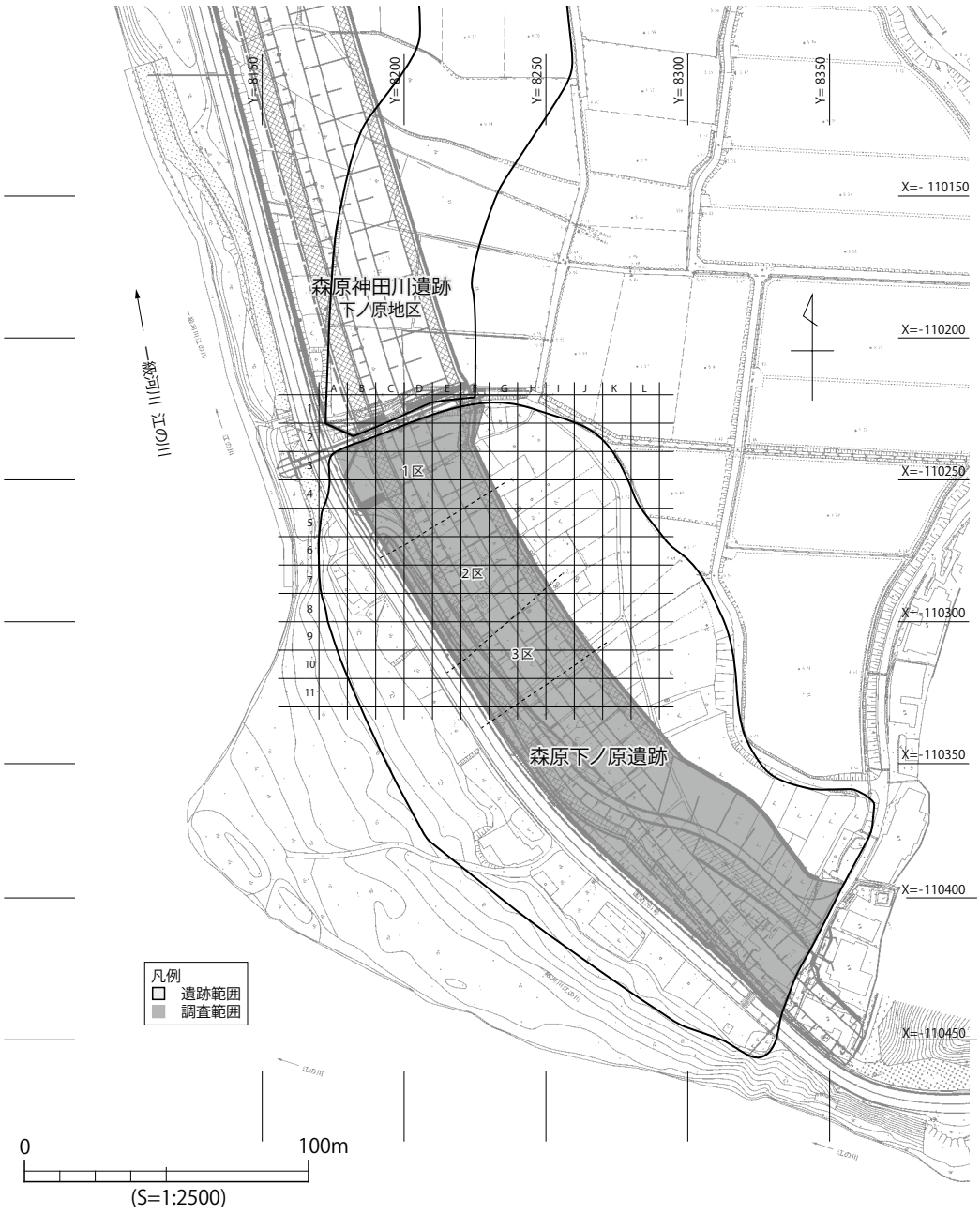
その後、地山の検出を目的としたトレンチにより、調査区西側は平安時代頃に江の川の浸食によって削り取られた後の再堆積であることが判明し、東側は弥生・古墳時代の包含層に加え、試掘調査で判明していなかった縄文時代の包含層、遺構面が存在することがわかった。



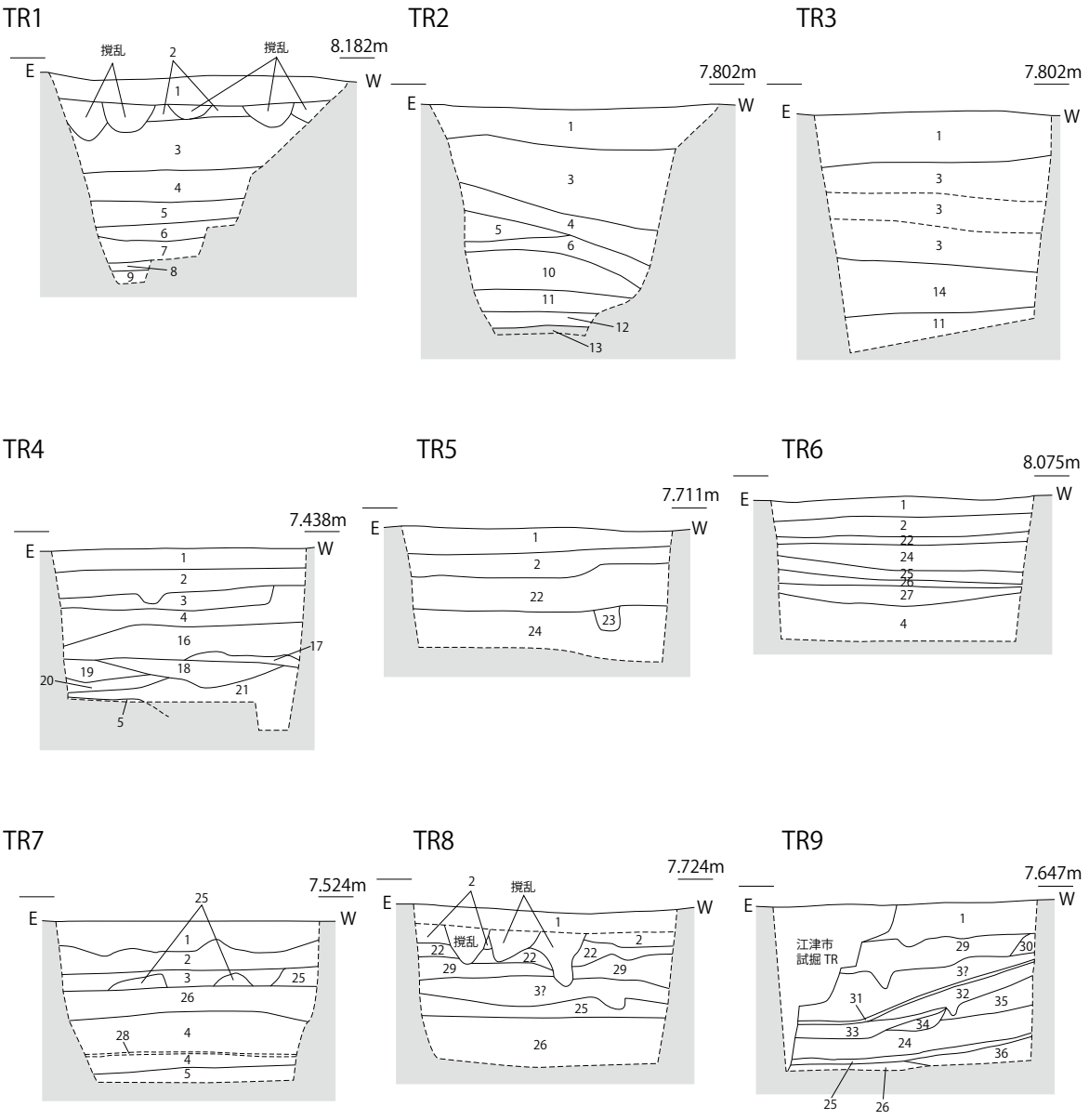
第３図　試掘トレンチ配置と遺跡範囲・調査対象範囲

11月27日、古墳時代前期の土器溜を確認し、その後古墳時代前期の竪穴建物を2棟検出した。12月6日には3区の発掘調査が終了し、1区に合流して調査をおこなうことになった。12月19日には島根大学の岩本氏に7月17日に出土していた青銅鏡について、1月20日には元島根県文化財保護審議会委員の田中氏と島根大学総合博物館の会下氏に遺跡全体の評価について調査指導を受けた。1月26日には第2回現地説明会を実施し、約50名の参加があった。

調査の終了期間が迫るなか、試掘での想定を超える縄文時代の包含層・遺構面が存在したことから、国土交通省と協議をおこない、調査区西半と来年度すでに工事着手することが決定している北端部のみを完掘し、残りは令和2年度に延長することを決定した。1月29日に空中写真撮影、2月7日に現地作業を終了した。この間、遺跡の形成過程などを分析するため、文化財調査コンサルタント株式会社に委託して調査区西壁と中央の土層観察用畦から土壌サンプルの採取をおこなった。2月28日には調査終了部分の埋め戻しが完了し、引き渡しをおこなった。



第4図　グリッド・調査区配置



1. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）表土。
2. 褐色砂質土（7.5YR4/4）耕作土。
3. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）自然堆積。
4. 暗褐色砂質土（10YR3/3）遺構面、包含層。
5. 暗褐色砂質土（10YR3/4）遺構面、包含層。
   ブロック状に暗褐色土・黄橙色土を含む。
6. 黒褐色砂質土（10YR2/3）遺構面、包含層。
7. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）自然堆積。
8. 暗褐色粘質土（10YR3/4）遺構面か？　固く締まり、炭化物含む。
9. 褐色粘質土（10YR4/6）遺構面か？　固く締まる。
10. 褐色砂質土（10YR 4/4）包含層か？
11. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）自然堆積。
12. 褐色砂質土（10YR4/4）堆積層。
    地山砂礫層（粗い粒子）が土壌化した層。
13. 灰オリーブ色砂質土（2.5Y5/2）地山か？　粗い粒子。
14. 暗褐色～黒褐色砂質土（10YR3/3 ～ 10YR2/3）遺構面、包含層。
16. 暗褐色粘質土（10YR3/4）旧河川埋土？
    締まり強く、にぶい黄橙色土とともにブロック状に堆積。
    包含層の二次堆積の可能性高い。
17. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）旧河川埋土？
    炭化物を含む、16 層の土が混ざる。
18. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）旧河川埋土？
    暗褐色砂・にぶい黄橙色砂を含む混ざりのある層。
19. 褐色砂質土（10YR4/4）旧河川埋土？　暗褐土をブロック状に含む。
20. 暗褐色砂質土（10YR3/3）旧河川埋土？　締まりがあり、炭化物を多く含む。
    包含層二次堆積の可能性強い。
21. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）旧河川埋土？
    暗褐色土をブロック状に含む混ざりのある層。
22. 暗褐色砂質土（10YR3/4）耕作土？　粒子やや粗い。
23. 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）ピット？　22 層類似の土。
24. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）旧河川埋土？　川砂か？粒子粗い。
25. 暗褐色砂質土（10YR3/3）自然堆積　26 層上面が土壌化した層。
26. にぶい黄褐色砂質土（10YR6/4）自然堆積　砂礫層　拳大程度までの礫を多く含む。
27. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）自然堆積　暗褐砂をまだらに含む。
28. 黒褐色砂質土（10YR2/3）地震痕跡　地震により液状化した層。
29. 暗褐色砂質土（10YR3/4）耕作土。
30. 褐色砂質土（10YR4/4）耕作土？
31. オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/4）旧河川埋土？　薄く帯状に堆積。
32. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）旧河川埋土？
    3 層や 24 層に類似する砂層だがやや黒化する。
33. 暗褐色砂質土（10YR3/4）旧河川埋土？　粒子粗く、25 層に類似する。
34. 褐色砂質土（10YR4/4）旧河川埋土？　暗褐色砂・黄橙色砂がまだらに混ざる層。
35. にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）旧河川埋土？　26 層に類似するが礫を含まない。
36. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）旧河川埋土？　3 層や 24 層に類似する砂層。

第 5 図　試掘トレンチ土層

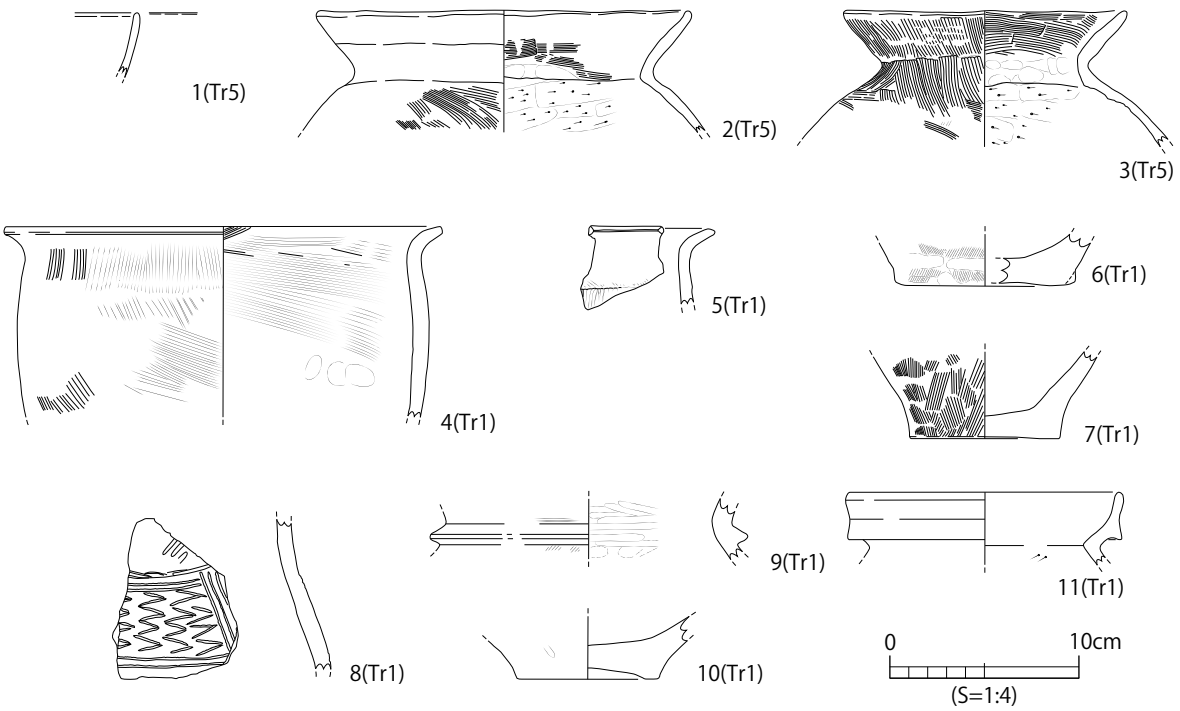
3区　3区は用地買収や進入路の確保のために開始が遅れ、7月25日に起工測量、8月1日に重機掘削を開始した。8月8日からは包含層掘削を開始し、近世の溝や自然流路を検出した。1区と同様に中世の遺構面の存在が想定されたが遺構は確認できず、さらに下層には遺物をほとんど含まない粒径の大きな砂層が厚く堆積していることを確認した。その後、調査を進める中で3区は平安時代頃の江の川による浸食が広範囲にわたっており、その後の再堆積過程も1区とはやや異なることが考えられた。11月26日には中村氏の調査指導を受けた。

その間、10月から調査区東側にわずかに残った弥生・古墳時代の包含層の調査を開始し、11月19日には弥生時代後期のピットを約30基検出した。その後、重機によりさらに下層を確認したが、1区のような縄文時代の包含層は確認できず、調査を終了することとなった。12月4日に空中写真撮影、12月6日に現地作業を終了した。その後、3区調査班は1区に合流した。この間、遺跡の形成過程などを分析するため、1区と同様に調査区北壁から土壌サンプルの採取をおこなった。2月28日には埋め戻しが完了し、引き渡しをおこなった。

（2）令和2年度

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、従来とは異なる調査体制でおこなうことが求められた。朝・昼2回の体温測定をはじめ、休憩所の消毒、作業中以外はマスクを着用した。作業員は距離をとって作業し、フェイスシールド付きのヘルメットを使用した。

1区　令和2年度は前年度残した1区部分の調査にまず着手し、5月11日に起工測量をおこなった。調査は主に縄文時代後期以前の包含層・遺構面が対象であった。前年度のトレンチ調査により判明していた堆積状況にしたがって掘削を進め、縄文時代後期の地床炉や土坑などを検出し、大量の土器が出土した。しかし、6月14日に梅雨前線の影響による大雨で調査区東壁および南壁が崩壊した。これにより、調査区東壁の土層断面図は作成できていない。6月16日に中村氏に縄文時代包含層の堆積状況などについて、6月23日に出雲市文化財課の幡中氏に縄文土器と遺構について調



第6図　試掘トレンチ出土遺物

査指導を受けた。６月29日には現地作業を終了した。

２区　調査前に住宅の基礎を撤去する必要があったことからやや遅れて着手し、５月21日に起工測量、５月22日に重機掘削を開始した。前年度の調査により、まず氾濫堆積層と中近世の遺構面の存在が想定された。５月28日には人力による包含層掘削を開始し、６月３日には調査区西側で１区と同様に近世の畑を検出した。その後、１区で中世後半の遺構が多く確認された層を検出したが、遺構密度は小さく、遺物量も比較的少なかったため、６月末には中世後半の調査が終了した。下層では、１区と同様の堆積状況であることが想定されたため、調査区西側の再堆積層から調査をおこなうことにした。しかし、７月14日の令和２年７月豪雨により江の川が氾濫し、調査区も水没した。復旧に時間を取られたため７月は思うように調査が進まなかった。

８月末には、調査の進捗状況と調査期間を考慮し、再堆積層の調査を中断して調査区東側に残る古墳時代以前の包含層・遺構面の調査に着手することとした。包含層では弥生時代後期から古墳時代中期を中心とする大量の遺物が出土した。この間、８月11日には関西大学の松田氏が来訪し、遺跡内の堆積構造について教示を得た。９月末には地山の検出を目的としたトレンチ掘削をおこなった。その結果、１区と同様に縄文時代後期と中期の包含層を確認したものの、堆積が薄く遺物量も著しく少なかったため、１区とは大きく異なる状況が想定された。

弥生・古墳時代の包含層の下では、弥生時代後期から古墳時代初めの遺構面を検出し、竪穴建物３棟のほか、多くのピットを確認した。10月２日には岩本氏に、６月８日に出土していた石釧について調査指導を受けた。10月15日に１回目の空中写真撮影、10月17日には現地説明会を実施し、約80名の参加があった。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、参加者全員のマスク着用、受付での消毒、検温、連絡先の記入などを実施した。

10月22日には田中氏と会下氏に遺跡全体の評価について調査指導を受け、江の川流域の典型的な弥生集落の姿と江の川との関わりがわかる重要な遺跡との評価を得た。また、10月29日には松田氏が再度来訪し、遺跡内の堆積構造について教示を得た。その後は縄文時代後期と中期の遺構面の調査を進め、ピットや土坑など遺構約90基を検出したが、やはり１区と比較して遺物が極端に少なかった。そのため、調査を中断していた西側の再堆積層の調査を再開し、12月８日には調査区全体で地山まで掘削が終了、12月12日に２回目の空中写真撮影をおこなった。また、中村氏に遺跡の形成過程などについて再度調査指導を受け、12月15日には現地作業を終了した。１月29日には埋め戻しが完了し、引き渡しをおこなった。

３．整理作業等

令和元年度は、発掘調査と並行して現場事務所で遺物の洗浄をおこなった。出土量が膨大で注記、分類、接合などの作業はほとんど進まず、調査期間内で洗浄を終えることができなかった。調査が終了した２月以降も埋蔵文化財調査センターで洗浄をおこない、洗浄が終了したのは翌年度の４月であった。そのほか、２～３月にかけて遺構図面・写真の整理と金属製品の実測をおこなった。

令和２年度は、真木が２区の発掘調査、東森が１・３区の整理作業を担当した。現場では発掘調査と並行して現場事務所で遺物の洗浄をおこなったが、２区も出土量が膨大であったことから、洗浄が終了したものから埋蔵文化財調査センターに搬入し、注記用機械による注記作業をおこなった。１・３区の整理では遺物の分類作業を進め、主に中近世遺物の実測作業と浄書作業をおこなっ

た。８月には東京国立博物館の佐藤氏に小札についての調査指導を受けた。９月には浜田市教育委員会の藤田氏に近世の燻瓦について、大田市教育委員会の生田氏と清水氏に中世の建物について調査指導を受けた。11月には元島根県埋蔵文化財調査センター職員の内田氏に中世の漁労具について調査指導を受けた。現場では前年度同様に調査期間内で遺物の洗浄を終えることができず、調査が終了した12月以降も埋蔵文化財調査センターで洗浄をおこない、３月に終了した。そのほか、１～３月にかけて２区の遺構図面・写真の整理と中近世遺物の実測をおこなった。

令和３年度は、真木が１～３区の報告書作成担当となった。遺物・遺構量ともに膨大であったため、分冊により報告書を作成することとなった。８月までは２区を中心とする遺物の注記、分類、接合作業に追われ、並行して実測作業を進めた。６月には浜田市教育委員会の榊原氏に須恵器について調査指導を受けた。その後、実測がすべて終了したのは10月であった。その間、８月からは図面のトレースを進め、11月に写真撮影をおこなった。８月には松江市、10月には江津市の協力を得て焼土塊について資料調査をおこなった。10月末には岩手大学の佐藤氏が弥生時代前期の石斧未成品の資料調査に訪れた。また、立命館大学の矢野氏に縄文時代中期の土器について教示を得た。11月には山口大学埋蔵文化財資料館の田畑氏に弥生時代前期の土器と遺構2199から出土した古墳時代初頭の土器について、12月には京都大学の千葉氏と高野氏に縄文時代の土器について調査指導を受けた。

全国的に感染が拡大した新型コロナウイルスの感染防止のため、作業スペース等に配慮し、県外者の調査指導を控えざるを得ないなど制限がある中での整理作業となった。

第３節　調査体制

発掘調査・報告書作成は次の体制でおこなった。

調査主体　島根県教育委員会

令和元年度

事　務　局　島根県教育庁文化財課

課長　萩　雅人、文化財グループGL　桑谷昭年、管理指導スタッフ調整監

池淵俊一

埋蔵文化財調査センター

所長　椿　真治、総務課長　和田　諭、高速道路調査推進スタッフ調整監

角田徳幸、管理課長　守岡正司、調査第二課長　宮本正保

調査担当者　調査第一係長　東森　晋、主事　真木大空、嘱託職員　松山智弘

臨時職員　伊東　豊、幸村康子、長嶺康典

令和２年度

事　務　局　島根県教育庁文化財課

課長　萩　雅人、文化財グループGL　田中明子、管理指導スタッフ調整監

池淵俊一

埋蔵文化財調査センター

所長　椿　真治、総務課長　和田　諭、高速道路調査推進スタッフ調整監

角田徳幸、管理課長　守岡正司、調査第一課長　林　健亮

調査担当者　　主任主事　真木大空
会計年度任用職員調査員　柳浦俊一、同調査補助員　幸村康子、渡邊真二
報告書担当者　調査第二係長　東森　晋
会計年度任用職員調査員　園山　薫、同調査補助員　飯塚由起

令和３年度

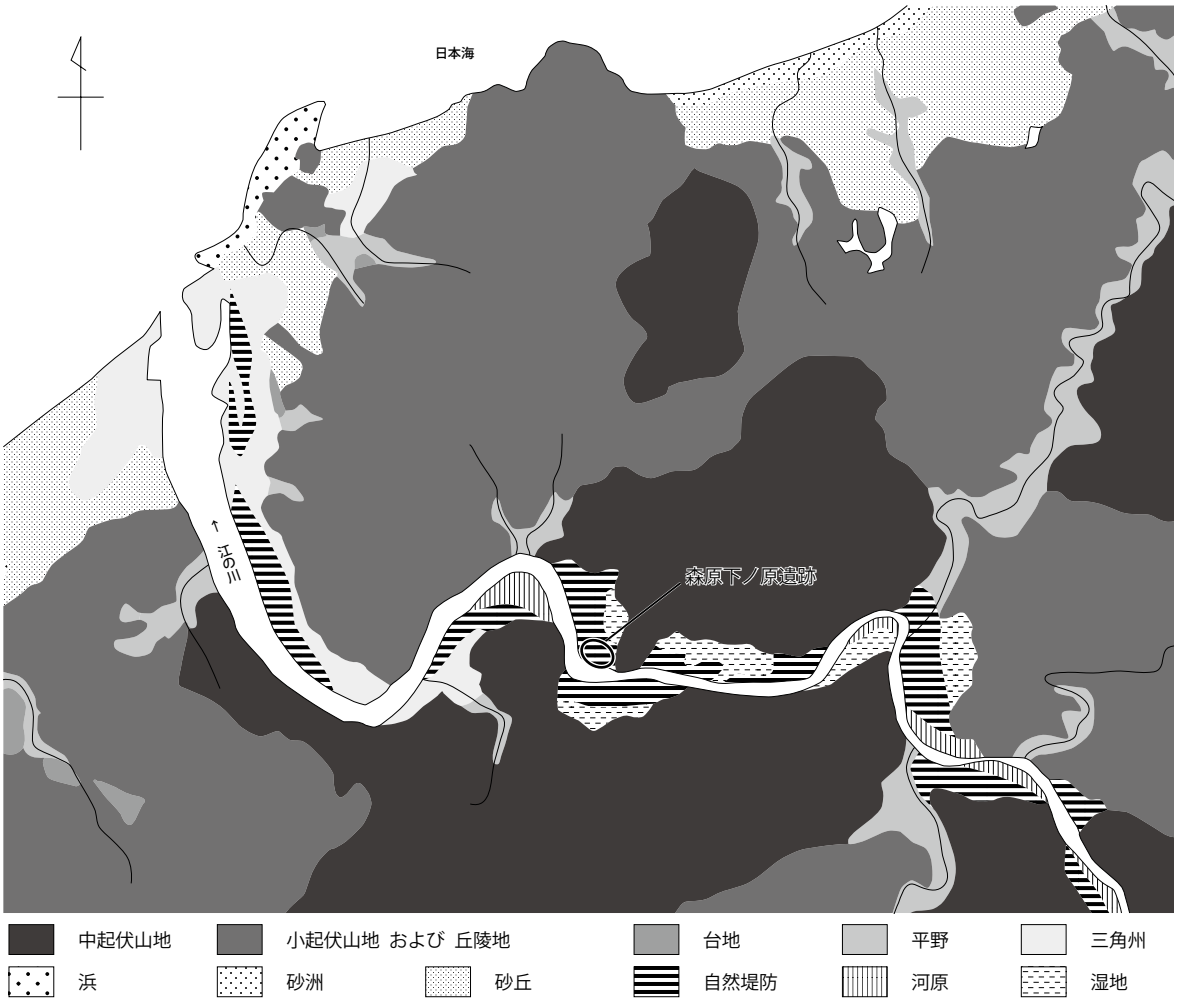
事　務　局　島根県教育庁文化財課
課長　中島正顕、文化財グループGL　田中明子、管理指導スタッフ調整監
池淵俊一
埋蔵文化財調査センター
所長　椿　真治、総務課長　坂根祐二、高速道路調査推進スタッフ調整監
熱田貴保、管理課長　深田　浩、調査第一課長　林　健亮
報告書担当者　主任主事　真木大空
会計年度任用職員調査員　柳浦俊一、同調査補助員　飯塚由起、米田美江子

第２章　遺跡の位置と環境

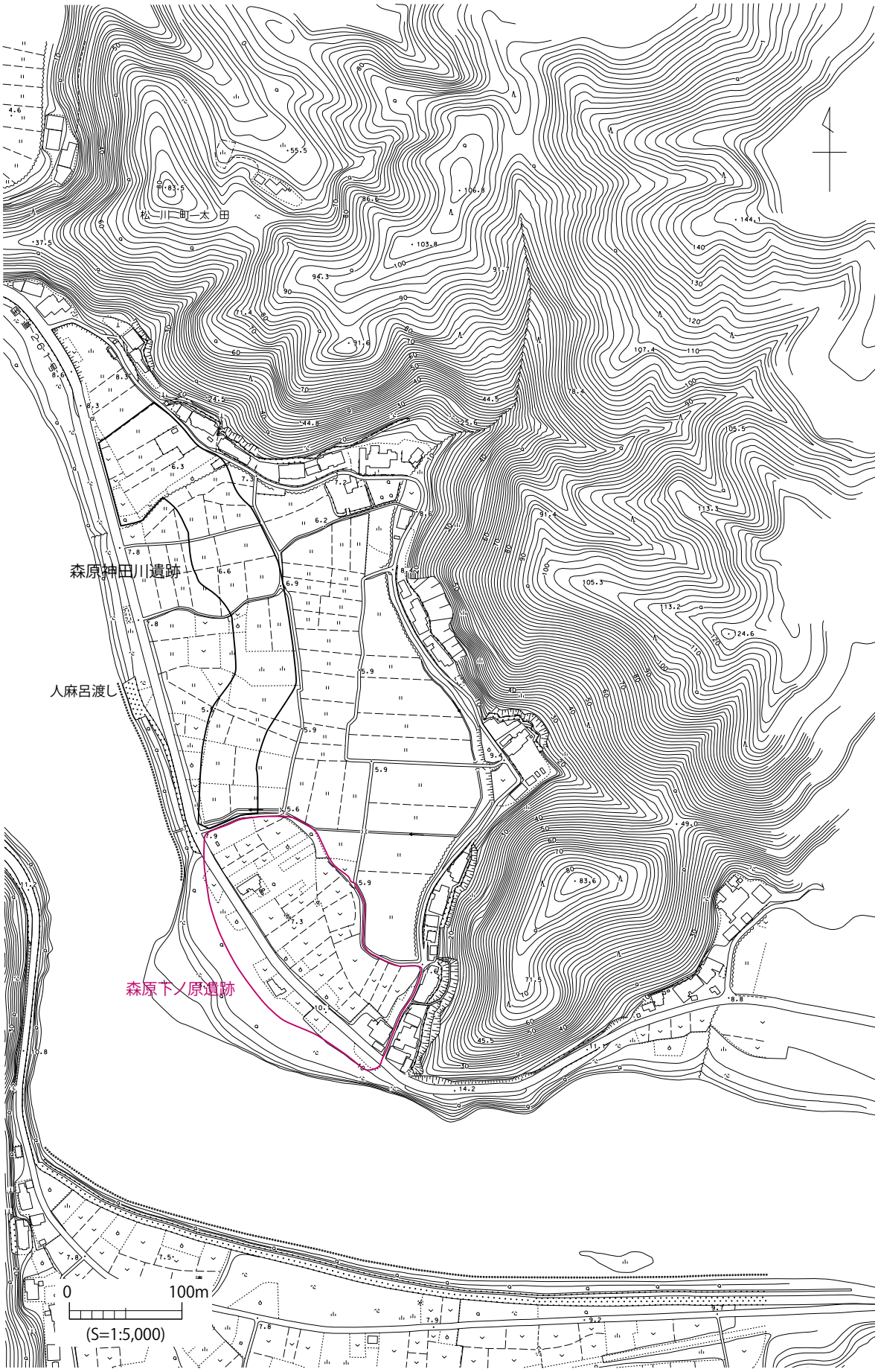
第１節　地理的環境

森原下ノ原遺跡は、島根県江津市松川町八神に所在する。中国地方最大の河川である江の川の河口から約５km遡った右岸に位置し、周囲を急峻な山塊に囲まれた約16haの沖積平野に形成された自然堤防とその後背低地に立地する（第７図・第８図）。現状で自然堤防上は国道や竹林となっており、後背低地は水田あるいは畑地として利用され、集落は山際に展開している。自然堤防は江の川の流路に平行して発達しているが、標高は高い所で８m程度であり、集中豪雨の際には自然堤防を越流し低地に河川堆積物が流れ込む。

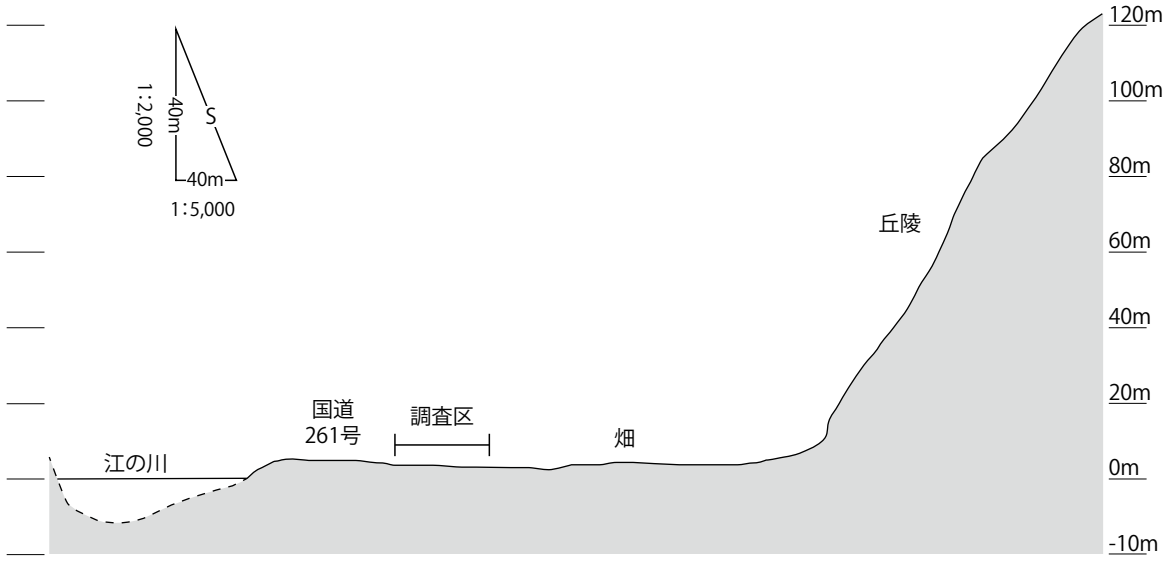
江の川は、広島県北広島町の阿佐山に源を発し、三次市、邑南町、江津市などを経て日本海に注ぐ一級河川である。幹川流路延長194km、流域面積3,900㎢を誇り、全国的にも珍しい先行河川という特徴をもつ。新生代第三紀末葉に起こった地盤隆起によって現在の中国山地が形成された際、江の川は隆起よりも速いスピードで下刻浸食を続けたため、結果として中国山地を断ち切って日本海へと流れ出る長大な水系が誕生した。流域の大部分が山間の狭隘部にあたり、上流の西城川や馬洗川などが合流する三次盆地付近を除き、広大な平野は存在しない。



第７図　遺跡周辺の地形分類



第８図　森原下ノ原遺跡周辺の地形



第９図　遺跡周辺の東西断面模式図

第２節　歴史的環境

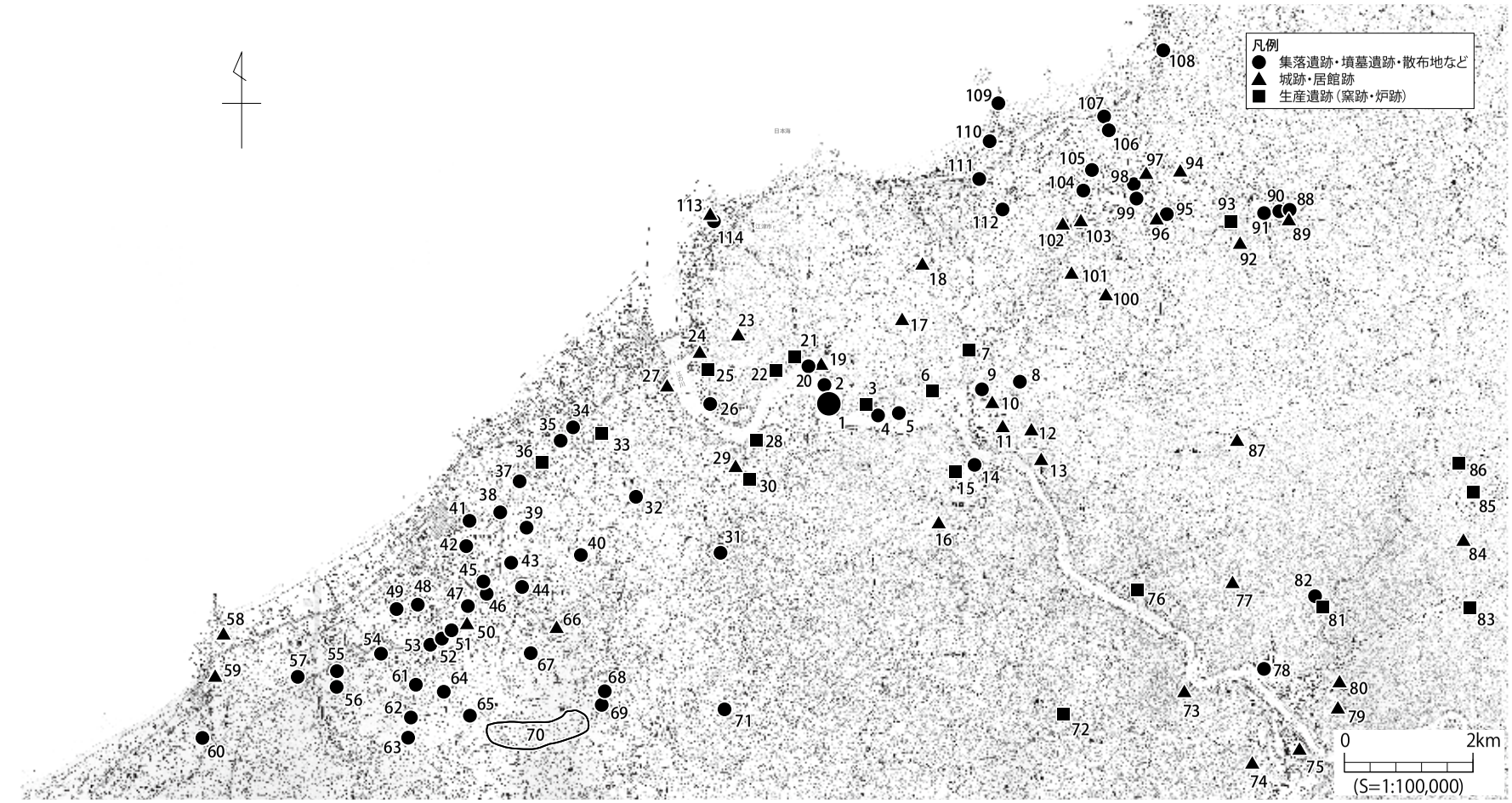
江の川は広島県北部の中国山地に源を発し、三次盆地を経て中国山地脊梁部を貫流して日本海に注ぐ。上流域にあたる広島県側では支流河川が合流する三次盆地が形成され、低丘陵上に集落や大規模な古墳群など多くの遺跡が密集する。一方、中・下流域では、山間の峡谷化した流域の両岸に形成された小規模な河岸段丘や自然堤防上に遺跡が孤立的に点在するところに特徴があり、現状で大規模な集落遺跡や古墳などは知られていない。後世の氾濫などにより消滅してしまった遺跡も多く存在すると考えられる。したがって、江の川沿岸部の遺跡の様相は不明瞭な点が多いが、ここでは日本海沿岸部も含めた江の川下流域を中心とする遺跡の変遷や概要を述べる。

１．旧石器・縄文時代

江の川流域において、旧石器時代の遺跡は現在のところ確認されていない。縄文時代の遺跡は海浜部に多く、後期以降は内陸部にもみられるようになる。波子遺跡（60）では縄文時代中期の土器がまとまって出土しており、いわゆる「波子式」の標式遺跡となっている。中流域の沖丈遺跡、簗瀬遺跡、都橋遺跡などでは、縄文時代後期から晩期の土器が多く出土しており、この時期に江の川流域の人口が増加した可能性が考えられる。とくに沖丈遺跡では多くの磨製石斧未成品が出土し、中国地方ではじめて縄文時代の磨製石斧製作地であることが明らかとなった。

２．弥生時代

弥生時代前期は、埋築遺跡（99）、沖丈遺跡で遺構が確認されているが、その他の遺跡ではいずれも包含層からわずかに土器が出土する程度である。埋築遺跡でも溝状遺構が検出されているにとどまり、遺物はほとんどが包含層からの出土で、出土量も少ない。一方、沖丈遺跡では配石墓群が確認され、緑色凝灰岩製管玉の出土などがある。中期になると、古八幡付近遺跡（55）で環濠をともなう明確な集落が形成され、広島県備後北部地域の塩町式土器や瀬戸内地方で出土の多い分銅形土製品が出土しており、江の川を介した交流の一端を示している。また、波来浜遺跡（107）では、



第 10 図　森原下ノ原遺跡と周辺の遺跡

1 森原下ノ原遺跡　2 森原神田川遺跡　3 八神鈩跡　4 八神上ノ原Ⅱ遺跡　5 八神上ノ原遺跡　6 値谷鈩跡　7 下河戸鈩跡　8 堂床遺跡　9 堂ヶバナ遺跡　10 川上館跡　11 松山城跡　12 殿畑館跡　13 櫃城跡　14 田渕遺跡
15 恵口鈩跡　16 平山城跡　17 雌雄城跡　18 四つ地蔵城跡　19 千本崎城　20 千本崎地蔵堂層塔　21花田窯跡　22 桜谷鈩跡　23 大和田城跡　24 蟹ヶ迫城跡　25 長田鈩跡　26 長田遺跡　27亀山城跡　28 勝地鈩跡
29 月出城跡　30 椎の木谷鈩跡　31 島の星山遺跡　32久保川遺跡　33久保川口鈩跡　34 上井蔵遺跡　35 嘉久志遺跡　36 久本奥窯跡　37 鹿伏山遺跡　38 二又平古墳　39 棚橋押込遺跡　40 羽代前田遺跡　41 行者山古墳
42 稲荷山遺跡　43 半田浜遺跡　44 天ヶ峠古墳　45 半田浜西遺跡　46 宮倉遺跡　47 二宮C遺跡　48 青山遺跡　49 青山Ⅱ遺跡（青山古墳）　50 神主城跡　51 恵良遺跡　52 高神遺跡　53 飯田C遺跡　54 室崎商店裏遺跡
55 古八幡付近遺跡　56 古八幡遺跡　57 横路古墓　58 殿峰城跡　59 尾上城跡　60 波子遺跡　61 二宮古墳群　62 高野火塚　63 イノキ廻古墳群　64 二本松古墳群　65 野地古墳群　66 神村城跡　67 伝仏古墳群
68 土居西屋古墳群　69 森口古墳群　70 高野山古墳群　71 川上氏宅裏経塚　72 鈩ヶ谷鈩跡　73 城山城跡　74 桜井城跡　75 鳴石城跡　76 番の木鈩跡　77 森ノ小城跡　78 鳥居ノ本遺跡　79 平野丸城跡　80 大石城跡
81 亀渕鈩跡　82 亀渕遺跡　83 柏屋鈩跡　84 古城跡・岩根城跡・押手城跡　85 鍛冶屋遺跡　86 長戸路鈩跡　87 林城跡　88 二川遺跡　89 研谷城跡　90 本郷遺跡　91 神田遺跡　92 利光城跡　93 二川鈩跡　94 永井城跡
95 高津遺跡　96 田中城跡　97 森城跡　98 宇野甚吉氏宅付近遺跡　99 埋築遺跡　100 高畑城跡　101 半蔵城跡　102 今井城跡　103 佐賀里松城跡　104 農協裏遺跡　105 佐古ヶ岡横穴墓　106 下和田遺跡
107 波来浜遺跡　108 高丸遺跡　109 尾浜古墳　110 尾浜遺跡　111 大堀遺跡　112 藪遺跡　113 鎌満城跡　114 寺段経塚

貼石をもつ墳丘墓が確認され、中期後半以降に中国山地から山陰地方に展開する四隅突出型墳丘墓につながるものではないかとの指摘もある。後期になると遺構･遺物ともに増加し、高津遺跡（95）、宮倉遺跡（46）、半田浜西遺跡（45）、二宮Ｃ遺跡（47）、沖丈遺跡などで竪穴建物や掘立柱建物が検出され、各地で集落が形成されたことがわかる。とくに沖丈遺跡では多くの竪穴建物とともに鉄製品が出土し、鉄器製作がおこなわれていたことが指摘されている。その他、八神上ノ原Ⅱ遺跡（４）でもこの時期の土器が多く出土し、付近に集落が存在した可能性が考えられる。

３．古墳時代

古墳時代前期は、高津遺跡（95）や八神上ノ原Ⅱ遺跡（4）で比較的多くの土器が出土しているものの、明確な集落の検出例はない。中期になると、高津遺跡や二宮Ｃ遺跡（47）で竪穴建物や掘立柱建物が検出され、後期にも高津遺跡や半田浜西遺跡（45）、堂庭遺跡などで集落や畑が確認されている。高津遺跡では水場と大溝と呼ばれる祭祀遺構が確認され、弥生時代終末期から古墳時代後期にかけて断続的に祭祀がおこなわれていたと考えられる。また、森原神田川遺跡（２）でも古墳時代後期を中心とする祭祀がおこなわれていた可能性が指摘されている。

墳墓としては、明確な前・中期の古墳は確認されておらず、行者山古墳（41）が前期から中期にかけての箱式石棺をもつ墳墓と考えられている程度である。一方で、後期以降は100基以上の群集墳である高野山古墳群（70）や、圭頭大刀や牛歯などが出土した青山古墳（49）、古八幡付近遺跡（55）などで横穴式石室をもつ古墳があり、佐古ヶ岡横穴墓（105）などの横穴墓も確認されている。

４．古代

律令期に全国的に駅路が整備されるなかで、山陰地方にも山陰道が設けられた。また、一定の距離ごとに駅馬を備えた駅家が設置され、江の川下流域付近には樟道駅、江東駅、江西駅があったとされる。森原下ノ原遺跡周辺でこれらの古代道や公的機関が実際の発掘調査によって検出された例はまだないが、その存在をうかがわせる遺構や遺物が各地で確認されている。

波来浜遺跡（107）では古代の須恵器が数百点出土しており、公的機関の存在が想定される。その他、古八幡付近遺跡（55）やカミヤ遺跡、飯田Ｃ遺跡（53）、恵良遺跡（51）、八神上ノ原遺跡（５）などでも竪穴建物や掘立柱建物、土師器、須恵器が確認され、各地で集落あるいは公的機関が存在したと考えられる。また、森原下ノ原遺跡から約３km江の川を下った渡津町では江東駅の存在を推定する説があり、長田遺跡（26）で土師器や須恵器が出土している。

特徴的な出土遺物としては、宮倉遺跡（46）で石見国分寺跡と同文の軒平瓦、半田浜西遺跡（45）では奈良三彩や土製権、越州窯青磁、高津遺跡（95）で「郡」のヘラ描き須恵器、古八幡付近遺跡（55）では統一新羅土器が出土している。

５．中世

中世前期の様相は資料が乏しく不明な点が多い。しかし、この頃すでに江の川を利用した水運が盛んであったようで、遠く広島県三次市周辺まで往来していたという。下流域の田渕遺跡（14）や八神上ノ原遺跡（５）では、12 ～ 13世紀を中心とする掘立柱建物や小鍛冶炉が確認され、その一端がうかがえる。その他、沿岸部を中心に半田浜西遺跡（45）、墨書土器が出土した宮倉遺跡（46）、

中世前期の建物群と中世後期の貿易陶磁器が出土した古八幡付近遺跡（55）、掘立柱建物から備前系擂鉢が出土した二宮Ｃ遺跡（47）、製鉄がおこなわれた可能性がある羽代前田遺跡（40）などの集落遺跡が確認されている。

中世後半、南北朝時代の動乱の際には、当時の地頭であった中原氏をはじめ石見の諸将の多くが南朝方に付しており、たびたび北朝方と争っていた。森原下ノ原遺跡から約３km江の川を遡ったところに位置する松山城跡（11）は南北朝に地頭として近江国から入部した中原氏（河上氏）により築城されたと伝えられており、建武３（1336）年に北朝方の攻撃を受け、翌４年にも城付近で戦闘がおこなわれたといわれている。また、詳細は不明だが、森原下ノ原遺跡を囲む丘陵北端には千本崎城（19）があり、その麓には千本崎地蔵堂層塔（20）が存在する。この辺りには「大津」という小字名が残り、江の川水運の拠点の一つとなっていたことがうかがえる。

室町時代以降の遺跡は調査例が少なく詳細は不明である。ただ、博多の豪商神屋寿禎が大永７（1527）年に石見銀山（大田市大森町）を再発見して以降、銀山は中国地方支配のための焦点となり、大内氏、毛利氏、尼子氏ら戦国大名に加え、石見地方の各領主たちの領地争いも交えた争奪戦となる。松山城下の市村では、「石州中郡川上市」などの市場が存在したらしく、これらを中心とした江の川下流域もこの戦いに巻き込まれていったようである。

６．近世・近代

慶長５（1600）年、徳川家康が石見国の７ヶ村に禁令を発布し、江戸時代に石見銀山を中心とした地域は幕府直轄領となる。森原下ノ原遺跡が位置する江の川東岸は一部が浜田領となるが、替地により幕府領に復し石見銀山御料として幕末まで継続した。また、全国各地の幕府領では、奉行や代官により盛んに新田開発がおこなわれ、森原神田川遺跡大津地区（２）の水田や畑、同下ノ原地区の水路はまさにそうした新田開発の様相を示すものと考えられる。

江戸時代中期から明治時代にかけて、恵口鈩跡（15）、桜谷鈩跡（22）、値谷鈩跡（６）など銑鉄を中心とした鈩製鉄が盛んになる。原料となる砂鉄は水運によって運ばれ、薪炭の供給も周辺の森林資源により豊富にあったと考えられる。

第３節　調査地周辺の地名

石見地方には、文化14（1917）年に成立した地誌、『角鄙経石見八重葎』が伝えられている。著者は森原下ノ原遺跡にほど近い那賀郡太田村（現江津市太田）の庄屋、石田初右衛門春律である。この中では、石見各地域の地名の由来などが記されており、とくに森原下ノ原遺跡を含む春律の居宅周辺については詳細に記載されている。

森原下ノ原遺跡の所在する江津市松川町八神は、遺跡が位置する江の川および丘陵地に囲まれた低地と、低地南東側に張り出した尾根を隔てた八神上ノ原遺跡が所在する低地、およびこれら低地の北東側に広がる丘陵部を指す。『角鄙経石見八重葎』によれば、八神には上の原、下の原、川原という３つの地域があり、一帯には大きな森が広がり、大元尊神の森と呼ばれていたことから森原という地名が生まれたとされる。上記の尾根を境として上流側が上の原、下流側が下の原と呼ばれていたようで、川原の場所は定かではない。また、万寿３（1026）年の大津波の際、川下り村の下モの坂本村（現江津市桜江町）から長者が来て森や河原を開発し、田畑となしたとされている。その後

長者は先祖の墓ともどもこの地に移住し、下の原の森山崎というところに屋敷を構えたという。こうした点が森原下ノ原遺跡の由来となっているが、大津波の存在や下の原に屋敷があったという記述は本報告の発掘調査成果にも関わる可能性が考えられよう。

【参考文献】

石見地方未刊資料刊行会 『角鄙経石見八重葎』 1999
邑智町教育委員会 『沖丈遺跡』 2001
江津市 『波来浜遺跡発掘調査報告書』 1973
江津市教育委員会 『宮倉遺跡』 1993
江津市教育委員会 『江津の地名』 2002a
江津市教育委員会 『埋築遺跡』 2002b
江津市教育委員会 『青山古墳』 2003
江津市教育委員会 『堂庭遺跡』 2004
江津市教育委員会 『高津遺跡』 2005
江津市教育委員会 『カミヤ遺跡・羽代前田遺跡』 2008
江津市教育委員会 『八神上ノ原遺跡・森原上ノ原遺跡』 2018a
江津市教育委員会 『八神上ノ原Ⅱ遺跡』 2018b
江津市教育委員会・浜田市教育委員会 『大平山遺跡群調査報告書』 1988
島根県教育委員会 『一般国道９号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ（鹿伏山･半田浜西遺跡･二宮Ｃ遺跡･久本奥窯跡）』 1995
島根県教育委員会 『嘉久志遺跡・飯田Ｃ遺跡・古八幡付近遺跡』 1997
島根県教育委員会 『神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』 2000
島根県教育委員会 『恵良遺跡・堂々炭窯跡・上条遺跡・水戸（三戸）神社跡（上条古墳）・立女遺跡』 2001
島根県教育委員会 『森原神田川遺跡大津地区』 2020
島根県教育委員会 『森原神田川遺跡下ノ原地区』 2021

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１．発掘調査区とグリッドの設定

本調査にあたっては、森原下ノ原遺跡の調査対象範囲全体で共通のグリッドを使用するため、座標系に基づく座標軸を合わせた10ｍ四方のグリッドを設定した（第12図）。グリッドは北西角を基準とし、東に向けアルファベットを、南に向けアラビア数字を振り各交点の北西角をもってグリッド名称とした。調査区は用地買収などの制限の中で遺跡北側より１～４区を設定し、１区が約2,000㎡、２区が約1,500㎡、３区が約1,500㎡となり、残りを４区とした。

２．表土・包含層掘削と遺構検出

調査対象地は、江の川右岸に開けた小規模な平野部の南西隅に位置する。遺跡を構成する砂の粒径が大きく、掘削深度がかなり深くなることが予想されたことから、調査区壁は十分な勾配を確保し、一定深度ごとにステップを設けて壁面の崩壊防止に努めた。２区最深部では地表下5.7ｍまで掘削し、ステップを２段設けた。

表土掘削は重機によりおこない、その後包含層掘削・遺構検出を繰り返しおこなった。包含層の掘削時は主にスコップ、ジョレンを使用し、出土する遺物の粗密に応じて草削りや移植ゴテを適宜使用した。遺構検出はジョレン、草削り、移植ゴテを使用した。

３．遺構掘削

遺構の埋土掘削は、土層観察用ベルトを設定するか半截し、土層観察をおこないつつ掘り下げた。土層断面については、分層が可能なものは写真撮影後に断面図を作成し、単層のものは土色を記録した上で掘削した。遺構から出土した遺物は、適宜出土状況を記録し取り上げた。

なお、中世後半から近世の鍛冶炉では鍛造剥片や鉄滓が残存している可能性が考えられたため、埋土を土嚢袋に持ち帰り、水簸をおこなった。

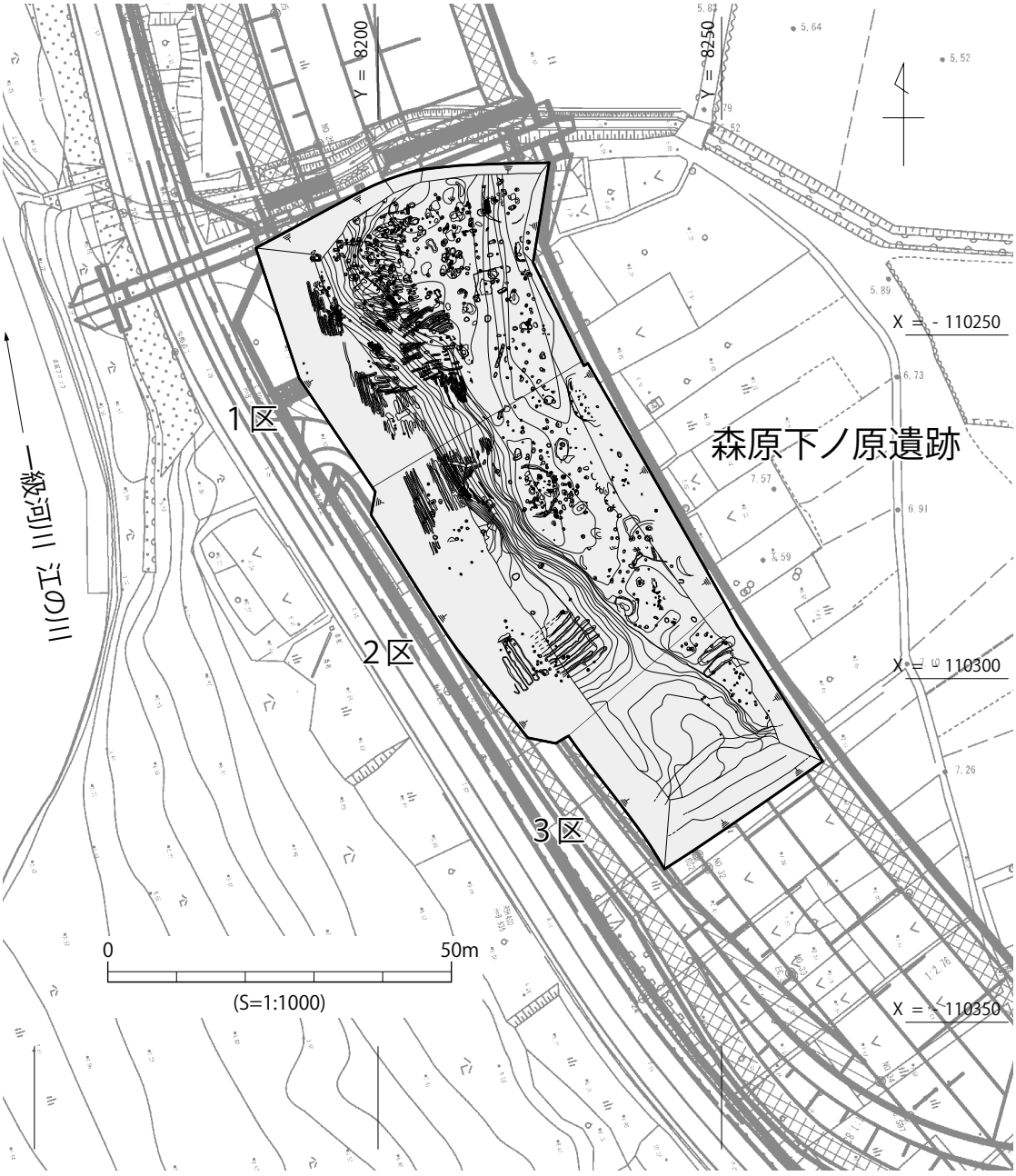
４．記録の作成

遺物の出土位置は基本的にグリッド単位で取り上げ、必要に応じて遺跡調査システム「遺構くん」を用いて座標を記録した。遺構の平面図は遺跡調査システムを用いて測量し、出力後補正をおこなうことを基本とした。令和２年度の調査時には必要に応じて写真撮影による３Ｄ記録システムを併用した。遺構周辺に複数の座標点を設定した上でデジタルカメラにより多方面から撮影し、Agisoft Metashape Standardにより３Ｄモデルを作成、Cloud Compareにより座標情報を付与した。その後、３Ｄモデルの俯瞰状態を画像化し、Adobe社のIllustratorCCによるデジタルトレースをおこなった。断面図はオートレベルを用いて測量をおこない、高低差のある壁面については平面図と同様に遺跡調査システムによる記録作成をおこなった。なお、竪穴建物など重要遺構の断面図については、補助的に３Ｄ記録システムも併用した。遺構などの写真撮影はデジタルカメラを使用し、必要に応じて６×７版フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）カメラによる撮影をおこなった。

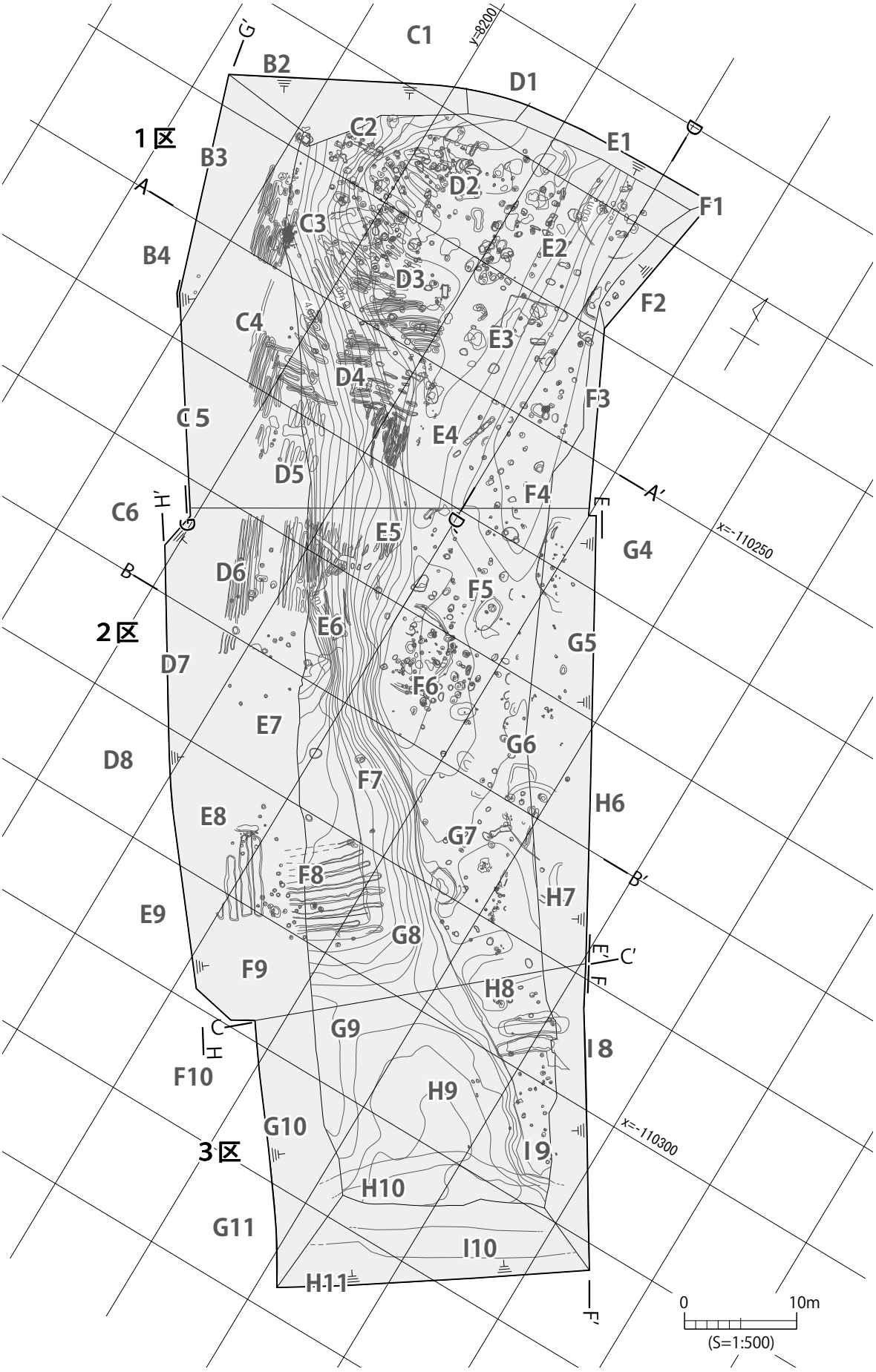
５．整理作業

遺構番号は、遺構の種別に関わらず検出した順に番号を付与することを基本方針とした。本来は、同一遺跡の中ですべて通し番号にすることが理想だったが、同時並行で複数の調査区を調査したことや１区を次年度に延長したことにより、部分的に重複が発生した。そのため報告での記載は巻頭の凡例のように整理した。

出土遺物の整理は以下のようにした。森原下ノ原遺跡は、複数の遺構面と包含層が確認され、堆積物のほとんどが江の川の河川活動に由来する。そのため各層に包含される遺物は時期幅をもっている場合が多いが、各層の堆積時期は概ね想定可能であった。そこで、層位を超えて出土遺物を時代でまとめる方法は採らず、層ごとに出土遺物を整理し、報告することとした。出土遺物を出土層位に分けた上で分類し、遺構出土の遺物と各層の代表的な遺物を実測・撮影した。非掲載遺物については、層ごとの遺物量をコンテナ箱数によって算出した。さらに各層の中で特徴的なまとまりの



第 11 図　森原下ノ原遺跡の調査区配置



第 12 図　グリッド・調査区・全遺構配置

ある時期の遺物については必要に応じてさらに細かな分類・分析をおこなった。

報告書作成はDTP方式を採用し、遺物・遺構の図面をデジタルトレースした上でレイアウトをおこなった。デジタルトレースや図の加工はAdobe社のIllustratorCC、PhotoshopCCを用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、PhotoshopCCを用いて階調、コントラストを調整し掲載した。最終的な原稿執筆、編集作業はIndesignCCを用いておこなった。

第２節　基本層序

土層観察は、各調査区の東西南北の壁、およびグリッドラインに合わせて設定した土層観察用ベルトでおこなった。１区では４ラインで東西方向、Ｆラインで南北方向、２区では７ラインで東西方向、Ｆラインで南北方向の土層観察をおこなった。なお、今回報告する１～３区では基本的に一連の層序・堆積が確認できたため、全体で層番号を統一している。

基本層序は１～14層までに分けられ、その中で細分できる場合は枝番号を付与した。基本層序に当てはまらない層は大文字のアルファベットで表記している。

森原下ノ原遺跡は縄文時代中期から近世までの遺構・遺物が重層的に発見された複合遺跡である。縄文時代から古墳時代中期までは比較的安定した環境であったようで、それぞれの遺構面で集落に関わる遺構が検出されている。しかし、その後平安時代頃に当時の江の川の河川活動（大規模な洪水や流路の変更など）の影響で調査区の西側が大きく削られており、その範囲は１区がもっとも狭く、３区にかけて広くなる。これによって西低東高の地形が形成され、比較的短時間で再び流水のない環境に戻ったようである。その後、中世前半は耕作などの人の活動や小規模な氾濫による再堆積によりこの地形が次第に埋没し、室町時代頃に再び浸食前に近い状態に戻ったと考えられる。この段階で複数の建物が並ぶ遺構面を検出している。近世以降は基本的に耕作や鍛冶作業の場として利用されたようだが、氾濫による埋没を複数回受けている。以下に基本層序を示す（第13図）。

【森原下ノ原遺跡の基本層序】

１層　表土　　２層　近世から近現代の耕作土　　３層　近世の耕作土と氾濫堆積

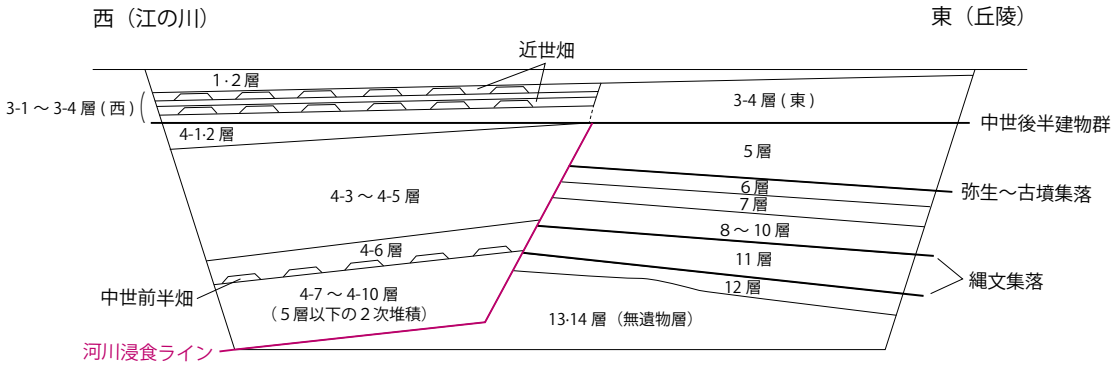
４層　平安時代頃の河川活動による浸食後の再堆積

５層　弥生時代中期から古墳時代中期を中心とする包含層

６層　弥生時代前期の包含層　　７層　弥生時代晩期から弥生時代前期の氾濫堆積

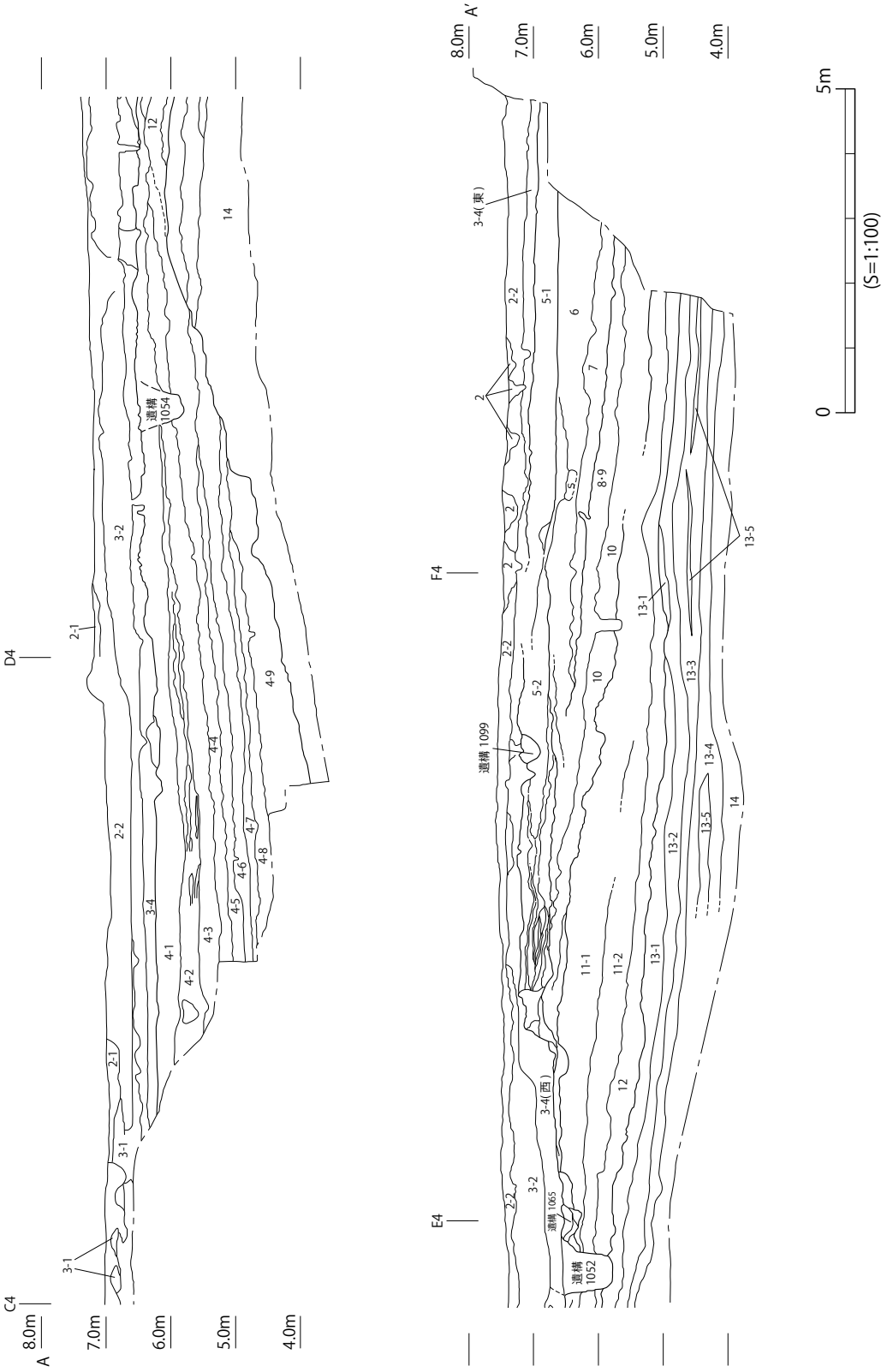
８～10層　縄文時代晩期の湿地状堆積　　11層　縄文時代後期の包含層

12層　縄文時代中期の包含層　　13・14層　無遺物層

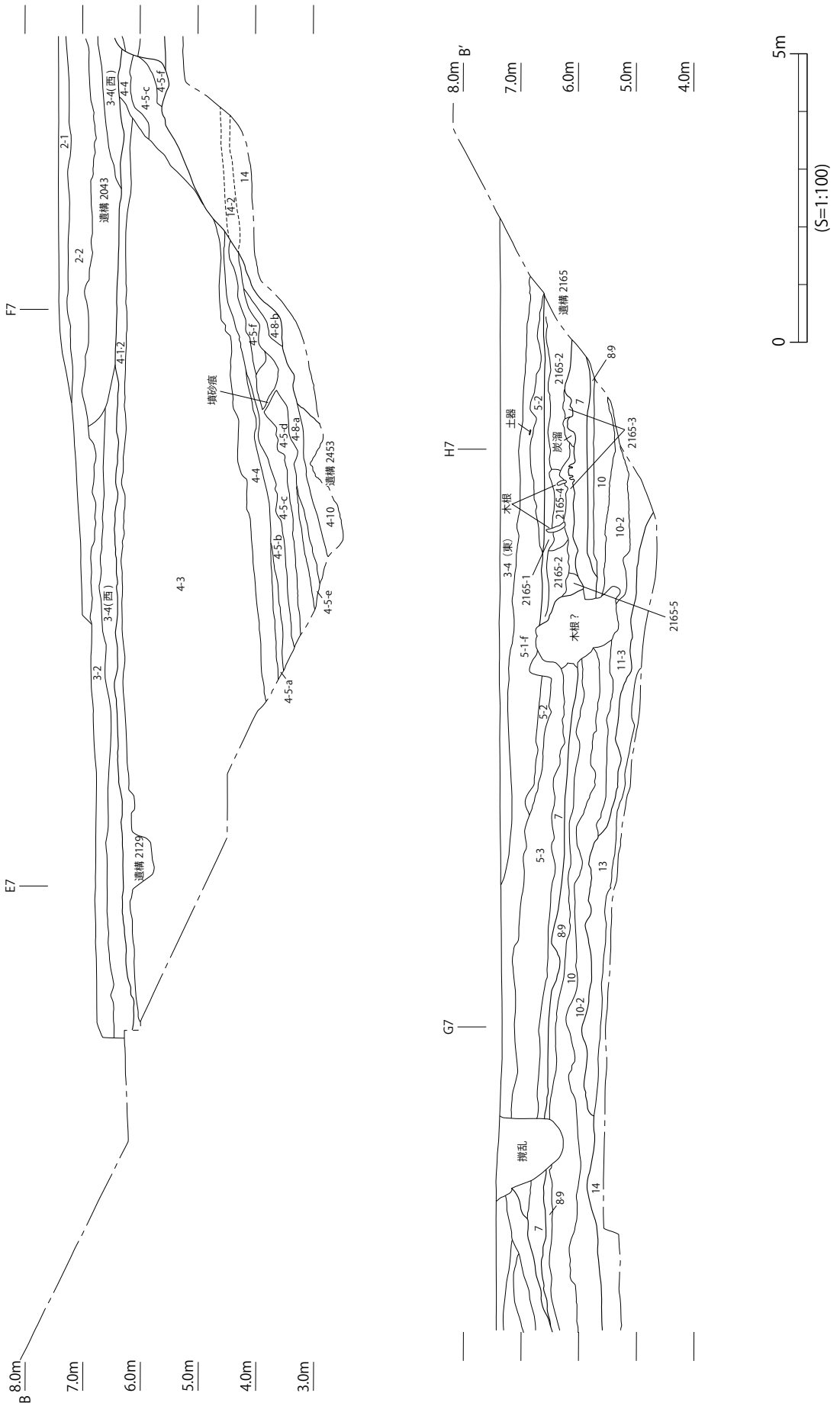


第 13 図　森原下ノ原遺跡の土層堆積模式図

4層は河川活動によって削られた西側にのみみられ、中世後半の遺構はこの4層上面および東側の5層上面にまたがって検出した。3層は中世後半の遺構の上に堆積したもので、3–1層から3–4層に細分でき、3–1層と3–3層が氾濫堆積層、3–2層と3–4層が耕作土層である。このように、近世に耕作と氾濫堆積が繰り返されたことが判明したが、これは調査区の西側でしか検出できておらず、東側では3–4層のみが堆積していた。3–4層は調査当時の観察では調査区の全体にわたり同質

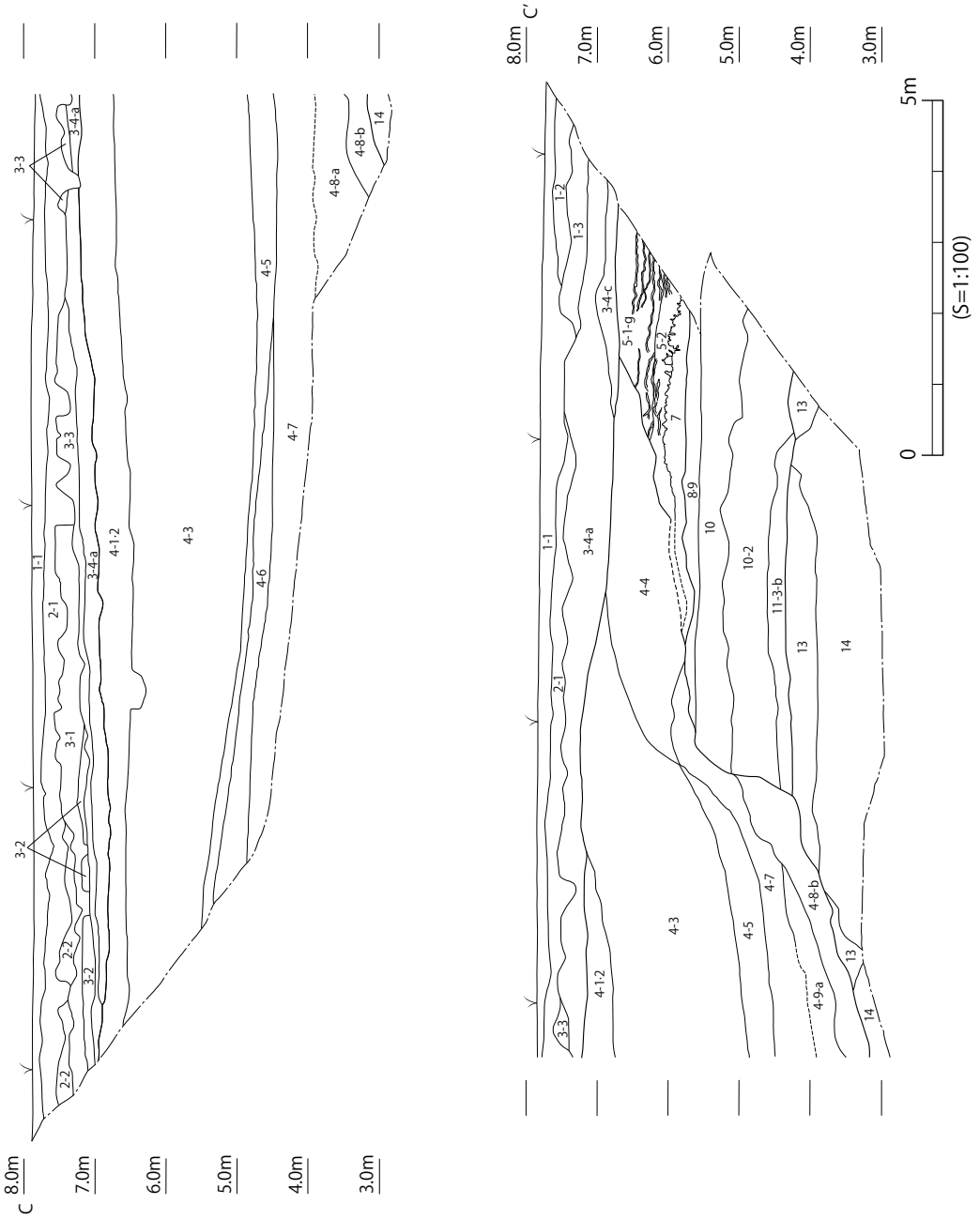


第14図　4ライン土層図



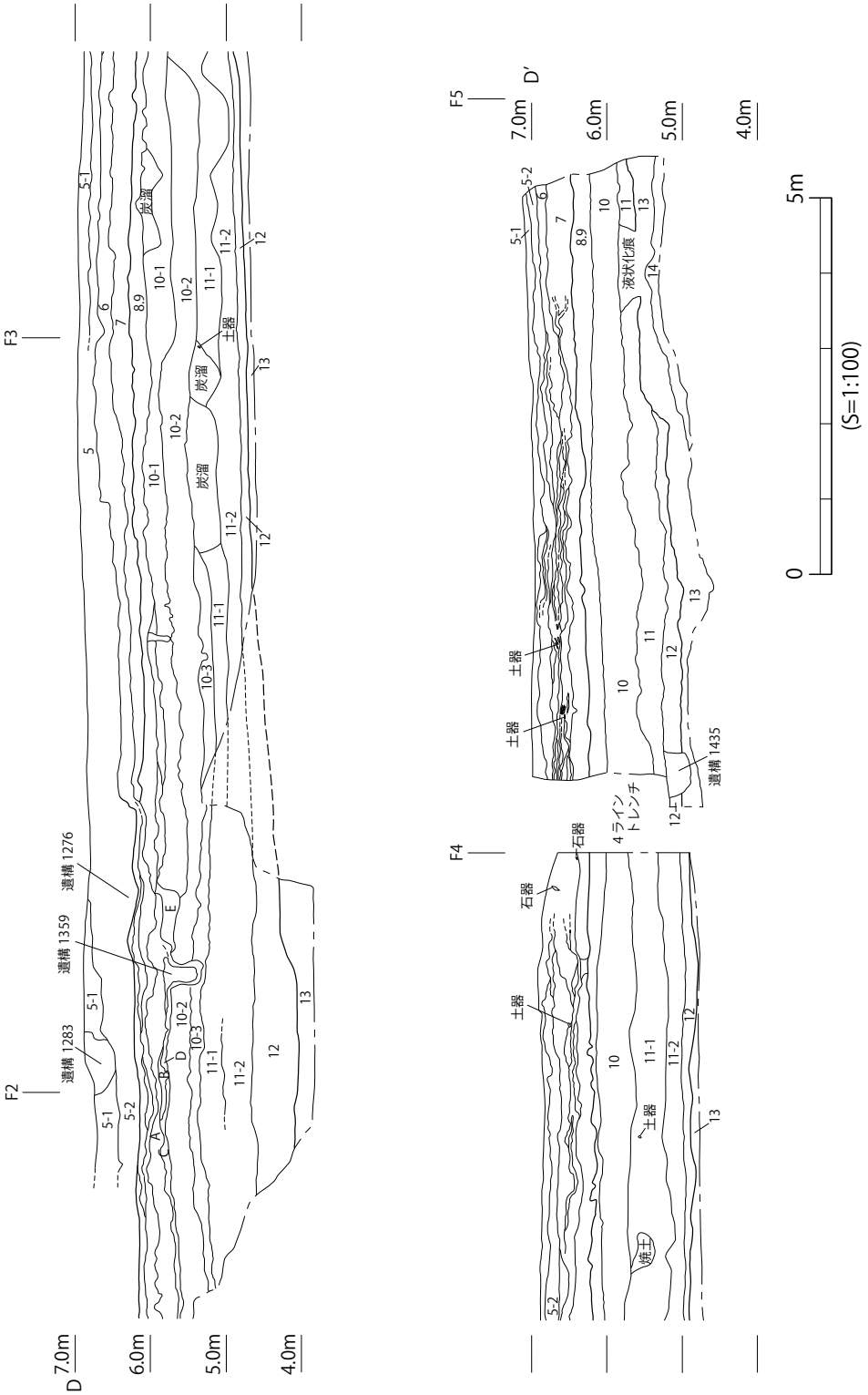
第 15 図　7 ライン土層図

の層が堆積しているように考えたが、出土遺物の量・内容が西側と東側で大きく異なるため報告の中では便宜上3-4層（西側）、3-4層（東側）と区別する。この境界は概ね4層の堆積範囲と一致する。5層はやや幅のある時期の包含層で、これを掘削した6層の上面で弥生時代後期から古墳時代中期の竪穴建物などの遺構を検出した。6層は前後の時期の遺物を若干含みつつ基本的には弥生時代前期の遺物で占められ、単一の包含層と考えられる。ただ、平面的に調査区北側のみで限定的に確認された。7層は1～3区の全体で確認でき、粒径が大きく、逆級化構造を確認できたこと、遺物量が少ないことから短期間で堆積した氾濫堆積層と考えた。8～10層は他の層に比べ粒径が小さくシルト質で、非常に固く締まっていた。厚い部分では1m以上の堆積がみられ、遺物量も少ないことから長期にわたって湿地状の環境が広がっていた可能性が高い。11層は縄文時代後期初頭・前葉の遺物を大量に包含しており、土層断面では2層に細分できたが、平面では違いを認識できなかった。粒径が大きく、堆積自体は流水の作用によるものと考えられるが、遺構も比較的多く検出

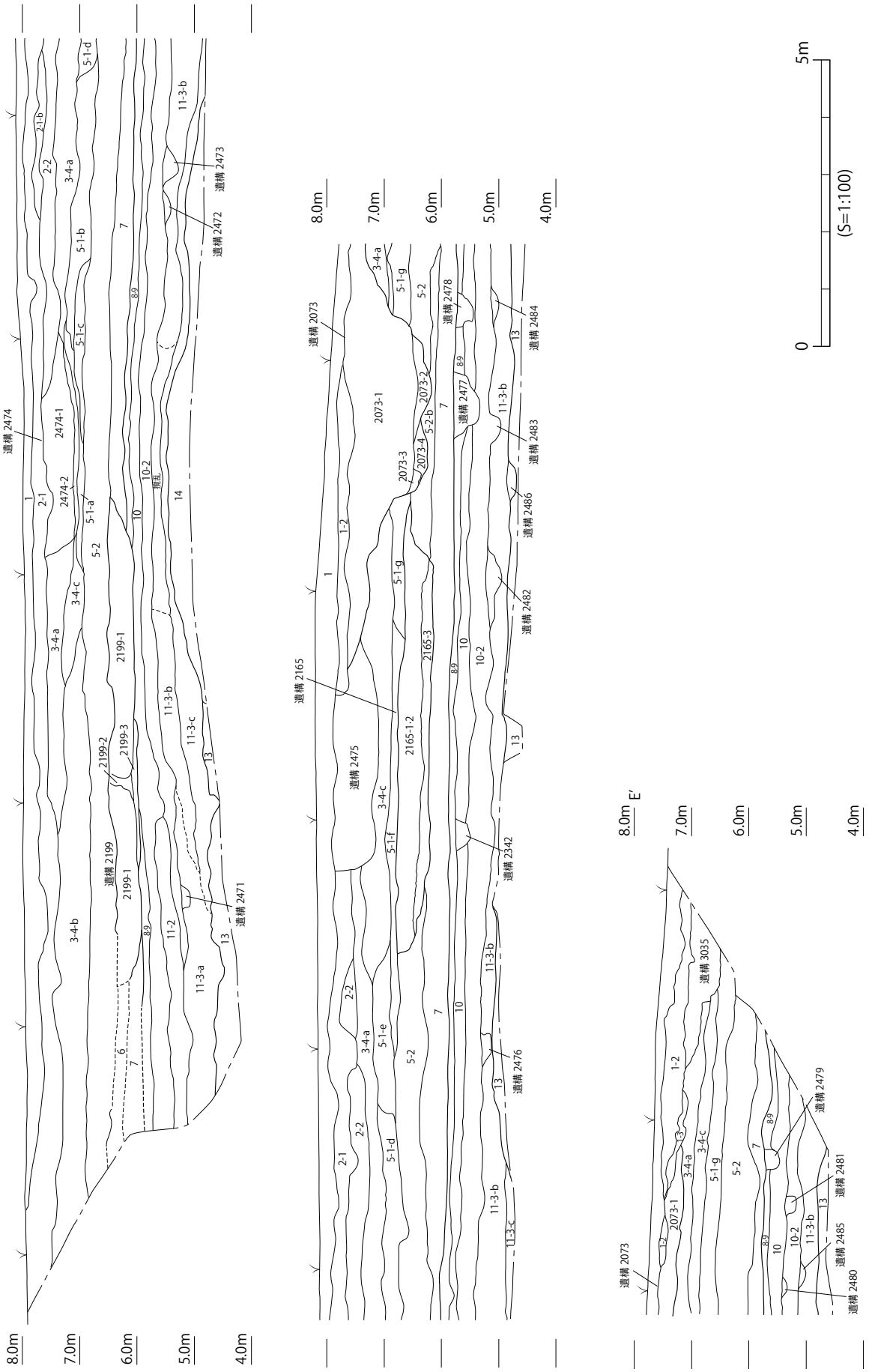


第16図　3区北壁土層図

しており、人の活動があったことに間違いはない。12層は11層に比べると粒径が小さく締まりも良く、比較的容易に区別できた。遺物は小さな破片が多いものの、時期的なまとまりがみられた。２区では12層でも若干質の異なる層を確認し、当初12–2層としていたが、整理作業の中で縄文時代中期末の包含層であることが判明したため11–3層と改称した。これら縄文時代の包含層も６層と同様に調査区北側のみに限定されていた。13・14層は無遺物層であり、これより下層では人の活動痕跡は認められないと判断した。14層は灰オリーブ色を呈する粒径の大きい砂で識別は容易で



第17図　Fライン土層図

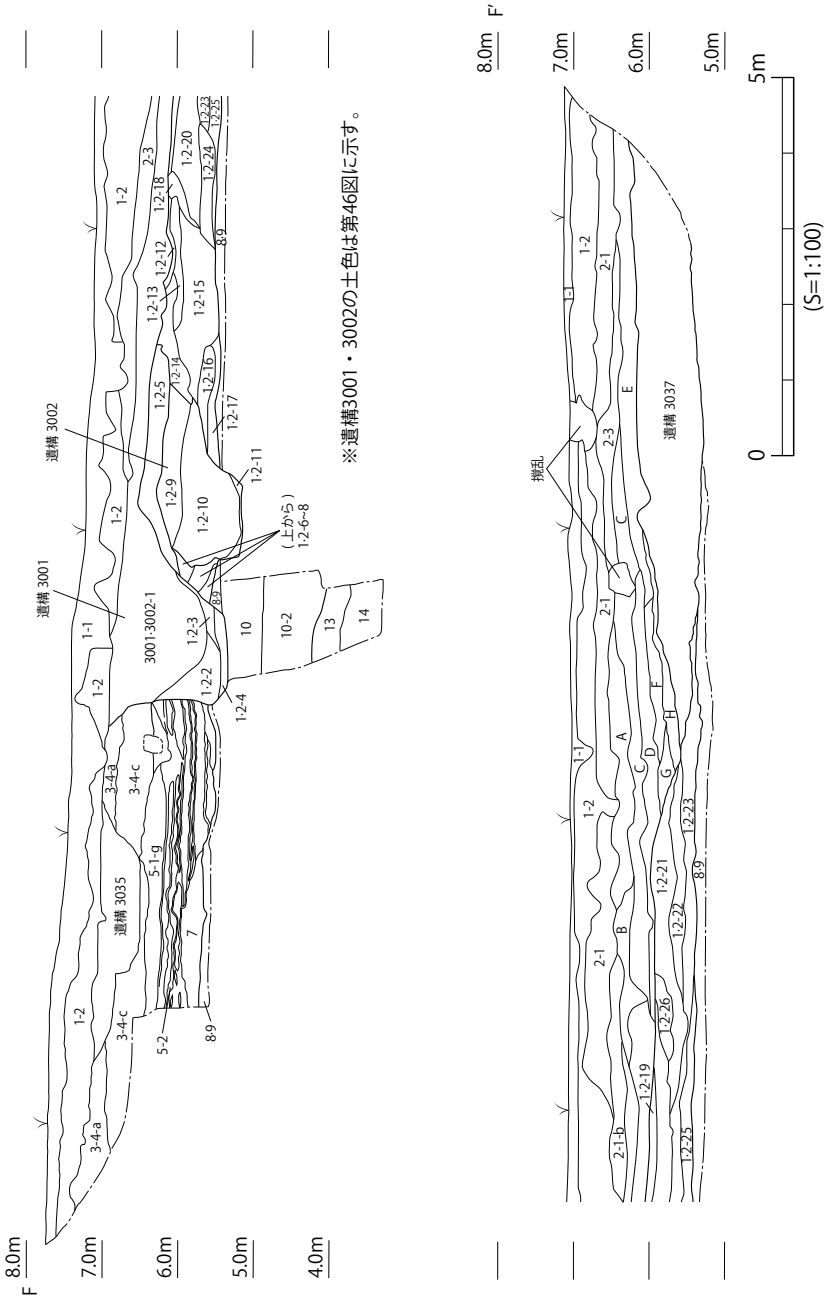


第 18 図　2 区東壁土層図

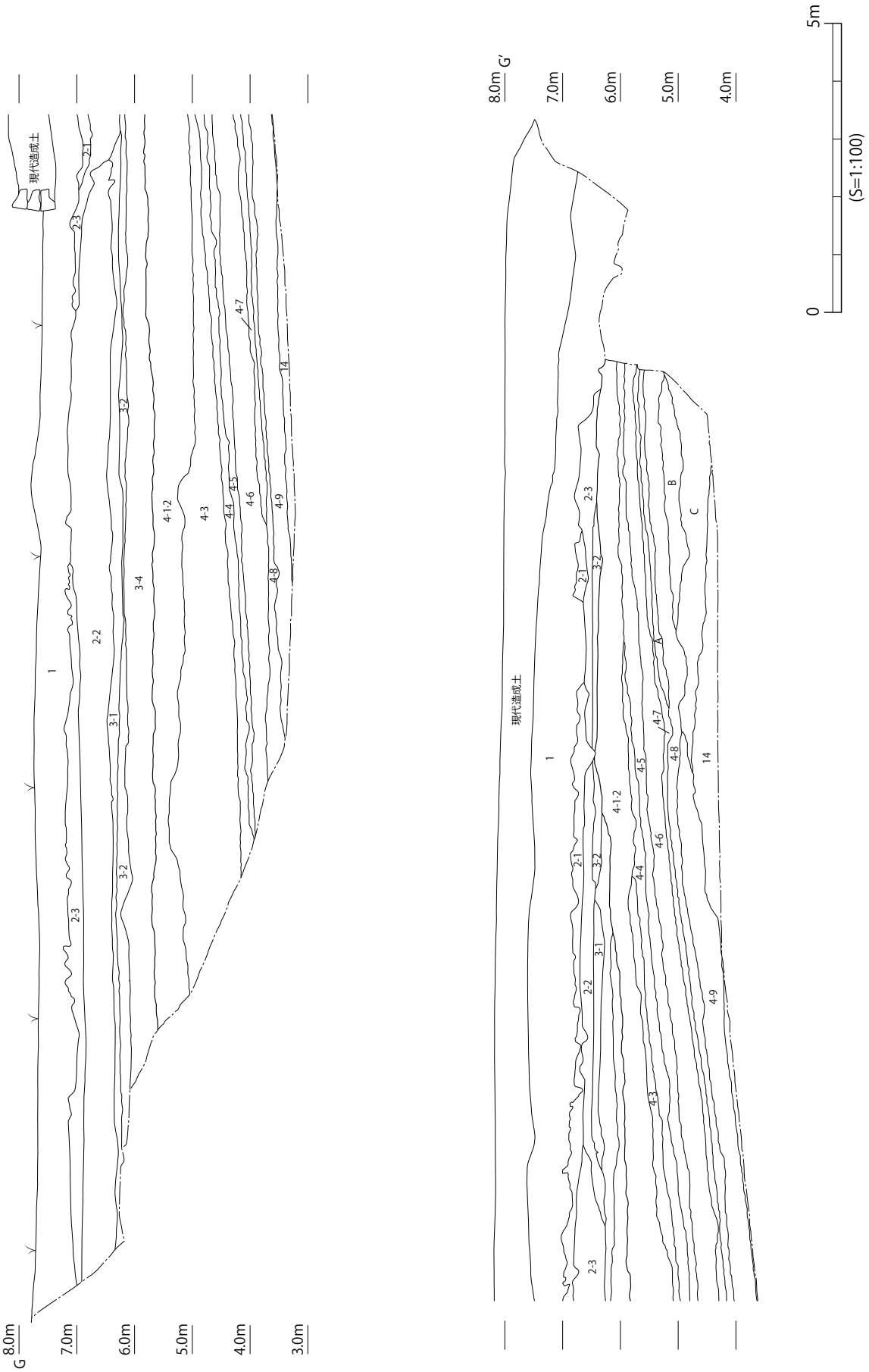
あった。約１万９千年前に噴火した三瓶山の浮布軽石の粒状片を大量に含んでおり、上記の層序とも時期的な矛盾はない。

第３節　遺物の分類方法

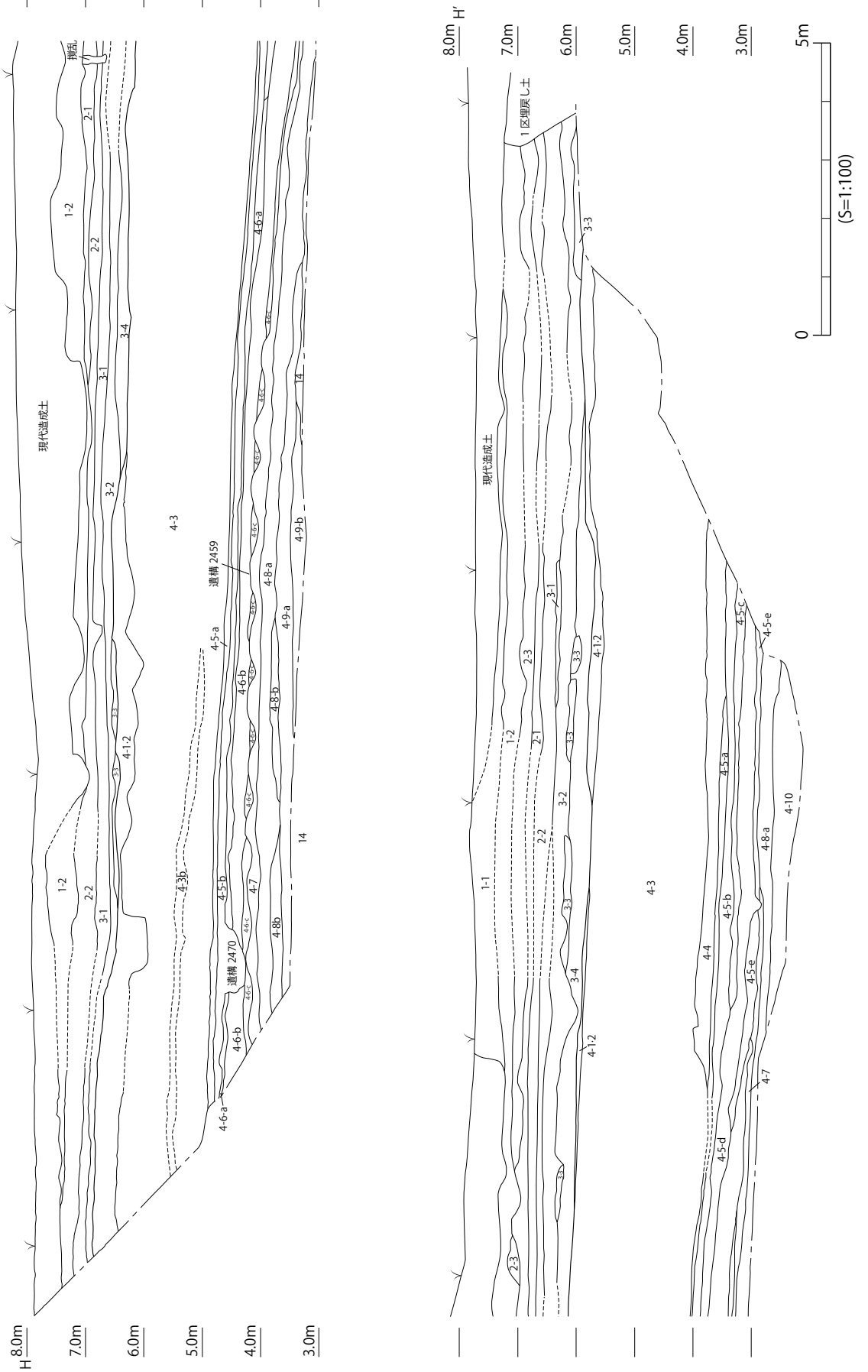
次節で遺物について報告するにあたり、本書での遺物分類方法について記載する。森原下ノ原遺跡では、出土遺物の大半が包含層出土であり、かつ各層は６層以下（弥生時代前期以前）を除きかなり幅のある遺物が含まれる。こうした遺物（とくに弥生土器や土師器）は客観的な分類案を示した上で機械的に分類し、検証可能なように報告するべきだったが、出土量が膨大で整理期間も十分でなかったことから、本書では形態や文様における詳細な分類は一部にとどめ、基本的にはこれまでの研究を参考に時期比定をおこない、その時期比定をベースとした出土量の多寡の解釈に重点を置くこととした。以下では、巻頭の凡例に示した以外に本書において分類をおこなった遺物の分類方法



第 19 図　３区東壁土層図



第 20 図　1 区西壁土層図



第 21 図　2区西壁土層図

○４ライン
2-1. 暗褐色砂質土（10YR3/3）しまり強く草木の根を多く含む、耕作土。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）耕作土か。
3-1. 黄褐色砂（2.5Y5/3）しまり非常に弱い、氾濫堆積。
3-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり・粘性やや強い、近世の遺構面１。
3-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり・粘性弱い、近世の遺構面２。
4-1. 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭粒・焼土粒を含む。中世後半の遺構面。
4-2. 黒褐色砂質土 (10YR3/2) しまり非常に強い、炭粒を含む。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり非常に弱い、氾濫堆積。
4-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、炭を含む。
4-5. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、氾濫堆積。
4-6. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-7. 黒褐色砂質土（10YR3/4）しまり強い、炭を含む。
4-8. にぶい黄褐色粘質土～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、西方ほどしまり強い。
4-9. 暗褐色砂質土（10YR3/3）若干炭を含む。
5-1. 黒褐色砂質土（10YR5/2）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
5-2. 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
6. 褐灰色粘質土（10YR4/1）しまり非常に強い、焼土・炭粒を含む。弥生時代～古墳時代の遺構面。
7. 浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり非常に弱い、逆級化構造あり、氾濫堆積。
8･9. 暗褐色粘質土～粘土（10YR3/3）しまり・粘性非常に強い、自然安定堆積。
10. にぶい橙色粘質土～粘土（10YR5/4）しまり・粘性非常に強い、粘土ブロック・炭粒を含む。自然安定堆積。
11-1. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い、縄文時代遺構面。
11-2. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い、平面では 11-1 層と区別困難。
12. 明黄褐色粘質土（10YR7/6）しまり強い、縄文時代遺構面。
13. 淡黄色砂～粘質土（2.5Y8/3）しまり・粘性弱い、無遺物層、流水により砂（13-1・3・5）と粘質土（13-2・4）が互層状に堆積
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

○３区北壁
1. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。表土。
1-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
1-3. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
2-1. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。耕作土。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
3-1. 黄褐色砂（2.5Y5/3）しまり非常に弱い、氾濫堆積。
3-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり・粘性やや強い、近世の遺構面１。
3-3. 巨礫混じりにぶい黄褐色砂（10YR5/4）巨礫は丸みを帯びた川原石。氾濫堆積層。
3-4-a. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。
3-4-c. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり非常に弱い、粘性非常に弱い。
4-1･2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）１区では厚く堆積するが、２区では非常に薄い。中世後半の遺構面。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）１区では薄いが、２・３区では厚く堆積する。大規模な氾濫堆積層。
4-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性弱い。
4-5. 暗褐色砂質土～シルト（10YR3/4）しまり強い、粘性やや強い。
4-6. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。氾濫堆積層。
4-7. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性やや強い。
4-8-a. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり弱い、粘性強い。炭をわずかに含む。
4-8-b. 暗褐色粘質土（10YR3/4）しまり弱い、粘性強い。炭を含む。
5-1-g. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまりやや強い、粘性やや弱い。明瞭な脈状堆積あり。
5-2. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭含む。明瞭な脈状堆積あり。
7. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い、粘性弱い。逆級化構造を確認。氾濫堆積層。
8･9. にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。安定自然堆積。
10. 暗褐色粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。安定自然堆積。
10-2. にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
11-3-b. 褐色砂質土～シルト（10YR4/4）しまり強い、粘性強い。
13. 褐色砂質土（10YR4/4）無遺物。
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）非常に均一な砂。無遺物。

○７ライン
2-1. 褐色砂質土（10YR4/4）キメが細かく滑らか。
2-2. 褐色砂質土（10YR4/4）耕作土。
3-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）径 2cm の礫や 3mm 程度の砂礫を含む。
地震による細い帯状液状化痕跡がみられる。近世の畑を形成する。
3-4(西). にぶい黄褐色砂（10YR5/4）3-2 層より粒が細かく、色調が明るい。
3-4(東). にぶい黄褐色砂（10YR5/4）分級が悪くしまり弱い。氾濫堆積層。
4-1･2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）２区では１区よりも厚みがなくしまりも弱い。
この傾向は北側から南側へ向かって顕著になる。中世後半の遺構面。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）非常に粒子の粗い氾濫堆積層。
4-4. 暗オリーブ褐色シルト（2.5Y3/3）炭片含む。
4-5-a. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまり強い、粘性強い。4-5-b 層の土壌化。炭を含む。
4-5-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。炭を少し含む。
4-5-c. にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
２区北側の深く落ち込んだ部分にのみ堆積。
4-5-d. 細粒砂混じりにぶい黄褐色シルト（10YR5/4）しまり強い、粘性強い。上下層との漸移層。
4-5-e. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。
２区北側の深く落ち込んだ部分にのみ堆積。
4-5-f. 褐色砂質土（10YR4/4）炭を含む。
4-8-a. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。耕作土の一部か。
4-8-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。部分的な堆積。
4-10. にぶい黄褐色砂（10YR6/4）しまり弱い、粘性弱い。
２区北側の深く落ち込んだ部分にのみ堆積。均質で混じり気のないきれいな砂
5-1-f. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり強い、粘性やや弱い。
5-2. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭を含む。
本遺跡で最も多くの土器が出土した包含層。
5-3. 褐色細・中礫混じり砂（10YR4/4）しまりが弱く崩れやすい。
２区のみでみられる。
7. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い。逆級化構造を確認、氾濫堆積層。
8･9. 極細粒砂混じり暗褐色シルト～粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10. にぶい黄褐色シルト～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）10 層に比べ、しまりと粘性が弱い。安定自然堆積。
11-3. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）12 層と似るが、しまりと粘性が強い。
13. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）しまり弱い。層内に脈状の薄層が挟まる。無遺物。
14. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。無遺物。
14-2. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い、粘性弱い。無遺物。

第 22 図　森原下ノ原遺跡土層注記（東西）

第 23 図　森原下ノ原遺跡土層注記（南北）

○西壁

1-1. 細礫混じり黒褐色砂質土（2.5Y3/2）しまり非常に強い。表土。
1-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり弱い。表土。
2-1. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い。乾燥すると白色化する。氾濫堆積層。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）細い脈状堆積あり。耕作土。
2-3. にぶい黄褐色砂（10YR6/3）氾濫堆積層。
3-1. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）氾濫堆積層。
3-2. 中礫混じり褐色砂質土（10YR4/4）しまり・粘性やや強い、近世の遺構面１。
3-3. 巨礫混じりにぶい黄褐色砂（10YR5/4）巨礫は丸みを帯びた川原石。氾濫堆積層。
3-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR3/4）しまり・粘性弱い、近世の遺構面２。
4-1·2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）１区では厚く堆積するが、２区では非常に薄い。中世後半の遺構面。
4-3. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）１区では薄いが、２・３区では厚く堆積する。大規模な氾濫堆積層。
4-3-b. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）4-3 層中の間層。途中で追えなくなる。
4-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性弱い。２区の北側以北に堆積。
4-5. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、氾濫堆積。
4-5-a. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまり強い、粘性弱い、炭を少し含む。
4-5-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。炭を少し含む。
4-5-c. にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。２区北側に部分的に堆積。
4-5-d. 細粒砂混じりにぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）しまり強い、粘性強い。上下層との漸移層。
4-5-e. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。２区北側に部分的に堆積。
4-6. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-6-a. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。上下層との漸移層。
4-6-b. にぶい黄褐色砂（10YR6/4）しまり弱い、粘性弱い。逆級化構造あり。氾濫堆積層。
4-6-c. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）4-6-b 層と一体の氾濫堆積層。
4-7. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや強い、粘性やや強い。遺構 2459 畑を形成する耕作土。
4-8. にぶい黄褐色粘質土～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、西方ほどしまり強い。
4-8-a. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-8-b. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
4-9. 暗褐色砂質土（10YR3/3）若干炭を含む。
4-9-a. 細礫混じり砂（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。14 層と類似、河川堆積か。
4-9-b. 細礫・粗粒砂混じり灰黄褐色粘質土（10YR5/2）しまり弱い、粘性弱い。14 層が削られたものか。
4-10. にぶい黄褐色砂（10YR6/4）しまり弱い、粘性弱い。２区北側に部分的に堆積。
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

A. にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）しまり強い。粘土ブロックを含む。
B. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。氾濫堆積層か。
C. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり弱い。

○F ライン

5-1. 黒褐色砂質土（10YR5/2）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
5-2. 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり強い、ブロック状に色調が異なる。
6. 褐灰色砂質土（10YR4/1）しまり非常に強い。焼土・炭粒を含む。弥生時代～古墳時代の遺構面。
7. 浅黄色砂（2.5Y7/4）しまり非常に弱い。逆級化構造あり、氾濫堆積。
8·9. 暗褐色シルト～粘土（10YR3/3）しまり・粘性非常に強い、自然安定堆積。
10. にぶい橙色シルト～粘土（10YR5/4）しまり・粘性非常に強い。粘土ブロック・炭粒を含む。自然安定堆積。
10-1. 褐色粘土（10YR4/4）しまり・粘性非常に強い。
10-2. にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）10-1 よりもやや暗い。
10-3. 褐色粘土混じり細粒砂（10YR4/4）10 層から 11 層にかけての漸移層。
11-1. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い。縄文時代遺構面。
11-2. にぶい黄橙色砂（10YR6/4）しまり・粘性弱い。平面では 11-1 層と区別困難。
12. 明黄褐色シルト（10YR7/6）しまり強い、縄文時代遺構面。
13. 淡黄色砂～シルト（2.5Y8/3）しまり・粘性弱い、無遺物層。
流水により砂（13-1・3・5）とシルト（13-2・4）が互層状に堆積
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層。約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

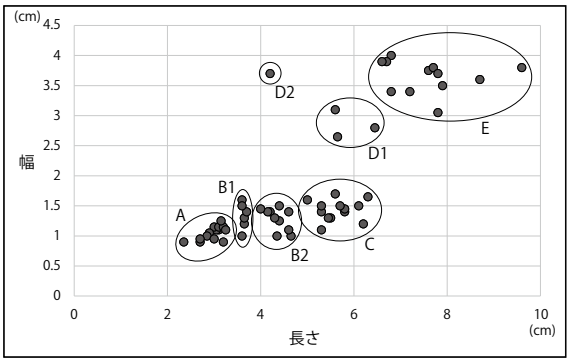
A. 灰黄色砂質土（2.5Y6/2）
B. 黄灰色砂質土（2.5Y4/1）しまり強く硬質。炭化物多く含む。
C. 明黄褐色砂～粘土（2.5Y7/6）しまり非常に強い。
D. にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）基本層序 10 層が風化したような層。
E. にぶい黄褐色砂質土（10YR7/4）しまり非常に弱い。

○東壁

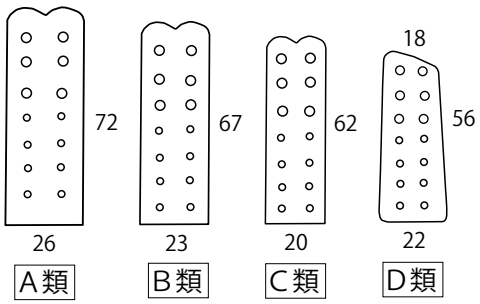
1. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。表土。
1-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
1-3. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。炭含む。
2-1. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまり強い、粘性弱い。耕作土。
2-1-B. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）しまりやや弱い、粘性弱い。2-2 層との漸移層。
2-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）しまり弱い、粘性弱い。
3-4-a. にぶい黄褐色砂（10YR5/4）しまり弱い、粘性弱い。2-1 層との漸移層。
3-4-b. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）しまりやや弱い、粘性弱い。５層などとの漸移層。
3-4-c. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）しまり非常に弱い、粘性非常に弱い。3-4 層（東）と対応。
5-1-a. にぶい黄褐色～暗褐色砂質土（10YR3.5/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い。3-4-c 層と 5-2 層との漸移層。
5-1-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い。5-2 層との漸移層。明瞭な脈状堆積あり。
5-1-c. にぶい黄褐色砂質土（10YR4.5/3）しまり弱い、粘性弱い。
5-1-d. にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）しまり強い、粘性やや強い。
5-1-e. にぶい黄褐色砂質土（10YR4.5/3）しまりやや弱い、粘性やや弱い。
5-1-f. 暗褐色砂質土（10YR3/4）しまり強い、粘性やや弱い。
5-1-g. にぶい黄褐色～暗褐色砂質土（10YR3.5/3）しまりやや強い、粘性やや弱い。明瞭な脈状堆積あり。
5-2. 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりやや強い、粘性やや弱い。炭含む。明瞭な脈状堆積あり。
5-2-b. 黒褐色砂質土（10YR2/3）しまり非常に強い、粘性やや弱い。焼土・炭を含む。
6. 暗褐色粘質土（10YR3/3）しまり強い、粘性やや強い。
7. 褐色砂（10YR4/4）しまり弱い。逆級化構造を確認、氾濫堆積層。
8·9. 極細粒砂混じり暗褐色シルト～粘土（10YR3/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10. にぶい黄褐色シルト～粘土（10YR4/3）しまり非常に強い、粘性非常に強い。
安定自然堆積。
10-2. 暗褐色砂質土（10YR3/4）10 層に比べ、しまりと粘性が弱い。安定自然堆積。
11-2. にぶい黄褐色砂質土（10YR3.5/3）
11-3-a. にぶい黄褐色粘質土（10YR4.5/3）しまり強い、粘性強い。炭・白色の風化岩片含む。12 層に類似。
２区北側に部分的に堆積。
11-3-b. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり強い、粘性強い。
11-3-c. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）しまり弱い、粘性弱い。14 層との漸移層か。
14. 灰オリーブ砂（5Y5/2）無遺物層、約 1,9000 年前の三瓶山噴出物である軽石粒を多く含む。

A. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）しまり非常に強い。炭を含む。
B. 中粒砂混じり砂質土（10YR4/3）しまり弱い。炭を含む。耕作土か。
C. 褐色砂質土（10YR4/4）しまり弱い。炭を含む。崩れやすい。氾濫堆積層。
D. 中粒砂混じりにぶい黄褐色砂質土（10YR4）
E. 細粒砂混じりにぶい黄褐色シルト（10YR4/3）しまりやや弱い。
F. 細粒砂混じり褐色砂質土（10YR4/4）しまり非常に弱い。崩れやすい。氾濫堆積層。
G. 褐色砂質土（10YR4/4）炭を含む。
H. 粗粒砂混じり細粒砂（10YR4/3）遺構 3037 の埋土が土壌化した層。

※算用数字は基本層序関連層、アルファベットは局所的な層



第 24 図　管状土錘法量分布



第 25 図　小札分類模式図

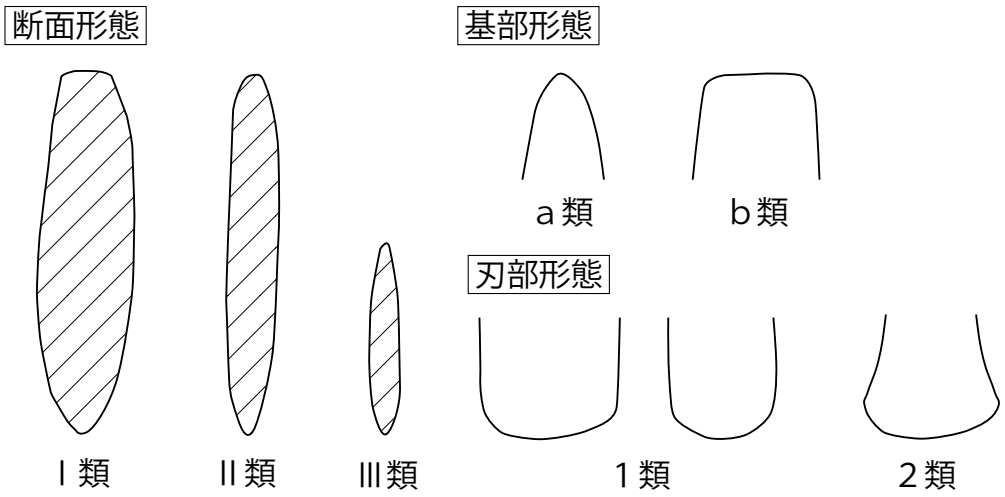
を示す。

1．管状土錘

中世から近世にかけての管状土錘については、長さと幅による法量分布図（第24図）を作成し、形態による分類をおこなった。比較的小型のA～C類が刺網系、D･E類が刺網＋袋網系に用いられた可能性がある[1]。

2．小札

本遺跡では室町時代の小札が30点以上出土したため、第25図のように分類をおこなった[2]。小札は規格品であり、A類は長さ7.2cm・幅2.6cm、B類は長さ6.7cm・幅2.3cm、C類は長さ6.2cm・幅2.0cm、D類は長さ5.6cm・上辺幅1.8cm・下辺幅2.2cm、その他規格外品、類型不明品に分類できる。A～C類は長さが5 mm、幅が3 mmずつ小さくなる。D類は形態が異なり、断面がゆるく湾曲していることから、兜に使用する鍬札と考えられる。いずれも上の6つの孔が大きく（約3 mm）、下の8つの孔が小さい（約2 mm）。下の小さな孔は革紐を通して小札同士を左右に繋ぐためのもので、上の大きな孔は色のついた紐で小札同士を上下に繋ぐためのものである。



第 26 図　磨製石斧分類模式図

３．磨製石斧（成品・未成品）

本遺跡では、６層および11層を中心に磨製石斧の未成品が大量に出土し、本書で扱う包含層からも上記包含層由来と考えられる磨製石斧の未成品が一定量出土した。そこで厚みや平面形態によって分類をおこなった（第26図）。

第４節　調査の成果

森原下ノ原遺跡では、上記のように１～３区で基本的に一連の層序・堆積が確認でき、全体が一連の遺跡であると判断した。したがって、本書では基本的に調査区の境界を取り払い、層ごとの出土遺物、各層の上面で検出した遺構を上から順番に報告する。一方で、遺構や遺物の分布および量が調査区で明瞭に分かれる場合があり、便宜的に調査区名を使用して説明することもある。

まず、遺跡全体における層ごとの遺物出土数をコンテナ箱（長さ58.5cm、幅38.5cm、深さ15.5cm）の数で示す（第27図）。全体として３区の遺物出土量が極めて少ない。これは後述の遺構の濃淡にも対応しており、河川浸食が３区の広い範囲に及んでいたことが主な原因であるが、そもそも３区付近には遺構や包含層が希薄であった可能性もある。２層は全体的な出土量は少ないが、近世陶磁器、土師器、鉄製品の出土量が目立つ。１区の出土量が多いのは遺構分布とも対応している。3-1 ～ 3-4層（西側）は鉄製品の出土量が突出する。3-4層（東側）は西側と比べて須恵器、土師器、弥生土器の量が突出しており、いずれも２区が１区を上回る。とくに須恵器は２区に集中する傾向にある。４層は土師器、弥生土器、石製品の出土が目立ち、土師器、弥生土器は２区の出土が突出する。４層は平安時代頃の河川活動により古墳時代以前の遺構面や包含層を浸食しているため古い時期の遺物出土量が多いと考えられる。また、4-1・2層上面で中世後半の遺構面が確認されたが、遺構は１区に偏在しており、遺物も中世陶磁器と土師質土器の出土量において１区が２区を上回る点が一致している。５層では土師器、弥生土器、石製品の出土量が目立つが、弥生土器の出土量が１区と２区で顕著に異なり、これは遺構分布にも対応する。６・７層は一転して弥生土器と石製品にほぼ限られ、多くが弥生前期の土器と磨製石斧の未成品である。８～ 10層は全体的な遺物出土量自体が極端に減る。この層の堆積時期には周辺で人の活動がほとんどなかったことを示す。11層と12層は縄文土器と石製品にほぼ限られ、11層が縄文時代後期、12層が縄文時代中期を中心とする。11層では磨製石斧の未成品が大量に出土した。

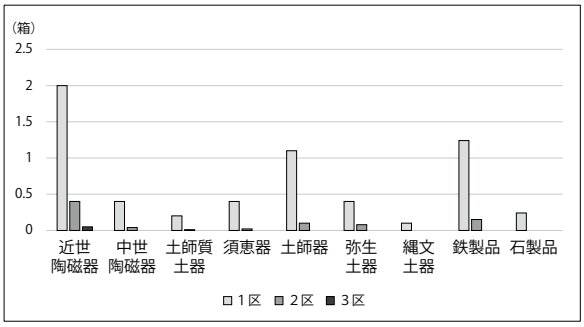
以上のように、基本的には各層の堆積年代と対応する時期の遺物が主体を占めるが、わずかながら前後の時期の遺物も含まれる。これは河川活動による堆積と人の活動が繰り返された結果、ある程度の撹乱が認められること、調査時に詳細な分層が一部困難であったことにより、上下の混入があったことなどが要因と考えられる。

１．２層の出土遺物

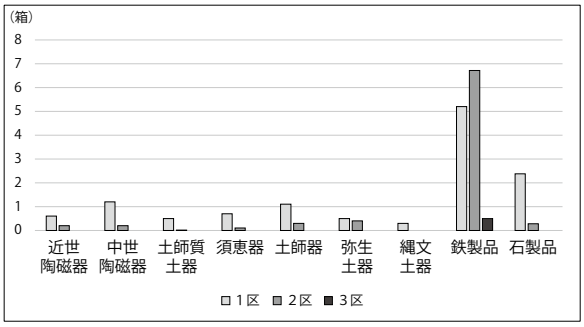
２層は堆積自体が近世以降であるため、ここでは出土した陶磁器類を中心に出土遺物を報告するにとどめる。近世陶磁器については第16表に集計表を示した。なお、図示はしていないが、18世紀以降の燻瓦が複数点出土した。

陶磁器（第 28 図）

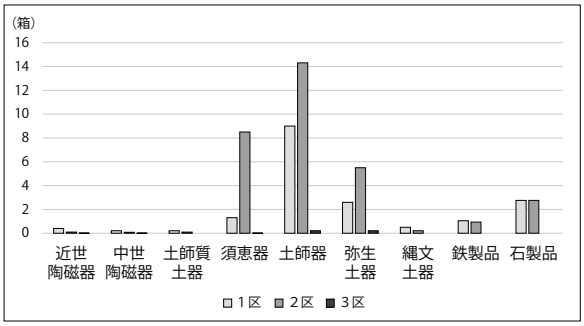
貿易陶磁器は景徳鎮系青花の皿Ｅ群（１）を図示した。中世の国産陶器は備前系擂鉢（16・17）、



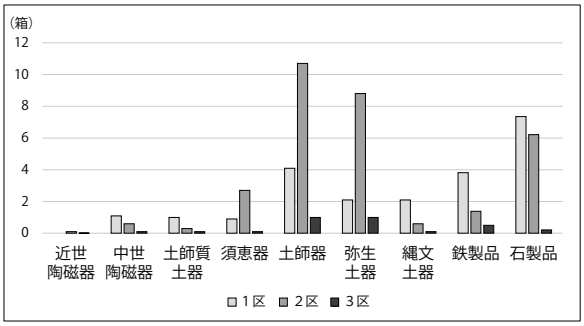
2層



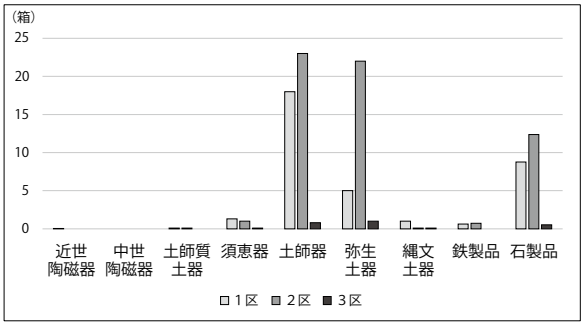
3-1 ～ 3-4 層（西側）



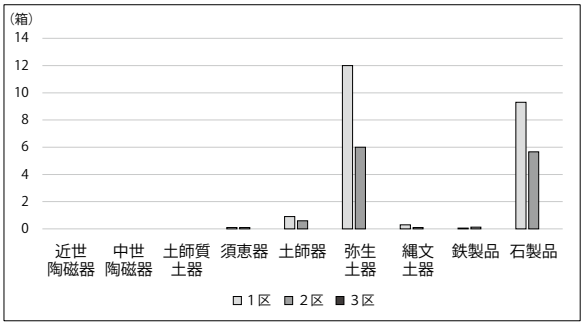
3-4 層（東側）



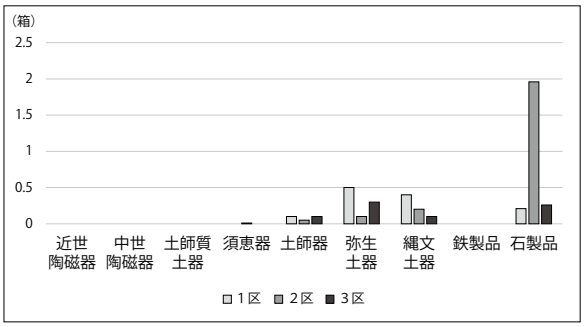
4,4-1 ～ 4-10 層



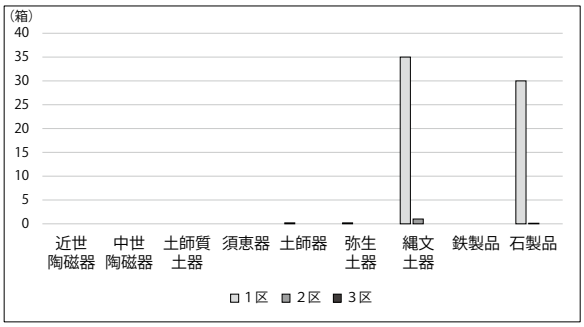
5層



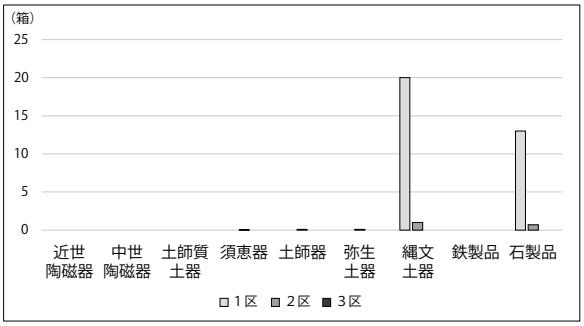
6･7層



8～10層



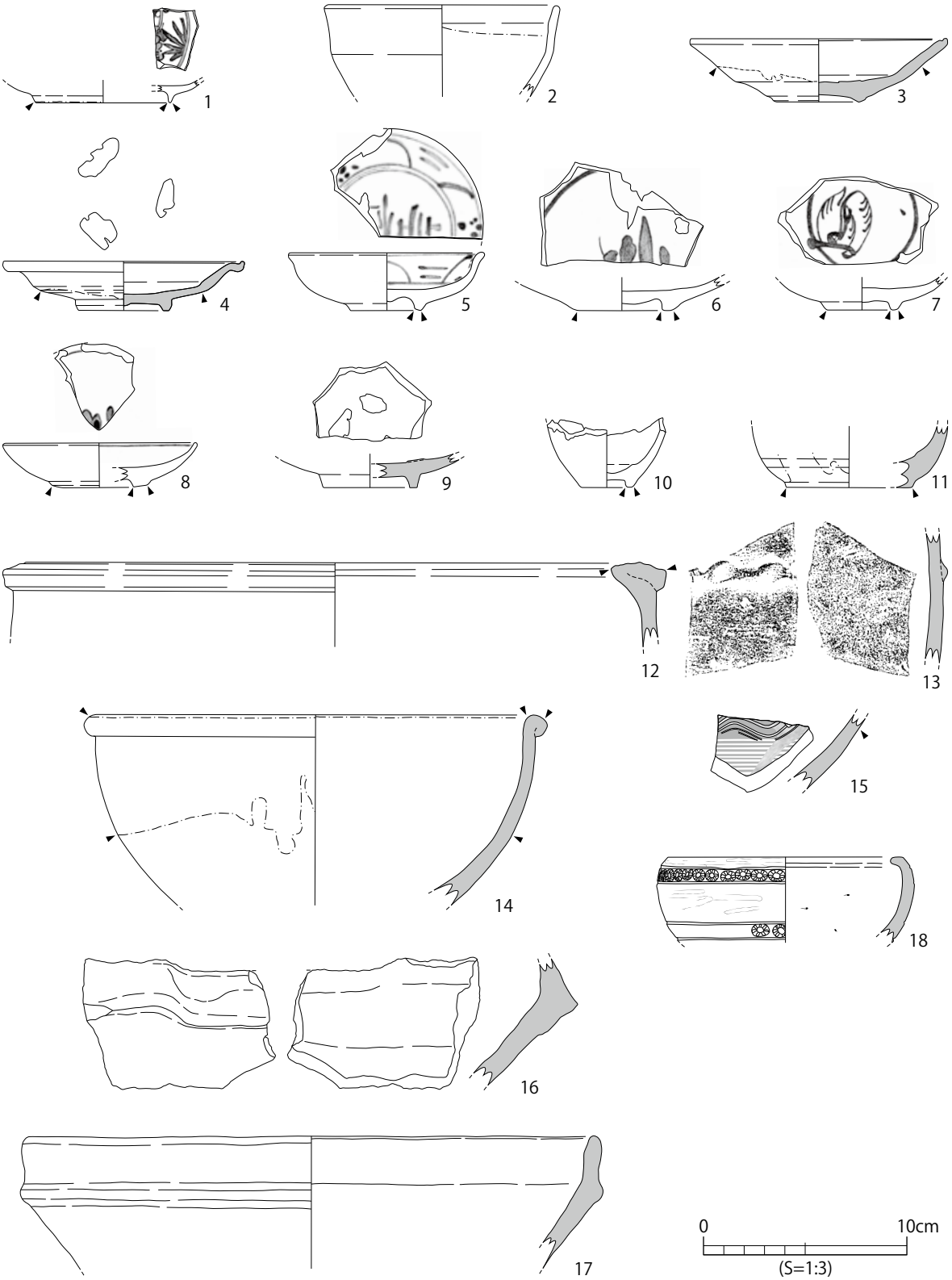
11層



12層

第 27 図　森原下ノ原遺跡の層別遺物出土数

瓦質土器は火鉢（18）などがある。近世の陶磁器は肥前系が多く、その中で目立つものを図示した。２～８、10、12、13は17世紀前半代のものである。天目形碗（２）、溝縁皿（３・４）、染付皿（５～８）、瓶（10）、甕（12･13）などがある。10は中に錆びた釘などを入れて煮立てることによって鉄分を抽出するお歯黒壺に転用されたものと考えられる。９、11、14、15は17世紀後半から18



第28図　２層出土遺物（１）

世紀前半にかけてのものである。砂目皿（９）、瓶（11）、片口鉢（14）、刷毛目鉢（15）などがある。

土師質土器（第 29 図１）

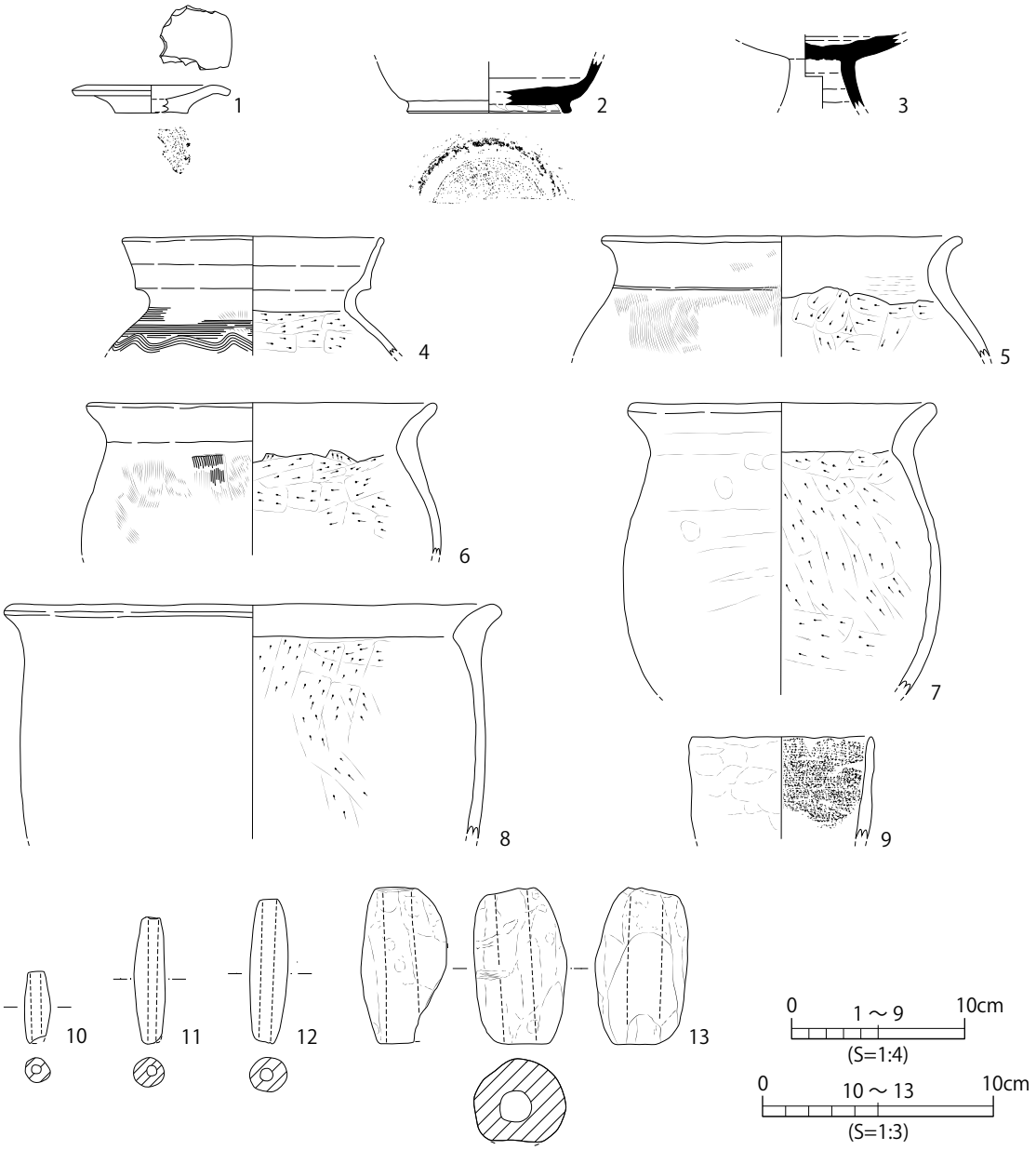
１は白色系皿である。口縁部は外側へ反るように下垂し、底部には現状で３ヵ所の穿孔がみられる。大田市仁摩町の大国地頭所遺跡に類例があり、何かを穿孔するための台などに再利用した可能性が指摘されている（島根県教委2018a）。

須恵器（第 29 図２・３）

２は高台付坏である。底部には回転ヘラケズリ痕、高台の内側には指頭圧痕が顕著に残る。３は高坏である。２が石見７・８期、３が石見７期と考えられる。

土師器（第 29 図４～９）

４は複合口縁の甕である。端部がわずかに肥厚する。５～８は単純口縁の甕である。いずれも頸部の屈曲が不明瞭で、胴部があまり張らない。９は製塩土器である。内面に布目圧痕が残る。４が



第 29 図　２層出土遺物（２）

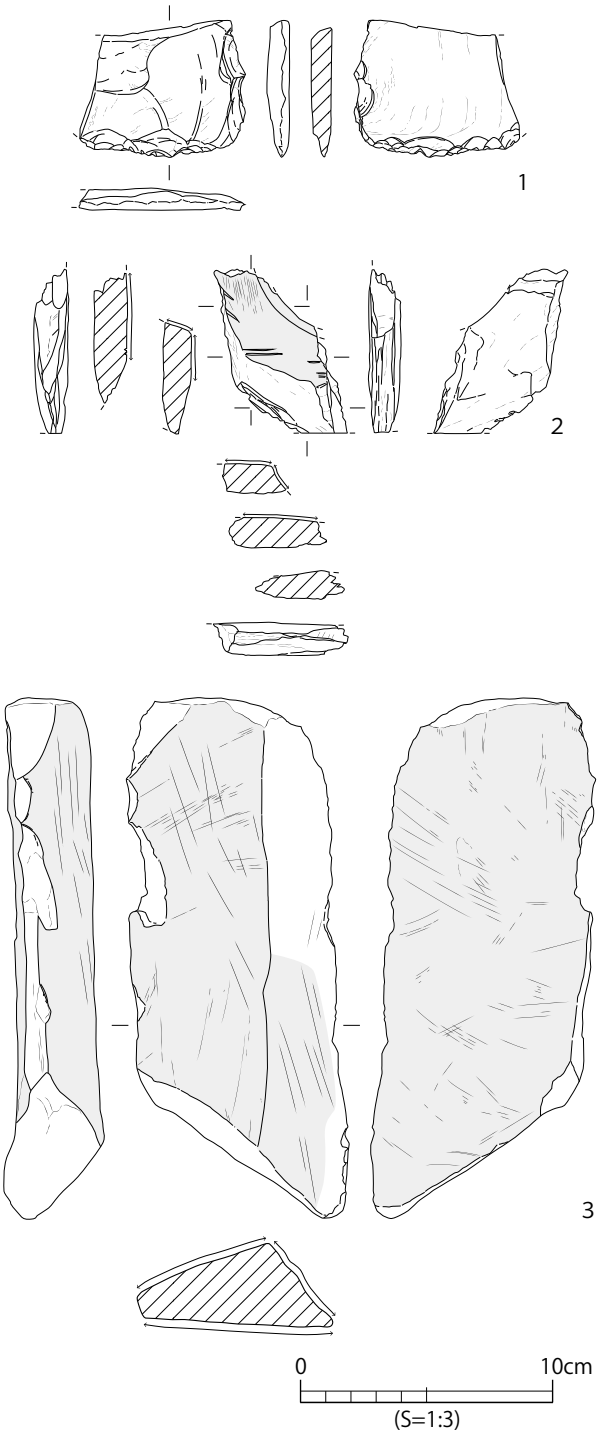
草田６期、５～８は大東４・５式から古代、９は古代以降と考えられる。

土製品（第 29 図 10 ～ 13）

10 ～ 13は管状土錘であり、中世以降のものと考えられる。10をＡ類、11・12をＣ類、13をＥ類に分類した。

石製品（第 30 図）

１は安山岩製のスクレイパーである。薄い板状に成形され、一辺に細かい剥離を加えた刃部が形成される。２は安山岩製の板状砥石か。一角に円弧状の成形があり、復元すると径約８cmの円となる。この部分の内面には円弧と平行する方向の擦痕が明瞭に観察でき、成形時の回転擦痕もしくは使用痕と考えられる。外形は左辺と下辺の一部が遺存しており、本来は方形であったと考えられる。復元すると、長径約16cm、短辺約11cmの長方形板石の中央に円形の穿孔が施されたものになる。３は砂岩製の砥石である。断面三角形状を呈し、とくに裏面がよく使用されている。



第 30 図　２層出土遺物（３）

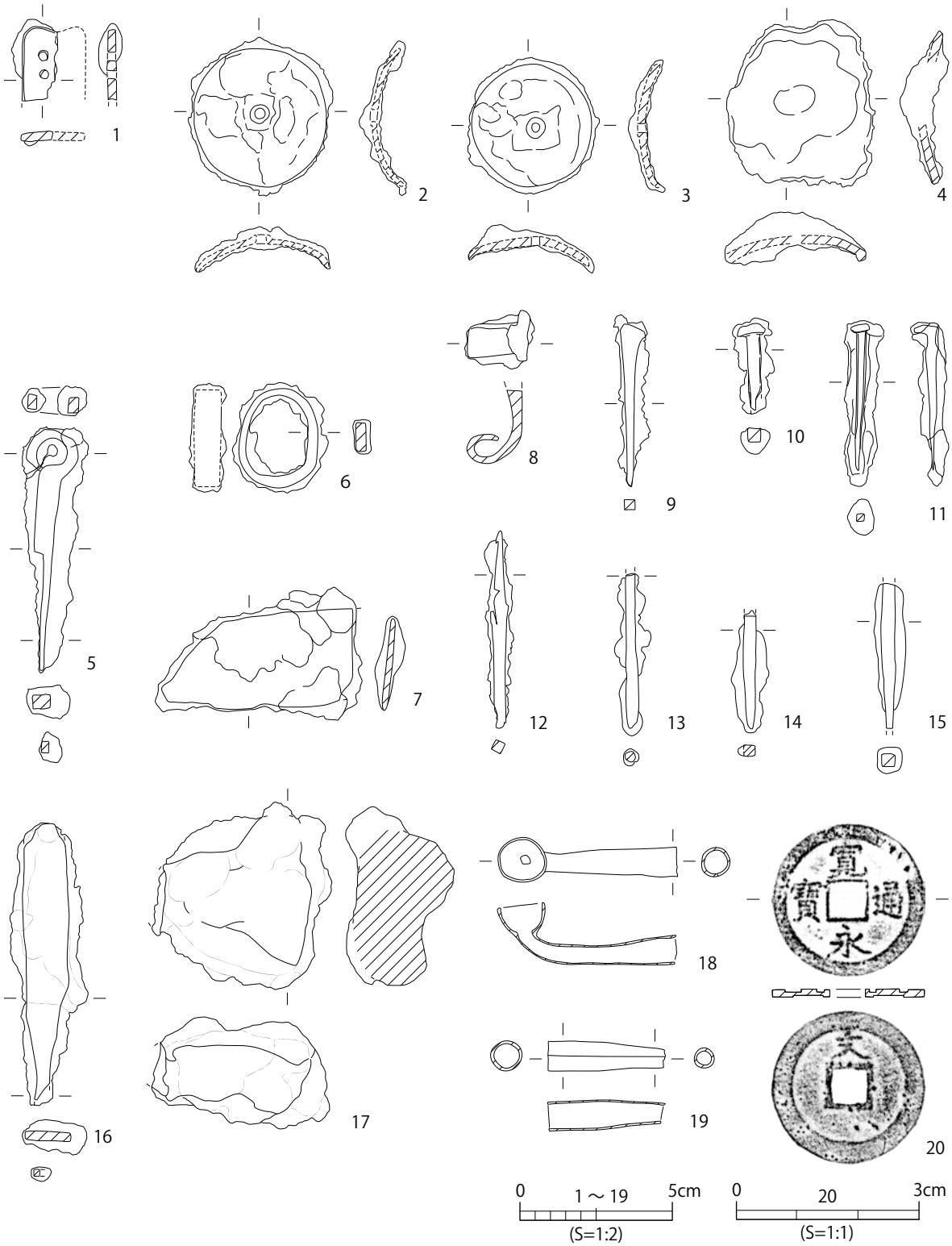
鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品（第 31 図）

１は小札である。小片だがＣ類と思われる。２・３は円形の釘隠しである。断面は弧状を呈し、中央に孔がある。４も釘隠しと考えたが、形がいびつで孔も確認できないため断定はできない。５は環状の柄頭をもつ鍵状不明鉄製品である。先端の一段細くなった部分は明瞭な面をもっており破損ではないと考えられる。６は環状鉄製品である。断面長方形の幅のある鉄板を環状に成形している。７は鉄鎌の可能性がある板状鉄製品である。８はＪ字状の不明鉄製品である。９～ 11は釘である。10・11は折釘であろう。12 ～ 15は棒状鉄製品である。12のみ完形で、長さは7.0cmである。断面形状は12・14・15が方形であるのに対し、13は円形である。16は板状不明鉄製品で、刀子とも考えたが、断面の厚さが均一である。17は鍛冶関連遺物である。やや小型の含鉄椀形鍛冶滓で、分析資料のMRH−1にあたる。分析の結果、鍛錬鍛冶滓の可能性が高く、加工のごく初期段階で鍛冶炉内に取り残されたものと考えられる。18

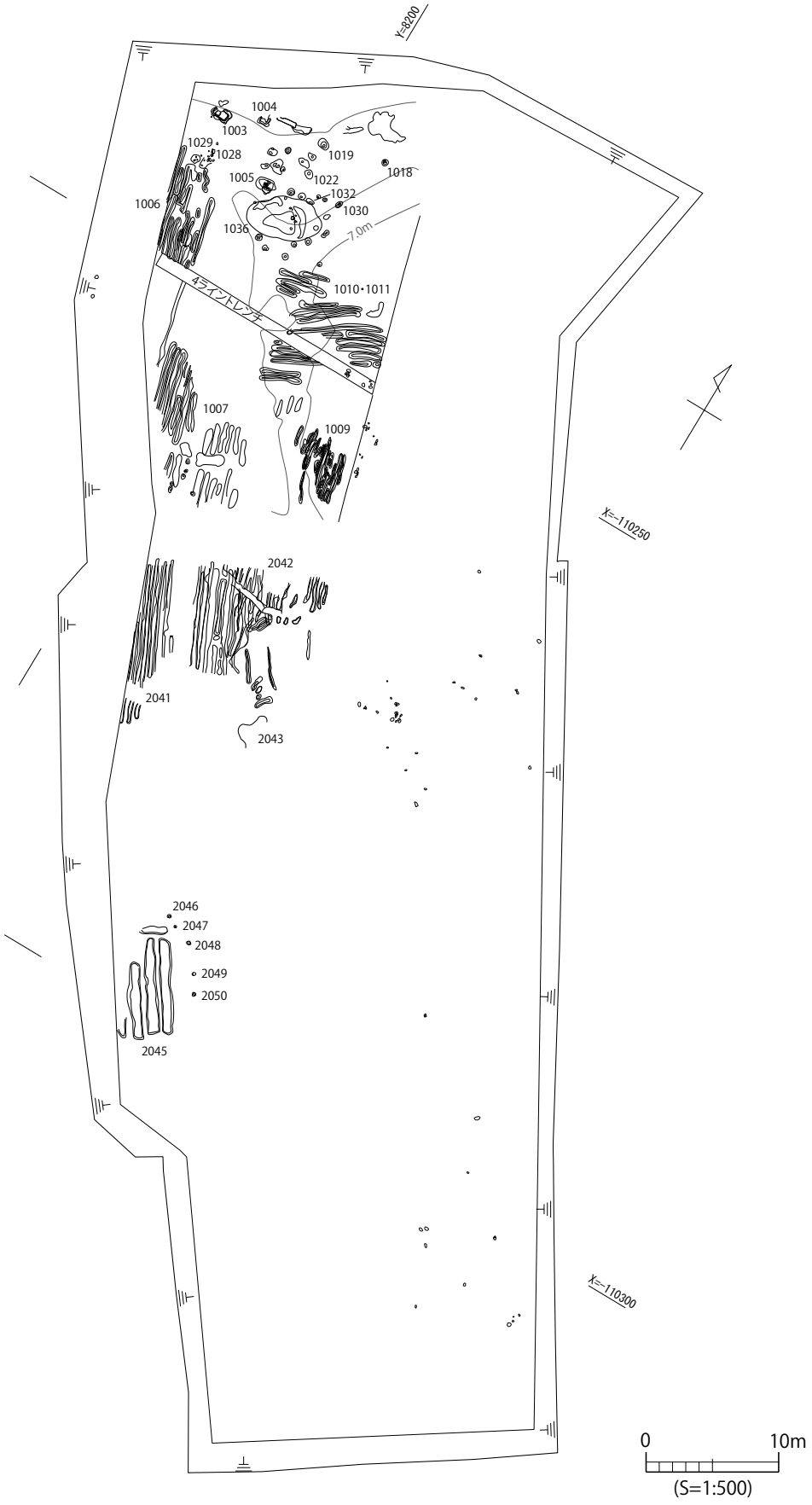
～ 20は青銅製品である。18･19は煙管で、前者が雁首、後者が吸口である。いずれも完形である。20は寛永通寶の文銭で、鋳造年代は1668 ～ 1683年である。

2．3-2 層上面の遺構

近世には耕作と氾濫による埋没が少なくとも２回起こったことがわかり、3–1層と3–3層を氾濫



第 31 図　２層出土遺物（４）



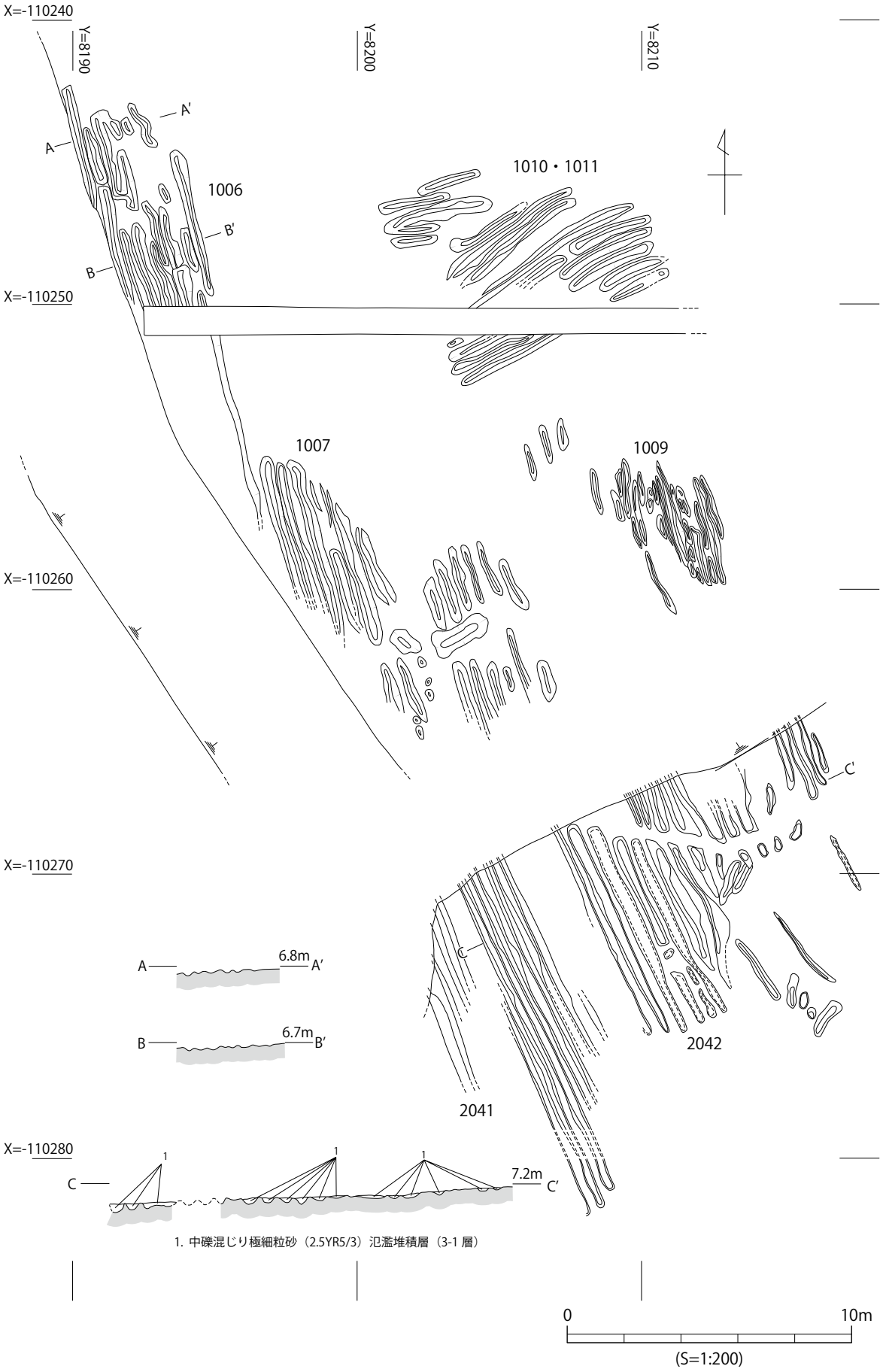
第 32 図　近世上層遺構配置（3-2 層上面）

堆積層、3–2層と3–4層（西側）を耕作土層とした。ここではその上層にあたる3-2層上面で検出した遺構について報告する。概要としては、調査区の西側で畑、北側で鍛冶炉や大型土坑が検出された（第32図・第33図）。

遺構 1006・1007・1009 ～ 1011・2041・2042 畑（第 34 図・第 35 図）

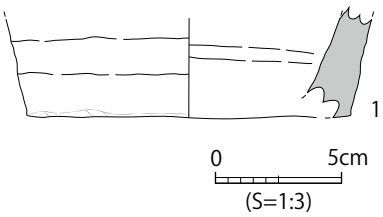
現在の江の川と平行する南北方向の畝である。氾濫堆積（3–1層）により覆われた部分では確認できたが、それ以外の部分では検出が困難であった。少なくとも西側全体に広がっていたものと考えられる。長さは最大で12ｍ、畝間溝の幅は約50cm、深さは10cm程度である。畝の高さが低く、ある程度削平されている可能性が高い。遺構2042では畝間溝が途切れる部分があり、畦道の可能性がある。

第 33 図　近世上層遺構配置（１区部分）



第 34 図　遺構 1006・1007・1009 ～ 1011・2041・2042 畑

１は遺構2042の畝間から出土した備前焼の壺類である（第35図１）。底部付近の破片で詳細な類型は不明である。その他、図示していないが遺構1006から不明鉄片、遺構1010から鍛冶滓１点、遺構1011から鍛冶滓３点が出土した。



第 35 図　遺構 2042 畑出土遺物

遺構 2045 畑、遺構 2046 ～ 2050 ピット（第 36 図）

南北方向の畝とそれを囲むピット列である。畝の長さは最大で７m、幅は概ね65cm、畝間溝の幅は約20cm、深さは10 ～ 15cmである。遺構1006らの畑と方向は合うが、畝の幅が広く性格が異なるものと考える。ピット列は畑を囲む柵の可能性がある。遺物は出土していないが、検出層位から近世の遺構と判断した。

遺構 1003・1004 鍛冶炉（第 37 図）

遺構1003は長軸約125cm、短軸約65cm、深さ約20cmの長方形を呈する。北西隅と中央やや西よりに撹乱がある。周囲には粘土が貼られ、所々被熱により暗赤褐色に変色している。埋土には炭や焼土粒を少し含む程度で鍛冶関連遺物は出土していないものの、状況から鍛冶炉と判断した。北東約３mの位置に長軸を直交させるように遺構1004がある。長軸90cm以上、短軸約65cm、深さ約20cmで、北側は遺存していないが遺構1003と同規模の長方形になると考えられる。こちらも粘土が貼られ、所々被熱により暗赤褐色に変色している。埋土には炭や焼土粒を含んでおり、埋土からは鍛冶滓やガラス質溶融物、不明鉄片などが出土した。両遺構の周囲には炭溜や鉄滓の集中部が検出され、作業範囲を示すものと考えられる。意図的に配置したようにもみえ、一体の施設であった可能性がある。

１・２が遺構1003、３・４が遺構1004から出土した（第37図）。１は管状土錘である。比較的大型だが、類型は不明である。２は不明鉄片で、板状を呈し湾曲している。３は土師質土器の白色系坏である。４は椀形鍛冶滓で、分析資料のMRH-2にあたる。分析の結果、熱間での鍛打加工にともなう鍛錬鍛冶滓と考えられる。

遺構 1005 土坑（第 38 図）

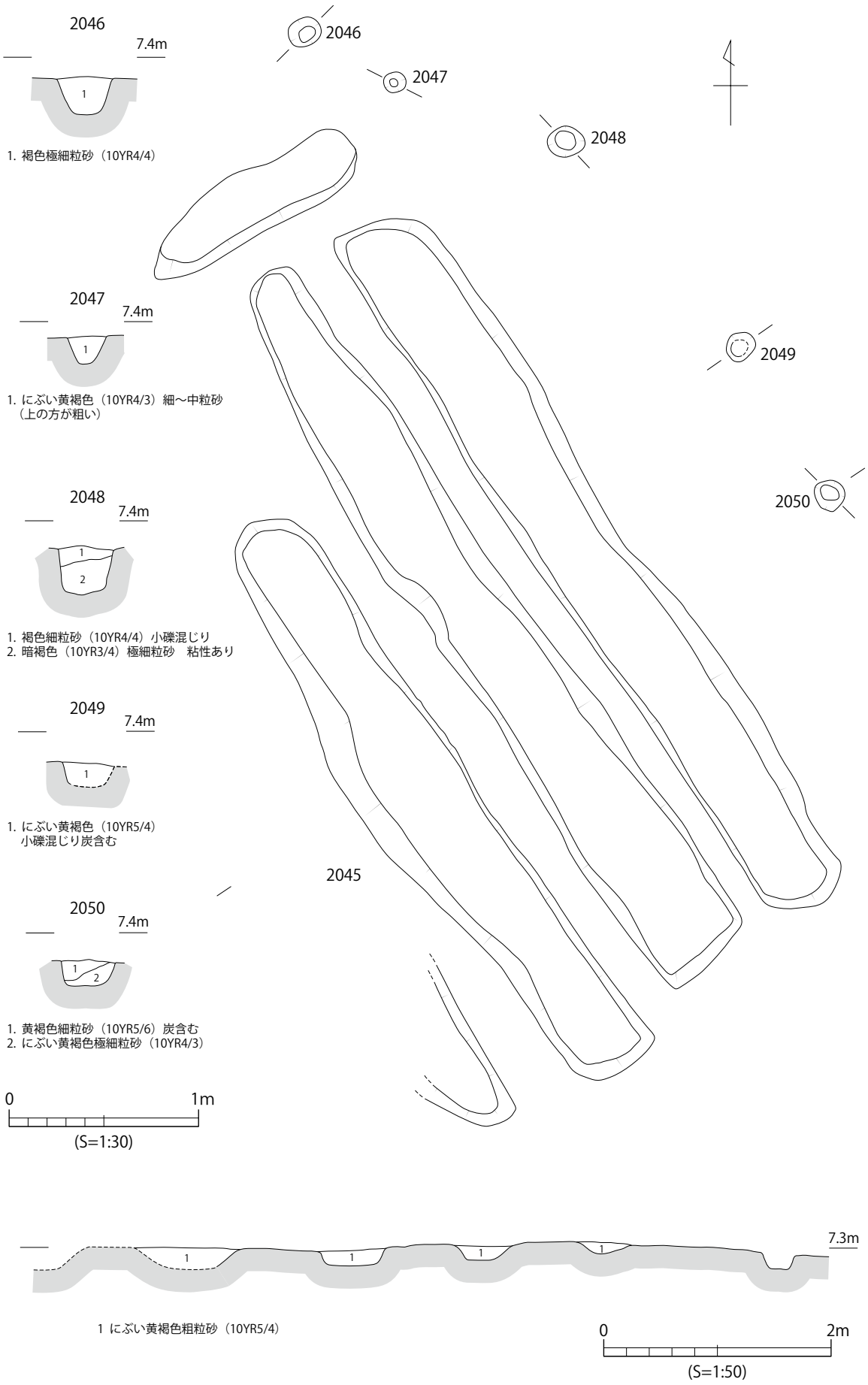
はじめに焼土や多数の粘土ブロック、被熱した石を検出し、その後長径約150cm、短径約95cm、深さ約10cmの掘方を検出した。当初は鍛冶炉の可能性を考えたが、壁面や底面に被熱痕がみられないことなどから土坑とした。

１は管状土錘C類である（第38図）。片方の端部が斜めに割れており、もう片方も対応する位置の器壁が薄くなっていることから使用による摩耗・破損の可能性がある。

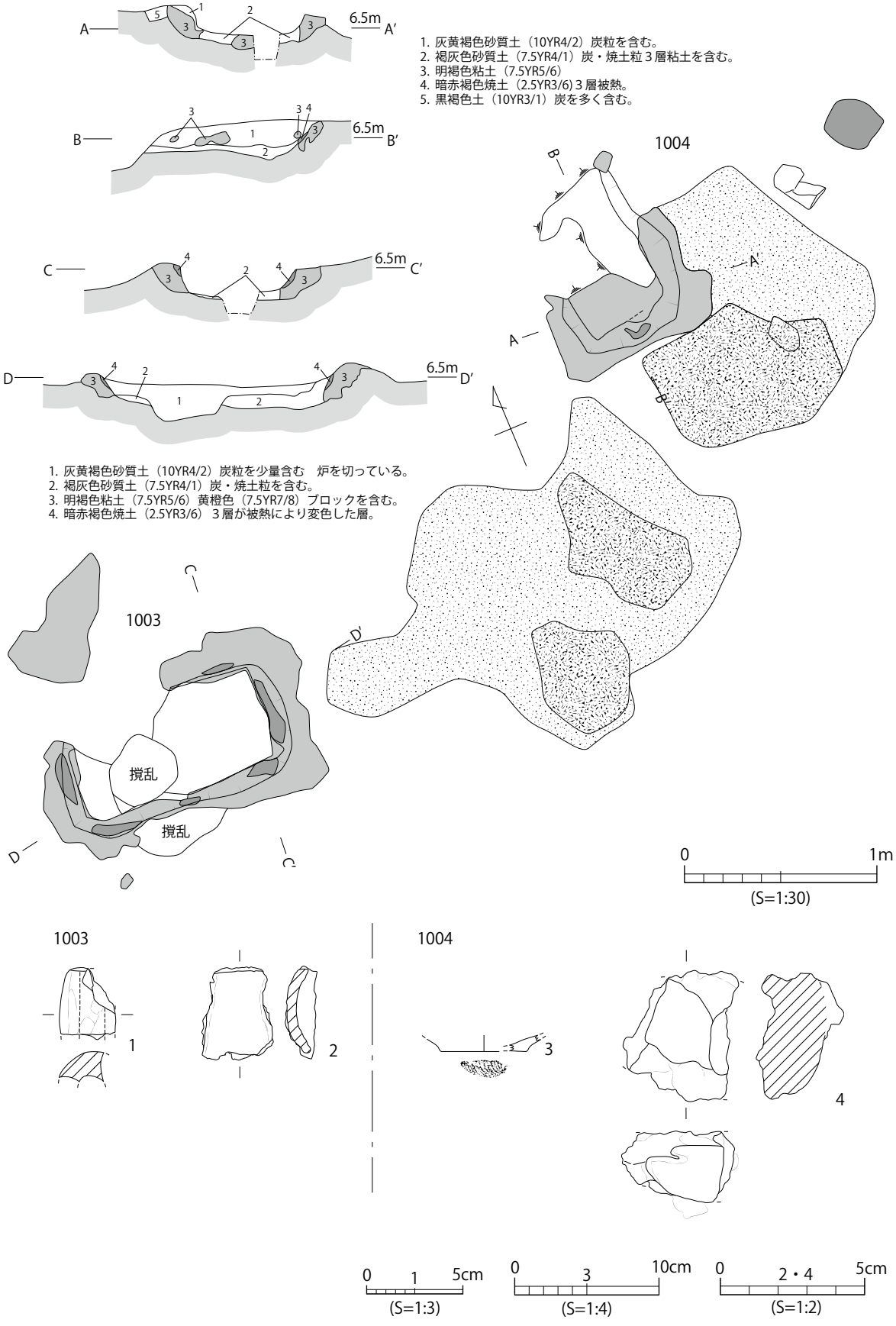
遺構 1036 土坑（第 39 図・第 40 図）

長径約5.6m、短径約3.2m、深さ25 ～ 45cmと大型の土坑である。現地では中世の遺構面である4-1層上面で検出したが、遺物の内容や遺構の重複状況から本来は３-２層から掘り込まれたものと判断した。検出面ではプランの周縁もしくは範囲外で粘土のまとまりが複数箇所確認された。埋土は３層に分かれるものの、いずれも砂質土であり炭などは含まれない。おそらく耕作などで不要なものを廃棄した土坑と考えられる。

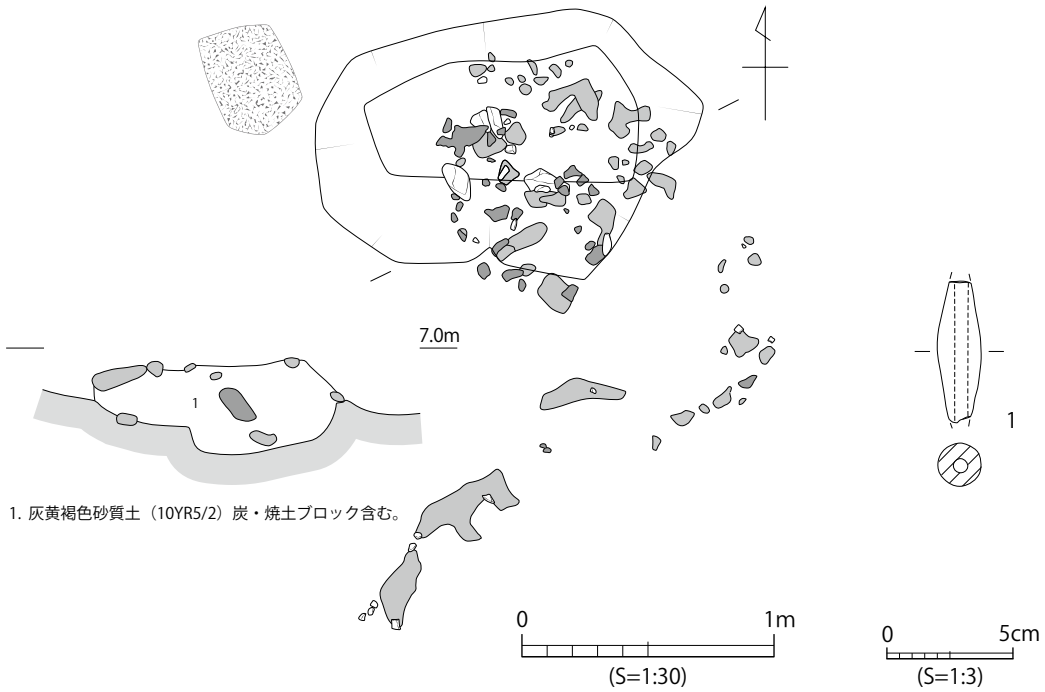
遺物は縄文土器の小片から近世の陶磁器まで多く出土し、底面付近では石臼が傾いた状態で出土した（第40図）。１は肥前系磁器の丸形碗である。製作年代は1610 ～ 1630年と考えられる。２・３は管状土錘である。２はやや細身のＢ２類である。下端部は片側が使用により摩耗している。３



第 36 図　遺構 2045 畑、遺構 2046 ～ 2050 ピット



第 37 図　遺構 1003・1004 鍛冶炉および出土遺物



第 38 図　遺構 1005 土坑および出土遺物

はＢ１類と考えられるが、両端部で幅が非対称になっている。４は石製品で、石材不明の砥石である。小型であるがほぼすべての面を使用している。５は石製品で、挽臼である。主溝間の角度を40度とし、主溝に平行する副溝を３本掘る九分割三溝の構成である。一部副溝を逆回りに掘り直した部分がみられる。底面は軸穴のある中心部に向かって窪んでいる。６～12は鉄製品である。６は甲冑の小札を組む際に使用する革製の綴紐が錆化したものと考える。これは後述の中世の遺構面で多く出土していることから流れ込みであろう。７は小札の可能性もあるが、形態や孔の配置に違和感があり、板状の不明鉄製品とした。８～12は鉄釘である。頭部形態から８・10は折釘、９・11は方頭釘と考えられる。９は打ち込んだ後突き抜けた先端を折り曲げている。

遺構 1019 ピット（第 41 図・第 42 図）

単独で検出した。長径約90cm、短径約70cm、深さ約50cmを呈する。検出面からすれば近世の遺構と考えられるが、埋土から管玉が出土した（第42図１）。１は碧玉製管玉である。端部がわずかに欠けているが、ほぼ完形である。非常に小型で穿孔は両面穿孔である。緑灰色を呈し、いわゆる朝鮮半島系の未定Ｃ群と考えられる。流れ込みであろう。

遺構 1022 ピット（第 41 図・第 42 図）

長径約70cm、短径約60cm、深さ約20cmを呈する。周辺で多くのピットを検出したが、建物などは復元できていない。

埋土から鉄製品が出土した（第42図２）。２は火打金で、完形に近い。形状はほぼ左右対称で透かしが施された装飾性の高いものである。単独の出土であり、この遺構にともなうものかは不明である。

遺構 1030 ピット（第 41 図・第 42 図）

長径約60cm、短径約35cm、深さ約25cmを呈する。周辺では複数のピットを検出しているが、建物などは復元できていない。

第 39 図　遺構 1036 土坑

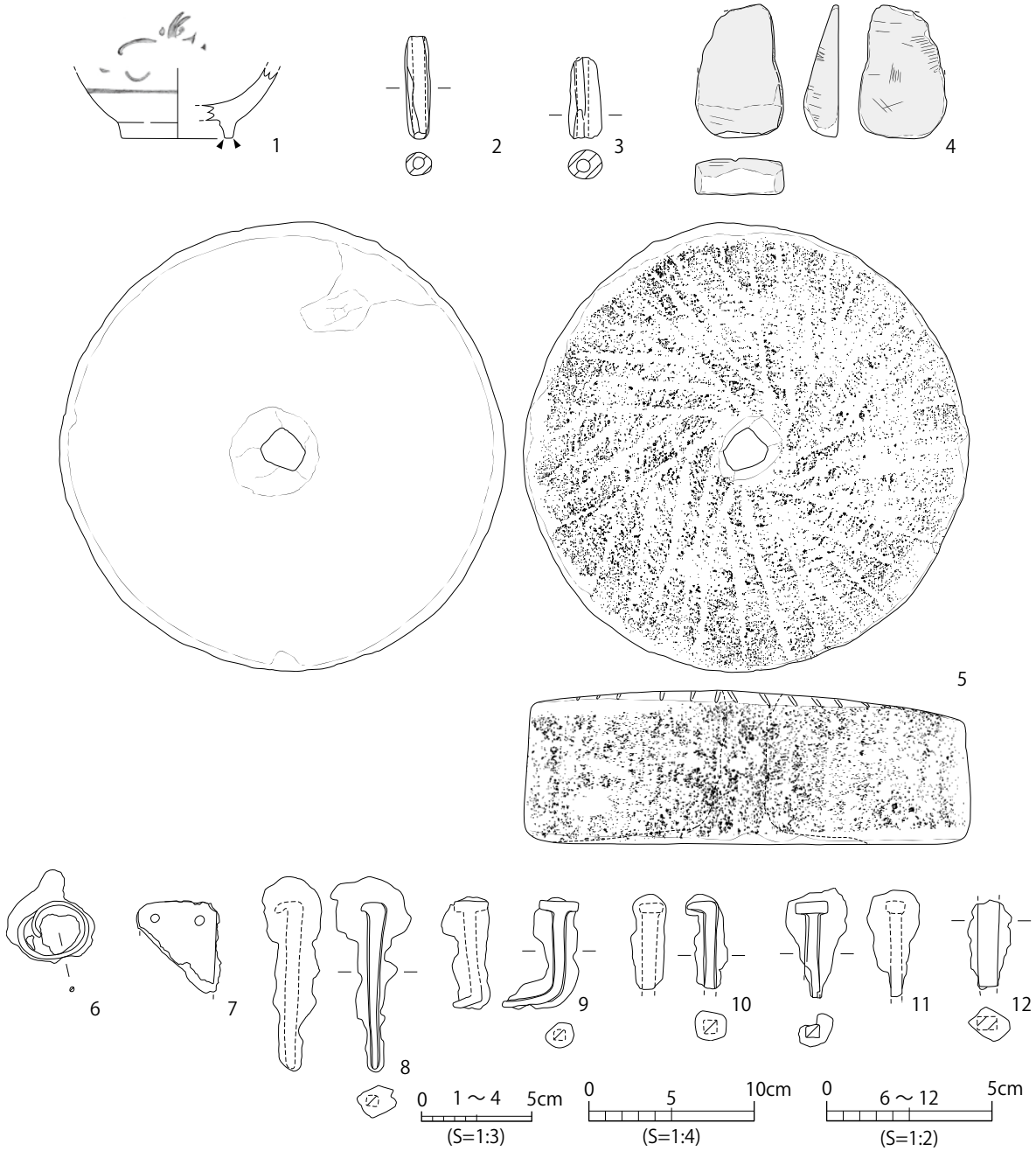
埋土から土錘が出土した（第42図３）。３は管状土錘である。完形に近く、A類と考えられる。

遺構 1032 ピット（第 41 図・第 42 図）

長径約65cm、短径約35cm、深さ約10cmを呈する。遺構1036に隣接して検出した。埋土から鉄製品が出土した（第42図４）。４は板状の不明鉄製品である。左側の幅が狭く、右側に向かって開く形態で、厚さは一定である。

遺構 1018 集石（第 41 図・第 42 図）

単独で検出した。集石の下で径約50cmのプランを検出したが、下端を認識することができなかったため集石として報告する。５個の石で構成され、うち上方にあった２個は被熱により赤く変色していた。上面が強く被熱していることから、ある程度埋没した後に地面に露出していた部分が火を受けた可能性がある。



第 40 図　遺構 1036 土坑出土遺物

集石５個のうち１つに石製品が含まれていた（第42図５）。５は花崗岩製の台石と考えられる。検出時の上面が強い被熱により赤く変色し、破面や裏面もやや黒く変色している。

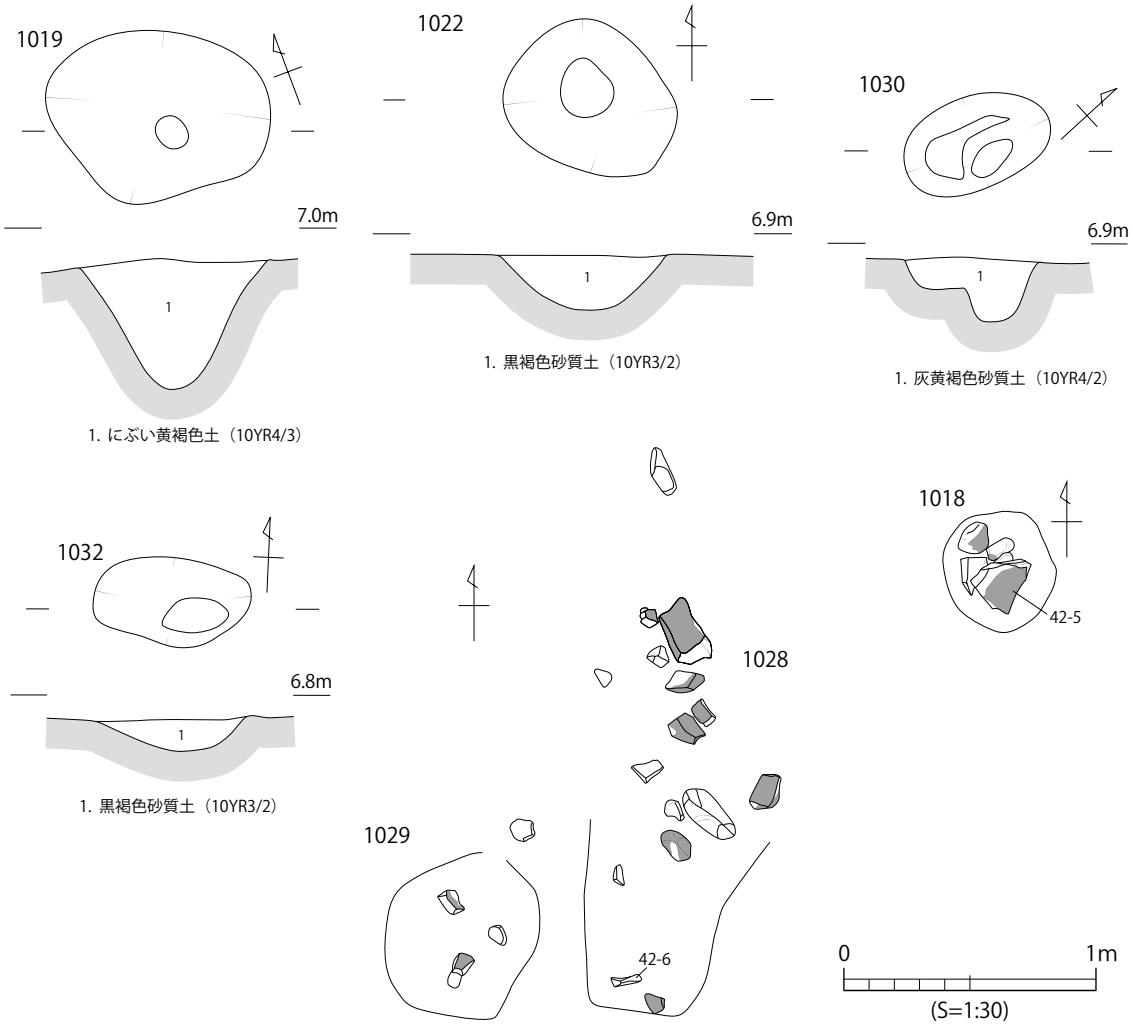
遺構 1028・1029 集石（第 41 図・第 42 図）

隣接して検出された集石である。中には被熱により赤く変色した石もあった。遺構1006畑の畝が途切れる部分で検出したことから、耕作のために不要な石を集めたものと考えられる。

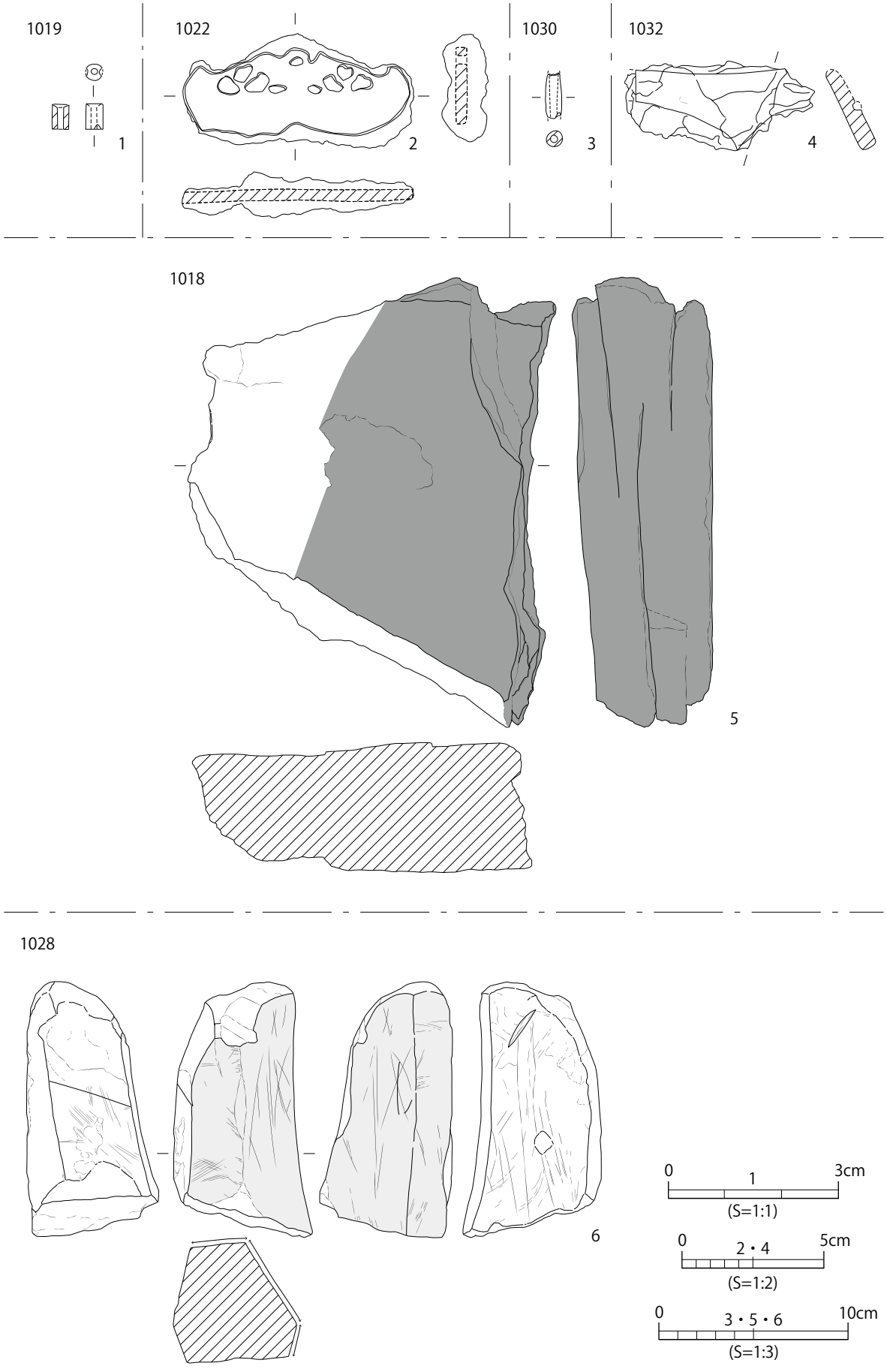
遺物は遺構1028から出土した（第42図６）。６は砥石である。砂岩製で６面の平坦面のうち３面を使用している。

３．3-4 層上面の遺構

ここでは２面検出した近世の遺構面のうち下層にあたる3–4層上面で検出した遺構について報告する。概要としては、調査区の北側で畑・集石、中ほどで鍛冶炉・集石、南側で大型の溝や自然河



第 41 図　近世上層ピット・集石



第 42 図　近世上層ピット・集石出土遺物

第 43 図　近世下層遺構配置（3-4 層上面）

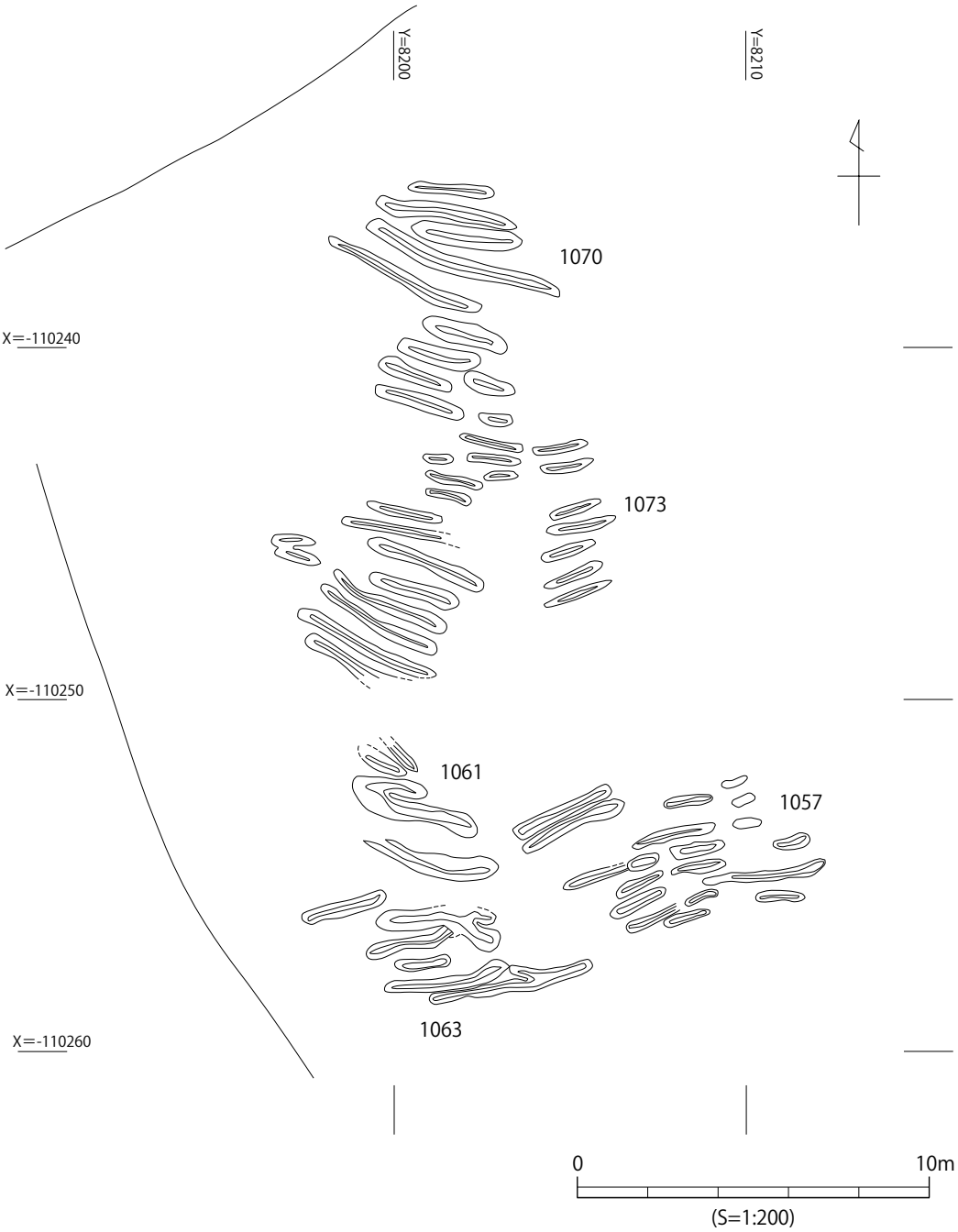
道を検出した（第43図）。

遺構 1057・1061・1063・1070・1073 畑（第 44 図）

現在の江の川と直交する東西方向の畝である。氾濫堆積（3–3層）により覆われた部分でしか確認できず、検出範囲は２～４グリッドに限定される。畝の長さは最大で６m、幅は概ね60cm、畝間溝の幅は約40cm、深さは10cm程度である。畝が低く、ある程度削平されている可能性が高い。遺物は出土していない。

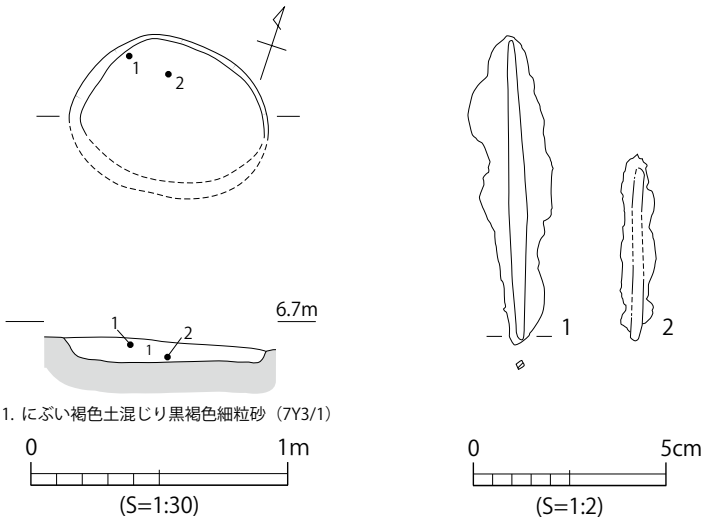
遺構 2063 鍛冶炉？（第 45 図）

長径約80cm、短径約35cm、深さ約10cmを呈する。埋土は１層で黒褐色砂質土、にぶい褐色土がまだらに混ざる。また炭が少し含まれていた。埋土の状況から鍛冶炉と判断したが、鉄滓やガラス質溶融物は出土していない。



第 44 図　遺構 1057・1061・1063・1070・1073 畑

遺物は鉄製品が出土した(第45図)。１・２は棒状鉄製品である。形状は類似するが、長さが異なる。１は両端に向かって先細りし、先端は丸みを帯びている。



第 45 図　遺構 2063 鍛治炉？および出土遺物

遺構 3001・3002 溝？（第 46 図）

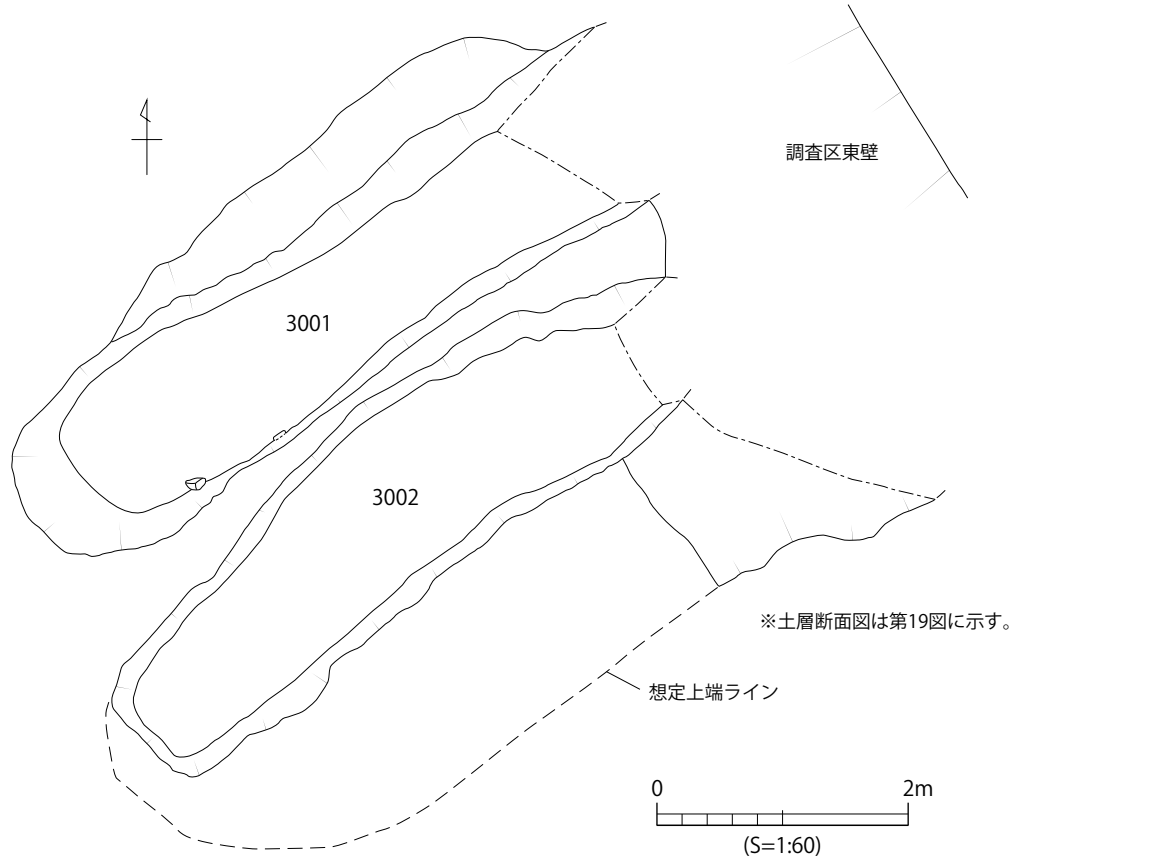
２条平行して掘り込まれた大型の溝状遺構である。プランを検出するのが遅れ、大部分を復元により示しているが、西側の端が図の位置で収束することは確認できた。東側は調査区外に続いており、長さは少なくとも６ｍ以上となる。深さは約1.5ｍである。下記のとおり、この溝は造成によって形成された可能性が高い。断面は調査区東壁の土層断面図に示す（第19図）。

まず形成されたのは遺構3002である。第19図をみると、遺構3001の北側までは３−４層以下の基本層序が堆積している。しかし、遺構3002の南側は３−４層～７層までが確認できず、より細かな分層が可能で非常にしまりの強い堆積であった。また、遺物の出土が遺構3001･3002−21 ～ 23層に偏るなど、不自然な状況であった。これらのことから、遺構3002を形成する際に基本層序５層などを由来とする土を盛土によって造成した可能性が高いと判断した。遺構3002はしばらく機能していたが、氾濫により一気に埋没したと考えられる。その後、遺構3002の埋土を覆うように再び造成がおこなわれ（遺構3001・3002−５～８層）、遺構3001が形成された。しかし、これも氾濫により埋没している。遺構3001の埋没は検出面や埋土から出土した瓦と磁器から近世に下る。しかし、遺構3002の造成は埋土や盛土から中近世の遺物がほとんど出ておらず、どこまで遡るか不明である。堆積状況からは16世紀代に遡る可能性もある。遺構の機能は埋土からほとんど遺物が出土していないことや同時期に調査区内が畑地として利用されていたこと、深さが最大で約1.5ｍにもなることから耕作に関わる何らかの機能を有していたと考えられる。

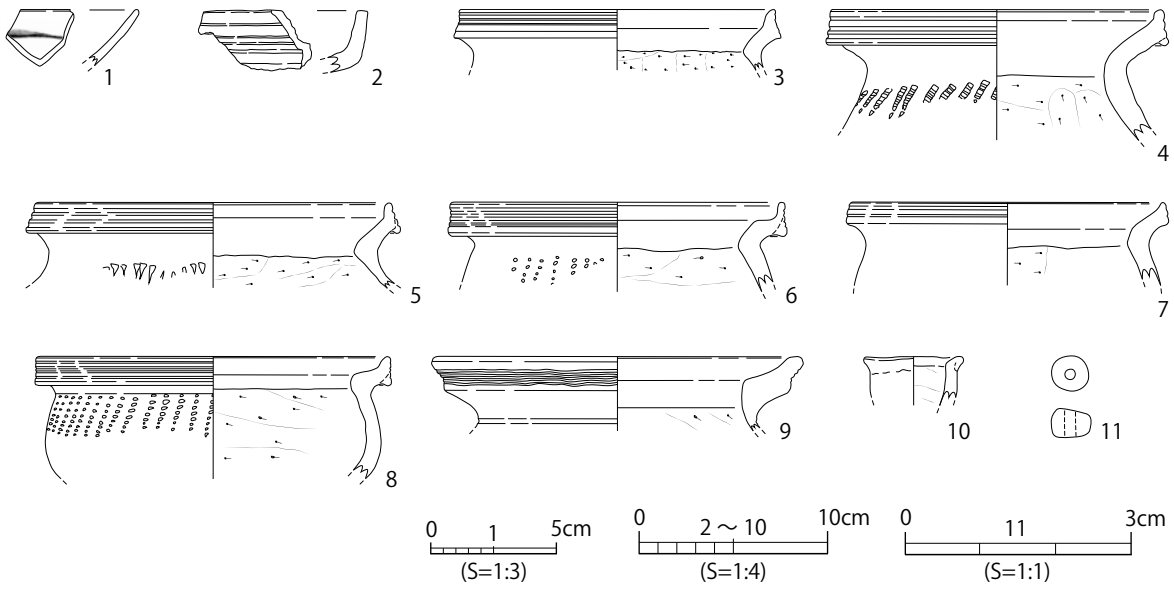
遺物は遺構3001の埋土から磁器片が出土した以外は、遺構3002の造成にともなう盛土から大量の弥生土器を中心とする遺物が出土した（第46図）。これらは盛土が基本層序５層に由来することが要因である。１は遺構3001の埋土、２～５・８・９・11は盛土の21層、６・７は23層、10は25層で出土した。１は肥前系磁器の平形皿である。時期は18世紀前半である。２～ 10は弥生土器である。２は石見Ⅳ様式の高坏である。外面には浅い凹線が施される。３～８は石見Ⅴ−１様式のものである。３～７は甕の口縁部で、いずれも口縁端部に凹線文が施される。肩部には刺突文が施されるものが多いが、原体は二枚貝腹縁、ヘラ状工具、櫛歯状工具と様々である。９はⅤ−２様式の甕である。上方に外傾しながら拡張し、外面に擬凹線を施す。10は小型の鉢であろうか。用途・時期ともに不明である。11はガラス小玉である。これも弥生時代の所産と考えられる。

遺構 3038 土器溜（第 47 図・第 48 図）

遺構3002にともなう盛土21層内で検出した土器溜である。造成土から完形に近い土器が出土する点は違和感があるものの、造成時に邪魔な土器類をまとめて廃棄したものと判断した。

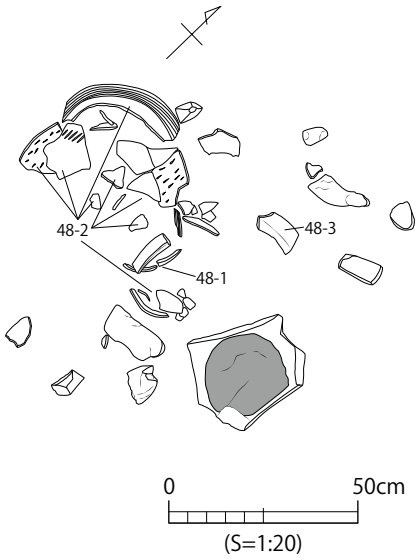


3001･3002-1. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）灰黄褐色の粘土粒及び炭化物を多く含む。
-2. にぶい黄褐色砂（10YR5/3）1よりも白色砂が多く明るい。
-3. にぶい黄褐色細粒砂（10YR4/3）
-4. にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）粘土をやや含む。
-5. にぶい黄褐色細粒砂（10YR4/3）非常に締まりが強い。
-6. にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）粘性あり。
-7. にぶい黄褐色中粒砂混じり細粒砂（10YR4/3）締まりない。
-8. にぶい黄褐色細粒砂（10YR4/3）やや粘性がある。
-9. にぶい黄褐色中粒砂混じり細粒砂（10YR4/3）
-10. にぶい黄褐色中粒砂混じり細粒砂（10YR5/3）
黒筋やブロックが混じり均質ではない。
-11. にぶい黄褐色砂（10YR4/3）
-12. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）
-13. にぶい黄褐色砂（10YR6/3）＋暗褐色砂質土（10YR3/4）一部に脈状。
-14. 褐色粘土（10YR4/4）非常に硬く光沢がある。
-15. にぶい黄褐色細粒砂（10YR5/3）炭をわずかに含む。
-16. にぶい黄褐色中粒砂混じり粗粒砂（10YR4/3）
-17. 暗褐色粗粒砂混じり中粒砂（10YR3/4）
-18. 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色粘土のブロック、灰黄色砂が混入。
-19. 暗褐色極細粒砂（10YR3/3）
-20. にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）暗褐色砂質土を脈状に含む。
-21. 黒褐色極細粒砂（10YR3/2）弥生～古墳時代の土器を多く含む。
また炭も多く含む。固く締まる。
-22. にぶい黄褐色極細粒砂（10YR4/3）わずかに土器、炭を含む。
色調がまばらで汚れている。固く締まる。
-23. にぶい黄褐色極細粒砂（10YR4/3）
22層とほぼ同質だが均一の砂でやや締まりが弱い。
-24. 灰黄色極細粒砂（2.5Y7/2）
-25. にぶい黄褐色細粒砂（10YR4/3）砂だが締まりはある。
-26. 灰黄褐色粗粒砂（10YR4/2）灰黄色砂が混入。非常に粗い砂。



第 46 図　遺構 3001・3002 溝および出土遺物

いずれも弥生土器で、石見Ｖ様式である（第48図）。１・２は甕である。ともに多くの部分を復元できた。１は口縁部を上方に大きく拡張し、外面には擬凹線を施す。頸部の屈曲はゆるやかで胴部もそれほど張らない。肩部にはハケ状工具を斜めに押し引いたような文様が施され、１条が非常に長い。外面調整はわずかにハケがみられるが、全体的に非常に滑らかで摩滅もしくは使用によるものと考えられる。２は大型の甕で、口縁部は上下に大きく拡張し、外面に擬凹線を施す。肩部にはハケ状工具による刺突文を施す。外面調整は全体的にハケだが、胴部最大径の上部を指でなでている。内面はケズリだが頸部まで届かず、外面の文様と対応する位置よりも下位をケズリ調整している。３は鼓形器台の口縁部である。外面は擬凹線のようにみえるが、ハケ調整をするようにやや粗雑な条線となっている。１は石見Ｖ−２様式、２・３は石見Ｖ−３様式と考えられる。



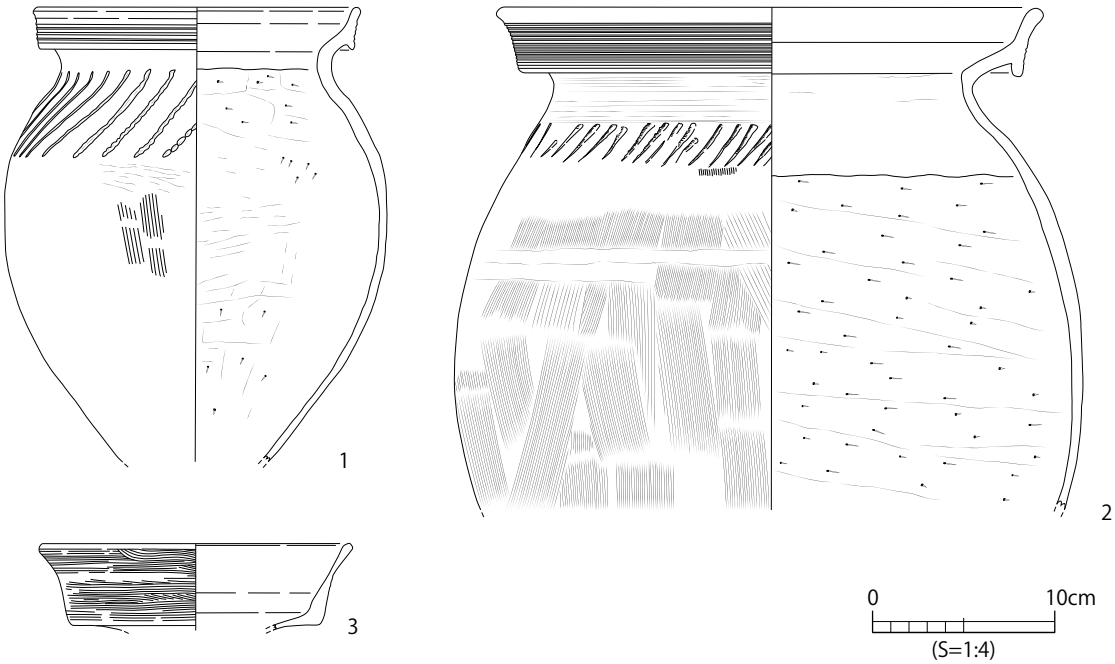
第 47 図　遺構 3038 土器溜

遺構 2051 土坑（第 49 図）

長径約100cm、短径約50cm、深さ約20cmを呈する。埋土には自然礫が１点含まれていた。遺物は検出面で青磁碗が出土した（第49図）。遺物から中世の遺構かと考えたが、検出層位が近世の遺構面であること、直上で遺構2042畑を検出していたことから遺物は混ざり込みと考えた。１は龍泉窯系青磁の端反碗である。上田分類の碗Ｄ−Ⅱ類にあたり、時期は15世紀である。

遺構 2079 ピット（第 50 図）

現地ではまず集石を検出し、その後精査によってピットと判明した。したがって本来の掘り込み面はさらに上位と考えられる。石は９個あり、柱穴の根石かと思われたが、周囲でピットを検出できず建物かどうか不明である。



第 48 図　遺構 3038 土器溜出土遺物

遺物は土師質土器が1点出土した（第50図）。1は土師質土器の褐色系皿である。焼成が良く比較的薄手のつくりである。

遺構 1014 集石、遺構 1087 焼土面（第 51 図・第 52 図）

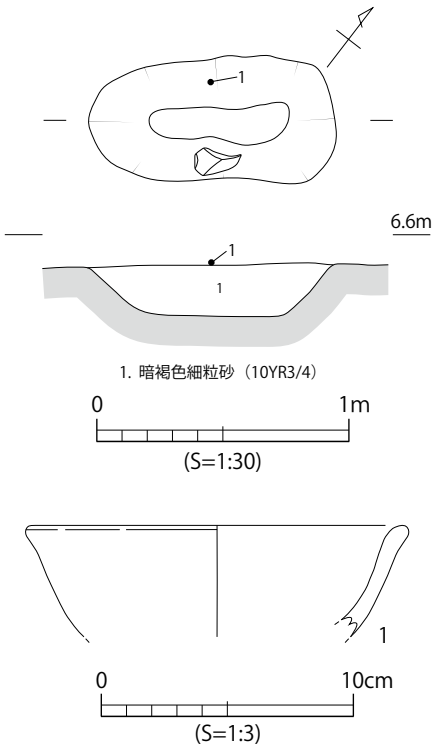
遺構1006畑の下位で検出した。非常に多くの石が集められており、3層に分けて記録をとった。所々被熱した石が含まれ、石を除去した面で遺構1087を確認した。おそらく耕作にあたって不要な石などを集めたものと考えられる。

遺物は石に混じって縄文土器、弥生土器、土師器、鉄製品など多くの遺物が出土した（第52図）。1・2は土師質土器の褐色系坏である。3は土師器高坏の脚部である。全体的に器壁が厚く、大東式と考えられる。4は弥生土器甕の口縁部で、石見Ⅴ−2様式と考えられる。5〜8は鉄製品である。5は鉄鏃の鏃身関部片である。鏃身部が大きく破損しており形式は不明であるが、柳葉Ⅱ式もしくは方頭斧箭Ⅲ式と思われ、中世以降のものであろう。6は刀子である。切先と茎尻が欠損している。7は板状の不明鉄製品である。8は環状に湾曲した不明鉄製品である。

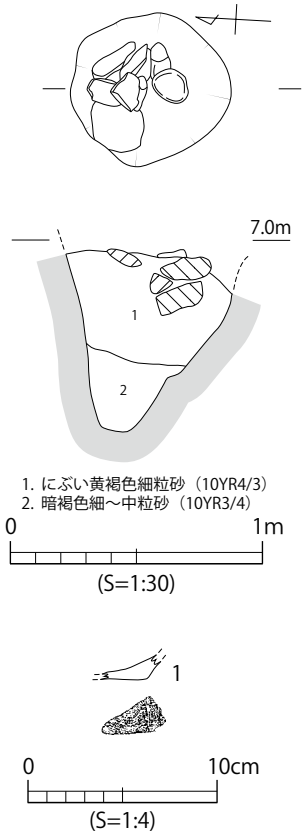
遺構 2054 集石、遺構 2055 〜 2059・2061 ピット（第 53 図）

遺構2045畑の下位で検出した集石とピット群である。遺構2054は大量の自然石の集石であるが、被熱痕のある石はみられなかった。おそらく耕作に不要な石を集めたものと考えられる。ピット群は規則的に並ぶようにもみえるが、建物は復元できていない。集石との関係性は不明である。

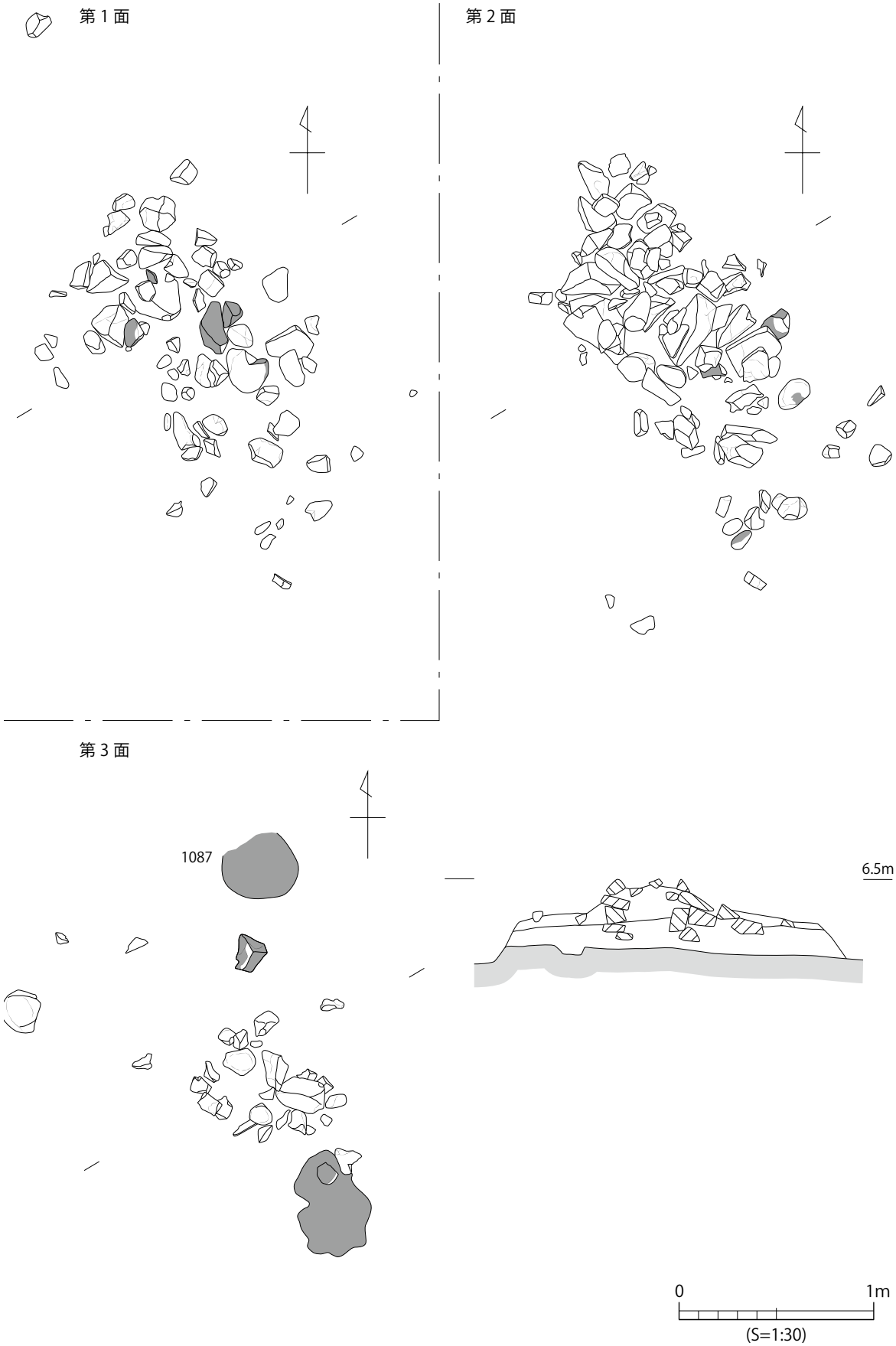
遺物は石鉢の破片が出土したのみである（第53図）。1は石鉢である。片口の口縁部が確認できる。内外面に工具痕が顕著に残る。内面は使用により非常に平滑である。



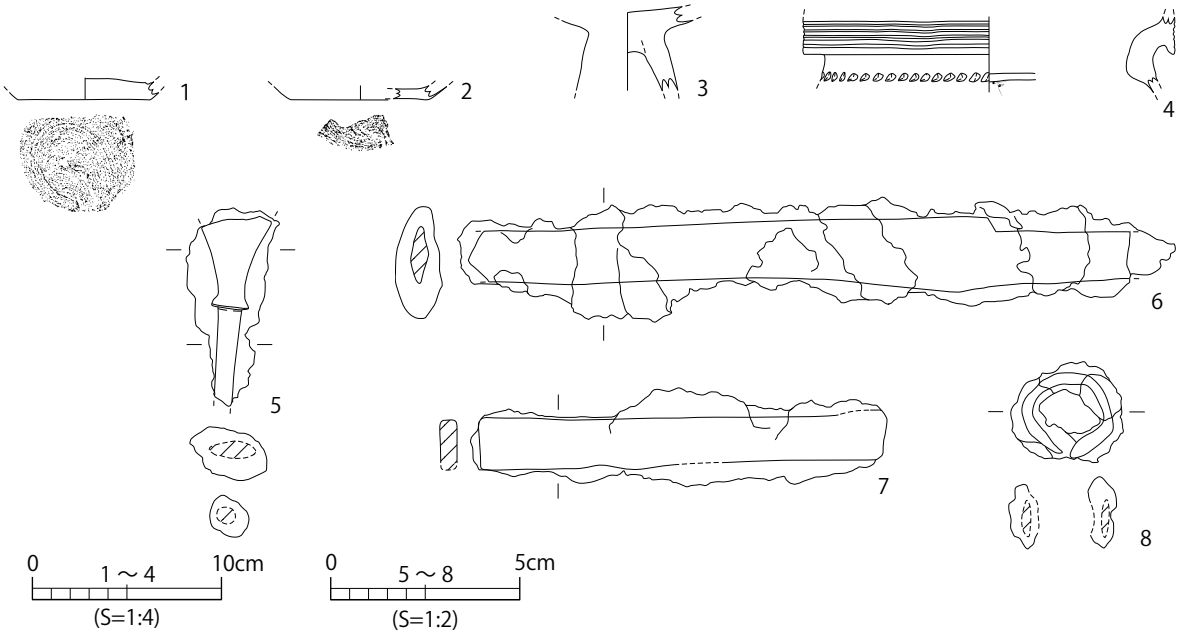
第 49 図　遺構 2051 土坑および出土遺物



第 50 図　遺構 2079 ピットおよび出土遺物



第 51 図　遺構 1014 集石、遺構 1087 焼土面



第 52 図　遺構 1014 集石出土遺物

遺構 3037 自然流路（第 43 図・第 54 図）

遺構番号を付与したが埋土の堆積状況から自然流路と考えられる。現在の江の川と直交する東西方向の流路で、北側の上端以外は調査区外に続いている。埋土は 1 層で非常に粒子の大きい極粗粒砂を基本とし、径10cmを超える川原石が大量に含まれる。おそらく江の川本流由来の氾濫堆積と考えられる。

遺物は陶磁器と鉄製品が出土した（第54図）。１～３は陶磁器である。１は龍泉窯系青磁の坏である。上田分類Ｄ−Ⅱ類にあたる。２は伊万里焼の碗で、時期は17世紀前半である。３は陶器の溝縁皿である。時期は17世紀前半である。４～７は鉄製品である。４は刀子である。柄の基部がやや折れ曲がる。５・６は不明板状鉄製品である。５は全体がやや湾曲している。６は長方形の薄い鉄板の端部がやや折り返され、周縁に部分的な穿孔がみられる。孔には環状の鉄製品が貫通している箇所がある。７は火箸である。大きく湾曲し、先端がやや欠損する。

４．3–1 ～ 3–4 層（西側）の出土遺物

近世には耕作と氾濫による埋没が少なくとも２回起こっており、遺構面も少なくとも２面に区別できることがわかったが、現地では出土遺物の帰属層を正確に判断できなかったものもあるため、ここでは近世両時期の遺構が形成された3–1 ～ 3–4 層（西側）から出土した遺物をまとめて報告する。これらの層は後述の中世の遺構面を覆う包含層でもあるため、近世の遺物とともに中世の遺物も多く出土した。

陶磁器（第 55 図・第 56 図）

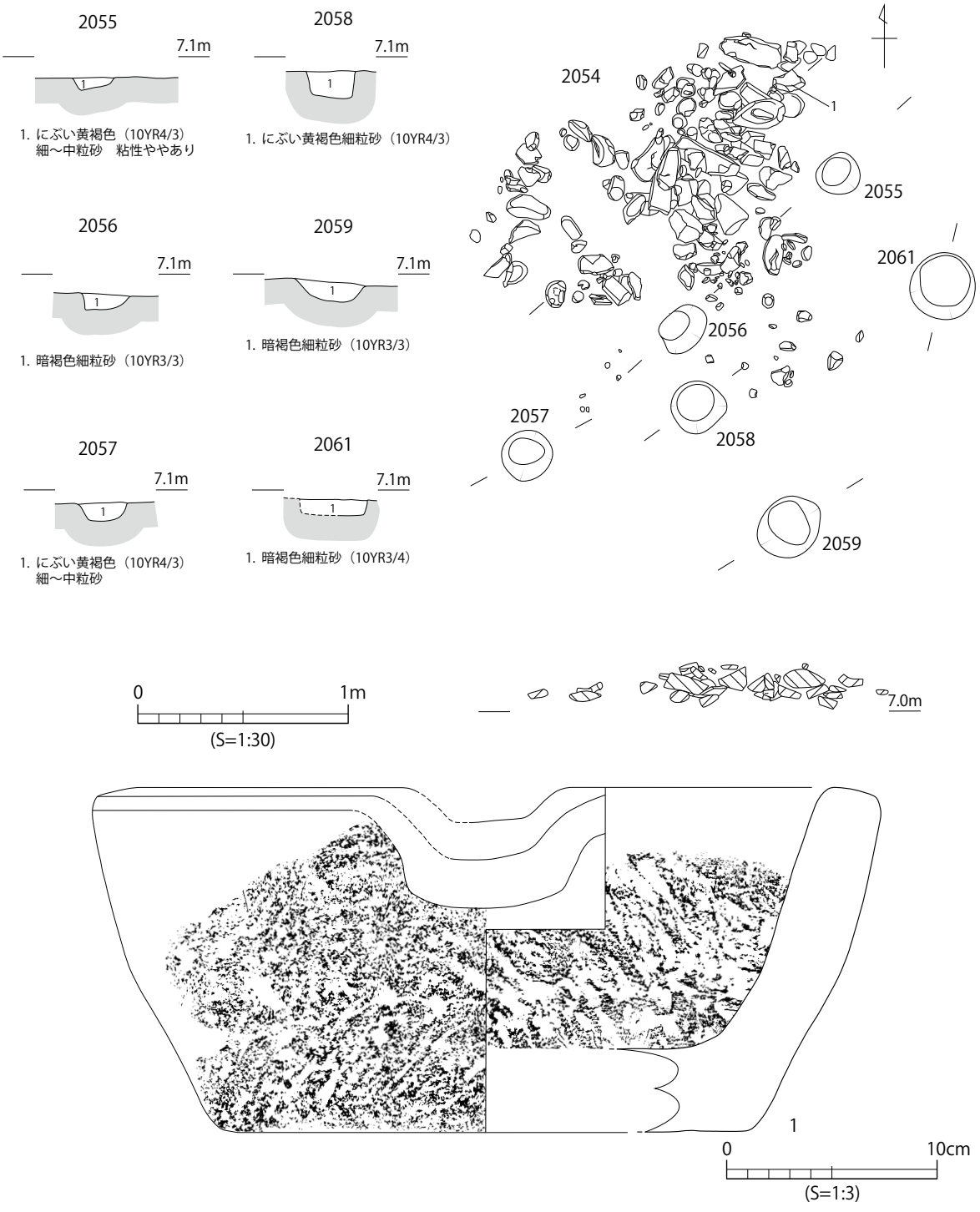
第55図はすべて中世後半の貿易陶磁器である。白磁Ｄ群の皿（１・２）、龍泉窯系青磁の碗Ｂ−Ⅳ類（３）・Ｃ２類（４）・Ｄ類（５・６）、景徳鎮系青花の皿Ｅ群（７）、漳州窯系粗製青花の皿（８・９）、朝鮮製の青灰沙器（10・11）などがある。

第56図は国産の陶器・瓦質土器である。１は肥前系の緑釉蓋で16世紀中頃と考えられる。２は

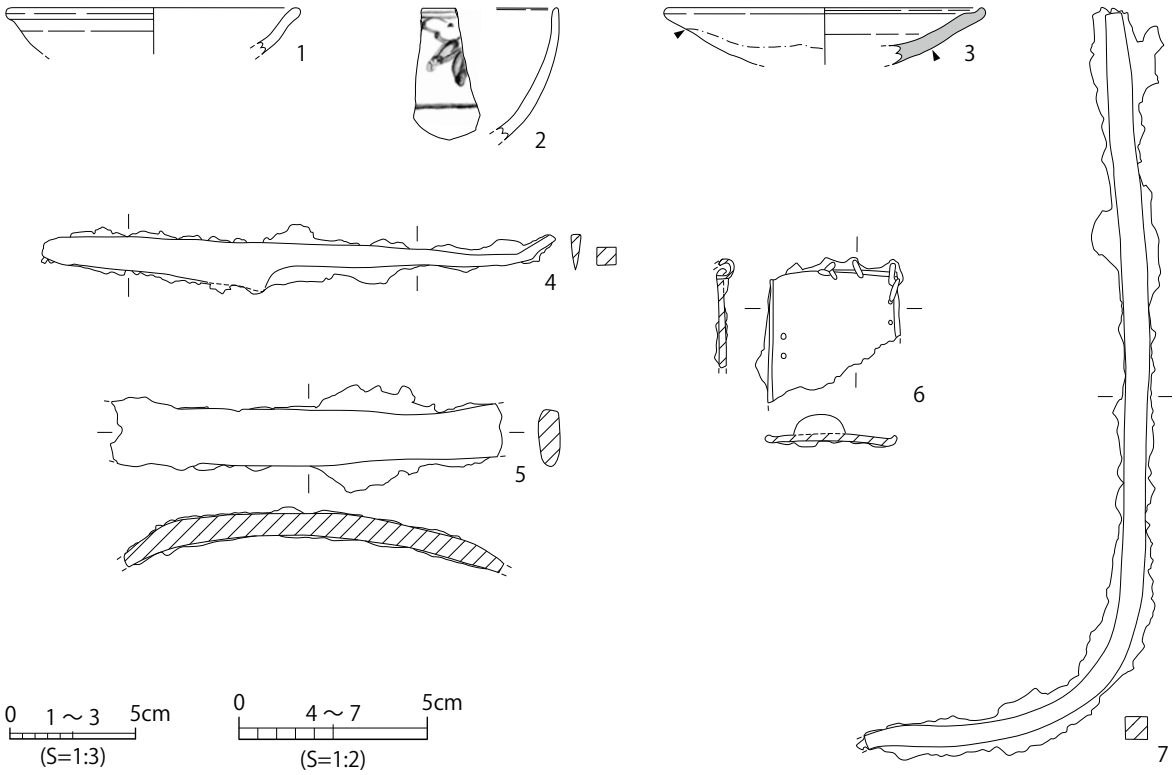
須佐焼の擂鉢で、17世紀後葉から18世紀前半である。3・4は備前焼で、擂鉢Ⅳ類（3）や甕Ⅲ～Ⅳ類（4）がある。14世紀後半から15世紀のものだろう。5は常滑焼の甕である。6は瓦質土器の火鉢である。

土師質土器（第57図1～7）

5を除き、すべて褐色系である。1は坏で、ヘラ切りの底部外面に墨書が描かれている。「笠」と読めるだろうか。2は坏である。全体的に厚いつくりである。形態から13世紀後半から14世紀前半だろうか。3・4は坏で、完形に近く同一地点で出土した。口縁部が立ち上がり途中でやや外側



第53図　遺構2054集石、遺構2055～2059・2061ピットおよび出土遺物



第 54 図　遺構 3037 自然流路出土遺物

に屈曲する点が特徴的である。３は内外面、４は内面に煤が帯状に付着している。５はいわゆる大内式土師器の坏である。６・７は皿で、いずれも16世紀初頭頃であろうか。

土師器（第 57 図８～ 10）

８は甕の口縁部で、複合口縁が形骸化しつつある。９は無稜外反形の高坏である。10は坏で、口縁部が小さく外反する。これらはいずれも大東１～３式と考えられる。

弥生土器（第 57 図 11 ～ 13）

11は甕の口縁部で、頸部下にはハケ状工具を押し付けることで段を形成している。12は甕の口縁部で小型のものである。13は壺の口縁部で、内面にはヘラ描き羽状文と円形浮文がみられる。１は石見Ⅰ－１～２様式、２は石見Ⅳ－２～Ⅴ－１様式、３は石見Ⅳ様式と考えられる。

縄文土器（第 57 図 14・15）

14・15は有文の屈曲形深鉢である。14は口縁部外面に有軸羽状文が施される。15は口縁部が厚く肥厚し、頂部に円形の圧痕がみえる。いずれも布勢式から崎ヶ鼻Ⅰ式と考えられる。

土製品（第 58 図１～ 25）

１～ 23は管状土錘で、いずれも中世以降のものと考えられる。１～５をＡ類、６～８をＢ１類、９～ 12をＢ２類、13 ～ 18をＣ類、19をＤ１類、20をＤ２類、21 ～ 23をＥ類に分類した。24は羽口である。推定で外径が12.0cm、内孔径が3.0cmとなる。25は焼粘土塊である。外面は平滑に近い面（左）と凹凸が多い面（右）があり、厚さは3.8 ～ 4.7cmである。平滑な面のみ５mmほどの厚さでにぶい黄橙色を呈し、ほかは褐色を呈する。胎土が非常に精良で、砂粒などをほとんど含まない。土器焼成に関わるものであろうか。

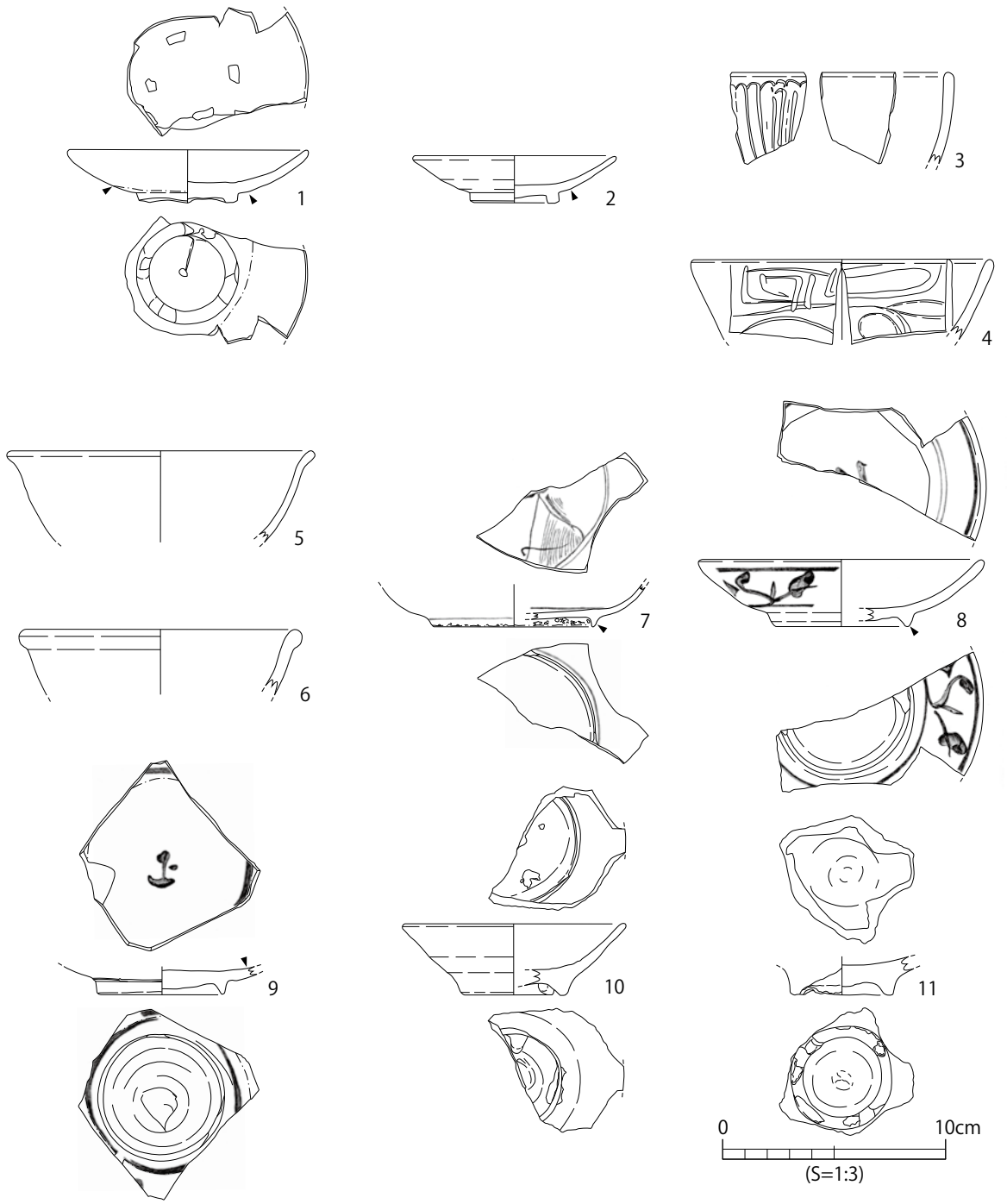
石製品（第 58 図 26 ～ 28）

26は安山岩製スクレイパーである。欠損部が大きいが、細かい剥離が施された刃部が遺存する。

27は凝灰岩製かと思われる砥石である。両小口端部を欠損しているが、それ以外の面はすべて使用により平滑である。28は砂岩製の砥石である。片方の端部を欠損している。小口側を除き側面はすべて使用されている。

鉄製品・青銅製品（第 59 図～第 62 図）

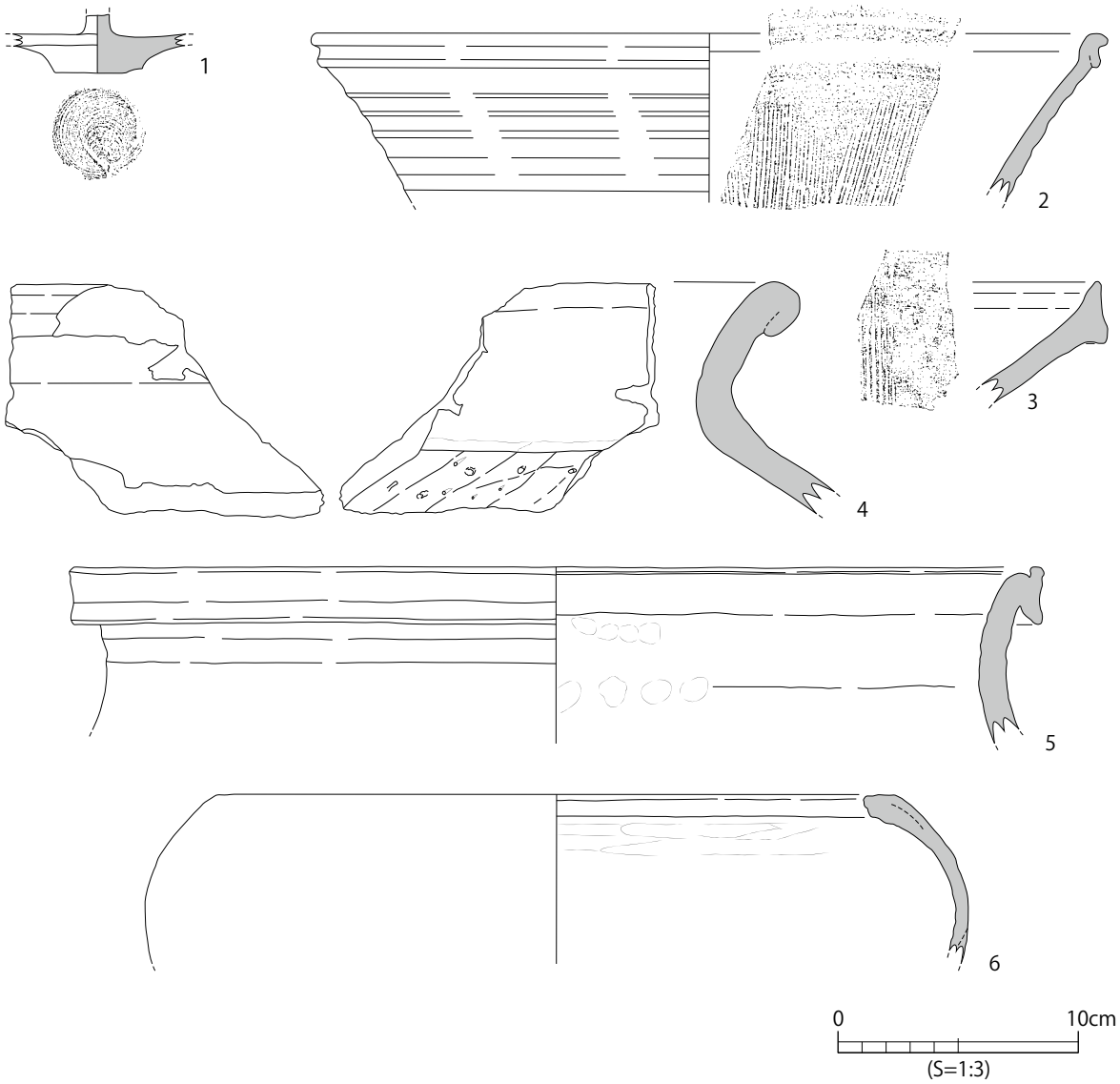
第59図１～９は伊予札である。１・２がＡ類、３～５がＢ類、６がＣ類、７がＤ類、８がその他、９が類型不明品である。１の表面には革製の綴紐が固着している。８は幅3.6cmで３列７段21個の孔が開けられており、孔の大きさは均等である。断面はわずかに湾曲している。10 ～ 14は鉄鏃である。10は丸根Ｉ式、11は鑿根Ｉ式である。12は茎部の破片で型式不明である。13・14は



第 55 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（１）

丸根Ⅱ式と考えられる。10は14 ～ 16世紀、11は11世紀以降、13・14は15 ～ 16世紀と考えられる。15は円形釘隠しと考えられる。中央の孔が確認できないが形状から判断した。16は四葉釘隠しである。17 ～ 20は鉄刀ないし小刀と考えられる。目釘孔が確認できるものが多い。21は刀子と考えたが、断面の厚さが均等であるため刃物ではないかもしれない。22は鋸である。

第60図1 ～ 5は釣針もしくはその可能性があるものである。1は基部に孔が確認できる。2は断定できないものの釣針であれば大型のものとなる。6はヤリガンナの刃部と思われる。7は石突であろうか。先端が球状に成形され、内部は中空になっている。8は完形の火箸である。9 ～ 15は器種・用途不明の板状鉄製品としてまとめた。9は完形と思われ、二等辺三角形状の板に方形の孔が開けられている。10は舌状の板の片側側縁に孔が開けられているのがX線写真でわずかに確認できた。11は長さ約10cm、幅1.8cmの板をほぼ中央で折り返し、片方の端部を外側に反らせたものである。間に約3 mmの隙間があり、木製の板などを挟んでフックのように使用したのかもしれない。12も鉄板が折り返されているが、長い方の端部が先細り、断面をみると片方の側縁が薄く成形されていることから刃物が折り返されたものの可能性がある。13は完形と思われ、長方形の板に円

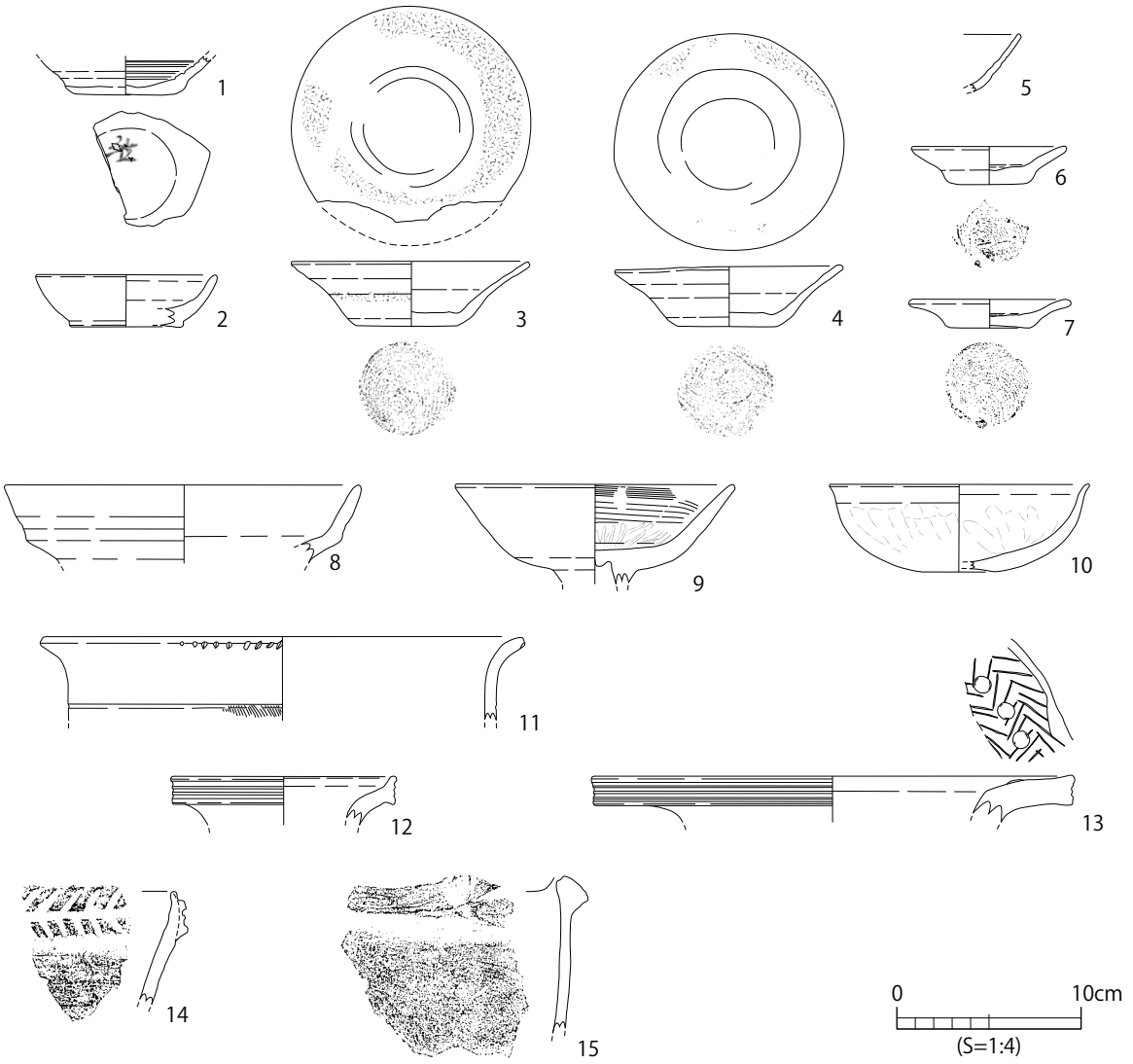


第56図　3-1 ～ 3-4層（西側）出土遺物（2）

形の孔が開けられている。孔が開けられた側の幅が若干広い。14はスプーン状に湾曲している。厚さは推定だが7 mmと厚い。15は全体形状も不明であるが、本遺跡出土の鉄製品内容からみて建物の飾り板金具の可能性もある。16・17は環状鉄製品である。16は1.8 ～ 2.1cmの板を環状に成形したもので、一部が欠損している。一方、17は断面がほぼ正方形を呈する棒状の鉄を環状に成形している。18は2枚の不明鉄製品がおそらく有機的な関係をもって重なったもので、平面形は上が台形、下が蒲鉾状を呈する。19 ～ 22は板棒状の鉄製品である。20・21は短軸の断面形状から刃物の可能性もある。

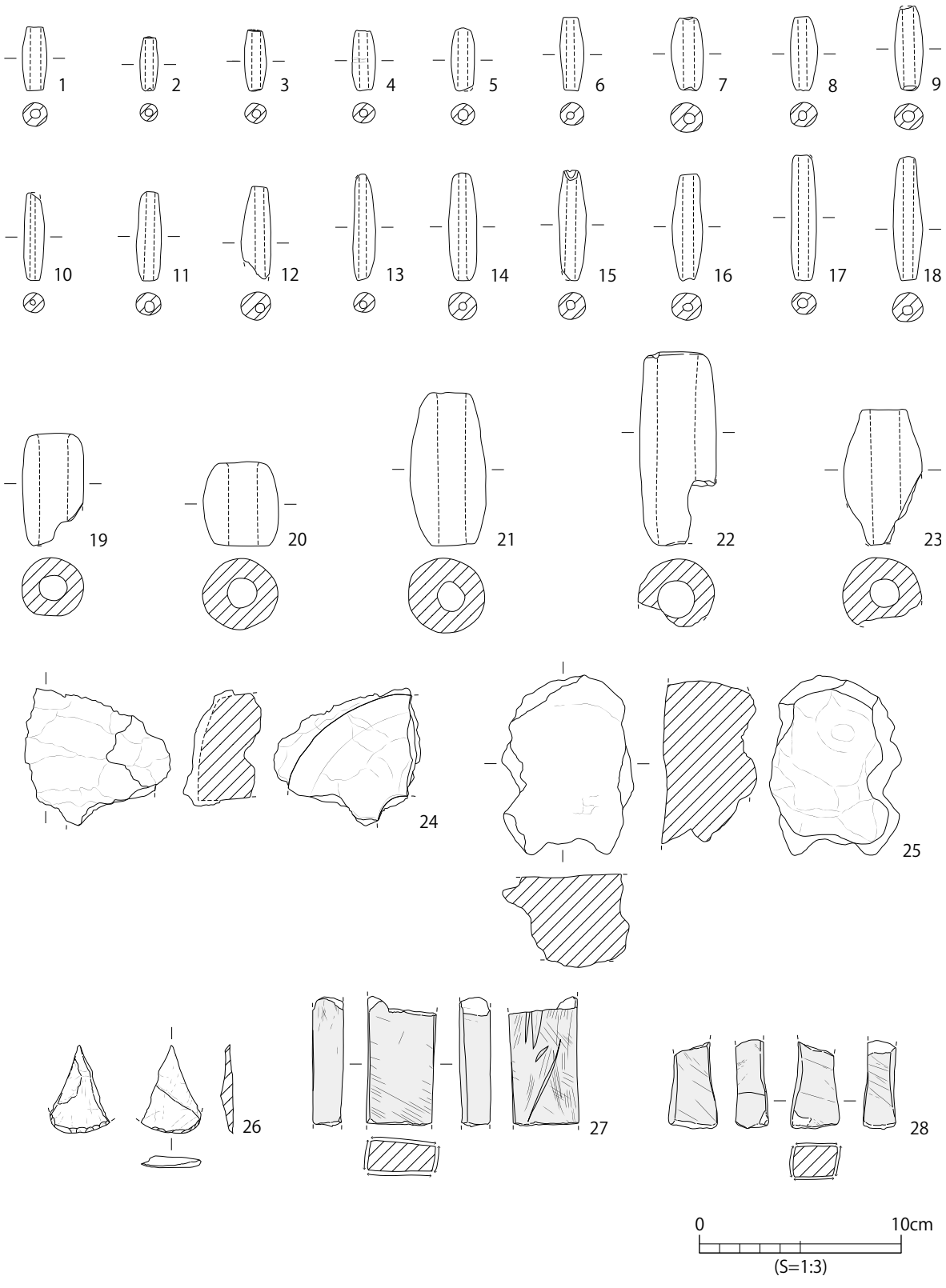
第61図1 ～ 18は釘である。 6が角釘で、残りは折釘もしくは叩折釘である。注目すべきは18で、約20本の釘が錆着した状態で出土した。島根県産業技術センターでX線ＣＴ画像を撮影し図化をおこなった。詳細は第4章で述べるが、保管状態を示すものと考えられる。

第62図1 ～ 18は棒状鉄製品である。完形のもので長さは6.3 ～ 10.0cmの幅があり、断面は多くが方形の中17は円形である。ほかに3・18など隅丸方形のような断面のものも存在する。19 ～ 27は古銭である。19は宋銭の祥符通寶で、初鋳は1009年である。20は北宋銭の天聖元寶で、初鋳は1023年である。21は北宋銭の嘉祐元寶で、初鋳は1056年である。22は北宋銭の熙寧元寶で、

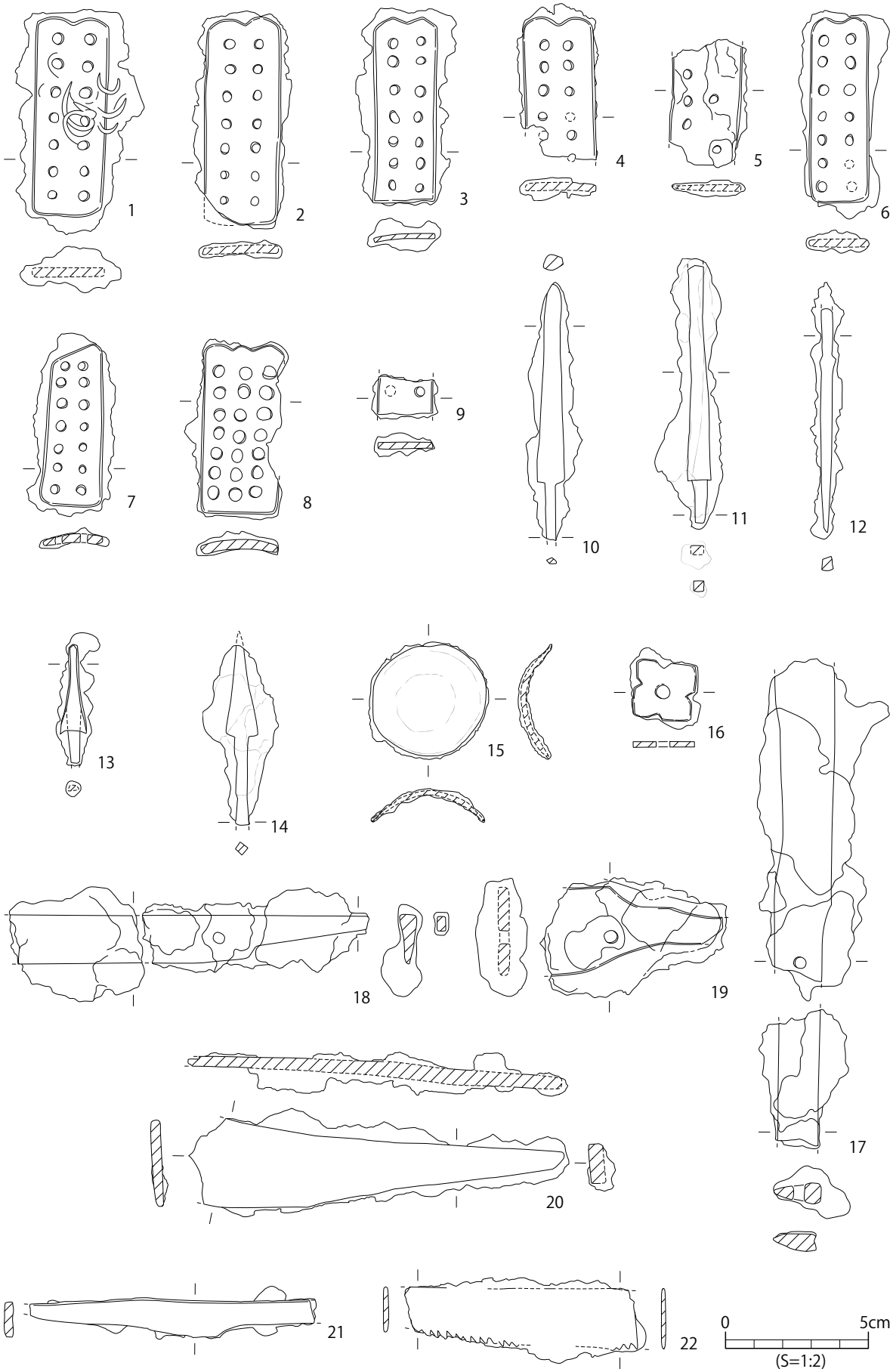


第57図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（３）

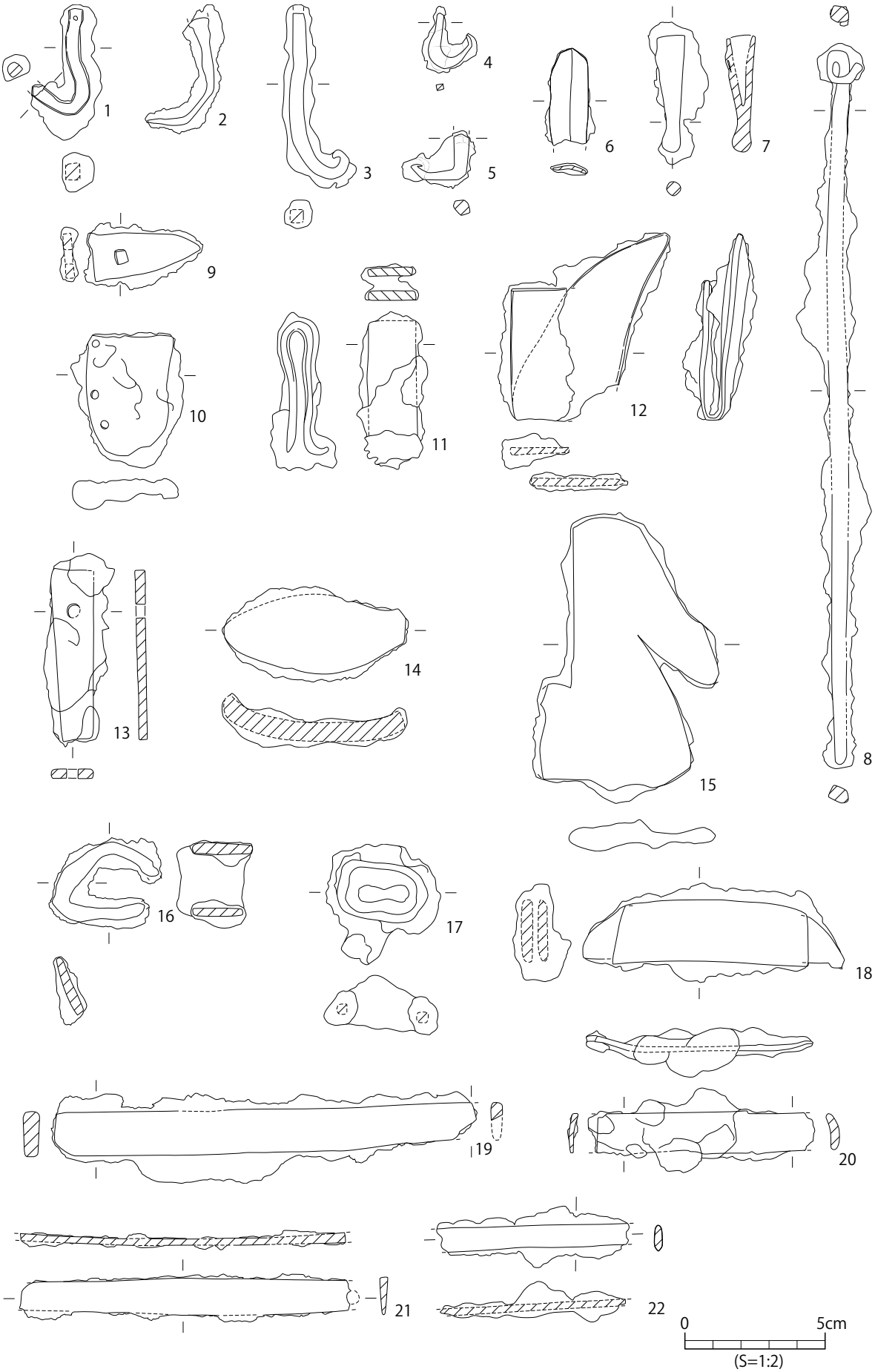
初鋳は1068年である。23は北宋銭の元豊通寶で、初鋳は1078年である。24は南宋銭の紹熙元寶で背面に三の文字がある。初鋳は1190年である。25は明銭の永楽通寶で、初鋳は1408年である。26・27は寛永通寶で、ともに古寛永である。鋳造年代は1636 ～ 1659年である。



第 58 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（４）



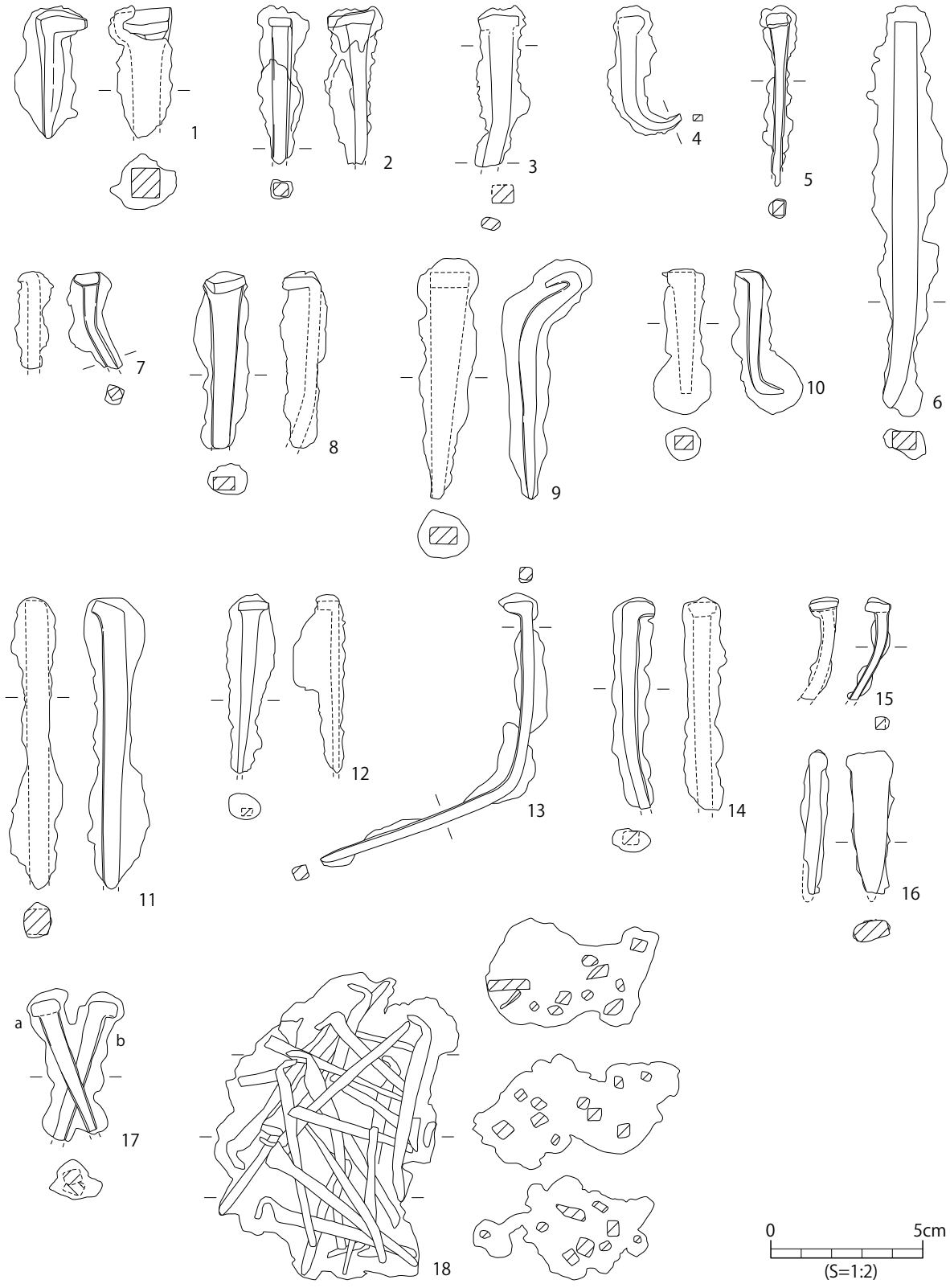
第 59 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（５）



第 60 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（６）

5．3–4 層（東側）の出土遺物

3–4 層は現地において調査区の全面に広がっているものと認識していたが、第27図からも明らかなように、西側と東側で遺物の出土量・組成ともに大きく異なっている。層位的に堆積時期は近世以降と考えられるが、少なくとも西側とは性格が異なるものとして分けて報告する。なお、東側



第 61 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（７）

隣接地で江津市教育委員会が実施した森原上ノ原遺跡の調査において（江津市教委2018a）、弥生時代から古墳時代の遺物を多く出土した包含層はこの3–4層（東側）に対応するものと考えられる。

陶磁器（第 63 図１・２）

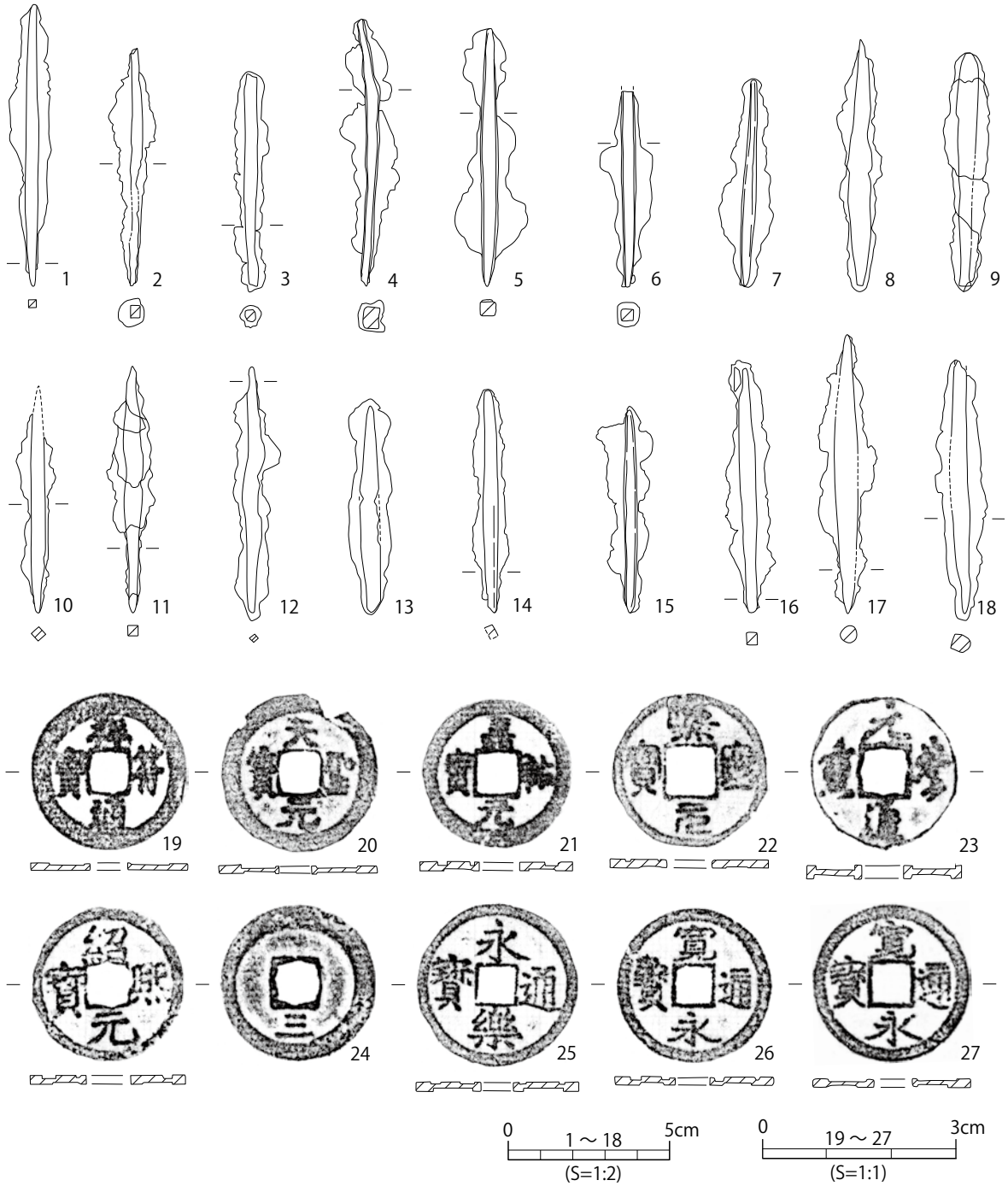
陶磁器自体の出土数が少なく、図示は一部にとどめた。１は景徳鎮系青花の皿Ｂ－１群である。２は萩焼の藁灰釉皿で、17 世紀代と考えられる。

土師質土器（第 63 図３）

３は褐色系皿である。形態から 16 世紀初頭頃であろうか。

須恵器（第 63 図４～ 16、第 64 図～第 67 図）

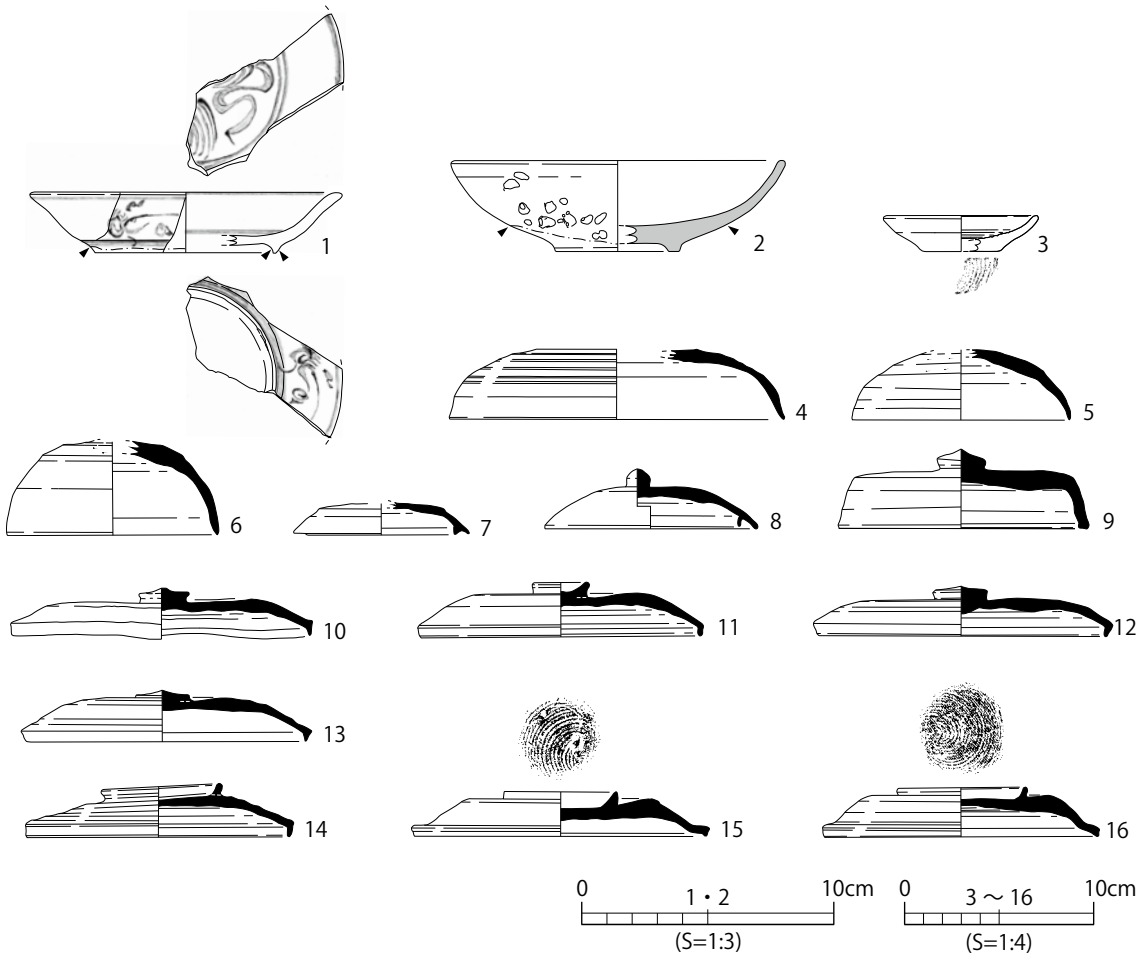
第63図４～ 16は蓋である。４～６はつまみをもたない坏蓋である。４は口縁で径を復元すると



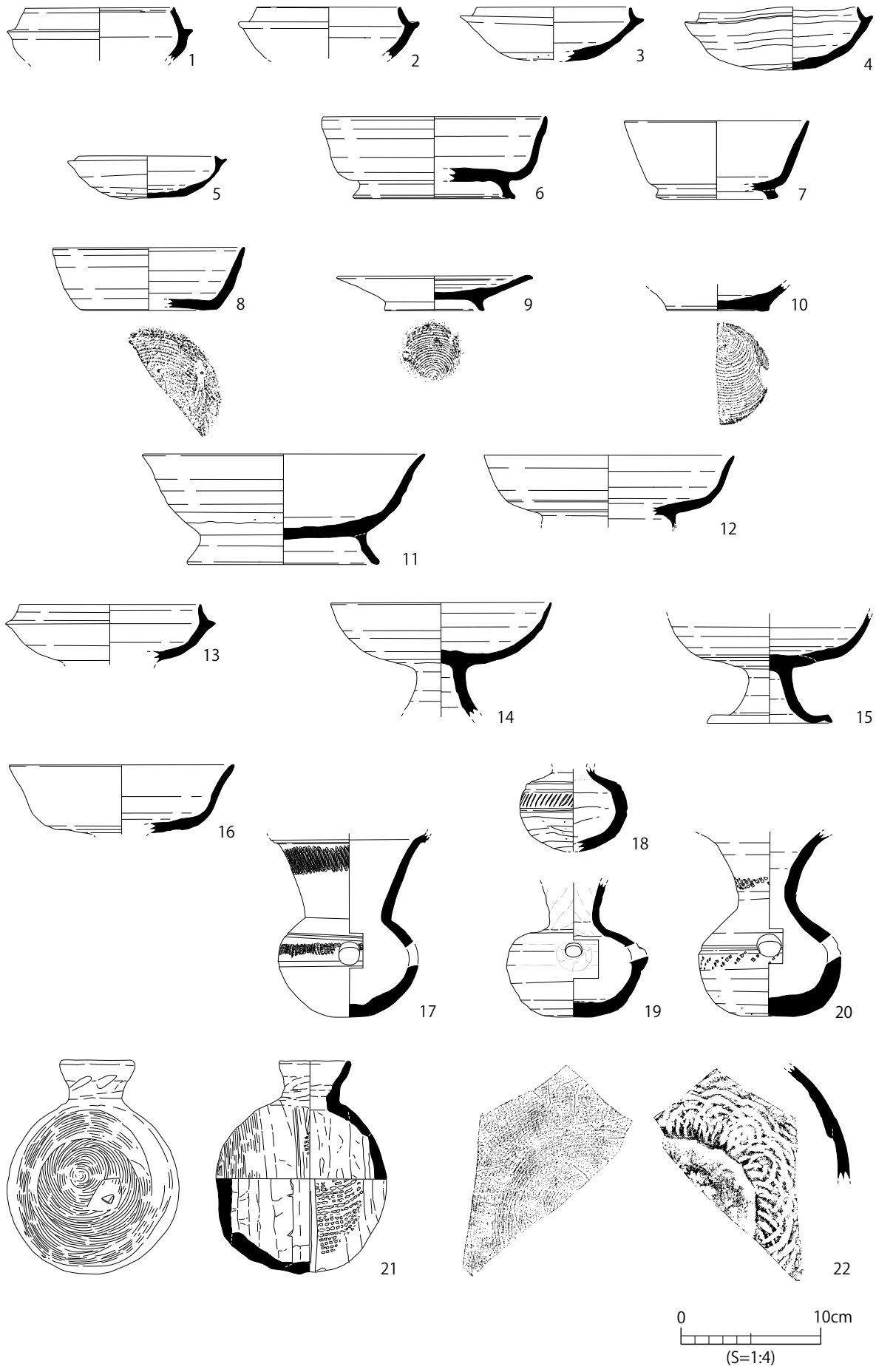
第 62 図　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土遺物（８）

20cm以上になるため歪みがあるものと判断した。図面は天井部のケズリから復元したが、例外的な大型品の可能性もある。５・６はドーム状に丸みを帯びるが高さに違いがある。７～16は天井部につまみをもつものである。８は乳頭状のつまみをもつもので、７も同様のものか。ともにカエリが残る。９～13は宝珠状もしくはボタン状のつまみをもつものである。９は短頸壺とセットになるものであろう。14～16は輪状つまみをもつものである。14はドーム状の体部をもつ。15・16は天井部に回転糸切り痕を残すもので、口縁部の立ち上がり部分に段をもつ。４は石見４期、５・６は石見５～６Ｂ期、７・８は石見６Ｂ・Ｃ期、10～13は石見７・８期、14は石見９Ａ期、15・16は石見９Ｂ期と考えられる。

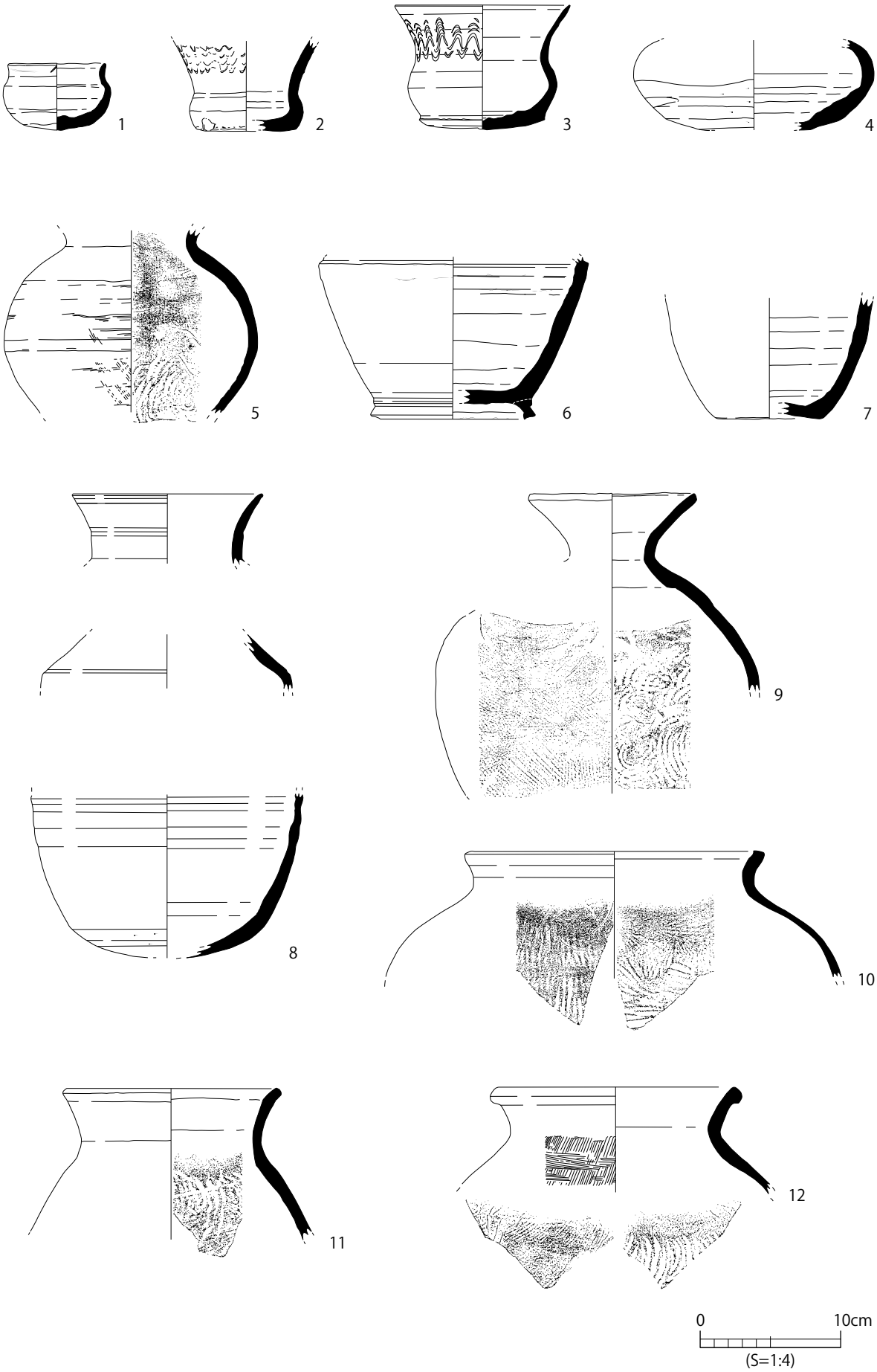
第64図１～12は坏・皿・碗である。１～５は受部をもつ坏身である。１は口縁端部に段を残す。２～４は口縁端部の段が消失し受部がやや立ち上がる。５は受部の立ち上がりがほとんどないものである。６・７は高台付きの坏である。６は坏部が強く屈曲し、高台の付く位置が内側に入る。７は坏部が深く高台の付く位置がやや外側にくる。８は坏で、高台をもたず底部に回転糸切り痕を残す。９は高台付きの皿である。底部には糸切り痕を残す。10は底部に糸切り痕を残す坏、11・12は高台付きの碗である。１は石見１期、２～４は石見３～４期、５は石見６Ｂ期、６は石見６Ｃ～７期、７・８は石見９Ｂ期、９は石見10期、10～12はいずれも中世以降と考えられる。13～16は高坏である。13は有蓋高坏である。14～16は無蓋高坏である。14はおそらく低脚のもので、坏部が湾曲する。15は低脚で、坏部が湾曲する。脚部の屈曲が大きい。16は坏部が屈曲するもので



第 63 図　3-4 層（東側）出土遺物（１）



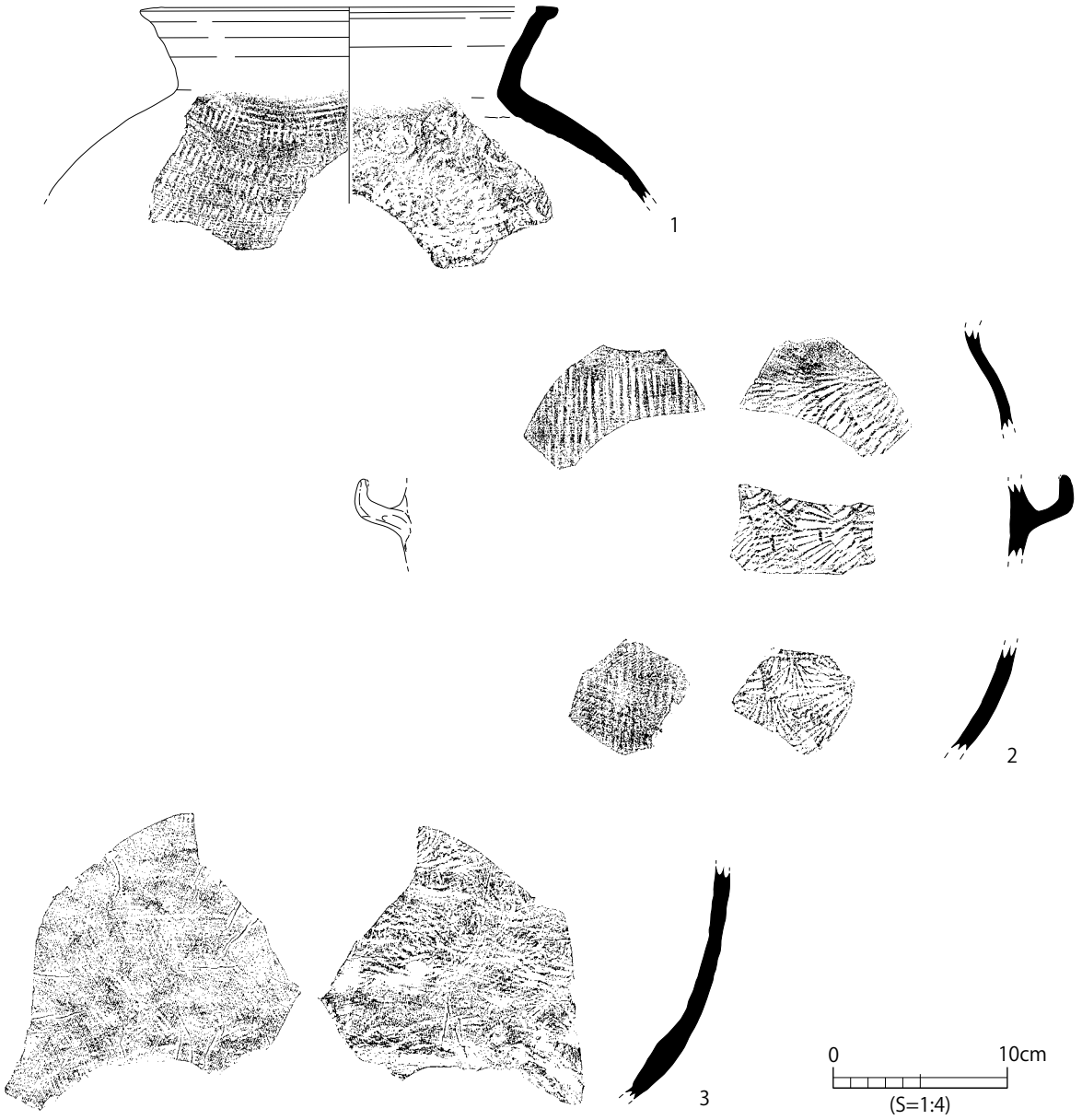
第 64 図　3-4 層（東側）出土遺物（２）



第 65 図　3-4 層（東側）出土遺物（３）

ある。13は石見４期、14は石見５・６Ａ期、15は石見６Ｂ期と考えられる。17 ～ 20は壺である。17は口縁部を欠くがほぼ完形で、非常に焼成が良く胎土も緻密である。18は小型のもので、破片のため穿孔は確認できない。17は石見１～２期、18は石見３期、19・20はともに石見４期もしくはそれ以降と考えられる。21・22は提瓶である。完形の21は口縁部が直線的に開き、肩部に把手の痕跡はない。石見５・６Ａ期と考えられる。また、図示していないが、平瓶もわずかに出土している（図版52）。

第65図１～９は壺・鉢である。１は小壺である。口縁部外面にヘラによる線刻がある。２・３は鉢と呼ぶべきか。幅の広い胴部に大きく開く口縁部をもつ。口縁部外面には粗雑な波状文が施される。用途は不明であるが、類例が広島県域も含めた江の川流域に特徴的に分布している。４は長頸壺の胴部である。５はやや広口になると思われる壺である。６は長頸壺である。底部には高台が付き、肩が強く屈曲する。石見８期以降と考えられる。７も長い頸部が付くと思われる壺である。８はやや長胴の直口壺である。接合しないが胎土などから同一個体と判断した。９は直口壺だが、歪



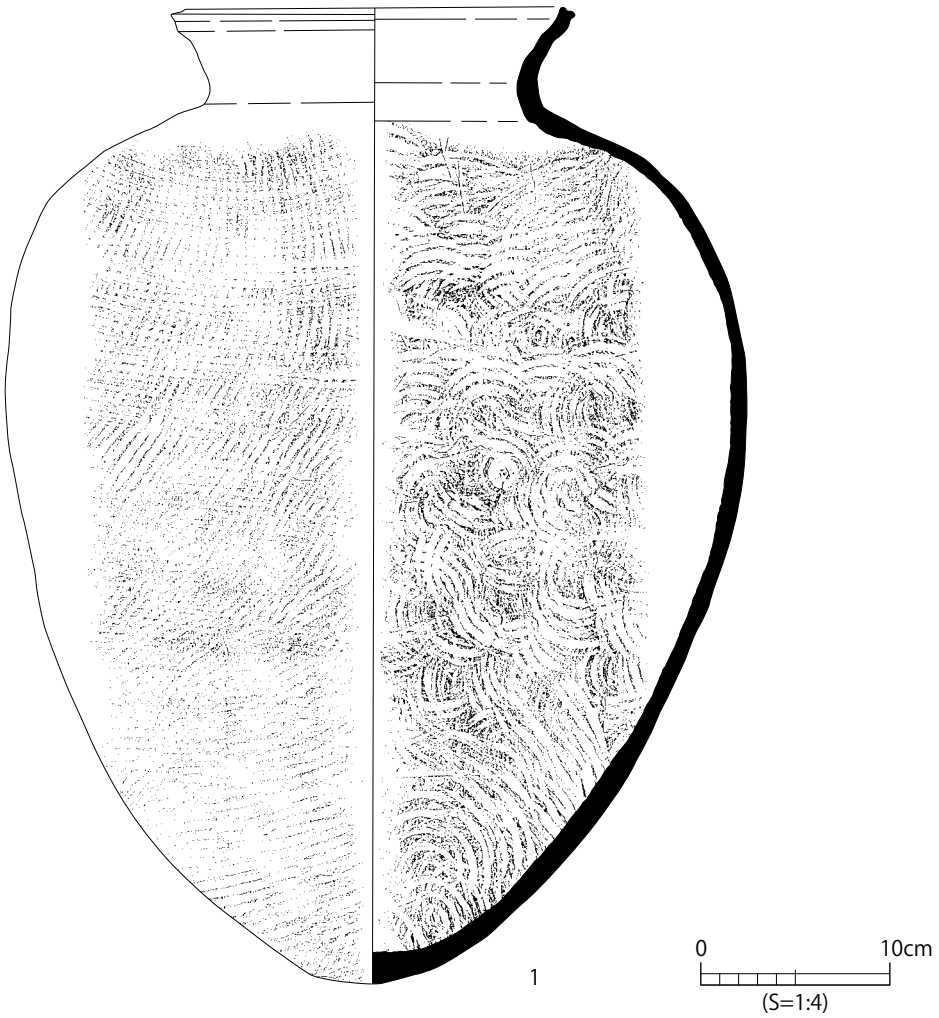
第 66 図　3-4 層（東側）出土遺物（４）

みが激しく胴部形態は不明である。10 ～ 12は甕である。いずれも文様はみられない。第66図１～３も甕である。２は把手が付くもので、特徴的な当て具痕をもつ。各破片は接合しないが図面上で復元した。３は甕の底部である。第67図１は甕である。重機掘削中に出土し、ほぼ完形のまま埋没していた。

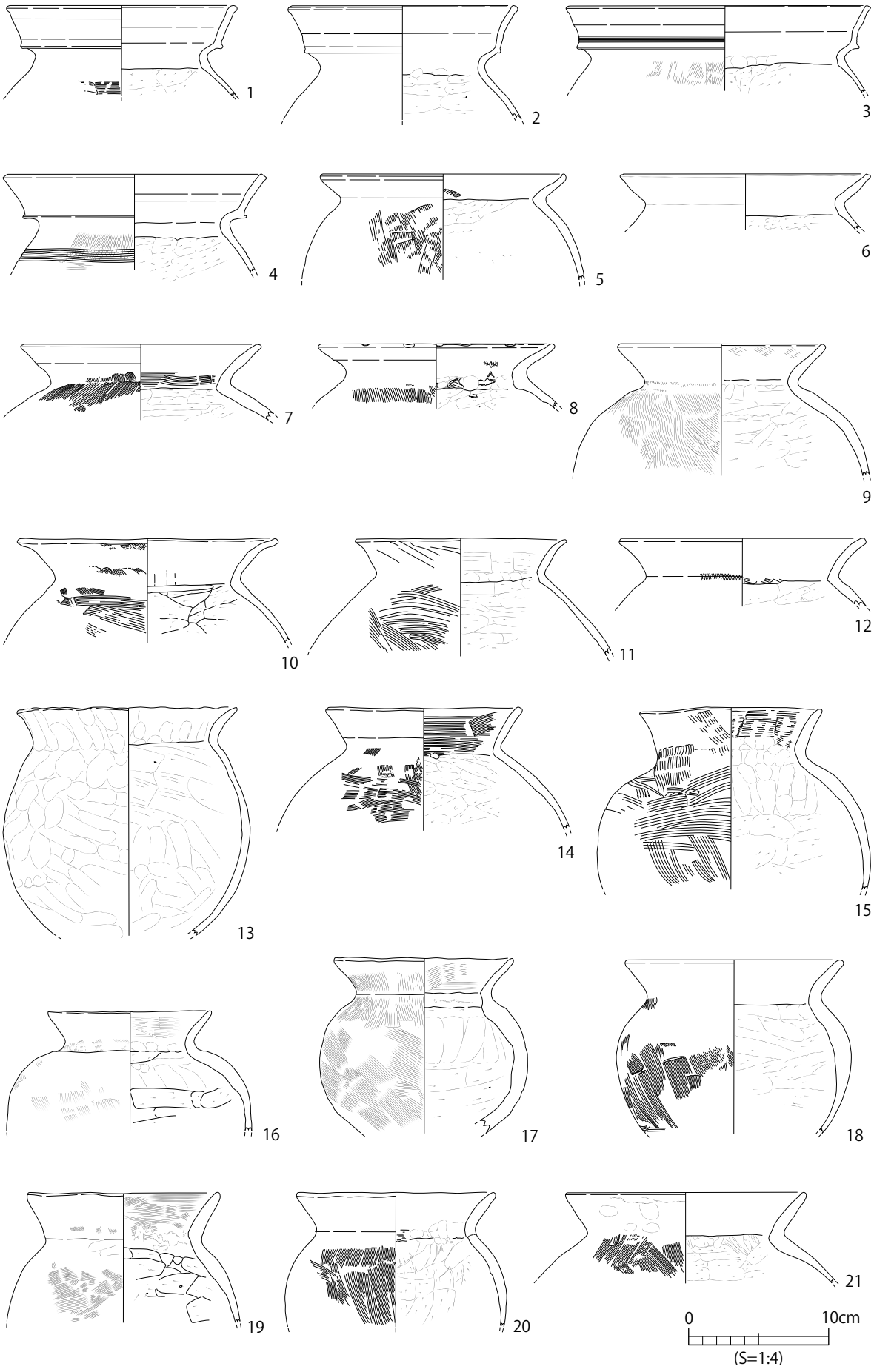
土師器（第 68 図～第 72 図）

第68図１～ 21、第69図１～６は甕である。第68図１～４は複合口縁の甕である。端部をややつまみだすもの（１）、丸く肥厚するもの（２）、面をもつもの（３・４）がある。これらはいずれも大木式から小谷２式と考えられる。その他の甕はすべて単純口縁のものである。５・６はいわゆる布留系のものである。７～ 21、第69図１・２は口縁が外反するものである。細かく見れば器壁の厚さや口縁部の形状にバリエーションがある。その中で13はハケの条痕がみられず、板や指によって器壁を調整している。５・６は小谷式、７～ 21、第69図１・２は小谷４式から大東１～３式と考えられる。第69図３は小型で類例が少なく時期も不明である。４～６は全体的に器壁に厚みがあり、頸部の屈曲が弱く胴部があまり張らないものである。大東４・５式と考えられる。

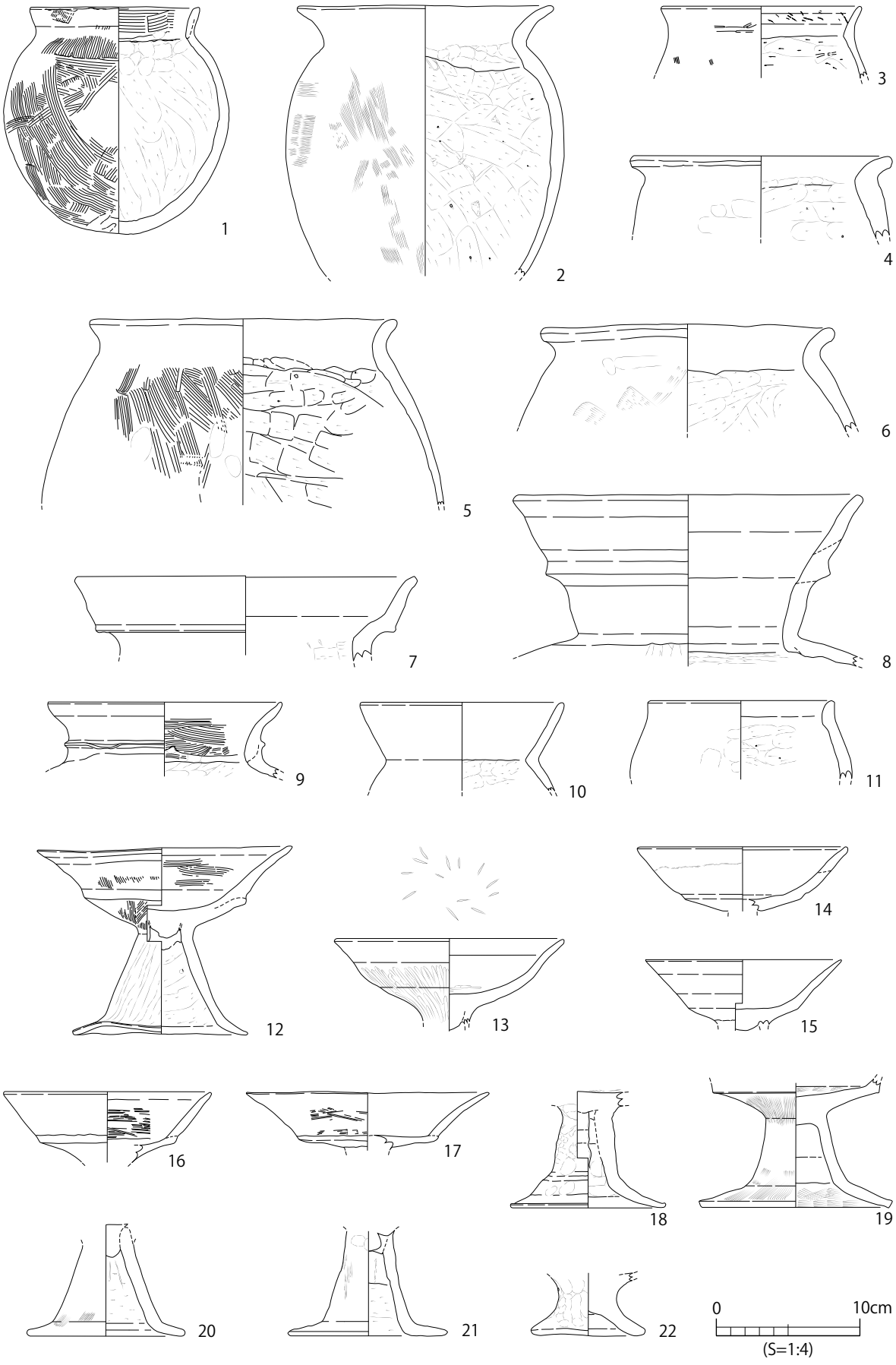
７～ 11は壺である。７・８は複合口縁のものだが、８は形骸化がかなり進んでいる。９は広口の頸部に突帯が巡るもので、在地のものではないかもしれない。10は口縁がやや内湾しながら大きく開くものである。11は無頸壺で、益田市の浜寄・地方遺跡１Ｄ区土器溜などに類例がある（島根



第 67 図　3-4 層（東側）出土遺物（５）



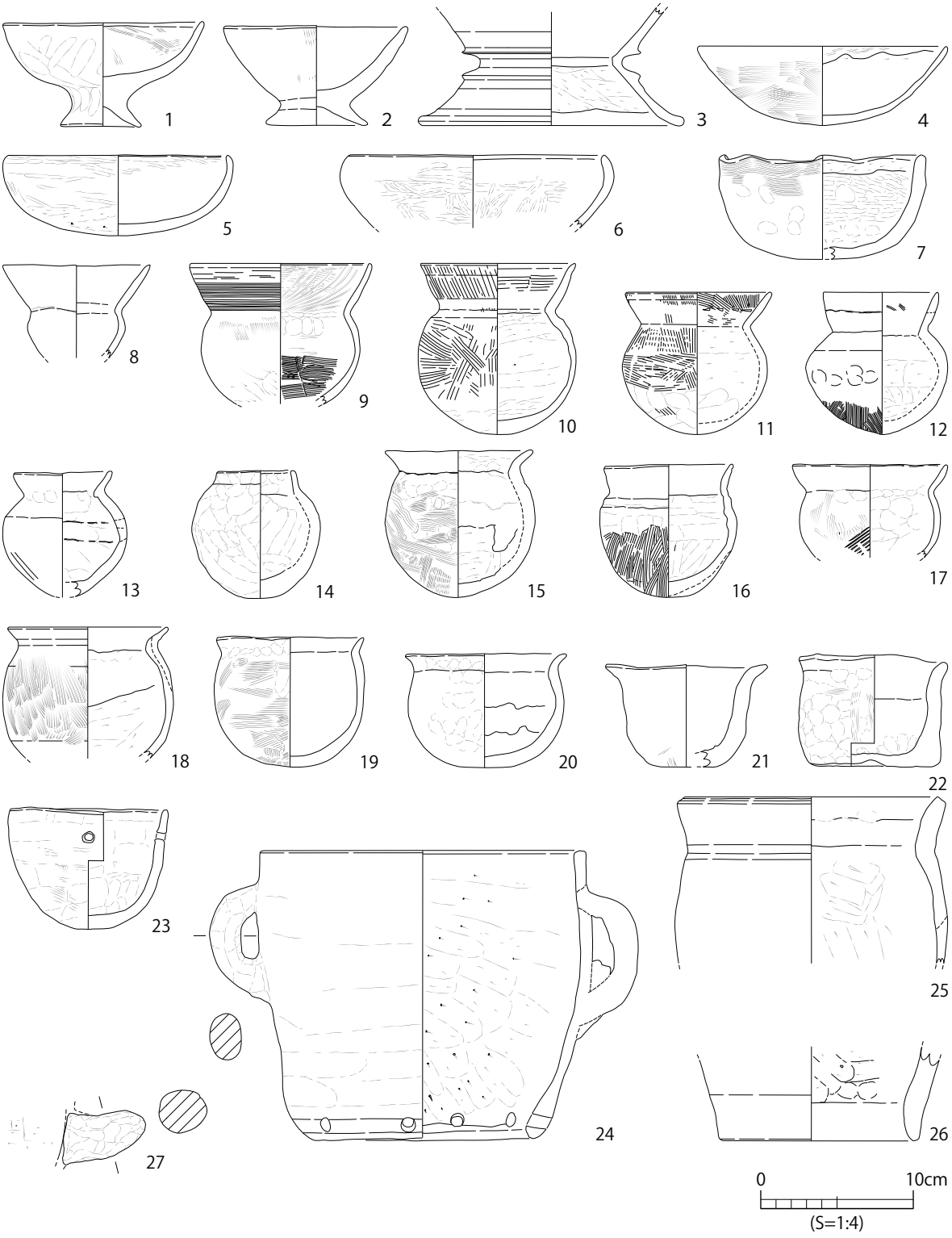
第 68 図　3-4 層（東側）出土遺物（６）



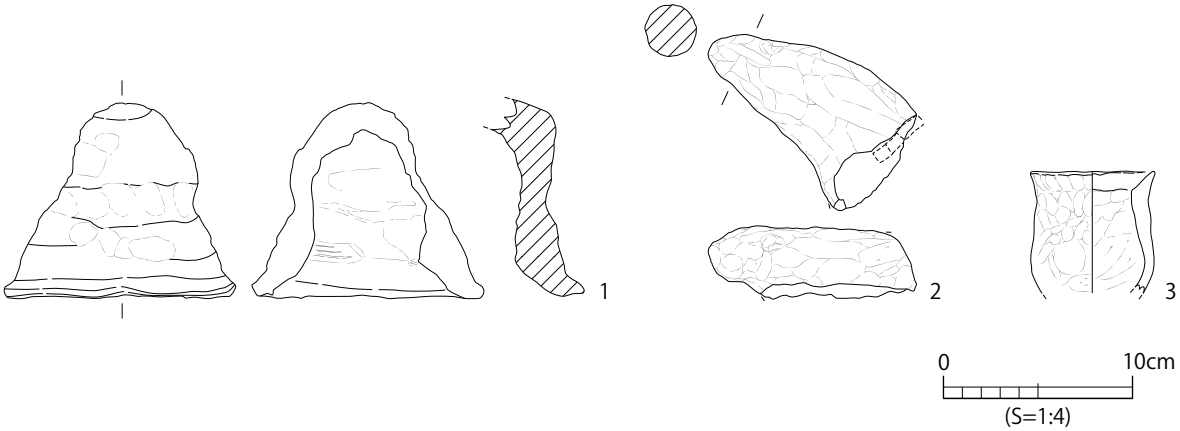
第 69 図　3-4 層（東側）出土遺物（７）

県教委2006）。7・10は小谷式、8は大東1～3式と考えられる。

12～22は高坏である。12は全形がわかり、坏部は有段外反形、脚部は円盤充填による接合部を起点として広がり、裾部の屈曲は少ない。13～17は坏部である。13は無稜外反形で、外面を丁寧なミガキで仕上げる。内面には暗文状の刺突痕がみられる。14・15は有稜外反形、16・17は有段外反形である。18～22は脚部である。18～21はいずれも円盤充填により接合するものと思われ、裾部で強く屈曲する。22はいわゆる低脚高坏である。13は小谷式、12・14～21は大東1～3式



第70図　3-4層（東側）出土遺物（8）



第 71 図　3-4 層（東側）出土遺物（９）

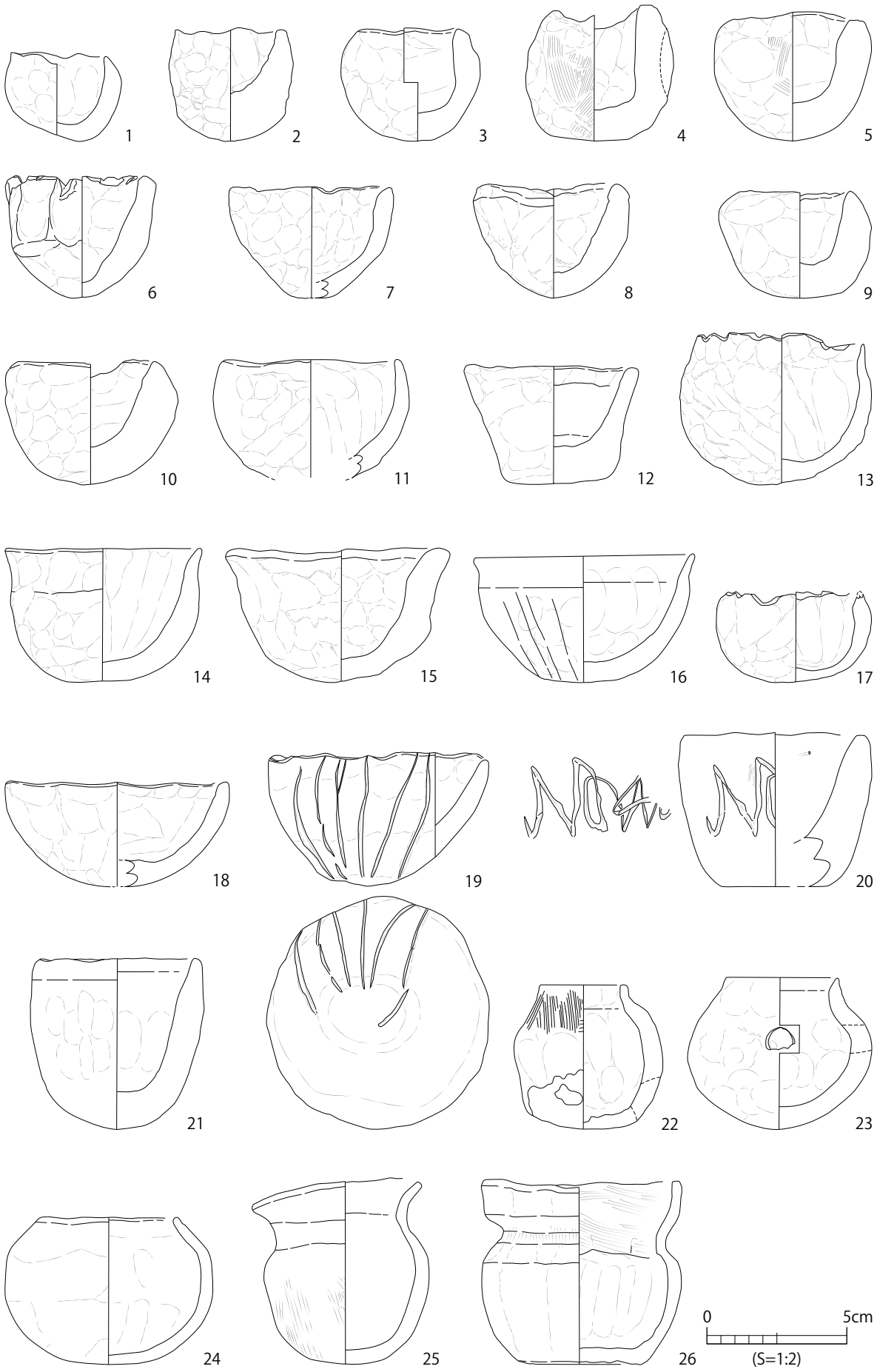
だが一部小谷式に遡る可能性がある。22は大東４・５式と考えられる。

第70図１・２は低脚坏としたが、いずれも典型的なものではなく、かなり形骸化が進んでいる。小谷４式から大東１式であろうか。３は鼓形器台である。底径が広く筒部の内径も大きい。草田６期と考えられる。４～７は坏とした。４は器壁が薄く、口縁が外側に開くものである。５・６は器壁がやや厚く、口縁が内湾するものである。７は波状口縁で類例不明である。４が大東１・２式、５・６が大東３式と考えられる。８～ 18は、小型壺として一括した。８は布留系の小型丸底壺が形骸化したものであろうか。９～ 18は胴部から短く立ち上がる口縁が付くものである。９は口縁部内面に暗文状にミガキを施している。８・９は小谷式、10 ～ 18は小谷３・４式から大東１～３式と考えられる。19 ～ 23は小型鉢とした。頸部径と胴部最大径がほとんど変わらないものと、頸部をもたないものがある。23は口縁部下の対になる位置に２ヵ所の穿孔がみられる。時期はいずれも小谷３・４式から大東１～３式と考えられる。24 ～ 27は甑である。24は包含層中でつぶれるように出土した。環状の把手をもち、底部には８ヵ所の穿孔がみられる。環状の把手は飯南町の森遺跡群などに類例があり（島根県教委1994b）、奈良時代のものと考えられる。25 ～ 27は大東４・５式以降のものであろう。第71図１・２は土製支脚である。１は中空で頂部が丸みを帯びる。岩橋分類のⅢＣ類（岩橋2003）、もしくは大橋分類のＢ１類（大橋1979）の可能性がある。後者であれば、古墳時代前期の九州系遺物である。２は岩橋分類のＩＣ類と考えられる。３は小型の鉢であるが、漆容器の可能性を考えほかのものとは区別した。付着物はとくに認められない。

第72図１～ 26はミニチュア土器である。底部が明確な平底を呈するもの（12）や頸部を創出するもの（22・23、25・26）もあり、26は複合口縁を意識したものと考えられる。19・20は胴部に線刻がみられる。19はヘラ状工具により粗雑な直線が片側にのみ施される。20は線刻が横方向に連なるもので、残存する限りでは一筆書きである。

弥生土器（第 73 図～第 74 図 15）

第73図１～７は石見Ⅰ様式のものである。１～３は甕である。１は胴部に沈線１条を施す。２は不明瞭な段をもち、ハケが段の上下で連続する部分があることから調整しながらハケの押圧により段を成形したことがわかる。４～７は壺である。４の口頸部境の沈線はハマグリなどの内腹縁に襞をもたない貝殻腹縁を押圧することにより形成している。また、外面には煤が付着している。５の文様も同様の貝殻腹縁である。６はタマキガイ科の貝殻腹縁によって施文する綾羅木・高槻系の壺である。突帯は断面M字状で刻みを施す。１・２・４・５は石見Ⅰ－１様式、６は石見Ⅰ－２様式と

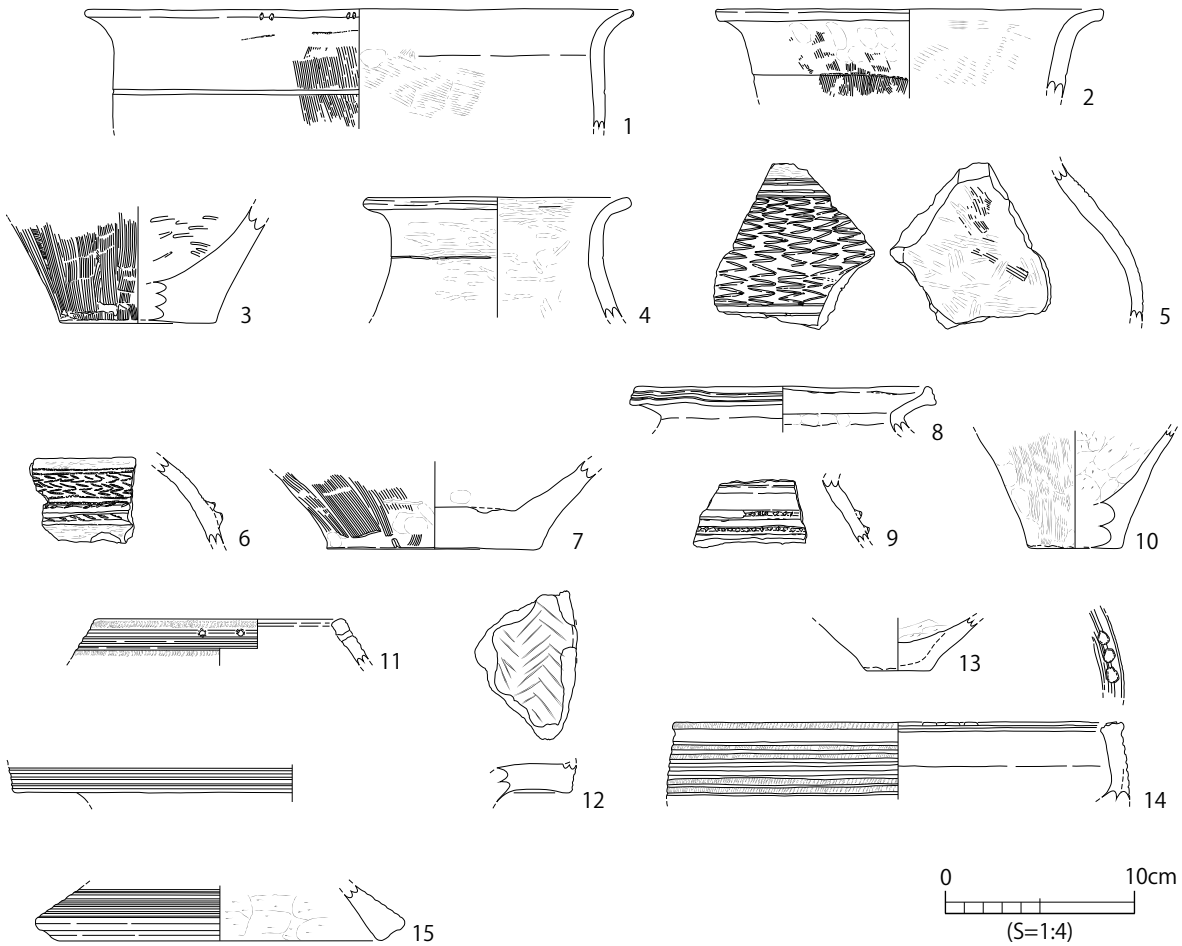


第 72 図　3-4 層（東側）出土遺物（10）

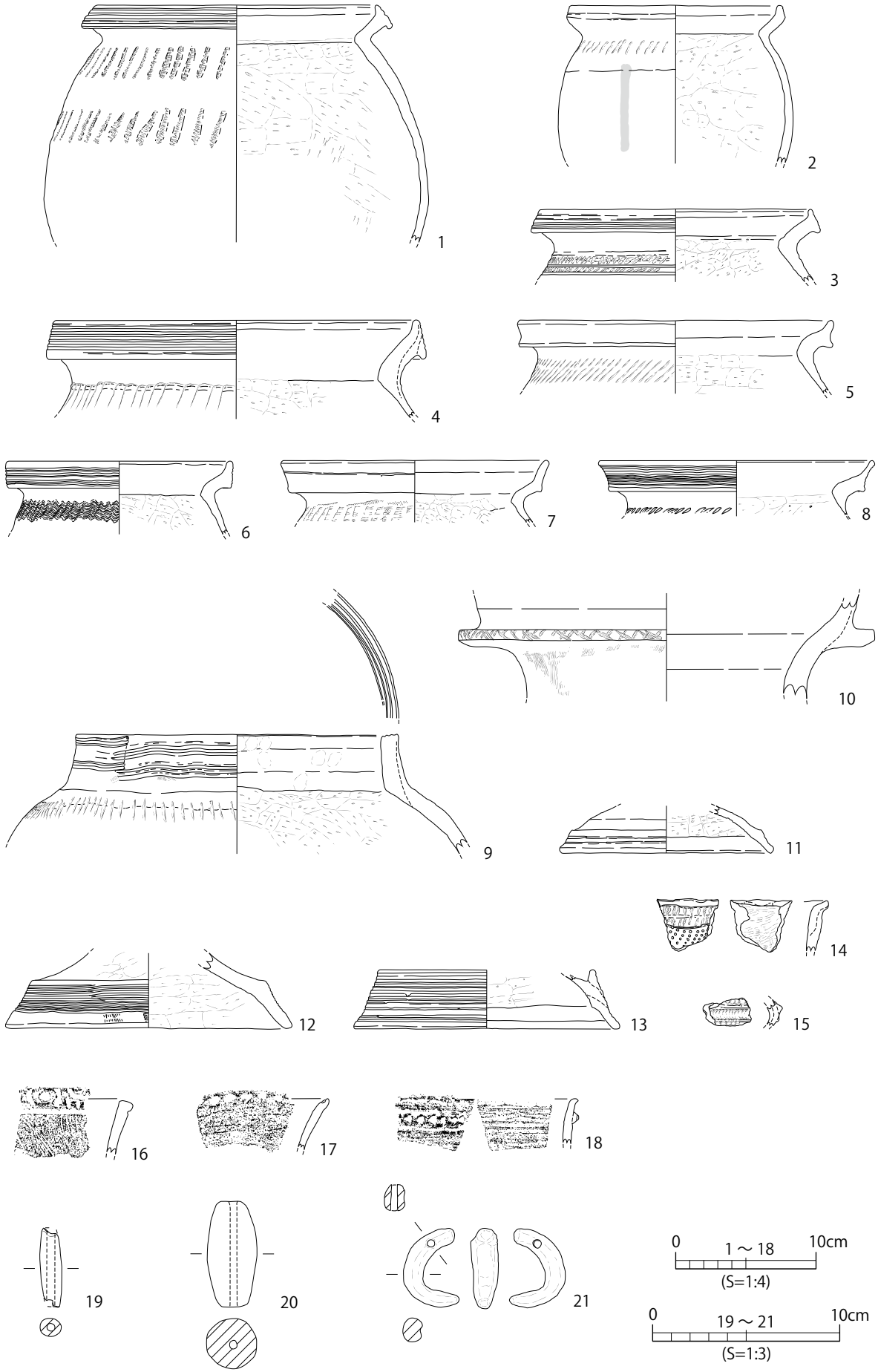
考えられる。８～ 15は石見Ⅲ・Ⅳ様式のものである。８～ 10は甕である。８は口縁端部をやや拡張する。９は頸部に貼付突帯を施し刻目を加えている。11 ～ 13は壺である。11は無頸壺で２ヵ所に穿孔がある。12は広口壺で、口縁部内面に綾杉文が施される。14・15は高坏である。14は箱形の坏部で、外面の刻目は一段ずつ丁寧に施されている。15の脚部は端部が拡張せずに肥厚する。８・９は石見Ⅲ−２～Ⅳ−１様式、15が石見Ⅳ−１様式、11・12・14が石見Ⅳ−２様式と考えられる。

第74図１～15は石見Ⅴ様式のものである。１～８は甕である。１は２段にわたる刺突文を施す。２の列点文は約1.3cm幅の施文具を刺突している。また、胴部には口縁に対して直交する吹きこぼれ痕が残る。３は肩部に重層刻目文を施す。４は肩部に連続刺突文がみられる。５は肩部の刺突文が２段にわたるようにみえるが、上下段の施文は連続しており、刺突の始点と終点がそれぞれ上段の上端と下段の下端にある。６は口縁が直立して立ち上がり、外面に擬凹線を施す。肩部には波状文がみられる。７は口縁部が強くなでられる。肩部には連続刺突文を施す。８は口縁部外面に擬凹線、肩部に施文具不明の刺突文を施す。９・10は壺である。９は直口壺で、口頸部には巻貝をなでつけたような痕跡が残る。10は西部瀬戸内系の大型複合口縁壺で、外面突帯には二枚貝腹縁による×字形の刺突文が施される。11は高坏の脚部である。12・13は高坏もしくは器台である。14は小型の鉢と考えられ加飾性が高い。15は小型装飾壺の胴部である。１～５・９・11・12・14が石見Ⅴ−１様式、６～８・13・15が石見Ⅴ−２様式、10が石見Ⅴ−３～４様式と考えられる。

縄文土器（第 74 図 16 ～ 18）



第 73 図　3-4 層（東側）出土遺物（11）

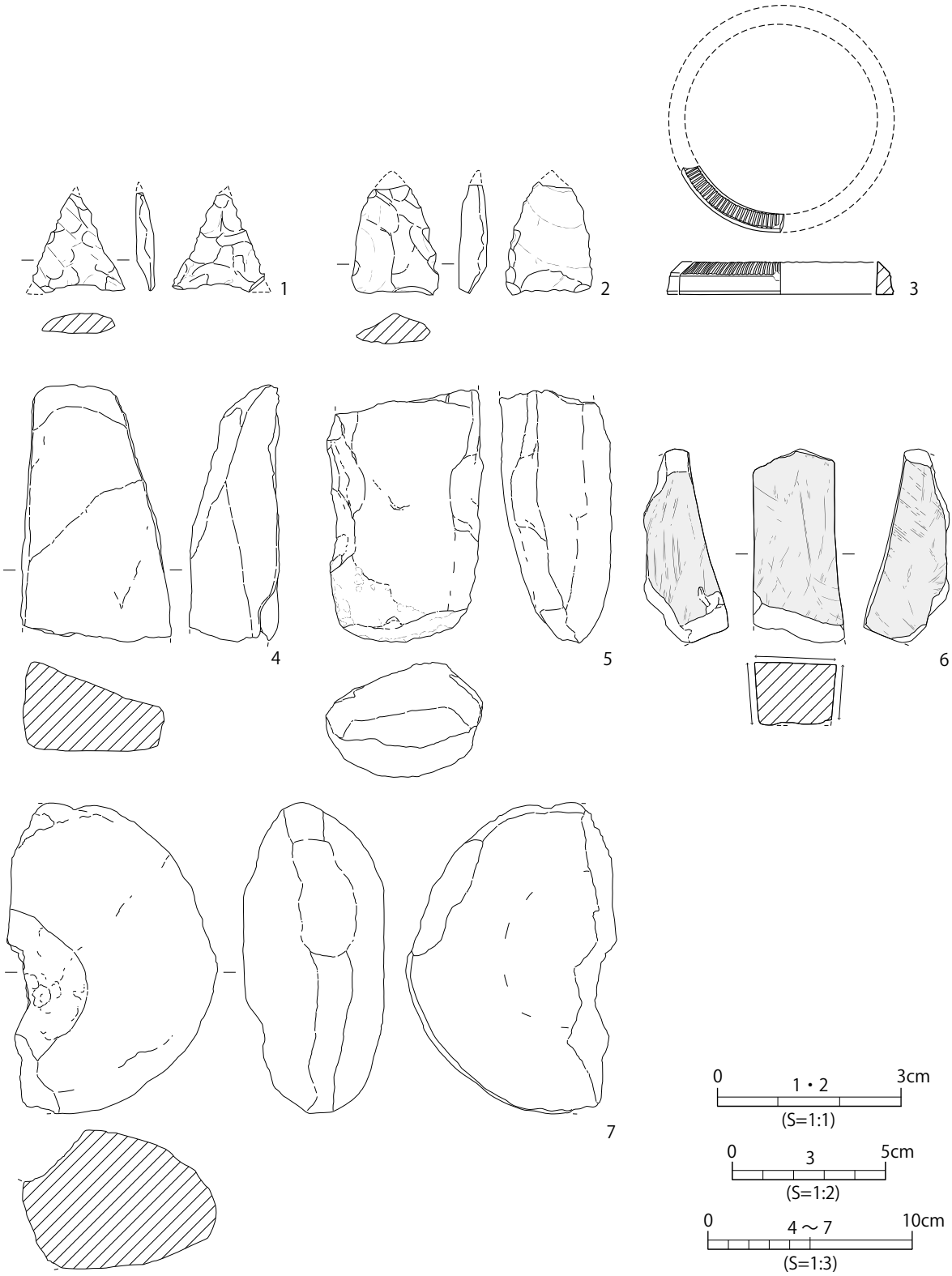


第 74 図　3-4 層（東側）出土遺物（12）

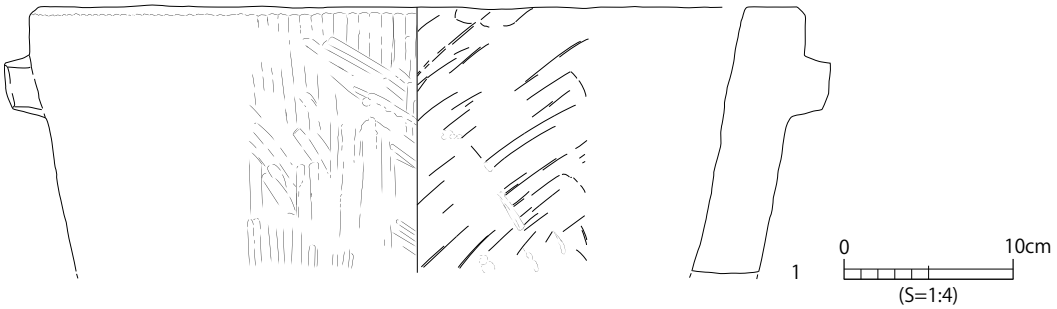
16 ～ 18は深鉢である。16は砲弾形の有文深鉢で、外面に刷毛目状の細密条痕がみられる。17は単純口縁の深鉢で口縁部内面におそらく巻貝の殻頂部による刺突文を施す。18は突帯文の深鉢で、刻目はやや小型のD字形である。16は布勢式併行期、17・18は突帯文期と考えられる。

土製品（第 74 図 19 ～ 21）

19・20は管状土錘で、19がA類、20がD 1 類である。いずれも中世のものと考えられる。21



第 75 図　3-4 層（東側）出土遺物（13）



第 76 図　3-4 層（東側）出土遺物（14）

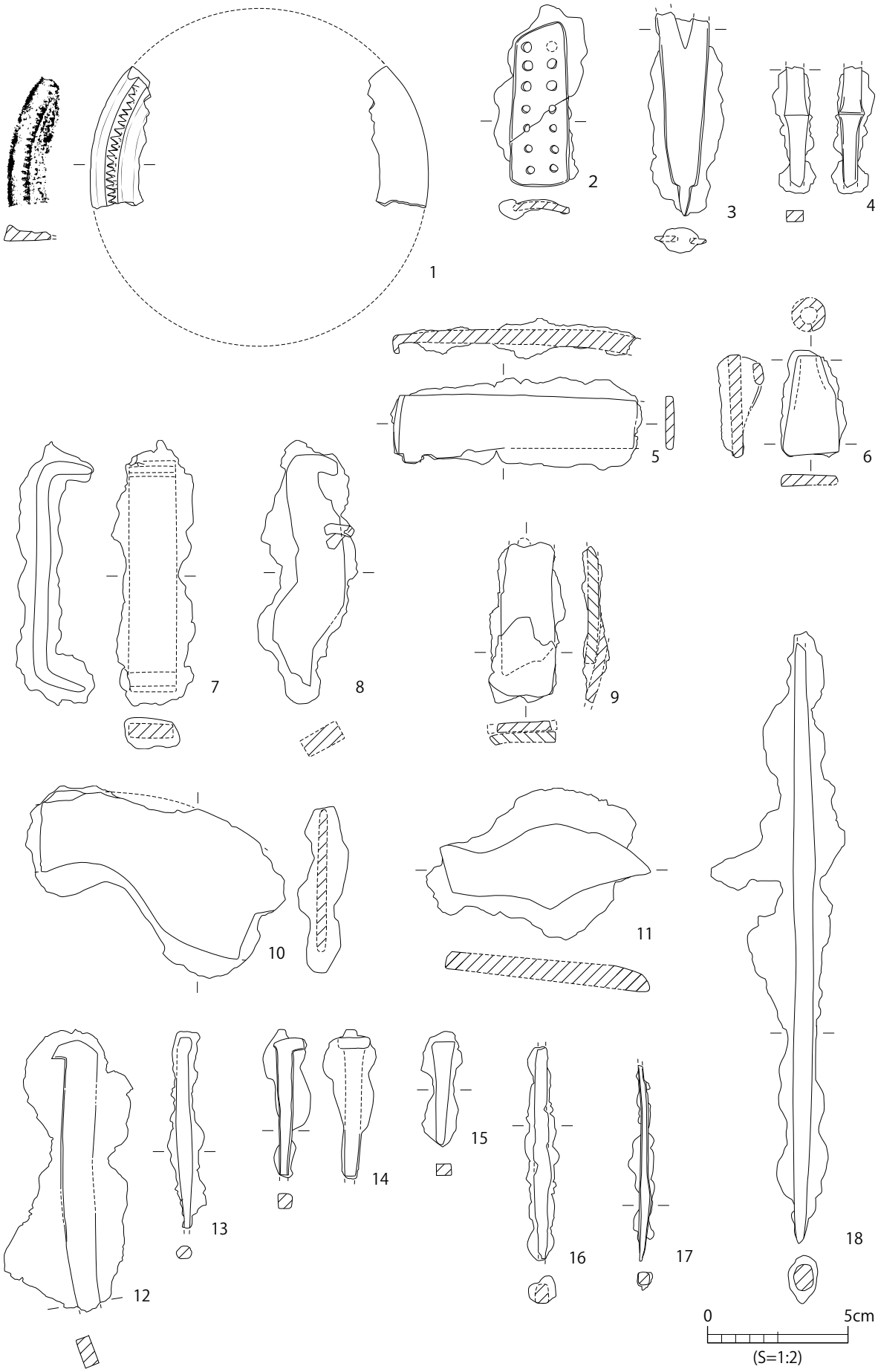
は土製勾玉で、H7 グリッドで出土した。形態はやや細身である。後述の遺構2144集石から出土したもの（第115図15）とは約13.8ｍの距離で比較的近く、使用のタイミングが近い可能性もある。

石製品（第 75 図・第 76 図）

１・２は石鏃である。１は流紋岩製、２は安山岩製で、２は未成品と考えられる。３は石釧である。約６分の１が残存する破片であるが、断面の観察から意図的な破砕ではなく偶発的な破損によるものと考えられる。森下分類（森下2005）の一凹式に当てはまる。緑色凝灰岩製で白色粒を含むが、硬質で風化はほとんどみられない。内面壁はわずかに外傾しつつも直線的に立ち上がり、壁面には穿孔時の回転擦痕が観察できる。頂部には平坦面を作り出す頂部加工がみられる。斜面には櫛歯状の彫刻があり、断面蒲鉾形の丸みを帯びた凸部を作り出す陽刻である。斜面と側面の境界部には刻線が一周している。側面の下端は破損しているが、刻線が１条めぐるような表現があり、匙面状に面取りがされていた可能性がある。これらの型式的特徴は概ね古い様相であり、製作時期は古墳時代前期中葉まで遡る可能性がある。４・５は塩基性片岩製の磨製石斧未成品である。４は剥離段階のⅠａ類で、図示した上面は剥離が加えられるものの両側面と裏面は自然面と考えられる。５は敲打段階のⅠｂ１類で、敲打が全面に及び最終段階に近いものと考えられる。６は砂岩製の砥石である。図示していない１面は破損しているが、それ以外の３面はすべて使用により滑らかである。７はデイサイト製の凹石である。凹部には細かな打痕が残る。第76図１は石臼である。外側には突起が付く、内面は使用により滑らかである。

鉄製品・青銅製品（第 77 図）

１は青銅鏡である。長さ5.1cm、幅1.9cm、厚さ１～６mmの外区を中心とした破片である。破面に研磨痕跡はみられないが、破鏡である可能性が高い。復元直径は12.0cmである。外区文様は突線１条を介して鋸歯文を二重に巡らせている。直径の割には外区が厚く、斜縁をもつ。文様構成からすれば、上方作系浮彫式獣帯鏡、獣帯鏡、画象鏡、盤龍鏡などが鏡種の候補として挙げられるが、本例の厚みを考慮すればもっとも近いのは盤龍鏡である。製作時期は外区の文様構成や厚みから判断しておそらく２世紀前半（漢鏡６期）に製作されたものと考えられる。２は伊予札Ｄ類である。３・４は鉄鏃である。両者ともに類型不明であるが、おそらく中世のものと考えられる。５は鎌である。６はミニチュアの鉄斧である。実用品とは考えられず、出土位置がH7 グリッドで土製勾玉などと近いことから祭祀に関係したものの可能性がある。７は鑿である。８～11は不明板状鉄製品である。８は端部に鍵状に曲がった部分がある。９は２枚の鉄板が重なって固着している。10は両端部を欠損しているが、下辺が大きく湾曲する形態は特徴的である。11は欠損がないように思われ、厚さ0.7cmとやや厚い。12～15は釘である。12は大型の折釘である。13は角釘であろうか。14は



第 77 図　3-4 層（東側）出土遺物（15）

第 78 図　中世後半遺構配置（4-1・2 層、5 層上面）

叩折釘もしくは巻頭釘である。15は頭形状不明である。16・17は棒状鉄製品である。いずれも端部を欠損しているが、７cm以上の長さがある。18はヤスもしくはモリと考えられる。長さが21.3cm以上ある。

６．４−１・２層、５層上面の遺構

平安時代頃の浸食後、室町時代頃に地形が元の状態に概ね戻った頃に形成された遺構群である。建物などの重なりから少なくとも２面に分かれると考えられるが、現地ではすべての遺構の新旧を把握することができなかったことから、ここでは中世後半の遺構としてまとめて報告する。調査区全体の遺構配置をみると、当該時期の遺構は１区にあたる２～４グリッドラインに集中しており（第78図～第80図）、陶磁器や鉄製品の出土位置も同範囲に偏る傾向にある。

第 79 図　中世後半遺構配置（１区部分）

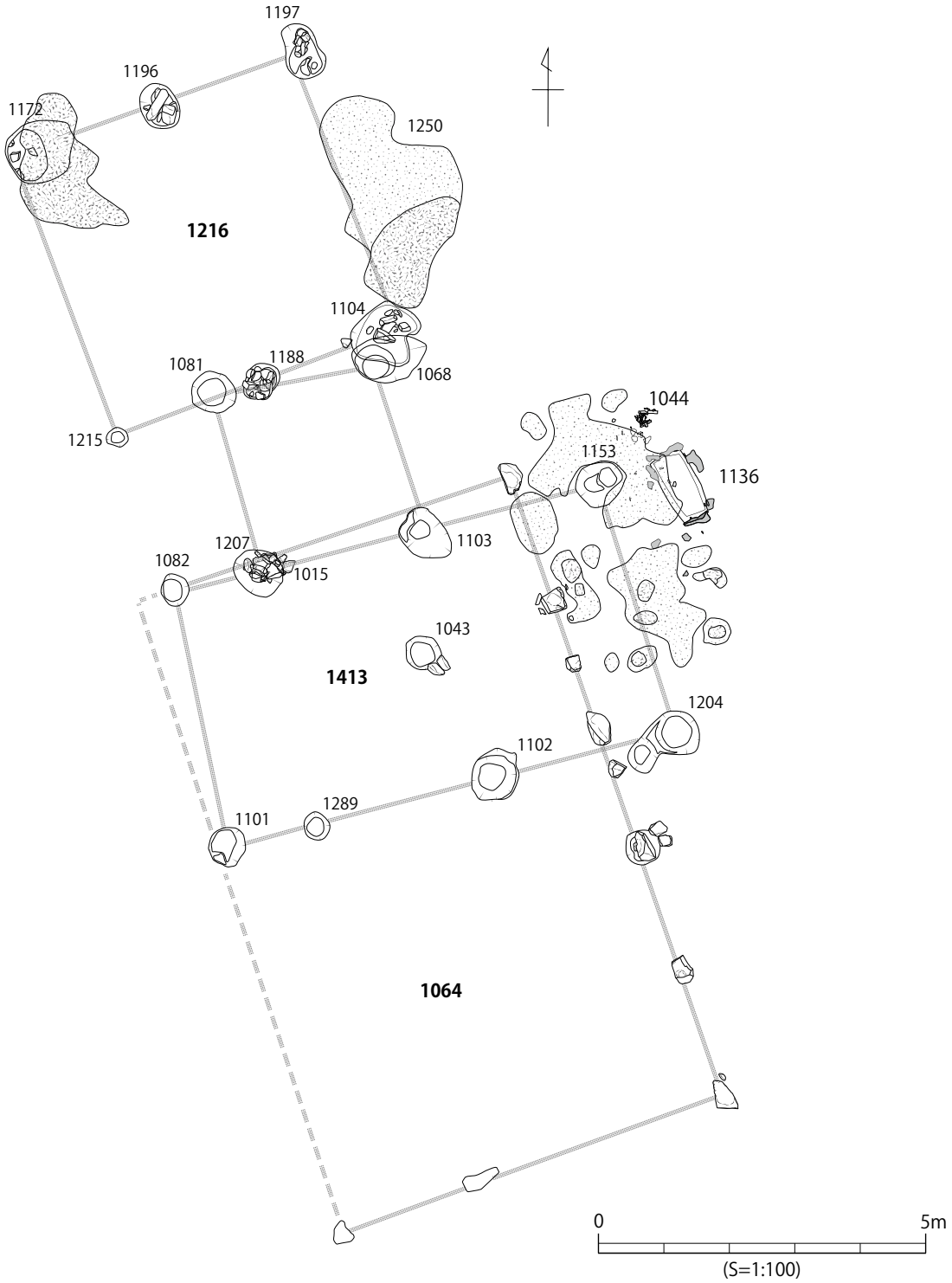
遺構 1064 礎石建物（第 81 図～第 83 図）

遺構1413掘立柱建物と重複して検出した。遺構1413の柱穴（遺構1207）の上位で遺構1015（礎石11）を検出したことからこの建物が後出する。礎石は東側の桁行を中心に11個が遺存しており、梁間方向が３間？（約6.2ｍ）、東側の桁行方向が６間（10ｍ）の柱配置を復元した。この建物が建つ地盤は西に向かってやや傾斜しており、西側の礎石は後世の氾濫や耕作の際に流れてしまったと考えられる。主軸方向はN-20°-Wで、遺構1216・1415・1416掘立柱建物と概ね一致する。桁行

第 80 図　中世後半遺構配置（２区部分）

方向の柱間は２ｍである。一部の礎石上面には円形や楕円形の窪みがあり、柱が置かれていた痕跡と考えられる。

この建物に直接ともなう遺物は判然としないが、礎石４の下から鉄製品が１点と古銭が出土した（第83図）。１・２は石製品である。ともに遺構1015の石に混ざって出土し、被熱痕が残る。１は砂岩製の砥石である。破損が激しいが、５面の平坦面のうち３面を使用している。２は台石もしくは石皿である。表裏面ともに研磨痕がみられる。３はヤスもしくはモリと考えられる棒状鉄製品である。４は古銭である。礎石４の直下から出土した。劣化が激しく、X線写真でも文字の判読が困

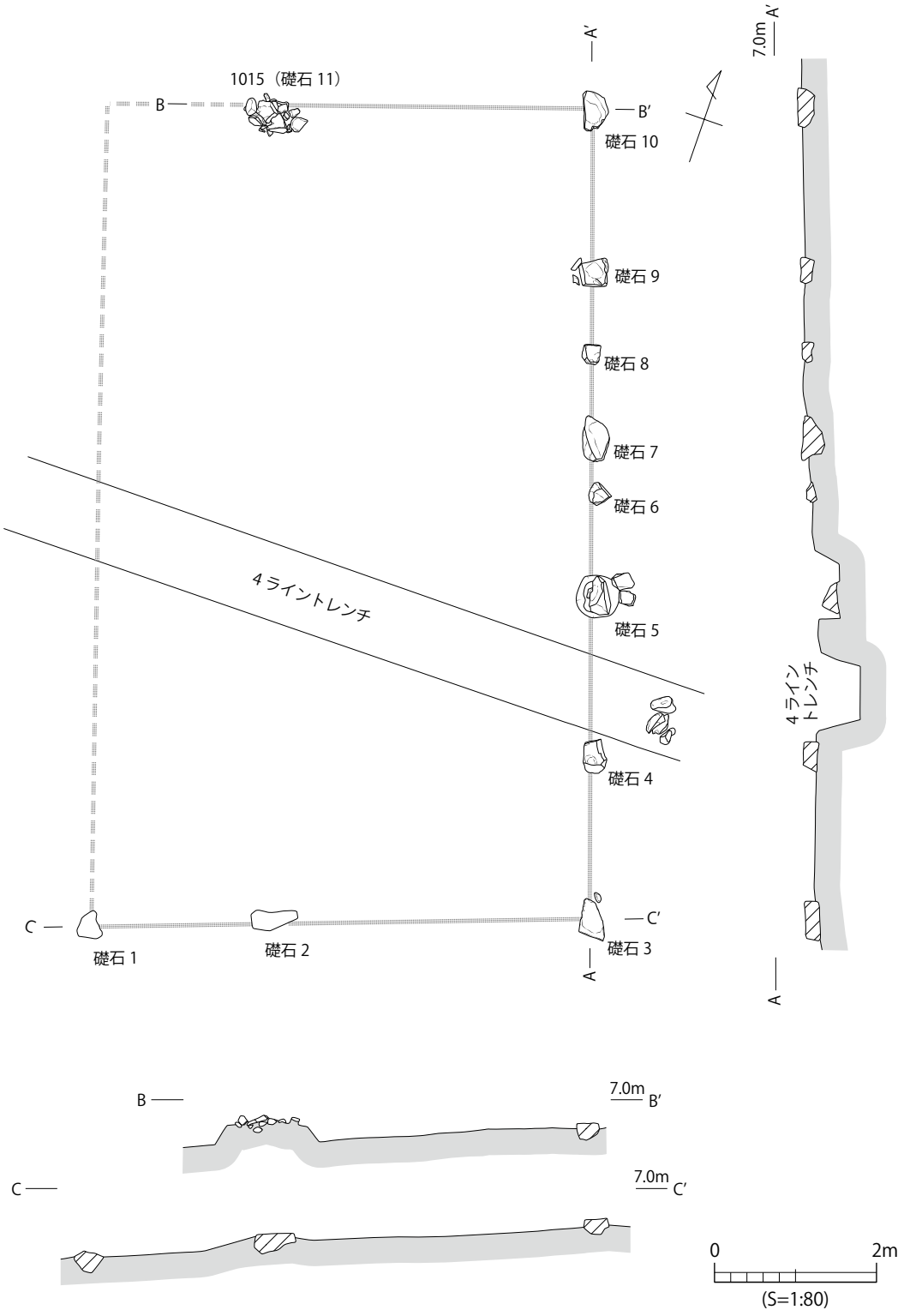


第 81 図　遺構 1064 礎石建物、遺構 1216・1413 掘立柱建物

難であった。この建物付近からは建物金具と考えられる鉄製品が出土しており（第167図）、これが遺構1064にともなうものであれば、格式の高い建物であったと考えられる。

遺構 1044 集石・遺構 1136 鍛冶炉（第 81 図・第 84 図〜第 86 図）

遺構1064礎石建物・遺構1413掘立柱建物の北東側で検出した。現地では、まず遺構1044を検出して集石として調査していたが、下位から小札、革製綴紐、建物の飾り金具がまとまって出土した。その後、すぐ南側で遺構1136を検出した。遺物の出土状況や建物配置などから、遺構1044は

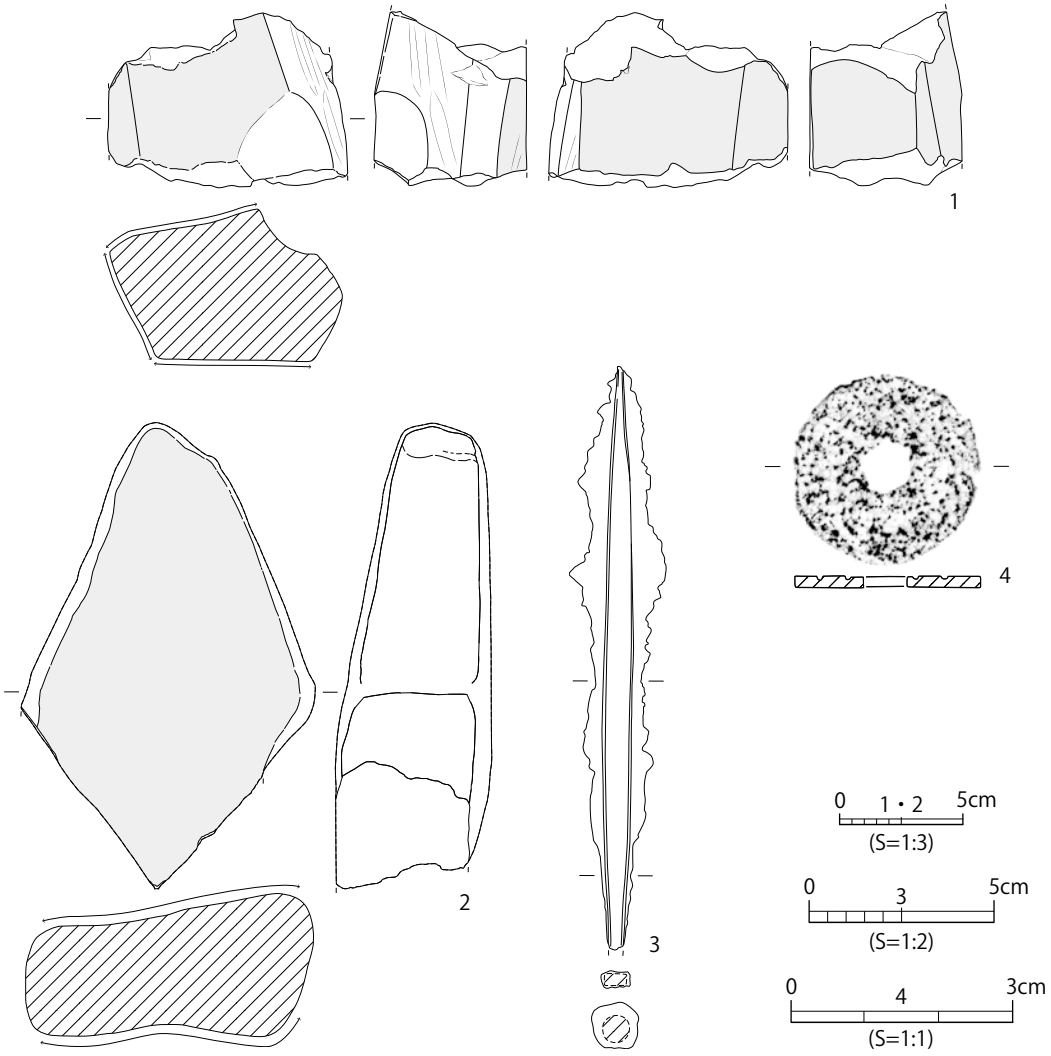


第 82 図　遺構 1064 礎石建物

遺構1413、遺構1136は遺構1064にともなう可能性がある。周囲には炭を含む土が広がっていた。

遺構1044は、集石を含む遺物集中部である。小札17点をはじめ、釘隠し１点、鉄釘１点、不明鉄製品が出土している（第85図）。１は管状土錘Ｂ１類である。１点のみの出土であり混ざり込みであろう。２～21は鉄製品である。２～15は伊予札で、２～５がＡ類、６～13がＢ類、14がＣ類、15は破片のため類型不明である。中には革製の綴紐が固着したものや２枚が錆化により固着したものがある。16は四葉釘隠しである。17～20は不明鉄製品である。17は薄い板状を呈するもので、基部と思われる部分が湾曲する。外面には革製の綴紐が固着している。18も薄い板状を呈するもので、右側の幅が広く、左側に向かってゆるく幅を減じる。19・20は薄い短冊状を呈するもので、断面が湾曲している。21は鉄釘である。頭形状から折釘と呼ばれるものである。小札は本遺跡で出土したものの約半数が出土し、大半が完形に近い。原位置に近い状態をある程度保っていると考えられる。

遺構1136は長軸約110cm、短軸約55cm、深さ約15cmを呈する長方形の鍛冶炉である。遺構1003や1004と同様に厚さ10cm前後の粘土を貼っており、被熱によって赤色に変色している。全体的に遺存状態は良くない。埋土は北側の３・４層に焼土ブロックを含み、底部に近い５層に炭を含んでいた。



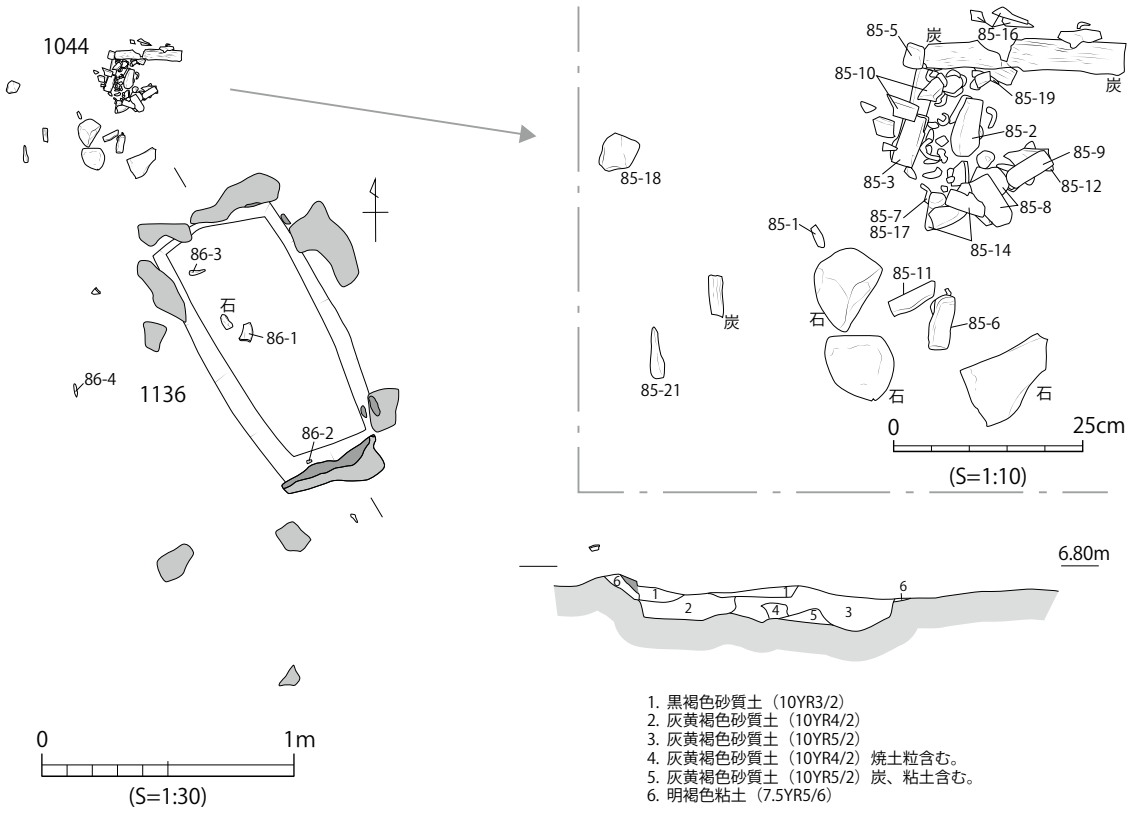
第 83 図　遺構 1064 礎石建物出土遺物

遺物は検出面から約10cm浮いた位置で青磁碗が出土し、埋土からは土錘と鉄釘が出土したが（第86図）、いずれも遺構にともなうものとは考えられない。また、鍛冶関連遺物は出土しなかった。1は龍泉窯系青磁の端反碗である。上田分類のD類にあたり、年代は15世紀後半と考えられる。4−1層や3層で出土した破片と接合した。2は管状土錘である。両端を欠損しており類型は不明である。3・4は鉄釘である。3は方頭釘と考えられ、先端を欠損する。

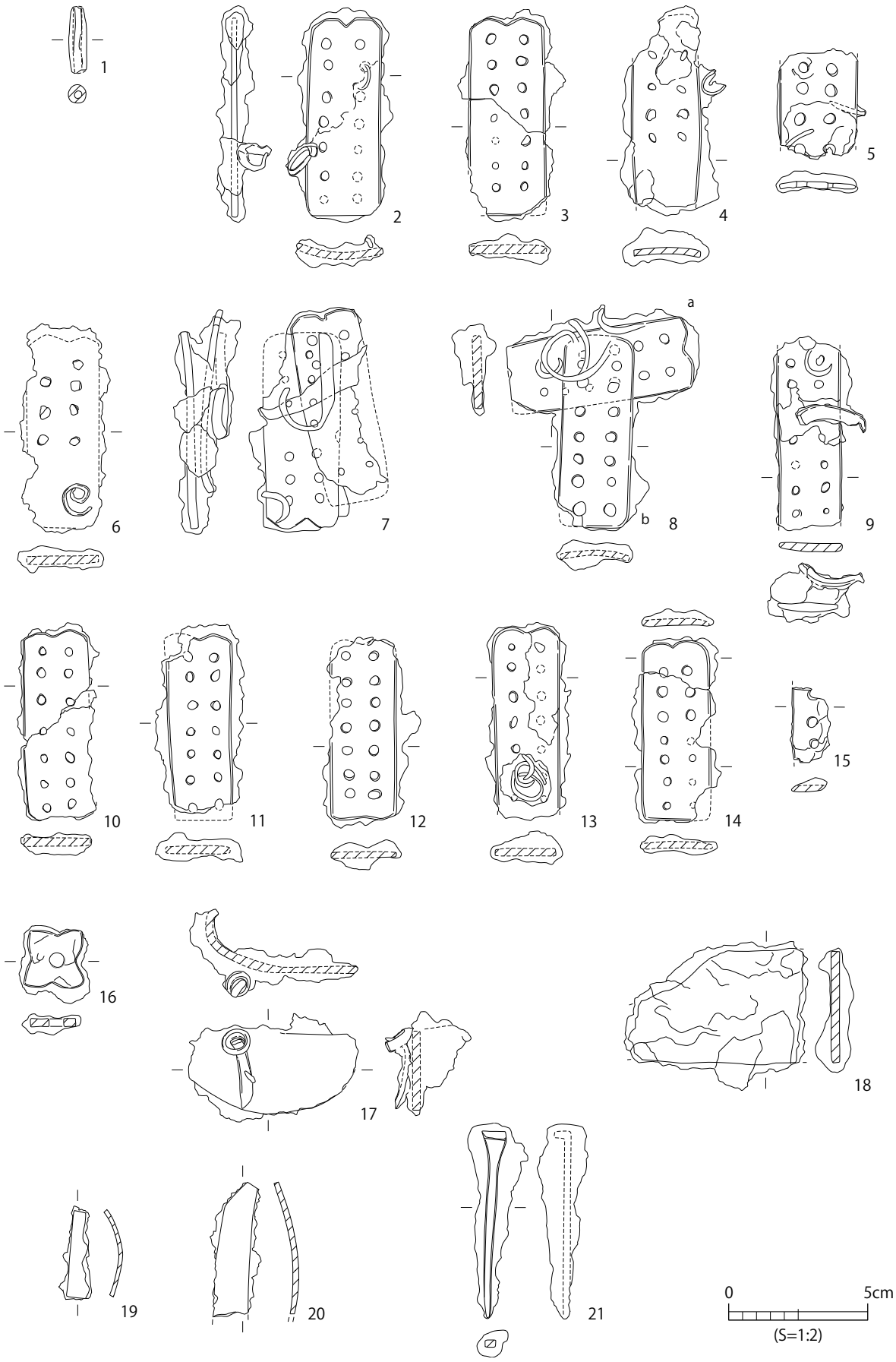
遺構 1216 掘立柱建物（第 81 図・第 87 図・第 88 図）

遺構1064礎石建物の北側で検出した。1間（4.6ｍ）×2間（4.6ｍ）の正方形を呈する建物を復元した。主軸方向はN-17°-Wで、遺構1064礎石建物や遺構1415・1416掘立柱建物と概ね一致する。南北辺の柱間は2.3ｍである。柱穴の深さは30 ～ 60cmで、埋土内から根石と考えられる礫が出土したものが多い。砂地の土地であるため沈下防止の役割があったと考えられる。遺構1064と同時期の建物と考えられ、浜田市三隅町の普源田砦跡（島根県教委2021a）で検討されているように、中世後半の石見地方では一般的な建物配置である。

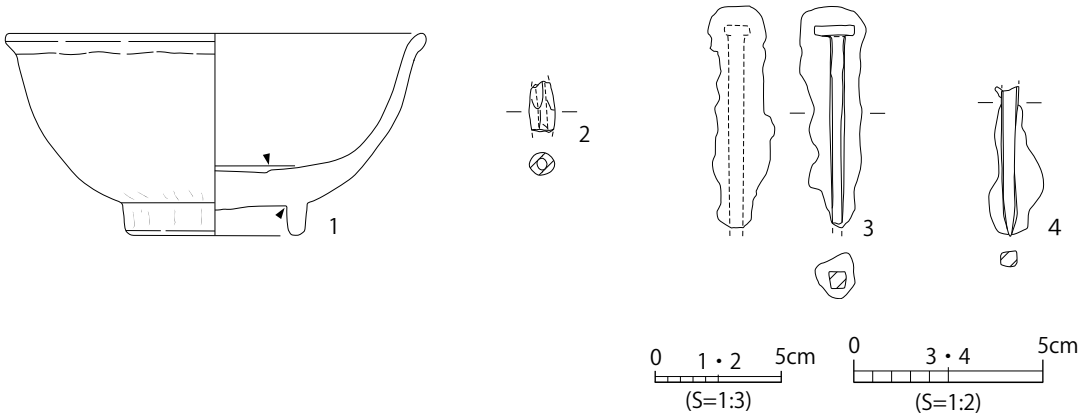
遺物は一部の柱穴から陶磁器や土師質土器、鉄製品が出土した（第88図1 ～ 7）。1・5・7は遺構1197、2・6は遺構1996、3・4は遺構1104から出土した。1は白磁の碗である。時期は13 ～ 14世紀であろう。2は土師質土器の褐色系坏である。時期は13世紀後半～ 14世紀と考えられる。3・4は縄文土器である。遺構1216が立地するのは縄文時代の包含層が収れんする地点であり、縄文土器と陶磁器が同一層で出土する状況であった。したがって建物を建てる際に混ざり込んだものであろう。3は深鉢の口縁部である。4は浅鉢の底部である。5 ～ 7は鉄製品である。5は釘隠しと考えられるが、やや変形している。6は鉄釘である。頭形状から巻頭釘と呼ばれるもので、先端が欠損する。7はヤスもしくはモリと考えられる棒状鉄製品である。断面は円形を呈する。



第 84 図　遺構 1044 集石、遺構 1136 鍛冶炉



第 85 図　遺構 1044 集石出土遺物



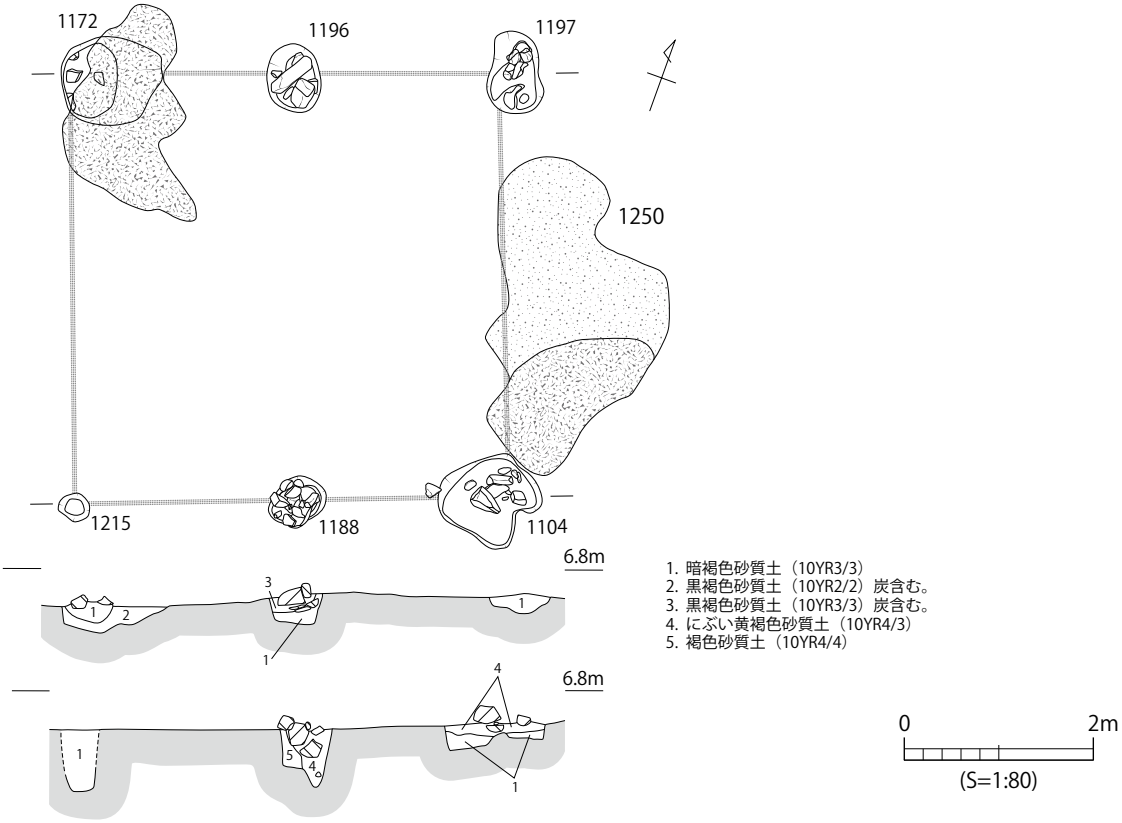
第 86 図　遺構 1136 鍛冶炉出土遺物

出土した陶磁器や土師質土器は古い特徴を示すが、これらは流れ込みと考え建物配置を優先した。

遺構 1250 炭面（第 81 図・第 87 図・第 88 図）

遺構1216掘立柱建物の東側柱穴列に沿って検出した。最大長3.4ｍ、最大幅1.9ｍの範囲に炭を多く含む面が確認され、とくに南側で炭が集中していた。遺構1216が火事により焼失した可能性も考えられる。

遺物は土師質土器や石製品、鉄製品が出土した（第88図８～ 10）。８は土師質土器の褐色系坏である。非常に薄手で、底部は回転糸切りであるが簾状圧痕によりほとんど消失している。内面に煤が付着している。９は台石と考えられる石製品である。上面と側面に研磨痕があり、全体的に被熱

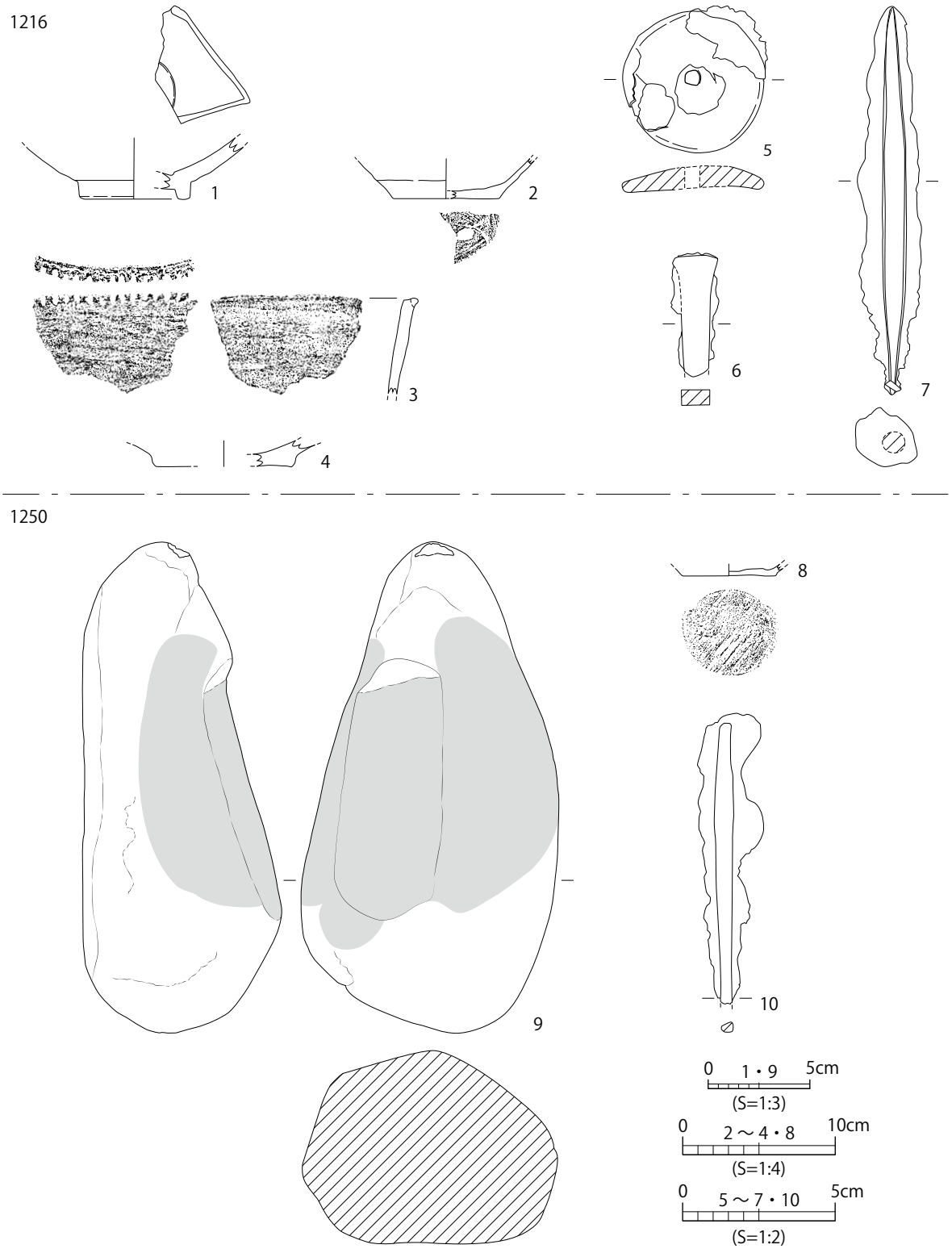


第 87 図　遺構 1216 掘立柱建物

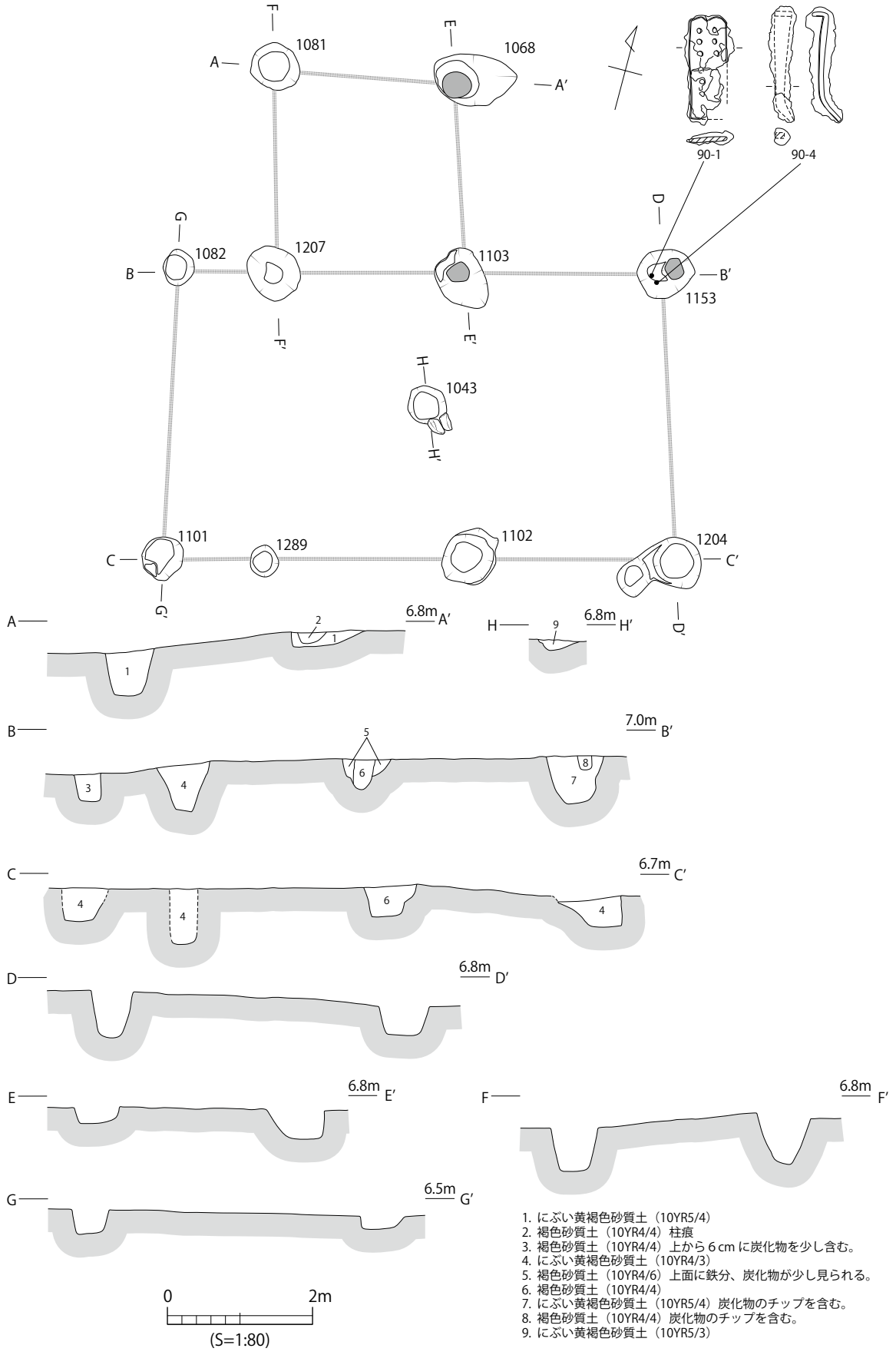
痕が認められる。10は棒状鉄製品である。一端を欠損しており、本来は10cm以上の長さがあったと考えられる。断面は円形を呈する。

遺構 1413 掘立柱建物（第 81 図・第 89 図・第 90 図）

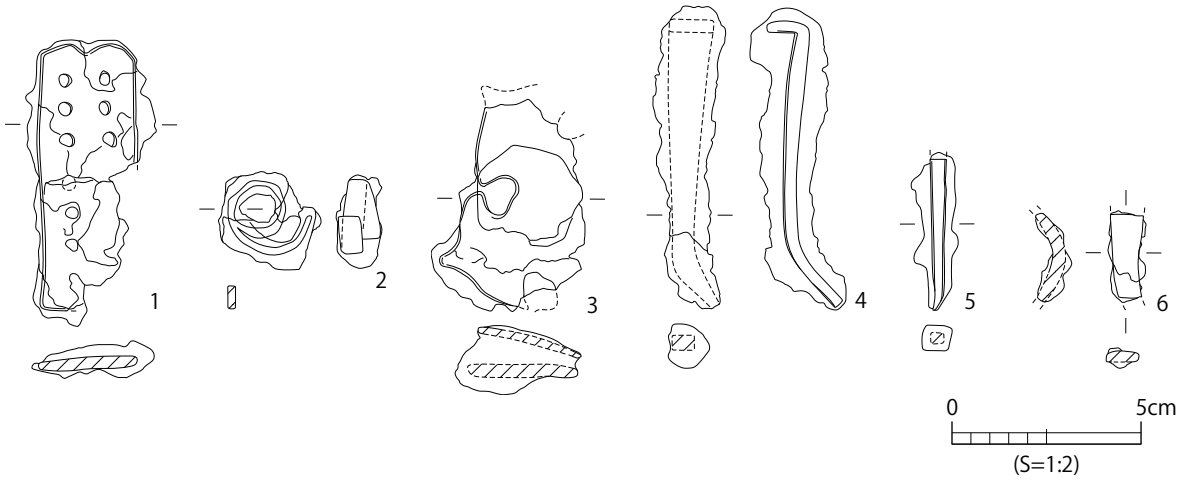
現地では認識できなかったが、柱配置から復元した。遺構1064礎石建物と重複する。梁間方向1間（４m）、桁行方向３間（７m）の長方形プランの北側に１間（2.6m）×１間（2.6m）が取り付



第 88 図　遺構 1216 掘立柱建物、遺構 1250 炭面出土遺物



第 89 図　遺構 1413 掘立柱建物、遺構 1043 ピット



第 90 図　遺構 1413 掘立柱建物

く「凸形」の建物を復元した。主軸方向はN-75°-Eで、今回検出した建物に主軸方向が一致するものはない。桁行方向の柱間は不揃いだが、各辺の対応する位置に概ね柱穴が配置されている。柱穴の深さは40 ～ 60cmである。遺構1068・1103・1153で柱痕を確認している。

遺物は各柱穴から鉄製品や土器小片が出土した程度であった（第90図）。1・2・4は遺構1153、5は遺構1081、3・6は遺構1103から出土した。すべて鉄製品である。1は伊予札A類である。遺構1153は小札がまとまって出土した遺構1044に隣接していることから、柱穴の埋没時に流れ込んだ可能性が高い。2は革製の綴紐である。小札と同様に流れ込みであろう。3は六葉釘隠しである。4-3層で出土したほぼ完形のものと同じ形状であろう（第133図11）。上面に錆化により不明鉄片が固着している。4は鉄釘である。頭形状から折釘と呼ばれるもので、先端がやや曲がっている。5は類型不明の鉄釘である。6は棒状鉄製品である。強く湾曲しているが、両端を欠損しており詳細は不明である。柱穴から小札が1点出土していることから、遺構1044とこの建物が同時期に存在していた可能性がある。この建物は小札などを保管する倉庫のような機能をもち、火事により焼失したと考えられる。

遺構 1043 ピット（第 81 図・第 89 図・第 91 図）

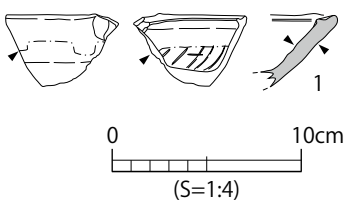
遺構1064礎石建物・遺構1413掘立柱建物の内部で検出した。遺構1413の柱の一つである可能性もあるが、柱配置がずれており断定はできない。検出面で大型の礫を確認した。

遺物は陶器が出土した（第91図）。1は瀬戸美濃系陶器の皿である。口縁部は片口に成形している。内面露胎部分には斜位の擦り目がみられる。年代は14 ～ 15世紀と考えられる。

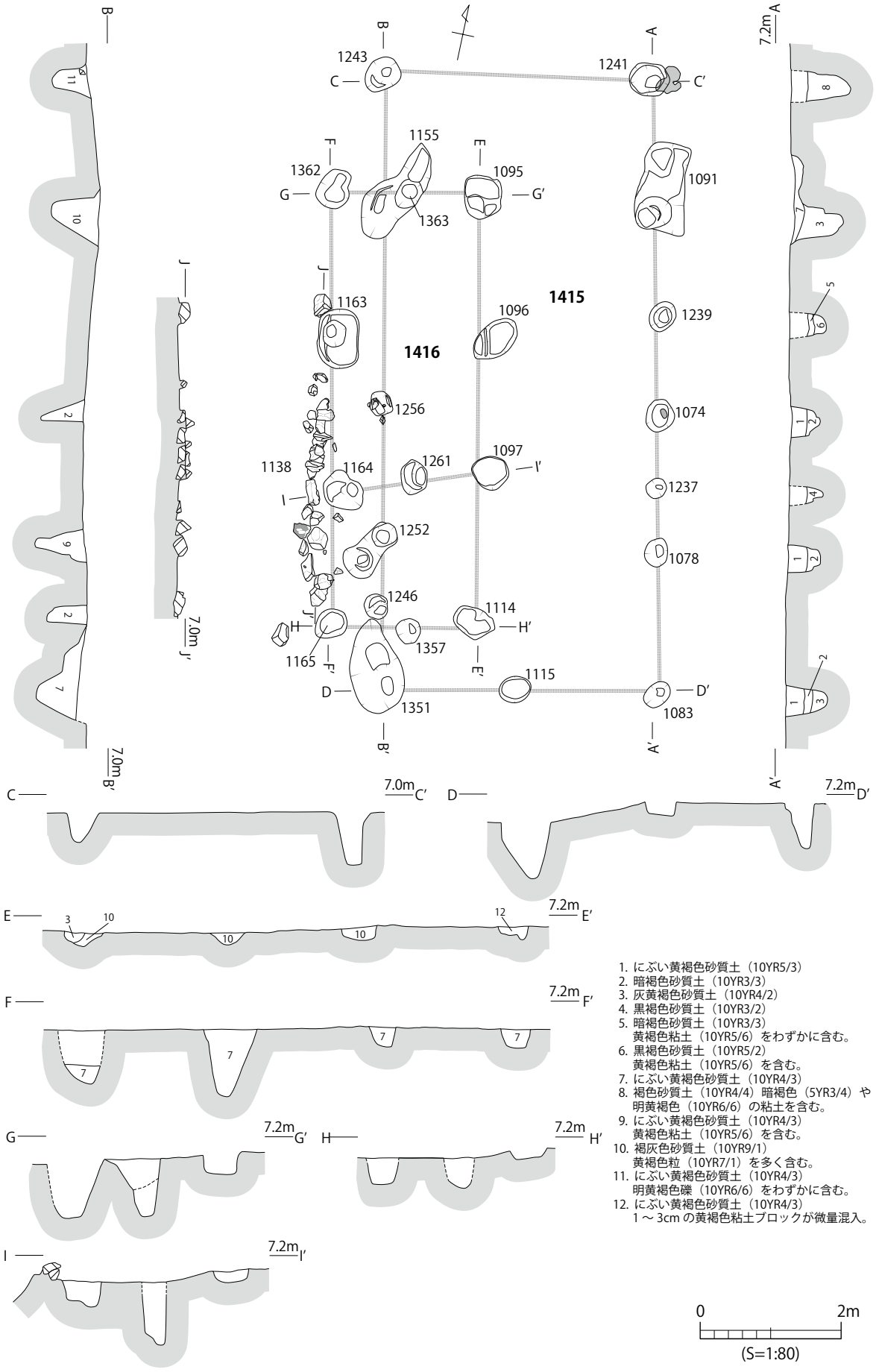
遺構 1415 掘立柱建物・1416 掘立柱建物（第 92 図・第 93 図）

調査区北東側で検出した掘立柱建物である。遺構1155と1363柱穴の切合い関係から遺構1415が新しいと考えられるが、単純な掘り込み順序の違いと考えれば、両者は同時併存し、一体の建物であった可能性も考えられる。便宜上ここでは両者の建物を呼び分けて報告する。

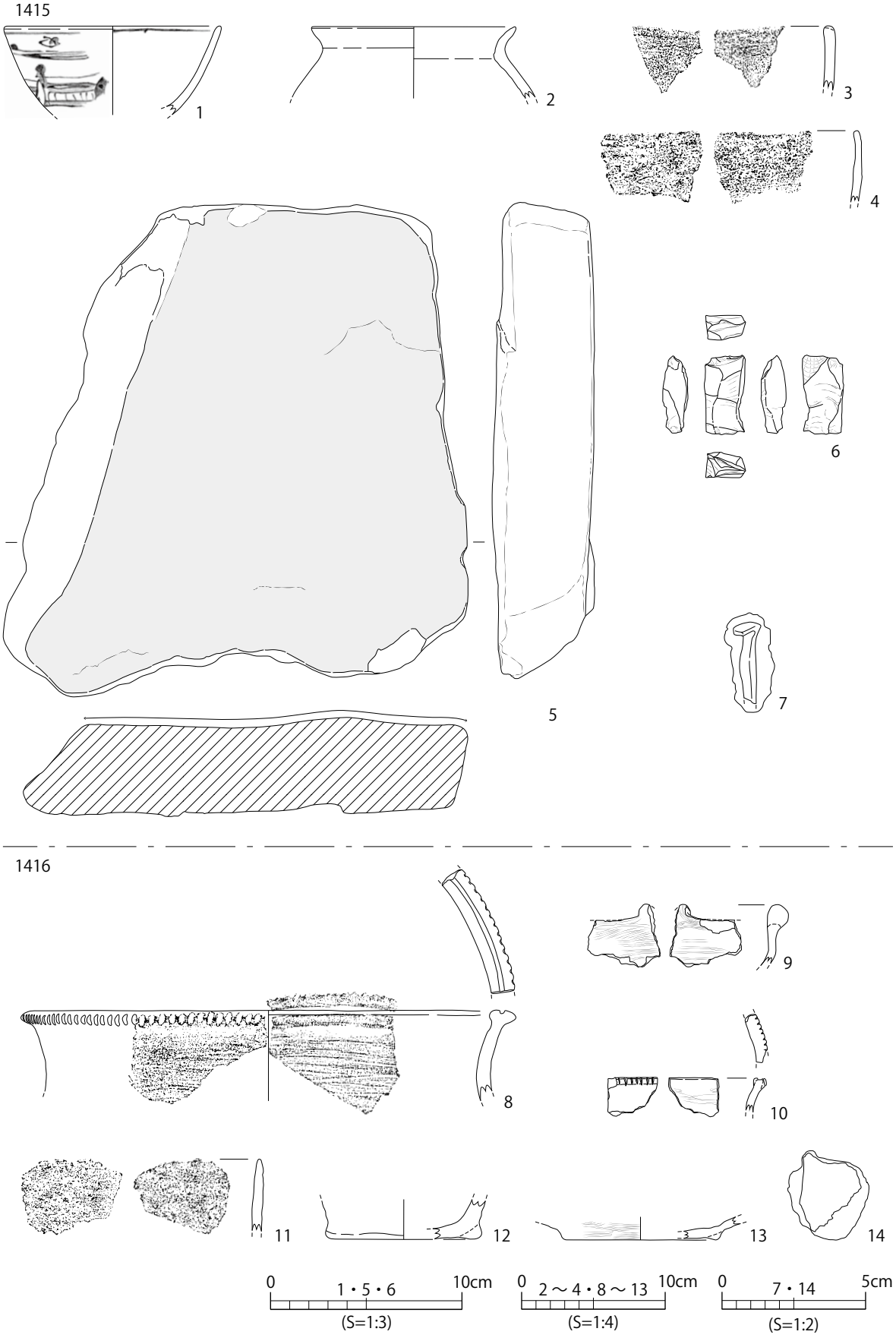
遺構1415は北側の梁間方向が1間（3.8ｍ）、南側の梁間方向が2間（3.8m）、東側の桁行方向が6間（約8.6m）、西側の桁行方向が5間（約8.6ｍ）の建物を復元した。主軸方向はN-12°-Wで、遺構1064礎石建物や遺構1216掘立柱建物と概ね一致



第 91 図　遺構 1043 ピット出土遺物



第 92 図　遺構 1415・1416 掘立柱建物



第 93 図　遺構 1415・1416 掘立柱建物出土遺物

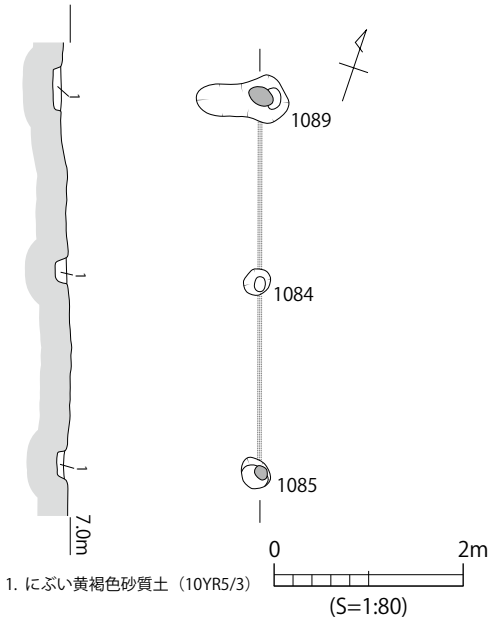
する。桁行方向の柱間は1.9mを主体としながら不揃いであるが、各辺の対応する位置に柱穴が配置されるものも多い。柱穴の深さは40 ～ 70cmである。いずれも柱痕は確認できていない。遺構1241の検出面では粘土塊を確認した。

遺物は一部の柱穴から陶磁器や土師器、鉄製品などが出土している（第93図１～７）。１・７は遺構1074、２は遺構1252、３・４は遺構1351、５は遺構1256、６は遺構1235から出土した。１は景徳鎮系青花の碗である。小野分類のE群にあたり、時期は16世紀頃と考えられる。２は土師器の甕である。３・４は縄文土器である。ともに深鉢の口縁部であり、後・晩期のものと考えられる。５は流紋岩製台石である。上面は使用により滑らかである。図示していないが、裏面は被熱により赤く変色し、中央が大きく剥離している。６は安山岩製楔形石器である。縄文土器や石製品が出土した柱穴は縄文時代の包含層に到達していることから流れ込みであろう。７は鉄釘である。頭形状から叩折釘と呼ばれるものである。

遺構1416は梁間方向が２間（２ｍ）、桁行方向が３間（６ｍ）で、遺構1164と1097の間に柱穴（遺構1261）をもつ柱配置である。主軸方向は遺構1415と一致する。桁行方向の柱間は２m、梁間方向の柱間は1.1ｍである。柱穴の深さは20 ～ 90cmとかなりばらつきがある。いずれも柱痕は確認できていない。また、西側の桁行方向柱列に沿って石列が検出された（遺構1138）。遺存状況はあまり良いとは考えられないが、人為的に積まれたものである。長軸が揃うことからこの建物に付属する施設と判断した。

遺物は一部の柱穴から鉄製品が出土し、遺構1138石列に混じって台石が出土した（第93図８～14）。８・９・12・13は遺構1261、10・11は遺構1357、14は遺構1165から出土した。８～ 13は縄文土器である。いずれの柱穴も縄文時代の包含層に達していることから流れ込みと考えられる。８は屈曲形の深鉢である。口縁部の上面に沈線、端部外面に刻目を施す。９は屈曲形の浅鉢と考えられる。10は屈曲形の鉢である。11は砲弾形の深鉢である。12は深鉢の底部である。13は浅鉢の底部である。14は不明鉄片である。薄い板状を呈する。

遺構 1417 柱穴列（第 94 図）



第 94 図　遺構 1417 柱穴列

遺構1415・1416掘立柱建物の東側で検出した。N-17°-Wの方向に３基の柱穴が直線的に並ぶ。遺物は流れ込みの土器小片以外は出土していないが、遺構1415・1416掘立柱建物とほぼ平行することから同時期の遺構と判断した。

遺構 1131 布掘建物（第 95 図）

遺構1064礎石建物の南東側で検出した。２間（４ｍ）×３間（4.2ｍ）の正方形に近い建物を復元した。主軸方向はN-15°-Eで一致する建物は確認できていない。柱間は不揃いである。柱穴の深さは10 ～ 30cmと浅く、上面が削平されている可能性が高い。布掘は遺構1124 ～ 1126で確認した。遺構1119・1122 ～ 1124・1128で柱痕を確認している。

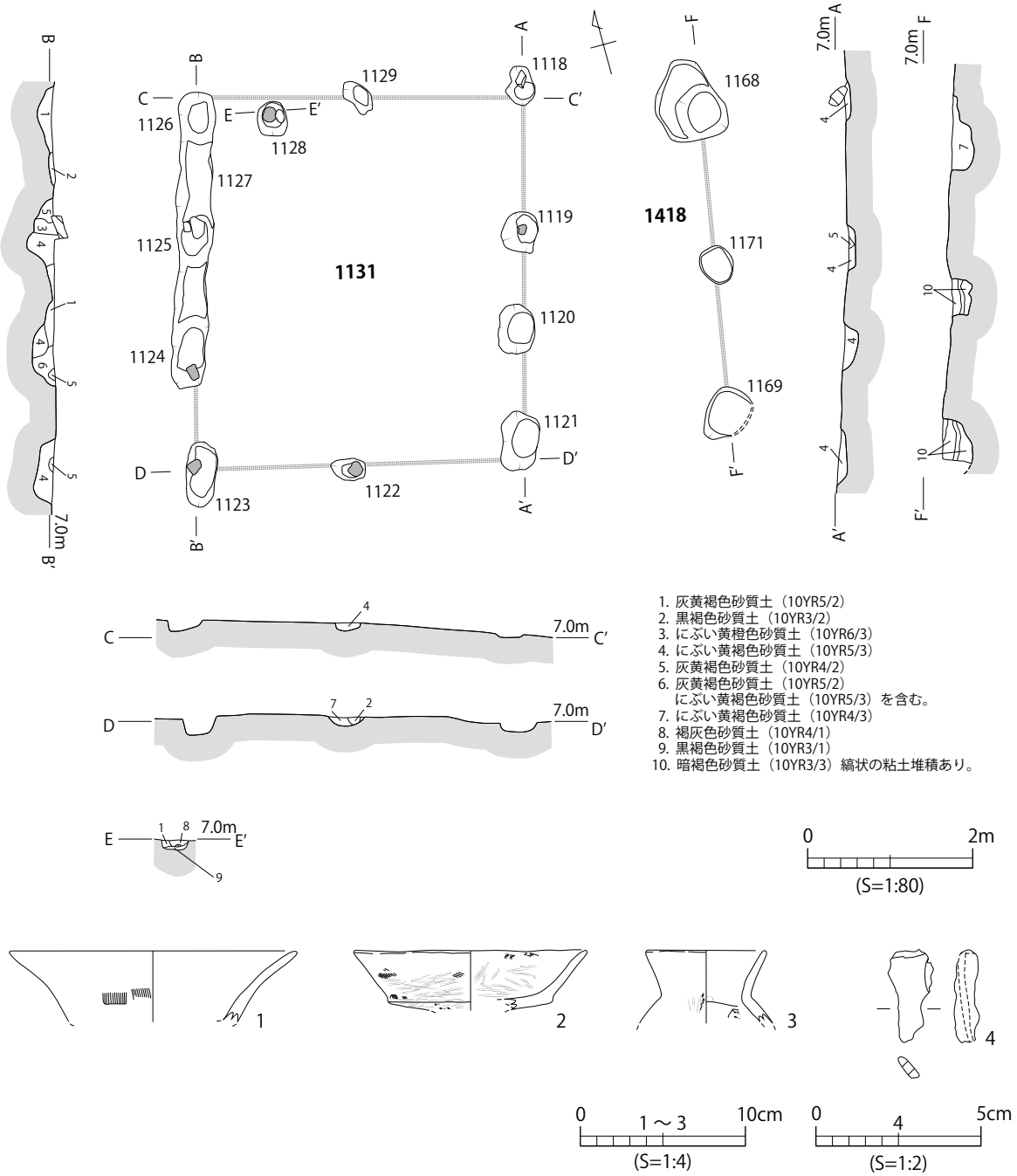
遺物は各柱穴の埋土からは古墳時代の土師器が出土し

ているが（第95図）、これらは流れ込みと考えられる。1は遺構1121、2・3は遺構1125、4は遺構1128から出土した。1～4は土師器である。1・2は有段外反形の高坏である。2は坏底部との接合面で剥離している。3は坏部が浅く、内外面を丁寧なミガキで仕上げる。4は小型壺の口縁部である。これらはいずれも大東1～3式と考えられる。4は不明鉄片である。薄い板状を呈する。

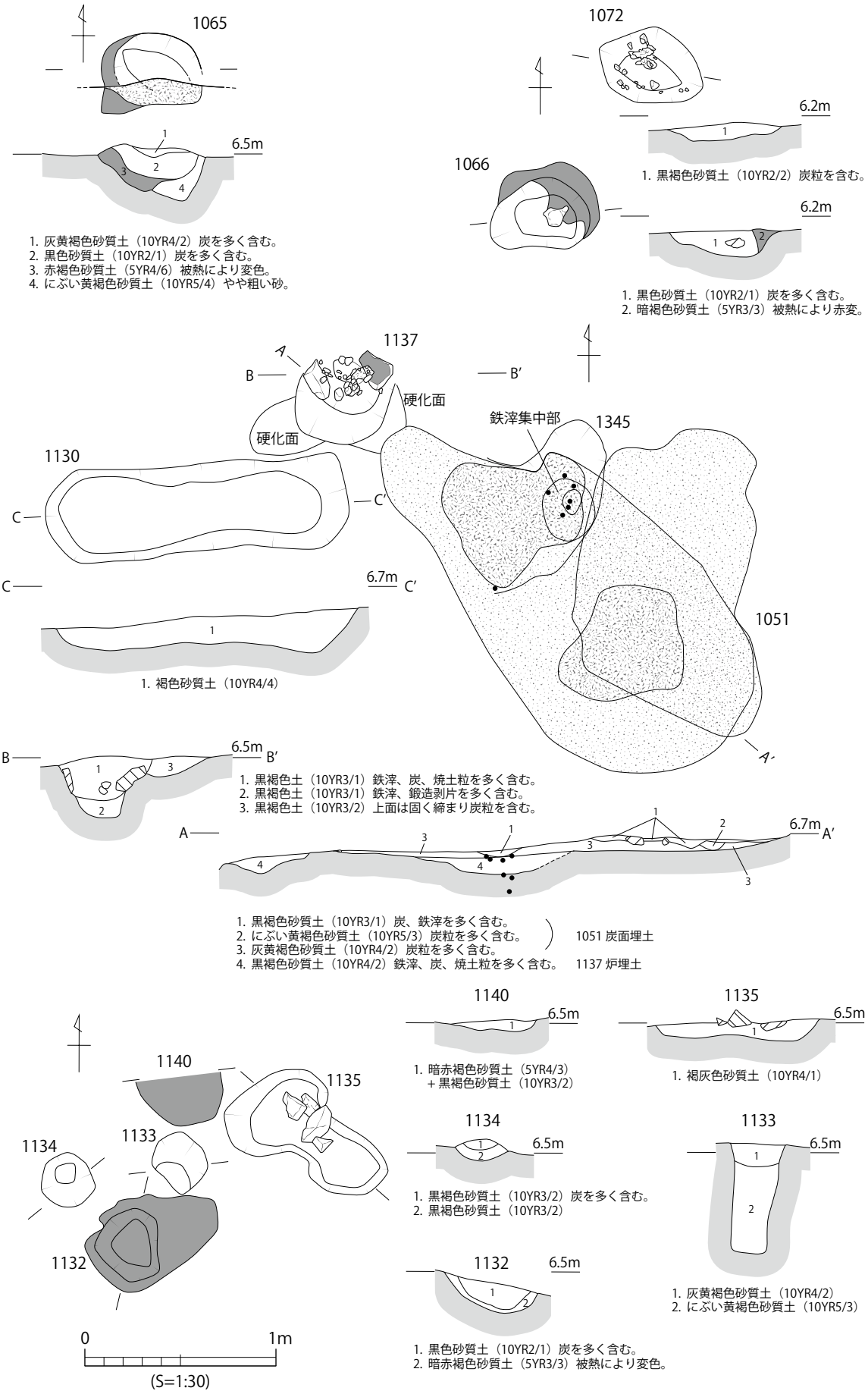
遺構 1418 柱穴列（第 95 図）

遺構1131布掘建物の東側で検出した。3基の柱穴が直線的に並ぶ。遺物は流れ込みの土器小片以外は出土していないが、建物とほぼ平行することから同時期の遺構と判断した。

遺構 1065 鍛冶炉（第 96 図）



第 95 図　遺構 1131 布掘建物、遺構 1418 柱穴列および出土遺物



第 96 図　中世後半の鍛冶炉ほか関連遺構

遺構1064礎石建物の南東側で検出した。当初４ライン上に設定したトレンチの壁で炭・焼土溜を確認し遺構と認識したため、約２分の１が失われてしまった。径約50cm、深さ約30cmの土坑状を呈し、粘土などはみられない。埋土の１・２層には多くの炭を含み、３層は被熱により赤く変色している。図示していないが、埋土からは鍛冶滓が少量、鍛造剥片がわずかに出土した。規模や出土遺物から比較的簡易な鍛錬鍛冶炉と考えられる。

遺構 1066・1072 鍛冶炉（第 96 図・第 97 図）

遺構1064の南西側で検出し、約45cmの距離を置いて位置する。遺構1066は当初炭溜を検出し、調査を進める中で鍛冶関連遺物がまとまって出土したことから鍛冶炉と判断した。長径約60cm、短径約45cm、深さ約15cmの楕円形を呈する。図示していないが、埋土からは鍛冶滓や鍛造剥片が出土し、いずれも遺構1065より量が多い。これも比較的簡易な鍛冶炉と考えられる。

遺構1072は遺構1066を調査中に周囲で鍛冶滓がまとまって出土したことから遺構と認定し、その後掘方を確認した。長径約60cm、短径約40cm、深さ約15cmの浅い土坑状を呈する。埋土に含まれる炭は少なく焼土も検出されていない点は上述の鍛冶炉とやや異なる。一方で、埋土からは大量の鍛冶滓や鍛造剥片が出土しており、うち１点の椀形鍛冶滓について図示し、分析をおこなった（第97図１）。１はやや大型で厚手の椀形鍛冶滓で、分析資料のMRH−７にあたる。分析の結果、熱間での鍛打加工にともなう鍛錬鍛冶滓と考えられる。

遺構 1137 鍛冶炉、遺構 1051・1345 鉄滓廃棄場、遺構 1130 土坑（第 96 図・第 97 図）

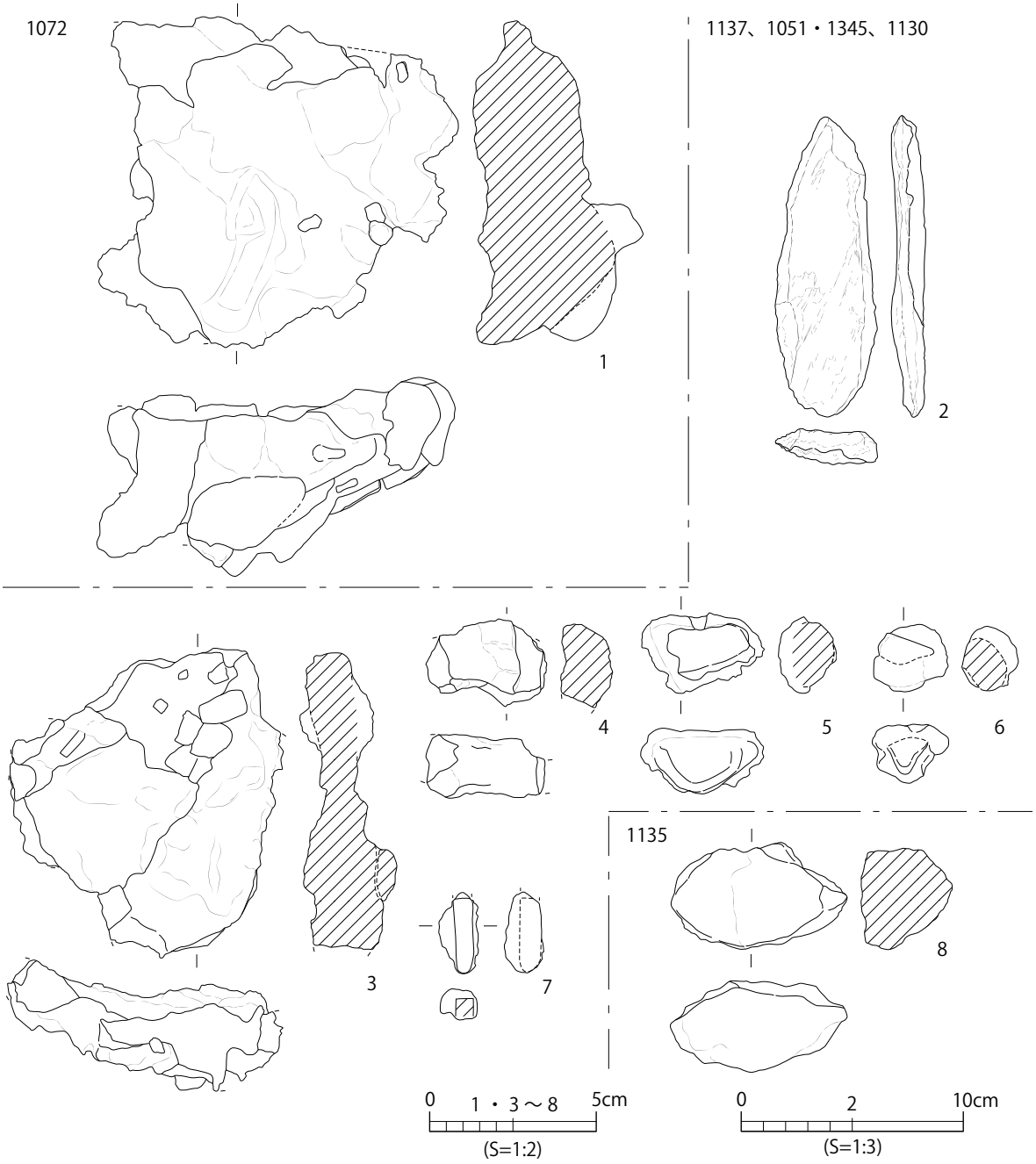
遺構1064礎石建物の南東側で検出した鍛冶炉とそれに付随する鉄滓廃棄場、性格不明の長楕円形土坑である。遺構1137は４ライン上に設定したトレンチ掘削中に検出したため、北側の一部が失われてしまった。径約50cm、深さ約30cmの掘り込み壁面に扁平な石を張り付けている。埋土は黒褐色土で、１層には鉄滓、炭、焼土粒、２層には鉄滓、鍛造剥片が多く含まれていた。周囲には被熱により硬化した黒褐色土が広がる。南東側には炭を大量に含む土の広がり（遺構1051）を検出し、その下位で鉄滓集中部（遺構1345）を検出した。遺構1051と1345はおそらく鉄滓を廃棄した場であり、遺構1137と一連のあるいは連続的な鍛冶操業によって形成されたと考えられる。また、南西側には長軸約160cm、短軸約45cm、深さ約15cmの土坑（遺構1130）を検出した。用途は不明であるが、位置関係から鍛冶炉に関係する遺構と判断した。

遺物は遺構1137・1051・1345で鍛冶滓、鉄塊系遺物、ガラス質溶融物、鍛造剥片などが大量に出土し、本遺跡で検出した鍛冶炉の中で最も出土量が多い。うち４点の鍛冶関連遺物について図示し、分析をおこなった。一方で、遺構1130では鉄製品が１点出土したのみである（第97図２〜７）。２・３・５は遺構1345、４は遺構1137、６は遺構1051、７は遺構1130から出土した。２は塩基性片岩製の打製石斧である。遺構が縄文時代の包含層に掘りこまれているため流れ込んだものと考えられる。３〜６は鍛冶関連遺物、７は鉄製品である。３はやや扁平な椀形鍛冶滓で、分析資料のMRH−5にあたる。分析の結果、熱間での鍛打加工にともなう鍛錬鍛冶滓と考えられる。４は鉄塊系遺物で、同MRH−4にあたる。分析の結果、鍛冶作業中に取り残された小鉄塊と考えられる。５・６は鉄塊系遺物で、それぞれ同MRH−６とMRH−３にあたる。分析の結果、ごく小型の鋳鉄粒で、鍛冶作業前の原料鉄もしくは炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る卸し鉄作業の中で脱炭せずに取り残されたものと考えられる。７は鉄釘と考えられる。

遺構 1132・1135 鍛冶炉、遺構 1133・1134 ピット、遺構 1140 焼土（第 96 図・第 97 図）

遺構1216掘立柱建物の北西側で検出した。鍛冶炉２基とそれに関連すると考えられるピット、焼土面である。遺構1132は埋土が２層に分かれ、１層には多くの炭を含み、２層は被熱により暗赤褐色に変色していた。また、周囲には焼土面が広がっていた。遺構1135は上面で石を検出し、埋土に炭や被熱痕はみられなかったが、埋土から鍛冶滓が出土したため鍛冶炉もしくは遺構1132に関連する土坑と判断した。２基のピットはそれぞれ深さが異なり、その用途は不明である。遺構1140の焼土は深さ約10cmの厚みをもって堆積していた。

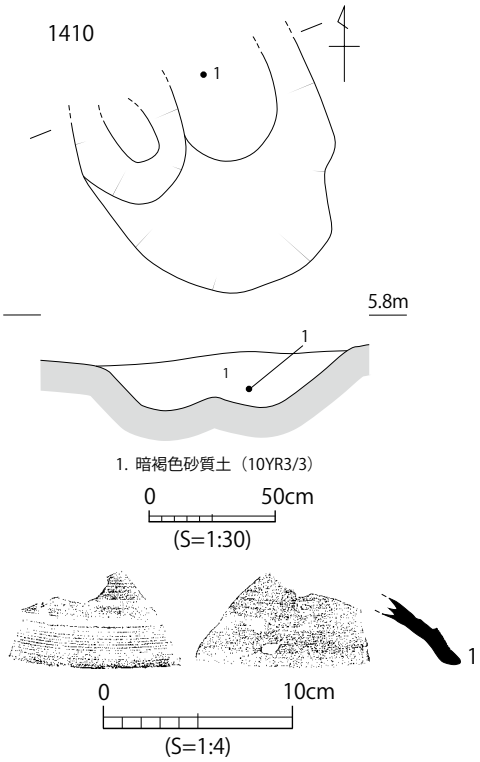
遺物は遺構1135から鉄製品、鉄塊系遺物、鍛冶滓が少量出土したのみである。うち鉄塊系遺物１点について図示し、分析をおこなった（第97図８）。８は鉄塊系遺物で、分析資料のMRH−８にあたる。分析の結果、炭素量を下げて鍛打加工可能な鉄素材を作る卸し鉄作業で脱炭しきらずに取り残されたものである可能性が考えられた。



第 97 図　中世後半の鍛冶炉ほか関連遺構出土遺物

遺構 1410 土坑（第 98 図）

調査区北壁際で検出した。長径85cm以上、短径約95cm、深さ約20cmを呈する。埋土から須恵器が出土したが（第98図１）、検出レベルから中世の遺構と判断した。１は須恵器の器台と考えられる脚部片である。端部が外側に踏ん張るように開く。



第 98 図　遺構 1410 土坑および出土遺物

遺構 1194 焼土面、遺構 1325 土坑（第 99 図･第 100 図）

遺構1216掘立柱建物の北東側で検出した。遺構1325は長径約120cmの不整形土坑で、深さも20～50cmと一様でない。このすぐ南側で遺構1194焼土面を検出した。両者の関係は不明である。

遺構1325の埋土から土師質土器や鉄製品、古銭が出土した(第100図１～５)。１は龍泉窯系青磁の碗と考えられる。時期は15世紀頃であろうか。２は土師質土器の褐色系坏である。器壁がやや厚手で深みのある器形になると思われる。３・４は鉄製品である。３は鉄鏃の茎部もしくは釘と思われる。断面が方形で分厚いことから釘の可能性が高い。４は釘である。頭形状から折釘と呼ばれるもので、先端を欠損する。５は古銭である。文字は摩滅しているが、おそらく北宋銭の皇宋通寶と考えられる。初鋳は1039年である。

遺構 1233 不整形土坑、1336 ピット（第 99 図・第 100 図）

遺構1216掘立柱建物の北東側で検出した。遺構1233は平面形が凹字形を呈する土坑で、壁はほぼ垂直に近い角度で立ち上がっていた。この内部で遺構1336を検出した。長径約50cm、短径約40cm、深さ約45cmを呈する。

遺物は土師質土器と縄文土器、石製品が出土した（第100図６～８）。６・７は遺構1233、８は遺構1336から出土した。６は土師質土器の褐色系坏と思われる。底部が厚く、口縁に向かって大きく開く器形と考えられる。７は縄文土器の浅鉢口縁部である。柳浦分類のＢ１類にあたり、原田式期～突帯文２期のものであろう。８は磨石である。表裏面ともに良く使用されている。

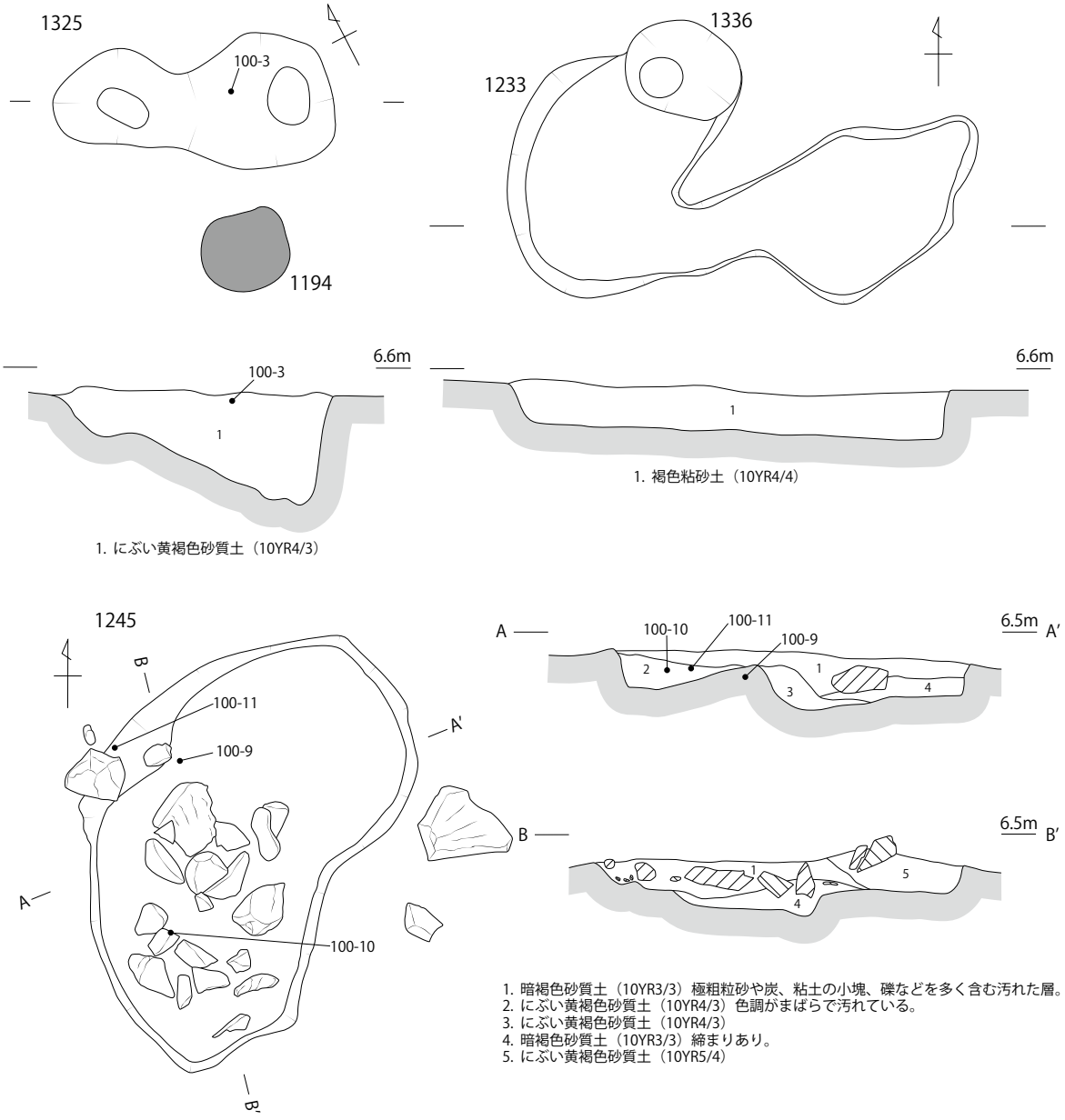
遺構 1245 集石土坑（第 99 図・第 100 図）

遺構1216掘立柱建物の東側で検出した。自然石が無造作に集められ、土坑のプランも不整形である。埋土１層は粗粒砂や細礫、炭、粘土小塊を多く含む汚れた堆積をしており、後世に撹乱を受けている可能性が高い。本来は邪魔な石や土器類を集めた廃棄土坑であったと考えられる。

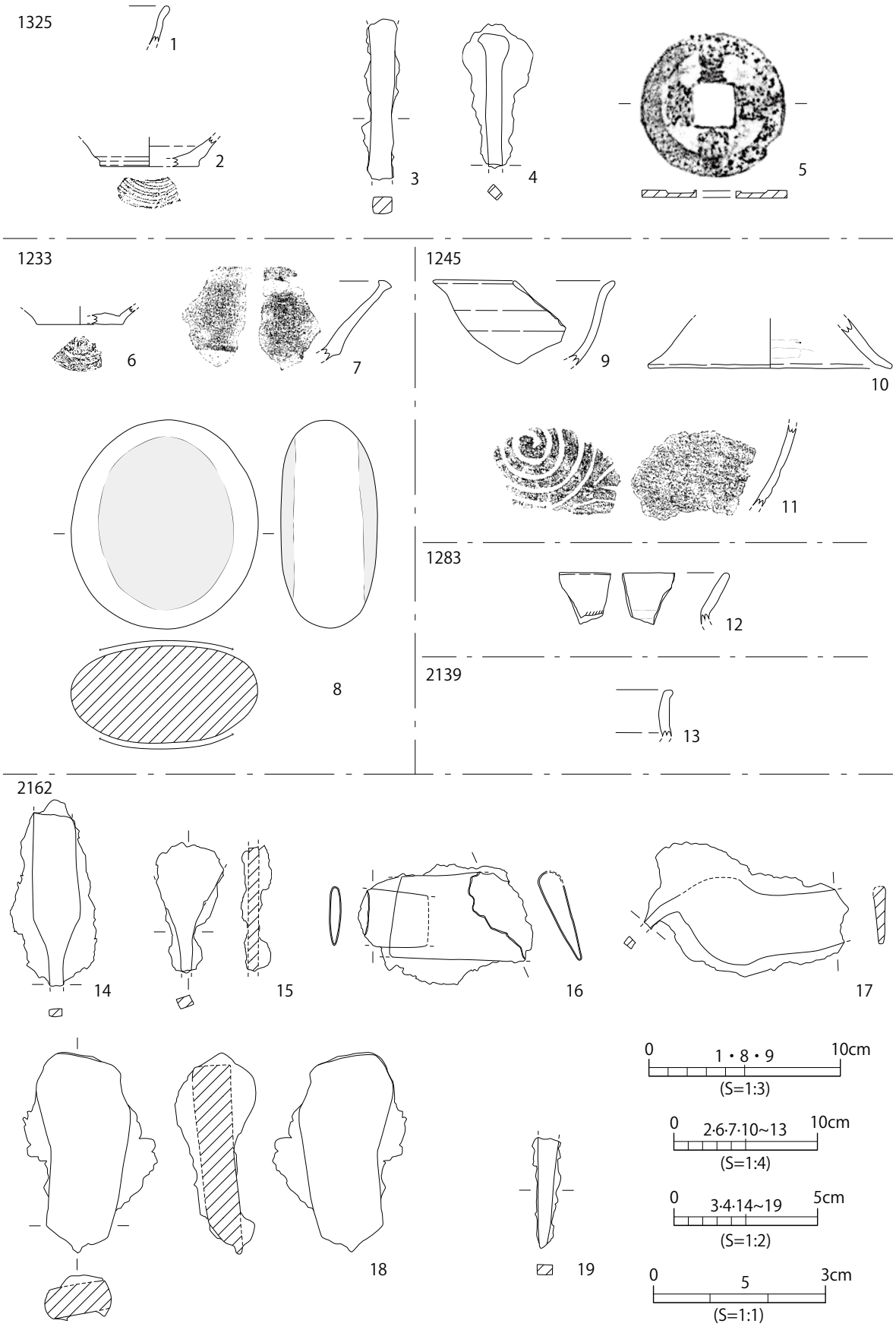
遺物も陶磁器や土師器、縄文土器などが時期幅のある遺物が出土した（第100図９～11）。９は龍泉窯系青磁の碗である。上田分類のＤ類にあたり、時期は15世紀頃と考えられる。10は鼓形器台の脚部である。径の大きさなどから小谷式であろう。11は縄文土器の浅鉢である。胴部には特徴的な渦巻き文がみられ、布勢式併行期と考えられる。

遺構 1283 土坑（第 99 図・第 100 図）

古墳時代前期の竪穴建物である遺構1276と重複するが、検出層位から中世の遺構と判断した。Ｆラインに沿って設定したトレンチにより西半を損失してしまった。長径約80cm、短径約55cm以



第 99 図　中世後半の土坑・ピット



第 100 図　中世後半の土坑・ピット出土遺物

上、深さ約40cmの土坑である。

遺物は土師器が出土したが、小片であり流れ込みと考えられる（第100図12）。12は土師器の甕口縁部である。大東式以降のものであろう。

遺構 2139 土坑（第 99 図・第 100 図）

２区の西側、斜面部の下方で検出した。径65 ～ 70cm、深さ約25cmの土坑である。4–3層上面で検出したが、おそらく掘り込み面は4–1・2層の上面と考えられる。

遺物は土師器が出土した（第100図13）。13は土師器の甕口縁部である。小谷式と思われる。

遺構 2162 土坑（第 99 図・第 100 図）

２区斜面部の上端の縁で検出した。後世の撹乱により西側が失われている。長径70cm以上、短径約80cmで深さは７ cmと非常に浅い。

遺物は鉄製品が６点出土し、やや特異な様相を呈する（第100図14 ～ 19）。14 ～ 19はすべて鉄製品である。14・15は鉄鏃である。14は鏃身の形状から柳葉Ⅱ式もしくは方頭斧箭Ⅰ式と考えられるが、先端と茎部を欠損している。15は欠損が激しいが柳葉Ⅱ式もしくは雁又式の可能性がある。16は非常に薄い鉄板が筒状になった２つのパーツからなっており、X線では左側の製品が右側の製品に挿入されているようにみえる。欠損部が多く器種や用途は不明である。17は不定形の板状製品で、右側の部分が上下で厚みが異なることから刃物の可能性がある。18は厚さが約1.3cmもある鉄塊状の鉄製品である。形状も不定形で鉄素材の可能性もある。19は棒状鉄製品である。大部分を欠損しているが、本来は10cm前後のものと考えられる。断面は方形を呈する。

遺構 1228 ピット・1230 土坑・ピット（第 101 図・第 102 図）

遺構1216掘立柱建物の北側で検出した。遺構1230を遺構1228が切っている。遺構1230は底面でピットを検出した。遺構1230は長さ約150cmで埋土から自然石が一点出土した。

遺物は遺構1230から鉄製品、古銭、石製品が出土した（第102図１～３）。１は安山岩製のスクレイパーである。鋭利な刃をもつ。２は釘と思われるが、頭部を欠損しており詳細は不明である。３は北宋銭の大観通寶である。初鋳は1107年である。

遺構 1067 ピット（第 101 図・第 102 図）

遺構1216掘立柱建物の西側で検出した。径約50cm、深さ約20cmを呈する。埋土から白磁が出土した（第102図４）。４は白磁の八角坏である。森田分類のD群にあたり、時期は15世紀と考えられる。

遺構 1111 ピット（第 101 図・第 102 図）

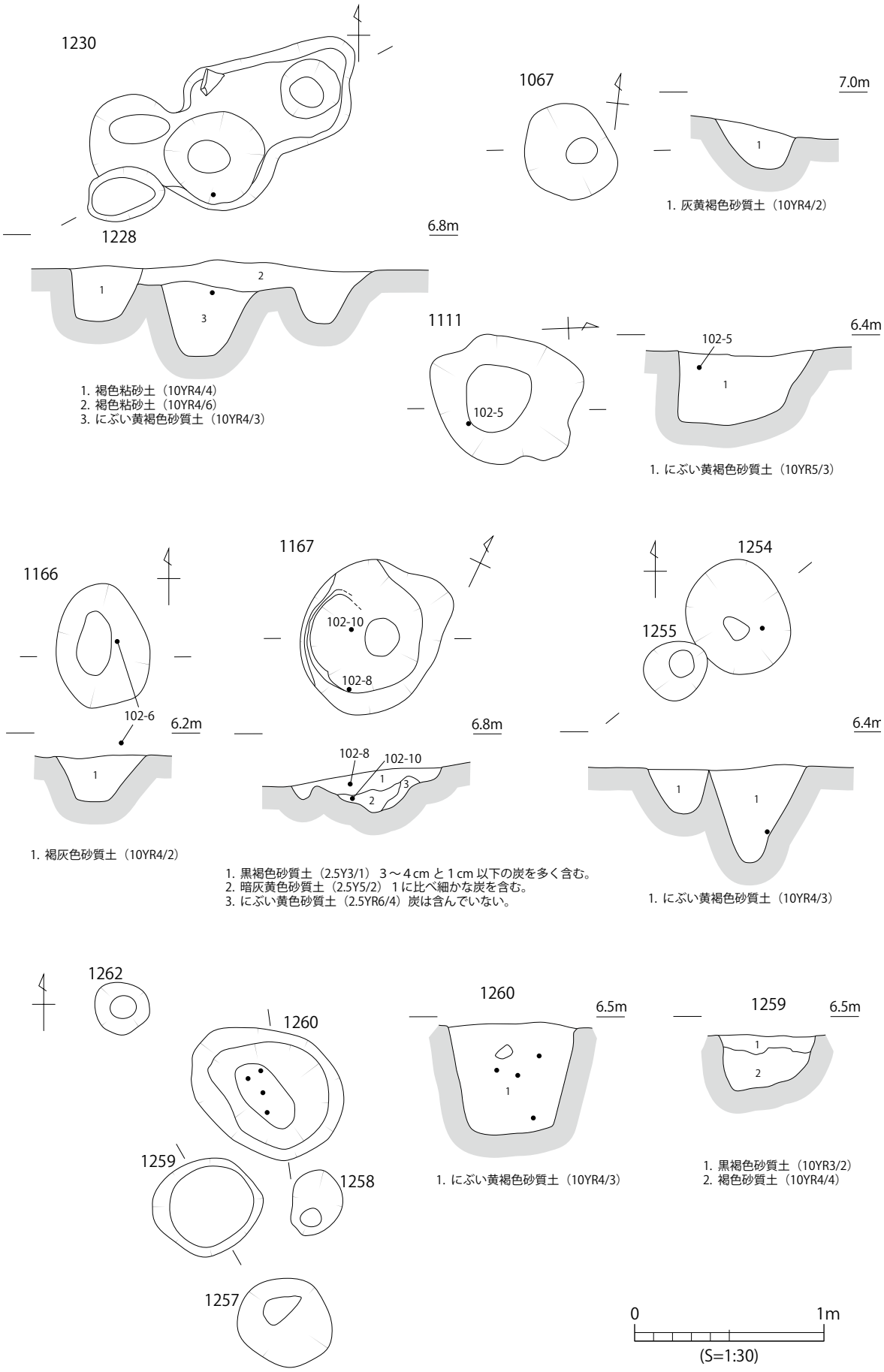
遺構1064礎石建物と重複して検出した。おそらく建物よりも先行する。径約70cm、深さ約40cmの不整形円を呈する。

遺物は鉄製品が出土した（第102図５）。５は棒状鉄製品である。片方の先端をやや欠損する。

遺構 1166 ピット（第 101 図・第 102 図）

遺構1064礎石建物と重複して検出したが、関係性は不明である。長径約65cm、短径約50cm、深さ約25cmを呈する。

遺物は管状土錘と鉄製品が出土した（第102図６・７）。６は管状土錘である。一部欠損するが全形は把握でき、Ｂ２類である。７はヤスもしくはモリと考えられる棒状鉄製品である。片方の端部を欠損する。断面は円形を呈する。



第 101 図　中世後半の土坑・ピット

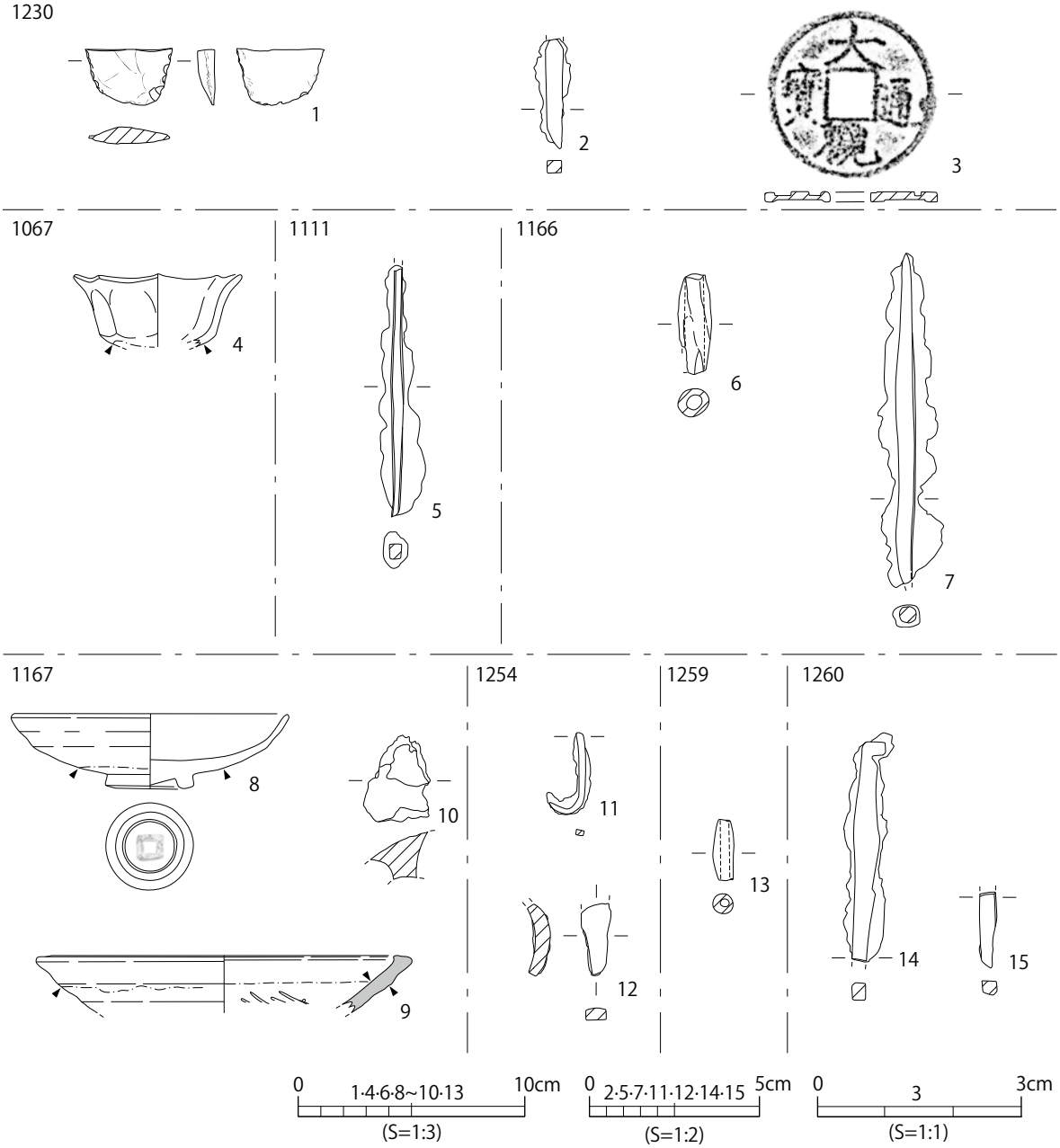
遺構 1167 ピット（第 101 図・第 102 図）

遺構1216掘立柱建物の北西側で検出した。まず炭を多く含む面を検出したため炭溜と考えたが、その後ピット状の遺構であることがわかった。長径約80cm、短径約70cm、深さ約20cmの比較的浅いものである。埋土上層の１層にとくに炭が多く含まれる。

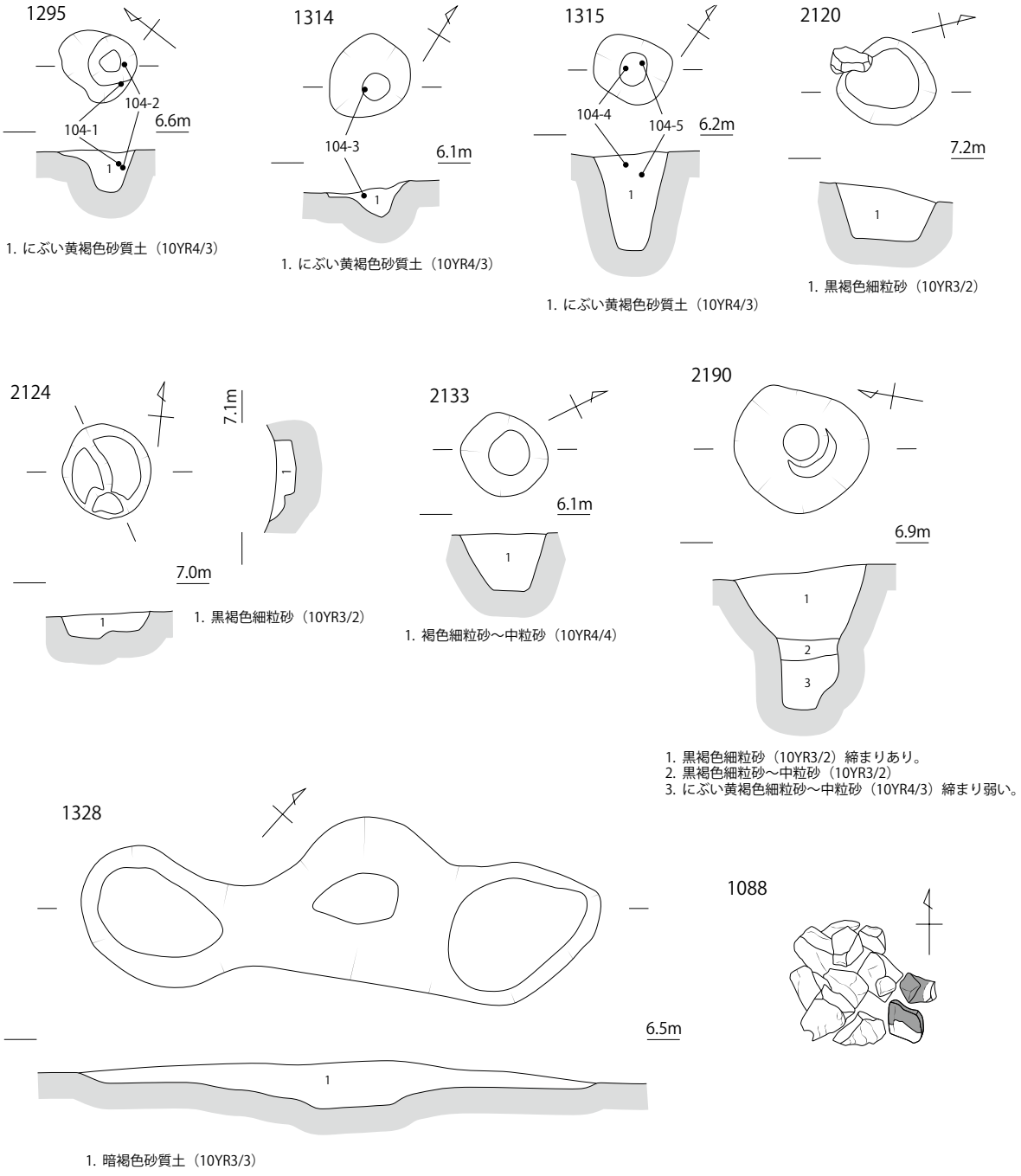
遺物は陶磁器や羽口片が出土した（第102図８～ 10）。８は白磁の皿である。底部の中心に朱色の方形印がみられる。森田分類のD群にあたり、時期は15世紀頃である。９は瀬戸美濃系陶器の皿である。内面には櫛描き文がみえる。時期は14 ～ 15世紀であろう。10は羽口の破片である。小片であるため径などは不明である。

遺構 1254・1255 ピット（第 101 図・第 102 図）

遺構1216掘立柱建物と重複して検出した。遺構1254は径約50 ～ 60cm、深さ約50cmで、遺



第 102 図　中世後半の土坑・ピット出土遺物



第 103 図　中世後半のピット・落ち込み・集石

構1255は径30 ～ 35cm、深さ約25cmである。

遺構1254から鉄製品が出土した（第102図11・12）。11は釣針と考えられる。先端はJ字状に曲がり、返しはみられない。12は不明品である。断面はやや扁平な方形で、全体的に湾曲する。

遺構 1257 ～ 1260・1262 ピット（第 101 図・第 102 図）

遺構1216の北側で検出した。まとまってピットが検出されたが、建物は復元できていない。遺構1259は径約50cm、深さ約30cmで、埋土から土錘が出土した。遺構1260は長径約85cm、短径約65m、深さ約60cmを呈する。

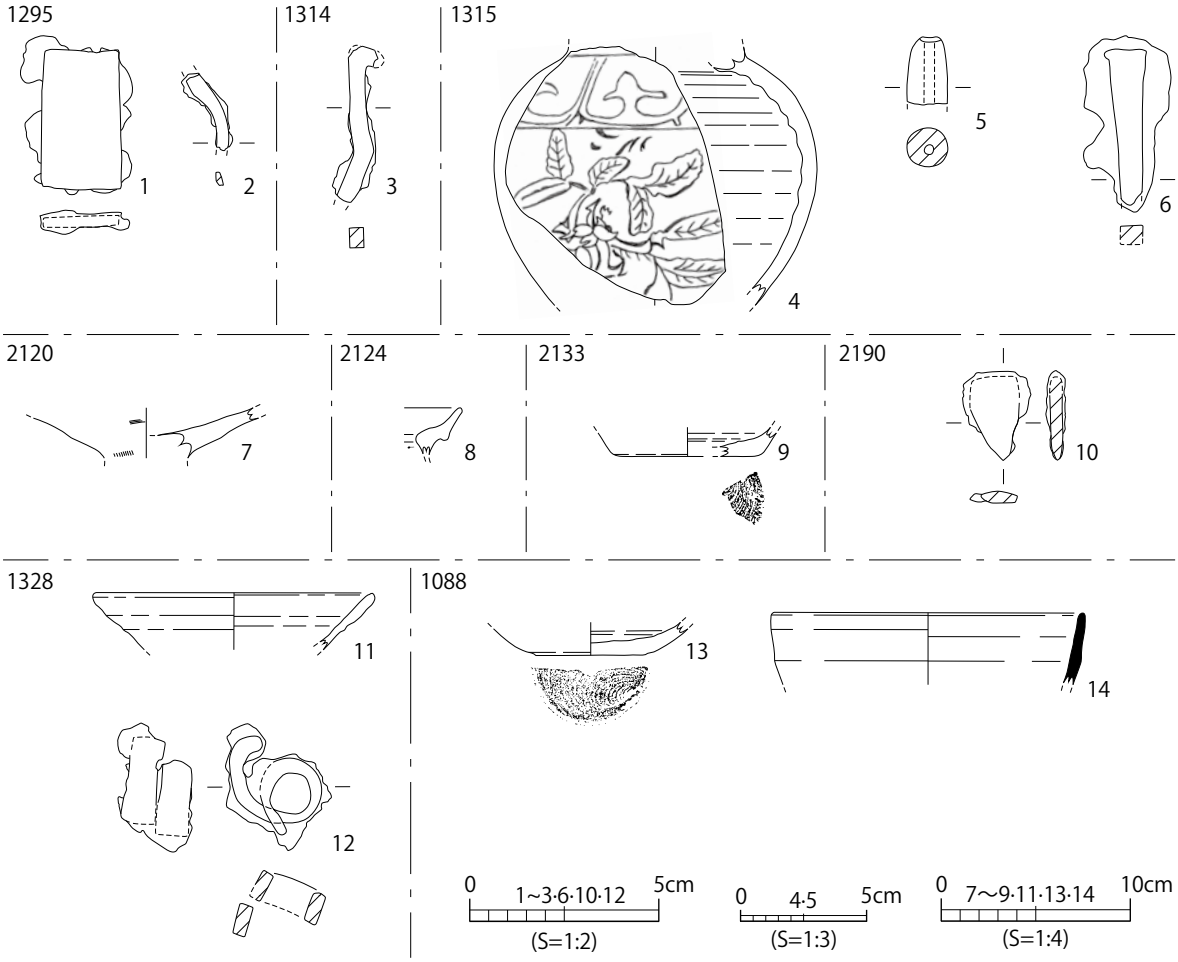
遺物は遺構1259から管状土錘、遺構1260から鉄製品が出土した（第102図13 ～ 15）。13は管状土錘A類である。14・15は鉄製品である。14は鉄釘で、頭形状から折釘である。先端を欠損する。15も釘であるが、先端のみの破片であり詳細は不明である。

遺構 1295 ピット（第 103 図・第 104 図）

遺構1216掘立柱建物の北東側で検出した。径約35cm、深さ約20cmのピットである。遺物は鉄製品が出土した（第104図１・２）。１は板状鉄製品である。欠損はなく、厚さが約３mmの長方形板である。２は棒状の鉄製品である。両端を欠損しており、詳細は不明である。

遺構 1314 ピット（第 103 図・第 104 図）

遺構1216掘立柱建物の西側で検出した。径約40cm、深さ約10cmと浅い。遺物は鉄製品が出土した（第104図３）。３は鉄釘である。頭形状から折釘と呼ばれるもので、先端を欠損する。中ほど

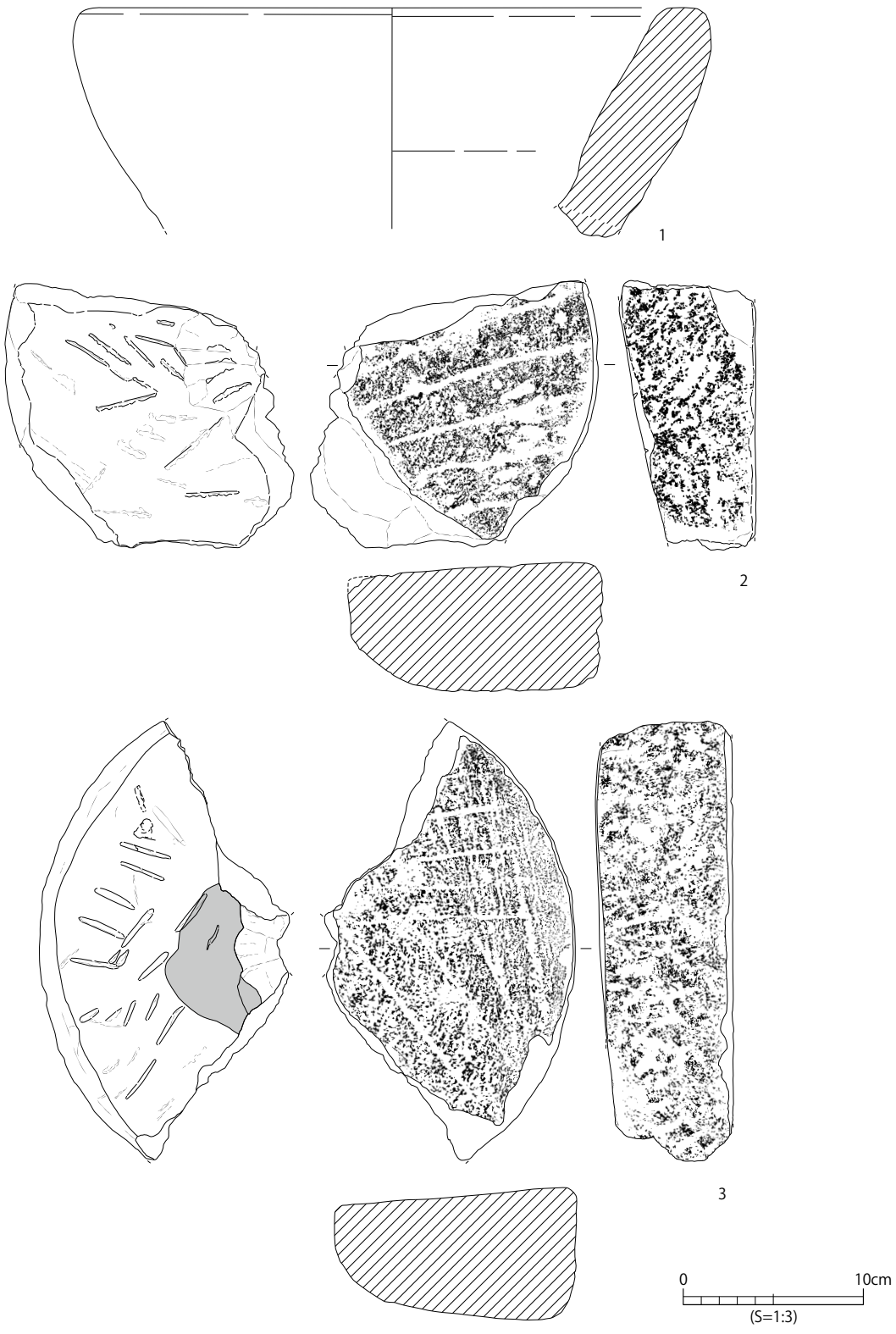


第 104 図　中世後半のピット・落ち込み・集石出土遺物

で折れ曲がっている。

遺構 1315 ピット（第 103 図・第 104 図）

遺構1216掘立柱建物の柱穴の一つである遺構1104の下層で検出した。径約35cm、深さ約45cmを呈する。



第 105 図　遺構 1141 集石出土遺物

遺物は陶磁器と鉄製品が出土した（第104図４～６）。４は龍泉窯系青磁の壺である。外面に草花文様を施す。あまり流通していない希少品と考えられる。５は管状土錘である。約２分の１が欠損するが、C類の可能性がある。６は鉄釘である。頭形状からおそらく折釘と考えられる。

遺構 2120 ピット（第 103 図・第 104 図）

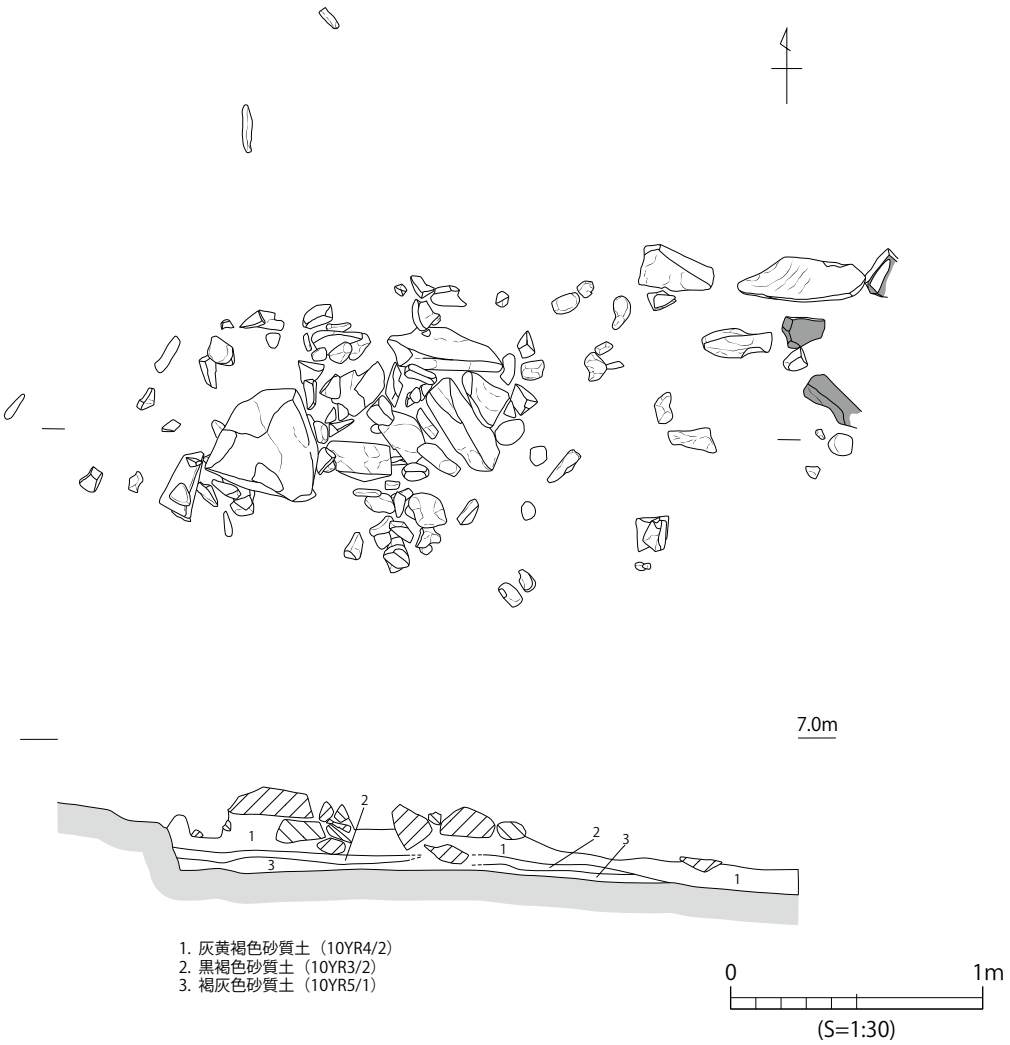
径40～45cm、深さ25cmを呈し、検出面で自然礫が出土した。遺物は土師器が出土したが、流れ込みの可能性が高い（第104図７）。７は土師器の高坏である。有段外反形になるもので、大東１～３式と考えられる。

遺構 2124 ピット（第 103 図・第 104 図）

径約40cm、深さ約10cmの浅いピットである。遺物は弥生土器などが出土した（第104図８）。８は弥生土器の甕口縁部である。口縁部外面に文様はみられない。石見Ⅴ−２様式と考えられる。

遺構 2133 ピット（第 103 図・第 104 図）

２区の西側、斜面部の下方に分布するピットの一つである。径約40cm、深さ約25cmを呈する。遺物は土師質土器が出土した（第104図９）。９は土師質土器の褐色系皿である。底部にやや厚みがある。



第 106 図　遺構 1142 集石

遺構 2190 ピット（第 103 図・第 104 図）

遺構2217竪穴建物と重複して検出したが、検出した高さから中世の遺構と判断した。径約60cm、深さ約65cmを呈する。

遺物は鉄製品や弥生土器が出土した（第104図10）。10は不明鉄片である。厚さ約３mmで、平面が三角形状を呈するが、詳細は不明である。

遺構 1328 落ち込み（第 103 図・第 104 図）

遺構1216掘立柱建物と遺構1416掘立柱建物の間で検出した。長さ約240cm、最大幅約90cmの不整形な落ち込みで、深さは約20cmと浅い。埋土はやや汚れており、撹乱の可能性もある。

遺物は土師質土器と鉄製品が出土した（第104図11・12）。11は土師質土器の褐色系坏である。非常に硬質で須恵質である。器壁が薄く、深さのある器形になると思われる。12は小札を綴じるための革製綴紐と考えられる。

遺構 1088 集石（第 103 図・第 104 図）

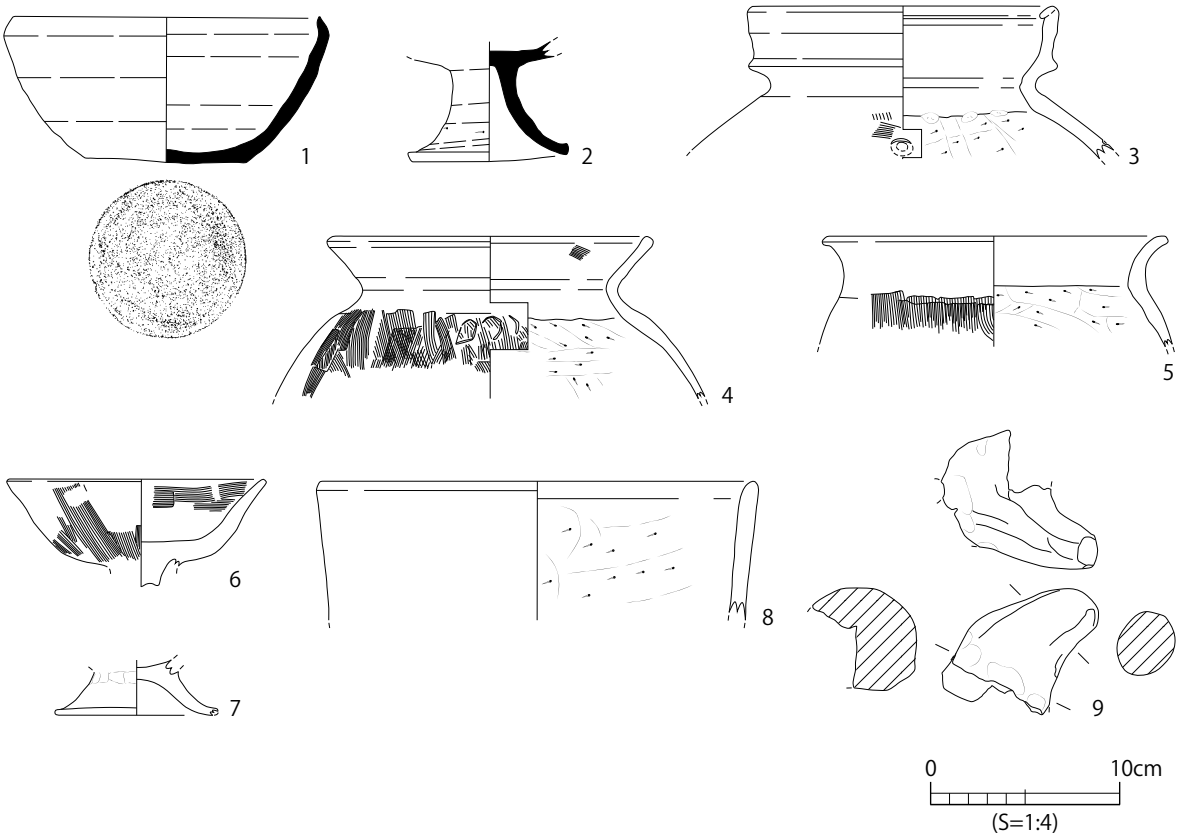
調査区東壁際で単独で検出した。11個の自然石が集積され、一部に被熱による変色がみられた。

遺物は土師質土器や須恵器が出土した（第104図13・14）。13は土師質土器の褐色系坏である。底部が厚く、丸みを帯びて立ち上がる。15 ～ 16世紀のものであろうか。14は須恵器の坏である。石見８期以降と考えられる。

遺構 1141 集石（第 103 図・第 105 図）

遺構1415・1416掘立柱建物の南東側で単独で検出した。いずれも自然石であり、便宜的に３面に分けて記録した。おそらく建物を建てた際に邪魔な石などを集めたものと考えられる。

遺物は石臼・石鉢の破片が３点出土したが、いずれも接合しない。１は石鉢である。内面は使用

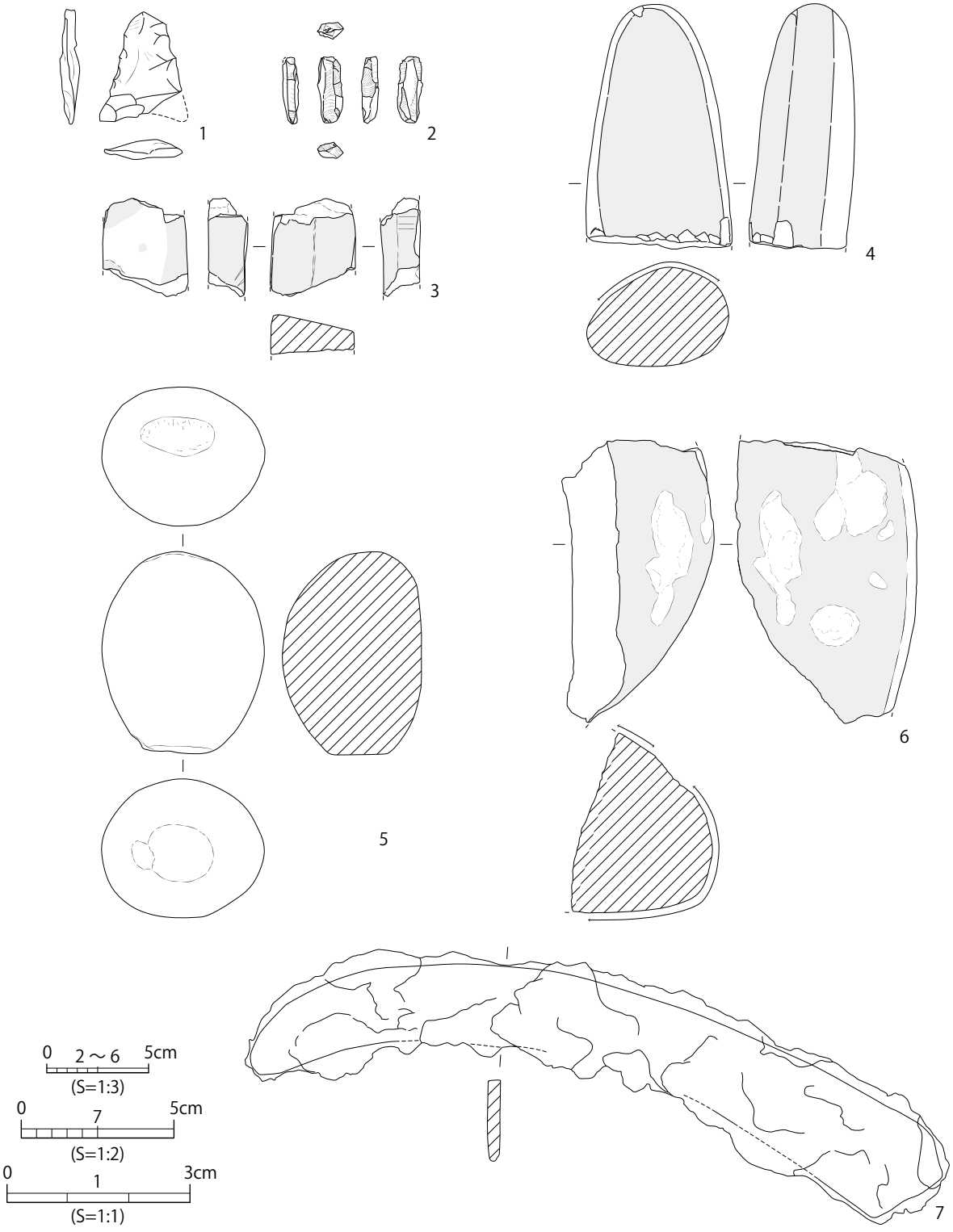


第 107 図　遺構 1142 集石出土遺物（１）

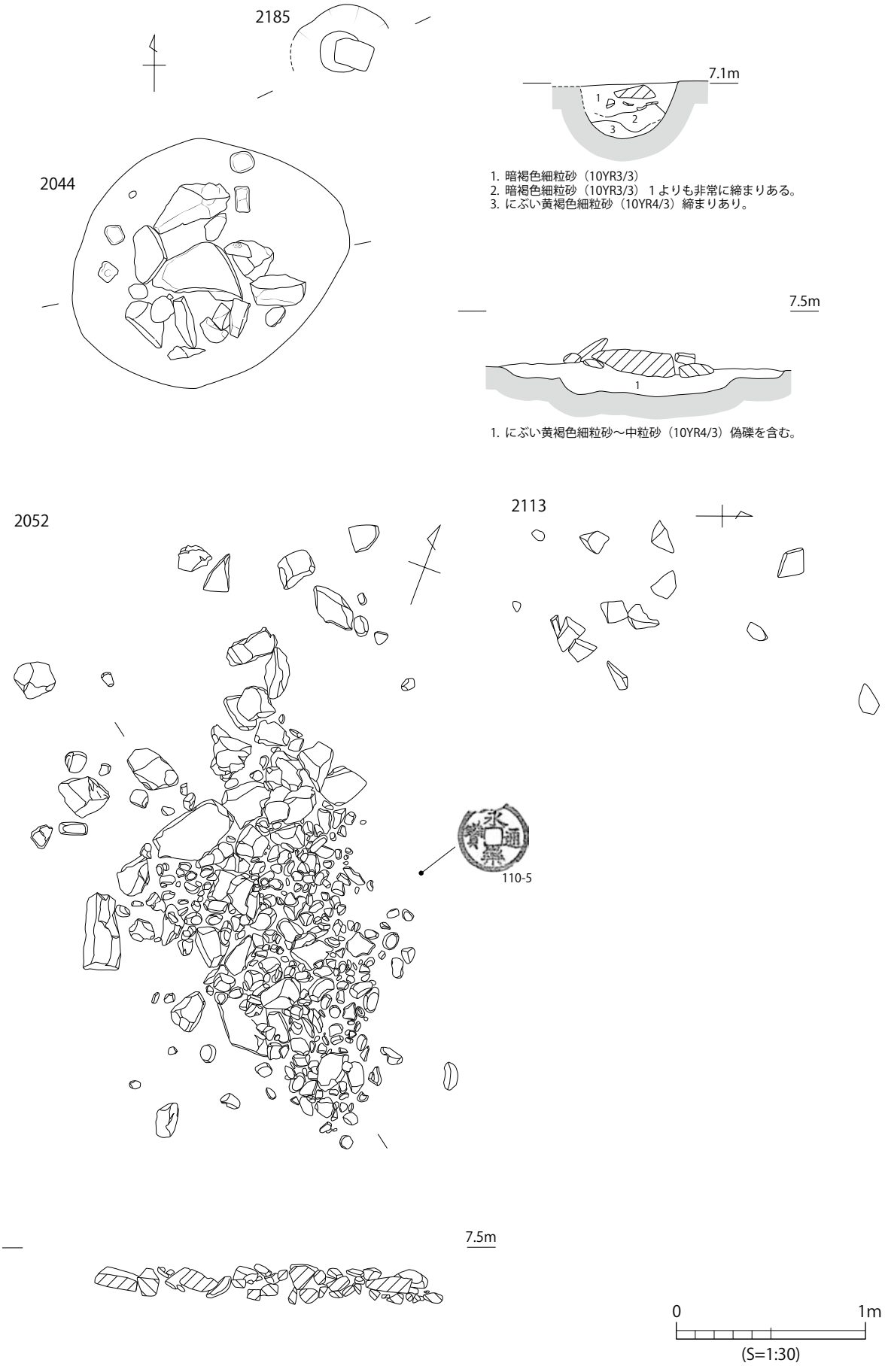
により非常に滑らかである。内面から断面にかけて被熱痕があることから、廃棄されたあとに火を受けたものであろう。２・３は挽臼である。２は破片のため溝構成は不明である。側面には鑿痕跡が明瞭に残る。３も破片のため溝構成は不明である。側面には鑿痕跡が明瞭に残る。上面および側面に被熱により黒変した部分がある。

遺構 1142 集石（第 106 図～第 108 図）

調査区の北東隅で検出し、古墳時代前期の遺構1276竪穴建物と重複する。３ｍ×1.5ｍの範囲の



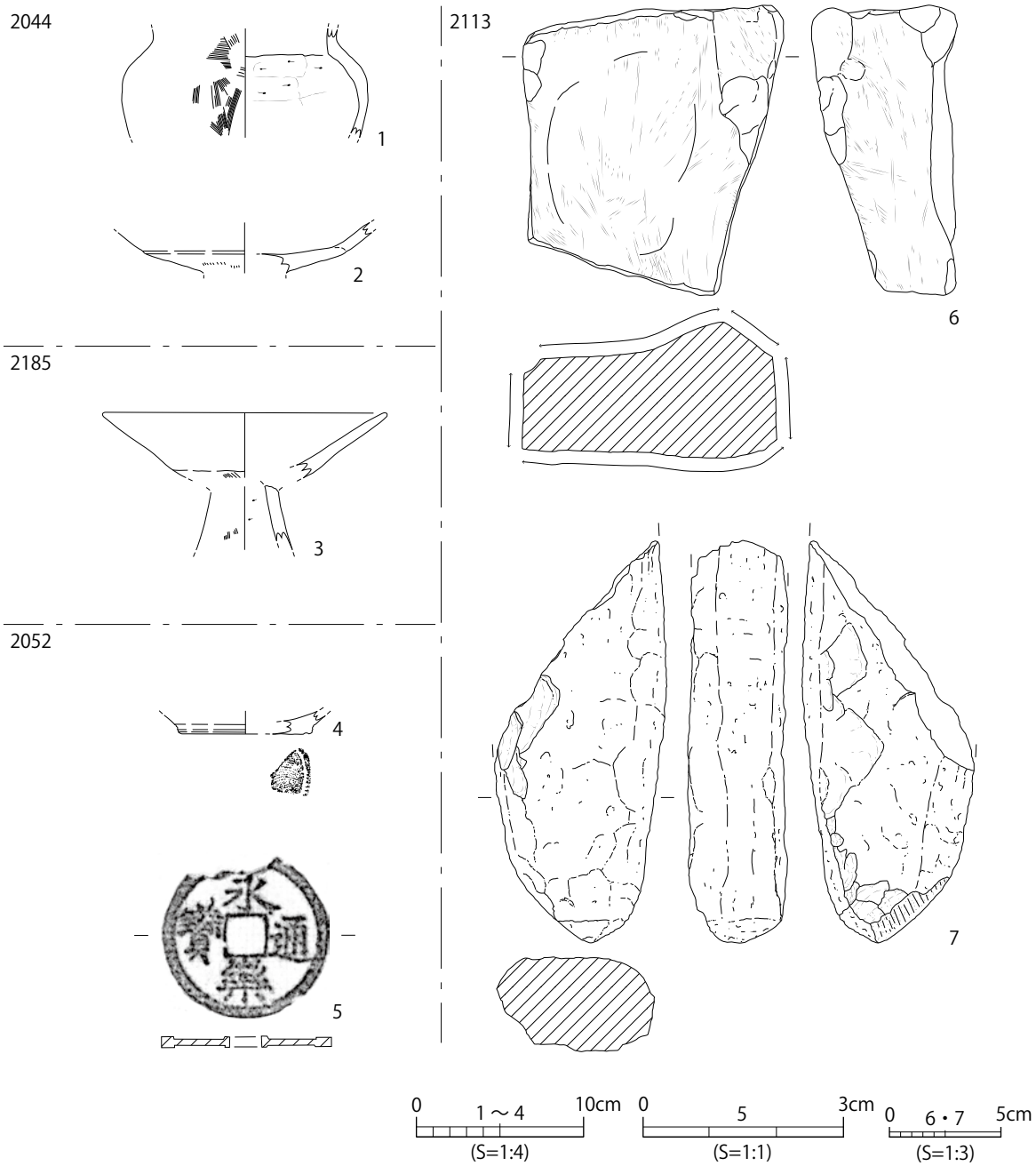
第 108 図　遺構 1142 集石出土遺物（２）



第 109 図　中世後半の集石・ピット

中に集石があり、中には被熱を受け変色したものもあった。人為的に配置した痕跡はなく、遺物の時期にも幅があるため中世の建物などを構築する際に邪魔な石を集めたものと考えられる。

遺物は石の間や下位から土器や石製品が混ざって出土した（第107図・第108図）。第107図1・2は須恵器である。1は鉢である。口縁部は内側へ屈曲し、平底を呈する。2は高坏である。坏部底面がかなり摩耗しており、使用によるものと考えられる。3～9は土師器である。3は複合口縁の甕である。口縁端部は内側に大きく折り返しており明瞭な段をもつ。肩部の文様は竹管文と考えられるが、欠損により不明瞭である。4は単純口縁の甕で、肩部に不整円形、鉤状、弧状の線刻がある。文様ではなく何らかの記号もしくは絵画と考えられる。5も単純口縁の甕であるが、頸部の屈曲が弱く、胴部があまり張らない。6は高坏である。接合部できれいに剥離している。7は低脚坏の脚部である。8は甑の口縁部と考えられる。9は土製支脚である。岩橋分類（岩橋2003）のⅠ



第 110 図　中世後半の集石・ピット出土遺物

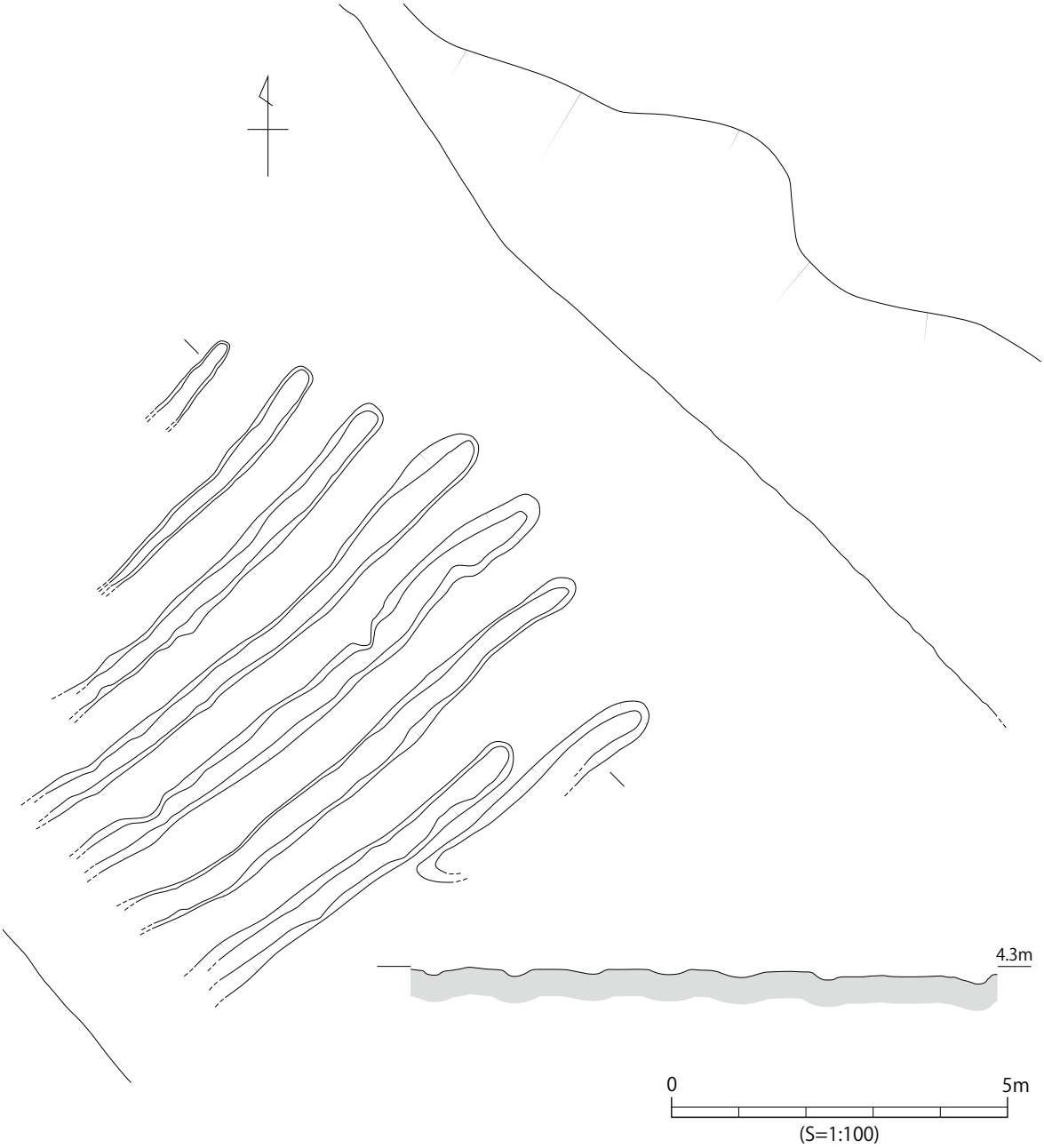
第 111 図　古代～中世前半全体図（１～３区）

類もしくはⅡ類と考えられる。4が小谷式、6・7が小谷式～大東式、3が大東式、5・8・9が大東4・5式から古代と考えられる。

第108図1～6は石製品である。1は安山岩製石鏃である。先端があまり鋭利でなく、未成品の可能性が高い。2は黒曜石製楔形石器である。欠損はない。3は砂岩製と思われる砥石である。上面の中心には工具で刻んだような直線がみられる。全面が使用されているが、裏面は一部表面が剥離している。4～6は磨石もしくは敲石である。4は上面にのみ使用痕がみられる。5は完形で楕円体形を呈する。上端部には楕円形の敲打痕をもつ。6は欠損が大きいが破面を除き全面が研磨されている。上面から側面にかけて被熱により淡赤褐色に変色しており、その部分に剥離が複数箇所みられる。7は鉄製品で、曲刃鎌である。

遺構2044集石、遺構2185ピット（第109図・第110図）

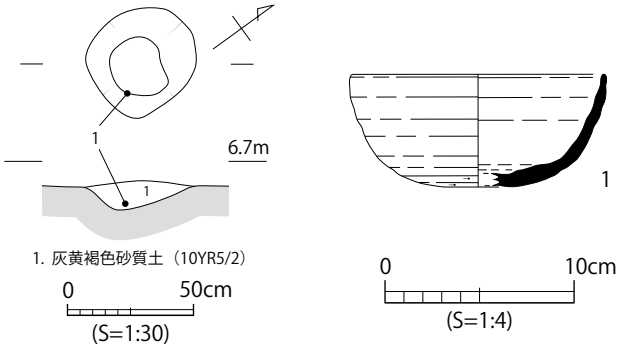
遺構1131の南東側で検出した。両方とも中央に扁平で大型の石があり、礎石もしくは柱穴の根



第112図　遺構2459畑

石の可能性も考えたが建物の復元はできていない。遺構2044の下位には径約150cm、深さ約15cmの浅い掘り込みを検出した。遺構2185は径約55cm、深さ約30cmを呈する。

遺物は土師器の小片が出土したのみである（第110図１～３）。１・２は遺構2044、３は遺構2185で出土した。１は壺で、口縁部を欠損するが直口壺になると思われる。２・３は高坏で、有稜外反形の坏部と考えられる。いずれも大東１～３式と考えられる。



第 113 図　遺構 1347 ピットおよび出土遺物

遺構 2052 集石（第 109 図・第 110 図）

長径約230cm、短径約130cmの範囲に集中的な集石があり、その周囲にも石が散乱していた。方形で比較的大きな角礫と小さな川原石で構成される。当初、角礫がL字状に並ぶように見え、何らかの構造物の痕跡かと考えたが、明らかにすることはできなかった。またこの下層でも掘り込みなどは確認できなかった。

遺物は石に混じって土師質土器が出土し、床面で古銭が出土した（第110図４・５）。４は土師質土器の褐色系皿である。底部がやや厚い。５は永楽通寶である。初鋳は1411年であることから、遺構2052は15世紀以降のものであろう。

遺構 2113 集石（第 109 図・第 110 図）

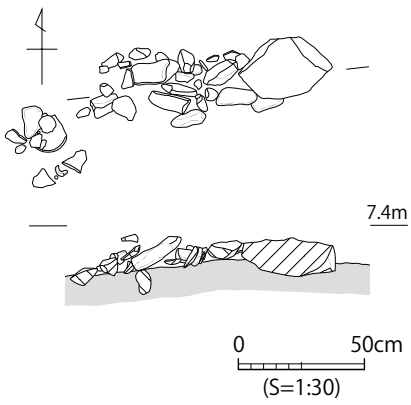
Ｅ６グリッドの斜面部で検出した。遺物は石に混じって石製品が出土した（第110図６・７）。６は砂岩製の砥石である。すべての面を使用している。７は塩基性片岩製の磨製石斧の未成品である。敲打段階で破損している。

７．４層内の遺構

４層内、つまり平安時代頃の河川浸食後に再堆積する中で形成された遺構群である。同一面で検出したものではないが、古代から中世前半の遺構として報告する。

遺構 2459 畑（第 112 図）

平安時代頃の河川浸食によって調査区西側が削られ、その後の再堆積によって埋没する途中、4–7層上面で検出した。北側は検出できなかったが、調査区西壁の土層で確認すると７ラインまでは及んでいないようである（第21図）。畝の西端は調査区西壁の外まで続いているが、東端は浸食によって生じた斜面部の手前で止まっており、やはり西低東高の地形が維持されたまま人の活動がおこなわれていたようである。当時は河川敷のような環境であったと推測する。畑の時期を決定する遺物は出土していないが、第４章の土師質土器の検討から13世紀以前のものと考えられる。比較的新しい遺構



第 114 図　遺構 2144 集石

ではあるものの、検出レベルは『縄文～古墳時代編』で報告する弥生時代の竪穴建物などよりも約2.5ｍ低く、この遺跡における地形の変遷と人の活動の関係を知る上で非常に重要な遺構となった。

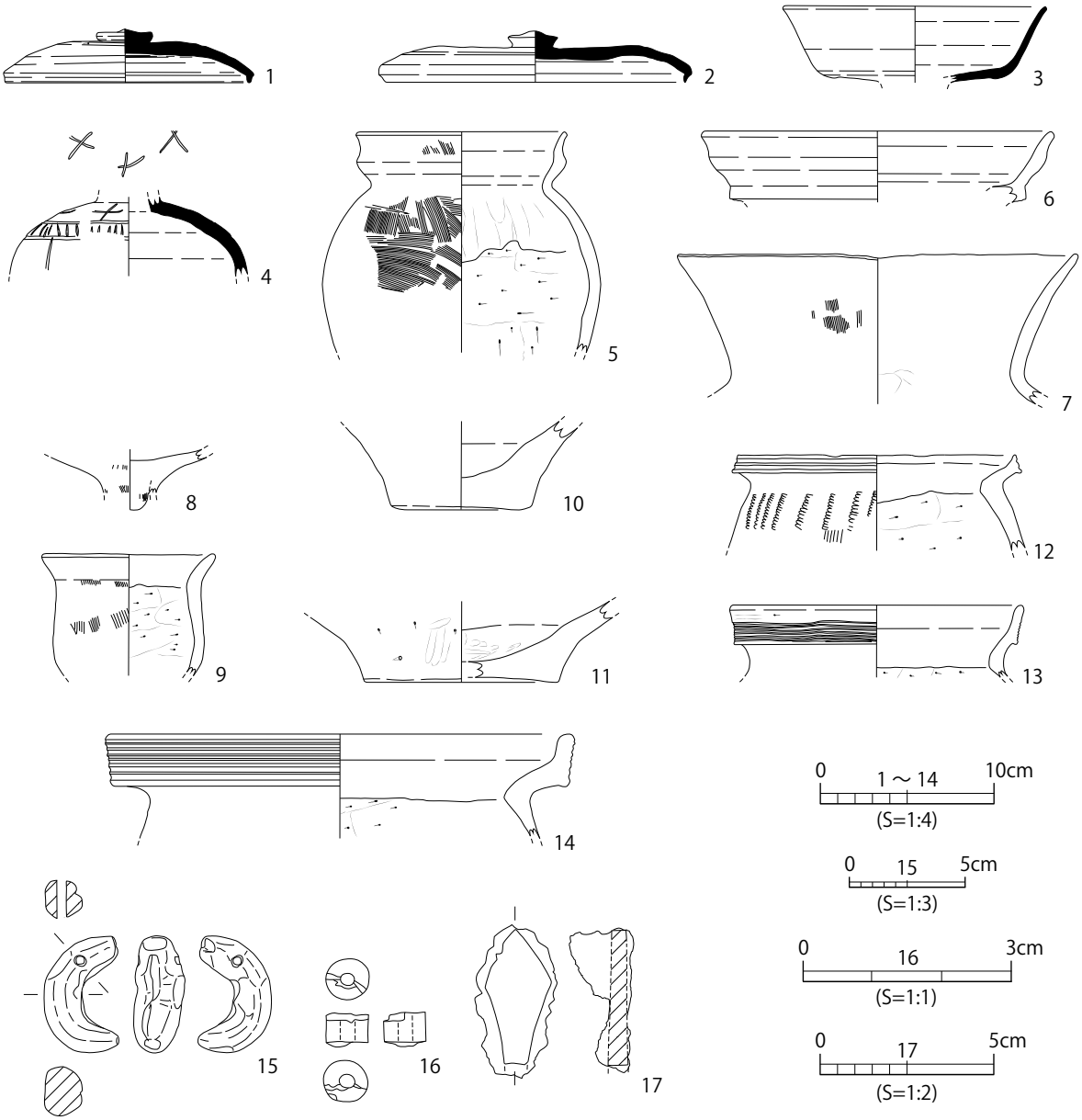
遺構 1347 ピット（第 113 図）

単独で検出したもので、直径約45cm、深さ約10cmを呈する。遺物は須恵器が１点出土した。１は須恵器の碗である。石見９・10期のものであろう。

遺構 2144 集石（第 114 図・第 115 図）

氾濫堆積層内で検出した集石である。時期幅のある遺物が出土しており水流により偶発的に集まったものと考えられる。ただ、検出場所の周囲では古墳時代中期を中心とする小型壺やミニチュア土器など祭祀行為を思わせる遺物が多く出土しており、本遺構でも土製勾玉が出土していることから付近で祭祀がおこなわれていた可能性がある。

図示できた遺物は多い（第115図）。１～４は須恵器である。１・２はいずれも宝珠状つまみをもつ蓋であるが、口径と側面形の扁平度に違いがある。３は高坏である。坏部の屈曲が比較的強い。

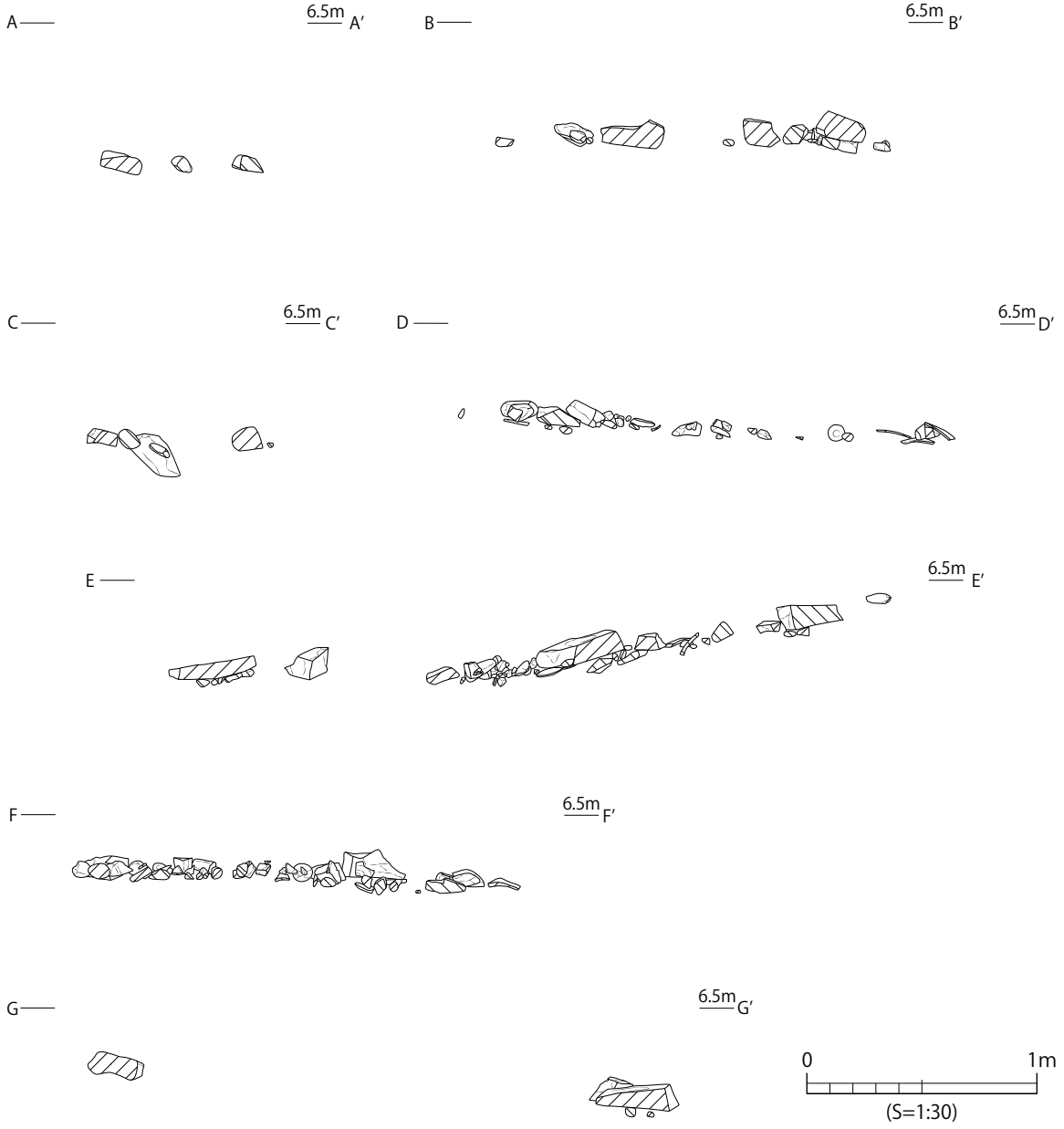


第 115 図　遺構 2144 集石出土遺物

第 116 図　遺構 2150 ～ 2156 集石（平面）

４は壷である。肩部は丸みを帯びて球形に近い胴部になると思われる。肩部および胴部には沈線と刺突文が施されるが、それ以外にヘラ描きの線刻がある。肩部の線刻はいずれも十字形をしている。１・３は石見７期、２は石見８期、３は石見９期と考えられる。５～９は土師器である。５は複合口縁の甕である。口縁部はかなり形骸化している。内面の調整はケズリが頸部まで及ばず、指でなでたような痕が残る。６は複合口縁の壷である。７は直口壷である。口縁部は長く、外反ぎみにゆるやかに開く。８は高坏の接合部である。９は小型鉢でやや深さがある。いずれも小谷式から大東式と考えられる。10 ～ 14は弥生土器である。10・11は石見Ⅰ様式で、それぞれ甕と壷の底部である。12は石見Ⅴ−１様式の甕で、肩部文様は櫛歯状工具による刺突文である。13・14は石見Ⅴ−２様式と思われ、肩部の文様は明らかではない。13は口縁部に擬凹線が施された後なで消されている。

15は土製勾玉である。全体的に太く厚手である。手捏ねにより成形され、円盤状の粘土を折り合わせた痕跡が内側に残っている。16は滑石製と思われる玉製品である。現状では小玉のように見

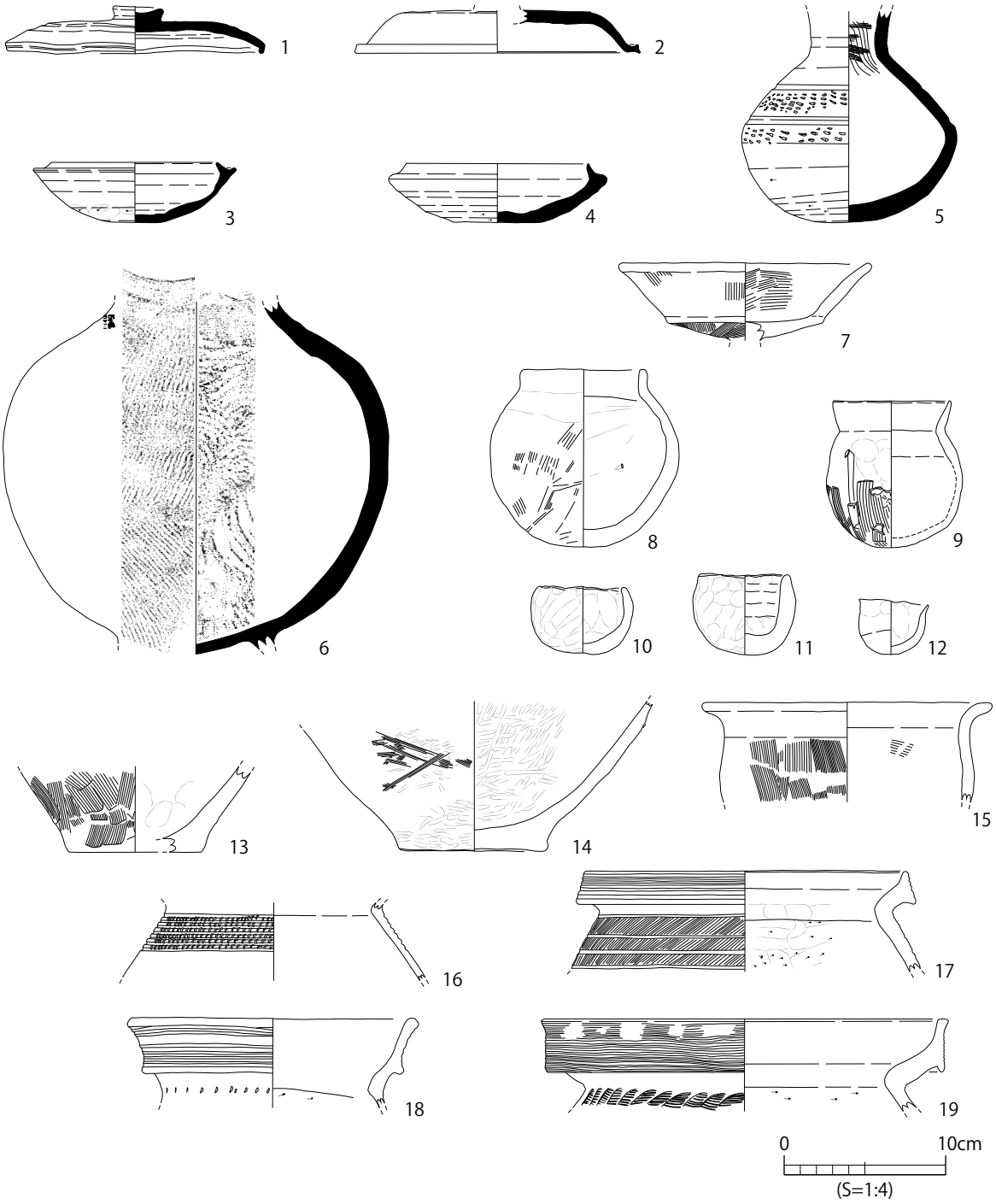


第 117 図　遺構 2150 ～ 2156 集石（断面）

え、上下の端面は研磨されている。しかし、端面の一部に割れたような段があり、本来は管玉であったもの、もしくは管玉を作ろうとしていたものが途中で割れたため小玉にした可能性も考えられる。17は鉄鏃である。五角形式もしくは柳葉Ⅱ式である。時期は８世紀から11世紀前半と考えられる。

遺構 2150 ～ 2156 集石（第 116 図～第 119 図）

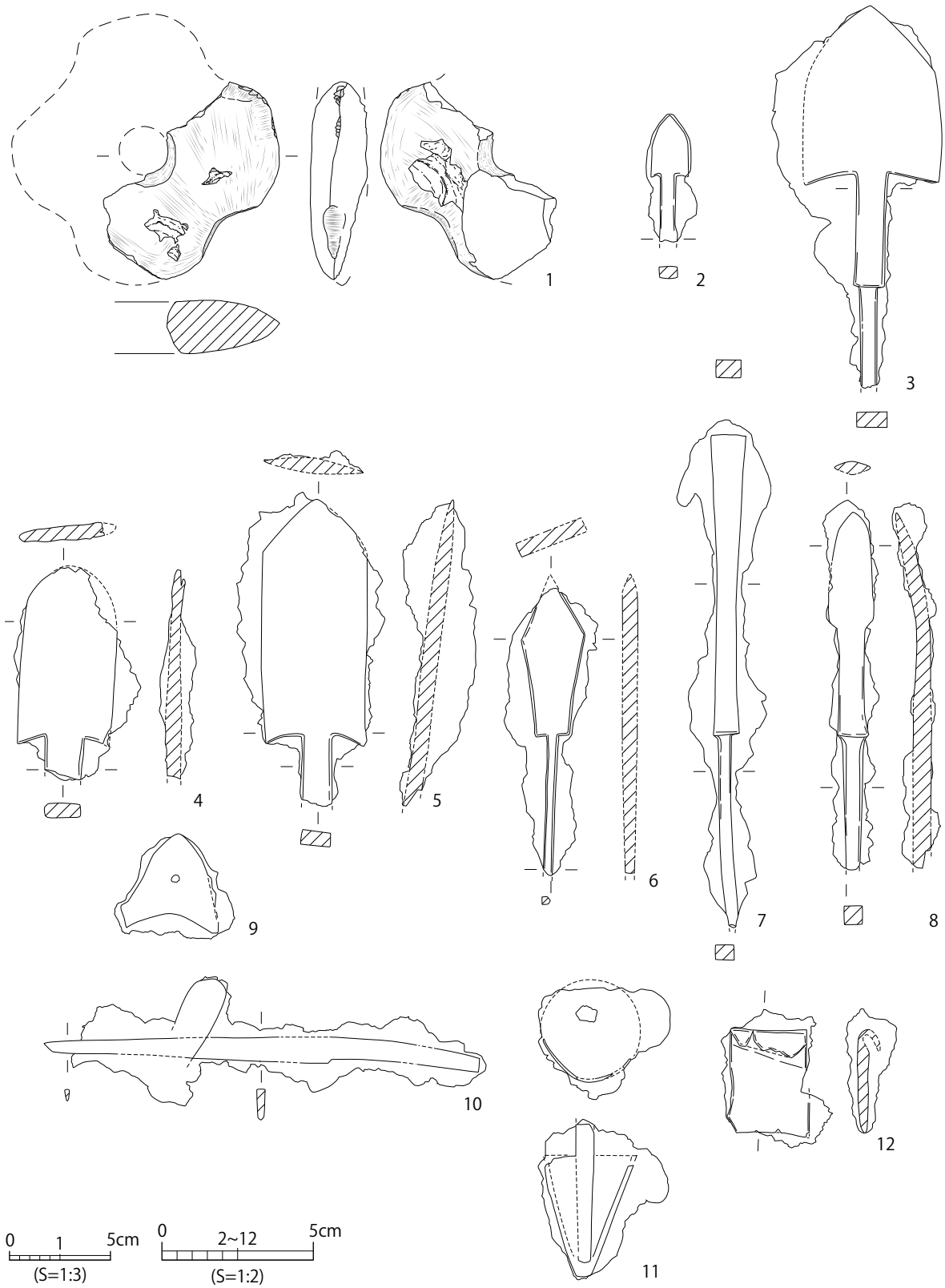
Ｇ７・Ｈ７グリッド周辺は平安時代頃の河川浸食が調査区東壁付近にまで及んでおり、比較的軟らかい５～７層が大きく削れ、固くしっかりした８・９層以下がそれほど削られなかったことによりテラス状の地形となっていた。この床面にあたる部分で検出したのが遺構2150 ～ 2156である。



第 118 図　遺構 2150 ～ 2156 集石出土遺物（１）

ある程度のまとまりごとに遺構番号を付したが、本来は一体のものと考えられる。多くの自然石とともに大量の遺物が出土し、またこれを覆う氾濫堆積層（４層として記録）からも大量の遺物が出土した。

遺物はかなりの時期幅をもつことから流水により運ばれた遺物が集まりやすい場所となっていた

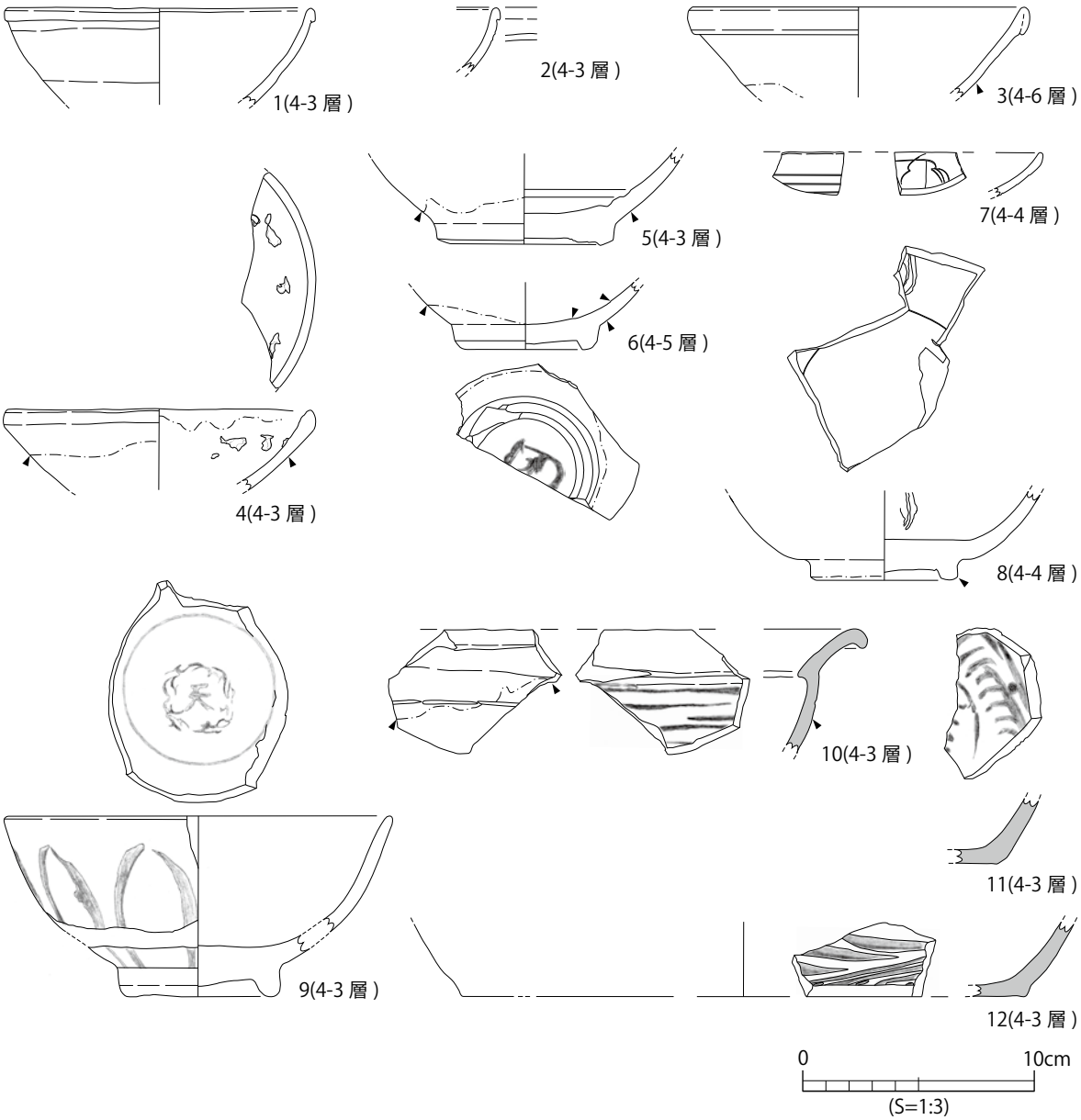


第 119 図　遺構 2150 ～ 2156 集石出土遺物（２）

と考えられる。遺物の時期は弥生時代前期から中世までかなりの幅がある（第118図・第119図）。１～６は須恵器である。１・２は蓋である。１はボタン状つまみをもつ。２は口径が大きいことから香炉や盤、皿類の蓋と考えられる。つまみ形状は不明であるが、径からすればボタン状か。３・４は坏身である。４の方が口径がやや大きく全体的に厚手である。５・６は壷である。５は一見腿のようにみえるが、完存している胴部に穿孔がみられないため壷と判断した。色調がにぶい黄橙色を呈する焼成不良品である。６は底部外面に剥離痕があり、短い脚台がつくと考えられる。１は石見７期、２は石見９Ａ期、３・４は石見５期、６は石見５期以降と考えられる。

７～12は土師器である。７は有段外反形の高坏である。８・９は小型壷である。10～12はミニチュア土器である。土師器はいずれも大東１～３式におさまるものと考えられる。13～19は弥生土器である。13～15はいずれも石見Ⅰ様式で、13が甕底部、14が壷底部、15は鉢と思われる。16は石見Ⅳ様式の甕で、肩部に重層刻目文が施された塩町式である。17は石見Ⅴ−１様式の甕であ

【4-3～4-10 層】



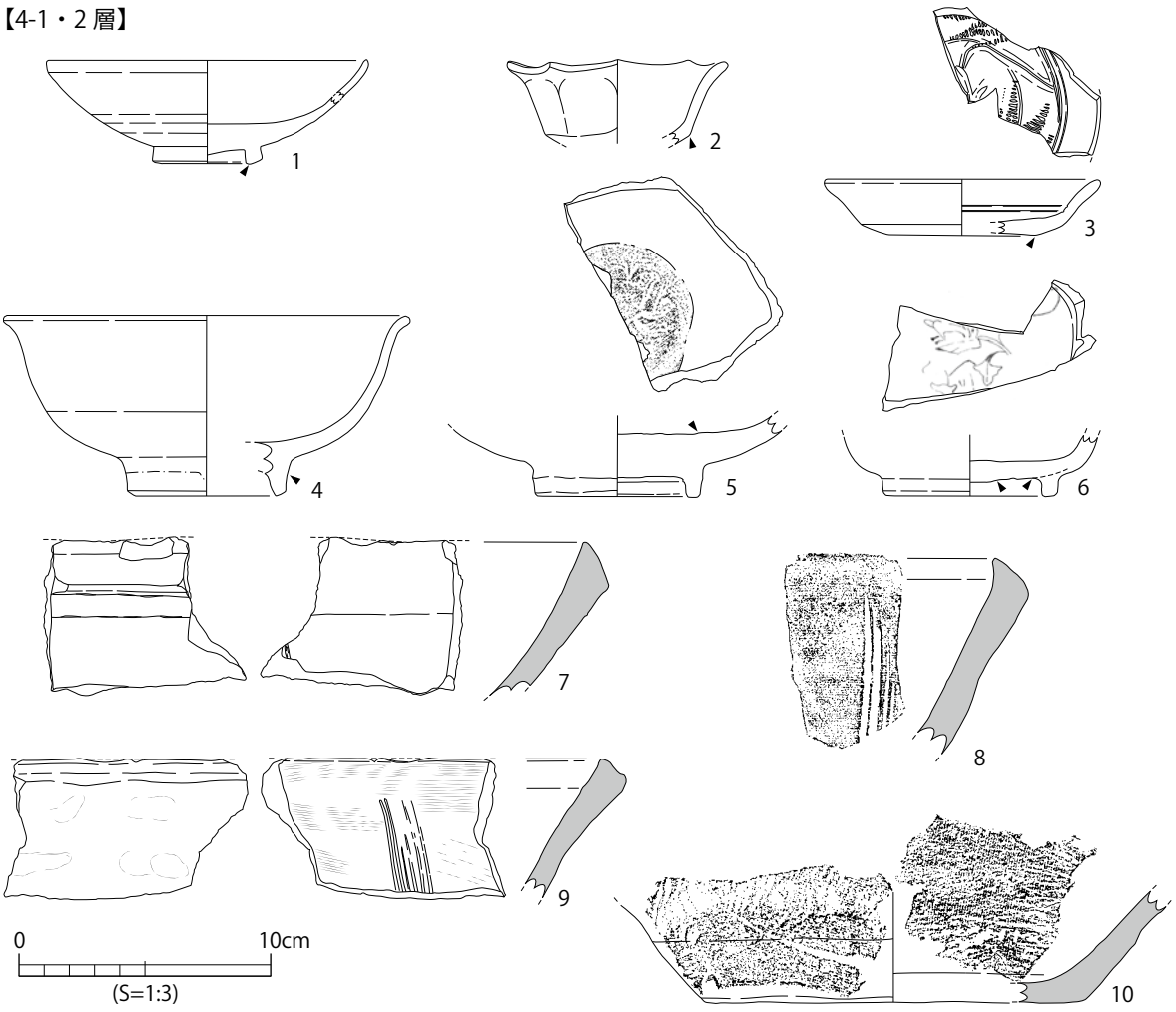
第 120 図　４層出土遺物（１）

る。これも塩町式の影響を受けたものだが、かなり形骸化している。18・19は石見Ⅴ−３様式の甕である。両者とも口縁部に擬凹線を施すが、単位が大きく異なり19は上端部がなで消されている。肩部文様は18が単純な刺突文、19は二枚貝腹縁での幅の広い刺突文である。

第119図１は石製品で、環状の多頭石斧と考えられる。中央の穿孔と２ヵ所の抉りが遺存している。全体的によく研磨され、穿孔は両面からおこなわれている。２～12は鉄製品である。２～９は鉄鏃である。２は長三角形Ⅰ式かと思われる。３～５は長三角形Ⅲ式で、６は五角形式である。７は鑿根Ⅰ式で篦被がある。８は柳葉Ⅰ式で篦被部や茎部が長い。９は無茎三角形式で中央に穿孔がある。２～６はやや幅があるが８世紀から11世紀前半、７は11世紀後半から16世紀、８は14～16世紀と考えられる。９は弥生時代の山陰地方に通有のもので、おそらく後期のものであろう。10は刀子である。刃部の中ほどには別の不明鉄製品が銹着している。11は中空の笠状になっている本体に棒状の鉄が差し込まれたもので、形状から石突もしくは鉄鐸と考えられる。12は不明板状鉄製品で、端部の一辺を折り曲げている。

８．４層の出土遺物

４層は河川浸食後の再堆積層である4−3～4−10層と、中世後半の遺構が掘り込まれた4−1・2層では意味合いが大きく異なると考えられたため、中世に関係する陶磁器、土師質土器、土製品、鉄



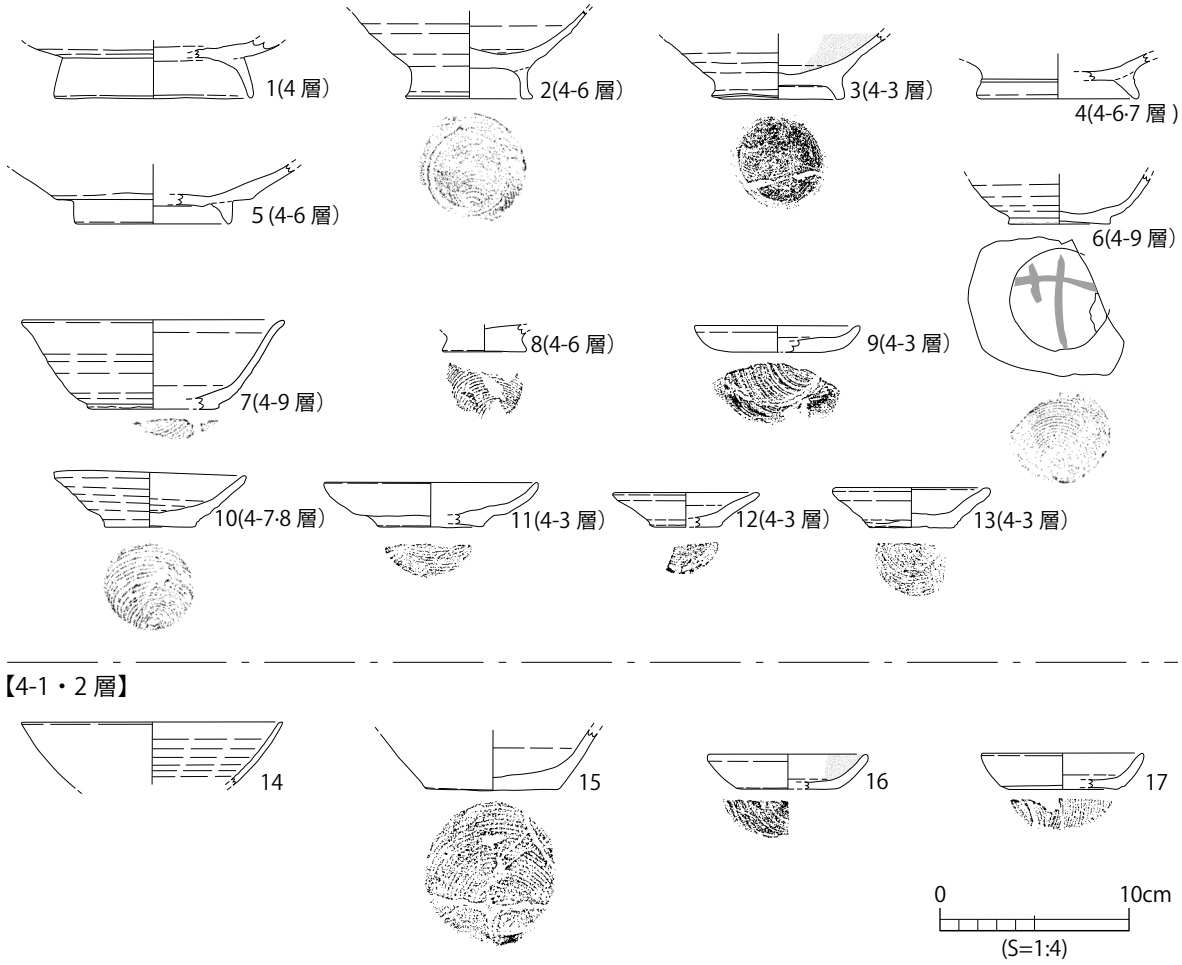
第121図　４層出土遺物（２）

製品についてはこの両層で大きく二分して掲載し、それぞれ出土層位を明記することとした。後者の遺物は包含層出土として取り上げたが、中世後半の遺構に関係する可能性のある遺物といえる。とくに時期を把握しやすい陶磁器の出土状況はこの両者で大きく異なっている（第４章第168図）。なお、中世以外にも古墳時代以前の遺物が多いのは、浸食によって削られた古い時期の包含層が二次堆積したためである。

陶磁器（第 120 図・第 121 図）

第120図は4-3 ～ 4-10層で出土したもので、すべて貿易陶磁器である。白磁の碗Ⅱ類（１・２）・Ⅳ類（３～５）・Ⅷ類（６）、皿Ⅵ類（７）、龍泉窯系青磁の碗Ⅰ類（８）・Ｂ３類（９）、中国製陶器の盤（10 ～ 12）などがある。６は底部に「日」のような墨書がみられる。９は外面に蓮弁文と内面に「天」のような文字が描かれている。10・11は同一個体で、内面に鉄絵がみられる。12も別個体だが同様である。これらの時期は概ね11 ～ 12世紀のものが多いが、９のように中世後半のものも若干混じる。

第121図は4-1・2層で出土したもので、１～６が貿易陶磁器、７・８が国産陶器、９・10が瓦質土器である。貿易陶磁器には白磁の皿Ｄ群（１）・八角坏Ｄ群（２）、同安窯青磁の皿Ⅰ類（３）、龍泉窯系青磁の碗Ｄ類（４・５）・坏Ⅲ類（６）などがある。７・８は備前焼の擂鉢ⅣＡ類と思われる。９・10は擂鉢である。これらは概ね15 ～ 16世紀のものが多いが、中世前半代のものも混じる。



第 122 図　４層出土遺物（３）

土師質土器（第 122 図）

1 ～ 13が4-3 ～ 4-10層で出土した。1 ～ 5は高台付きの坏である。1は白色系で、高い高台が付く。2も白色系で、底部に回転糸切り痕がみられる。3 ～ 5はいずれも褐色系でやや低い高台をもつ。3は回転糸切り後になで消され、内面には煤が付着している。6 ～ 8は坏である。6は白色系で、回転糸切り痕が残る底部に「サ」字状の墨書がみえる。7は白色系で丁寧なつくりをしている。8は褐色系で分厚い底部に回転糸切り痕が残る。9 ～ 13は皿である。9は褐色系で、器高が低く底部に回転糸切り痕が残る。10は白色系で、底部に回転糸切り痕が残る。11は褐色系で、口縁が大きく横に開く。12・13は褐色系で形態が類似している。1が10世紀代、2・6・8が11世紀代、3 ～ 5・7が11 ～ 12世紀頃、9が13世紀前半、10・11が13世紀後半から14世紀前半、12・13が16世紀初頭と考えられる。

14 ～ 17は4-1・2層で出土した。14・15は坏である。14は大内式土師器と考えられる。15は褐色系で、底部に回転糸切り痕が残る。16・17は皿である。16は褐色系で、内面には煤が付着している。17は褐色系で、底部に回転糸切り痕が残る。これらはいずれも16世紀代と考えられる。

須恵器（第 123 図）

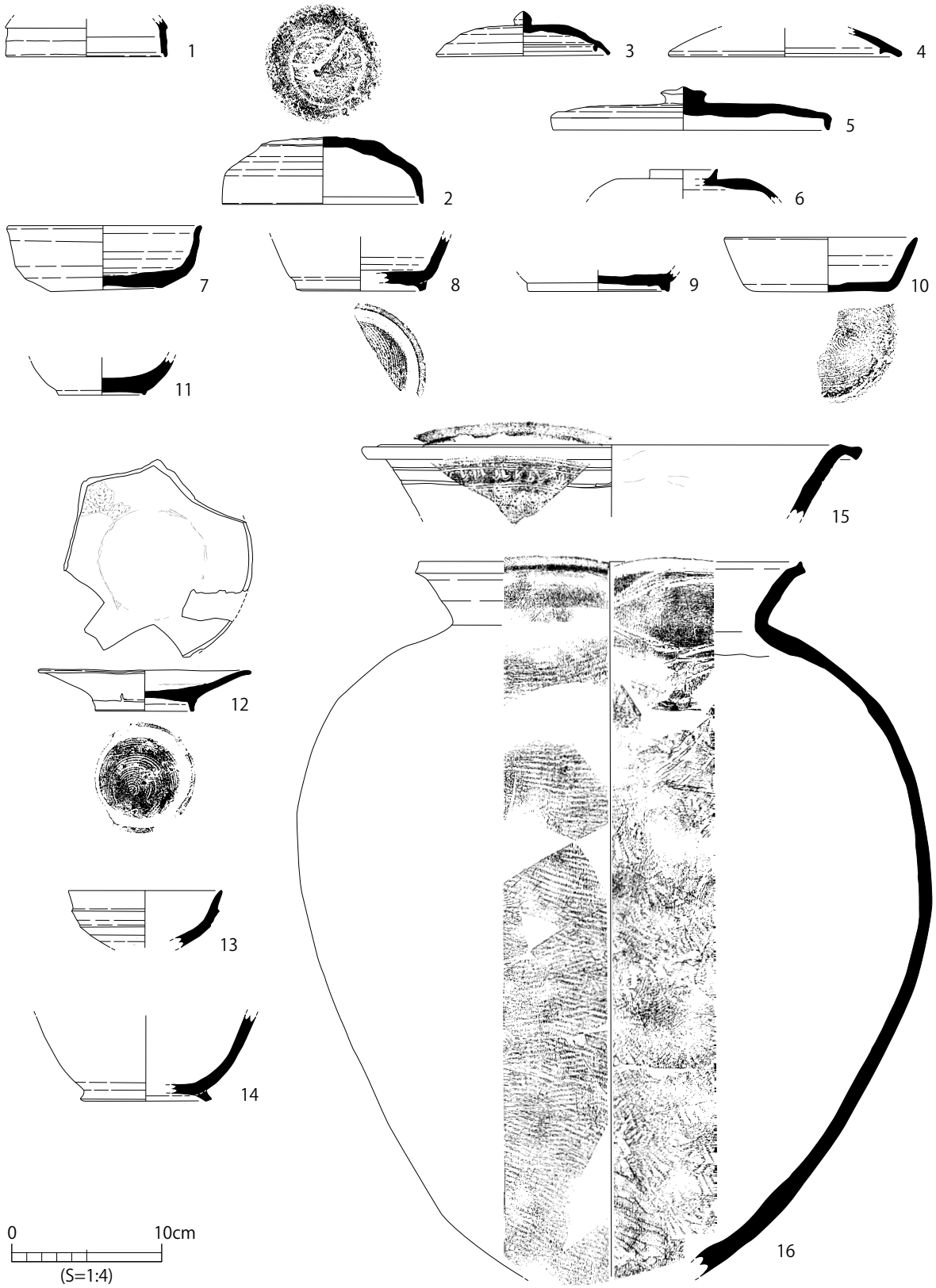
1 ～ 6は蓋である。1は稜や口縁端部の段がはっきりしている。2は石東型とされるものである。3は乳頭状つまみをもち、内面にはカエリが残る。4も同様であるが、やや口径が広い。5は非常に口径が大きく、短頸壺か皿類の蓋と考えられる。6は輪状つまみをもつ。7 ～ 11は坏である。7は器壁が厚くつくりも粗雑である。8は底部に回転糸切り痕が残り、内面は非常に滑らかである。9は坏の転用硯である。見込み部で墨、底部外面で朱墨を使用している。10は全体が白っぽく、底部に回転糸切り痕が残る。11は小型のもので、低く薄い高台が巡る。12は高台付皿である。底部には回転糸切り痕が残り、内面には煤が付着する。13は長脚無蓋高坏である。14は長頸壺の底部と考えられる。15・16は甕である。15は頸部にヘラ描き直線文と波状文が施されるが、施文が非常に粗雑であり、波状文が沈線によって切られている。16は扇形のような特徴的な当て具痕をもつ。1は石見1期、2は石見5期、3は石見6 B・C期、4は石見6 C期、5は石見8期、6は石見8 ～ 9 B期、7は石見7期、8は石見9 B期、10 ～ 12は石見10期以降、13は石見3期と考えられる。

土師器（第 124 図～第 126 図）

第124図は甕である。1 ～ 3は複合口縁のものである。2は肩部に米粒状の列点文がわずかに確認できる。3は形骸化がかなり進んでいる。4 ～ 13は単純口縁のものである。4は布留系で、口縁端部内面に段がみられる。5も布留系と考えられる。6は口縁部外面に線刻がみられる。線刻は断面が鋭いV字状を呈するものが9条、U字状を呈するものが4条確認できる。7は頸部に複合口縁の名残と思われる段が付き、外面全体を赤彩している。8も直線的に開く口縁部に段がみられる。9 ～ 11は器壁が厚い。12・13は器壁の厚さに加え、頸部の屈曲が弱いものである。1・2・4・5が小谷式、3・6 ～ 11が大東式、12・13は古代と考えられる。

第125図1 ～ 7は壺である。1 ～ 4は複合口縁のものである。1は頸部が短く中型の壺であろう。2は二次口縁の稜が甘く、頸胴部の境がやや強く屈曲する。口縁部外面には煤が付着し、胴部には透明の黒い液体のようなものが垂れた痕跡がある。垂れた方向が胴部から頸部方向にみえることから廃棄後に付着した可能性もある。3は二次口縁の屈曲が弱く、直線ぎみに立ち上がる。頸胴

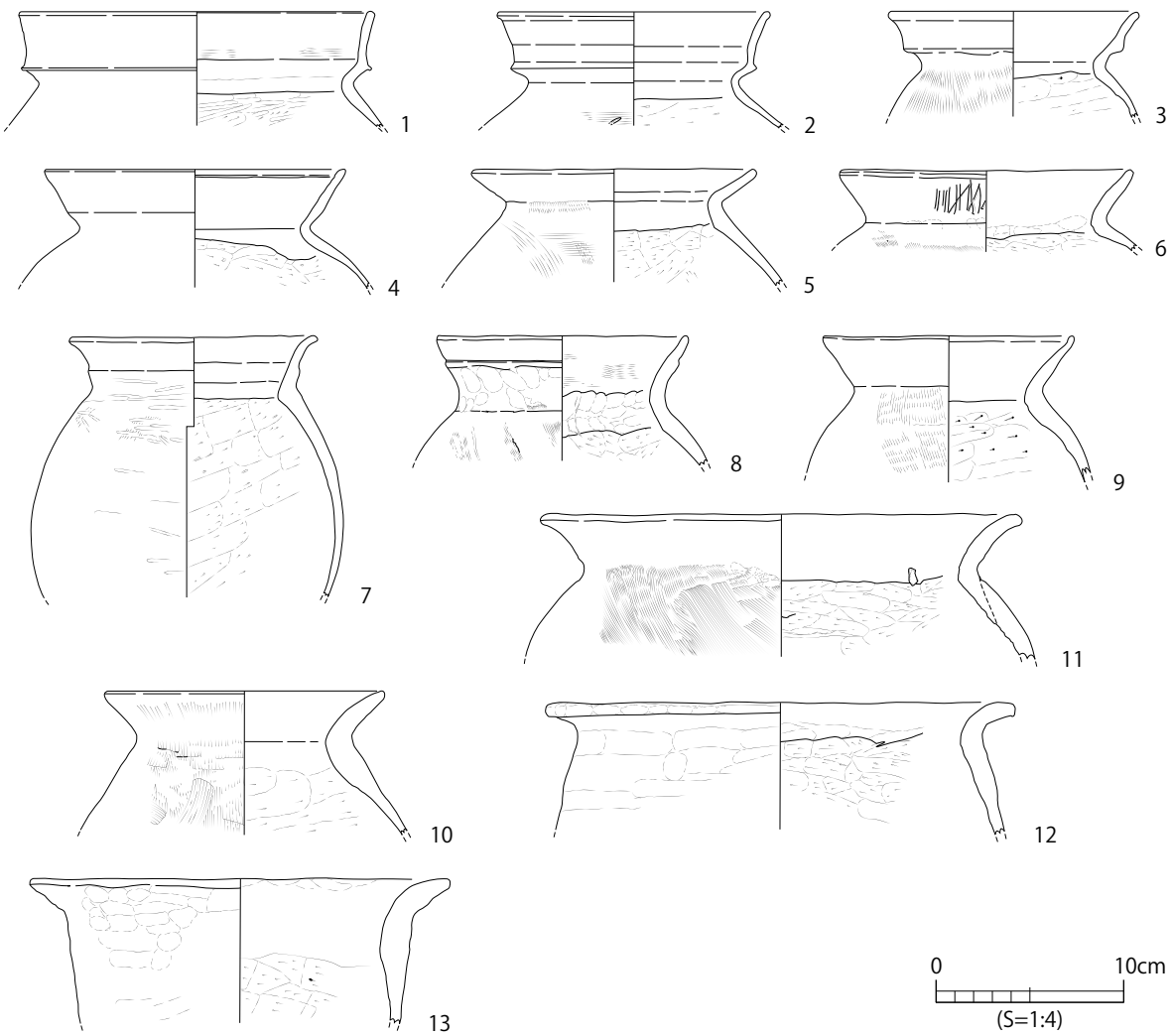
部の境は強く屈曲する。４は頸部が小さくすぼまる。二次口縁の稜が甘く、直立して立ち上がる。５～７は直口壺である。５・６はやや小型のものである。８～16は高坏である。８は無稜外反形の坏部で、円盤充填の粘土を脚部内面に強くなでつけている。９は有稜外反形の坏部で、接合はおそらく円盤充填による。10は全形がわかるもので、有稜外反形の坏部をもつ。脚部は比較的ゆるや



第 123 図　４層出土遺物（４）

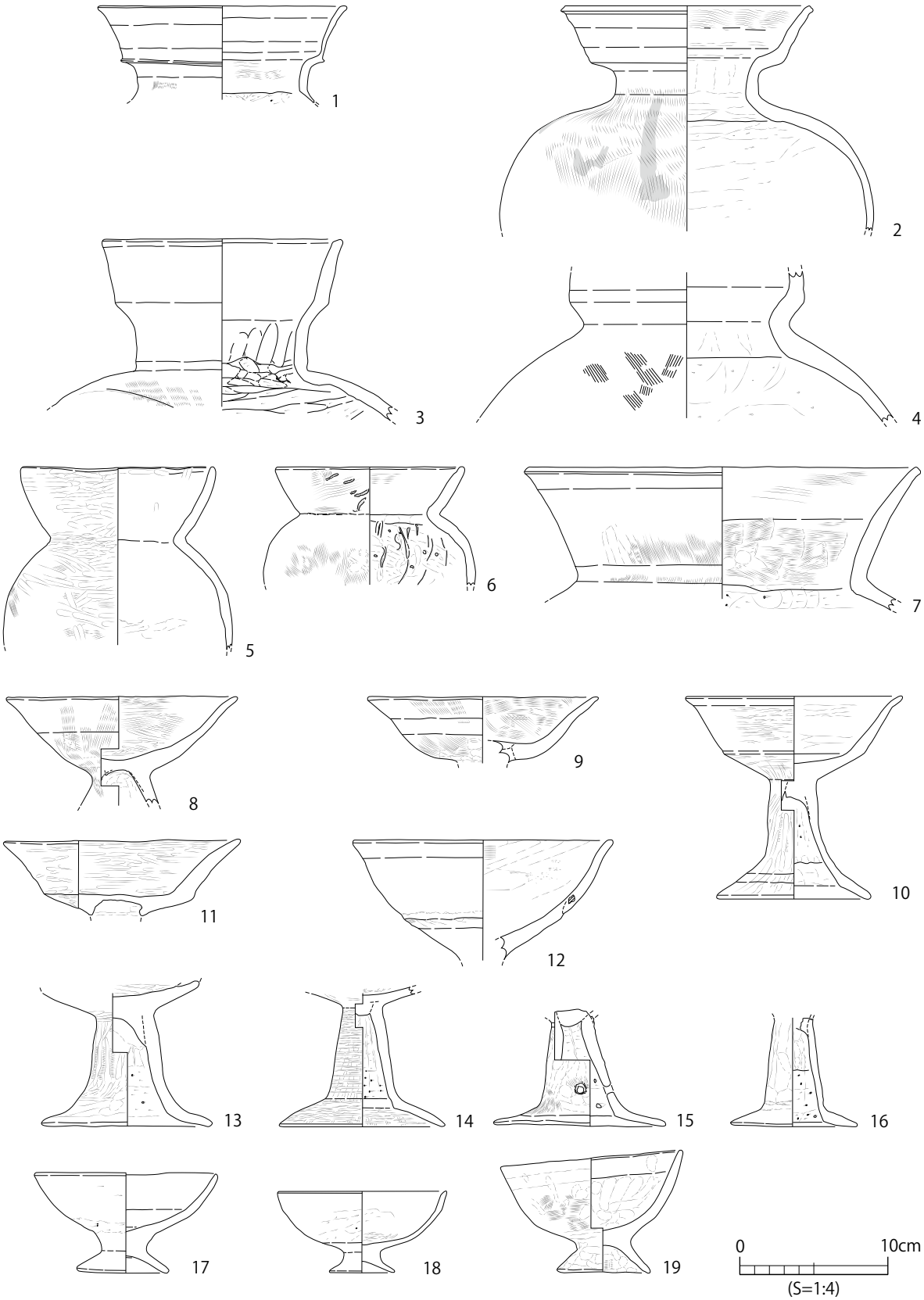
かに開くが、内面には明瞭な稜が観察できる。接合は８と同様である。11は有段外反形の坏部で、別作りの坏部と脚部を貼り合わせている。12は有稜外反形だが、坏部が深くゆるやかに立ち上がる。13 ～ 16は脚部である。いずれも裾部が強く屈曲する。13は８・10と同様の接合方法である。15は１ヵ所にのみ穿孔がみられる。17 ～ 19は低脚坏である。17・18は全体的に器壁が薄く非常に丁寧なつくりだが、19は器壁が厚く、調整もやや粗雑である。１・５・８・９は小谷式、２～４・５・７・10 ～ 16は大東１～３式、17 ～ 19は大東１式以前と考えられる。

第126図１・２は鼓形器台である。２はヘラ描きによる羽状文がみられる。３～５は坏である。３は全体的に器壁が薄い。４は深さがあり、口縁部がわずかに内湾する。５は器壁が厚く、内面をケズリで仕上げている。６～ 12は小型壺として一括した。６・７はやや扁平な胴部をもつ。６は器表にクレーター状の剥離があり、焼成時の破損と考えられる。12の口縁部には調整されずに残った粘土が付着している。13 ～ 15は小型鉢とした。13の内面には一部粘土紐の接合部が調整されずに残った箇所がある。14は洗浄中に20のミニチュア土器が入れ子になった状態であることが判明した。廃棄の状態をとどめているものと考えられる。16は甑で、把手をもたないものか。17は支脚とした。大橋分類のＢ１類の可能性があり、その場合古墳時代前期の九州系遺物である。18は取鍋の可能性を考えた。器壁が厚く、手捏ねによる成形で、口縁部には片口のような凹みが１ヵ所み



第 124 図　４層出土遺物（５）

られる。19 ～ 27はミニチュア土器として一括した。19は典型的な手捏ねによるものである。20は前述のように14の小型鉢内部から出土した。24は壺形、25は鉢形を呈する。26・27は脚をも

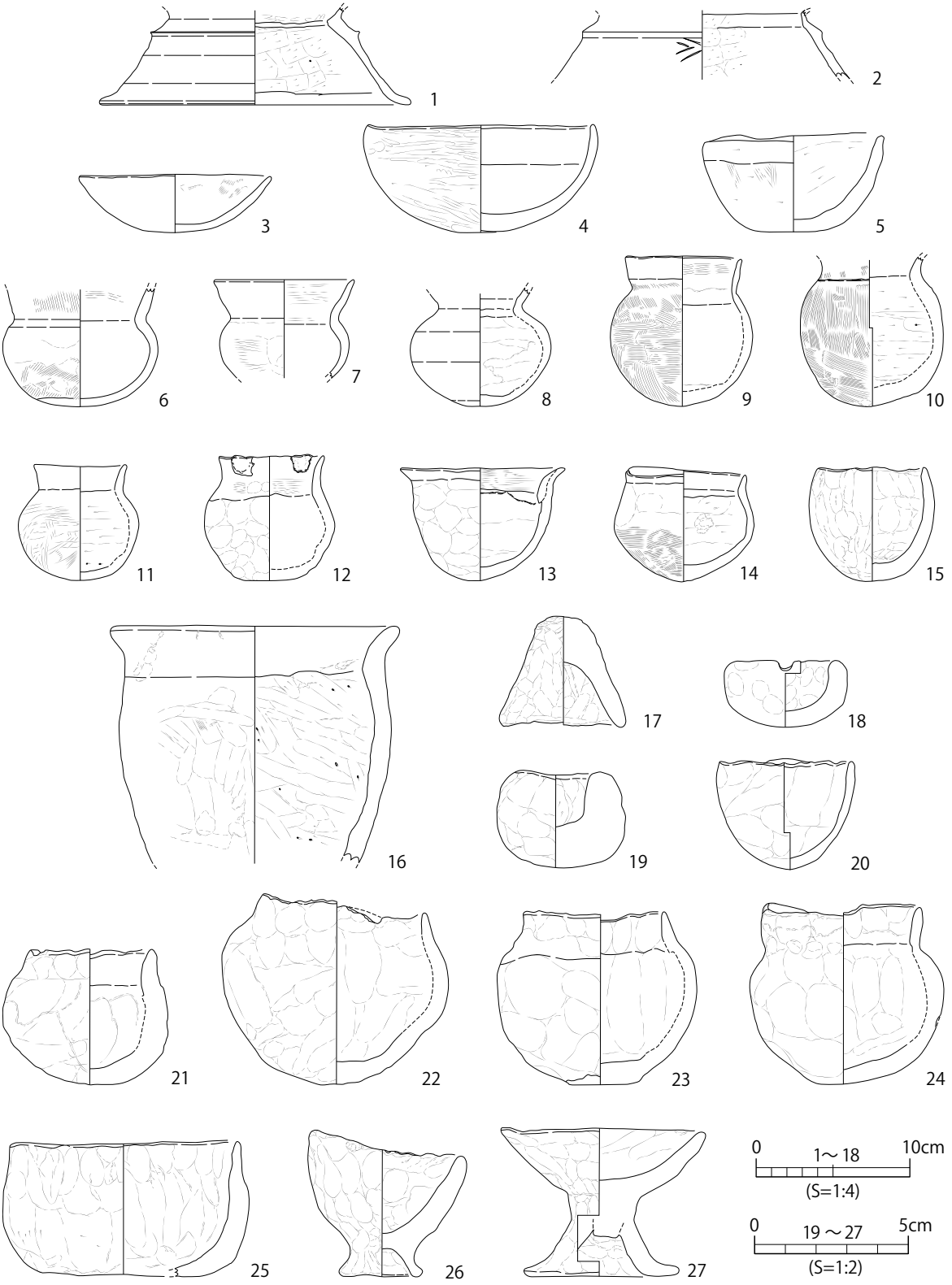


第125図　4層出土遺物（6）

つものである。それぞれ低脚坏と高坏を模倣しているように思われる。1は草田6期、2は小谷2式以降、3～5は小谷式から大東1～3式、6～15・19～27は大東式、16は大東4・5式と考えられる。

弥生土器（第127図・第128図）

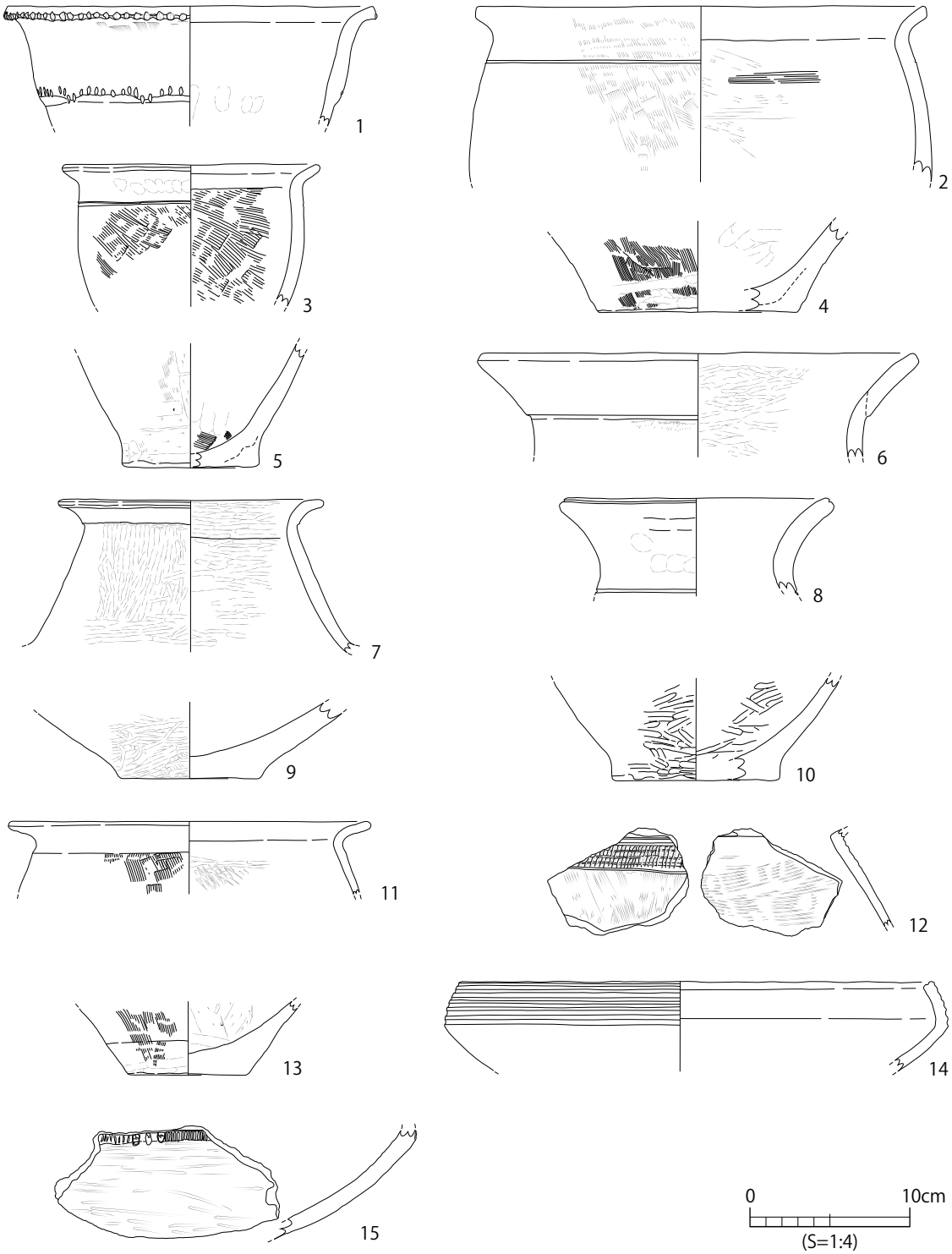
第127図1～10は石見Ⅰ様式のものである。1～5は甕である。1は口縁下端と段に刻みを入



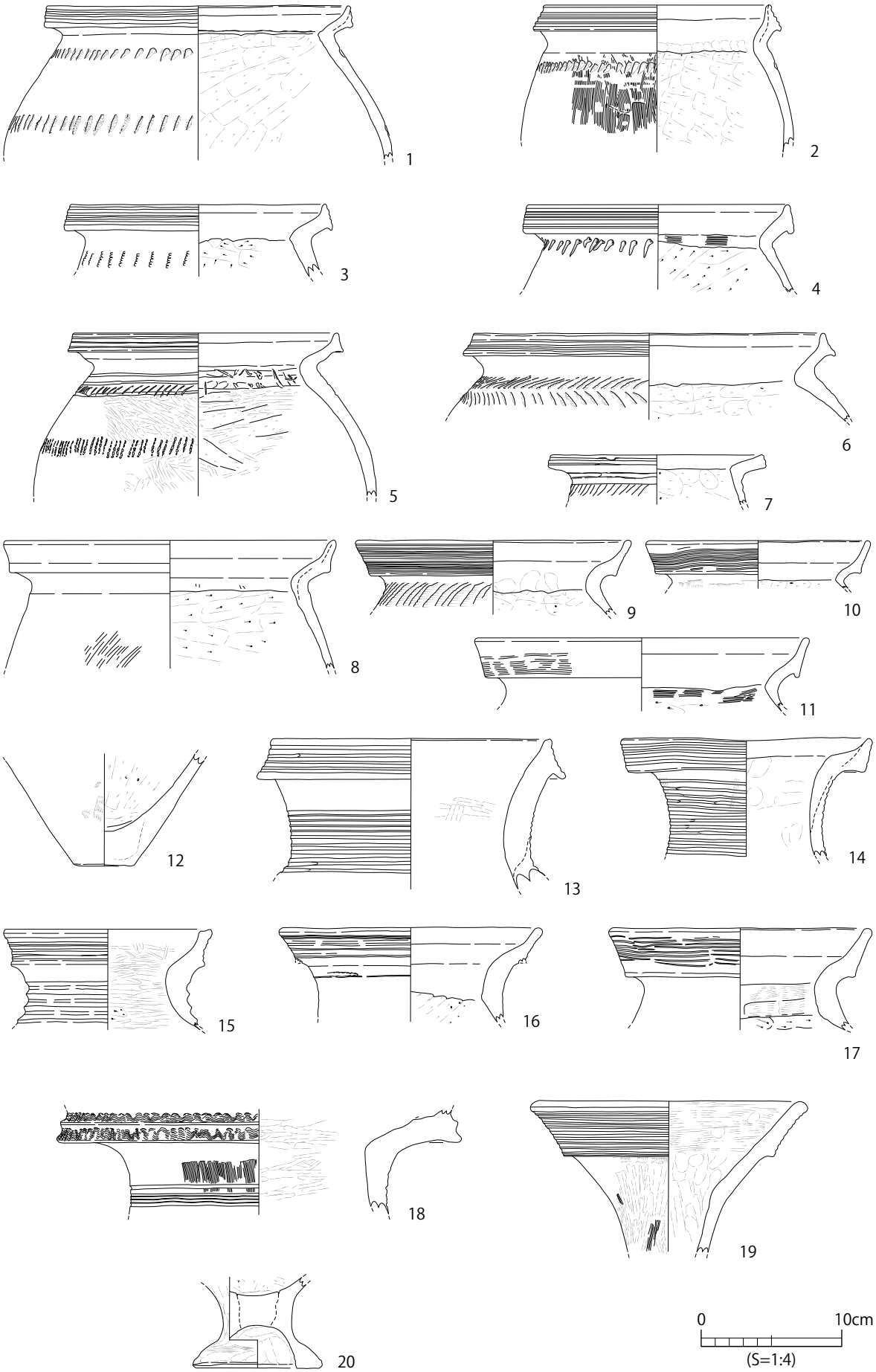
第126図　4層出土遺物（7）

れている。段の刻みは貝類の殻頂部による。２・３は肩部に１条の沈線を施す。４・５は底部であり、５は外面をケズリによって仕上げている。６～10は壺である。６は口縁部が直線的に伸長する。口頸部の境は段によって区切られる。７は口縁部が短く屈曲し、口頸部の境は段によって区切られる。図示していないが胴部の破片もあり、ヘラ描きによる直線文が５条施されている。８は口頸部境が沈線で区画され、形態もやや在地化が進んでいる。１・６は石見Ⅰ－１様式、２・３は石見Ⅰ－１～２様式、７は石見Ⅰ－２様式、８は石見Ⅰ－３様式と考えられる。

11～15は石見Ⅲ・Ⅳ様式のものである。11～13は甕である。11は口縁端部が丸みを帯びる。



第 127 図　４層出土遺物（８）



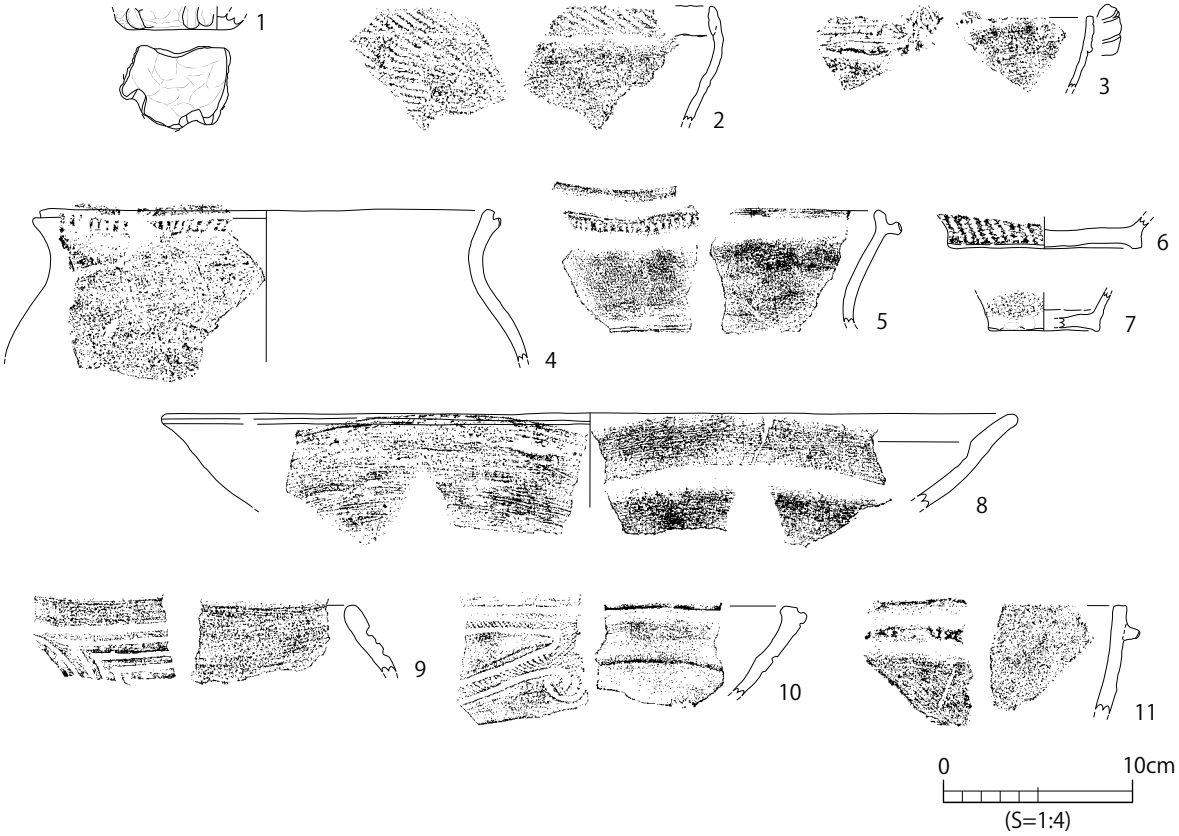
第 128 図　4層出土遺物（9）

12は重層刻目文をもつ。施文は二枚貝腹縁を２段に分けて刺突している。14・15は高坏である。14は箱形の坏部をもつもので、口縁がやや内傾する。15は雲南市木次町の垣ノ内遺跡（島根県教委2003）に類例がある大型の高坏で、屈曲部に刻目と棒状浮文が確認できる。11は石見Ⅲ−２様式、12・14・15は石見Ⅳ−２様式と考えられる。

第128図はＶ様式のものである。施文原体は観察表に記載した。１～12は甕である。１は肩部と胴部に施文具の異なる刺突文を施している。２も１の上段と非常によく似た刺突文である。３も刺突文を施す。４の刺突文はやや粗雑である。５は肩部に重層刻目文風の文様、胴部に刺突文が施されるが施文具が異なる。６は大型の羽状文が施されている。７はやや小型の甕である。８は口縁部が外反して立ち上がる。９は口縁部が大きく外反し、外面には擬凹線文を施す。肩部には二枚貝腹縁による連続刺突文がみられる。10・11も同様に口縁部外面に擬凹線文が施されている。13～18は壺である。13は頸部からそのまま伸びた口縁部を上下に拡張する。口縁部外面と頸部に凹線文がみられる。14は口頸部の境がやや強く屈曲し、口縁部外面に凹線文、頸部に沈線文を施す。15は頸部が非常に厚く、外面の凹線文は非常に幅が広い。16・17も15と同系譜で、拡張が進んだ口縁部外面に擬凹線文が施される。18は大型の複合口縁壺で、二次口縁が剥離している。屈曲部には２段にわたる波状文帯がある。頸部には沈線文が施される。19は鼓形器台で、筒部が長い。20は脚台である。断面形状が特徴的で、脚部内面はドーム状を呈する。円盤充填により栓をしており、上部には甕もしくは鉢が載ると思われる。１～７・13・14・20は石見Ｖ−１様式、８・15・16・19は石見Ｖ−２様式、９～11・17・18は石見Ｖ−３様式と考えられる。

縄文土器（第 129 図）

１は花弁状の底部である。現状で２ヵ所凹みがみられる。２～７は深鉢である。２は口縁部が内

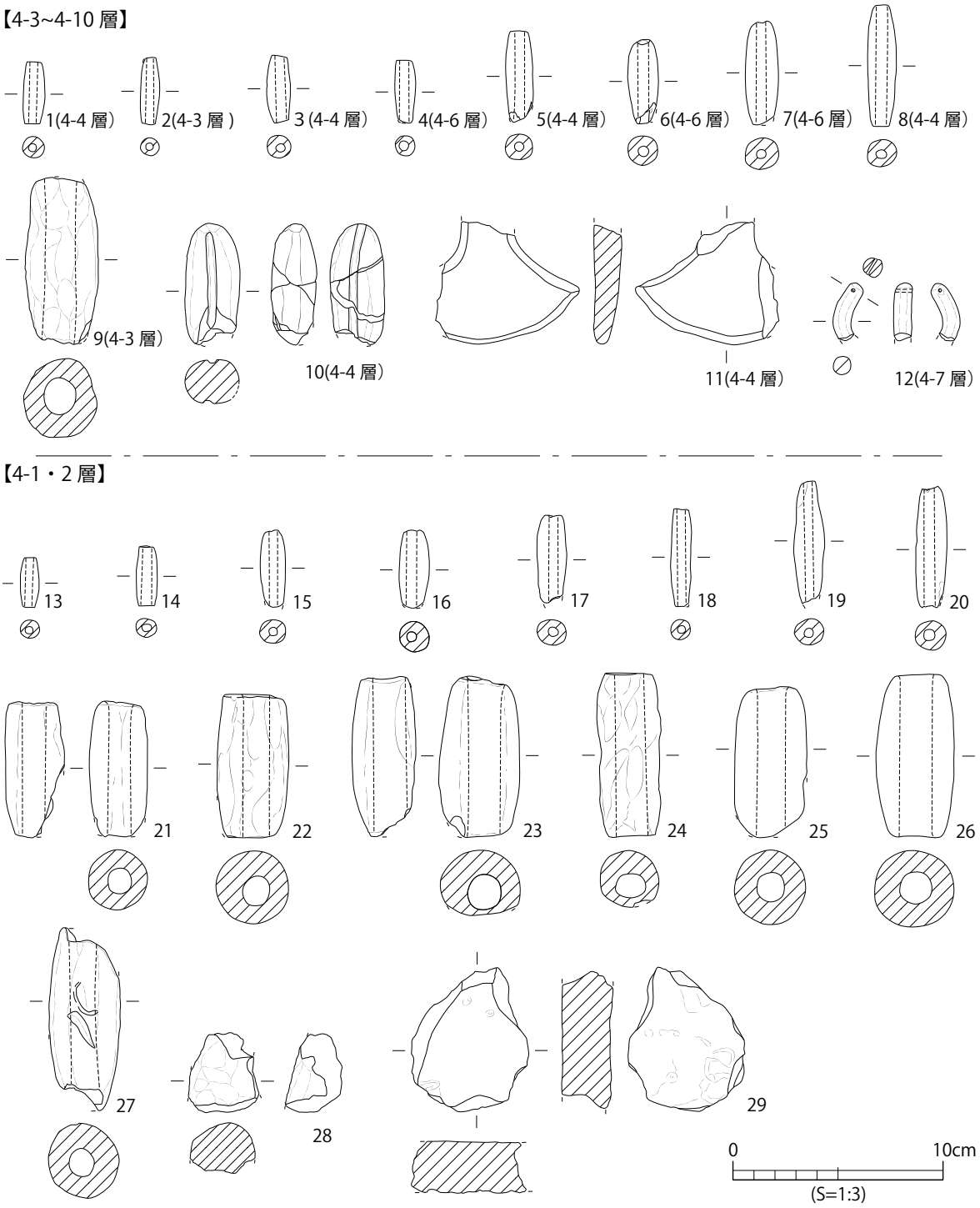


第 129 図　４層出土遺物（10）

湾し、内面に粘土紐が貼り付けられている。この部分と外面は縄文で覆われている。３は口縁部を立体的に肥厚させ、貝殻による押引き沈線を施す。４・５は屈曲形の深鉢で、口縁端部に沈線文と刻目がみられる。６・７は底部で、ともに外面を縄文が覆っている。８～ 10は浅鉢である。８は皿形の口径が大きなもので、口縁部内面に段をもつ。９はボール形、10はバケツ形のものである。11は突帯文期の深鉢である。大きく突出した突帯に小さな刻目が施される。１が大歳山式、２・６・７が波子式、３～５・８～ 10が暮地式から崎ヶ鼻Ⅰ式、11が突帯文５期と考えられる。

土製品（第 130 図）

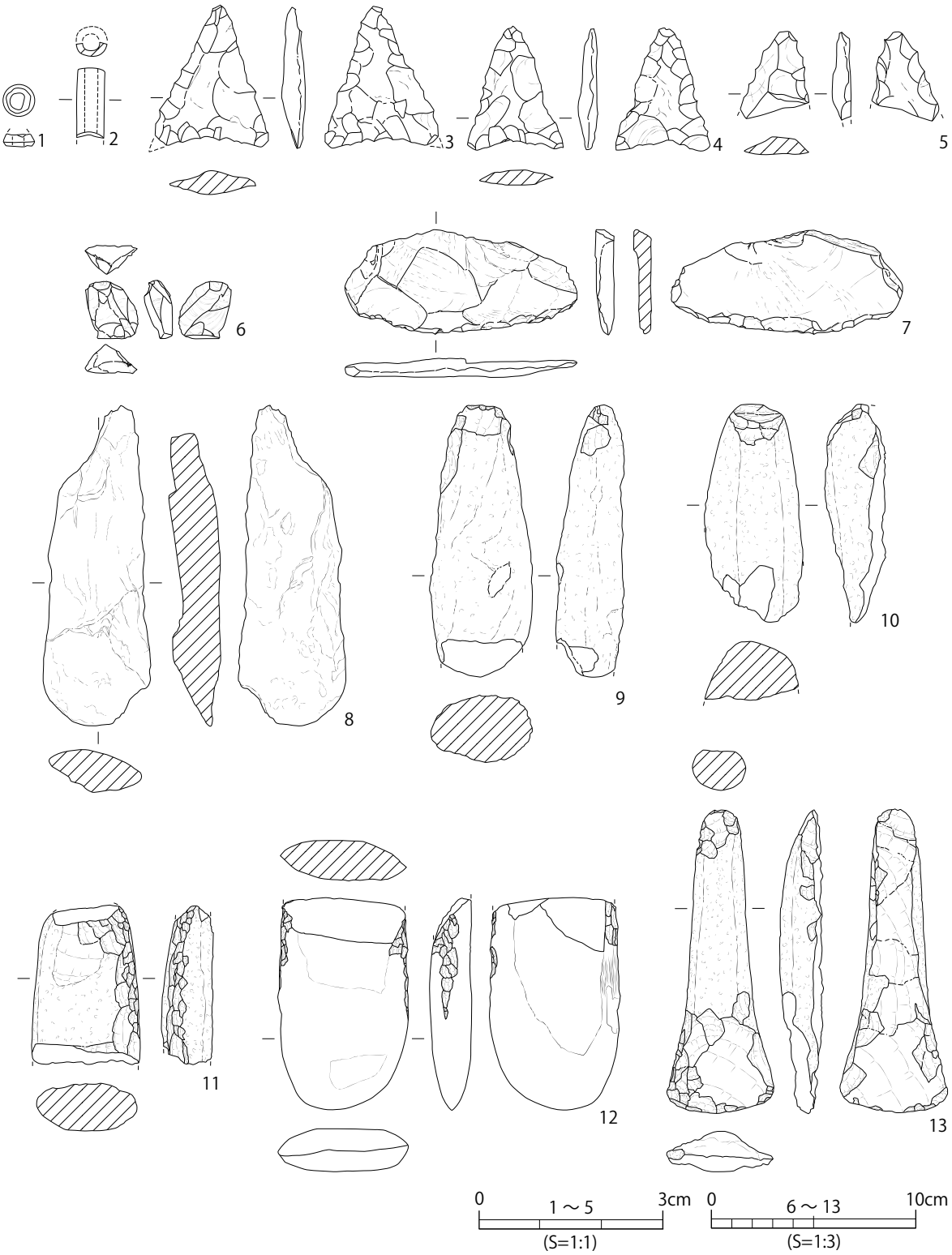
１～ 12は4–3 ～ 4–10層で出土した。１～９は管状土錘で、１～４がＡ類、５・６がＢ類、７・



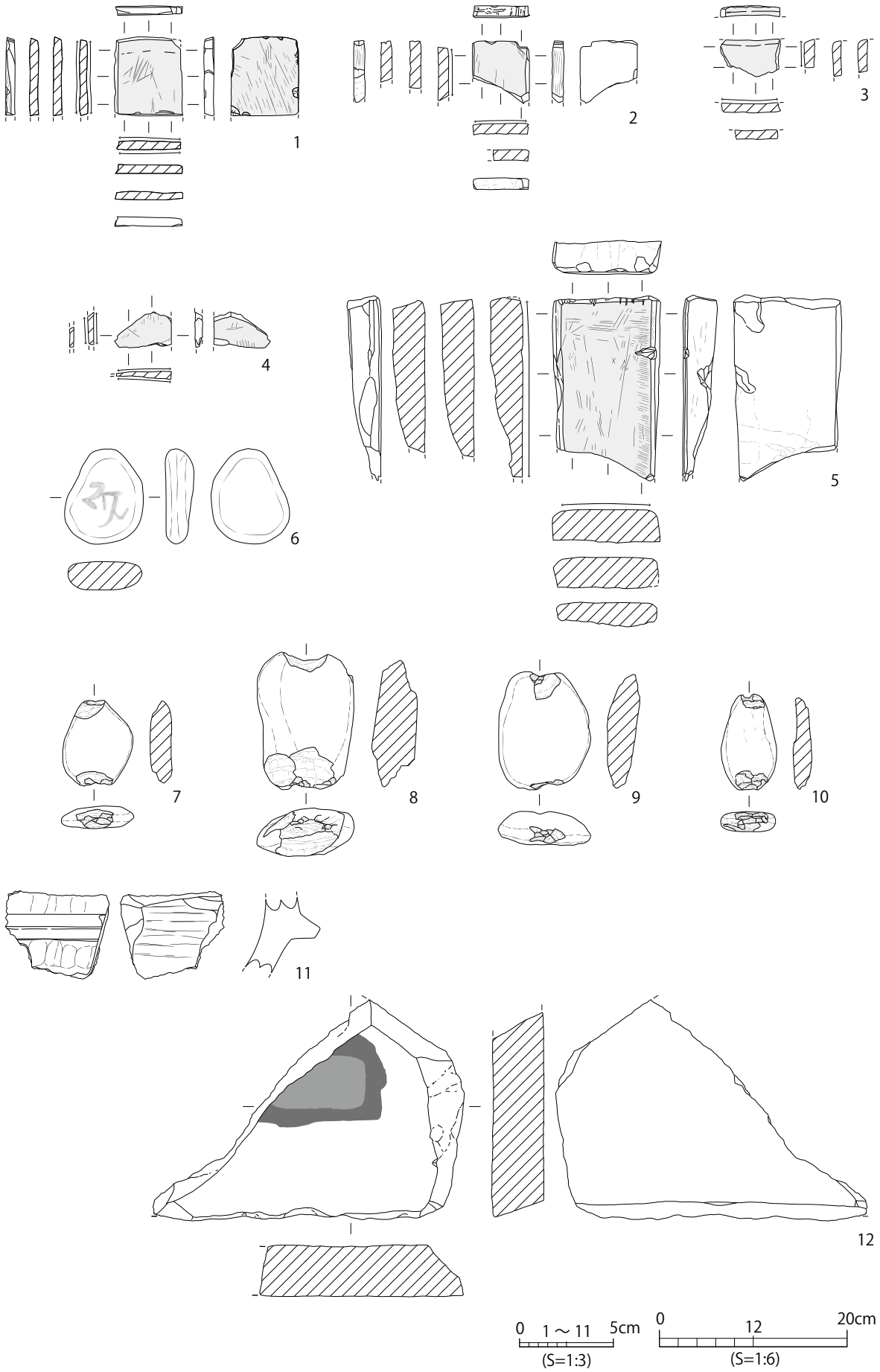
第 130 図　４層出土遺物（11）

８がＣ類、９がＥ類である。いずれも中世以降のものと考えられる。10は有溝土錘で、本遺跡で唯一の出土である。11は分銅形土製品で、これも本遺跡で唯一の出土である。下半部と思われる破片で、文様はみられない。胎土は在地の土器と大差ない。石見地域では江津市敬川町の古八幡付近遺跡の２点に続き３例目の出土である。12は勾玉状の土製品である。やや湾曲した棒状土製品の端部付近に穿孔がみられる。胎土や色調でみれば、弥生時代中・後期の在地土器と類似している。

13 ～ 29は4−1・2層で出土した。13 ～ 27は管状土錘である。13 ～ 15がＡ類、16がＢ１類、



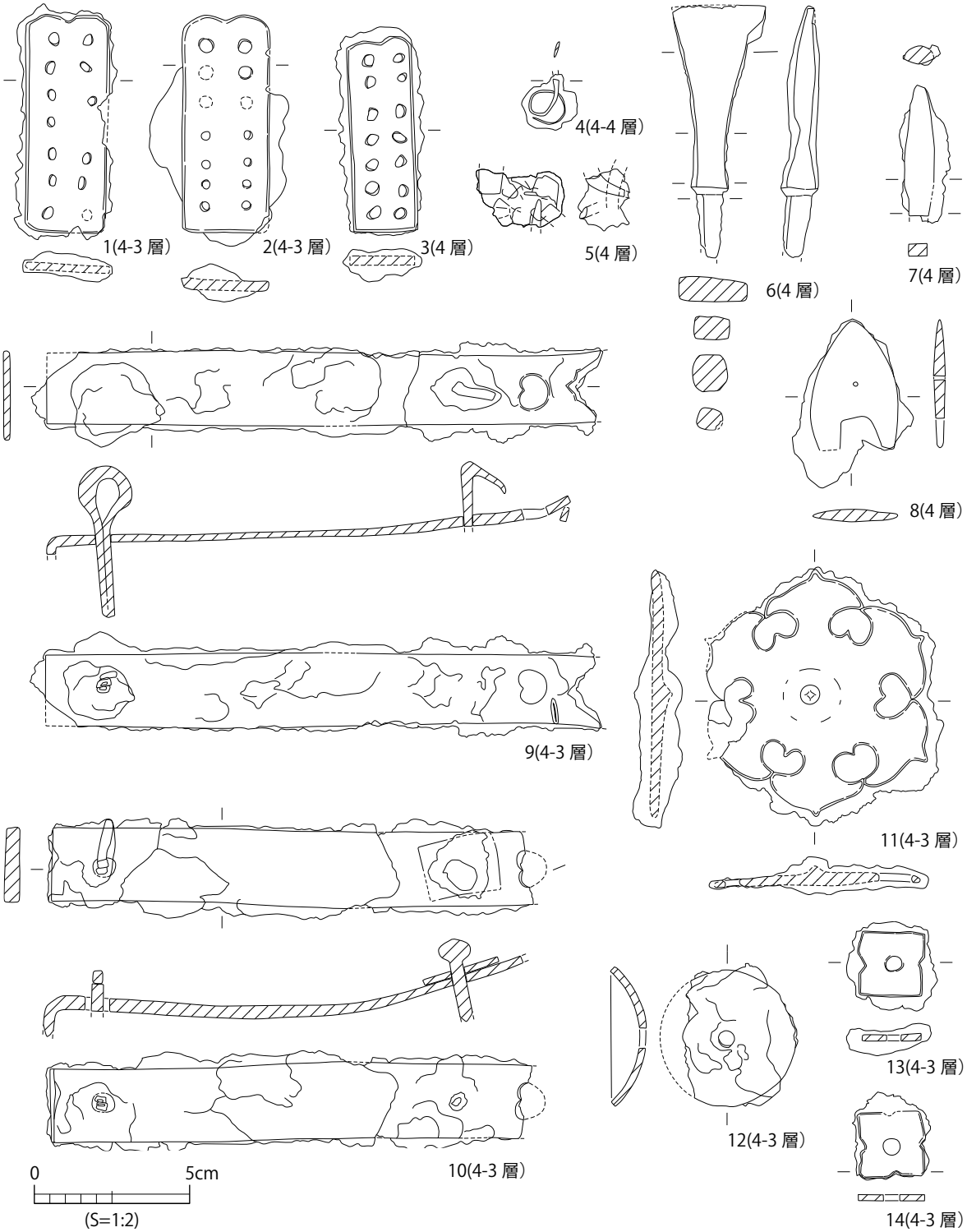
第 131 図　４層出土遺物（12）



第 132 図　4層出土遺物（13）

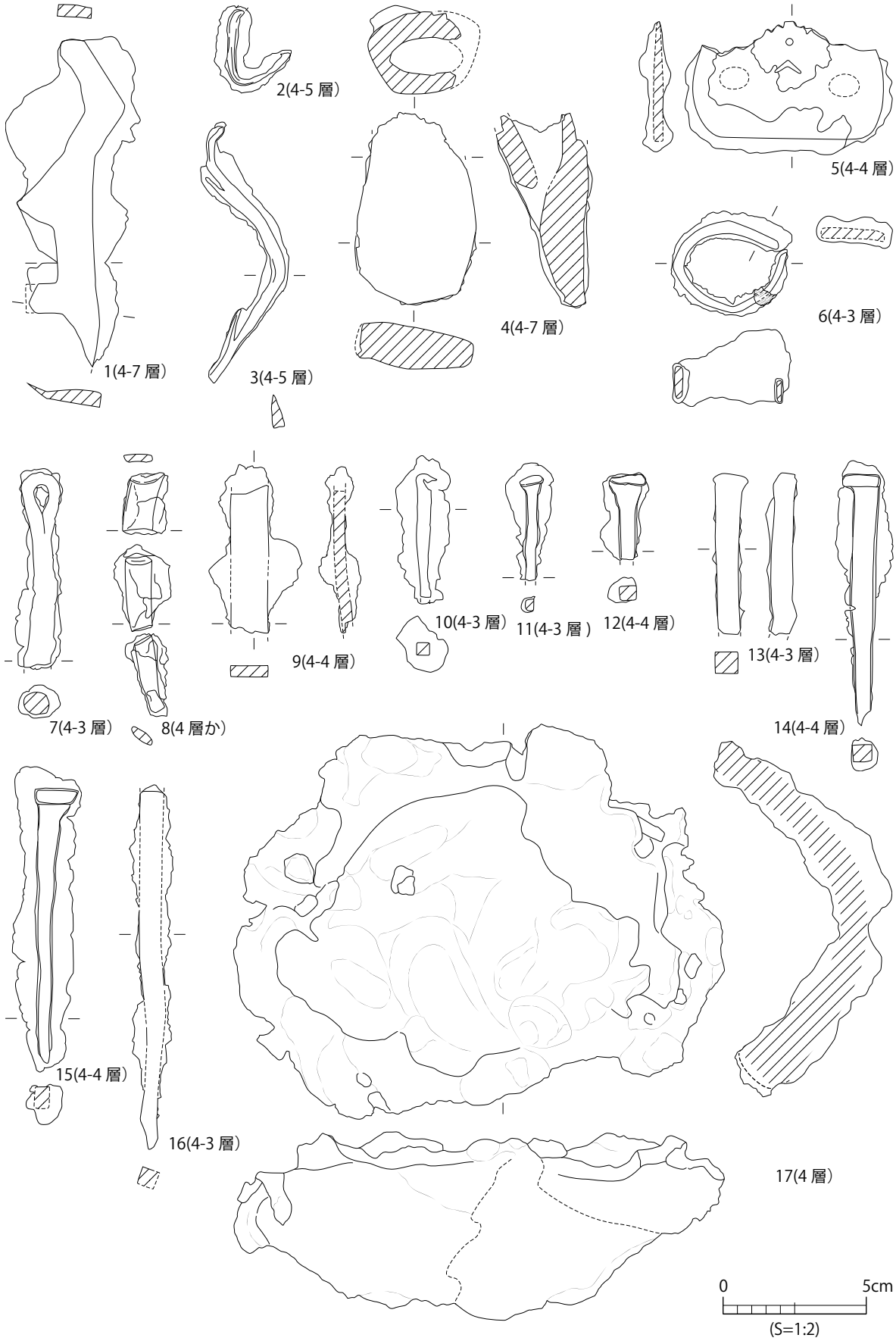
17・18がＢ２類、19・20がＣ類、21がＤ１類、22～27がＥ類である。28は分銅状の不明土製品である。全形は明らかでなく、現状では円錐形のような形状を呈する。29は焼粘土塊である。厚さ2.4cmで両面とも平坦であるが、上面（内面）は被熱により５mmほどの深さまで浅黄橙色を呈し、非常に平滑である。裏面（外面）は橙色でわずかに凹凸がある。側面はすべて破面である。特徴的なのは胎土で、砂粒をほとんど含まず精良である。弥生時代から古墳時代にかけての土器焼成に関連した遺物の可能性がある。

【4-3~4-10 層】



第 133 図　４層出土遺物（14）

【4-3~4-10 層】

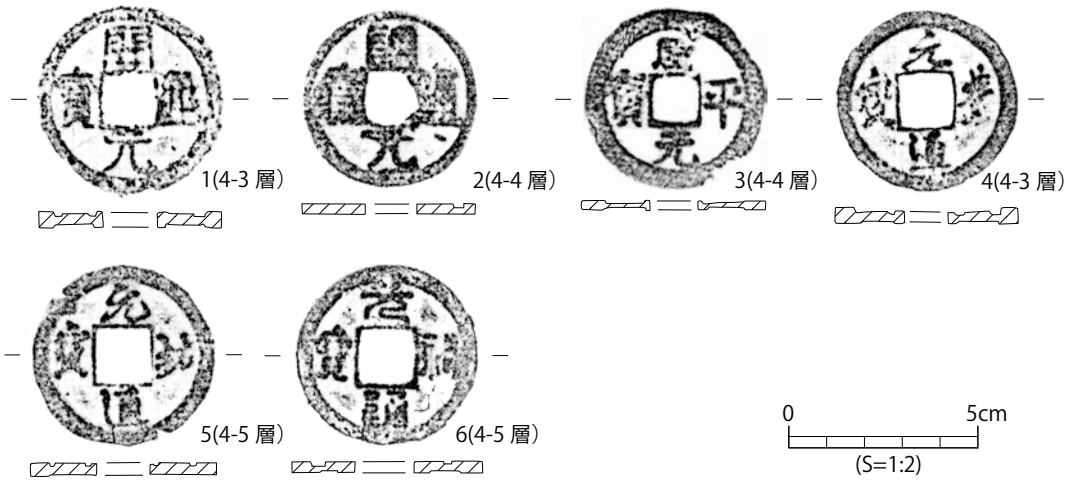


第 134 図　4 層出土遺物（15）

石製品（第 131 図～第 132 図）

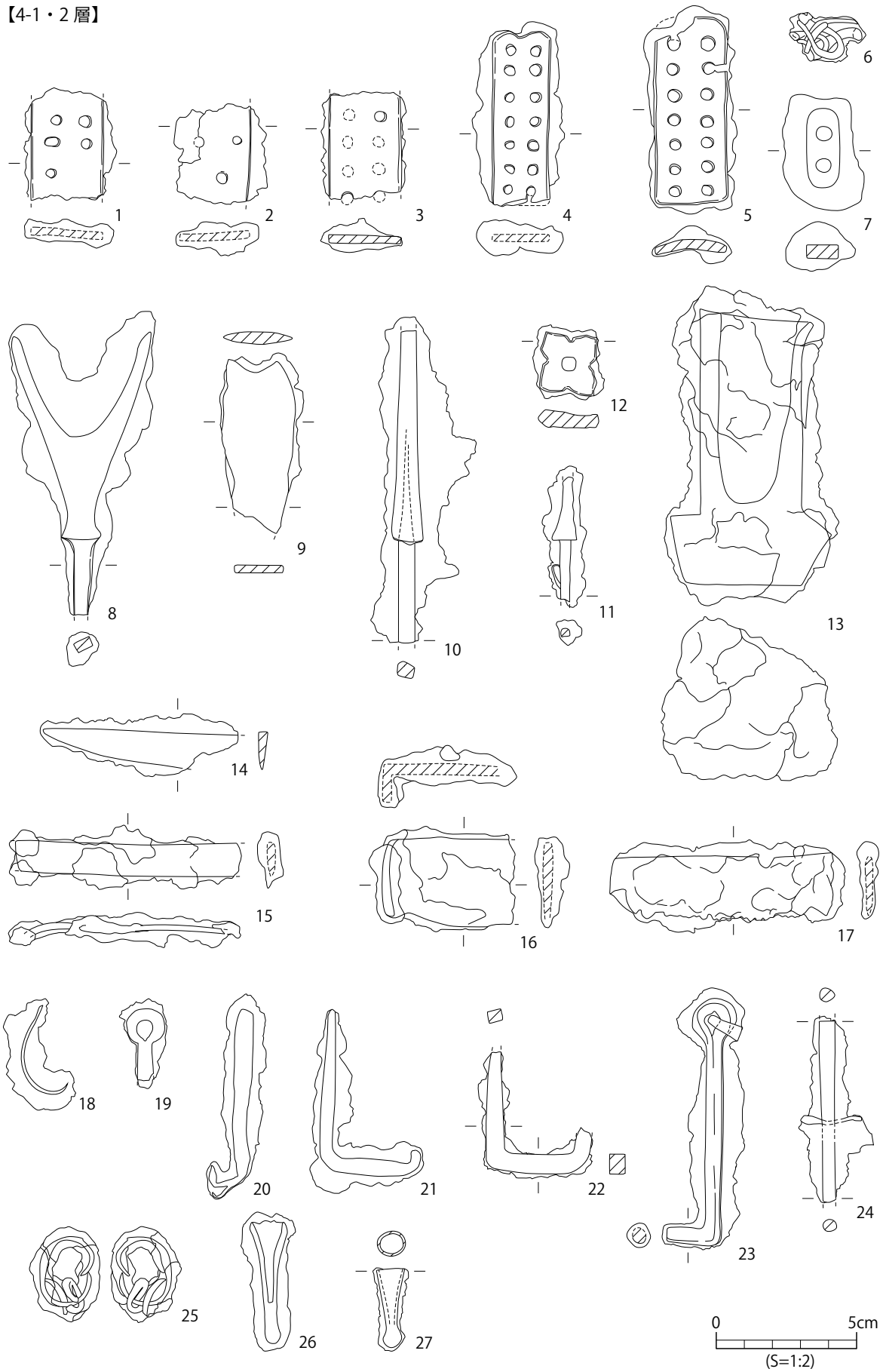
第131図１・２は玉類である。１はおそらく滑石製の小玉である。厚さが2mmと非常に薄い。２は緑色凝灰岩製と思われる管玉である。穿孔は直線的である。３～５は石鏃で、すべて安山岩製である。６は黒曜石製の楔形石器である。７は安山岩製のスクレイパーである。一部自然面が残る。下辺には細かな剥離により刃部が形成される。８～ 10は塩基性片岩製の磨製石斧の未成品である。８は剥離段階のⅡａ類である。９は敲打段階のⅠａ類である。ほぼ全面に敲打が及んでいる。刃部は欠損と考えたが、刃部を付けようとした剥離の可能性もある。10は敲打段階のⅠａ類である。欠損が激しいが、基部を除きほぼ全面に敲打が及ぶ。11は塩基性片岩製の磨製石斧Ⅱｂ１類である。体部には細かな剥離と敲打が残るが、研磨せずに完成品としたものと判断した。基部は欠損としたが、自然面にもみえる。断面は扁平な楕円形である。12は石材不明の磨製石斧Ⅱｂ１類である。研磨が全体に及んでいる。非常に薄く仕上げられており、伐採斧かどうか疑問が残る。13は類型不明の撥形石斧である。体部は幅が狭く、刃部が大きく広がる。刃部には研磨がみられない。

第132図１～５は板状砥石である。１は石材不明で、にぶい黄橙色を呈する。本来は長方形であったと考えられる。表裏面に擦痕が確認でき、使用により滑らかである。厚さが５mmと非常に薄く、板石硯の可能性もある。２も石材不明で、橙色を呈する。これも本来は長方形であったと考えられる。こちらは片面のみ使用している。１と同様に板石硯の可能性がある。３は砂岩製と思われる。欠損部が大きいが、遺存する面はすべて使用している。４は石材不明で、本来は長方形であったと考えられる。両面を使用しており、滑らかである。横断面が方形ではなく、欠損している側に向かって薄くなる。厚さが４mmと非常に薄く、板石硯の可能性もある。５も石材不明で、打割と研磨により長方形に成形している。遺存する各側面は自然面に直接研磨を加えている。裏面は打割したまま未使用である。表面には細かな擦痕が観察でき、板石硯の可能性もある。６は一字一石経である。扁平な川原石に「而」と墨書がみられる。本遺跡ではこの１点のみしか出土しておらず、流れ込みと考えられる。７～ 10は石錘である。いずれも川原石を利用して端部にのみ打割を加えている。11は滑石製の石鍋である。付近では同一個体と思われる破片３点が出土したが、接合しなかった。木戸編年（木戸1993）のⅢ−ａ期にあたると思われ、12世紀のものと考えられる。12は花崗岩製の台石とした。厚さ5.5cmで全体的に揃っている。上面の中央には長方形の被熱痕があり、



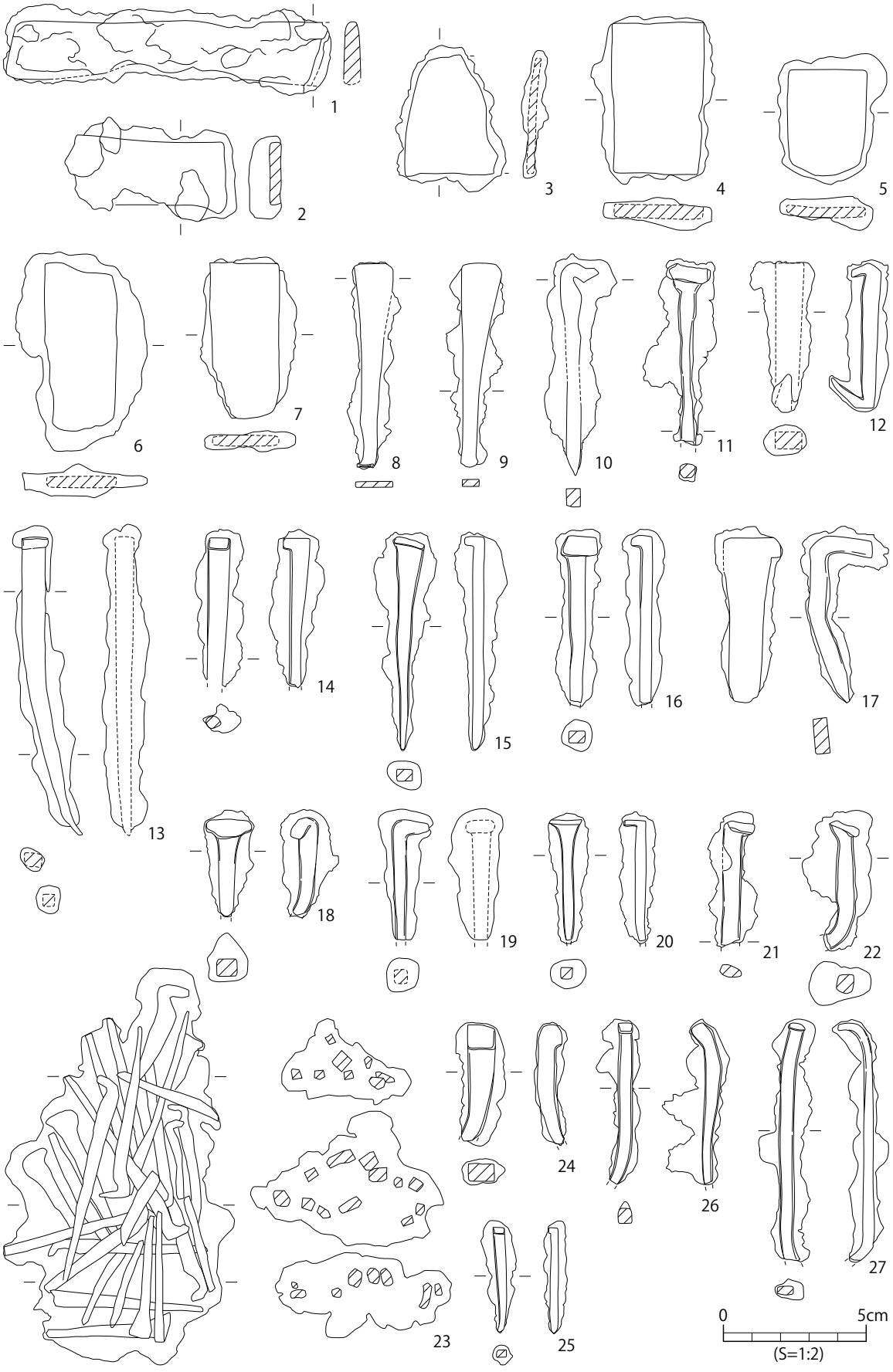
第 135 図　４層出土遺物（16）

【4-1・2層】



第136図　4層出土遺物（17）

【4-1・2 層】



第 137 図　4 層出土遺物（18）

被熱の度合いを色分けして表現した。調理など、火を使った何らかの作業に使用したものと考えられる。

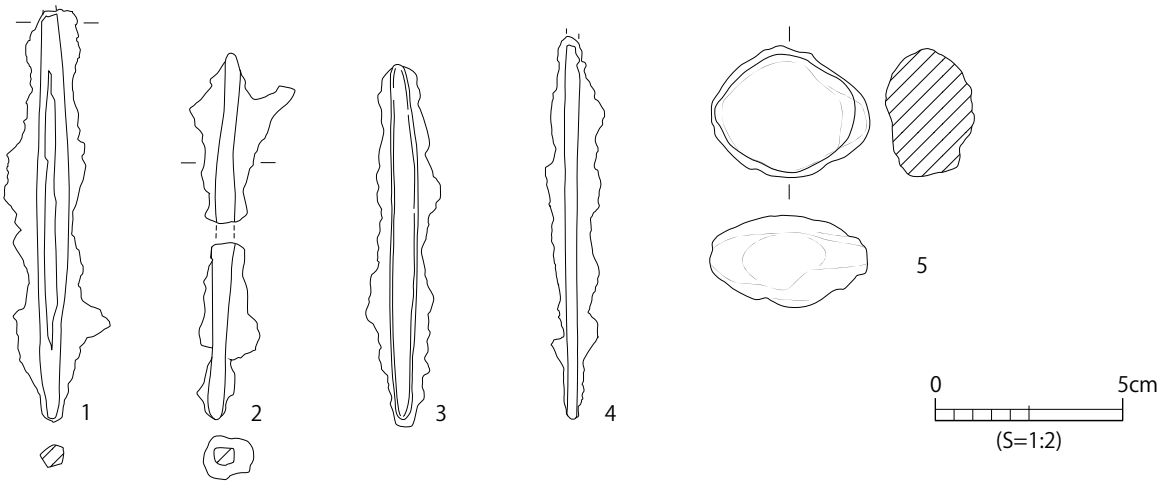
鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品（第 133 図〜第 138 図）

第133図〜第135図は4−3 〜 4−10層で出土した。１〜３は伊予札である。１・２がＡ類、３がＣ類である。４・５は革製の綴紐が錆化したものと考える。６〜８は鉄鏃である。６は方頭斧箭Ⅱ式、７は柳葉式、８は無茎凹基の三角形式と考えられる。８は中央に孔がみとめられる。６は９世紀後半から11世紀前半、７は時期不明、８は弥生時代後期と考えられる。９は建物の扉に付ける八双金具と考えられ、完形に近い。尾鰭状の端部には猪目透かしがみられ、２ヵ所の穿孔部には固定するための金具が固着している。10も八双金具もしくは扉を止めるための金具と考えられ、ゆるやかに湾曲している。こちらも猪目透かしと固定のための金具が確認できるが、金具の形状および固定方法が９とは異なっている。11は六葉釘隠しで、猪目透かしが確認できる。12は円形の釘隠しである。中央に孔がみえる。13・14は四葉釘隠しである。13は２辺に凹みがなく、二葉のようにもみえる。これら第133図に挙げた武具や建物の飾り金具はほとんどが4−3層から出土しており、直上の4−1・2層および中世後半の建物群に関わるものが埋没過程で下層に入り込んだものと考えたい。

第134図１は刃物と考えた。２・３は釣針の可能性を考えた。４は袋状鉄斧である。全体的に厚みがある。５は火打金である。わずかに透かしが確認できる。６は環状の鉄製品で、幅が一定ではない板を環状に曲げている。７は環状の基部をもつ棒状鉄製品で、鍵もしくは大型の釣針の可能性がある。８は扁平な棒状鉄製品で、３片の同一個体品である。復元すれば長さ6.9cm以上となる。９は板状の不明鉄製品である。10 〜 15は釘である。頭形状は折釘、叩折釘、巻頭釘のいずれかと考えられる。16は棒状鉄製品と考えられ、長さが12.5cm以上の比較的大型のものである。17は大型の椀形鍛冶滓の完形品で、分析資料のMRH−10にあたる。分析の結果、熱間での鍛打加工にともなう鍛錬鍛冶滓と考えられる。第135図は古銭である。１・２は唐銭の開元通寶である。３は北宋銭の咸平元寶である。４は北宋銭の元豊通寶である。５・６は北宋銭の元祐通寶である。

第136図〜第138図は4−1・2層で出土した。第136図１〜５は伊予札である。１・２がＡ類、３がＢ類、４がＣ類、５がその他類である。５は上端部の角がやや丸みをもち、横断面が山形に湾

【4-1・2 層】



第 138 図　４層出土遺物（19）

曲している。孔はすべて同じ大きさと思われる。６は革製の綴紐が錆化したものと考える。７は笠鞐と呼ばれる甲冑部品である。肩の紐（高紐）などを止めるために使用される。８～ 11は鉄鏃である。８・９は雁又式、10は鑿根Ⅰ式、11は丸根Ⅱ式と考えられる。８は中世を通じて流通する。９は抉りが浅く９世紀後半以降のものである。10は箆被が環状を呈し、11世紀後半以降のものである。11は15 ～ 16世紀のものであろう。12は四葉釘隠しである。13は中空のくさび状鉄製品である。建物に関係した金具かもしれない。14は刀子などの刃先である。15も断面の一端が先細りすることから刃物の可能性がある。16は穂摘鎌であろうか。17は鋸でわずかに刃部が確認できる。18 ～ 22は釣針もしくはその可能性があるものである。18は完形に近い。19は大型釣針の基部の可能性がある。20は先端が二股に分かれている。21・22はＬ字形の大型品である。23は鍵状の不明鉄製品で、環状の基部をもつ。24は不明鉄製品である。方形の板材に棒状鉄製品が貫通している。25は環状の鉄製品で、薄い棒状の鉄製品が環状に成形され、そこに別の環状鉄製品が絡み合っている。26・27は石突と考えた。いずれも中空で円錐状を呈する。27の方が小さく先端が球状に肥厚する。第137図１～７は不明板状鉄製品である。８～ 27はすべて釘である。頭形状が把握できるものでは、10・11・18が叩折釘、12 ～ 17・19 ～ 22・24 ～ 27が折釘と考えられる。注目すべきは23で、約22本の折釘や叩折釘が錆着した状態で出土した。詳細は第４章で述べるが、保管状態を示すものと考えられる。第138図１～４は棒状鉄製品である。１はＸ線写真で確認すると内部に亀裂が入っているが、これは劣化によるものと考えられる。５は鉄塊系遺物で、分析資料のMRH−９にあたる。分析の結果、脱炭作業中に脱炭しきらずに取り残された鉄塊と考えられた。

９．５層の出土遺物

５層は弥生時代から古墳時代まで時期幅のある遺物を含み、本遺跡でもっとも遺物出土量の多い包含層である。層自体も厚く、４ラインでは２層に分層できたが（第14図）、平面では認識しにくい状況であった。中世後半の遺構面形成時に削平・撹乱を受けた可能性が高い。

陶磁器（第 139 図１・２）

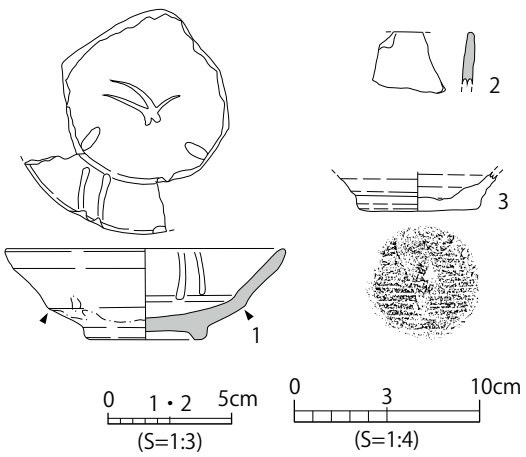
５層にもわずかに中近世の遺物が混ざる。出土数も極端に少なく、これは後世の遺構面形成時に混ざり込んだものと考えたい。１・２は国産陶器である。１は肥前系の鉄絵皿、２は美濃焼の志野向付である。１が16世紀末から17世紀初頭、２が16世紀末から17世紀前葉のものと考えられる。

土師質土器（第 139 図３）

３は褐色系の坏である。底部は厚く、ヘラ切りで板目状の圧痕がみられる。

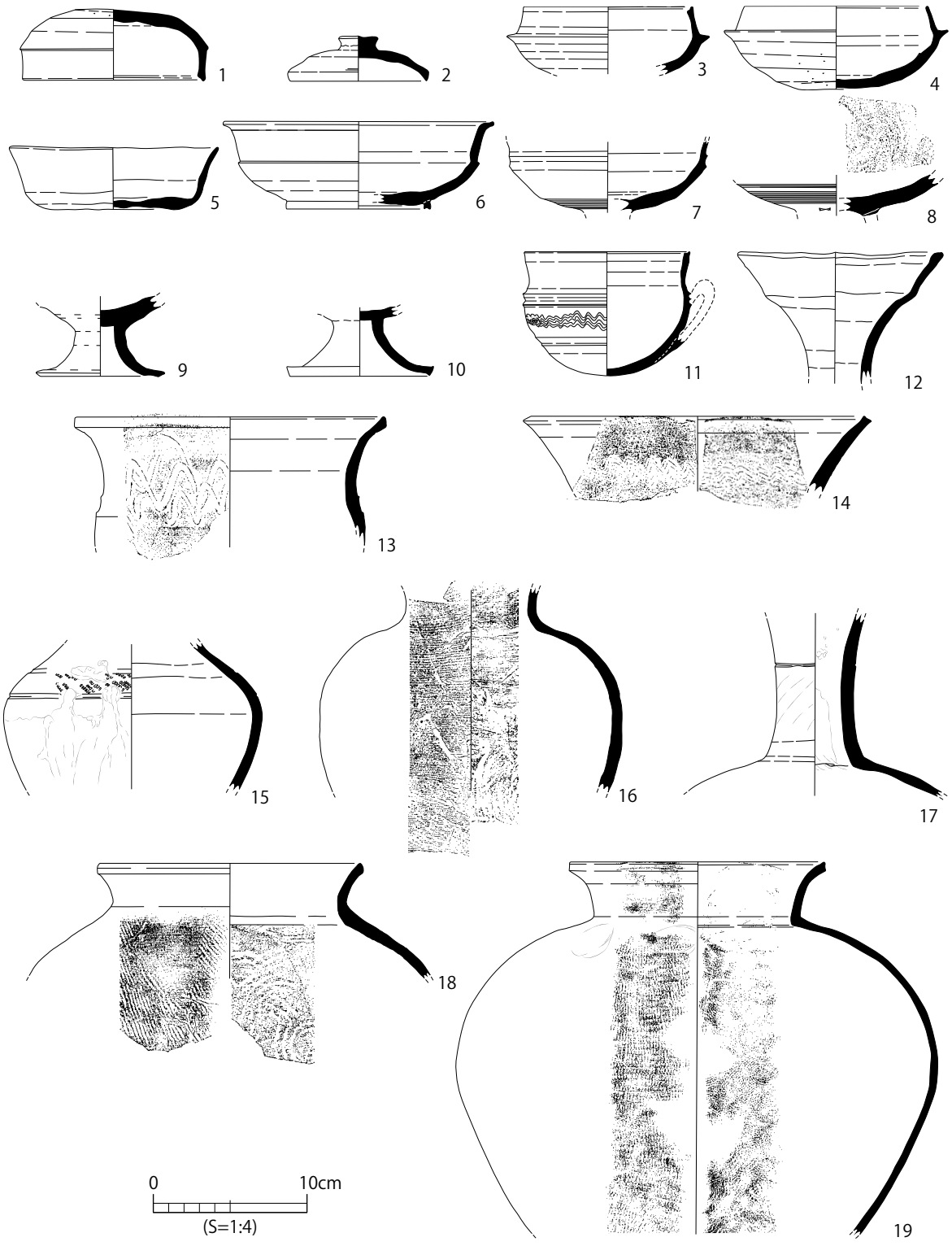
須恵器（第 140 図）

１・２は蓋である。１は口縁端部の段や稜がはっきりしている。２はボタン状のつまみをもち、内面にカエリをもたないものである。３～５は坏である。３は口縁端部にやや甘い段があり、口縁部の立ち上がりも大きい。４は口縁端部の段がなく、口縁部の立ち上がりも３より低い。５はべったりとした底部から口縁部が外傾して開く。底部はヘラ切りの



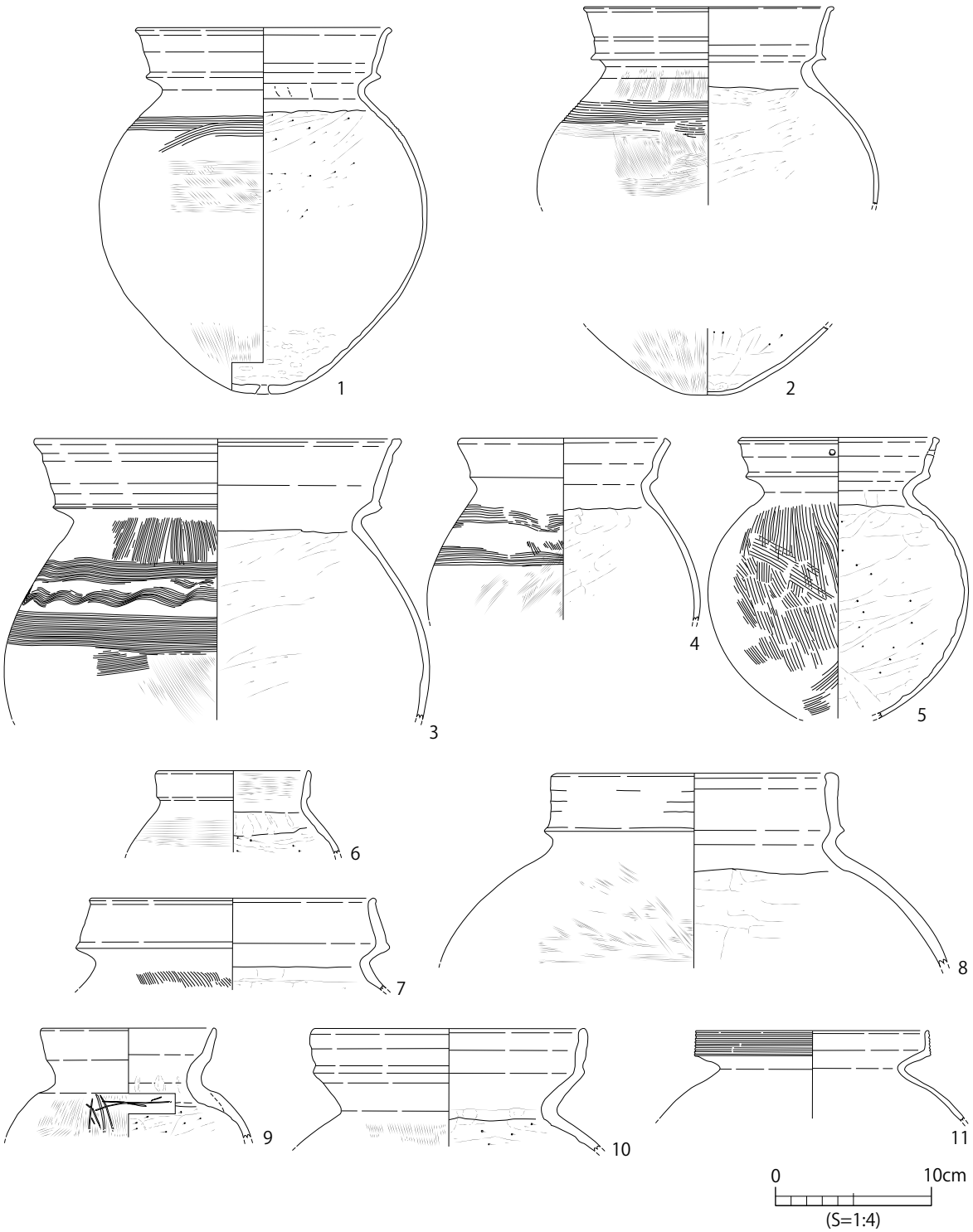
第 139 図　５層出土遺物（１）

後ナデ調整している。６は高台付きの稜碗である。高台の端部は断面Ｕ字状に凹んでいる。金属器を写したものと考えられる。７～ 10は高坏である。７は無蓋高坏である。２段にわたる稜線があり、底部外面にはカキメ調整がみられる。内面は使用のためか非常に平滑である。８は坏部で、外面にはカキメ調整、内面には同心円状の当て具痕のようなものが確認できる。また現状で２ヵ所に透かしがある。９は低脚高坏で、脚端部は回転ナデにより内面が凹んでいる。10も低脚高坏で、焼



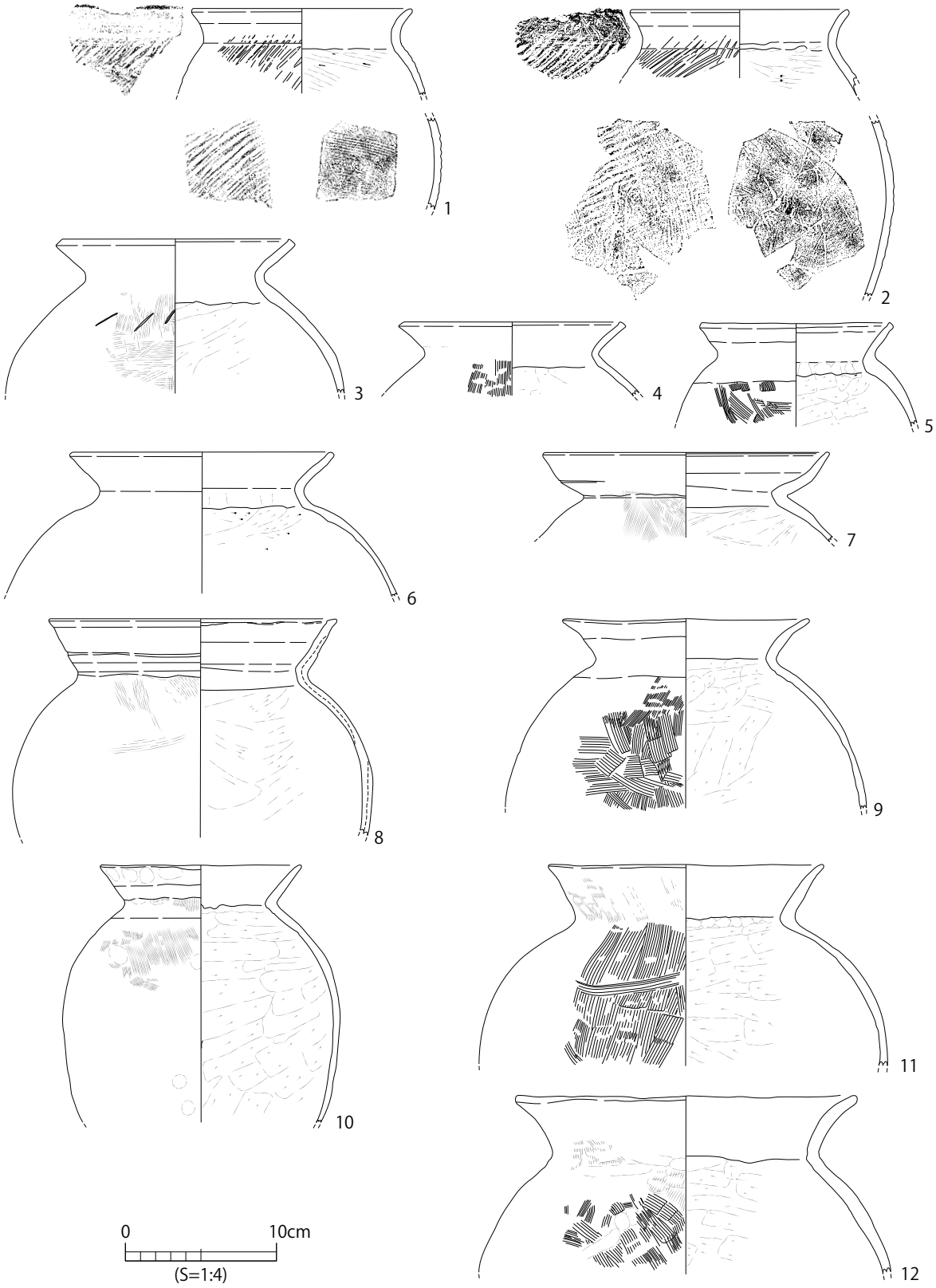
第 140 図　5 層出土遺物（２）

成が悪く灰白色を呈する。11は把手付椀である。口縁端部には段があり、胴部には２段にわたる稜線、波状文が施される。12は鉢である。焼成は良いが、ひび割れやゆがみが顕著である。13 ～ 17は壺類である。13は器高の低い広口壺で、口頸部には粗雑な波状文が施される。14も広口壺で、口頸部の内外面に櫛描波状文が施される。13・14ともに焼成が悪く灰白色を呈する。15は長頸壺である。肩部には２条の沈線の間に２段にわたる櫛歯列点文が施される。これについては、列点文が施された面と対応する位置の内面に灰が被っており、図面の下側が開口していたと当初考えた。また、外面の自然釉も図面下から上方向に流れており、これを支持する。つまり、図面の天地が逆転



第 141 図　５層出土遺物（３）

する可能性がある。しかし、それだと文様帯が胴部最大径より下にくることになり、そのような類例が不明であったことから器形や施文の位置を優先して図示をおこなった。16は断面がにぶい赤色を呈する。外面はタタキ後にカキメ調整がなされ、内面下半には同心円状の当て具痕が残る。17は長頸壺である。内面を中心に自然釉が厚く付着している。18・19は甕である。19は外面の肩部に

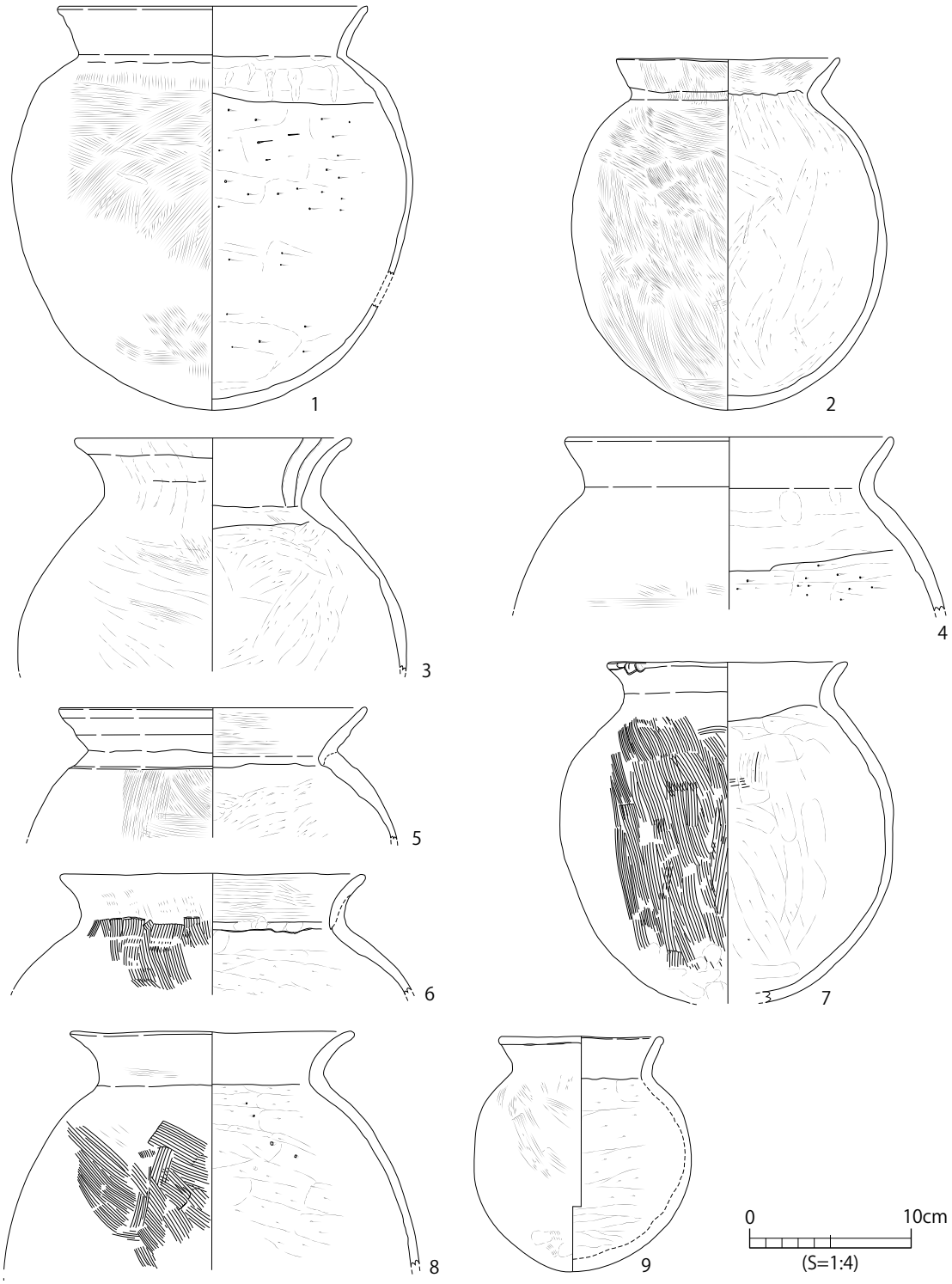


第 142 図　5 層出土遺物（４）

窯の中で径８cm程の小型器種を並べて置いた痕跡が残っている。１・３・７・11は石見１期、12は石見３期、４・８は石見３～４期、９は石見４期、10は石見４～５・６Ａ期、５は石見９Ｂ期以降、６は石見10期以降と考えられる。

土師器（第 141 図～第 150 図）

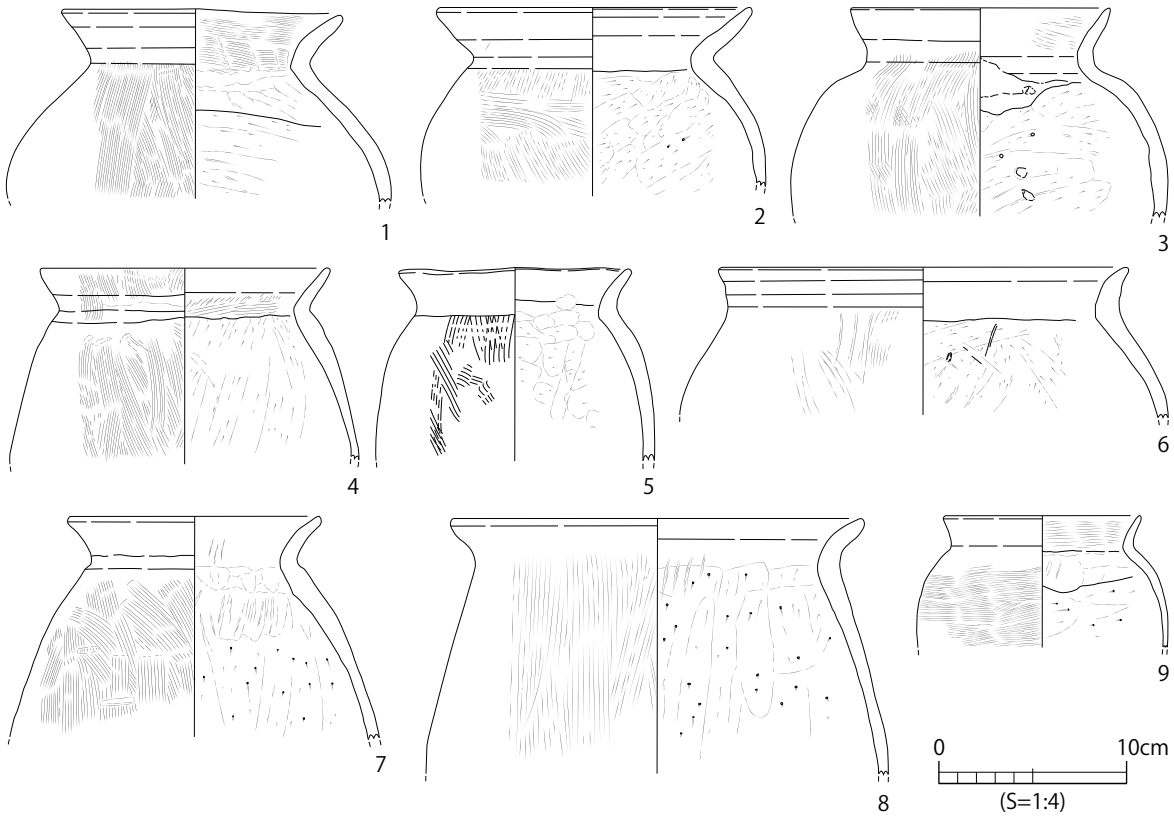
第141図～第144図は甕である。第141図は複合口縁のものである。1はわずかに平底の痕跡を残し、底部には径1.2cmの穿孔がみられる。内外面に煤が付着していることから、煮炊きに使用された後、転用された可能性が高い。２は同一個体と考えられる口縁部と底部を図上で復元した。底



第 143 図　５層出土遺物（５）

部はこちらも平底の痕跡を残す。３は口縁部にやや厚みがあり、上面に平坦面をもつ。４の肩部には２段にわたる櫛描直線文が施され、上段は波状文を意識したのかややうねりがある。５は小型品である。口縁端部は内外面からつままれ面をもち、外面には径２mmほどの穿孔が確認できる。外面が縦もしくは斜め方向の粗雑なハケで調整される点と色調が火色のような橙色を呈する点が特徴的である。６も小型品である。複合口縁の形骸化が進み、頸部との境に段を残すのみである。７は内傾する口縁をもつ。胴部はおそらく大きく肩が張る大型の器種であろう。８は口縁部が直立するもので、そこから丸みを帯びた胴部は強く張り出す。９は複合口縁が痕跡的にゆるやかな稜として残るのみである。肩部にはヘラによる線刻がある。10も複合口縁の形骸化が進んでおり、稜が甘く器壁も厚くなっている。11はいわゆる吉備型甕で、搬入品と考えられる。石見地域ではほとんど出土しないものである。１・２・11は草田６期、３・５・７は小谷２～３式、４・８は小谷３～４式、６・９・10は小谷１～３式と考えられる。

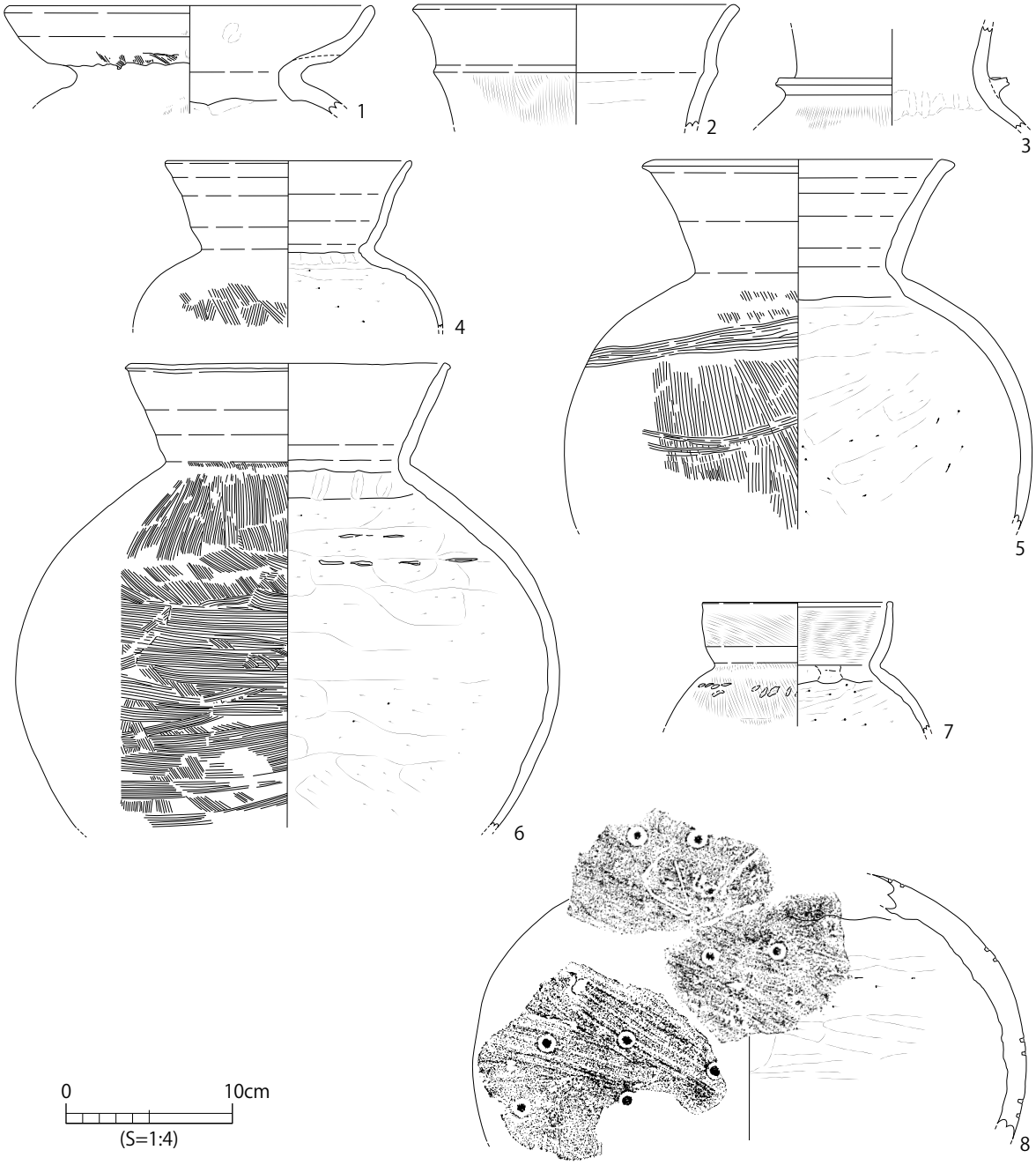
第142～144図は単純口縁のものである。第142図１・２は胴部にタタキをもつもので、同一個体と考えられため図上で復元した。本遺跡ではこうしたタタキをもつ甕がコンテナ１箱分程出土している。１は内面をハケ調整し、２はハケ調整後に貝殻のようなものでなでている。３・４は布留系のものである。３は肩部に刺突文がみられる。４は全体的に器壁が薄く、丁寧な仕上がりである。５は短く開く口縁部をもち、端部内面を若干つまみ上げている。６は全体的に器壁が薄く、口縁端部は丸みのある面をもつ。７は口縁がやや外湾し、端部を丸くおさめる。８は口縁部が直線的に伸び、端部は内面に稜をもつ。口縁部外面には１条の沈線が施される。外面にはクレーター状の剥離があり、焼成時の破損と考えられる。９～12は外反口縁をもつものである。１・２は草田６期、３・４は小谷２式以前、５～12は詳細不明だが小谷４式から大東１・２式と考えられる。第143



第144図　５層出土遺物（６）

図１～９も引きつづき外反口縁のものである。底部が判明するものはいずれも完全な丸底となっている。１は同一個体と考えられたため図上で復元した。２は完形に復元できたもので、６層の直上でつぶれるように出土した。３は口縁部内面にヘラ描きによる縦方向の直線が２条みられる。９は小型品で、ほぼ完形に復元できた。外面には３ヵ所に穀物類の籾圧痕がみられる。このうち２ヵ所はクレーター状に剥離した内側に圧痕があるため胎土に含まれていた可能性もある。１～９は大東１～３式と考えられる。第144図１～９も引きつづき外反口縁のものである。全体として器壁が厚く、頸部の屈曲が弱いものが多い。７は口縁部内面に３条の線刻のようなものがみえる。１～５が大東３式、６～８は大東４・５式まで下る可能性がある。

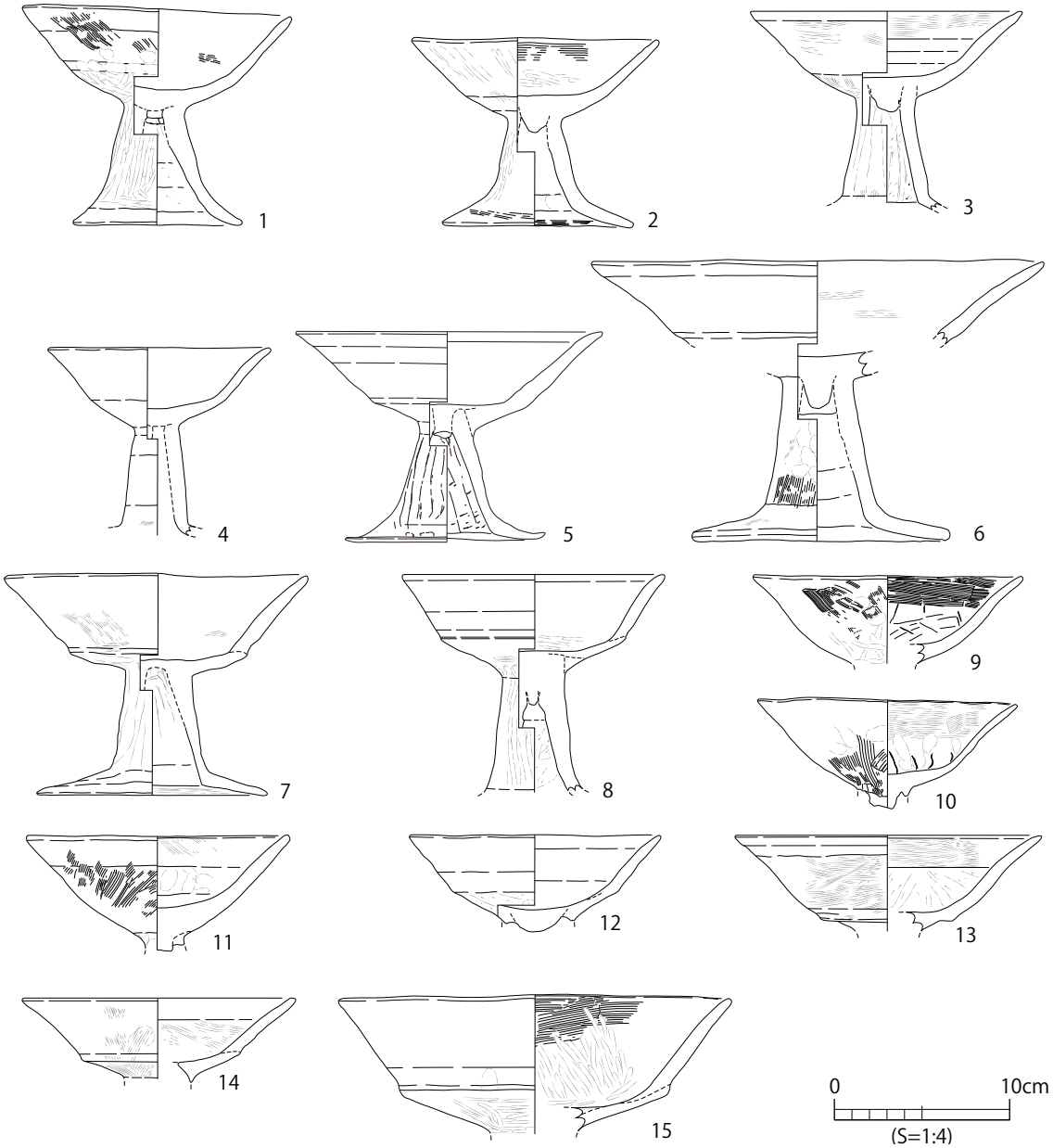
第145図は壺である。１～３は複合口縁のものである。１はかなり形骸化が進んでおり、口縁部が内湾してわずかに稜を残すのみである。外面には接合の際になでつけた粘土がよく残る。２も痕



第 145 図　５層出土遺物（７）

跡的な複合口縁だが、大きく外反する途中に稜が設けられ、稜直下までハケ調整が及んでいる。４はいわゆる山陰系二重口縁壺と思われる。４～７は直口壺である。４は小型品、５・６は大型品で形態が類似するが、５の方が胎土の精良さやつくりが丁寧である。７は口縁部がやや内湾し、肩部には米粒状の刺突文が施される。８は胴部全体に一定間隔で竹管文が施されており、それとは別に三角形状の記号の中に点を打つ記号のようなものがヘラ描きされている。器壁に厚みがあり大型品になると思われる。

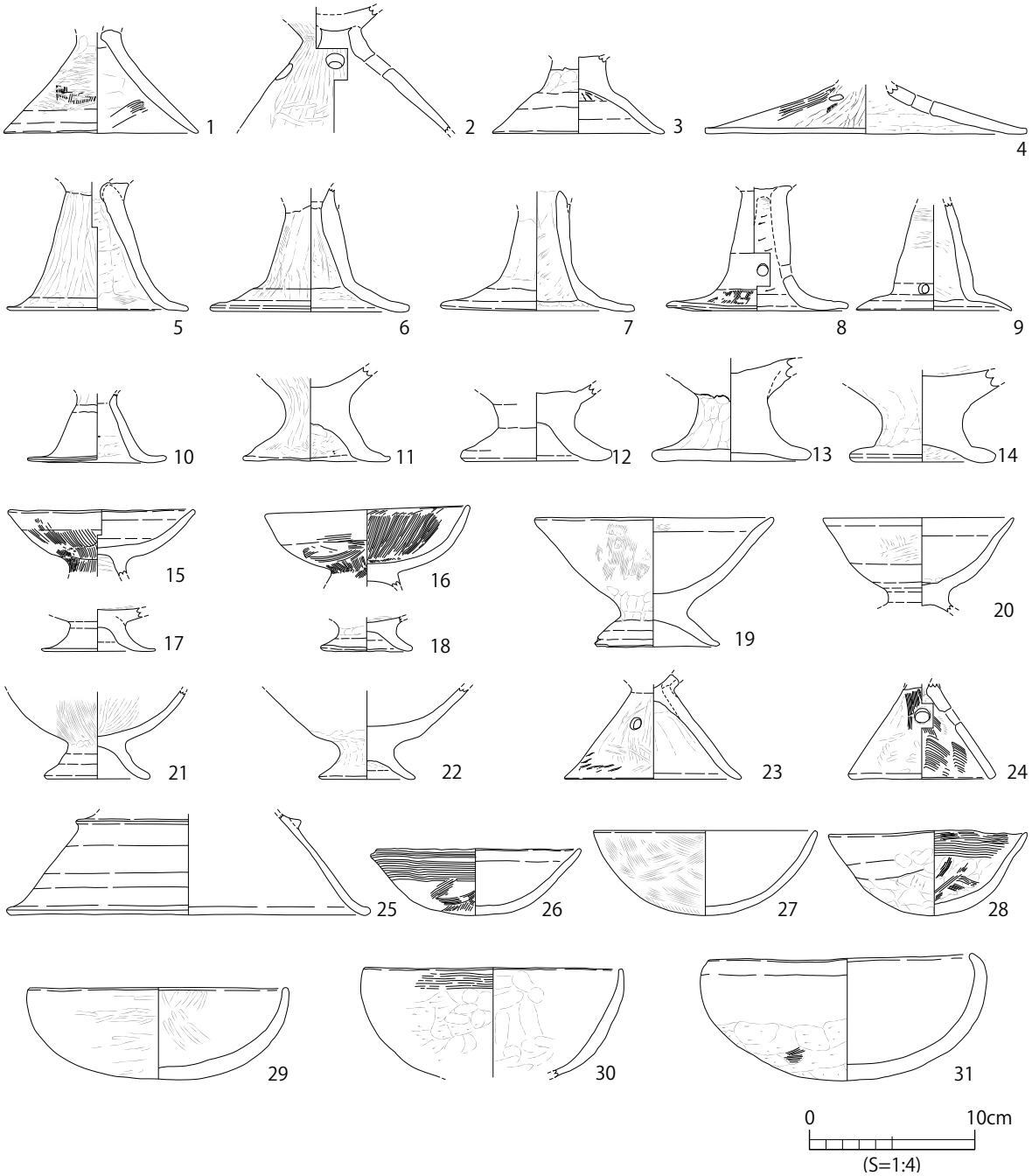
第146図、第147図１～14は高坏である。第146図１～８は全形がおおよそ把握できるものである。１は無稜外反形の坏部となだらかに開く脚部をもつ。２は無稜外反形の坏部とやや強く屈曲する脚部をもつ。接合は円盤充填による。３・４も同様であるが、脚柱部径が細くあまり広がらない点が異なる。５は有稜外反形の坏部と強く屈曲する脚部をもつ。接合は円盤充填により、充填した粘土を脚部内面に強くなでつけている。６は同一個体と考え図上で復元した。かなり大型の高坏である。有稜外反形の坏部と強く屈曲する脚部をもつ。接合は円盤充填による。７は有段外反形の



第 146 図　５層出土遺物（８）

坏部と強く屈曲する脚部をもつ。８は有稜外反形の坏部をもつもので、接合部にかなり多量な粘土を詰めており、下方から構造を確認することができない。９～ 15は坏部である。９～ 11は無稜外反形で、接合は円盤充填によるものが多い。10は内面に二枚貝腹縁による刺突を暗文状に施している。12は有稜外反形で外面の稜より下をケズリ調整する。接合は円盤充填で、充填粘土の径がやや大きい。13 ～ 15は有段外反形で、いずれも接合部が円形の空洞になっている。このことから接合は脚部との別づくりによるものと考えられる。１～ 15は大東１～３式が中心と考えられるが、一部１や９～ 11などは小谷式まで遡る可能性もある。

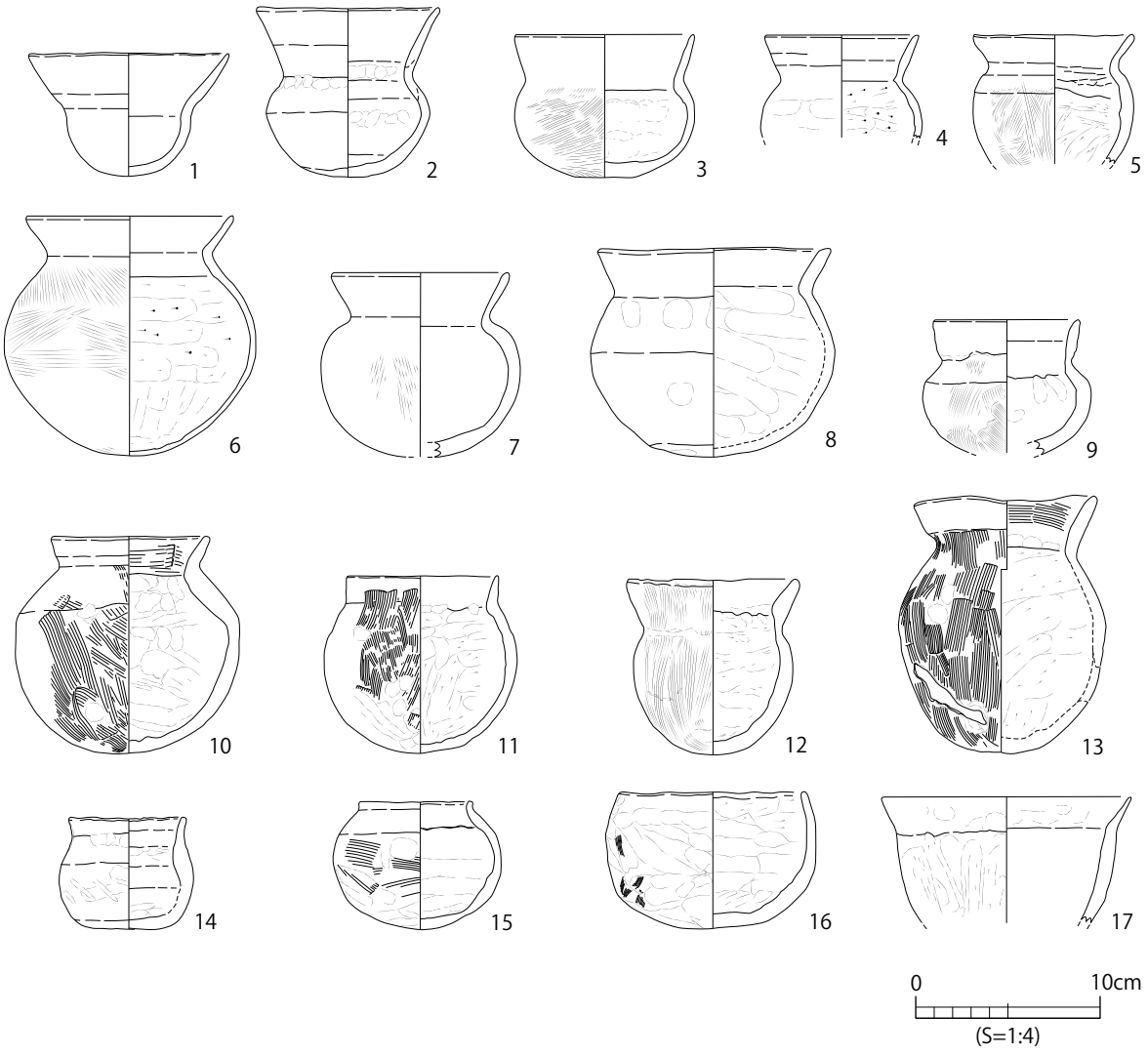
第147図１～ 14は高坏の脚部である。１～４は接合部直下から大きく開く一群である。２は４ヵ所に円形透かしがみられる。４は非常に低く立ち上がるもので、現状で２ヵ所の円形透かしがみられる。外来系であろう。５～６は長脚の一般的な高坏の脚部である。５は緩やかに開くもの、



第 147 図　5 層出土遺物（９）

6～9は脚裾部で屈曲するものである。8は1ヵ所にのみ円形透かしがみられる。9は屈曲がとくに強いもので、現状では1ヵ所にのみ円形透かしがみられる。10は低い脚部で脚裾部も強く屈曲するものの、全体的に薄手で丁寧なつくりをもつ。11～14はいわゆる低脚高坏である。器壁が厚く、とくに13・14は脚柱部に粘土が充填される。15～22は低脚坏とした。17・18は典型的な形状を呈すが、そのほかは形が崩れているものが多い。坏部が遺存するものは口縁がそれほど開かず坏部に深さのあるものが多い。23・24は小型器台である。小片で現状では1ヵ所のみ円形透かしが確認できる。25は鼓形器台である。26～31は坏である。26～28は口縁部が外反するもの、29～31は口縁が直立もしくは内湾するものである。29は包含層中で第148図8の上に被さるような状態で出土した。1～4・17・18・23・24は小谷式、15・16・19～22・25は小谷3・4式から大東1～3式、5～10は大東1～3式、26～28は小谷1・2式、29～32は大東3式、11～15は大東4・5式と考えられる。

第148図1～15は小型壺である。1は布留系の小型丸底壺の系譜で捉えられるものである。2は胴部を一周するように煤が付着している。3はやや平底のもので、口頸部にわずかに煤が付着している。5にはクレーター状の剥離があり、焼成時の破損の可能性がある。6はやや大型品である。器壁が薄く、つくりが丁寧である。8は前述のように第147図29と入れ子の状態で出土した。外

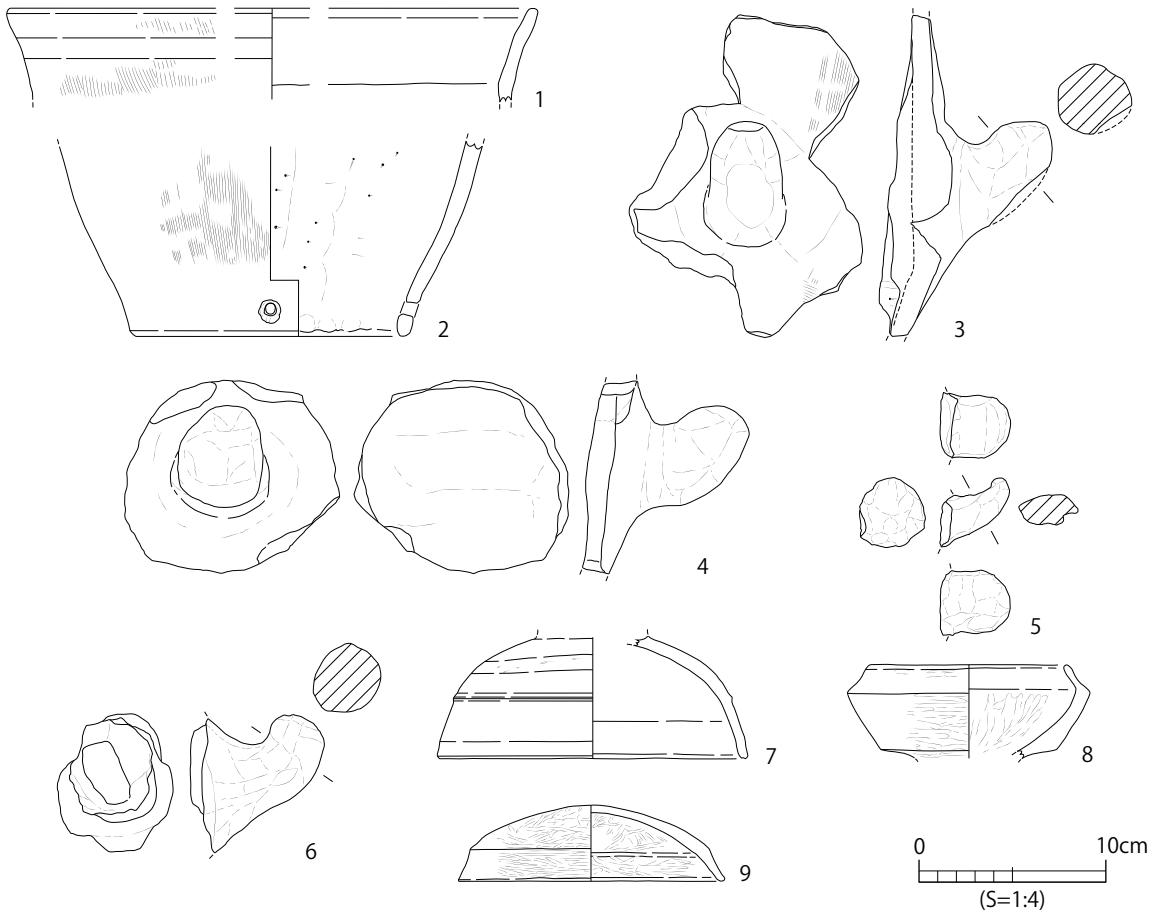


第148図　5層出土遺物（10）

面の広い範囲に煤が付着している。12・13はやや長胴のものである。13は完形だが、胴部に長さ５cmの穿孔があり、破面は風化により滑らかである。14は完形で平底である。15は無頸のもので、肩部に長軸1.8cm、短軸1.2cmの二枚貝のような圧痕がある。16・17は小型鉢とした。16は外面が粗雑なナデによって仕上げられている。１・６は小谷式の可能性があるが、その他は大東式と考えられる。

第149図１～６は甑である。１は口縁部、２は底部であるが、同一個体とは断定できない。２は小片で１ヵ所穿孔が確認できる。３～６は把手とその周辺部の破片で、いずれも類似した形態である。７～９は須恵器模倣土師器である。７は蓋を模倣したもので、頂部にはつまみが剥離した痕跡がある。口縁端部には段があり、稜もはっきりしている。色調は明赤褐色を呈する。８は有蓋高坏を模倣したもので、全体をミガキで丁寧に仕上げている。色調は明赤褐色を呈する。９はいわゆる黒色磨研須恵器模倣土師器である。蓋を模倣したものと考えられる。本遺跡から約８km離れた高津遺跡では30個体以上が出土しているが（江津市教委2005）、本遺跡では小破片も含めてこの１点のみであった。１～６は大東４・５式が中心、７～９は大東式と考えられる。

第150図はミニチュア土器である。１は非常に小型である。２・３は器高に対し胴部形が大きいものである。５はやや突出した平底をもつ。６・７は形状が類似している。11・12は平底で直角に近い角度で口縁部が立ち上がる。13は壺形のものである。１～13はいずれも大東式のものと考えられる。

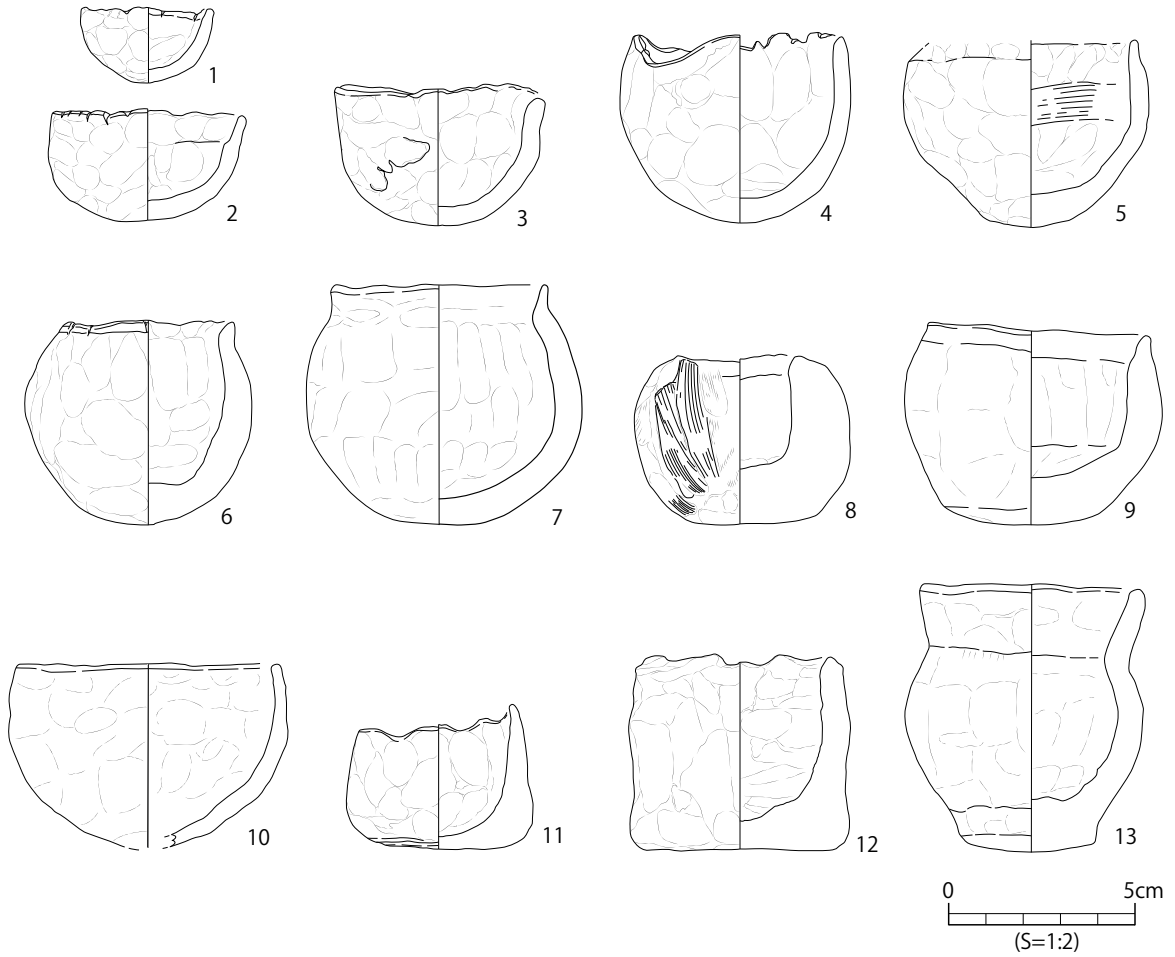


第 149 図　５層出土遺物（11）

弥生土器（第 151 図～第 158 図 11）

第151図は石見Ⅰ様式のものである。１～７は甕である。１は口縁部の下端を刻み、胴部に段をもつものである。段はハケにより強調することはなく、粘土紐の接合部を利用している。２・３は口縁端部を刻まず、胴部に段をもつものである。いずれも粘土紐の接合部に段を設けてハケにより強調している。４は胴部に１条の沈線をもち、口縁部の上端を刻んでいる。５は胴部無文で、器壁も厚い。外面のハケ調整も粗雑である。８～ 10は壺である。８は口縁部が短く屈曲し、口頸部境に段がめぐる。11は蓋である。頂部はやや窪むが平坦である。１～ 11は石見Ⅰ－１様式の範疇のものが多いが、５は石見Ⅰ－２様式と考えられる。

第152図～第154図は石見Ⅲ・Ⅳ様式のものである。第152図は甕である。１・２は口縁部をやや拡張し、外面を強くなでるものである。２の胴部には櫛歯状工具による刺突文が施される。３は口縁部を強く拡張し、外面に凹線文を施す。胴部には二枚貝腹縁と思われる刺突文が施される。また、肩部から胴部にかけて煤や白色の吹きこぼれ痕跡が明瞭に残っており、後者は口縁に対してやや斜交することから、吹きこぼれ直後に湯取りをおこなった可能性が高い。４～９は肩部に重層刻目文を施すものである。４は外面の風化が激しく施文具や施文順は不明瞭である。広い範囲が剥離しており、焼成時の破損の可能性もある。５は凹線文の後に二枚貝腹縁で刺突をおこなっている。６は凹線文の後に一段飛ばしで刻目を入れるが、押引きではなく刺突による刻みである。７は凹線文の後に幅のある工具で刺突することによって刻みを施している。８は二枚貝腹縁により２段にわ

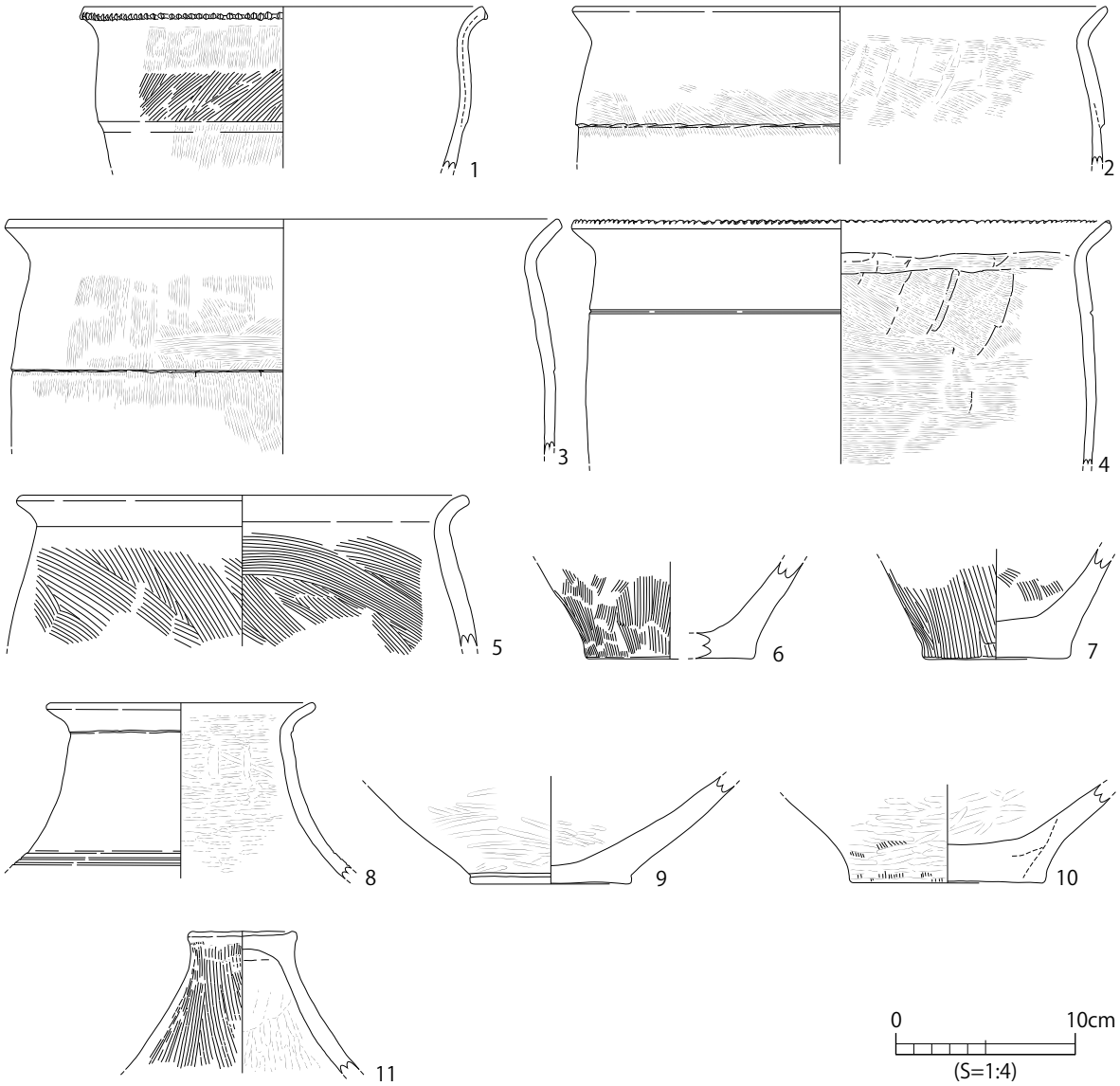


第 150 図　5 層出土遺物（12）

たって刺突文を施した後に凹線文を引いているが、かなり粗雑な施文である。９は小型品である。凹線文を施した後に一段ずつ丁寧に刻目が入れられている。４～９はいずれも胴部内面のケズリが最大径部もしくはそれ以下までにとどまるものと考えられる。１～９の詳細な時期否定は難しいが、概ね石見Ⅳ様式で、１・２は石見Ⅳ−１様式の可能性がある。

第153図は壺である。１～８は広義の広口壺である。１・２は水平に近い角度まで開いた口縁部の内側に羽状文や円形浮文を施す。３は頸部が短く開くものである。接合しないが同一個体と考えられる底部を図面上で復元した。全体的に灰白色を呈し風化が激しい。４～６は口縁部が角度をもって強く屈曲するものである。４は頸部に幅の広い凹線文を施した後に２段ずつ押引きにより刻みを施している。５は屈曲させた口縁部内面に凹線文を施す。６は頸部に沈線文とその下に櫛歯状工具による刺突文を施す。７・８はいわゆる出雲型広口壺の胴部と考えられる。羽状文や刺突文などを施文し、加飾性が高い。９は小型の精製品である。胴部に凹線文と丁寧な刻目文がみられる。１は石見Ⅲ様式の可能性があり、２・３が石見Ⅳ−１様式、４～９は石見Ⅳ−２様式と考えられる。

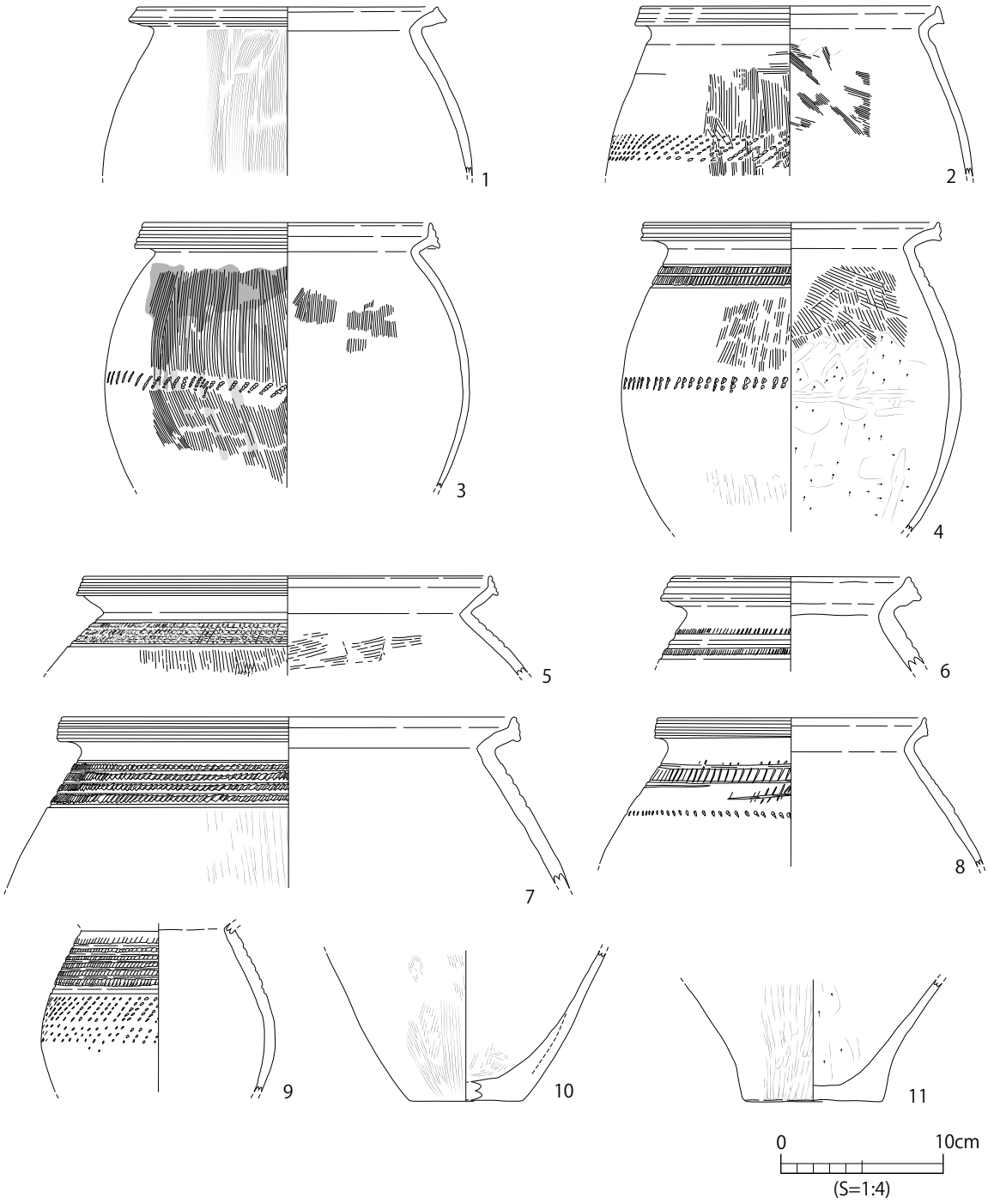
第154図は高坏である。１は坏部の形態は不明である。脚柱部には全面にわたって凹線文、その下に７ヵ所の円形透かしがみられる。脚端部はやや肥厚する程度で拡張しない。２も遺存範囲の全



第 151 図　5 層出土遺物（13）

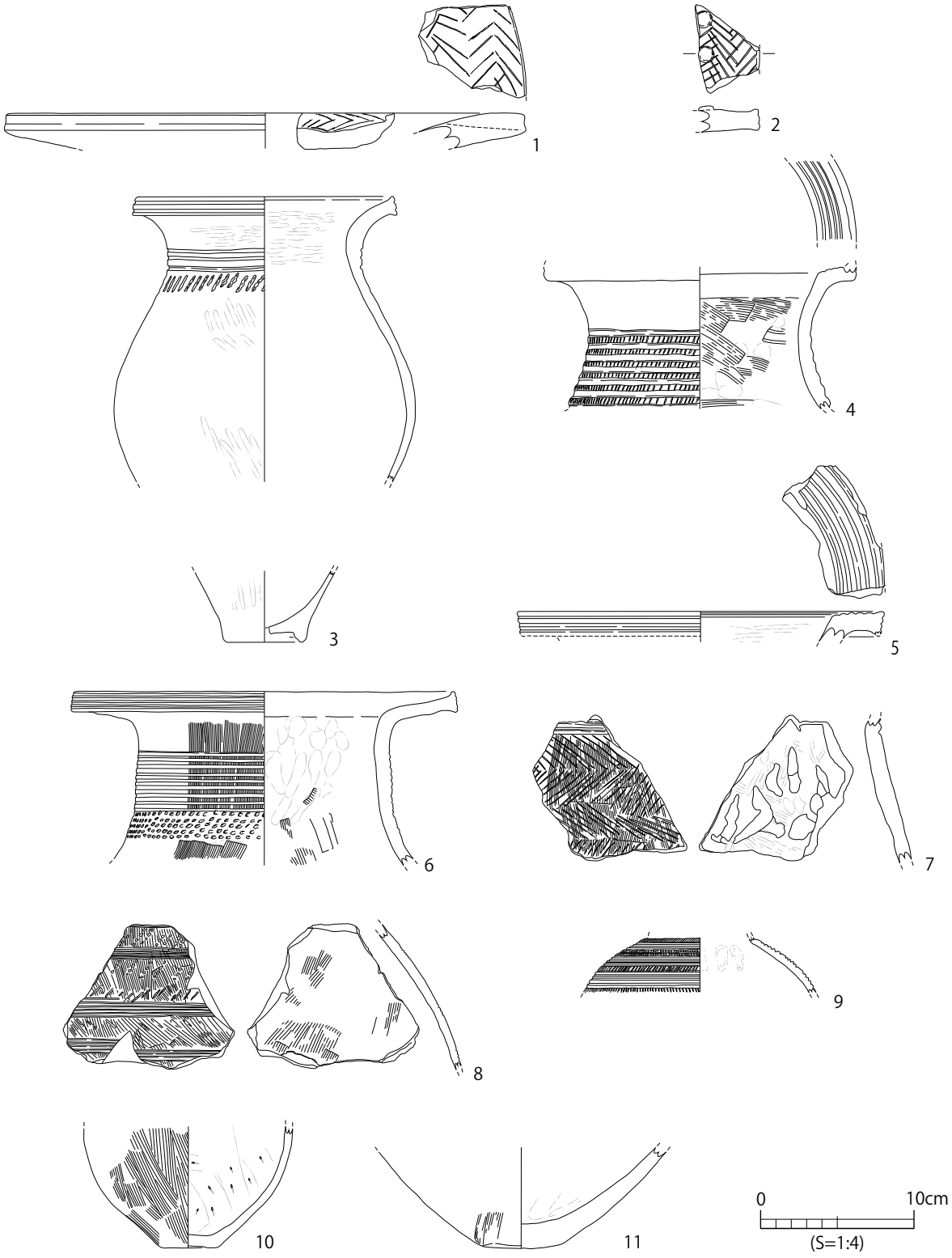
面にわたって凹線文を施している。３・４は同一個体と考えられたため図上で復元した。３は箱形の坏部をもち、脚柱部には間帯を挟みつつ幅の狭い凹線文が施される。４も箱形の坏部をもち、脚柱部には全面にわたって凹線文を施す。その下に２段にわたる円形透かしがみられ、上段は８ヵ所、下段は９ヵ所以上である。脚端部は若干肥厚する程度で拡張しない。１～４は石見Ⅳ様式と考えられる。

第155図～第158図11は石見Ⅴ様式のものである。第155図～第157図３は甕である。第155図１～11は口縁部の拡張が小さく、端部が内傾もしくは直立するものである。１はやや小型のもので、肩部の刺突文はやや湾曲していることから二枚貝腹縁によるものの可能性がある。２は口頸



第 152 図　5 層出土遺物（14）

部の器壁が厚い大型品である。肩部の施文は２段にわたり、上段が逆三角形、下段が三角形、内部に細かい条線が入る。巻貝を使用している可能性がある。３は肩部に重層刻目文状の文様がある。粗雑な施文で、何らかの工具で１段ずつ刺突文を施した後に凹線文を施している。色調は橙色を呈する。４は肩部に２段にわたる文様があるが、別の工具を用いている。上段はヘラ状工具による縦方向の押引き、下段は波状文を意識したような、器壁をなでるように施文している。５は幅のある

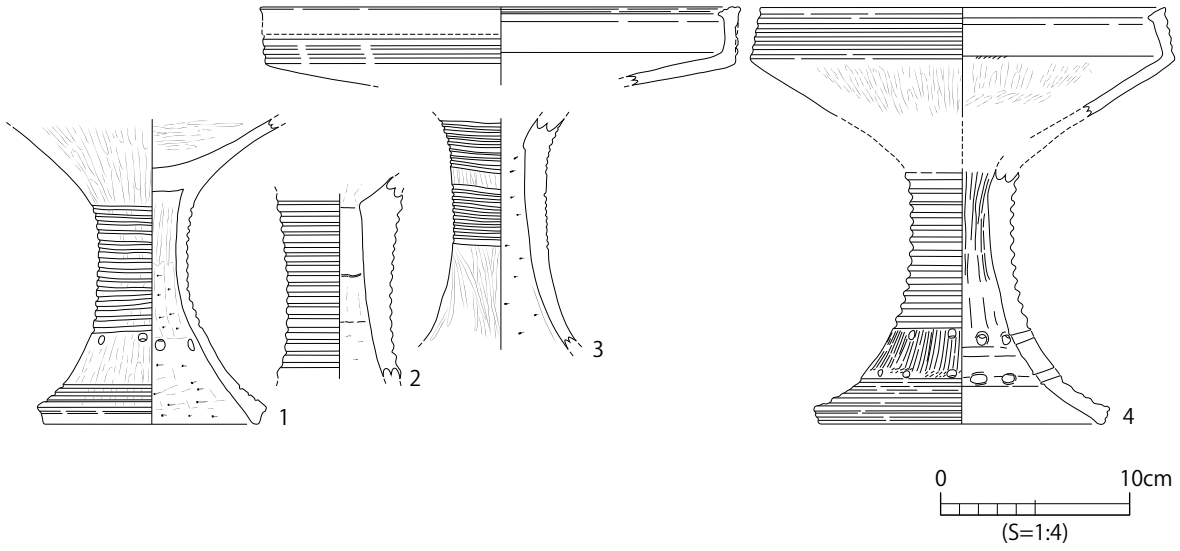


第 153 図　５層出土遺物（15）

ハケ状工具により刺突している。６は頸部から口縁端部までがかなり伸長した個体である。肩部は２条の凹線で区切り２段にわたって大ぶりの刺突文を施す。上段はヘラ状工具による斜め方向の押引き、下段はやや湾曲していることから二枚貝腹縁による刺突と考えられる。７・８も６とかなり類似しているが、７は下段に施文がみられず、８は遺存状態により確認できない。９は頸部の器壁が非常に厚い。口縁端部には波状文、肩部には刺突文が施される。肩部の施文は１つの単位が２段にわっており、１つ１つの点が三日月状になっていることから、竹管を３本束ねたものを施文具とした可能性がある。10は肩部に二枚貝腹縁による刺突文が施される。11は肩部に波状文と擬凹線文が２回繰り返される。１～11はいずれも石見Ⅴ−１様式と考えられる。

第156図１～13は口縁部の拡張が大きく、直立もしくは外傾するものである。口縁部外面には基本的に擬凹線文が施される。１は肩部に工具不明の刺突文とその下に擬凹線文が施される。２は肩部に二枚貝腹縁による刺突文が施される。３は肩部に複雑な施文が施される。頸部直下には二枚貝腹縁による刺突文、その下に波状文のような押引きによる平行線文が施され、頸部には三角形状の不明圧痕がみられる。４はやや小型品で、肩部の施文は縦方向の押引きではなく、刺突により施しているようにみえる。５・８は二枚貝腹縁による押引き連続刺突文と波状文が２段にわたって施されている。６・７も二枚貝腹縁による連続刺突文で、押引きをする際に上下に工具を動かすことで波状文のように波打たせている。９・10も二枚貝腹縁による連続刺突文だが、こちらはほぼ横ばいに施文具を動かしている。11は口縁部がかなり薄手となる。肩部にはわずかに刺突文がみられる。12・13は大型品で胴部下位まで復元できた。12は口縁部外面に２段にわたる擬凹線文が施される。肩部の施文は二枚貝腹縁による間隔の広い連続刺突文で、部分的に波状文のようになっている。13は肩部に幅の広い波状文を施す。口縁部外面の擬凹線文は直線的で平行感が強い。１～６が石見Ⅴ−２様式、７～13が石見Ⅴ−３様式と考えられる。第157図１～３は口縁部が薄く施文が施されないものである。いずれも肩部の施文は無文か、櫛歯状工具による平行線文が施される。１～３は石見Ⅴ−４様式と考えられる。

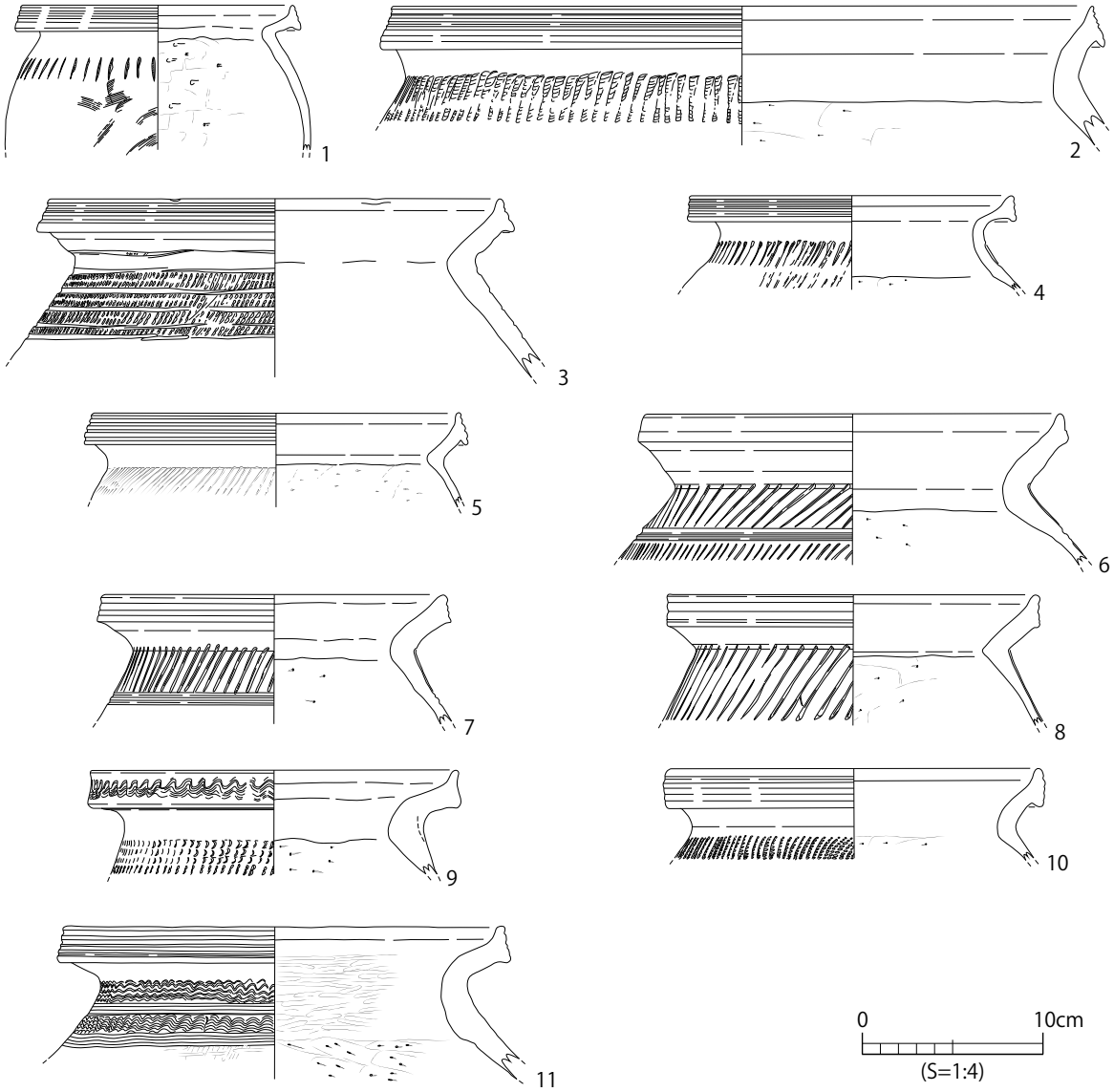
第157図４～14は壺である。４は口縁端部を欠いている。頸部には４単位にわたる擬凹線文が施される。一方、５は頸部無文である。６は口縁部が大きく外傾しながら開き、外面には擬凹線文



第 154 図　５層出土遺物（16）

を施す。頸基部には二枚貝腹縁による刺突文が施される。７は頸部が直立するもので、口縁部と頸部の外面には凹線文を施す。８は頸部が厚く、直口ぎみに開きながら口縁端部がわずかに複合口縁状に仕上げられる。頸基部には何らかの施文がみられるが、遺存状況が悪く不明瞭である。９・10は直口壺である。９は口頸部が短く開き、肩部には２段にわたって竹管文が施される。10は無文で全体的に風化が激しい。11は下大隈式と思われる九州系の壺胴部である。突帯は断面三角形で、頂部は貝殻のような工具で刻目が入る。調整は内外面ともにハケである。12 ～ 14は口縁部が薄く、大きく拡張するもので、文様も14の口縁基部にＣ字状の刺突文を施す以外は無文である。４～９・12は石見Ｖ−１～２様式、10は石見Ｖ−３～４様式、13・14は石見Ｖ−４様式と考えられる。

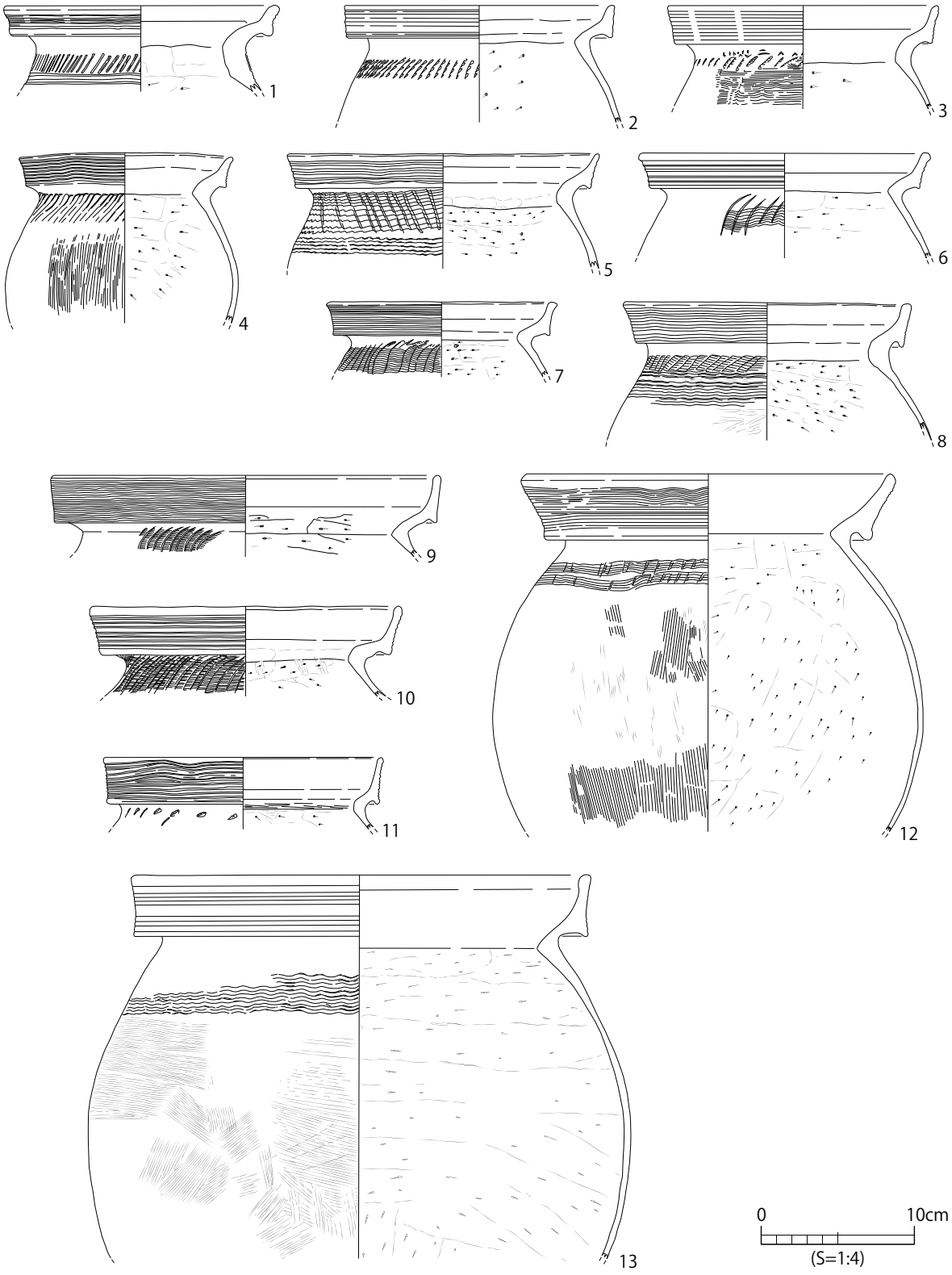
15 ～ 17は鉢である。15は口縁部があまり拡張せず、肩部に二枚貝腹縁による刺突文を２段にわたって施している。16・17は口縁部が外傾しながら上方に拡張する。肩部に施文はみられない。18・19は高坏である。18は大型品で全体を丁寧にミガキで仕上げる。坏部は緩い稜をもちながら大きく開き、脚柱部は中実となっている。外来系の可能性もある。19は脚柱部がまっすぐ立ち上がる。接合方法は不明である。15は石見Ｖ−１様式、16・17は石見Ｖ−２様式、18・19は石見Ｖ−３



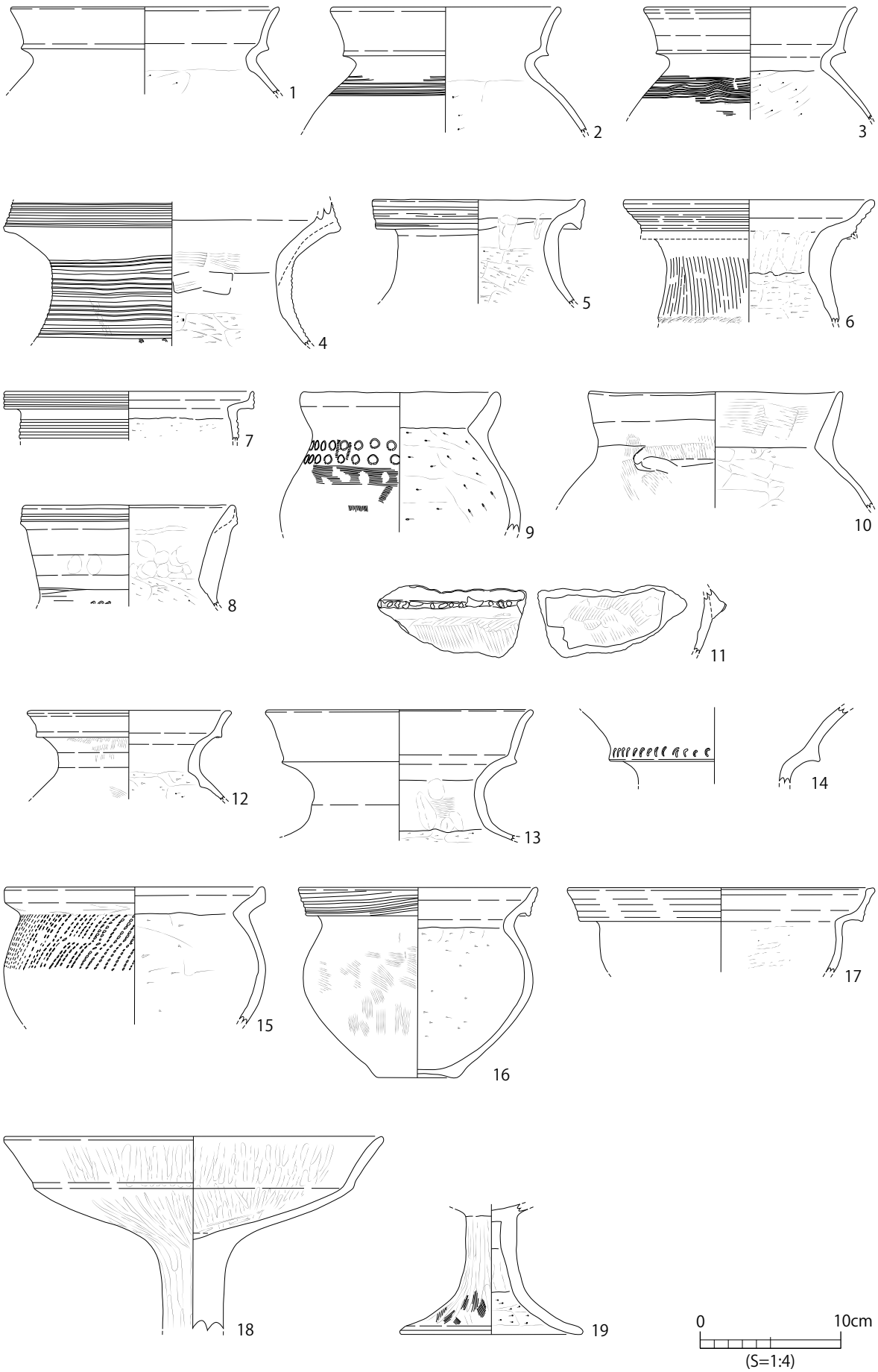
第 155 図　５層出土遺物（17）

～４様式と考えられる。

第158図１～３は器台である。１は鼓形器台で、器壁が全体的に厚く筒部も高さがあるものと考えられる。口縁部外面には擬凹線文が施される。２も鼓形器台だが、筒部の高さがなく脚部外面も無文である。３は外来系と考えられる器台である。高坏の可能性も考えたが、円盤充填をした痕跡がないため器台とした。屈曲部から口縁が大きく開き、端部を複合口縁化させている。内外面を丁



第 156 図　5 層出土遺物（18）



第 157 図　5 層出土遺物（19）

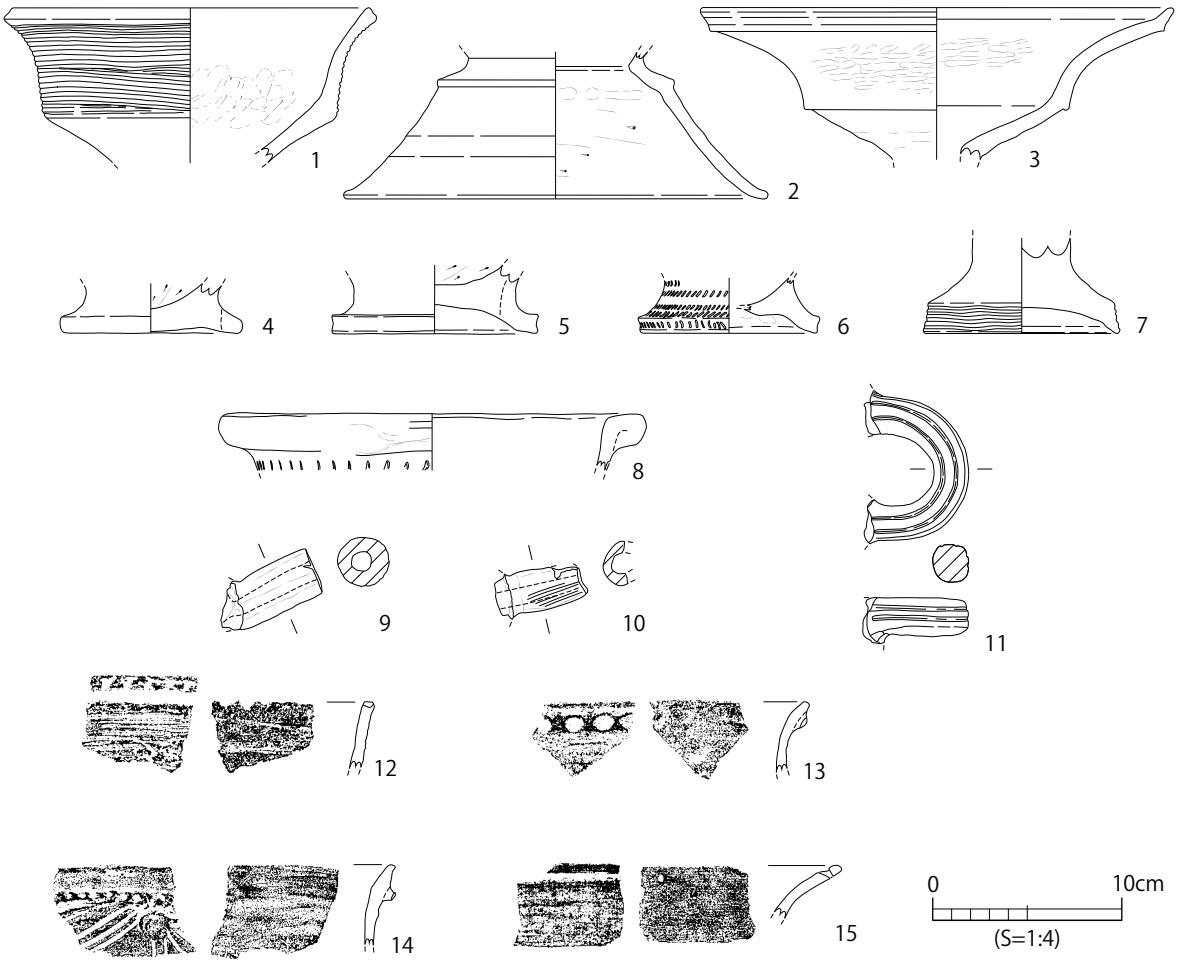
寧にミガキで調整している。４～７は脚台である。いずれも径が小さく、鉢もしくは壺が載るものと考えられるが、７は脚柱部がのびることから高坏の可能性もある。４は底面がほぼ平坦、５～７は上げ底状となる。６は外面全体に刺突文を施している。８は甕もしくは鉢と考えられる類例不明品である。口縁端部の粘土紐が巻き込まれており、当初無文土器系のものとも考えたが、口縁部直下に刺突文が施されること、胎土の特徴からⅤ様式に属するものと考えた。９・10は注口である。９は直線的で器壁も厚い。10はやや先細りだがそれほど長くはない。11は把手である。上面と側面に２条ずつ凹線文が施され、裏面にはみられない。１は石見Ⅴ−３様式、２は石見Ⅴ−４様式、３は因幡や但馬地域に類例があるように思われⅤ−３～４様式、４～９は石見Ⅴ−１～２様式、10は石見Ⅴ−２～３様式と考えられる。

縄文土器（第 158 図 12 ～ 15）

12 ～ 14 は深鉢である。12 は単純口縁の深鉢で、口縁端部に刻目を施す。13 は突帯文土器で、突帯の位置は口縁部からやや下がり、O 字の刻目が入る。14 は中山Ｂ式で、沈線により文様が描かれる。15 は浅鉢である。口縁部内面に段をもち、穿孔が 1 ヵ所確認できる。外面には煤が付着している。12 ～ 15 はいずれも突帯文期のものと考えられる。

土製品（第 159 図）

１は管状土錘Ｅ類である。２は紡錘車と思われる。径 4.1cm の円盤の中央に径 0.7cm の焼成前穿孔がみられる。３は不明土製品である。長さ 4.3cm、厚さ 1.3cm の粘土板を環状に成形しており、

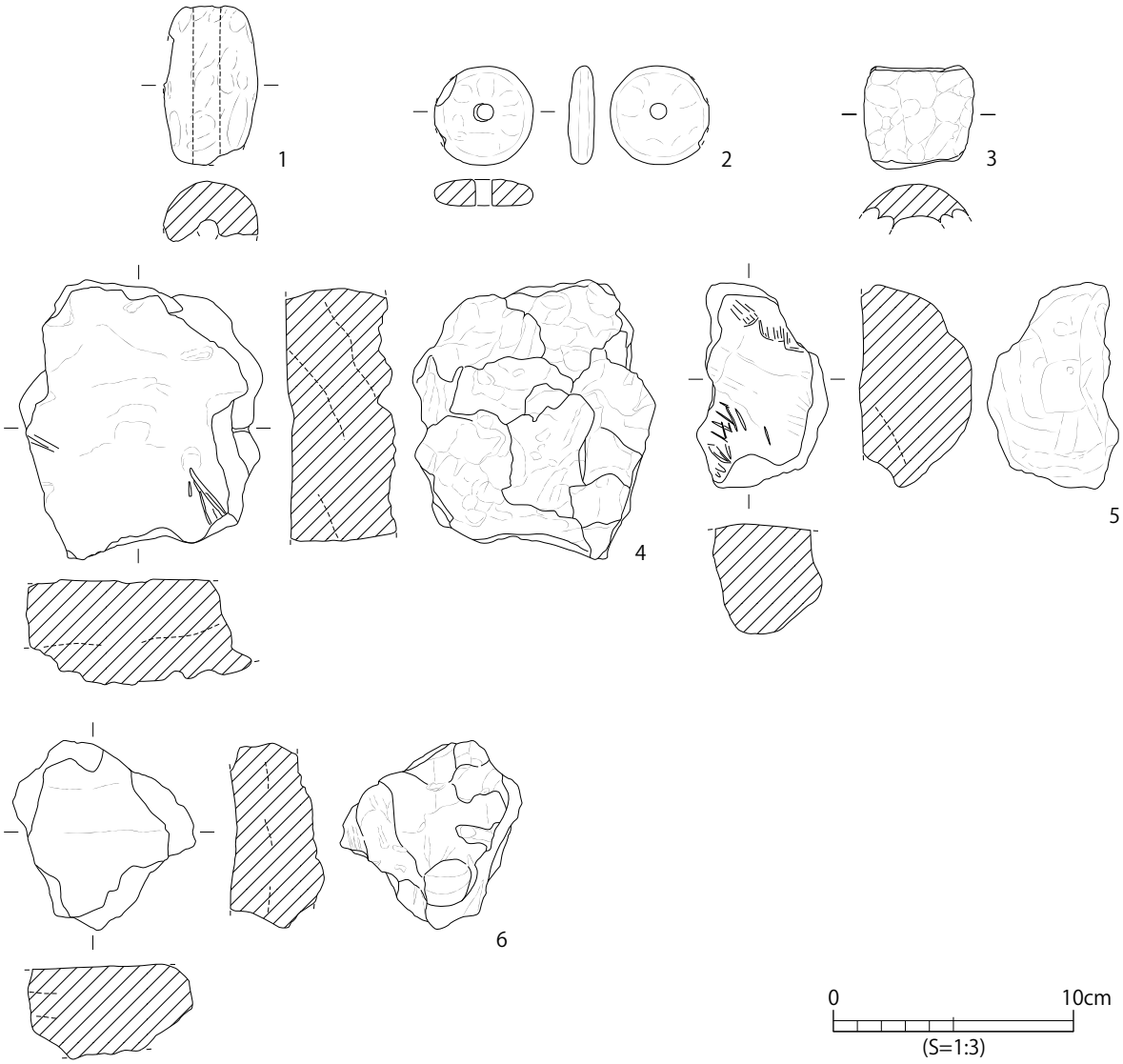


第 158 図　5 層出土遺物（20）

甑形土器などの把手の可能性もある。4～6は4層でも言及した焼粘土塊である。胎土・色調などの外見的特徴はいずれも類似している。4は本遺跡で出土した焼粘土塊の中で最も大きな破片である。長辺11.6cm、短辺10.0cm、厚さ3.0～4.5cmである。上面（内面）は被熱により5mmほどの深さまで浅黄橙色を呈し、非常に平滑である。裏面（外面）は橙色で激しい凹凸がある。特徴的なのは胎土で、砂粒をほとんど含まず水簸したように精良である。5は断面が蒲鉾形を呈する点と裏面（外面）の凹凸もほとんどない点が異なっている。また、上面（内面）の表面に沈線状の凹凸が多くみられ、何かの当たり痕と考えられる。6は上面（内面）がわずかに反っている点に特徴がある。4～6について、弥生時代から古墳時代にかけての土器焼成に関する遺物の可能性がある。

石製品（第160図～第165図）

第160図1～4は石鏃である。1～3は安山岩製で、3は未成品の可能性が高い。4は黒曜石製である。5は安山岩製の石錐と考えられる。両側縁から剥離がおこなわれている。6は緑色凝灰岩製の不明剥片である。上面中央には未貫通の穿孔があり、断面はあまり先細りすることなく底部も平坦である。また、穿孔のある剥離面（稜線で囲まれた範囲）のみが磨かれたように平滑である。何らかの未成品と考えられるが、詳細は不明である。7は滑石製模造品で、いわゆる剣形と呼ばれる

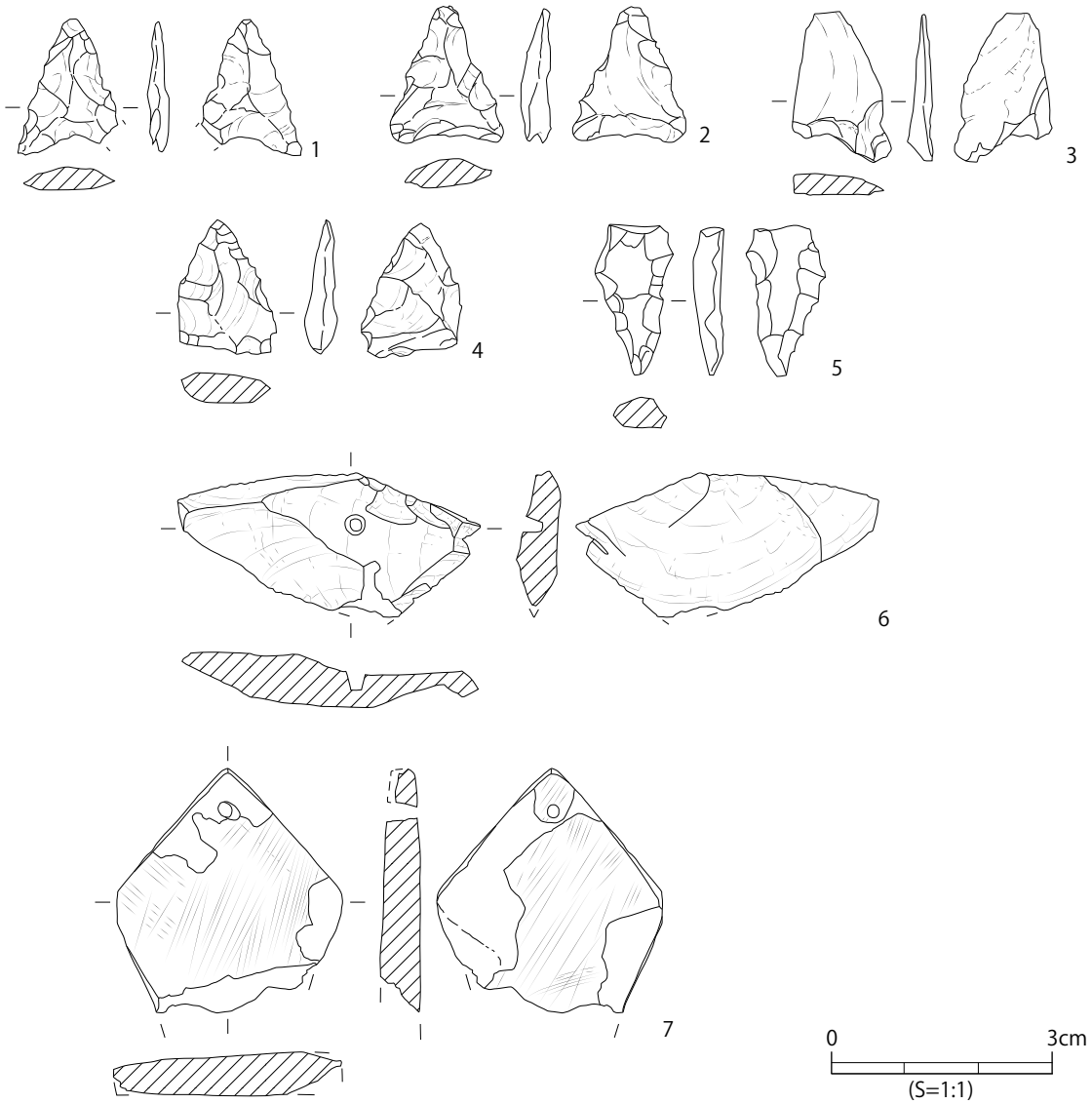


第159図　5層出土遺物（21）

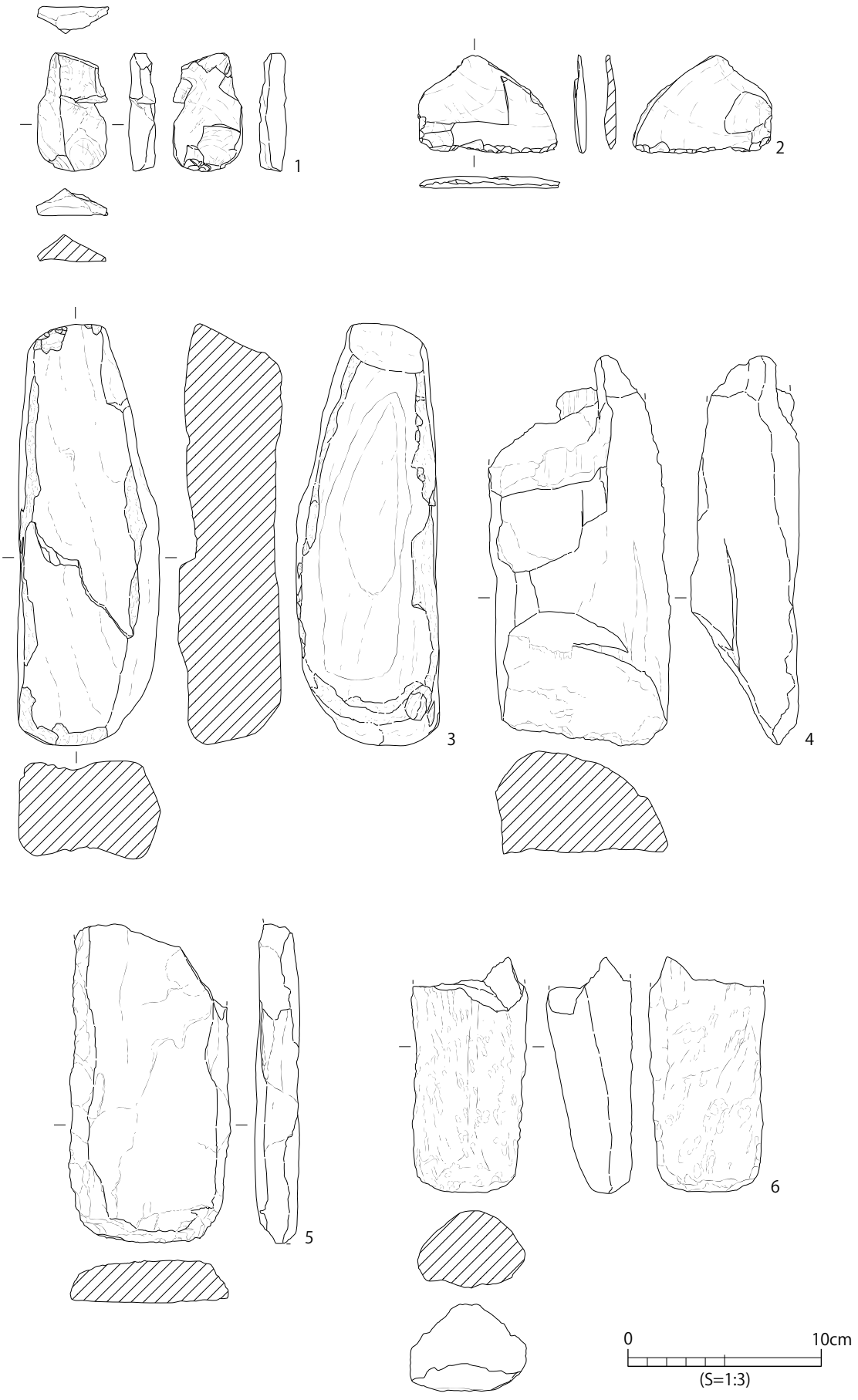
ものである。米田分類におけるＢ類（関部が短く、刃部が長いもの）であり、中部瀬戸内地域に分布が偏るようである（米田2002）。

第161図１は安山岩製の石核である。一部に自然面が残る。２は安山岩製のスクレイパーである。薄い板状に成形され、一辺に細かい剥離を加えた刃部が作られている。３～６は塩基性片岩製の磨製石斧の未成品である。３は円磨した転石であり、稜線沿いにわずかな加工がみられるもののほとんど未加工に近い。大きさからみてもこうした石斧になり得そうな石を採集して製作をおこなっていたことを示すものである。４は剥離段階のＩｂ１類である。刃部にあたる部分には大きく自然面が残る。大まかな荒割のみがおこなわれた資料である。５は剥離段階の未成品Ⅱｂ１類である。裏面はまっすぐな剥離面で、縁辺に細かな剥離がみられる。所々に埋没過程で鉄分が付着している。６は敲打段階の未成品Ｉｂ１類である。敲打がほぼ全面におよび、完成間近で破損したと考えられる。

第162図１～４も塩基性片岩製の磨製石斧の未成品である。１は敲打段階の未成品Ｉｂ１類である。体部がかなり厚く断面も円形に近い。ほぼ全面に敲打が及び、刃部を付けようとした剥離もみられる。２は敲打段階の未成品Ｉａ類である。いわゆる乳棒状石斧と呼ばれるものである。敲打が

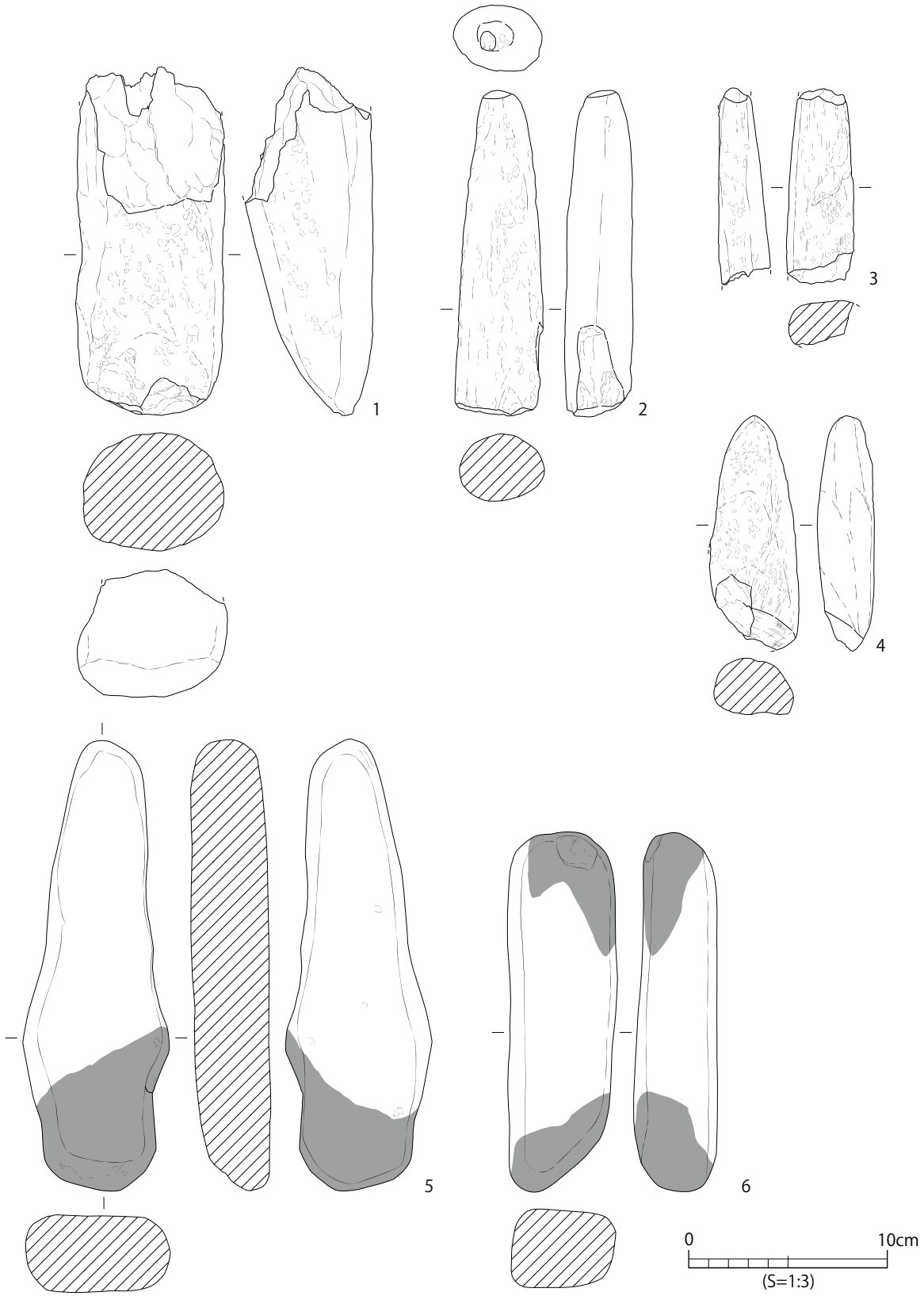


第160図　５層出土遺物（22）

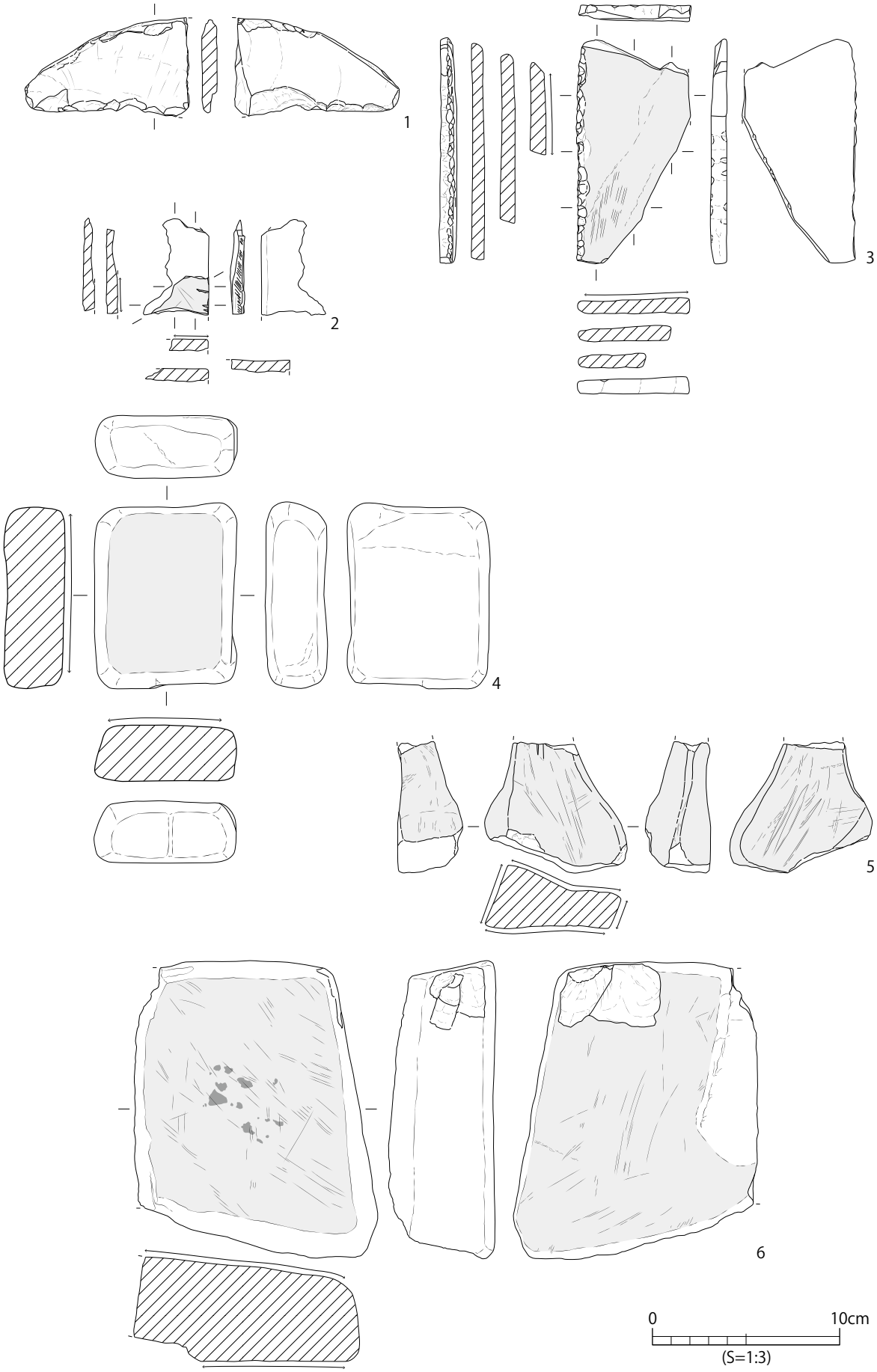


第 161 図　5 層出土遺物（23）

全面に及び、刃部を付けようとした剥離もみられる。３も小片だが２と同様の形態と考えられ、研磨段階まで進んでいる。側縁部を中心に研磨痕がみられる。４は小型のⅢａ類で、研磨段階のものである。刃部にのみ研磨がみられ、未成品ではなく完成品かもしれない。大きさにやや違和感があり、Ⅰａ類の破損品を再加工して再度刃部を成形した可能性も考えられる。５・６は石製支脚とし



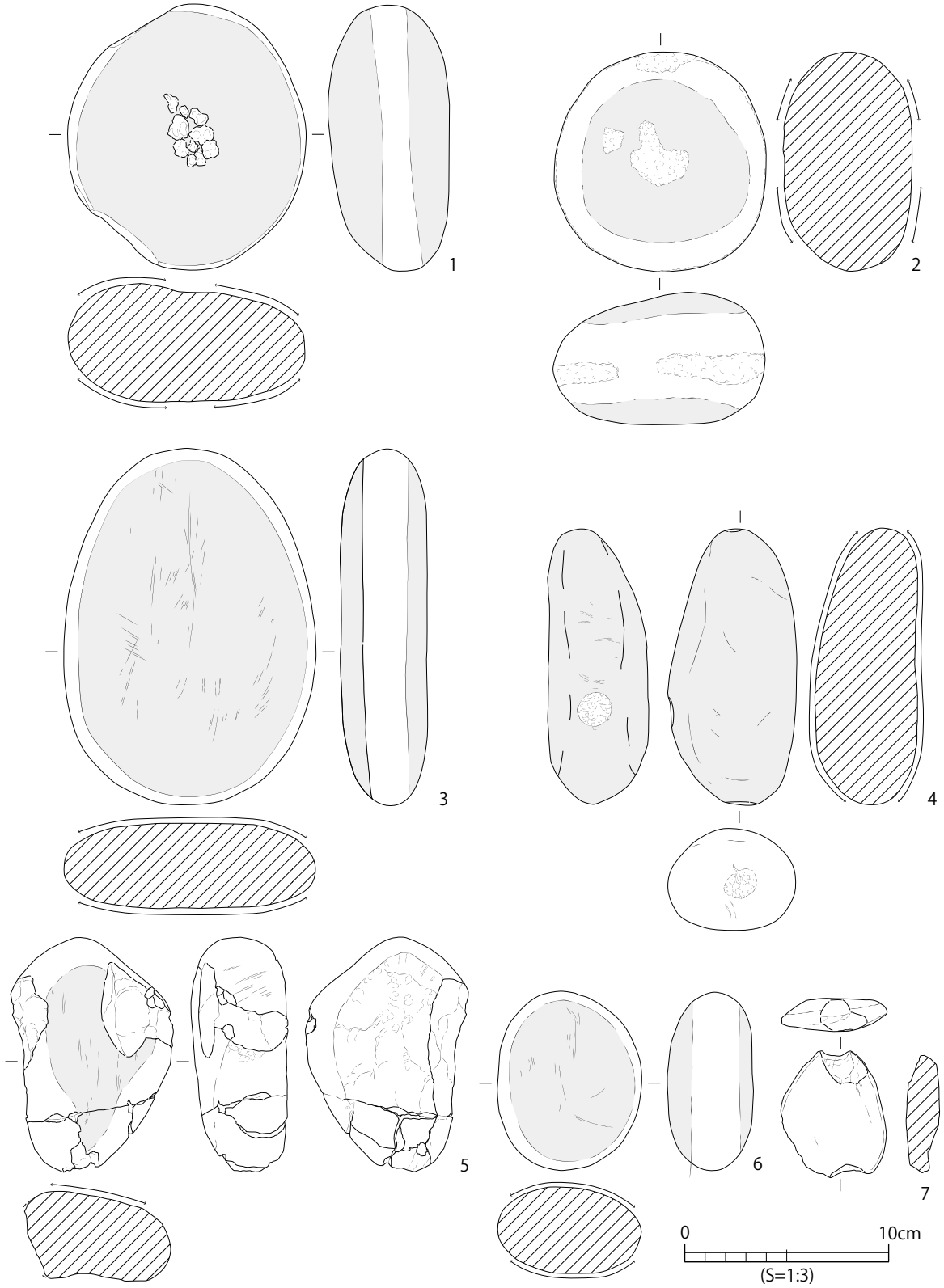
第 162 図　5 層出土遺物（24）



第 163 図　5 層出土遺物（25）

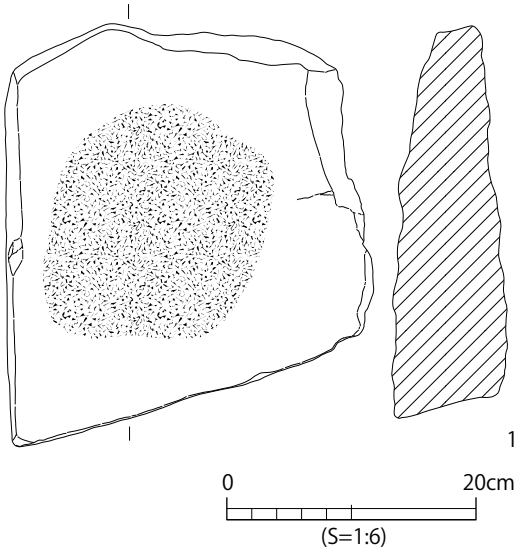
た。いずれも自然石を使用し、５は片方、６は両方の端部に被熱痕がみられる。いずれもその範囲が石に対して斜交しており、斜めに地面に埋めて支脚として使用した可能性を示す。

第163図１は安山岩製の石鎌と考えられる。刃部には剥離がみられるが、稜がかなり甘くなっており、使用痕の可能性がある。２～４は石材不明の板状砥石である。２は欠損が激しく、本来の形状は定かでない。表裏面も剥離が激しい。遺存部分は非常に滑らかで、板石硯の可能性もある。３



第 164 図　5 層出土遺物（26）

は本来方形を呈していたとも考えられるが、側縁部が全体的に研磨されており、破損後に再加工した可能性もある。左側辺には細かな剥離が加えられる。上面は使用により非常に滑らかだが、裏面は使用していないようである。これも板石硯の可能性がある。４は川原石を利用して研磨により隅丸方形に成形している。全体的に滑らかだが、上面は使用によるもの、裏面は自然面である。使用された面が若干黒ずんでいる。５は砂岩製の砥石である。６は石皿とした。おそらく川原石をそれほど成形することなく利用している。全体的に滑らかだが、側面は未使用である。上面には斑点状に赤く変色した部分がある。



第 165 図　５層出土遺物（27）

第164図１～６は磨石である。１・２は花崗岩製で、表裏面ともに使用により非常に滑らかで、中央に打痕がみられる。３も花崗岩製だが扁平で長楕円形を呈する。打痕はみられず、表裏両面を使用している。４は川原石をそのまま利用しており、両端部と側縁の一部に打痕がみられる。器表面は非常に滑らかである。５は花崗岩製で破損が激しい。上面は使用面が残るが、裏面はほぼ全体が剥離している。６は川原石を利用している。表裏面とも使用してはいるものの、使用痕はそれほど顕著ではない。７は石錘である。川原石を利用して両小口に打裂を加えることで成形している。第165図１は塩基性片岩製の台石である。側縁部はやや滑らかで、研磨により成形しているようにみえる。上面には円形に黒色化した箇所があるが、石自体が黒色化しているのではなく、炭化物のようなものが付着している状況で、所々剥がれ落ちている。何かの作業台であろうか。

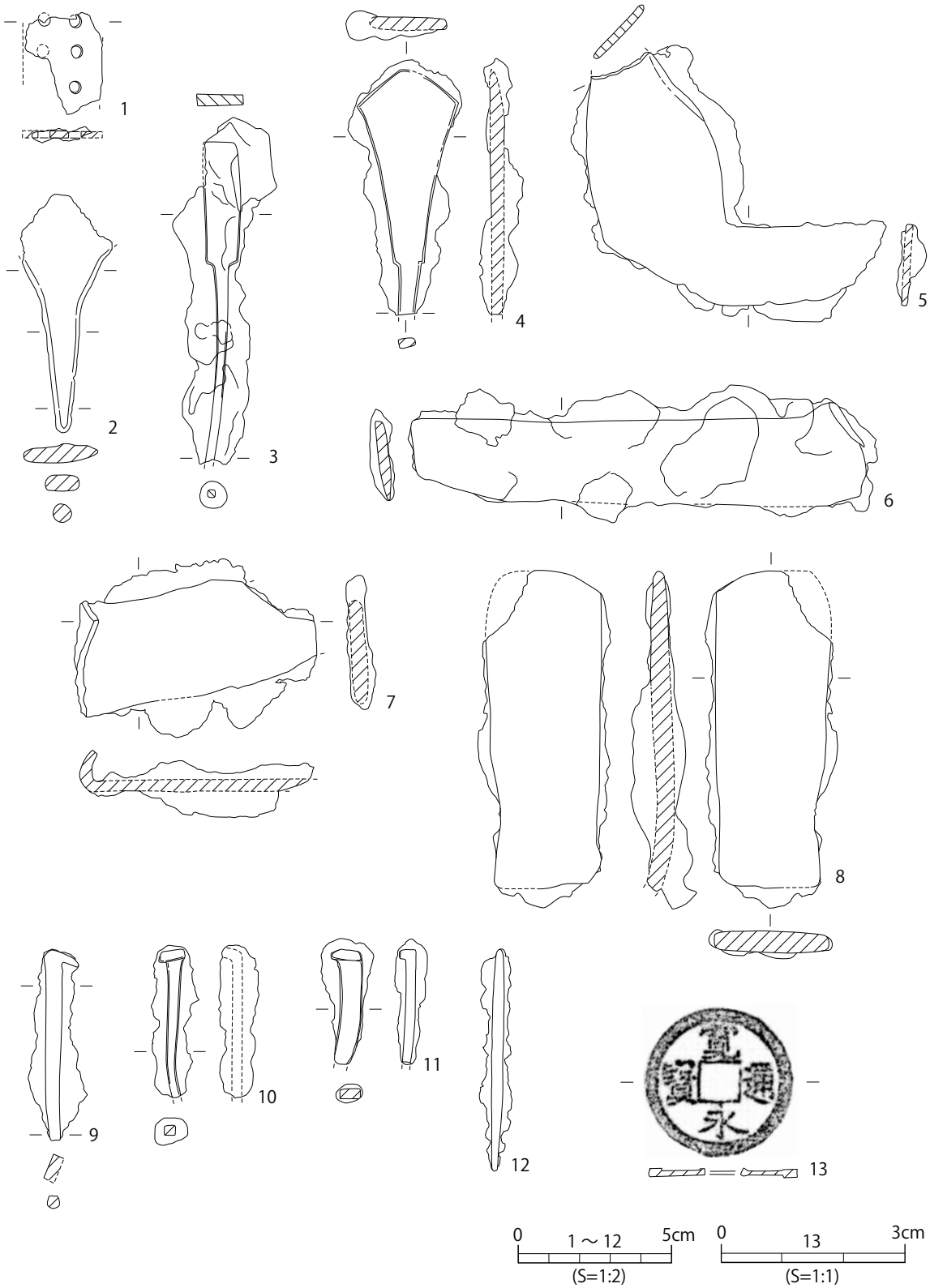
鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品（第 166 図）

１は伊予札Ａ類である。破損が激しい。２～４は鉄鏃である。２は柳葉Ⅱ式もしくは雁又式で、箆被がないタイプである。３は方頭斧箭Ⅰ式である。４は五角形式である。２は時期不明、３・４は８世紀～ 11 世紀前半と考えられる。５はＬ字形の板状鉄製品である。断定はできないが、形状から建物に関係した金具の可能性がある。６は鉄鎌である。７・８は不明板状鉄製品で、７は一端が折り返され、８も一端がやや湾曲する。９～ 11 は釘である。いずれも折釘と考えられる。12 は棒状鉄製品の完形である。13 は寛永通宝で、文字の形状から古寛永で、1636 ～ 1659 年の鋳造である。これらの鉄製品は中近世の遺構形成時に混ざり込んだものと考えたい。

【註】

1　分類方法や用途の想定は内田律雄氏による。

2　分類方法は佐藤寛介氏の指導による。



第 166 図　5 層出土遺物（28）

第4章　総　括

森原下ノ原遺跡は縄文時代から近世までの遺構・遺物が検出された遺跡であり、今回はその一部をまとめた。遺構では近世の畑や鍛冶炉、中世の建物群や鍛冶炉、遺物では中近世の陶磁器に加え、弥生・古墳時代の大量の遺物について報告した。

なお、縄文から古墳時代の遺構、弥生前期、縄文中期・後期の遺物や、地形の改変と遺構・遺物の変遷についての総括的な整理は『縄文～古墳時代編』で報告する。

第1節　中世後半の遺構・遺物について

森原下ノ原遺跡では、遺跡の北端にあたる1区を中心に15～16世紀にかけての遺構面を検出し、建物の重なりから少なくとも2面が存在すると考えられた。主な遺構としては、礎石建物1棟、掘立柱建物4棟、布掘建物1棟、柱穴列2ヵ所、鍛冶炉7基、集石2ヵ所である。その他、不明ピットや土坑も多く検出された。また、遺物では小札や鏃などの武器･武具類、八双金具や釘隠しといった建物の飾り金具も出土した。

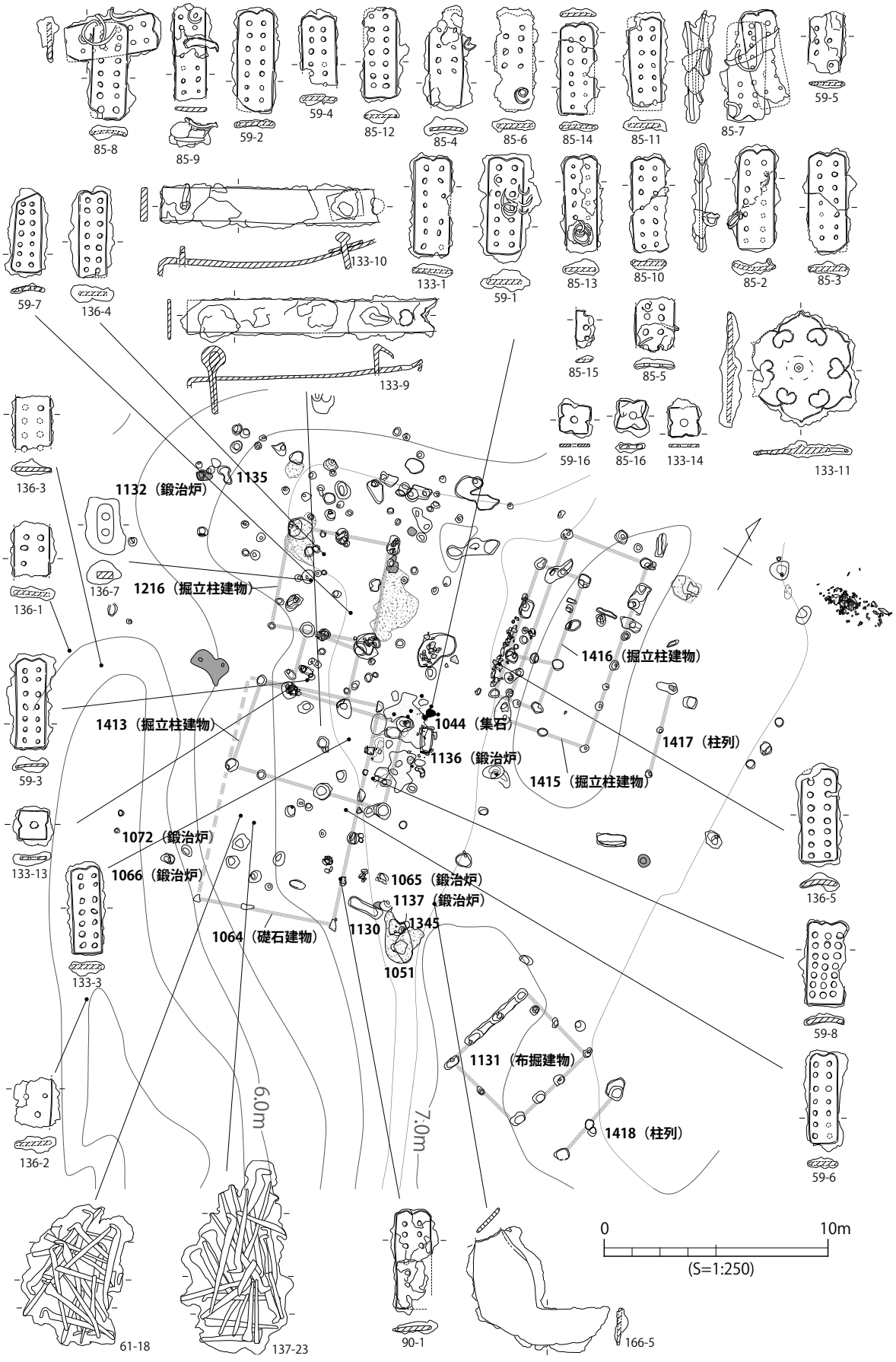
1.　建物について

森原下ノ原遺跡で検出された複数の建物は出土遺物などから同時期の組合せを特定することは困難であるが、遺構1064礎石建物、遺構1216・1415・1416掘立柱建物は主軸方向が概ね一致しており、まとまりとして捉えられる可能性がある。ここではこれをAグループ、その他遺構1413掘立柱建物と遺構1131布掘建物をBグループとして記述する。

Aグループの中でも、遺構1064と1216は位置関係から同時期に存在していた可能性が高い。浜田市三隅町の普源田砦跡の報告では、石見地方における中世後半から近世初頭の建物規模について検討しているが、本遺跡のような長方形と正方形の建物は当地域に一般的にみられるようで、同一遺跡で併存する場合も多い（島根県教委2021a）。遺構1415と1416は規模の異なる長方形の建物が主軸方向を同じくして重複しており、これを別の建物とすれば柱穴の切合い関係から建物の規模が大きくなる方向への変化が捉えられる。ただこれが一体の建物であった可能性も否定できず、遺構1416の西辺にのみ石列がともなう点も両者が一体であった可能性を高めるものである。

Bグループの建物は主軸や規模も全く異なり、まとまりとして捉えられるか不明である。遺構1413は平面形が凸形をした建物を復元したが、今後は現地で建築物の研究者の指導を受け、建物の形や配置について議論する必要があるだろう[1]。遺構1131は柱穴の一部が布掘状になったもので、主軸方向はどの建物とも一致しない。

建物の先後関係は、遺構1413掘立柱建物の柱穴の上に遺構1064の礎石が置かれていることから、掘立柱建物から礎石建物へ変化することが指摘できる。中国･四国地方では、城館において16世紀後半には礎石が一般化し、その後都市、農村の順に掘立柱建物から礎石建物への転換が遅れることが指摘されている（岩本正2001）。遺構1064の時期は16世紀代と考えられ、城館において礎石建物へと変化する時期に該当する。



第 167 図　森原下ノ原遺跡における中世後半の主な遺構と遺物出土状況

第2表　中世の鍛治炉一覧

遺構番号	形態	規模(cm)	埋土	その他の特徴	出土遺物（g）							
					鍛冶滓	椀形鍛冶滓	再結合滓	鉄塊系遺物	ガラス質溶融物	鍛造剥片	粒状滓	その他
1065	円形？	45 ×40 ？	被熱痕あり 炭を多く含む	周囲に焼土· 炭の広がり	54.37					極少量		
1066	不整円形	53 ×35	被熱痕あり 炭を多く含む	周囲に焼土の 広がり	216.96	293		11.48	116.61	多量	極少量	
1072	楕円形	60 ×40	炭を含む		614.78	889.13		57.65	216.96	多量	極少量	
1132	不整円形	40 × 33	被熱痕あり 炭を多く含む	周囲に焼土の 広がり						極少量	極少量	
1135	不整形	85 × 55~27	変色·含有物なし	上面に４つの 礫検出	68.61		64.39	123.49	12.95	少量	極少量	
1136	長方形	110 × 55	炭·焼土粒を含む	縁辺に粘土貼								土師質土器 ·土錘· 鉄製品
1137 1051 1345	円形？	径 50 ？	炭·焼土粒を 多く含む	周囲に硬化面、 炭の広がり、 鉄滓集中部	1380.08	336.39	13.43	502.92	657.07	極多量	極少量	羽口·石器

※鍛造剥片と粒状滓は埋土の洗浄により抽出したが、時間的制限により明確な選別ができなかったため、遺構間の相対的な量のみを示す。

第3表　包含層出土の鍛治関連遺物集計表

	鍛冶滓(g)	椀形鍛治滓(g)	製錬滓(g)	再結合滓(g)	鉄塊系遺物(g)	ガラス質溶融物(g)	計(g)
2層	205.1	819.17	173.25	0	354.78	0	1552.3
3-1 ～3-4 層（西）	1965.80	2420.61	31.93	10.11	381.77	304.59	5114.81
3-4 層（東）	581.98	718.29	49.99	5.63	176.73	34.42	1567.04
4-1·2 層	1061.02	709.67	91.37	8.27	590.37	139.88	2600.58
4-3 ～4-10 層	328.98	765.88	34.99	0.99	174.74	4.58	1310.16
5層	319.54	0	55.45	21.49	39.25	33.87	469.6
計	4462.42	5433.62	436.98	46.49	1717.64	517.34	12614.49

2.　鍛冶遺構・遺物について

本遺跡では７基の鍛冶炉が検出されたが、その様相は様々である（第２表）。とくに鍛冶関連遺物が多く出土したのが遺構1066、1072、1137であり、遺構1064礎石建物の西側、東側にそれぞれ位置する。一方で、全く鍛冶関連遺物が出土しなかった鍛冶炉もある。建物群とのセット関係は断定できないが、位置的に重複していないため同時期に機能していた可能性が高い。

出土した鍛冶関連遺物は約500点、総量は約18,244gである。その内、鍛冶炉から出土したものが約5,630g（第２表）、包含層から出土したものが約12,614g（第３表）である。報告では分析をおこなったものしか図示できていないため、ここでは集計表から本遺跡における鍛冶作業について整理する。

包含層では、鍛冶炉を覆う包含層である3−1 ～ 3−4層（西側）の出土量が多く、つづいて鍛冶炉が掘り込まれた4−1・2層が多い。遺構の検出位置・層位と対応する結果といえよう。全体として最も多いのが鍛冶滓や椀形鍛冶滓で、鉄塊系遺物も一定量出土している。わずかに製錬滓も出土しているが、これは流れ込みと考えられる。その中で、鍛冶炉から出土した鍛冶関連遺物を中心に10点の分析をおこなった。その結果、椀形鍛冶滓はいずれも鍛錬鍛冶滓と考えられ、主に鉄材を熱間で鍛打加工して鍛造鉄器を製作していた可能性が指摘された。また、鉄塊系遺物は小型の鋳鉄塊と考えられ、銑（鋳鉄）を鍛冶原料として脱炭作業もおこなわれていた可能性も指摘された[2]。鍛造剥片の出土や大量の釘を中心とした鉄器の出土は分析結果と整合性があり、遺跡内でこうした製品を製作していたものと考えられる[3]。

第4表　中世の陶磁器・土器類集計表

	貿易陶磁器												
	白磁												
	碗Ⅱ類	碗Ⅳ類	碗Ⅴ類・Ⅶ類・Ⅷ類	碗Ⅻ類	皿Ⅵ類	皿Ⅷ類	福建省系			ビロースク	D群皿	D群八角坏	D群
							碗	壺	不明				
全破片数	10	19	4	4	3	1	2	2	2	1	32	3	5
2層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0
3層	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	20	1	3
4-1・2層	1	4	2	1	0	0	0	2	2	0	3	1	1
4-3～4-5層	9	13	2	1	2	1	0	0	0	0	3	0	0

	貿易陶磁器													
	白磁			青白磁	青磁									
	E群皿	碗	白磁片	壺	同安窯系				龍泉窯系					
					碗Ⅰ類	碗Ⅲ類	皿Ⅰ-1b類	皿	碗Ⅰ類	碗Ⅱ類	碗Ⅲ・Ⅳ類	碗B Ⅰ類	碗B Ⅲ類	碗B Ⅳ類
全破片数	5	2	19	2	2	1	2	6	12	2	1	2	8	3
2層	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1
3層	4	0	4	1	0	0	0	0	2	0	1	1	4	2
4-1・2層	0	1	2	0	0	0	2	1	3	2	0	0	0	0
4-3～4-5層	0	0	10	1	2	0	0	4	6	0	0	1	2	0

	貿易陶磁器															
	青磁											青花				
	龍泉窯系											景徳鎮系				
	碗C Ⅱ類	碗D類	碗E類	腰折皿	内湾皿	皿	坏Ⅲ類	盤	壺	壺or瓶	不明	E群碗	E群皿	皿	壺(瓶)	青花片
全破片数	4	78	1	3	1	18	1	3	1	1	18	1	9	1	2	4
2層	1	5	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	4	1	0	0
3層	3	33	0	1	0	7	0	1	0	0	4	0	5	0	2	2
4-1・2層	0	22	1	1	0	2	0	1	0	0	8	0	0	0	0	2
4-3～4-5層	0	7	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0

	貿易陶磁器									国産陶器			
	青花		中国陶器				朝鮮陶磁器			瀬戸美濃系			
	漳州窯系		黒釉	褐釉		黄釉	李朝白磁	灰青沙器	軟質白磁	古瀬戸中期	古瀬戸後期		古瀬戸
	皿	不明	天目	壺	鉢	盤				卸皿	緑釉小皿	直縁大皿	不明
全破片数	3	1	4	3	1	4	3	12	1	4	1	4	1
2層	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
3層	3	0	3	1	0	0	2	9	1	0	1	0	0
4-1・2層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4-3～4-5層	0	0	1	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0

	国産陶器								土器					
	瓷器系			信楽系	備前系		備前系	不明	瓦質					
	擂鉢	壺	甕	壺	壺類	甕類	擂鉢		火鉢		捏鉢	擂鉢	壺	不明
									小形浅鉢	浅鉢				
全破片数	2	3	6	19	4	20	22	4	6	1	2	8	1	8
2層	0	0	0	3	3	2	9	0	1	2	0	0	0	0
3層	0	0	2	15	0	8	11	0	0	2	0	3	0	3
4-1・2層	2	3	1	0	0	7	2	2	0	2	0	3	0	4
4-3～4-5層	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

※全破片数は遺構出土品・層位不明品を含む。
4-6～4-10層は陶磁器が出土していない。

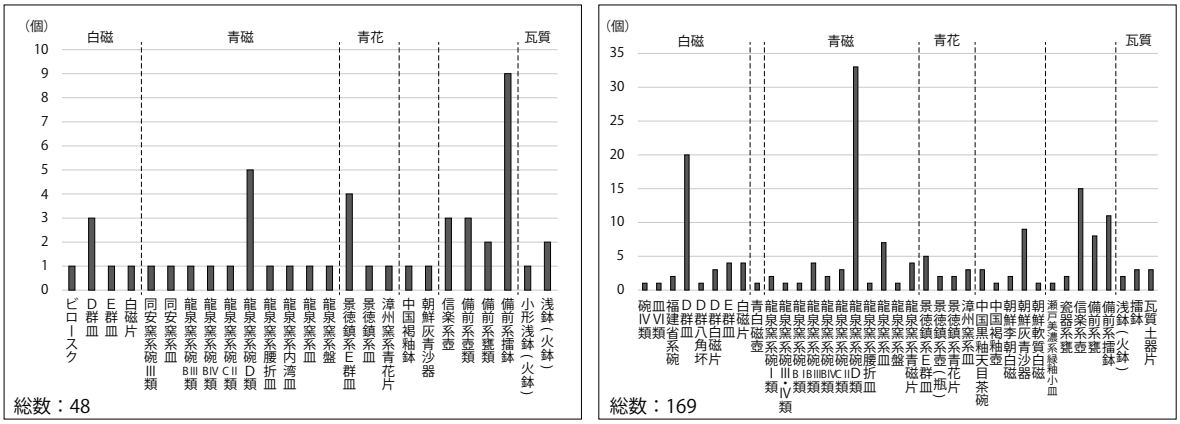
3.　出土遺物について

（1）土器・陶磁器

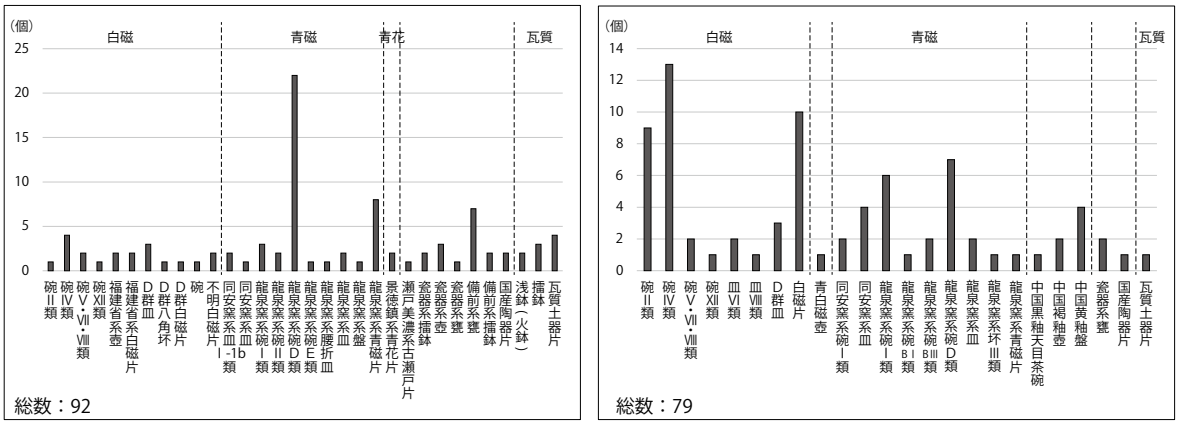
本遺跡から出土した中世の土器・陶磁器の破片数を層ごとに集計したのが第４表であり、それをもとにグラフ化したのが第168図である。各層の出土総数でみれば、中世後半の遺構群を覆う3–1～3–4層が最も多く、次に遺構の基盤層である4–1・2層が多い。これらが直接的に遺構に関わる陶磁器と考えられる。出土した陶磁器の時期を見てみると、4–3～4–5層では中世前半の時期を示す陶磁器が多いものの、一部中世後半まで下がるものがある。これらの出土位置は4–3層の上方、4–1・2層との境界部分であることから堆積の過程で下層に混ざり込んだものと考えたい。一方、4–1・2層以上になると中世後半のものが多くなるが、古い時期の陶磁器も一定量混ざる。これは氾濫や耕作により巻き上げられたものが少なからず存在することを示している。

この中で建物群の時期と考えられる15～16世紀の陶磁器組成比を示したのが第169図である。材質的にみると、磁器（白磁・青白磁・青花）が62.9％、陶器（中国・朝鮮・瀬戸美濃・瓷器系・信楽・備前）が28.9％、土器（瓦質・土師質）が8.4％である。産地別では、多い順に中国（白磁・青白磁・青磁・青花・中国陶器）が62.9％、備前が15.4％、他は6.4～8.4％で同程度を占め、瀬戸美濃が1.7％とやや低い。

第170図には白磁・青磁・青花の比率を示した。白磁が23.9％、青磁が64.9％、青花が11.2％である。青磁の割合が高く、青花の比率が極端に低い。全国的な出土傾向と比較すると、この３種の割合が時期的に変化することが指摘されており（水澤2009）、本遺跡における建物群の中心時期

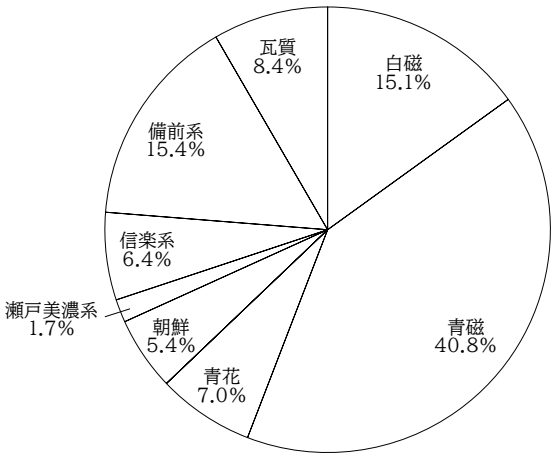


2層　　3-1～3-4層

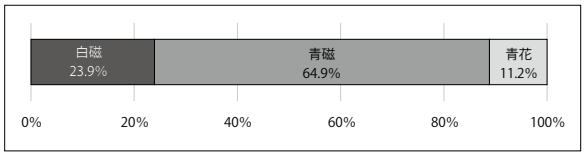


4-1·2層　　4-3～4-5層

第168図　層別陶磁器出土数



第 169 図　中世後半の遺物出土比率



第 170 図　中世後半の白磁・青磁・青花の出土比率

は15世紀から16世紀前半に求められるだろうか。

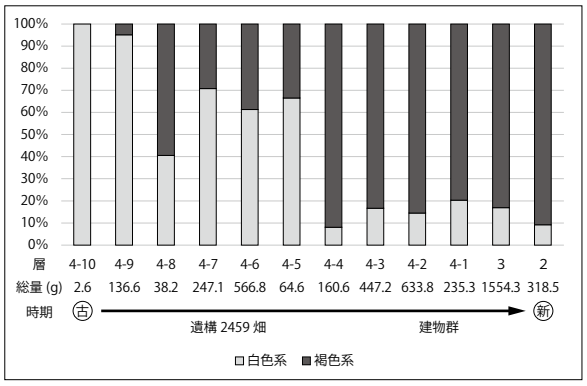
なお、中には青磁の盤、壺もしくは瓶、中国製の天目碗、盤、瓦質の火鉢などの県内でも出土量が少なく出土する遺跡が限られる器種が出土しており（守岡2009）、やはり通常の集落とはやや異なった性格であったことが推測される。

（2）土師質土器

本遺跡では、土師質土器が破片数で561点、重量で4405.55g出土した。皿には一部灯火器に使用されたと考えられるものもあるが、大半はいわゆる“かわらけ”と考えられる。

江津・浜田地域で出土する土師質土器は、褐色系・白色系と呼ばれる色調の異なる２種類のものが存在することが以前より言われてきた。両者は製作・使用時期が異なるようで、当初は両者が併存するものの、13世紀前半を下限として白色系は衰退するようである[4]。

森原下ノ原遺跡では平安時代頃の河川浸食から中世後半の建物群が形成されるまで、中世全般にわたる堆積層が確認され、各層から土師質土器が出土した。残念ながら廃棄状況がわかる資料はほとんどなかったが、ここで各層における褐色系・白色系の割合を示し、各層の堆積時期を推定する一助としたい。ここでは、同種別・器種での比較のため、より実態を反映しやすい重量による比較をおこなった（第171図）。中世前半の再堆積層の途中である4–5層までは白色系が一定割合を占めるのに対し、4–4層以上は白色系の割合が極端に減少する。氾濫堆積や耕作などにより下層の遺物が上層に混入する可能性が十分にあることを考慮すれば、4–5層と4–4層の間に一つの画期があり、その時期を白色系が製作・使用されていた13世紀前半を下限とする時期に求めることが可能であろう。また、土師質土器の出土総量をみると、３層がもっとも多い。これは中世後半の建物群を覆う層であるため、建物の時期に属する土師質土器が耕作によって巻き上げられた可能性が高い。その他では、4–6・7層と4–1・2層の出土量が多い。4–7層は遺構2459畑が形成されていた層で、4–6層はそれを覆う層である。4–1・2層は建物群が掘り込まれていた基盤層である。このように、人の活動痕跡が認められる層に土師質土器も多く出土しており、遺構の検出状況とも矛盾しない。



第 171 図　土師質土器の出土比率

（3）鉄製品

森原下ノ原遺跡では鍛冶関連遺物を除き900点以上の鉄製品が出土した。中には古墳時代以前のものもあるが、出土層位から大半は中近世

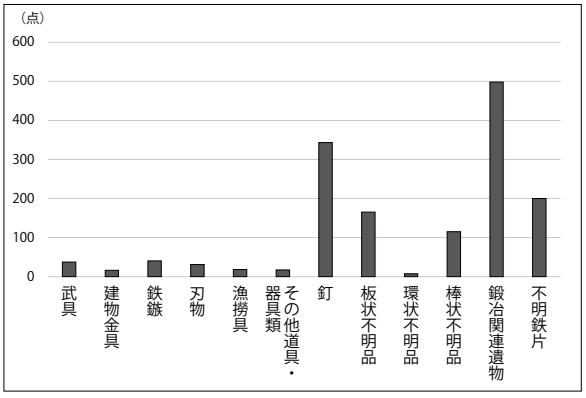
のものと考えられる。第172図は器種ごとに鉄製品の出土数を示したものである。刃物は刀子・小刀・鎌・鋸など、その他の道具・器具類には鉄斧・火打金・火箸・鎹などを含んでいる。ここでは本遺跡で特徴的な器種について検討を加えたい。

武　具　本遺跡を特徴づける遺物の一つに小札がある。遺構1136鍛冶炉の北側で17点が集中して出土し（遺構1044）、遺跡全体では36点、ほとんどが建物群の周辺で見つかった（第167図）。１つの遺跡で出土した数としては県内最多と考えられる。中世の甲冑に用いられた小札は、南北朝時代から室町時代にかけて登場する、札の４分の１程度を合わせて綴じる伊予札と呼ばれるものである。この他、甲冑の紐を留めるための笠鞢が１点、小札を綴じるための革紐が短く切断され、それが錆で固まったと思われるものが大量に出土した。

当時の甲冑は鉄札と革札を交互に綴じ合わせることで軽さと防御力の双方を得ている。１領を構成する伊予札の数は、鉄札と革札を組み合わせて約1,000枚に上る。また、小札は革紐で綴じた後表面を漆でコーティングするため、革紐をほどいてばらすことはできない。以上のような理由から、本遺跡において甲冑がそのまま残されていた訳ではないと考えられる。したがって、本遺跡における小札の理解は、古くなった甲冑を解体して小札をばらばらにし、甲冑修復用に保管していたのではないかと考える。そして保管していた建物は出土状況から遺構1413掘立柱建物であり、火事で焼け落ちたものと考えられる。第２章で述べたように、当地域における室町時代から戦国時代にかけての遺跡の様相は不明瞭な部分が多いが、当時激しさを増していた戦乱の中で、戦いの最前線に立つ城郭ではなく、川沿いの建物で甲冑修復用の小札が保管されていた点は重要であろう。

建物の飾り金具　明らかに建物の飾り金具と判明したものは、六葉釘隠し２点、四葉釘隠し５点、円形釘隠し５点、八双金具２点である[5]。これらは小札がまとまって出土した遺構1044にともなうものがあり、その他も遺構1064礎石建物ないし遺構1413掘立柱建物の周辺で出土した。使用場所は建物の扉周辺と考えられるものが多い。六葉釘隠しは長押に用いられ、釘隠しの大きさから推測して長押の幅は４寸ほど（約12cm）である。これらから想定される建物の規模は実際に検出された建物と矛盾はなく、それほど大きな建物ではないが比較的整った建物であったと考えられる。こうした建物の飾り金具は神社仏閣に限らず、館でも使用されるようである。

釘　釘は本遺跡で最も多く出土した鉄製品であり、その数は約350本に上る。層別にみると建物群を覆う3–1 ～ 3–4層が150本と最も多く、次いで建物が掘り込まれた基盤層である4−1・2層が約70本となっている。一方、建物以前の4–3 ～ 4–10層や近世以降の耕作土である２層は約30本と少なく、やはり本遺跡で出土した釘の大半が中世後半の建物群にともなうものと考えてよいだろう。その中でも注目されるのは約20本の釘が錆により固着した資料である（第61図18、第137図23）。いずれも平面的には遺構1064礎石建物と重複する地点で出土している。古代から中世にかけての文献資料に登場する釘の「連」という用語について検討した山本紀子氏によれば、当時は20本を１つの単位として釘が流通していたらしく（山本2004）、今回出土した釘塊が当時の流通形態をとどめている可能性も考え



第 172 図　鉄製品の種別出土量

られる。そうだとすれば、釘は建物に実際に打ち込まれていたものの他に、建物に保管されていたものもあったことになる。釘は建物が廃絶した後も釘を集めて再利用することがあったようである。先述のように、先後関係が古い遺構1413掘立柱建物は火事で焼失した可能性が高いことから、建物が焼け落ちた後に釘を回収し、遺構1064礎石建物に使用もしくは保管していた可能性も考えられよう。

棒状鉄製品　今回棒状鉄製品とした遺物は、単に「棒状を呈する鉄製品の総称」ではなく、比較的規格性のある棒状の鉄製品を示す。報告では完形のものを中心に図示しているが、破片も含め100点以上が出土している。長さは6cm程度のものから10cmを超えるものまでやや幅があるが、断面は方形のものがほとんどで両端が先細りする形状は共通している。

森原下ノ原遺跡の北側に接する森原神田川遺跡下ノ原地区でも似通った棒状鉄製品が出土しており、中世後半から近世中期の鉄素材もしくは鉄器未製品として報告されている（島根県教委2021b）。中世の棒状鉄製品については、桃崎祐輔氏（桃崎2008）によって基礎的な整理がおこなわれている。これによれば、中世の棒状鉄製品は2008年段階において全国で約210本が出土しており、その用途は鉄素材・建築用大型釘・船釘・馬鍬の歯・工具・櫛など様々な使用場面が想定される。鍛冶炉にともなって羽口や鉄滓・銑鉄塊片と共伴し、実際に鉄素材として製作・使用されたことが確かめられたものも存在するようである。しかし、これらはいずれも全長が20cm前後と本遺跡出土例の約２倍であり、棒状鉄製品が当時の流通形態として定型化していたと考えると定義から外れる。

層別の出土数をみると、出土比率は前述の釘とほぼ変わらず3–1 ～ 3–4層が54点と最も多く、4–1・2層が21本と次ぐ。３層は近世の耕作と氾濫堆積が繰り返された層であり、これら棒状鉄製品が馬鍬の歯である可能性も否定できない。しかし、100本以上のまとまった数が出土し、かつ鍛冶炉が検出されている現状から考えると、棒状鉄製品の一部が鉄素材であった可能性を考えてもよいのではないか。

（4）土製品

森原下ノ原遺跡では、各遺構や３層・４層を中心に管状土錘が約150点出土し、遺跡周辺で漁労活動がおこなわれていたことが考えられた。第３章第３節において分類案を示したが、内田氏によると、比較的小型のA ～ C類が刺網系、D ～ E類が刺網＋袋網系に用いられるようである。また、使用場面としては、A類が内水面用、C ～ E類は海面用、B類は両面用であったと可能性が考えられる。遺跡の立地は現在の江の川河口から約５km遡った川沿いであり、川・海両方へのアクセスは非常に容易な場所である。生業の一つとして漁労をおこなっていたと考えられる。

4.　小　結

以上のように森原下ノ原遺跡の中世の様相を各遺構・遺物から検討した。まとめると、①15 ～ 16世紀にかけて複数の建物が立ち並び、掘立柱建物から礎石建物へと変化する。②建物には鉄製の飾り金具が取り付けられ、小さいが比較的整った建物であった。③建物には甲冑修復用の小札や鉄釘が保管されていた。④建物の周辺で脱炭作業や鍛錬鍛冶をおこなっていた。⑤貿易陶磁器の中には壺や盤などの優品も含まれていた、などが特徴として挙げられる。

これらから推測できる遺跡の性格は、一般的な集落ではなく、いわゆる館もしくは川湊の一角で

はないかと考えられる。15 ～ 16 世紀における山陰・九州北部沿岸の流通の状況とその歴史的展開について検討した本多博之氏によれば（本多2018）、当該時期に湊（浦）や河川河口部を拠点とする海辺領主が活動を活発化させていたようである。本遺跡もそうした人々の活動拠点の一つであったと考えられる。調査範囲がごく一部であるため断定はできないが、当時発展を遂げていた日本海交易と河川交通の接点に位置する遺跡の立地からみても、江の川の玄関口として機能した場所であったのだろう。

第２節　弥生・古墳時代の遺物について

1. 弥生土器について

５層から土師器とともに弥生土器も大量に出土した。このうち弥生前期の土器は『縄文～古墳時代編』で報告する下層の６層でまとまった包含層を検出したため、ここでは弥生時代後半期の土器について整理し、出雲地域の様相と比較しながら地域性について検討する。

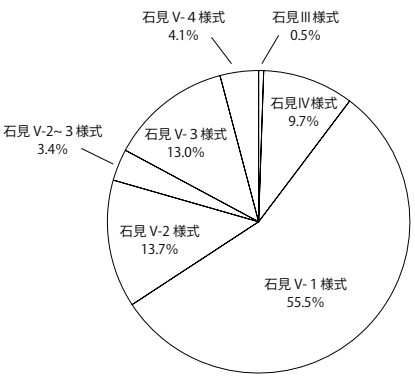
（１）時期別比率

今回の報告では石見地域の様式編年（松本1992b）に従って各土器の時期比定をおこなった。その結果が第173図である。石見Ⅲ様式からⅤ−4様式まで断絶することなく土器が出土したが、中期ではⅢ様式が極端に少なくⅣ様式が一定量存在する。後期ではⅤ−1様式が圧倒的に多く、Ⅴ−2 ～ 3様式にかけて一定量が出土し、Ⅴ−4様式がやや少ないという結果となった。森原下ノ原遺跡では弥生時代後半期の集落が見つかっているが、Ⅲ・Ⅳ様式の確実な遺構は確認できておらず、竪穴建物はⅤ−1 ～ 2様式が１基、Ⅴ−2 ～ 3様式が１基であった（『縄文～古墳時代編』）。その他建物は復元できないものの多くのピットが検出されており、遺物の量からすればⅤ−1様式の時期に隆盛した集落であった可能性がある。

（２）時期別文様比率

出雲地域では、出雲市西林木町の山持遺跡の報告の中で土器の様相が整理され、弥生時代後期における土器の形態変遷とともに文様や調整についても整理がおこなわれている（池淵2007）。森原下ノ原遺跡でも上記の時期比定に従って甕肩部の文様について比率を算出した（第174図）。

Ⅳ様式　基本的に肩部に施文が施されることはなく、無文が76.2％を占める。一方で、有文のものは凹線文と刻目文を組み合わせた重層刻目文がほとんどである。これは江の川を遡った広島県三次地域を中心に分布する塩町式土器に特徴的な文様である（村田2020）。島根県域でも一定量の出土が認められ、とくに江の川流域の周辺では一つの遺跡からまとまった量が出土する事例が多い（石田2013）。森原下ノ原遺跡では非掲載も含めて30点以上が出土しており、県内でも有数のまとまった出土量である。こうした点からは三次地域とのつながりの強さがうかがえるが、重層刻目文の施文には二枚貝腹縁を用いたものが多くあり、これは本遺跡の特徴といえる。江津市敬川町の古八幡付近遺跡ではこの時期の集落が見つかっており、多くの塩町式土器が出土した。森原下ノ原遺跡の付近にもこうした集落が存在していた可能性が高い。

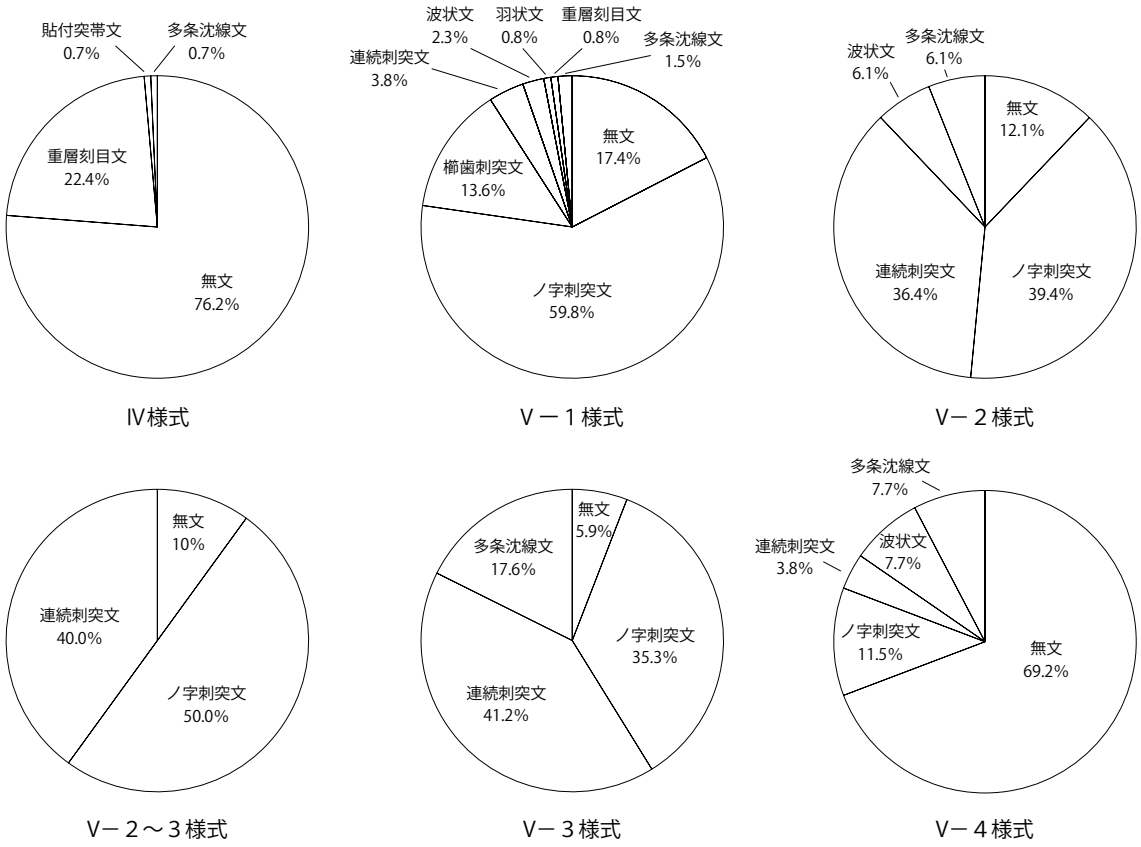


第 173 図　５層における弥生時代後半期の時期別土器比率

Ⅴ様式　Ⅴ様式の各小様式の施文を出雲地域と比較し、地域

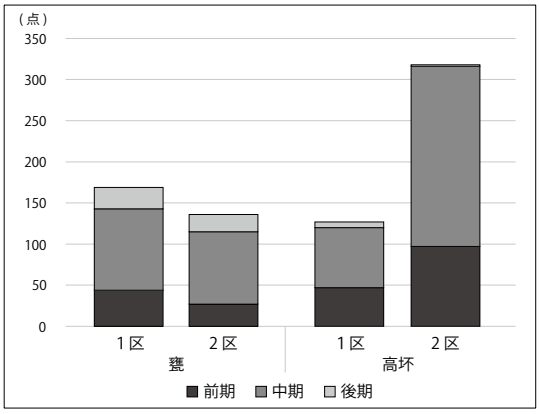
性の把握をおこなう。まず、V−1様式であるが、無文のものを一定量残しつつ、有文が80％以上を占めるというⅣ様式からの大きな画期がみとめられる。これは出雲地域も同様であるが、これだけの急激な広がりの要因ははっきりしておらず、今後検討の余地がある。

V−1様式段階では、ノ字刺突文が約60％と最も多い。この数値は出雲地域でも同様だが、ヘラ・板状工具が約22％、貝殻腹縁が約44％である。本遺跡ではほとんどが二枚貝腹縁と考えられ地域的特徴といえよう。次に多いのが櫛歯状工具による刺突文である。Ⅳ様式段階では甕の胴部や壺の頸基部に施されるものであるが、この段階になると甕の肩部にもみられるようになる。ただ、この文様が施された土器をみてみると胴部が扁平で鉢とした方が良いものに多く施される傾向にあり、器種と文様に一定の相関関係がみとめられる可能性がある。また、この段階にも重層刻目文がやや残っており、この点も三次地域と共通する。V−2様式からV−3様式になるとノ字刺突文と連続刺突文がほぼ同じ割合で卓越するようになり、両者を合わせて75％を超える。出雲地域ではV−2様式段階で文様が多様化して装飾性が豊かになり、V−3様式にかけて二枚貝腹縁を使用した小型のノ字刺突文や羽状文が盛行するようである。また、施文の方法は原体で器面を引きずることなく垂直方向に刺突するものが主流となることが指摘されている。一方で、森原下ノ原遺跡では基本的にV−1様式段階で定着した文様をそのまま受け継いでおり、ノ字刺突文も大振りで器面を引きずるように施すものが主流である。本地域は出雲地域以東に特徴的なスタンプ文土器や台付装飾壺、的場式の筒部に羽状文を施す鼓形器台などを基本的に受容しない地域であり、また四隅突出型墳丘墓も分布しない。出雲地域との直接的なつながりは見出しにくく、土器についてもこうした特徴がよく表れている。これが解消されるのがV−4様式段階であり、出雲地域に比べて肩部に文様を施す甕の割合が



第174図　5層における弥生時代後半期の時期別肩部文様比率

多いものの、無文が約70％と主流を占めるようになり、器壁も薄作りとなる。これ以後は出雲地域と親縁性のある土器様相となることから、土器にとどまらない何らかの社会的な画期があったことが想定される。



第 175 図　5層における区別土師器出土数

2.　土師器について

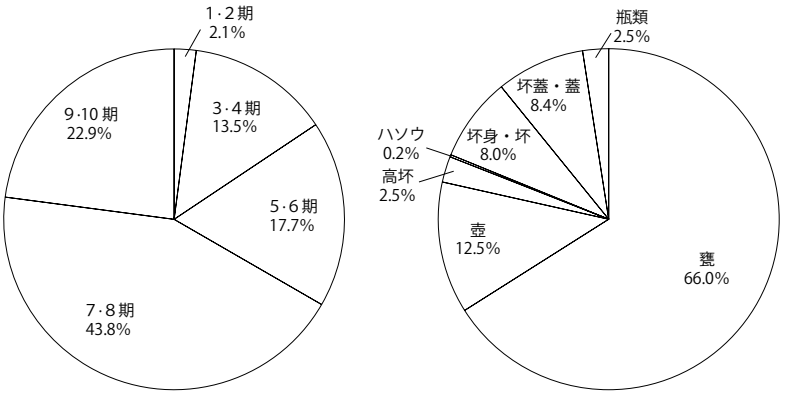
土師器についてもこれまで検討されてきた土器編年を参考として時期比定をおこなった。益田平野を除く石見地域では、古墳時代前期までは出雲地域と大きく変わらず、中期になって口縁の短い単純口縁の甕と有段の高坏が主体となる西方の土器様相が浸透してくると想定されている（島根県教委2020）。今回は、古墳時代前期（小谷式）・中期（大東１～３式）・後期（大東４・５式）という大まかな区別をし、必要に応じてより細かな時期比定をおこなった。

第175図は、古墳時代の土師器がもっとも多く出土した５層において、前期・中期・後期の出土比率を破片数によって示したものである。集計には比較的時期の判断がしやすい甕の口縁部と高坏の坏部および脚部を用いた。これをみると、中期がもっとも多く、後期が極端に少ないのがわかる。森原下ノ原遺跡では弥生時代から引き続き古墳時代の集落も確認されており、竪穴建物は古墳時代初頭が１基、前期が１基、前期末から中期初頭が１基、中期が１基と時期的な偏りはみられなかった(『縄文～古墳時代編』)。調査区外に遺構が広がっていた可能性はあるものの遺物量との関係はやや不自然である。この中でも、２区における中期高坏の突出が特筆される。２区部分では古墳時代中期の明確な遺構は見つかっていないが、後述のように祭祀行為が想定される遺物が２区に遍在している。高坏もこれに関わるものだとすればある程度説明できそうである。

3.　須恵器について

森原下ノ原遺跡では、コンテナ18箱分の須恵器が出土した。その大半が氾濫堆積層である3-4層（東側）と４層からであり、遺構にともなうものはほとんど確認されなかった。資料的なまとまりはないが、ここでは基本的な整理をして周辺遺跡や須恵器窯との比較をしてみたい。第176図は森原下ノ原遺跡の須恵器を破片数で集計して比率を出したもので、左側が時期別、右側が器種別の比率である。各層の比率に大差がなかったことから今回は層をまとめて示している。

まず、わずかであるが石見１・２期（５世紀後半から６世紀前半）の資料が存在する点が注目できる。今回は両時期をまとめているが、実際は石見１期が多く、２期のものもほとんど出土していない。本遺跡で最も古い須恵器は５層から出土した把手付碗であり（第140図11）、TK208併行期まで遡る可能性がある。これまで江津市ではほとんど確認されていないものである（仁木2015）。つづく石見３・４期（６世紀後半）や５・６期（７世紀前半）は一定量の出土はあるが、客体的である。一方、本遺跡の北側に接する森原神田川遺跡下ノ原地区では、旧河道から本遺跡で出土数の少ない石見２期から４期の須恵器が多く出土している（島根県教委2021b）。ここでは同時期の土師器も多く出土し、何らかの祭祀行為が推定された。前述のように、本遺跡の土師器の中心は古墳時代中期



第 176 図　須恵器の時期別 (左) ・器種別 (右) 出土比率

であり、後期のものは非常に少ない。須恵器の出土状況とも合わせて人の活動場所が移動していた可能性を指摘できる。本遺跡で主体を占める須恵器の時期は石見７・８期（７世紀後半から８世紀初頭）である。この時期は、律令制が整備されつつある時期で、本遺跡の付近でも山陰道や駅家である江東駅の存在が想定され、さらに遺跡の約200ｍ北には８世紀初頭に石見国国司に赴任した柿本人麻呂が江の川を渡った場所とされる通称「人麻呂渡し」が存在する（第８図）。氾濫堆積層からの出土ではあるものの、一定量の須恵器が出土しており付近にこの時期の遺構が存在する可能性は高いといえよう。

つぎに器種別の比率をみると、甕が66％と圧倒的に多い。これはもとの個体が大きいために破片数も必然的に多くなることにも起因するが、報告者の主観でみても甕が非常に多い印象を受けた。復元は色調や当具痕が特徴的なもののみに限り、個体数の把握はおこなっていないが、個体にしてもかなりの数が存在したものと思われる。サイズはほとんど中甕で１点ほど破片の大きさから大甕があった可能性が考えられる。当時の中甕は水を貯蔵するための容器と考えられており（望月2017）、付近にそうした中甕を保管するような施設が存在した可能性もある。

実際の須恵器をみると、多くの自然釉が付着しているもの、胎土に黒い斑点がみえるもの、黄白色で一見焼きが悪いように見えるものなどがある。これらの諸特徴は本遺跡から直線距離で西へ約4.5kmに位置する久本奥窯跡の製品に非常によく似ており、ここの製品が多く含まれていると考えられる[6]。基本的には在地で生産されたものが流通・消費されていたのだろう。

4.　青銅鏡について

森原下ノ原遺跡では、3–4層から漢鏡６期（２世紀前半）に製作されたと考えられる後漢鏡の破片が出土した。島根大学の岩本氏によれば、外区の文様構成や厚みといった特徴は盤龍鏡がもっとも近く、外区を中心とした破片であることから破鏡である可能性が高い。氾濫堆積層からの出土であり、使用・廃棄の方法は不明である。ただ、本例は島根県内の漢鏡出土例の西限であり、ここでは県内の漢鏡出土例から入手の時期や背景について考えたい（第５表）。

破鏡の出土をめぐっては、①鏡自体の製作時期・場所、②破片になった時期・場所、③日本列島および本遺跡に流入した時期・経路、④本遺跡で廃棄された時期を考える必要がある。

①　上記の通り後漢で漢鏡６期（２世紀前半）に製作されたものと考えられる。

②③　破砕のタイミングについては、これまでの研究で様々な破砕・流通のパターンが考えられている。ただ、岩本氏によれば、縁が丸みを帯びる特徴は古墳時代に流入した鏡に多い特徴であるという。また、本例が製作された漢鏡６期（２世紀前半）は、後漢において政治の混乱と周辺民族の侵攻により王朝が急速に衰退し、倭国との交易の窓口となっていた楽浪郡もその機能を弱める。これによって漢鏡６期の鏡がリアルタイムで列島内に流通した事例は、北部九州を除くと前後の時期

第5表　島根県出土の漢鏡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺構	遺構の時期	鏡種	状態	漢鏡編年
1	大原遺跡	安来市佐久保町	包含層	弥生中期中葉～古代	不明	破鏡	6期以降
2	苅捨古墳	松江市東川津町	第1主体	古墳前期	虺龍文鏡	破鏡	4期
3	月廻古墳 番外3号墳	松江市法吉町	主体部	古墳前期	盤龍鏡	完形	6期？
4	寺床1号墳	松江市東津田町	第1主体	古墳前期	画象鏡	完形	7期
5	古城山古墳	松江市東出雲町	主体部	古墳前期	内行花文鏡	完形	5期？
6	小屋谷3号墳	松江市八雲町	第1主体	古墳前期	虺龍文鏡	破鏡	4期
7	岡田山1号墳	松江市大草町	横穴式石室	古墳後期	内行花文鏡	完形	6期
8	土井・砂1号墳	雲南市三刀屋町	第2主体	古墳前期	内行花文鏡	破鏡	5期
9	松本1号墳	雲南市三刀屋町	第1主体	古墳前期	上方作系浮彫式獣帯鏡	完形	7期
10	白枝荒神遺跡	出雲市白枝町	包含層	弥生後期中葉～古墳前期	内行花文鏡	破鏡	5期
11	庵寺1－B号墳	大田市仁摩町		古墳前期	八禽鏡	完形	4期
12	森原下ノ原遺跡	江津市松川町	包含層	弥生～近世	盤龍鏡？	破鏡？	6期

に比べてかなり少ない。とくに日本海側ではほとんど出土していないのが現状である。こうした点から、断定はできないものの古墳時代に入ってから日本列島内（北部九州か）において破砕され、その後森原下ノ原遺跡に持ち込まれた可能性を想定する。

④　廃棄の時期は、共伴遺物をもって判断すべきだが、本例では検討できない。ただ、上記の②③のような想定を妥当とするならば、廃棄の時期は古墳時代になる。そして、本例は『縄文～古墳時代編』で報告する遺構1277竪穴建物内で検出された古墳時代前期末から中期初頭にかけての粘土被覆合わせ口土器の上方約40cmで出土しており、付近には同時期の土器溜や絵画土器が検出された。こうした出土状況を考慮すれば、鏡の廃棄時期もこれらと同様であった可能性がある。

以上のような想定は断定できるものではない。島根県では、後漢鏡が古墳時代に出土する例はいくつか知られるが、完形・破鏡にかかわらずすべて古墳の副葬品であり、包含層から出土したものは廃棄時期不明の安来市大原遺跡例のみである[7]。森原下ノ原遺跡が位置する江の川下流域および江津市域は古墳時代前期から中期にかけての集落遺跡が少なく、また有力墓はおろか古墳自体がほとんど見つかっていない。こうした状況からすればやや違和感があるものの、やはり日本海に面した江の川の河口に位置する遺跡の立地と、北部九州から鏡を入手した可能性から弥生時代以降続く日本海ルートでの交易の結果が表れているのではないだろうか。今後、同時期の集落や古墳の調査例が増えれば、流入の背景をより詳細に検討できるだろう。

5.　石釧について

森原下ノ原遺跡では、青銅鏡と同じ3–4層から島根県2例目となる石釧の破片が出土した。ここでは中国地方まで検討の範囲を広げ、入手の背景や石釧からみた遺跡の位置づけについて考える。

中国地方ではこれまで森原下ノ原遺跡を含めて10遺跡から21個体の石釧が出土している（第6表）。森原下ノ原遺跡以外はすべて古墳の副葬品として出土しており、中国地方では基本的に古墳副葬品として消費されていたと考えられる。また、鳥取県湯梨浜町の馬ノ山4号墳を除けば各古墳につき一個体のみ副葬されており、石釧の流通自体が希薄だったと考えられる。

では、森原下ノ原遺跡の例はどのような入手経路を経たのだろうか。石釧の製作と流通には少なからずヤマト政権が関与していたものと考えられる。森原下ノ原遺跡と比較的距離の近い松江市鹿島町の奥才34号墳例と広島県安芸太田町横路小谷1号墳の例は、同じ一凹式ではあるものの、軟質の石材を使用する点や斜面の彫刻などの製作技術が異なるため、製作時期もおそらく古墳時代前期

第6表　中国地方出土の石釧一覧

番号	遺跡名	所在地	遺構	遺構の時期	分類	共伴遺物
1	奥才34号墳	島根県 松江市鹿島町	土師器壺	前期後半	一凹式1	土師器壺2（合せ口）· 捩文鏡1· 碧玉製勾玉1· 琥珀製勾玉1
2	森原下ノ原遺跡	島根県 江津市松川町	包含層		一凹式1	
3	馬ノ山４号墳	鳥取県 東伯郡湯梨浜町	第１主体 竪穴式石室	前期後半	櫛式1· 一凹式5· 二凹式5· 三凹式1	三角縁神獣鏡1· 画文帯神獣鏡1· 方格規矩鏡1· 内行花文鏡1· 盤龍鏡1· 鉄刀1 ＋· 鉄剣2 ＋· 刀子5· 鉇1· 鉄斧1· 釧12· 車輪石3· 翡翠製勾玉1· 緑色凝灰岩製管玉17
4	長瀬１号墳	鳥取県 東伯郡湯梨浜町	墳丘内混入？	中期後葉	一凹式1	
5	月の輪古墳	岡山県美咲町	南主体 粘土槨	中期前葉	櫛式1	内行花文鏡1· 鉄刀4· 鉄剣3· 鉄鏃1· 刀子1· 針状鉄器22 ＋· 環状鉄器1· 竪櫛8· 勾玉6· 管玉32· 棗玉3· ガラス製小玉311· 滑石製小玉1048
6	新庄天神山古墳	岡山県備前市	主体部 竪穴式石槨	前期後半	櫛式1	鉄剣10· 鉄鏃2· 鉄斧3· 鉄鎌8· 貝釧· 勾玉1· 管玉36
7	伊与部山２号墳	岡山県総社市	主体部 箱形木棺	前期	一凹式1	内行花文鏡1· 勾玉1· 鑿1· 鉄斧1· 刀子1· 鉇1· 鉄鏃？1
8	千人塚古墳	広島県 東広島市高屋町	第１主体？ 箱形石棺	前期後半～ 中期前半	櫛式1	殊文鏡1· 勾玉3· 碧玉製管玉3
9	大明地１号墳	広島県 広島市安佐北区	主体部 割竹形木棺	前期前半	特殊1	鉄鏃1· 凝灰岩製管玉1· ガラス製小玉81
10	横路小谷１号墳	広島県 安芸太田町	第２土坑 割竹形木棺	前期後半～ 中期前半	一凹式1	内行花文鏡1· 鍬鋤先1· 刀子2· 瑪瑙製勾玉1· 碧玉製管玉4· 緑色凝灰岩製管玉8· ガラス製小玉49

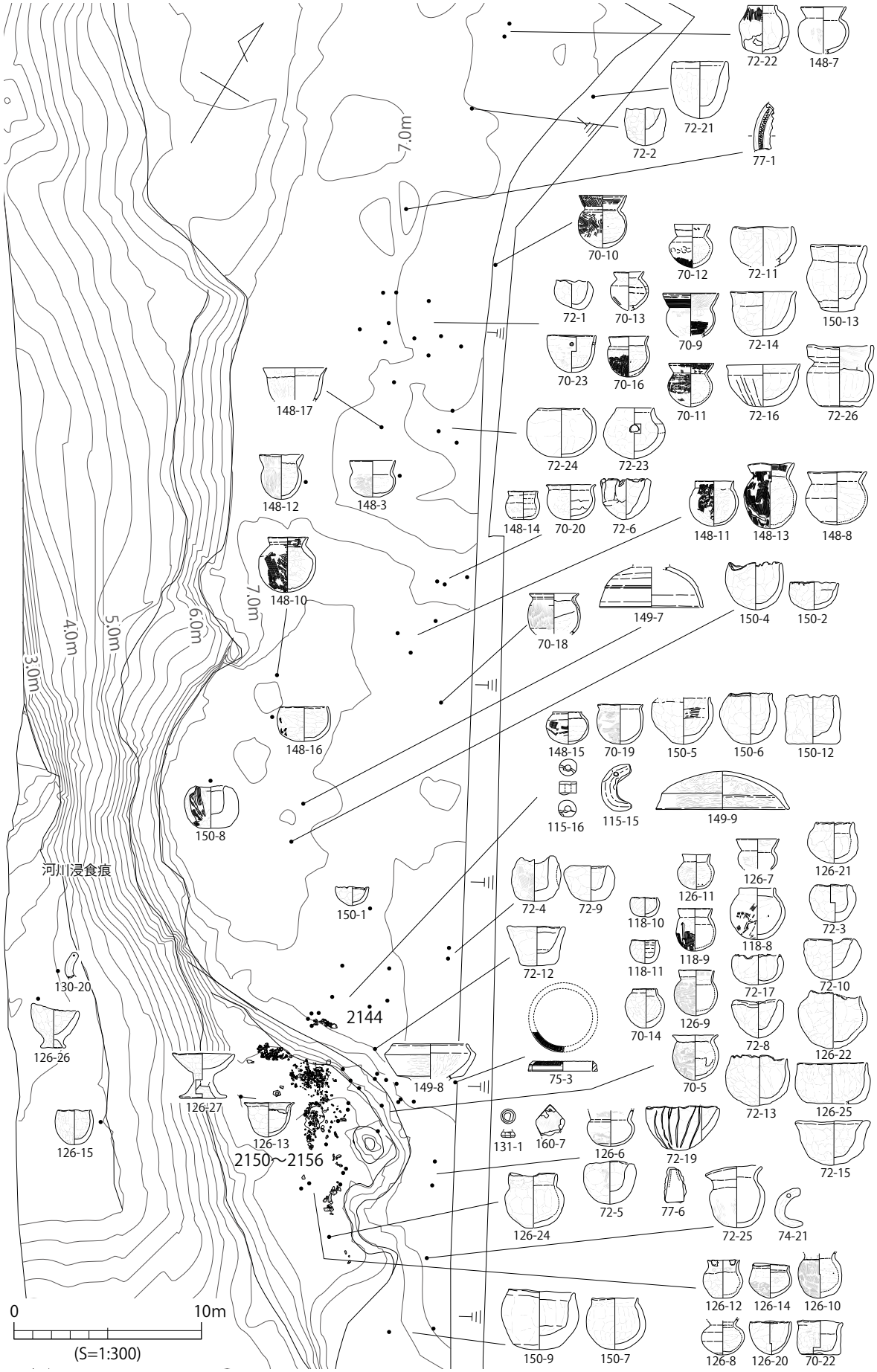
後葉以降に位置づけられる。したがって、これらの資料が同じ時期に生産され、中国地方の有力集団が一括して入手し、分配・流通を経て各遺跡に行きわたった可能性は極めて低いと考えられる。また、馬ノ山４号墳の諸例をみると、製作技術のバリエーションが多く複数の製作単位で製作されたものが集められた可能性が高い。こうした点からは、ヤマト政権の管理の下で石釧が集積された後に配布されたことが考えられ、森原下ノ原遺跡例もヤマト政権とのつながりの中で手に入れられたと考えられる。使用方法については不明なものの、森原下ノ原遺跡の集落に古墳時代前期の段階で石釧を所持した人物がいたと考えるのが妥当といえよう[8]。

6.　古墳時代後半期の祭祀について

森原下ノ原遺跡では、前述のように土師器の中で古墳時代中期の土器がもっとも多かった。土師器の中にはミニチュア土器や小型壺などの土器類が多く含まれ、そのほかに土製勾玉、剣形の滑石製模造品、ミニチュア鉄斧など、祭祀行為が想定される遺物も多く出土している。これらは土師器の出土状況からすれば古墳時代中期の所産である可能性が高い。出土層位は3–4層（東側）や４層の氾濫堆積層に多く、平面的には土製勾玉が出土したＧ７・Ｈ７グリッド周辺にやや偏在する（第177図）。

県内では、古墳時代中期から後期にかけての祭祀跡がいくつか見つかっており、松江市域、出雲市域、県央地域にまとまって分布する（第７表）。いずれも水路や流路、湧水点付近での祭祀行為が考えられる。江の川流域の遺跡では、小型壺やミニチュア土器などを大量に消費する傾向にあり、土製勾玉や石製模造品を含むことが多い。この傾向は森原下ノ原遺跡にも当てはまり、これまで明らかになっていた地域的な特徴に合致する様相といえる。遺構としては不明瞭であったが、森原下ノ原遺跡でも祭祀行為がおこなわれていた可能性を想定できる[9]。

森原下ノ原遺跡における祭祀行為が古墳時代中期を中心とすることを前提として、古墳時代後半期におけるミニチュア土器に関して、森原下ノ原遺跡・森原神田川遺跡・大家八反田遺跡・岡の段Ｃ地点遺跡の比較をおこないたい。大家八反田遺跡は森原下ノ原遺跡から直線距離で東へ15kmの地点にある遺跡である。現在の八反田川沿いに立地し、旧河川とそこに人為的に設けられた取水堰

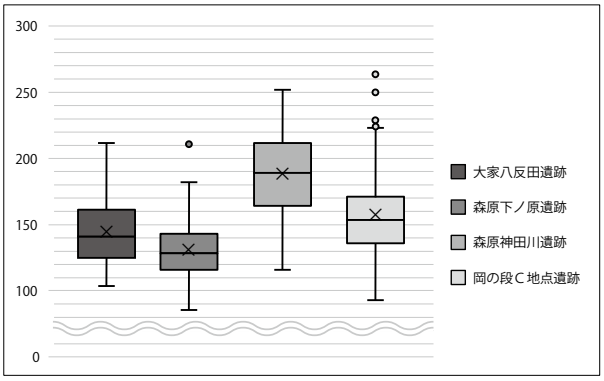


第 177 図　森原下ノ原遺跡における小型土器、その他特殊遺物出土状況

第7表　島根県における古墳時代後半期の祭祀遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	時期	遺構	出土遺物			
					土器類	土製品	玉類・石製品	その他
1	原ノ前遺跡	松江市 東出雲町	中期	SX-01 （湧水地とテラス）	須恵器壺1 土師器甕7・高坏12・小型壺5・ミニチュア2	独楽形1		
2	夫敷遺跡	松江市 東出雲町	中期～後期	Ⅳ区中層	須恵器甕1・鉢1、韓式系土器14 土師器甕44・壺9・高坏76・坏25・小型壺4・ ミニチュア8・甑19		緑色凝灰岩製管玉1	銅鏃 竪櫛 琴柱
3	石田遺跡	松江市 浜佐田町	中期～後期	A ゾーン 水溜遺構周辺	須恵器坏蓋12・坏身13・高坏10・壺2 土師器甕壺35・高坏3・小型壺5・ミニチュア1・甑2	土玉1		木製品
4	広垣遺跡	松江市 西長江町	中期後半	SK01	土師器高坏1・小型壺5			
				NR03	土師器甕壺3・高坏13・低脚坏3・小型壺3			木製品 線刻石器
5	前田遺跡	松江市 八雲町	中期～後期	河道C 貼石遺構	須恵器坏蓋30・坏身30・高坏12・腿2 ほか 土師器甕壺25・鉢3・坏7・低脚坏6・高坏17・ 製塩土器9・竈1・甑2	土鈴？1	瑪瑙 水晶製勾玉1 水晶製切子玉1 泥岩製臼玉7	木製品 植物遺体
6	山持遺跡	出雲市 西林木町	中期後半	Ⅳ区SK24	甕6・壺1・坏7・小型土器2			植物遺体
7	井原遺跡	出雲市 白枝町・ 松寄下町	中期	SE01	土師器甕5・鉢2			
8	三田谷Ⅰ遺跡	出雲市 上塩冶町	中期か	谷部包含層	組成不明、ミニチュア 丹塗り土器あり			
9	鳥井南遺跡 志田ヶ池地区	大田市 鳥井町	中期	SX01	土師器高杯9・ミニチュア69	支脚1 勾玉22 管玉20 丸玉45 人模造品16 動物模造品1 鏡模造品30 武具模造品39 紡織具模造品37 食事具模造品1 有孔円盤4	滑石製臼玉4	自然礫
	鳥井南遺跡 壱貫田地区		中期～ 後期初頭	段状遺構10 周辺土器溜まり	須恵器坏蓋1・坏身2・高杯2・甕1・壺1・腿1 土師器甕壺8・坏1・高杯11・ミニチュア5・甑2・ 須恵器模倣1	棒状1		石器
	鳥井南遺跡 千代迫地区		中期～後期	石列周辺	須恵器坏蓋4・坏身7・甕1・壺1 土師器甕壺23・坏3・高坏22・小型壺8・ ミニチュア16・竈2・甑3	棒状2・管状1	滑石製勾玉2	石器
10	平ノ前遺跡	大田市 静間町	後期	SD17（流路）	須恵器坏蓋29・坏身32・高坏7・甕6・壺4・腿4・ 瓶類6・コップ形5 土師器甕壺52・鉢8・坏36・高坏33・竈5・甑10・ 小型壺4・ミニチュア9・須恵器模倣16	支脚1・ 土錘5・ 丸玉4・ 鏡模造品1	金銅製歩揺付空玉1 滑石製勾玉1 瑪瑙製丸玉1 鹿角製丸玉1 石製臼玉16 滑石製小玉1 緑簾石製小玉1	木製品 石器
11	弥ヶ迫遺跡	邑智郡 邑南町	中期～後期	採集	土師器甕2・坏4・高杯1・ミニチュア22			石器
12	落子遺跡	邑智郡 邑南町	中期～後期	不明	土師器坏4・高杯2・小型壺1・ミニチュア50	勾玉2	滑石製有孔円盤1	
13	大家八反田遺跡	大田市 大代町	中期中葉	旧河川・ 取水堰ほか	土師器甕7・鉢4・坏4・高杯16・小型壺27・ ミニチュア55	勾玉9 柄杓模造品1 鏡模造品16 動物模造品1	ガラス小玉2 石製勾玉1 石製勾玉模造品1 石製有孔円盤1	植物遺体
14	高津遺跡	江津市 都治町	弥生後期～ 古墳後期	水場	須恵器坏蓋15・坏身26・高坏30・甕7・壺9・腿2・ 瓶類3 土師器甕壺40・鉢1・坏23・高坏15・竈3・小型壺5・ ミニチュア6・須恵器模倣35	支脚1		
				大溝	須恵器坏蓋23・坏身20・高坏18・甕4・壺7・腿5・ 瓶類3 土師器甕壺11・鉢3・坏10・高坏6・竈4・甑3・ 小型壺4・ミニチュア6	支脚7	紡錘車1	
15	森原神田川遺跡 下ノ原地区	江津市 松川町	後期中心？	SR10 第②層土器溜まり	須恵器坏蓋21・坏身19・高杯17・甕4・壺11・腿10・ 瓶類2 土師器甕壺155・鉢5・坏30・高杯45・小型壺12・ ミニチュア44・竈20・甑15・須恵器模倣7	支脚3	滑石製勾玉1 碧玉製管玉1	鉄器
16	森原下ノ原遺跡	江津市 松川町	中期中心？	包含層	組成不明	勾玉2	剣形模造品1 臼玉2	鉄器

が検出され、その付近から大量の土器や土製模造品などから古墳時代中期中葉に大規模な祭祀がおこなわれていたことがわかっている（松尾2015）。岡の段C地点遺跡は江の川を遡った広島県大朝町に所在し、大量の土師器・須恵器・土製模造品・玉類が集積された祭祀跡が見つかった遺跡である（広島県埋文センター 1987）。須恵器の年代から5世紀末から6世紀初頭と考えられている。第178図は4遺跡で出土したミニチュア土器の器高に対する最大径の比率（以下、最大径率）を箱ひげ図で示したものである。大家八反田遺跡47点、森原下ノ原遺跡47点、森原神田川遺跡39点、岡の段C地点遺跡173点を対象にした。これについて、以下の3点が指摘できる。①まず、それぞれの遺跡で比較的プロポーションに共通性があることがわかる。ミニチュア土器は通常の土器とは異なり土塊から直接土器を形成するためそれぞれの形態は様々であるが、全体のプロポーションという点では比較的類似していたといえる。これが意識的なものか、無意識の中で類似したのかは不明だ



第 178 図　遺跡別ミニチュア土器の法量標準偏差

が、製作者の中で目指す形があったのかもしれない。②その中で古墳時代中期を中心とする森原下ノ原遺跡・大家八反田遺跡の最大径率が類似し、古墳時代後期を中心とする森原神田川遺跡の最大径率がやや高い。そして、中期末から後期初頭の岡の段C地点遺跡はその中間に位置する。つまり、側面形が正方形に近いものから横長の長方形に変化することが指摘できる。③さらに、時期的な形態変化が共通して起こる点は、何らかの形で祭祀の情報を共有していた可能性も考えられる。江の川中流域の邑南町内にも同時期の祭祀跡がいくつか調査されているが（八雲立つ風土記の丘2019）、報告書が未刊であり今回は分析の対象にできなかった。

7.　須恵器模倣土師器について

森原下ノ原遺跡では、３点の須恵器を模倣した土師器が出土した。中には石見１期の須恵器を模倣したものもあり、１点は黒色磨研須恵器模倣土師器である。

まず、石見１期の須恵器を模倣した土師器であるが、これまで安来市の古墳出土例と出雲市の集落出土例があり、いずれもTK208からTK47併行期のものと考えられている（第８表）。この時期の須恵器を模倣した土師器は日本列島の広い範囲で確認できるようで、須恵器を土師器で模倣して代用した、また器面を非常に丁寧に磨くものが多いことから特別な意味を持たせていたことなどが考えられている。本遺跡においても須恵器を入手できる人々が定着しており、模倣土師器の出現もこれに起因するものと思われる。黒色磨研須恵器模倣土師器は九州の有明海北岸地域との強いつながりが指摘されている（岩橋2019）。とくに江津市高津遺跡では、大量の黒色磨研須恵器模倣土師器とともに同じく九州に出自をもつ烏帽子形の土製支脚Ⅳ類が島根県内で唯一出土しており重要視されている。高津遺跡は本遺跡から直線距離でわずか６kmに位置しており、何らかのつながりがあった可能性が高い。

本節では、本書で報告した弥生・古墳時代の遺物の概要を整理し、その中で特筆すべき遺物について位置づけをおこなった。とくに多くの遺物が出土したのは５層で、これを取り除いた６層の上面では、『縄文～古墳時代編』で報告するように同時期の集落が見つかっている。大量の遺物はこれらの遺構と不可分の関係にあり、改めてまとめる。一方、堆積自体は近世まで下る3–4層にも大量の弥生・古墳時代の遺物が包含されており、その中には本遺跡で遺構が見つかっていない古代の遺物が多く含まれていた。近世という包含された遺物の時期とかけ離れた時期に大規模な氾濫などの河川活動により付近から大量の遺物が運ばれてきた可能性が高い。今後の江の川流域の調査において森原下ノ原遺跡で空白となっている時期の遺構が見つかる可能性がある。

第8表　島根県出土の須恵器模倣土師器一覧

番号	遺跡名	所在地	出土地点	時期	器種	備考
1	清水山１号墳	安来市西荒島町	墳丘上？	TK208	瓶１	
2	細曽１号墳	松江市坂本町	主体部上面	TK208	高坏1	
3	上野Ⅱ遺跡	松江市宍道町	SI14	TK208 ～TK47	坏身1･有蓋高坏1	
4	矢野遺跡	出雲市矢野町	SK2570	TK208 ？	瓶１	赤彩
5	三田谷Ⅰ遺跡	出雲市上塩冶町	SI01	TK208 ～TK23	有蓋高坏1	赤彩
			A 区包含層	TK208 ？	瓶１	
				出雲7･8 期	蓋1	輪状つまみ
			包含層	TK208 ～TK47	有蓋高坏2･瓶１	赤彩
6	只谷Ⅲ遺跡	出雲市湖陵町	包含層	TK10 ～？	坏身1	黒色磨研
7	平ノ前遺跡	大田市静間町	SD17 土器溜まりA 群	MT15 ～TK10	杯蓋9･坏身3	黒色磨研
			SD17 土器溜まりB-5 群	MT15 ～TK10	有蓋高坏1	
			SD17 土器溜まりB 群	MT15 ～TK10	有蓋高坏1	
			SD17 土器溜まりB 群	MT15 ～TK10	有蓋高坏1	
8	高津遺跡	江津市都治町	水場遺構	TK10 ～？	坏身34 ？	黒色磨研
9	森原神田川遺跡	江津市松川町	SR10	MT15 ～TK10 ？	甕2･小型坏？1･杯蓋3･坏身1	一部黒色磨研
10	森原下ノ原遺跡	江津市松川町	包含層	TK208 ～？	坏蓋1･有蓋高坏1	
				MT15 ～TK10	杯蓋1	黒色磨研

【註】

1　中世の建築物の研究においては凹凸のある建物は一般的であるとの指摘を大田市教育委員会の生田氏・清水氏に受けた。また、高橋與右衛門氏による東北地方の中世建物の検討をみても様々な形態の建物があったことがわかる（高橋 2003）。

2　分析の詳細は『縄文～古墳時代編』に掲載する。

3　これまでの中世の城館調査では鍛冶炉が見つかることも多く、大田市静間町の静間城では城の維持管理に必要な釘などを生産していた可能性が指摘されている（島根県教委 2018）。森原下ノ原遺跡でも同様の機能が想定できる。

4　両者は焼成時の温度差などによる違いではなく、異なる胎土を使用し、かつ白色系の方が全体的に薄く仕上げるなど意図的に作り分けているようである。榊原博英氏は出土状況の違いから白色系をより儀礼的要素の強いものとしており（榊原 2001）、森原下ノ原遺跡から約６km 上流に位置する田渕遺跡でも同様の可能性が考えられた（島根県教委 2018）。

5　調査当時は小札と合わせて甲冑の飾り金具と考えたが、甲冑の飾り金具は基本的に金銅製であること、仮に飾り金具とした場合意匠が小札の時期と合わないこと、サイズが大きすぎることなどから建物の飾り金具ではないかと考えられた。この他にも不明鉄製品として報告したものや未掲載品の中にも建物の飾り金具が含まれている可能性がある。

6　島根県古代文化センターによると、甕や壺の頸部に施されたヘラ描き文様が非常に粗雑で、他の石見諸地域では見られない特徴のようである。また、江津市内でも江の川以西では一定量流通する石西型須恵器（岩本真 2019）が全く見られない点も特徴である。江の川を挟んだ東西で須恵器の流通状況が異なる可能性もある。

7　全国的な状況として、廃棄（副葬も含む）時期を古墳時代に求められる鏡は 3000 点を超えるが、うち非副葬鏡は 240 例ほどと全体の８％前後にすぎない。その中で本例のような舶載鏡は約 40％ほどであり、破鏡を含む点、面径 15cm 以下の中・小型鏡がほとんどを占める点が特徴である。出土場所は、建物跡、溝、河川、水路、井戸、洞窟、岩陰、岩上など様々であり、すべてが祭祀に直結させて考えられるものではない（村松 2006）。

8　石釧の全国的な出土事例をみると、古墳以外から出土する例も一定量存在する（高橋 2010）。まず製作地である石川県・福井県で多く、ほかに奈良盆地にも集中する。また、両者の中間に位置する滋賀県域でも出土数が多い（細川 2014）。奈良県では、濠や溝といった集落あるいは居館を区画する囲郭施設、土坑、河川流路などから出土する傾向にあり、物流の拠点となっていた場所であったことが指摘されている。滋賀県では破片として流通・保持された可能性、一定期間の伝世、首長層の威儀具あるいは首長層の主催する祭祀の道具の一部として古墳出土品とは異なる意味づけがなされ、利用された可能性が指摘されている。森原下ノ原遺跡では、出土状況からその使用方法を読み取ることはできない。ただ、中国地方では古墳以外で出土していないことを理由に、未発見の古墳が後世に破壊されそれが流出した可能性は考えにくい。

9　森原下ノ原遺跡で出土した剣形の滑石製模造品は、その製作遺跡が山口県や広島県でのみ見つかっており（米田 2002）、島根県内では出土例自体が非常に少ない（松尾 2019）。在地的な祭祀行為の中に江の川を介した山陽側からの影響がうかがえる。

【引用・参考文献】

池淵俊一　「弥生時代後期の遺構・遺物に関する諸問題」『山持遺跡 Ⅱ・Ⅲ区』Vol.2　島根県教育委員会　2007
石井　悠　「東出雲町の遺跡調査」『東出雲町誌』 東出雲町役場総務課　1978
石田爲成　「山陰地方における塩町甕の分布について」『立命館大学考古学論集Ⅵ』 立命館大学考古学論集刊行会　2013
出雲考古学研究会　『松本古墳群－斐伊川流域をめぐって－』古代の出雲を考える 7　1991
出雲市教育委員会　『井原遺跡発掘調査報告書』 2002
出雲市教育委員会　『矢野遺跡　遺構編（第 1 分冊）』出雲市の文化財 10　2010
出雲市教育委員会　『白枝荒神遺跡』出雲市の文化財報告 38　2018
市村高男　「中世西日本における流通と海運」『中世西日本の流通と交通』 高志書院　2004
市村高男　「古代・中世における日本海域の海運と港町」『日本海交易と都市』 山川出版社　2016
岩橋孝典　「山陰地地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について－土製支脚･移動式竈を中心として－」『古代文化研究』 第 11 号　島根県古代文化センター　2003
岩橋孝典　「古墳時代後期の炊爨文化からみた地域相－出雲西部地域と石見東部地域を事例として－」『国家形成期の首長権と地域社会構造』 島根県古代文化センター研究論集第 22 集　島根県古代文化センター　2019
岩本正二　「中国・四国地方の掘立柱建物」『埋もれた中近世の住まい』 同成社　2001
岩本真実　「石見地域における須恵器の編年と地域性－「石見型須恵器」再考－」『国家形成期の首長権と地域社会構造』 島根県古代文化センター研究論集第 22 集　島根県古代文化センター　2019
上田直弥　「石釧型式の変遷と生産の画期」『待兼山考古学論集Ⅲ－大阪大学考古学研究室 30 周年記念論集－』 大阪大学考古学研究室　2018
上野祥史　「青銅鏡の展開」『古墳時代への胎動』弥生時代の考古学 4　同成社　2011
宇佐見隆之　「港町の成立過程をめぐって」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 113 集　国立歴史民俗博物館　2004
大田市教育委員会　『鳥井南遺跡発掘調査報告書Ⅰ－壱貫田地区・志田ヶ池地区・蝮山地区・千代迫地区・狼段原地区－』 2018
大橋信弥　「支脚形土製品の系譜」『古代研究』第 17 号　（財）元興寺文化財研究所考古学研究室　1979
大庭康時　「石見における大内式土師器の分布とその意味」『石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター研究論集第 18 集　島根県教育委員会　2018
岡寺　良　「石製品研究の新視点－材質・製作技法に着目した視点－」『考古学ジャーナル』No.453　ニューサイエンス社　1999
岡村秀典　「後漢鏡の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 55 集　国立歴史民俗博物館　1993
岡村秀典　「鏡からみた漢と倭の交流」『海を渡った鏡と鉄～青谷上寺地遺跡の交流をさぐる～』 鳥取県埋蔵文化財センター　2012
小野正敏　「威信財としての貿易陶磁と場－戦国期東国を例に－」『戦国時代の考古学』 高志書院　2003
鹿島町教育委員会　『奥才古墳群』 1985
金田義敬　「鉄釘の技術」『モノと技術の古代史　金属編』 吉川弘文館　2017
北山峰生　「中・四国地方の石製品」『前期古墳編年を再考する－広域編年再構築の試み－』 中国四国前方後円墳研究会　2014
木戸雅寿　「石鍋の生産と流通について」『中近世土器の基礎的研究Ⅸ』 中世土器研究会　1993
葛原克人　「新庄天神山古墳」『岡山県史』第 18 巻　岡山県　1986
江津市教育委員会　『高津遺跡』 2005
江津市教育委員会　『八神上ノ原遺跡・森原上ノ原遺跡』 2018a
江津市教育委員会　『八神上ノ原Ⅱ遺跡』 2018b
近藤義郎　『月の輪古墳』吉備考古学ライブラリイ 1　吉備人出版　1998
近藤義郎　『伊与部山墳墓群』 総社市文化振興財団　1996
近藤義郎ほか　『月の輪古墳』 月の輪古墳刊行会　1960
榊原博英　「浜田・古市遺跡における中世前半の土器について」『松江考古』第 9 号　松江考古談話会　2001
榊原博英　「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』 島根県古代文化センター　2010
佐々木古代文化研究室　『馬山古墳群』 1962
山陰考古学研究会　『山陰の古墳出土鏡』第 37 回山陰考古学研究会集会　2009
山陰考古学研究所　『山陰の前期古墳文化の研究Ⅰ』 1978

島根県教育委員会　『出雲岡田山古墳』　1987
島根県教育委員会　『夫敷遺跡』　1989
島根県教育委員会　『臼コクリ遺跡・大原遺跡』　1994a
島根県教育委員会　『森遺跡 板屋Ⅰ遺跡 森脇山城跡 阿丹谷辻堂跡』　1994b
島根県教育委員会　『渋山池遺跡・原ノ前遺跡』　1997
島根県教育委員会　『三田谷Ⅰ遺跡（Vol.1）』　1999
島根県教育委員会　『三田谷Ⅰ遺跡　Vol.3』　2000
島根県教育委員会　『上野Ⅱ遺跡』　2001a
島根県教育委員会　『奥の湯遺跡 登安寺遺跡 湯後遺跡 土井・砂遺跡』　2001b
島根県教育委員会　『家の後Ⅰ遺跡・垣ノ内遺跡』　2003
島根県教育委員会　『浜寄・地方遺跡－ 1A・1B・1C・1D・1F・2A・2C・2F・2G 区の調査－』　2006
島根県教育委員会　『山持遺跡 vol.3（Ⅳ区）』　2007
島根県教育委員会　『梨ノ木坂遺跡 庵寺古墳群 庵寺遺跡Ⅱ』　2010
島根県教育委員会　『苅捨古墳・西川津遺跡』　2011
島根県教育委員会　『大国地頭所遺跡』　2018a
島根県教育委員会　『静間城跡』　2018b
島根県教育委員会　『田渕遺跡』　2018c
島根県教育委員会　『平ノ前遺跡』　2019
島根県教育委員会　『嶬口古墓 上古市遺跡』　2020
島根県教育委員会　『普源田砦跡』　2021a
島根県教育委員会　『森原神田川遺跡下ノ原地区』　2021b
下垣仁志　『日本列島出土鏡集成』　同成社　2016
須賀照隆　「出雲地方周辺の漢鏡」『白枝荒神遺跡』出雲市の文化財報告 38　出雲市教育委員会　2018
高田健一　「馬ノ山（橋津古墳群）」『新鳥取県史（資料編）』考古 2 古墳時代　鳥取県　2020
高橋與右衛門　「中世の建物跡」『戦国時代の考古学』　高志書院　2003
高橋幸治　「腕輪形石製品の流通－集落出土品を中心に－」『古代学研究』第 187 号　古代学研究会　2010
辻田淳一郎　「【特論】九州出土の腕輪形石製品」『奴国の南－九大筑紫地区の埋蔵文化財－』　九州大学総合研究博物館　2009
辻田淳一郎　「破鏡の伝世と副葬：穿孔事例の観察から」『史淵』142　九州大学大学院人文科学研究院　2005
鳥取県教育文化財団　『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅴ』　1983
津野　仁　「古代・中世の鉄鏃－東国の出土品を中心にして－」『物質文化（54）』　物質文化研究会　1990
中井　均　『中世城館の実像』　高志書院　2020
仁木　聡　「山陰における初期須恵器資料について－分布傾向を中心に－」『前方後方墳と東西出雲の成立に関する研究』島根県古代文化センター研究論集第 14 集　島根県古代文化センター　2015
東出雲町教育委員会　『寺床遺跡調査概報』　1983
東広島市教育委員会・広島大学文学研究科考古学研究室　『千人塚古墳』　2010
広島県教育委員会・広島県埋蔵文化財調査センター　『中国縦貫自動車道建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書（３）』　1982
広島県埋蔵文化財調査センター　『山陽自動車道建設にともなう埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅳ）』広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第 55 集　1987
細川修平　「腕輪形石製品の意味を考えるために」『紀要』第 27 号　公益財団法人滋賀県文化財保護協会　2014
本多博之　「中近世移行期西日本海地域の流通と海辺領主」『石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター研究論集第 18 集　島根県教育委員会　2018
前島己基　「石見における祭祀遺跡の新例」『季刊文化財』第 23 号　島根県文化財愛護協会　1974
松江市教育委員会　『細曽 1 号墳』　1987
松江市教育委員会　『石田遺跡発掘調査報告書』松江市文化財調査報告書第 95 集　2004
松江市教育委員会　『広垣遺跡』松江市文化財調査報告書第 179 集　2017
松尾充晶　「古代山陰、出雲の祭祀遺跡」『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』　島根県古代文化センター　2010
松尾充晶　「古墳時代の水利と祭祀」『古代文化研究』第 23 号　島根県古代文化センター　2015

松尾充晶　「古墳時代の祭祀と玉－出雲における滑石製品の展開－」『古墳時代の玉類の研究』島根県古代文化センター研究論集第 21 集　島根県古代文化センター　2019
松本岩雄　「出雲地域」『弥生時代の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992a
松本岩雄　「石見地域」『弥生時代の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992b
水澤幸一　『日本海流通の考古学－中世武士団の消費生活－』　高志書院　2009
南　健太郎　「破鏡からみた白枝荒神遺跡」『白枝荒神遺跡』出雲市の文化財報告 38　出雲市教育委員会　2018
村田　晋　「備後北部地域における甕形土器の地域色」『広島大学大学院文学研究科考古学研究室紀要』第 11 号　広島大学大学院研文学研究科考古学研究室　2020
村松洋介　「鏡の祭祀－非副葬鏡の問題を中心に－」『季刊考古学』第 96 号　雄山閣　2006
望月精司　「壺・甕－貯蔵具」『モノと技術の古代史　陶芸編』　吉川弘文館　2017
桃崎祐輔　「中世の棒状鉄素材に関する基礎的研究」『七隈史学』第 10 号　七隈史学会　2008
守岡正司　「島根県における中世後期貿易陶磁の様相」『山陰における中世後期の貿易陶磁』第 8 回山陰中世土器検討会資料集　山陰中世土器検討会　2009
森下章司　「前期古墳副葬品の組合せ」『考古学雑誌』第 89 巻第 1 号　日本考古学会　2005
八雲立つ風土記の丘　『水辺の祭祀と出雲』　2019
八雲村教育委員会　『御崎谷遺跡 小屋谷古墳群』　1981
八雲村教育委員会　『前田遺跡（第Ⅱ調査区）』八雲村文化財調査報告 19　2001
安来市教育委員会　『清水山古墳群発掘調査報告書』　1994
山本紀子　「釘の「連」」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 113 集　国立歴史民俗博物館　2004
米田克彦　「中・四国における滑石製模造品の生産」『環瀬戸内海の考古学－平井勝氏追悼論文集－』下巻　古代吉備研究会　2002

第9表　遺構観察表（古代～近世）

1区

遺構番号	Gr	形成層（想定）	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1001	B4	3-2 層	ピット	近世（新）	22	20		土師器、鉄製品	上端のみ
1002	B4	3-2 層	ピット	近世（新）	23	23			上端のみ
1003	C2	3-2 層	鍛冶炉	近世（新）	125	65	20	不明土器、土錘、鉄製品	粘土貼り・被熱
1004	C2	3-2 層	鍛冶炉	近世（新）	90+	65	20	土師質土器、須恵器、土師器、弥生土器、石製品、鉄製品、鍛冶関連遺物	粘土貼り・被熱
1005	C3	3-2 層	土坑	近世（新）	150	95	10	不明土器、土錘、焼土塊、鉄製品	
1006	B3-C3-C4	3-2 層	畑	近世（新）	1660	330	10	不明土器、陶磁器、鉄製品	
1007	C4-D4-C5-D5	3-2 層	畑	近世（新）	1190	660	10	瓦質土器、土師器	1006 畑と一体
1008	D4	3-2 層	撹乱					弥生土器、土師器	欠番
1009	D4-E4-E5	3-2 層	畑	近世（新）	480	50	10		1006 畑と一体
1010	D3-E3-D4	3-2 層	畑	近世（新）	855	675	10	石製品、鍛冶関連遺物	1006 畑と同時期？
1011	D3 ？	3-2 層	畑	近世（新）				鍛冶関連遺物	1011 畑と一体
1012	D3	3-2 層	撹乱						欠番
1013	C2	3-2 層	段？	近世（新）	147	55	17	不明土器	
1014	C3	3-4 層	集石	近世（古）	240	122	59	不明土器、土師質土器、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品、鉄製品	
1015	D3	-	集石・礎石	中世後半	77	48		不明土器、縄文土器、石製品	
1016	D2	3-2 層	粘土面	近世（新）	2.9	2.1		不明土器	
1017	C2-D2	3-2 層	粘土面	近世（新）	153	55		不明土器	
1018	D2	3-2 層	集石	近世（新）	44	48	7	不明土器、石製品	
1019	C2	3-2 層	ピット	近世（新）	87	66	50	不明土器、弥生土器、縄文土器、玉製品	
1020	C2	3-2 層	ピット	近世（新）	62	41	14		
1021	C2	3-2 層	ピット	近世（新）	94	55	25		
1022	C2	3-2 層	ピット	近世（新）	64	53	22	石製品、鉄製品	
1023	C2	3-2 層	ピット	近世（新）	48	42	17		
1024	C2	3-2 層	集石	近世（新）				不明土器	石２点
1025	C2	3-2 層	ピット	近世（新）	33	29	8		
1026	C2-C3	3-2 層	ピット？	近世（新）	108	92	30	不明土器	不整形
1027	C3	3-2 層	ピット	近世（新）	54	34	17		
1028	C3	3-2 層	集石	近世（新）	103	60		石製品	
1029	C3	3-2 層	集石	近世（新）	41	35			
1030	D2-D3	3-2 層	ピット	近世（新）	55	35	23	不明土器、土錘	
1031	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	29	30	7		
1032	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	63	35	15	土師質土器、鉄製品	
1033	C3	3-2 層	ピット	近世（新）	52	48	24	不明土器	
1034	C3	3-2 層	ピット	近世（新）	54	52	24	陶磁器、須恵器	
1035	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	65	29	15		
1036	C3-D3	3-2 層	土坑	近世（新）	564	326	45	不明土器、陶磁器、土師質土器、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、土錘、石製品、鉄製品、鍛冶関連遺物	
1037	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	32	32	21	土師器、縄文土器、鍛冶関連遺物	
1038	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	53	43	10		
1039	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	39	37	18	須恵器	
1040	C3	3-2 層	ピット	近世（新）	46	40	12		やや不整形
1041	C3	3-2 層	ピット	近世（新）	53	46	13		
1042	C3	3-2 層	集石	近世（新）					石２点
1043	D3	4-1-2 層	ピット	中世後半	53	54	13	陶磁器	上面で石２点
1044	D3	4-1-2 層	集石	中世後半	70	44		土師器、弥生土器、土錘、石製品、小札17 点ほか鉄製品集中	
1045	D3	3-4 層	集石	近世（古）					石２点
1046	E4	3-2 層	集石	近世（新）	78	63			石４点
1047	E4	3-2 層	集石	近世（新）	66	50			石５点
1048	E4	3-2 層	集石	近世（新）	74	36			石３点
1049	E4	3-2 層	集石	近世（新）				陶磁器	石２点
1050	E4	3-2 層	集石	近世（新）	72	32			石５点
1051	E4	4-1-2 層	炭面	中世後半	239	175	25	土師質土器、須恵器、弥生土器、縄文土器、石製品、鍛冶関連遺物	
1052	D4	3-4 層	集石	近世（古）	61	41			石５点
1053	-	-	溝	縄文？				縄文土器	座標不明により欠番
1054	D4	3-4 層	ピット？	近世（古）	28+	29	27	縄文土器	
1055	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	27	26	13	土師質土器	
1056	D2-D3	4-1-2 層	ピット	中世後半	27	25	9		
1057	D4-E4	3-4 層	畑	近世（古）	723	743	10		
1058	C4	4-1-2 層	ピット	中世後半	22	20	31		
1059	C4	4-1-2 層	ピット	中世後半	29	25	30		
1060	D4-E4-D5-E5	3-4 層	撹乱						欠番
1061	C4-D4	3-4 層	撹乱						欠番
1062	C4-D4	3-4 層	撹乱						欠番
1063	C4-D4	3-4 層	撹乱	近世（古）	633	375	10		
1064	D3-D4	4-1-2 層	礎石建物	中世後半	1000	620		縄文土器、石製品、鉄製品、銭貨	礎石11 基残存
1065	D3-E3-D4-E4	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	51		29	弥生土器、鍛冶関連遺物	
1066	D4	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	59	44	16	不明土器、鍛冶関連遺物	
1067	C2	4-1-2 層	ピット	中世後半	49	43	27	不明土器、陶磁器、石製品	
1068	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	112	70	25	縄文土器	1413 建物の柱穴 柱痕あり
1069	D3	3-2 層	ピット	近世（新）	48	40	16		
1070	C2-D2-C3-D3	3-4 層	畑	近世（古）	1430	700	10		
1072	D4	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	58	41	14	縄文土器、鍛冶関連遺物	
1073	D3	3-4 層	畑	近世（古）	440	221	10		
1074 (1238)	D3	5 層	柱穴	中世後半	52	45	49	陶磁器、土師器、弥生土器、鉄製品	1415 建物の柱穴
1075 (1279)	E1	5 層	土坑	中世後半	91	88	104	陶磁器、須恵器、土師器、弥生土器、石製品、鉄製品	
1076	E1	5 層	ピット	中世後半	17	17	9		
1077	E2	5 層	ピット	中世後半	60	24	13	不明土器	
1078 (1236)	E2	5 層	柱穴	中世後半	48	46	52	土師器、弥生土器	1415 建物の柱穴
1079	C3	4-1-2 層	ピット	中世後半	40	40	23		
1080	C2	4-1-2 層	ピット	中世後半	33	32	24		
1081	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	68	63	64	弥生土器、鉄製品	1413 建物の柱穴
1082	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	50	39	35		1413 建物の柱穴
1083 (1235)	E3	5 層	柱穴	中世後半	49	43	66	不明土器、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	1415 建物の柱穴
1084	E2	5 層	柱穴	中世後半	30	29	19		1417 柱列の柱穴
1085	E2-E3	5 層	柱穴	中世後半	39	29	12	弥生土器	1417 柱列の柱穴
1086	E3	5 層	土坑	中世後半	130	58	15	須恵器、土師器、石製品、鉄製品	
1087	C3	3-4 層	焼土面	近世（古）	39	30			1014 集石の下面
1088	F2	5 層	集石	中世後半	70	60	23	土師質土器、須恵器、土師器、弥生土器、石製品、鍛冶関連遺物	
1089	E2	5 層	柱穴	中世後半	101	36	18	土師器、弥生土器	1417 柱列の柱穴
1090	E2	5 層	ピット	中世後半	100	47	58	土師器、弥生土器、縄文土器	
1091 (1240)	E2	5 層	柱穴	中世後半	125	71	112	不明土器、陶磁器、須恵器、土師器、弥生土器、石製品、鍛冶関連遺物	1415 建物の柱穴
1092	E2	5 層	土坑	中世後半	95	45	13	弥生土器	

遺構番号	Gr	形成層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1093	E2	5 層	土坑	中世後半	135	124	25	土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	炭・焼土あり
1094	E2	5 層	柱穴	中世後半	58	58	71	不明土器、土師器	柱痕あり
1095	E2	5 層	柱穴	中世後半	64	51	46	縄文土器	1416 建物の柱穴
1096	E2	5 層	柱穴	中世後半	77	45	58	縄文土器	1416 建物の柱穴
1097	E2	5 層	柱穴	中世後半	55	41	21	縄文土器	1416 建物の柱穴
1098	E2	5 層	土坑？	中世後半	63	56	14	土師器、弥生土器	
1099	E3-E4	5 層	ピット	中世後半	61	33	15	土師器、弥生土器	炭あり
1100	C3-D3	4-1-2 層	ピット	中世後半	80	55	61	土師器、弥生土器、縄文土器	
1101	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	59	53	28		1413 建物の柱穴
1102	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	89	75	47		1413 建物の柱穴
1103	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	89	65	42	縄文土器、鉄製品	1413 建物の柱穴 柱痕あり
1104	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	103	72	30	陶磁器、土師器、縄文土器、石製品	1216 建物の柱穴 柱痕あり
1105	D2	4-1-2 層	柱穴	中世後半	54	46	17	鉄製品	柱痕あり
1106	C2	4-1-2 層	柱穴	中世後半	45	39	46		柱痕あり
1107	D2	(4-1-2 層)	植生痕跡						欠番
1108	C2	4-1-2 層	ピット	中世後半	33	33	54	不明土器	
1109	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	70	30	47	須恵器、土師器、縄文土器、石製品	柱痕あり
1110	D4	4-1-2 層	ピット	中世後半	60	52	34		
1111	D4	4-1-2 層	ピット	中世後半	77	68	43		
1112	C3	(4-1-2 層)	撹乱						
1113 (1173)	D4	4-1-2 層	土坑？	中世後半	72	38	42	陶磁器	
1114	E2-E3	5 層	柱穴	中世後半	60	41	18	不明土器、土師器	1416 建物の柱穴
1115	E3	5 層	柱穴	中世後半	46	35	20	不明土器	1415 建物の柱穴
1116	E2	5 層	粘土面	中世後半	41	30		弥生土器	1241 柱穴上
1117	E2	5 層	粘土面	中世後半	19	13		土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	1415 建物内
1118	F4	5 層	柱穴	中世後半	46	35	17	土師器、弥生土器	1131 建物の柱穴
1119	F4	5 層	柱穴	中世後半	49	45	11	土師器、石製品	1131 建物の柱穴 柱痕あり
1120	F4	5 層	柱穴	中世後半	59	43	22	土師器、弥生土器	1131 建物の柱穴
1121	F4	5 層	柱穴	中世後半	71	43	17	土師器、弥生土器	1131 建物の柱穴
1122	E4	5 層	柱穴	中世後半	44	31	13	不明土器	1131 建物の柱穴 柱痕あり
1123	E4	5 層	柱穴	中世後半	79	37	28	土師器、弥生土器	1131 建物の柱穴 柱痕あり
1124	E4	5 層	柱穴	中世後半	359	32	36	不明土器	1131 建物の柱穴 柱痕あり
1125	E4	5 層	柱穴	中世後半					1131 建物の柱穴
1126	E4	5 層	柱穴	中世後半				不明土器	1131 建物の柱穴
1127	E4	5 層	柱穴	中世後半					1131 建物の柱穴
1128	E4	5 層	柱穴	中世後半	42	36	14	石製品	1131 建物の柱穴 柱痕あり
1129	E4	5 層	柱穴	中世後半	47	26	12		1131 建物の柱穴
1130	D4-E4	4-1-2 層	土坑	中世後半	154	48	24	不明土器、土製品	1137 鍛冶炉関係？
1131	E4-F4	5 層	布掘建物	中世後半	400	420			柱穴12 基
1132	C2	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	72	48	22	不明土器、鍛冶関連遺物	
1133 (1178)	C2	4-1-2 層	ピット	中世後半	31	29	58		
1134	C2	4-1-2 層	ピット	中世後半	27	27	7		
1135	C2	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	84	56	18	不明土器、石製品、鍛冶関連遺物	石 4 点
1136	D3	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	107	58	15	不明土器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品	
1137	E4	4-1-2 層	鍛冶炉	中世後半	47	39+	34	鍛冶関連遺物	石 2 点
1138	D2-D3	5 層	石列	中世後半	332	46		不明土器、陶磁器、石製品	1416 建物関係、石約30 点
1139	E3	5 層	焼土面	中世後半	52	57	15	不明土器、石製品、鉄製品	
1140	C2	4-1-2 層	焼土面	中世後半	44	27			
1141	F3	5 層	集石	中世後半	106	85		不明土器、石製品	
1142	E1-F1	5 層	集石	中世後半	303	135		須恵器、土師器、石製品、鉄製品	
1143	E2	(4-1-2 層)	撹乱						
1144	E2	5 層	粘土面	中世後半	22	14			1156 ピット上
1145	C3	(4-1-2 層)	撹乱						欠番
1146	D4	4-1-2 層	柱穴	中世後半	38	35	13	土師器、弥生土器、縄文土器	石 7 点(根石？)
1147	D4-D5	(4-1-2 層)	撹乱						欠番
1148	C3	4-1-2 層	ピット	中世後半	26	23	18		
1149	C3	4-1-2 層	ピット	中世後半	57+	43	20		
1150 (1179)	C3	4-1-2 層	ピット	中世後半	48	41	42		
1151	D4	(4-1-2 層)	撹乱						欠番
1152	C3	4-1-2 層	ピット	中世後半	20	21	9		1249 焼土面内
1153	D3	4-1-2 層	柱穴	中世後半	72	65	90	土師器、縄文土器、石製品、鉄製品	1413 建物の柱穴 柱痕あり
1154	D2	4-1-2 層	ピット	中世後半	37	25	25		
1155	D2	5 層	柱穴	中世後半	147	58	75	土師質土器、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	1415 建物の柱穴
1156	E2	5 層	柱穴	中世後半	31	30	40		
1157	E2	5 層	溝？	中世後半	43	22	13		
1158	E2	5 層	柱穴	中世後半	41	40	37	弥生土器、石製品	
1159	E2	5 層	溝？	中世後半	91	24	9		
1160	F3	5 層	ピット	中世後半	86	64	39	不明土器	
1161	F2	5 層	ピット	中世後半	41	40	16	弥生土器、鍛冶関連遺物	
1162	F2	5 層	ピット	中世後半	58	56	15	不明土器	
1163 (1364)	D2	5 層	柱穴	中世後半	84	59	98	土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	1416 建物の柱穴
1164	D2	5 層	柱穴	中世後半	62	49	39	不明土器、陶磁器、石製品	1416 建物の柱穴
1165	D3-E3	5 層	柱穴	中世後半	50	40	30	不明土器、鉄製品	1416 建物の柱穴
1166	D4	4-1-2 層	ピット	中世後半	65	47	26	土師器、弥生土器、縄文土器、土製品、石製品、鉄製品	
1167	C2	4-1-2 層	炭面	中世後半	81	76		不明土器、陶磁器、土師質土器、土師器、弥生土器、土製品、石製品、鉄製品	
1168	F4	5 層	柱穴	中世後半	98	85	58	土師器、弥生土器、石製品	1418 柱列の柱穴
1169	F4	5 層	柱穴	中世後半	46	40	23	土師器、弥生土器、石製品	1418 柱列の柱穴
1170	F4	5 層	ピット	中世後半	36	34	12	土師器、石製品	
1171	F4	5 層	柱穴	中世後半	66	47+	38	不明土器、石製品	1418 柱列の柱穴
1172 (1177)	C2	4-1-2 層	柱穴	中世後半	107	95	49	不明土器、土師器、弥生土器、縄文土器、鉄製品、鍛冶関連遺物	1216 建物の柱穴、石 4 点
1174									座標不明により欠番
1175	D4	4-1-2 層	ピット	中世後半	30	32	28		
1176	D4	4-1-2 層	ピット	中世後半	61	45	33		
1180	C3	4-1-2 層	ピット	中世後半	43	41	42	骨？	
1181	C2	4-1-2 層	ピット	中世後半	33	30	21	不明土器、土師器	
1182	D3	4-1-2 層	ピット	中世後半	27	25	13		
1183	D3	4-1-2 層	ピット	中世後半	41	36	17		
1184	D3	4-1-2 層	ピット	中世後半	44	33	26	鉄製品	

遺構番号	Gr	形成層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1185 (1263) (1264)	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	62	28	38	縄文土器、石製品	
1186	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	54	32	19	不明土器	
1187	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	67	51	57	縄文土器、石製品	石 3 点
1188	D3	4-1·2 層	柱穴	中世後半	63	48	67	土師器、縄文土器、石製品	1416 建物の柱穴 柱痕あり 石12 点
1189	C3	4-1·2 層	ピット	中世後半	40	26	50	不明土器、鉄製品	
1190	C3	4-1·2 層	ピット	中世後半	33	35	17	不明土器	
1191	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	55	50	49	須恵器、弥生土器	
1192	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	45	41	32	石製品	
1193	D3	(4-1·2 層)	撹乱						欠番
1194	D2	4-1·2 層	焼土面	中世後半	41	38		不明土器、土師器、石製品、鉄製品	
1195	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	56	47	41	不明土器、鉄製品	石 4 点
1196	D2	4-1·2 層	柱穴	中世後半	76	56	31	不明土器、土師質土器、縄文土器、石製品、鉄製品	1216 建物の柱穴、石 9 点
1197	D2	4-1·2 層	柱穴	中世後半	90	56	29	陶磁器、土師器、縄文土器、鉄製品	1216 建物の柱穴、石 7 点
1198	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	37	39	25	縄文土器、石製品	石 1 点
1199	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	34	26	49	石製品	
1200	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	34	32	13	縄文土器	石 1 点
1201	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	38	42	40	縄文土器、石製品	
1202	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	76	52	18	不明土器、須恵器、弥生土器、縄文土器	
1203	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	68	55	15	不明土器、縄文土器、鍛冶関連遺物	
1204	D3	4-1·2 層	柱穴	中世後半	120	67	56		1413 建物の柱穴
1205	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	33	32	27	縄文土器	
1206	D3	(4-1·2 層)	撹乱						欠番
1207	D3	4-1·2 層	柱穴	中世後半	79	65	46		1413 建物の柱穴
1208	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	44	41	21	石製品	
1209	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	29	29	11	不明土器、石製品	
1210		(4-1·2 層)	土坑					縄文土器	座標不明により欠番
1211		(4-1·2 層)	土坑					縄文土器、石製品	座標不明により欠番
1212	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	32	34	18	不明土器	
1213	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	50	29	30	不明土器、須恵器	
1214 (1385)	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	64	63	95	不明土器、鉄製品	
1215	C3	4-1·2 層	柱穴	中世後半	34	33	25	不明土器	1216 建物の柱穴
1216	C2-D2-C3-D3	4-1·2 層	掘立柱建物	中世後半	460	460			柱穴 6 基
1217	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	68	48	46	不明土器	
1218	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	33	25	39		
1219	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	32	33	25		
1220	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	22	20	12		
1221	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	30	26	24	不明土器	石 1 点
1222	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	35	32	14		
1223	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	48	41	19	不明土器、鉄製品	石 2 点
1224 (1383)	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	110	66	74	縄文土器	石 2 点
1225	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	77	49	54		
1226	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	31	27	34	縄文土器	
1227	D2	4-1·2 層	土坑	中世後半	82	64	26	不明	
1228	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	40	23	27	土師質土器	
1229	D2	(4-1·2 層)	撹乱	中世後半					
1230 (1297)	D2	4-1·2 層	土坑	中世後半	150	78	52	不明土器、土師器、縄文土器、石製品、鉄製品、銭貨	
1231 (1330)	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	37	26	42		
1232	D2	(4-1·2 層)	撹乱						
1233	D2	4-1·2 層	不整形土坑	中世後半	208	119	34	土師質土器、縄文土器、石製品	
1234	F2	5 層	ピット	中世後半	44	39	12	土師器	
1237	E2	5 層	柱穴	中世後半	29	28	35	不明土器	1415 建物の柱穴
1239	E2	5 層	柱穴	中世後半	44	36	47	弥生土器	1415 建物の柱穴
1241	E2	5 層	柱穴	中世後半	57	46	75	不明土器、弥生土器、石製品、鍛冶関連遺物	1415 建物の柱穴
1242	E2	5 層	ピット	中世後半	37	40	59	土師器、弥生土器、鍛冶関連遺物	
1243	E2	5 層	ピット	中世後半	53	46	65		
1244	E3	5 層	ピット	中世後半	78	68	28	土師器、縄文土器、石製品、鍛冶関連遺物	石 2 点
1245	D2-D3	4-1·2 層	集石土坑	中世後半	201	118	30	陶磁器、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	
1246	E3	5 層	柱穴	中世後半	35	35	61	土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	1415 建物の柱穴
1250	D2-D3	4-1·2 層	炭面	中世後半	333	191		土師質土器、石製品、鉄製品	1216 建物の東辺
1251	C3	(4-1·2 層)	撹乱					不明土器	欠番
1252 (1358)	D2-E2	5 層	柱穴	中世後半	90	40	77	土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	1415 建物の柱穴
1254	D3-E3	4-1·2 層	ピット	中世後半	58	52	51	土師器、弥生土器、縄文土器、石製品、鉄製品	
1255	C3	4-1·2 層	ピット	中世後半	31	31	23	縄文土器	
1256	D2-E2	5 層	柱穴	中世後半	36	32	65		1415 建物の柱穴、石 5 点
1257	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	51	46	33	須恵器、不明土器、石製品	
1258	C2	4-1·2 層	土坑？	中世後半	35	29	26	不明土器	
1259	C2	4-1·2 層	土坑？	中世後半	59	53	32	不明土器、縄文土器、土製品、石製品	
1260 (1384)	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	87	65	61	陶磁器、土師器、縄文土器、鉄製品	
1261	E2	5 層	柱穴	中世後半	52	37	69	須恵器、縄文土器、石製品、鉄製品	1416 建物の柱穴
1262	C2	4-1·2 層	ピット	中世後半	28	29	37		
1265	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	31	28	22	縄文土器	
1266	D2	5 層	ピット	中世後半	23	20	21		
1267	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	37	30	13		
1268	D2	5 層	ピット	中世後半	36	36	44	土師器、縄文土器	
1269	D2	5 層	ピット	中世後半	31	27	53		
1270	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	56	46	22		
1271	E3	5 層	ピット？	中世後半	131	59	49	不明土器、縄文土器、鉄製品	石 2 点
1273	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	43	34	19		石 4 点
1274	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	33	31	31		
1275	D2	4-1·2 層	ピット	中世後半	35	32	31		
1283	E2-F2	5 層	土坑	中世後半	76	54	35	不明土器、土師器	
1289	D3	4-1·2 層	柱穴	中世後半	44	42	10	不明土器	1413 建物の柱穴
1290	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	35	31	30	土師器	
1291	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	34	31	14		
1292	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	48	43	17	不明土器	
1293	D3	4-1·2 層	ピット	中世後半	34	27	18	不明土器	
1294	D2	12 層	撹乱						欠番
1295	D2	12 層	ピット	中世後半	35	29	8	弥生土器、鉄製品	
1296 (1331)	D2	12 層	ピット	中世後半	27	25	31		
1298	D2	12 層	ピット	中世後半	31	26	28		

遺構番号	Gr	形成層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1299	D2	12 層	撹乱						欠番
1300	D2	12 層	ピット	中世後半	30	27	20	縄文土器、石製品	
1301	D2	12 層	ピット	中世後半	31	28	25	不明土器	
1302	D2	12 層	ピット	中世後半	45	33	31	縄文土器	
1303	D2	12 層	撹乱						欠番
1305	D3	12 層	撹乱						欠番
1306	D3	12 層	撹乱						欠番
1309	D3	12 層	撹乱						欠番
1311	D3	12 層	撹乱						欠番
1312	D3	12 層	撹乱						欠番
1313	D2	12 層	撹乱						欠番
1314	C2-C3	12 層	ピット	中世後半	42	34	17	縄文土器、鉄製品	
1315	D3	12 層	ピット	中世後半	36	30	45	陶磁器、縄文土器、土製品、鉄製品	
1320	D2	12 層	ピット	中世後半	33	31	31	陶磁器	
1322	C2	12 層	ピット	中世後半	27	28	27	不明土器	
1323	C2	12 層	撹乱						欠番
1324	D2	12 層	ピット	中世後半	28	24	10	縄文土器	
1325	D2	12 層	土坑	中世後半	123	58	51	陶磁器、縄文土器、石製品、鉄製品	
1326	D2	12 層	ピット	中世後半	44	40	24		
1328	D2	12 層	落ち込み	中世後半	236	77	61	土師質土器、縄文土器、石製品、鉄製品	
1329	D2	12 層	ピット	中世後半	30	25	14	縄文土器、石製品	
1332	D2	12 層	ピット	中世後半	31	28	25	弥生土器	
1333	D2	12 層	撹乱						欠番
1334	D2	12 層	ピット	中世後半	26	26	17		
1335	D2	12 層	ピット	中世後半	64	59	40		
1336 (1388)	D2	12 層	ピット	中世後半	51	44	49	土師器、縄文土器、石製品	
1341	D2	12 層	撹乱						欠番
1344 (1380)	D2	12 層	ピット	中世後半	29	25	45		
1345	E4	(4-1-2 層)	鉄滓捨て場	中世後半	77	69	18	石製品、鉄製品、鍛冶関連遺物	
1347	F3	(6 層)	ピット	古代？	43	39	12	須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品	
1351	E3	(5 層)	柱穴	中世後半	130	78	61	縄文土器	1415 建物の柱穴、石 1 点
1353	E3	(5 層)	ピット	中世後半	43	33	20	縄文土器	
1357	E3	(5 層)	柱穴	中世後半	36	34	15	縄文土器	遺構1416 建物の柱穴
1362	D2	(5 層)	柱穴	中世後半	59	49	29	土師質土器、土師器、縄文土器	遺構1416 建物の柱穴
1363	D2	(5 層)	柱穴	中世後半	44	36	51	縄文土器	遺構1416 建物の柱穴
1410	C2	13 層	土坑	中世後半	88+	93	22	須恵器	
1413	D2	(4-1-2 層)	掘立柱建物	中世後半	700	400+260			柱穴10 基
1414			撹乱						欠番
1415	D2-E2-E3	(5 層)	掘立柱建物	中世後半	8.6	3.8			柱穴13 基
1416	D2-E2-D3-E3	(5 層)	掘立柱建物	中世後半	600	200			柱穴10 基
1417	E2-E3	(5 層)	柱列	中世後半	400				柱穴 3 基
1418	F4	(5 層)	柱列	中世後半	370				柱穴 3 基

2区

遺構番号	Gr	形成層(想定)	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2040	E6	2-2 層	撹乱						欠番
2041	D5-D6-D7	3-2 層	畑	近世(新)	1250	300	10		2042 畑と一体
2042	D5-E5-D6-E6	3-2 層	畑	近世(新)	1060	980	10	陶磁器、鉄製品	2041 畑と一体
2043	E6	3-2 層	落ち込み	近世(新)	840	230+	50	鍛冶関連遺物	
2044	F4	5 層	集石	中世後半	154	127	15	土師器、弥生土器	
2045	E8-F8-E9-F9	3-2 層	畑	近世（新）	410	835	15		
2046	E8	3-2 層	柱穴？	近世（新）	33	28	20		
2047	E8	3-2 層	柱穴？	近世（新）	25	21	14		
2048	F8	3-2 層	柱穴？	近世（新）	32	32	26		
2049	F8	3-2 層	柱穴？	近世（新）	29	27	13		
2050	F8	3-2 層	柱穴？	近世（新）	32	33	14		
2051	D6	3-4 層	土坑	近世（古）	98	54	24	陶磁器	
2052	G6	5 層	集石	中世後半	230	130		土師質土器、須恵器、土師器、弥生土器、鉄製品、銭貨	写真測量で記録
2053	F6	3-4 層	集石	近世（古）	87	47			石19 点
2054	E8	3-4 層	集石	近世（古）	195	120		石製品	一部写真測量で記録
2055	E8	3-4 層	ピット	近世（古）	25	22	7		
2056	E8	3-4 層	ピット	近世（古）	26	25	8		
2057	E8	3-4 層	ピット	近世（古）	25	25	10		
2058	E8	3-4 層	ピット	近世（古）	25	25	13		
2059	E8	3-4 層	ピット	近世（古）	36	34	10		
2060	D6	4-1-2 層	柱穴	中世後半	95+	86	52		柱痕あり
2061	E8	3-4 層	ピット	近世（古）	34	30	13		
2062	E6	3-4 層	鍛冶炉？	近世（古）	56	44	12	鍛冶関連遺物	
2063	E6	3-4 層	鍛冶炉？	近世（古）	80	37	8	鉄製品	
2064	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	31	32	9		
2065	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	37	30	15		
2066	E8	4-1-2 層	ピット	中世後半	46	40	21		
2067	D7-E7	4-1-2 層	ピット	中世後半	32	27	23		
2068 (2083)	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	38	36	35		
2069	G8	4-1-2 層	撹乱						欠番
2070	G8	4-1-2 層	撹乱						欠番
2071	G8	4-1-2 層	撹乱						欠番
2072	G8	4-1-2 層	撹乱						欠番
2073	H7	3-4 層	流路？	近世（古）	170+	330	150		
2074	E5-E6	3-4 層	鍛冶炉？	近世（古）	68	61	19		
2075	F7	(4-1-2 層)	ピット	中世後半	47	36	27		
2076	G8	(4-1-2 層)	ピット	中世後半	45	39	31		
2077	G8	(4-1-2 層)	ピット	中世後半	37	31	8		
2078	G8	(4-1-2 層)	撹乱						欠番
2079 (2105)	F8	(3-4 層)	ピット	近世（古）	65	62	52	土師質土器	石15 点
2080 (2092)	F8	(3-4 層)	ピット	近世（古）	110	89	78		石 2 点
2081	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	42	36	10		
2082	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	45	46	13		
2084	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	35	35	20		
2085	F8	4-1-2 層	撹乱						欠番
2086 (2093)	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	41	37	68		
2087	F8	4-1-2 層	ピット	中世後半	50	40	16		
2088	F8	(4-1-2 層)	ピット	中世後半	73	55	17		石 1 点
2089	F8	(4-1-2 層)	ピット	中世後半	37	33	17		

遺構番号	Gr	形成層（想定）	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
2090	F9	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	39	32	25		
2091	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	42	38	17		
2094	D6	4-1·2 層	ピット	中世後半	33	33	32	弥生土器	
2095	D6	4-1·2 層	ピット	中世後半	32	30	37		
2096	D6	4-1·2 層	ピット	中世後半	53	46	25		
2097	D6	4-1·2 層	ピット	中世後半	44	39	34		
2098	E6	4-1·2 層	ピット	中世後半	48	42	38	土師質土器	
2099	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	37	33	51		
2100	D6	4-1·2 層	柱穴	中世後半	71	55	50		柱痕あり
2101	D6	4-1·2 層	ピット	中世後半	41	39	32		柱痕あり
2102	D6	4-1·2 層	ピット	中世後半	47	42	58		
2103	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	34	28	10		
2104	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	28	23	8		
2106	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	50	45	35		
2107	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	37	36	15		
2108	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	35	34	17		
2109	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	45	43	33		
2110	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	38	37	47		
2111	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	33	32	29		
2112	F8	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	35	28	16		
2113	F8	4-1·2 層	集石	中世後半	207	99		石製品	石14 点
2114	F8	(4-1·2 層)	ピット？	中世後半	105	47	7		
2115	G6·G7	(2 層)	便所	明治以降？				鉄製品（トタン板、丸釘）	欠番
2116	E7	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	41	35	36		
2117	E7	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	34	30	37	弥生土器	
2118	E7	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	26	25	26		
2119	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	41	39	40		
2120	G6	5 層	ピット	中世後半	43	38	26	土師器、弥生土器	石３点
2121	G6	(2 層)	撹乱					鉄製品（丸釘）	欠番
2122	G6	5 層	土坑	中世後半	70	51	10	土師器	
2123	G6	5 層	集石	中世後半	46	47		須恵器、土師器、弥生土器	写真測量で記録
2124	H7	5 層	ピット	中世後半	45	37	13	土師器、弥生土器	
2125	G6	5 層	ピット	中世後半	36	30	17	土師器、弥生土器	
2126 (2159)	G6	5 層	ピット	中世後半	25	23	34	土師器	
2127	G5	5 層	土坑	中世後半	88	58	11		
2128	F6	5 層	土坑	中世後半	83	56	5	鉄製品	
2129	D6·E6·D7·E7	(4-1·2 層)	土坑	中世後半	66+	111	54		
2130 (2140)	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	48	45	42		
2131	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	27	22	19		
2132	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	27	24	17		
2133	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	44	35	28	土師質土器	
2134	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	40	32	19		
2135	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	62	59	26		
2136	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	22	18	8		
2137	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	25	22	7		
2138	E6	(4-1·2 層)	ピット	中世後半	45	34	15		
2139	D6	(4-1·2 層)	土坑？	中世後半	70	61	28	土師器	
2141	F5	3-4 層	鍛冶炉	近世（古）	61	46	28	不明土器	
2142	F6	5 層	ピット	中世後半	45	37	19	弥生土器	
2143	H7	(5 層)	撹乱					土師器、弥生土器	欠番
2144	G7	3-4 層内	集石	不明	135	35		須恵器、土師器、弥生土器、土製品、鉄製品	写真測量で記録
2145	E5·F5	5 層	土坑	中世後半	170	123	35	弥生土器	
2146	G7	5 層	撹乱					弥生土器	欠番
2147	G7	5 層	ピット	中世後半	75	33+	40	弥生土器	石１点
2150	G7	8·9 層	集石	古代？	141	93		不明土器、須恵器、土師器、弥生土器、石製品、鉄製品	2150 ～2156 で一体 水流による礫・遺物の集積 写真測量で記録
2151	H7	8·9 層	集石	古代？	181	68			
2152	H8	8·9 層	集石	古代？	53	20			
2153	G7	8·9 層	集石	古代？	162	122			
2154	G7	8·9 層	集石	古代？	190	110			
2155	G7	8·9 層	集石	古代？	65	46			
2156	G7	8·9 層	集石	古代？	87	56			
2157	G6	5 層	撹乱					土師器、弥生土器、鉄製品	欠番
2158	F6	5 層	ピット	中世後半	41	37	14	弥生土器	
2160	G6	5 層	ピット	中世後半	27	23	7		
2162	F6	5 層	土坑	中世後半	70+	81	10	鉄製品	
2172	F4·G5·G6	5 層内	石列？						欠番
2173	G5·G6	5 層内	石列？						欠番
2174	G6	5 層内	石列？						欠番
2185	F4	5 層	ピット	中世後半	52+	37+	30	土師器、弥生土器	
2189	F6	(5 層)	ピット	中世後半	67	56	24		
2190 (2316)	F6	(5 層)	ピット	中世後半	63	61	66	不明土器、弥生土器、鉄製品	
2191	F4·G4	5 層	土器溜					土師器、弥生土器	遺構としては欠番 遺物は５層扱い
2453	E7	14 層	鉄分溜					土師器、弥生土器	欠番
2459	F8·G8	4-7 層	畑	中世前半	855+	840+	15	弥生土器	
2470	F8·F9	4-5 層	土坑？	中世前半		120	35		調査区西壁内
2474	G5	3-4 層	流路？	近世（古）？		390	64		調査区東壁内
2475	H6·H7	2 層	流路？	近世以降		400	80		調査区東壁内
2487	E5	5 層	土器溜						遺構としては欠番 遺物は５層扱い
2488	E6·F6	4-1·2 層	落ち込み	中世後半	1130	640	65		遺構としては欠番 落ち込みとして表現

3 区

遺構番号	Gr	形成層（想定）	種類	時期	法量(cm)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
3001	H8·I8	34 層	溝？	近世（古）？	600+	300	152	陶磁器、弥生土器	
3002	H8·I8	34 層	溝？	近世（古）？	600+	270	114	土師器	
3035	H7·I8	34 層	流路？	近世		345	55		調査区東壁内
3036	I8	5 層	柱穴	中世後半	96		36		調査区東壁内 柱痕あり
3037	H9·I9·J9·H10·I10·J10·H11	34 層	自然流路	近世（古）？	2220+	915+	146	陶磁器、土師器、弥生土器、鉄製品	
3038	I9	3001·3002 盛土内	土器溜	近世（古）？	100	100		弥生土器、石製品	

第10表　遺構出土遺物観察表

遺構陶磁器・須恵器・土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)			胎土	色調	文様・調整その他	備考
								口径	器高	底径				
35	1	29	E5	2042	備前焼	壺				(12.8)	砂粒僅かに含む	外：灰色 N4/ 内：にぶい赤褐色 2.5Y4/3	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
37	3	29	C2	1004	土師質土器	坏	白色系			(6.0)	砂粒微量含む	外：灰白色 10YR8/1 内：灰白色 10YR8/1	外：回転糸切り？	外内面摩滅
40	1	29	C3	1036	肥前系磁器	丸形碗	JB-1-a			(5.0)	白色	透明釉・呉須	外：圏線 内：草花文？染付	1610 ～ 1630 年代
46	1	31	I8	3001	肥前系磁器	平形皿	JB-2				灰白色	透明釉・呉須	内：染付	18C 前半
46	2	31	I10	3001 3002	弥生土器	高坏	石見Ⅳ様式				砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、凹線文４条 内：ヨコナデ	
46	3	31	I9	3001 3002	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 様式	(16.6)			砂粒多く含む	外：灰白色 7.5YR8/1 ～灰褐色 7.5YR5/2 内：灰白色 10YR8/1	外：ナデ、凹線文５条 内：ナデ、ケズリ	
46	4	31	I9	3001 3002	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 様式	(17.4)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ヨコナデ、刺突文 凹線文３条 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 二枚貝腹縁
46	5	31	I9	3001 3002	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 様式	(19.0)			砂粒多く含む	外：淡黄色 2.5Y8/3 内：淡黄色 2.5Y8/3	外：ヨコナデ、 凹線文４条 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： ヘラ状工具
46	6	31	I9	3001 3002	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 様式	(17.8)			砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、 凹線文４条、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 櫛歯状工具
46	7	31	I9	3001 3002	弥生土器	甕	石見Ⅴ -1 様式	(16.8)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/3 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、 凹線文２条、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
46	8	31	I9	3001 3002	弥生土器	鉢	石見Ⅴ -1 様式	(18.8)			砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/2 内：灰白色 10YR8/2	外：ヨコナデ、 凹線文４条、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 櫛歯状工具
46	9	31	I9	3001 3002	弥生土器	甕	石見Ⅴ -2 様式	(19.7)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ、 擬凹線文４条、沈線文１条 内：ヨコナデ、ケズリ	
46	10	31	I9	3001 3002	弥生土器	坏 （漆容器？）		(5.3)			砂粒多く含む	外：黄灰色 2.5Y5/1 内：黄灰色 2.5Y5/1	外：ナデ 内：ナデ	
48	1	31	I9	3038	弥生土器	甕	石見Ⅴ -2 様式	17.6	24.9		砂粒多く含む	外：褐灰色 10YR6/1 内：黒褐色 2.5Y3/1	外：ヨコナデ、刺突文、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
48	2	31	I9	3038	弥生土器	甕	石見Ⅴ -3 様式	30.0			砂粒多く含む	外：灰白色 10YR8/1 内：灰白色 10YR8/1	外：ヨコナデ、擬凹線文 12 条、 ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
48	3	32	I9	3038	弥生土器	鼓形器台	石見Ⅴ -3 様式	16.8			砂粒多く含む	外：浅黄橙色 10YR8/4 内：明黄橙色 10YR7/6	外：ヨコハケ、ハケ後ナデ 内：摩滅の為不明	
49	1	32	D6	2051	龍泉窯系青磁	端反碗	上田 D- Ⅱ類	(14.6)			灰白色	青磁釉	無文、貫入あり	15C
50	1	32	F8	2079	土師質土器	皿	褐色系				砂粒少量含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色 7.5YR7/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	
52	1	32	C3	1014	土師質土器	坏	褐色系			(7.0)	砂粒微量含む	外：灰黄褐色 10YR5/2 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ、沈線文１条	
52	2	32	C3	1014	土師質土器	坏	褐色系			(7.4)	砂粒微量含む	外：橙色 5YR6/6 内：にぶい赤橙色 5YR5/3	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	
52	3	32	C3	1014	土師器	高坏	大東 1 ～ 3 式				砂粒多く含む	外：灰白色 2.5Y8/1 内：灰白色 2.5Y8/1	外：摩滅の為不明 内：摩滅の為不明	円盤充填
52	4	32	C3	1014	弥生土器	甕	石見Ⅴ -2 様式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ、擬凹線文５条残存 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： 棒状工具
54	1	32	H10	3037	龍泉窯系青磁	坏	上田 D- Ⅱ類				灰白色 2.5Y7/1	青磁釉	無文	15C
54	2	32	H10	3037	伊万里焼	碗	JB-1				灰白色 N8/	透明釉、呉須	外面：圏線、草花文	1630 ～ 1650 年
54	3	32	I9	3037	肥前系陶器	溝縁皿	JB-2	(12.4)			褐灰色 10YR6/1	鉄釉		1630 ～ 1650 年？
86	1	33	D3	1136	龍泉窯系青磁	碗	上田 D 類	16.4	8.0	6.6	灰色	青磁釉	内：圏線	15C 半ば以降
88	1	33	D2	1197	中国白磁	碗				(5.4)	灰白色	緑灰色釉	内：段あり	13C ～ 14C 頃
88	2	33	D2	1196	土師質土器	坏	褐色系			(7.0)	砂粒微量含む	外：明褐色 7.5YR5/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	13C ～ 14C 頃
88	3	33	D2	1104	縄文土器	単純口縁深鉢	後・晩期				砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：褐灰色 10YR5/1	外：ナデ、刻目 内：ナデ	煤付着
88	4	33	D2	1104	縄文土器	浅鉢	後・晩期			(8.8)	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ミガキ 内：ナデ	
88	8	33	D2	1250	土師質土器	坏（燈明皿）	褐色系			6.2	砂粒微量含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：	外：回転ナデ 内：回転ナデ	内面煤付着
91	1	34	D3	1043	瀬戸美濃系陶器	皿	古瀬戸中期				灰白色	透明釉	内：斜位の擦り目	片口 14C ～ 15C
93	1	34	E2	1074	景徳鎮窯系青花	碗	小野 E 群	(11.2)			白色	透明釉、呉須	外：圏線、不明 内：圏線	16C
93	2	34	E3	1252	土師器	甕	大東 1 ～ 3 式	(14.2)			砂粒多く含む	外：褐色 7.5YR6/6 内：褐色 7.5YR7/6	摩滅の為調整不明	
93	3	34	E3	1351	縄文土器	単純口縁深鉢	後・晩期				砂粒少量含む	外：にぶい褐色 7.5YR5/4 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：ナデ 内：ナデ	
93	4	34	E3	1351	縄文土器	単純口縁深鉢	後・晩期				砂粒若干含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：黄褐色 2.5Y5/4	外：ナデ 内：ナデ	
93	8	34	E2	1261	縄文土器	屈曲形深鉢	布勢式併行？	(33.0)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：巻貝条痕 内：巻貝条痕	
93	9	34	E2	1261	縄文土器	屈曲形浅鉢	布勢式併行？				砂粒少し含む	外：黒褐色 10YR3/2 内：灰黄褐色 10YR4/2	外：ミガキ 内：ミガキ	
93	10	34	E3	1357	縄文土器	屈曲形鉢？	布勢式併行？				砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色 10YR6/4 内：黒褐色 2.5Y3/2	外：ナデ、刻目、沈線文 内：ミガキ	
93	11	34	E3	1357	縄文土器	砲弾形深鉢	後期？				砂粒少し含む	外：にぶい黄褐色10YR5/3 内：にぶい黄褐色10YR5/3	外：ナデ 内：ナデ	
93	12	34	E2	1261	縄文土器	深鉢	後・晩期			(10.2)	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ナデ 内：ナデ	
93	13	34	E2	1261	縄文土器	浅鉢	後・晩期			(10.6)	砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR5/4 内：灰黄褐色10YR5/2	外：ミガキ 内：ミガキ？	
95	1	34	F4	1121	土師器	高坏	大東 1 ～ 3 式	(17.4)			砂粒少量含む	外：にぶい橙色7.5YR7/3 内：にぶい橙色7.5YR7/3	外：ハケ後ナデ 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量 () 内復元 (cm)			胎土	色調	文様・調整その他	備考
								口径	器高	底径				
95	2	34	E4	1125	土師器	高坏	小谷3-4 式 ～大東 1 ～3 式	(14.0)			砂粒少量 含む	外 :橙色2.5YR6/8 内 :橙色5YR6/6	外 :ヨコナデ、ハケ・ケズリ後 ミガキ 内 :ハケ後ヨコナデ、ミガキ	
95	3	34	E4	1125	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式	(7.2)			砂粒多く 含む	外 :浅黄橙色7.5YR8/4 内 :橙色5YR7/6	外 :ナデ、ハケ後ナデ 内 :ナデ、ケズリ	
98	1	35	C2	1410	須恵器	器台？					砂粒僅か に含む	外 :オリーブ黒色7.5Y3/1 内 :灰色7.5Y6/1	外 :回転ナデ、カキメ、沈線文1 条 内 :回転ナデ	
100	1	35	D2	1325	龍泉窯系 青磁？	碗	不明				灰色	青磁釉？		15C ？
100	2	35	D2	1325	土師質土器	坏	褐色系			(6.8)	砂粒微量 含む	外 :にぶい橙色7.5YR6/4 内 :橙色7.5YR6/6	外 :回転ナデ、回転糸切り 内 :回転ナデ	
100	6	35	D2	1233	土師質土器	坏	褐色系？			(6.0)	砂粒微量 含む	外 :灰白色2.5Y8/2 内 :灰白色2.5Y8/2	外 :ナデ、回転糸切り 内 :ナデ、ケズリ	
100	7	35	D2	1233	縄文土器	浅鉢	柳浦B1 類				砂粒多く 含む	外 :にぶい褐色7.5YR5/3 内 :灰黄褐色10YR5/2	外 :ミガキ 内 :ミガキ	
100	9	35	D3	1245	龍泉窯系 青磁	碗	上田D 類				灰色N5/	青磁釉	無文	15C
100	10	35	D3	1245	土師器	鼓形器台	小谷式			(16.8)	砂粒多く 含む	外 :灰白色5Y7/2 内 :浅黄橙色10YR8/3	外 :ナデ？ 内 :ケズリ？、ナデ？	
100	11	35	D3	1245	縄文土器	浅鉢	布勢式 併行				砂粒多く 含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/4 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :ミガキ 内 :ミガキ、渦巻文	
100	12	35	F1、F2	1283	土師器	甕	大東 1 ～3 式				砂粒少し 含む	外 :にぶい橙色7.5YR6/4 内 :にぶい橙色7.5YR6/4	外 :ヨコナデ、ハケ 内 :ヨコナデ、ケズリ	
100	13	35	E6	2139	土師器	甕	小谷式？				砂粒少し 含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/3	外 :ナデ 内 :ナデ	
102	4	35	C2、C3	1067	中国白磁	八角坏	森田D 群	(7.4)			淡黄色	透明釉		15C
102	8	35	C2	1167	中国白磁	皿	森田D 群	12.0	3.3	3.8	淡黄色	透明釉	削り高台内に朱色の四方形印	15C
102	9	35	C2	1167	瀬戸美濃系 陶器	皿	古瀬戸 中期	(15.0)			浅黄色 2.5Y7/3	透明釉	内 :目跡1 点、斜位の擦り目	14C ～15C
104	4	36	D3	1315	龍泉窯系 青磁	壺か瓶					灰色	青磁釉	外 :草花文 内 :回転ナデ	15C ？
104	7	36	G6	2120	土師器	高坏	大東 1 ～3 式				砂粒多く 含む	外 :橙色5YR7/6 内 :橙色7.5YR7/6	外 :ハケ後ナデ 内 :ナデ？	
104	8	36	H6	2124	弥生土器	甕	石見V -2 様式				砂粒多く 含む	外 :灰白色7.5YR8/2 内 :明褐灰色7.5YR7/2	外 :風化の為不明 内 :ケズリ	
104	9	36	E6	2133	土師質土器	皿	褐色系			(7.0)	砂粒少量 含む	外 :橙色7.5YR6/6 内 :橙色7.5YR7/6	外 :回転ナデ、回転糸切り 内 :回転ナデ	
104	11	36	D2	1328	土師質土器	坏	褐色系	(15.6)			砂粒少し 含む	外 :にぶい橙色7.5YR6/4 内 :にぶい橙色7.5YR6/4	外 :回転ナデ 内 :回転ナデ	
104	13	36	F2	1088	土師質土器	坏	褐色系			5.8	緻密	外 :にぶい黄橙色10YR7/3 内 :にぶい黄橙色10YR6/4	外 :回転ナデ、回転糸切り 内 :回転ナデ	15C ～16C ？
104	14	36	F2	1088	須恵器	坏	石見8 期 以降？	(16.4)			緻密	外 :灰白色N7/ 内 :灰白色N7/	外 :回転ナデ 内 :回転ナデ	8C ～9C ？
107	1	37	F1	1142	須恵器	鉢		(16.2)	7.7	8.5	砂粒多く 含む	外 :灰白色10YR8/2 内 :灰白色10YR8/2	外 :回転ナデ、回転ヘラケズリ？ 内 :回転ナデ、ナデ	9C ～10C
107	2	37	F1	1142	須恵器	高坏	石見4 ～6a 期？			8.2	砂粒少量 含む	外 :灰色N6/1 内 :黄灰色2.5Y5/1	外 :回転ナデ 内 :ナデ、回転ナデ	6C 末～7C 初
107	3	37	F1	1142	土師器	甕	大東 1 ～3 式	(15.8)			砂粒少し 含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/4 内 :橙色5YR7/6	外 :ヨコナデ、ハケ後ナデ、 竹管文 内 :ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
107	4	37	F1	1142	土師器	甕	小谷式？	(16.5)			砂粒少し 含む	外 :浅黄橙色7..5YR8/4 内 :浅黄橙色7.5YR8/4	外 :ヨコナデ、ハケ、線刻 内 :ヨコナデ、ケズリ、ナデ	
107	5	37	F1	1142	土師器	甕	大東4-5 式 ～古代	17.8			砂粒多く 含む	外 :橙色5YR7/8 内 :橙色5YR7/8	外 :ヨコナデ、ハケ 内 :ヨコナデ、ケズリ	
107	6	37	F1	1142	土師器	高坏	小谷3-4 式 ～大東 1 ～3 式	13.4			砂粒少し 含む	外 :橙色5YR6/6 内 :橙色5YR6/6	外 :ナデ、ハケ 内 :ナデ、ハケ、ミガキ	
107	7	37	F1	1142	土師器	低脚坏	小谷式？			8.2	砂粒少量 含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/4 内 :にぶい橙色10YR6/3	外 :指頭痕、回転ナデ 内 :ナデ	
107	8	37	F1	1142	土師器	甑	大東4 ・5 式～古代	(22.9)			砂粒少し 含む	外 :橙色7.5YR7/4 内 :橙色5YR7/6	外 :ナデ 内 :ナデ、ケズリ後ナデ	
110	1	38	F4	2044	土師器	壺	大東 1 ～3 式？				砂粒少し 含む	外 :にぶい褐色7.5YR6/3 内 :にぶい褐色7.5YR6/4	外 :ハケ 内 :ナデ、ケズリ	外面に煤付着
110	2	38	F4	2044	土師器	高坏	大東 1 ～3 式				砂粒多く 含む	外 :橙色7.5YR7/6 内 :橙色7.5YR7/6	外 :ナデ、ハケ 内 :ナデ	
110	3	38	F4	2185	土師器	高坏	大東 1 ～3 式	(15.8)			砂粒多く 含む	外 :浅黄橙色7.5YR8/3 内 :浅黄橙色7.5YR8/3	外 :坏部ナデ、ハケ 脚部ハケ後ナデ 内 :坏部ナデ 脚部ケズリ、指頭痕	
110	4	38	G6	2052	土師質土器	皿	褐色系			(7.6)	砂粒多く 含む	外 :橙色7.5YR7/6 内 :橙色7.5YR7/6	外 :回転ナデ、沈線文 回転糸切り 内 :回転ナデ	
113	1	39	F3	1347	須恵器	碗	石見10 期 以降	(13.3)	5.9		砂粒少し 含む	外 :灰白色5Y7/1 灰白色2.5Y8/2 内 :灰白色5Y7/1 灰白色2.5Y8/2	外 :回転ナデ、回転ケズリ 内 :回転ナデ	焼成不良、 9C ～10C ？
115	1	39	G7	2144	須恵器	蓋	石見7 期	14.0	3.1	つまみ 3.2	砂粒やや 多く含む	外 :灰色N6/1 内 :灰白色N7/	外 :回転ケズリ、回転ナデ 内 :回転ナデ、ナデ	内面に種子痕 7C 後半
115	2	39	G7	2144	須恵器	蓋	石見8 期	(17.2)	2.9	つまみ (2.8)	砂粒多く 含む	外 :灰色5Y6/1 内 :褐灰色10YR6/1	外 :回転ナデ、カキメ 内 :ナデ、回転ナデ	7C 末～8 初
115	3	39	G7	2144	須恵器	高坏？	石見7 期	(15.0)			砂粒多く 含む	外 :灰色N5/ 内 :灰色N5/	外 :回転ナデ 内 :回転ナデ	7C 後半
115	4	39	G7	2144	須恵器	壺	石見9 期？				砂粒多く 含む	外 :灰白色5Y7/1 内 :灰白色5Y7/1	外 :回転ナデ、「十」字線刻 沈線文2 条、刺突文 内 :回転ナデ	8C 中頃
115	5	39	G7	2144	土師器	甕	大東 1 ～3 式	(11.8)			砂粒多く 含む	外 :浅黄橙色7.5YR8/4 内 :黄橙色10YR8/6	外 :ハケ後ヨコナデ ハケ、列点文、ナデ 内 :ヨコナデ、指ナデ 又はハケナデ、ケズリ	
115	6	39	G7	2144	土師器	壺	小谷式？	(20.0)			砂粒僅か に含む	外 :にぶい黄橙色10YR7/3 内 :にぶい黄橙色10YR7/3	外 :ナデ 内 :ナデ	
115	7	39	G7	2144	土師器	壺	小谷式	(23.0)			砂粒多く 含む	外 :にぶい黄橙色10YR7/3 内 :にぶい黄橙色10YR7/3	外 :ナデ、ハケ後ナデ 内 :ナデ、指頭痕	外内面煤付着
115	8	40	G7	2144	土師器	高坏	小谷式 ～大東 1 ～3 式				砂粒少量 含む	外 :灰白色7.5YR8/2 内 :浅黄橙色10YR8/3	外 :ハケ後ナデ 内 :回転ナデ	円盤充填
115	9	40	G7	2144	土師器	小型鉢	大東1 ～3 式？	(9.6)			砂粒多く 含む	外 :にぶい橙色7.5YR7/3 内 :にぶい橙色7.5YR7/4	外 :ヨコナデ、ハケ後ナデ 内 :ヨコナデ、ケズリ	胴部以下煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量() 内復元(cm)			胎土	色調	文様· 調整その他	備考
								口径	器高	底径				
115	10	40	G7	2144	弥生土器	甕？	石見Ⅰ様式			(8.0)	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ミガキ、ナデ 内：ナデ	
115	11	40	G7	2144	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式			(11.0)	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/4 内：淡橙色5YR8/3	外：ケズリ後ミガキ· ナデ 内：ミガキ	
115	12	40	G7	2144	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(16.0)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、ハケ、 凹線文2 条、列点文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 櫛歯状工具
115	13	40	G7	2144	弥生土器	甕	石見Ⅴ-2様式	(16.6)			砂粒少し含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、擬凹線文後 一部ナデ消し 内：ヨコナデ、ケズリ	
115	14	40	G7	2144	弥生土器	甕	石見Ⅴ-2様式	(26.6)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、擬凹線文6 ～7 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
118	1	40	G7	2150	須恵器	蓋	石見7 期	15.8	3.0	つまみ2.8	砂粒少し含む	外：黄灰色2.5Y6/1 内：灰白色7.7Y7/1	外：ケズリ後回転ナデ 内：回転ナデ	7C 後半
118	2	40	G7	2150	須恵器	蓋	石見9A 期	17.6			砂粒やや多く含む	外：灰褐色10YR5/1 内：灰褐色10YR6/1	外：回転ナデ、黄緑色の自然釉 溶着痕あり 内：回転ナデ	8C 中頃
118	3	40	H7	2150	須恵器	坏	石見５期	10.2	3.7	3.2	黒色砂粒多く含む	外：灰色N6/ 内：灰色N6/	外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	
118	4	40	G7	2150 2154	須恵器	坏	石見５期	11.2	3.7		砂粒少し含む	外：灰白色5Y8/2 内：灰白色5Y8/2	外：ナデ、ケズリ 内：ナデ	
118	5	41	G7	2150	須恵器	長頸壺？	不明				砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色7.5YR7/3 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：回転ケズリ後回転ナデ 沈線、列点 内：ハケ· ナデ、絞り痕、回転ナデ	やや軟質 丸底
118	6	41	G7	2150	須恵器	壺	不明				砂粒多く含む	外：灰色N5/ 内：黄灰色2.5Y6/1	外：ナデ、平行タタキ、カキメ 内：ナデ、同心円状当具痕	高台剥離
118	7	41	G7	2150	土師器	高坏	大東１～3 式	(15.2)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ナデ、ヨコ方向ハケ	
118	8	42	G7	2150	土師器	小型壺	大東１～3 式	(7.0)	11.0	1.7	砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/1 内：灰白色10YR8/1	外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ナデ、ケズリ	
118	9	42	G7	2150	土師器	小型壺	大東１～3 式	7.1	9.1		砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、	
118	10	42	G7	2150	土師器	ミニチュア土器	大東１～3 式	5.1	4.2	2.4	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	底部中央 少し窪む
118	11	42	G7	2150	土師器	ミニチュア土器	大東１～3 式	5.2	5.1	3.0	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：ナデ、指頭痕 内：指頭痕、ナデ	
118	12	42	G7	2150	土師器	ミニチュア土器	大東１～3 式	(4.3)	3.0	1.0	砂粒少量含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：橙色5YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	
118	13	41	G7	2150	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式			(8.2)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：灰褐色7.5YR6/2	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	
118	14	41	G7	2150	弥生土器	壺				(8.9)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ミガキ 内：ミガキ	
118	15	41	G7	2150 2154	弥生土器	鉢？	石見Ⅰ-2様式	(17.8)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ	
118	16	41	G7	2150 2154	弥生土器	甕	塩町式 石見Ⅳ様式				砂粒微量含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：にぶい黄橙色2.5YR6/4	外：ナデ、重層刻目文6 条 内：ナデ	肩部施文： 半截竹管
118	17	41	G7	2150	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(19.6)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、凹線文5 条 凹線文3 条後刺突文 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ後ナデ、ケズリ	肩部施文： 二枚貝腹縁
118	18	41	G7	2150	弥生土器	甕	石見Ⅴ -3様式	(17.6)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、擬凹線文７条、 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： ヘラ状工具
118	19	41	G7	2150 2154	弥生土器	甕	石見Ⅴ -3様式	(24.4)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：灰白色 10YR8/1	外：ナデ、擬凹線文後 一部ナデ消し 内：ナデ、ミガキ、ケズリ	肩部施文： 二枚貝腹縁

遺構土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
37	1	29	C2	1003	土製品	管状土錘	E 類？	(3.4)	(2.9)	(1.1)	11.04	密	外：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ナデ
38	1	29	C3	1005	土製品	管状土錘	C 類	5.6	1.7	0.5	12.27	密	外：にぶい橙色7.5Y6/4	外：ナデ
40	2	29	C3	1036	土製品	管状土錘	B2 類	4.6	1.1	0.5	4.51	密	外：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ナデ
40	3	29	C3	1036	土製品	管状土錘	B1 類	3.6	1.5	0.6	5.66	密	外：橙色2.5YR6/6	外：ナデ
42	3	29	D3	1030	土製品	管状土錘	A 類	(3.1)	1.1	0.5	3.32	密	外：橙色7.5YR7/6	外：ナデ
85	1	32	D3	1044	土製品	管状土錘	B1 類	(3.6)	1.0	0.4	2.49	密	外：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ
86	2	33	D3	1136	土製品	管状土錘	不明	(2.0)	1.1	0.4	1.50	密	外：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ
102	6	35	D4	1166	土製品	管状土錘	B2 類	4.4	1.5	0.8	5.02	密	外：灰白色10YR7/1	外：ミガキ
102	10	35	C2	1167	土製品	羽口						砂粒多く含む	外：灰色5Y6/1 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：灰付着、 一部ガラス化
102	13	36	C2	1259	土製品	管状土錘	A 類	2.7	0.95	0.4	1.69	密	外：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ
104	5	36	D3	1315	土製品	管状土錘	C 類？		1.6	0.4	6.63	密	外：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ
107	9	37	F1	1142	土製品	土製支脚	岩橋Ⅰor Ⅱ類					砂粒少し含む	外：橙色5YR6/6	外：ナデ、指押し
115	15	40	G7	2144	土製品	勾玉		5.0	1.6 ～2.1	0.4	23.68	砂粒少し含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ、手捏ね

遺構石・ガラス製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	材質	備考
							長さ	幅	厚さ			
40	4	29	C3	1036	石製品	砥石	6.1	4.0	1.6	42.47	不明	使用痕、上下側面
40	5	30	C3	1036	石製品	石臼	径 26.3		9.0	9000.0	不明	九分割三溝
42	1	29	C2	1019	石製品	管玉	0.45	0.30	孔径 0.10	0.05	碧玉 未定C 群？	外：緑灰色10G5/1 両面穿孔
42	5	30	D2	1018	石製品	台石？	23.7	19.5	6.8	4200	花崗岩	ピットの根石or 礎石？
42	6	30	C3	1028	石製品	砥石	13.5	6.3	7.3	700.36	砂岩	使用痕3 面
46	11	30	I9	3001 3002	ガラス製品	小玉	径 0.45	厚 0.4	孔径 0.12	0.11	カリガラス	引き伸ばし法
53	1	31	E8	2054	石製品	石鉢	(32.6)	14.5	(22.0)	15.00	不明	外内面に鑿痕
83	1	31	D3	1015	石製品	砥石	7.1	9.7	6.2	428.04	砂岩？	被熱痕あり
83	2	31	D3	1015	石製品	台石or 石皿	18.9	12.0	6.3	1321.66	不明	被熱痕あり
88	9	33	D2	1250	石製品	台石？	24.1	12.7	9.8	3500	不明	研磨痕、被熱痕あり
93	5	34	D2	1256	石製品	台石	25.6	24.3	5.2	5200	流紋岩	研磨痕、被熱痕あり

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	材質	備考
							長さ	幅	厚さ			
93	6	34	E3	1235	石製品	楔形石器	4.2	2.1	1.3	14.02	安山岩	
97	2	34	E4	1345	石製品	打製石斧	13.6	4.7	1.1	109.17	塩基性片岩	
100	8	35	D2	1388	石製品	磨石	11.2	10.0	5.2	906.3	不明	
102	1	35	D2	1297	石製品	スクレイパ	2.4	3.9	0.8	7.21	安山岩	
105	1	36	F3	1141	石製品	石鉢	(35.4)			1174.95	不明	口縁端部上面平坦 使用痕、被熱痕あり
105	2	36	F3	1141	石製品	石臼 (挽臼)	(14.7)	(16.0)	7.1	2060.82	不明	側面斜めに鑿痕あり
105	3	36	F3	1141	石製品	石臼 (挽臼)	(24.3)	(13.9)	7.2	2900	不明	上面と側面被熱痕あり 側面に斜位の鑿痕あり
108	1	38	F1	1142	石製品	石錐	1.8	(1.4)	0.3	0.56	安山岩	未成品？
108	2	38	F1	1142	石製品	楔形石器	3.3	1.2	0.8	3.19	黒曜石	
108	3	38	F1	1142	石製品	砥石	4.9	4.2	1.9	43.24	砂岩	全面使用
108	4	38	F1	1142	石製品	磨石	(12.0)	7.2	4.9	603.44	不明	研磨、擦痕あり
108	5	38	F1	1142	石製品	磨石	10.0	8.0	6.9	807.35	不明	
108	6	38	F1	1142	石製品	磨石	13.9	7.4	8.8	1043.69	不明	被熱による剥離痕あり
110	6	39	E6	2113	石製品	砥石	12.8	11.6	6.1	1000	砂岩	全面使用
110	7	39	E6	2113	石製品	石斧	18.0	7.7	4.2	845	塩基性片岩	未成品、敲打段階
115	16	40	G7	2144	石製品	小玉	直径 0.6	孔径 0.2	0.45	0.24	滑石？	未成品？
119	1	41	G7	2150 2154	石製品	多頭石斧	(9.8)	(8.7)	(2.85)	190	不明	

遺構鉄製品・青銅製品・鍛冶関連遺物

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量() 内遺存値/ 復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
37	2	29	C2	1003	鉄製器	不明		2.8	2.3	0.3	10.67	
37	4	29	C2	1004	鍛冶関連遺物	椀形鍛冶滓		4.5	4.1	3.0	46.11	外：にぶい黄橙色 内：暗赤褐色 分析資料MRH-2
40	6	29	C3	1036	鉄製品	革紐			0.2	0.1	2.46	
40	7	29	C3	1036	鉄製品	板状		(2.5)	2.4		3.78	穿孔2 ヵ所
40	8	29	C3	1036	鉄製品	釘	折釘	5.0	0.6	0.4	14.14	
40	9	29	C3	1036	鉄製品	釘	方頭釘	5.0	頭部 1.1	0.4	6.7	
40	10	29	C3	1036	鉄製品	釘	折釘	(2.6)	0.9	0.4	3.54	
40	11	29	C3	1036	鉄製品	釘	方頭釘	(2.9)	1.0	0.4	6.53	
40	12	29	C3	1036	鉄製品	釘	不明	(2.5)	0.6	0.4	13.16	
42	2	29	C2	1022	鉄製品	火打金		3.1	径 8.0	孔径 (0.4)	56.81	
42	4	29	D3	1032	鉄製品	板状		5.3	2.8	0.6	35.95	
45	1	29	E6	2063	鉄製品	棒状		7.8	0.5		20.54	
45	2	29	E6	2063	鉄製品	棒状		4.5	0.3		3.54	
52	5	32	C3	1014	鉄製品	鉄鏃		(5.1)	1.9	(0.5)	17.43	
52	6	32	C3	1014	鉄製品	刀子		(18.9)	1.6	0.6	73.16	
52	7	32	C3	1014	鉄製品	板状		(10.7)	1.4	0.5	35.77	
52	8	32	C4	1014	鉄製品	環状					10.2	
54	4	32	H11	3037	鉄製品	刀子		13.6	1.2	0.5	15.34	
54	5	32	H10	3037	鉄製品	板状		(10.4)	1.7	0.6	31.78	
54	6	32	H10	3037	鉄製品	板状		(3.8)	3.5	0.3	8.13	
54	7	32	H10	3037	鉄製品	火箸		(19.5)	0.6	0.6	43.49	
83	3	32	D4	1064	鉄製品	ヤスor モリ		(15.75)	0.8		49.86	
83	4	32	D4	1064	銭貨	不明		2.5	2.5	0.15	2.51	
85	2	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	A 類	7.1	2.7	0.2 ～0.3	25.12	炭、革紐付着
85	3	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	A 類	7.1	2.7	0.2	20.06	
85	4	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	A 類	(7.2)	2.5	0.2	28.75	革紐付着
85	5	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	A 類	(3.9)	2.7	0.2	9.89	革紐付着
85	6	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	(7.1)	2.6	0.3	22.93	革紐付着
85	7	32	D3	1044	鉄製品	伊予札 板状	a:B 類 b:B 類 c ： d ：	a:6.9 b:6.7 c:3.5 d:4.3	a:2.7 b:2.5 c:0.4 d:1.3	a:0.3 b:0.2 c:0.2 d:	総量 45.23	伊予札2 点、不明 鉄製品2 点固着
85	8	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	a:6.9 b:6.8	a:2.5 b:2.6	a:0.2 b:0.3	総量 52.15	
85	9	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	2.4	0.6	0.1	18.70	鉄板と帯状の部材 は直接小札には付かない
85	10	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	6.7	2.4	0.2	15.70	
85	11	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	(6.2)	2.2	0.3	18.60	
85	12	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	6.5	2.3	0.2	18.49	炭付着
85	13	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	B 類	6.9	2.3	0.3	22.49	革紐付着
85	14	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	C 類	6.4	2.5	0.2	17.03	
85	15	32	D3	1044	鉄製品	伊予札	不明	(2.7)	(1.4)	0.5	2.43	
85	16	32	D3	1044	鉄製品	釘隠し	四葉	2.6	2.5	0.85	4.8	
85	17	33	D3	1044	鉄製品	板状		6.0	2.8	0.3	22.62	革紐付着
85	18	33	D3	1044	鉄製品	板状		6.2	4.1	0.3	32.27	
85	19	33	D3	1044	鉄製品	板状		4.8	1.2	0.3	4.71	
85	20	33	D3	1044	鉄製品	板状		3.2	0.9	0.2	1.25	
85	21	33	D3	1044	鉄製品	釘	折釘	6.7	0.4		15.97	
86	3	33	D3	1136	鉄製品	釘	方頭釘	(5.2)	頭部 1.0	(0.4)	14.96	
86	4	33	D3	1136	鉄製品	釘	不明	3.9	0.4	0.4	5.20	
88	5	33	D2	1197	鉄製品	釘隠し	円形	4.6	4.7	0.6	29.84	木質付着
88	6	33	D2	1196	鉄製品	釘	巻頭釘	(4.0)	1.5	0.5	9.72	
88	7	33	D2	1197	鉄製品	ヤスor モリ		12.7	0.8		46.47	
88	10	33	D2	1250	鉄製品	棒状		(9.2)	0.6	(0.4)	23.30	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	遺構	種別	器種	分類	法量() 内遺存値/ 復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
90	1	33	D3	1153	鉄製品	伊予札	A 類	7.0	2.7	0.3	18.04	
90	2	33	D3	1153	鉄製品	革紐			0.6	0.2	4.63	
90	3	33	D3	1103	鉄製品	釘隠し	六葉				総量 21.99	不明鉄片付着
90	4	33	D3	1153	鉄製品	釘	折釘	7.7		0.4	22.26	
90	5	33	D3	1081	鉄製品	釘	不明	(4.0)	0.4	(0.4)	3.56	
90	6	33	D3	1103	鉄製品	棒状		(2.2)	0.9	0.3	1.45	
93	7	34	E2	1074	鉄製品	釘	叩折釘	(2.9)	0.9		8.77	
93	14	34	E3	1165	鉄製品	鉄片		2.7	2.6		12.91	
95	4	34	E4	1128	鉄製品	板状		2.7	1.1	0.25	2.37	
97	1	34	D4	1072	鍛冶関連遺物	椀形鍛冶滓		10.0	10.8	3.3	402.0	炉床粘土付着 分析資料MRH- 7
97	3	34	E4	1345	鍛冶関連遺物	椀形鍛冶滓		9.2	8.2	2.7	166.0	分析資料MRH-5
97	4	34	E4	1137	鍛冶関連遺物	鉄塊系遺物		2.7	3.6	1.5	24.90	分析資料MRH-4
97	5	34	E4	1345	鍛冶関連遺物	鉄塊系遺物		2.4	3.7	1.8	19.54	分析資料MRH-6
97	6	34	E4	1051	鍛冶関連遺物	鉄塊系遺物		2.1	2.3	1.8	8.88	分析資料MRH-3
97	7	34	D4、E4	1130	鉄製品	釘？	不明	1.9	0.6	(0.6)	4.04	
97	8	34	C2	1135	鍛冶関連遺物	鉄塊系遺物		3.2	5.3	2.8	61.84	分析資料MRH-8
100	3	35	D2	1325	鉄製品	釘？	不明	(5.6)	(1.0)	0.6	9.51	
100	4	35	D2	1325	鉄製品	釘	折釘	(4.7)	1.0	0.3	15.17	
100	5	35	D2	1325	銭貨	皇宋通寶？		2.5	2.5	0.1	3.50	宋銭、1039 年～
100	14	35	F6	2162	鉄製品	鏃	柳葉 II 式or 方頭斧箭 I 式	(6.5)	1.7	(0.4)	21.51	
100	15	35	F6	2162	鉄製品	鏃	柳葉子規or 雁又式	(4.6)	(2.4)	0.4	8.31	
100	16	35	F6	2162	鉄製品	不明		6.1	2.9	0.4 ～0.8	32.66	
100	17	35	F6	2162	鉄製品	刃物？		(3.0)	(7.0)	(0.4)	41.93	
100	18	35	F6	2162	鉄製品	鉄塊状		7.0	3.3	1.3	88.20	
100	19	35	F6	2162	鉄製品	棒状		(3.8)	(0.7)	(0.4)	2.30	
102	2	35	D2	1297	鉄製品	釘	不明	5.3	0.9	0.6	10.45	
102	3	35	D2	1297	銭貨	大観通寶		2.5	2.5	0.15	2.61	北宋銭、1107 年～
102	5	35	D4	1111	鉄製品	棒状		7.3	0.4	0.4	10.76	
102	7	35	D4	1166	鉄製品	ヤスor モリ		9.65	0.6		20.25	
102	11	35	C3、D3	1254	鉄製品	釣針		2.3	1.1	0.2	0.55	
102	12	35	C3、D3	1254	鉄製品	不明		(2.1)	(1.0)	(0.7)	0.99	
102	14	36	C3	1260	鉄製品	釘	折釘	(6.4)	0.9	(0.5)	12.15	
102	15	36	C3	1260	鉄製品	釘	不明	(2.3)	0.5	0.4	0.95	
104	1	36	D2	1295	鉄製品	板状		3.7	2.2.	0.3	8.48	
104	2	36	D2	1295	鉄製品	不明		(2.1)	(0.5)	(0.2)	0.79	
104	3	36	C2	1314	鉄製品	釘	折釘	(4.1)	(0.8)	0.6	3.23	
104	6	36	D3	1315	鉄製品	釘	折釘？	(4.2)	1.1	(0.5)	13.26	
104	10	36	F6	2190	鉄製品	鉄片		(2.2)	(1.3)	0.3	2.13	
104	12	36	D2	1328	鉄製品	革紐		2.5	0.8	0.4	8.69	
108	7	38	F1	1142	鉄製品	曲刃鎌		22.9	2.7	0.4	175.6	
110	5	38	E6	2052	銭貨	永楽通寶		2.5	2.5	0.1	2.21	1411 年～
115	17	40	G7	2144	鉄製品	鏃	五角形式or 柳葉 II 式	(3.9)	(1.9)	0.6	12.28	8C ～11C 前半
119	2	42	G7	2154	鉄製品	鏃	長三角形 I 式	(4.2)	(1.2)	0.4	7.05	8C ～11C 前半
119	3	42	G7	2150	鉄製品	鏃	長三角形 II 式	(12.6)	(4.6)	0.5	75.90	8C ～11C 前半
119	4	42	G7	2154	鉄製品	鏃	長三角形 II 式	(7.0)	3.1	0.6	28.92	8C ～11C 前半
119	5	42	G7	2154	鉄製品	鏃	長三角形 II 式	(10.2)	3.5	0.5	97.50	8C ～11C 前半
119	6	42	G7	2150	鉄製品	鏃	五角形式	(9.5)	2.4	0.5	34.29	8C ～11C 前半
119	7	42	G7	2153	鉄製品	鏃	鑿根 I 式	16.3	1.1	0.6	50.66	11C 後半～16C
119	8	42	G7	2150	鉄製品	鏃	柳葉 I 式	(11.8)	1.8	0.6	26.27	14C ～16C
119	9	42	G7	2154	鉄製品	鏃	無茎三角形式	(3.3)	3.2		12.77	径0.3㎝の孔 1 ヵ所あり
119	10	42	G7	2153	鉄製品	刀子		14.5	0.4、0.9	0.3	41.58	
119	11	42	G7	2154	鉄製品	石突or 鉄鐔		(5.1)	(2.9)	(3.2)	44.32	
119	12	42	G7	2150· 2154	鉄製品	板状		3.4 ～3.6	2.5	0.35	24.72	刃部あり 折り返しあり

第11表　2層出土遺物観察表

2層陶磁器・須恵器・土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整その他	備考
								口径	器高	底径				
28	1	43	D3	2層	景徳鎮窯系青花	皿	小野E 群			(6.6)	明青灰色	透明釉、青料	圏線、草花文	16C 後半～17C 初
28	2	43	D6-D7	2-2 層	肥前系磁器	天目形碗	JB-1 b	(11.6)			灰白色	透明釉・鉄釉	掛け分け	1630 ～1650 年代
28	3	43	C3	2層	肥前系陶器	溝縁皿	TB-2-b	(12.6)	3.1	3.8	薄褐色	灰釉	目跡	1610 ～1650 年代
28	4	43	C3	2層	肥前系陶器	溝縁皿	TB-2-b	(11.9)	2.4	4.4	薄灰褐色	灰釉	目跡3 点	1610 ～1650 年代
28	5	43	C3	2層	肥前系磁器	端反形皿	JB-2-a	(9.2)	2.7	(3.2)	白色	透明釉・呉須	寿字文、染付	1610 ～1650 年代
28	6	43	E7	2-2 層	肥前系磁器	皿	JB-2-a			(4.9)	白色	透明釉・呉須	圏線、山水文、染付	1630 ～1650 年代
28	7	43	E6	2-2 層	肥前系磁器	皿	JB-2-a			3.3	白色	透明釉・呉須	圏線、柳文、染付	1630 ～1650 年代
28	8	43	B3	2層	肥前系磁器	丸形皿	JB-2-h	(9.6)	2.2	(4.6)	白色	透明釉・呉須	草花文？、圏線、染付	1630 ～1650 年代前半
28	9	43	C3	2層	肥前系陶器	皿	JB-2-b			(4.6)	薄灰色	透明釉	目跡2 点	1670 ～1680 年代 内野山北窯指標
28	10	43	C4	2層	肥前系磁器	(竦韮型)瓶	JB-10-(e)			2.6	灰白色	透明釉		1630 ～1650 年代 お歯黒壺に転用？
28	11	43	D4	2層	肥前系陶器	瓶	TB-10			(6.2)	灰色	鉄釉		17C 第3四半期の初
28	12	43	B3	2層	肥前系陶器	甕	TB-15、口縁B	(30.8)			褐色	鉄釉	目跡2 点	17C 前半代
28	13	43	B3	2層	肥前系陶器	甕	TB-15				灰色	土灰釉	縄状突帯	17C 前半代
28	14	43	C4	2層	肥前系陶器	(片口)鉢	TB-23	(22.8)			灰色	灰釉		1650 ～1690 年代
28	15	43	D4	2層	肥前系陶器	鉢	TB-5-a				褐色	白化粧土・透明釉・緑釉	刷毛目、 緑釉柄杓掛け	17C 後葉～18C 前半 古武雄系
28	16	43	C3	2層	備前焼	擂鉢	IVA-B 類				砂粒多く含む	外：赤灰色2.5YR4/2 内：赤褐色10R4/4		14C 後半～15C
28	17	43	E6	2-2 層	備前焼	擂鉢	IVB 類	(27.8)			砂粒多く含む	外：暗褐灰色7.5R3/1 内：にぶい赤色7.5R4/3		15C
28	18	43	D2	2層	瓦質土器	火鉢		(10.6)			砂粒多く含む	外：灰色N4/ 内：灰色N4/	外：花形スタンプ文2 列、沈線文4 条 内：ナデ	16C
29	1	43	C4	2-2 層	土師質土器	皿	白色系	(10.2)	2.1	(5.2)	砂粒少量含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	
29	2	43	E1	2層	須恵器	高台付坏	石見7-8 期			(9.4)	砂粒多く含む	外：灰色10Y5/1 内：灰色10Y5/1	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ、指頭痕 内：回転ナデ	7C 後半～8C 初
29	3	43	E1	2層	須恵器	高坏	石見7 期？				砂粒多く含む	外：青灰色10BG5/1 内：灰色N5/	外：回転ナデ 内：ナデ、刺突痕？	7C 後半？
29	4	43	F3	2層	土師器	甕	草田６期	(14.8)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：にぶい橙色7.5YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ、波状文、 内：ヨコナデ、ケズリ	
29	5	43	F1	2層	土師器	甕	大東4-5 式	(20.2)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ・ハケ後ナデ・ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
29	6	43	F1	2層	土師器	甕	大東4-5 式～古代	(20.8)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
29	7	44	F1	2層	土師器	甕	大東4-5 式～古代	(16.8)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：黒色5Y2/1	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	
29	8	44	E1	2層	土師器	甕	古代	(27.6)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
29	9	44	F1	2層	土師器	製塩土器	古代以降	10.4			砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：灰褐色5YR6/2	外：手づくね、指頭痕 内：布目、型押し	

2層土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
29	10	44	C2	2層	土製品	管状土錘	A 類	3.1	1.1	0.4	2.5	密	外：にぶい黄色10YR5/3	外：ナデ
29	11	44	C4	2-2 層	土製品	管状土錘	C 類	5.5	1.3	0.5	7.63	密	外：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ
29	12	44	C4	2層	土製品	管状土錘	C 類	6.3	1.65	0.55	12.69	密	外：明赤褐色2.5YR5/6	外：ナデ
29	13	44	C2	2-2 層	土製品	管状土錘	E 類	6.8	4.0	1.4	77.23	密	外：橙色7.5YR7/6	外：ナデ

2層石製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	材質	備考
							長さ	幅	厚さ			
30	1	44	C5	2-2 層	石製品	スクレイパー	6.6	5.4	0.9	41.05	安山岩	
30	2	44	E2	2層	石製品	板状砥石？	6.4	5.3	1.3	44.08	安山岩	弧状の抉り
30	3	44	E2	2層	石製品	砥石	18.9	8.1	3.7	459.49	砂岩	

2層鉄製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
31	1	45	D3	2層	鉄製品	小札	C 類？	2.3	1.2	0.3	3.48	
31	2	45	C2	2層	鉄製品	釘隠し		4.3	4.4	0.2	21.43	
31	3	45	C3	2層？	鉄製品	釘隠し		4.0	4.0	(0.3)	17.75	
31	4	45	B4	2-2 層	鉄製品	釘隠し？		5.4	4.9	0.3	29.59	
31	5	45	C4	2層	鉄製品	鍵状		7.9	0.6	0.5	21.97	
31	6	45	C2	2層	鉄製品	環状		3.2	2.5	0.9	10.98	
31	7	45	D2	2層	鉄製品	鎌？		3.4	6.3	0.2	24.82	
31	8	45	B3	2層	鉄製品	J 字状		2.0	1.0	2.0	6.64	
31	9	45	D2	2層	鉄製品	釘	不明	5.4	0.8	0.4	4.70	
31	10	45	B3	2層	鉄製品	釘	折釘	2.9	0.45	0.4	4.50	
31	11	45	C4	2層	鉄製品	釘	折釘	4.6	0.3	0.3	8.59	
31	12	45	D6-D7	2-2 層	鉄製品	棒状		7.0	0.5	0.4	4.87	
31	13	45	B3	2層	鉄製品	棒状		5.0	0.4	0.35	4.54	
31	14	45	D4	2層	鉄製品	棒状		3.7	0.4	0.3	3.80	
31	15	45	D3	2層	鉄製品	棒状		4.7	0.4	0.4	5.11	
31	16	45	B4	2-2 層	鉄製品	板状		9.1	1.6	0.3	25.32	
31	17	45	D5	2-2 層	鍛冶関連遺物	椀形鍛冶滓		6.1	5.8	3.2	182.0	分析資料MRH- 1
31	18	45	B4	2層	青銅製品	煙管	雁首	5.8	1.5	2.1	6.36	
31	19	45	C3	2層	青銅製品	煙管	吸い口	3.9	1.0	1.0	3.20	
31	20	45	B4	2層	銭貨	寛永通寶		2.5	2.5	0.1	3.33	文銭、1668 ～1683 年

第12表　3-1 ～ 3-4層（西側）出土遺物観察表

3-1 ～ 3-4 層（西側）陶磁器・須恵器・土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様· 調整その他	備考
								口径	器高	底径				
55	1	45	D3	3-4 層（西）	中国白磁	皿	森田D 群	(10.6)	2.4	(4.4)	浅黄橙色	透明釉	目跡4 点	15C
55	2	45	D3·D4 E3	3-2 層·2 層	中国白磁	皿	森田D 群	9.0	2.1	4.0	灰白色	透明釉		15C
55	3	45	E5	3-2 層	龍泉窯系青磁	碗	上田B Ⅳ類				灰白色	青磁釉	細描連弁文	15C 後半～16C 前半
55	4	45	C4	3-4 層（西）	龍泉窯系青磁	碗	上田C Ⅱ類	(13.2)			灰白色	青磁釉	外：雷文 内：不明文様	15C
55	5	45	D4	3-4 層（西）	龍泉窯系青磁	碗	上田D 類	(13.8)			灰白色	青磁釉	無文	15C
55	6	45	F6	3-2 層	龍泉窯系青磁	端反碗	上田D Ⅱ類	(11.8)			にぶい褐色	青磁釉	無文	15C 貫入あり
55	7	45	C3	3-4 層（西）	景徳鎮系青花	皿	小野E 群			(7.0)	灰色	透明釉· 青料	外：二重圏線、青花 内：圏線、砂	16 ～17C 初
55	8	45	D5·D4	3-2 層	漳州窯系青花	皿	粗製	(12.8)	3.0		淡黄色	透明釉· 青料	外：圏線、青花 内：圏線、墨書？	16C 後半～17C 初
55	9	45	E8	3-4 層（西）	漳州窯系青花	皿	粗製	5.7			淡黄色	透明釉· 青料	外：圏線、青花 内：圏線、「正」の字	16C 後半～17C 初
55	10	45	D4	3-2 層	灰青沙器	皿		(9.8)	3.2	(4.6)	灰色	灰青釉	外：目跡2 点 内：目跡2 点	全釉
55	11	45	F5	3-2 層	灰青沙器	碗				4.6	灰白色	灰青釉	外：目跡3 点	側面砥石に転用？
56	1	46	D3	3 層	肥前系陶器	落し蓋	TB-00			3.8	褐色	緑釉	外：回転糸切り	1630 ～1640 年代？
56	2	46	D2	3 層	須佐焼	擂鉢	須佐-29	(33.2)			淡黄褐色	鉄釉	内：擦り目（11 条単位）	17C 後葉～18C 前半
56	3	46	D4	3-4 層（西）	備前焼	擂鉢	Ⅳ類？				砂粒多く含む	外：橙色7.5YR5/1 内：橙色5YR6/6	内：擦り目（6 条以上）	14C 後半～15C
56	4	46	D2·C3	3-4 層（西）	備前焼	甕	Ⅲ～Ⅳ類？				砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 5YR4/3	外：ナデ、自然釉 内：ナデ、ケズリ、自然釉	14C 後半～15C
56	5	46	D2	3-4 層（西）	常滑焼	甕		(31.6)			砂粒多く含む	外：褐色7.5YR4/4 内：褐色7.5YR4/4	外：ナデ、自然釉 内：ナデ、指頭痕、自然釉	
56	6	46	D3	3-2 層	瓦質土器	火鉢		(25.8)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ナデ 内：ナデ	
57	1	46	F1	3-2 層	土師質土器	坏	褐色系			(5.4)	砂粒少量含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：にぶい黄橙色 10YR6/3	外：回転ナデ、ナデ、ヘラ切り 内：回転ナデ、ナデ	底部墨書「笠」？
57	2	46	D7	3-2 層	土師質土器	坏	褐色系	(19.6)	2.8	(6.0)	砂粒僅かに含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：回転ナデ 内：回転ナデ	13C 後半～14C 前半？
57	3	47	D3	3-2 層	土師質土器	坏	褐色系	12.7	5.3	3.5	砂粒極僅かに含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	煤付着 14C 後半～15C 初？
57	4	47	D3	3-2 層	土師質土器	坏	褐色系	12.0	5.3	3.3	砂粒極僅かに含む	外：明赤褐色 2.5YR5/8 内：明赤褐色 2.5YR5/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	煤付着 14C 後半～15C 初？
57	5	46	D4	3-4 層（西）	土師質土器	坏	大内式				砂粒極少量含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	16C
57	6	46	C4	3-4 層（西）	土師質土器	皿	褐色系	(8.2)	2.1	(3.8)	砂粒少量含む	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	16C 初？
57	7	46	C2	3-2 層	土師質土器	皿	褐色系	(8.8)	1.55	4.5	砂粒少量含む	外：橙5YR6/6 内：橙5YR6/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	16C ？
57	8	46	F5	3-2 層	土師器	甕	大東 1 ～3 式	(19.0)			砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/3 内：浅黄橙色 7.5YR8/3	外：ナデ 内：風化の為不明	
57	9	46	F7	3-4 層（西）	土師器	高坏	大東 1 ～3 式？	(15.0)			砂粒少し含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：風化の為不明 内：ナデ、ハケ、ミガキ	円盤充填
57	10	46	G7	3-4 層（西）	土師器	坏	大東 1 ～3 式？	(14.0)		(3.9)	砂粒少し含む	外：浅黄橙色 7.5YR8/4 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	
57	11	46	F6	3-4 層（西）	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1 ～2 様式	(26.0)			砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ナデ、ハケ、刻目 内：ナデ	
57	12	46	D7	3-2 層	弥生土器	甕	石見Ⅳ-2 ～Ⅴ-1 様式	(12.0)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ナデ、凹線文3 条 内：ナデ	
57	13	46	F7	3-4 層（西）	弥生土器	広口壺	石見Ⅳ様式	(26.0)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ナデ、凹線文4 条 内：ナデ、羽状文、円形浮文	
57	14	46	D1	3 層	縄文土器	深鉢	布勢式 併行				砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：橙色7.5YR7/6	外：貝殻条痕、有軸羽状文 内：ナデ	
57	15	46	D2	3-4 層（西）	縄文土器	深鉢	布勢式 併行？				砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色 10YR5/3 内：灰黄褐色 10YR6/2	外：ミガキ 内：ミガキ	内外面煤付着

3-1 ～ 3-4 層（西側）土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
58	1	47	D2	3 層	土製品	管状土錘	A 類	3.15	1.2	0.5	3.59	密	外：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ナデ
58	2	47	D3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	A 類	2.7	0.9	0.4	1.46	密	外：橙色7.5YR6/6	外：ナデ
58	3	47	C4·C5	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	A 類	3.05	1.1	0.4	2.62	密	外：橙色7.5YR6/6	外：ナデ
58	4	47	D3	3-2 層	土製品	管状土錘	A 類	3	1.15	0.4	2.7	砂粒極少量含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ
58	5	47	D3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	A 類	3.1	1.15	0.5	2.77	密	外：にぶい橙色5YR6/4	外：ナデ
58	6	47	D3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	B1 類	3.65	1.2	0.4	3.88	密	外：橙色5YR6/6	外：ナデ
58	7	47	C2	3 層	土製品	管状土錘	B1 類	3.6	1.6	0.5	7.75	密	外：明赤褐色5YR5/6	外：ナデ
58	8	47	C2	3-2 層	土製品	管状土錘	B1 類	3.65	1.3	0.4	5.67	砂粒少量含む	外：にぶい褐色7.5YR5/3	外：ナデ
58	9	47	D4	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	B2 類	4.2	1.4	0.6	5.81	密	外：にぶい褐色7.5YR6/4	外：ナデ
58	10	47	C3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	B2 類	4.35	1	0.25	3.86	密	外：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
58	11	47	D3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	B2 類	4.4	1.25	0.5	4.58	密	外：にぶい橙色7.5YR7/3	外：ナデ
58	12	47	D2	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	B2 類	4.6	1.4	0.45	7.8	密	外：灰黄褐色10YR2/1	外：ナデ
58	13	47	D3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	C 類	5.3	1.1	0.4	5.62	密	外：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ
58	14	47	C3	3-2 層	土製品	管状土錘	C 類	5.3	1.4	0.4	9.18	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6	外：ナデ
58	15	47	C3	3-2 層	土製品	管状土錘	C 類	5.45	1.3	0.45	7.64	密	外：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ
58	16	47	C3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	C 類	5.3	1.5	0.5	9.0	密	外：灰黄褐色10YR6/2	外：ナデ
58	17	47	D3	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	C 類	6.2	1.2	0.5	7.8	密	外：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ
58	18	47	D2	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	C 類	6.1	1.5	0.5	10.84	密	外：灰黄褐色10YR6/2	外：ナデ
58	19	47	C2	3-2 層	土製品	管状土錘	D1 類	5.6	3.1	1.4	39.43	密	外：灰黄褐色10YR6/2	外：ナデ
58	20	47	C3-D3	3 層？	土製品	管状土錘	D2 類	4.2	3.7	1.5	49.56	密	外：橙色5YR7/6	外：ナデ
58	21	47	C2	3-4 層（西）	土製品	管状土錘	E 類	7.6	3.75	1.35	85.82	密	外：橙色7.5YR7/6	外：ナデ
58	22	47	E5	3-2 層	土製品	管状土錘	E 類	9.6	3.8	1.8	75.45	密	外：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ナデ
58	23	47	E4	3-2 層	土製品	管状土錘	E 類	6.7	3.8	1.45	57.89	密	外：黒褐色10YR3/1	外：ナデ
58	24	47	D4	3-2 層	鍛冶関連遺物	羽口		7.2	6.8	5	156.0		外縁部：灰白色10YR7/1	
58	25	47	E5	3-4 層（西）	土製品	焼土塊		8.9	6.5	（厚さ）3.8	224.0	精緻	外：橙色5YR6/6 内：黄橙色10YR7/3	土器焼成関連？

3-1 ～3-4 層（西側）石製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	石材	備考
							長さ	幅	厚さ			
58	26	47	D2	3 層	石製品	スクレイパー	4.4	2.9	0.6	5.78	安山岩	
58	27	47	D3	3-4 層（西）	石製品	砥石	6.5	3.4	1.6	57.58	凝灰岩	
58	28	47	D3	3 層	石製品	砥石	4.3	2.4	1.6	21.37	砂岩	

3-1 ～3-4 層（西側）鉄製品・青銅製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
59	1	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	A 類	7	2.6	1.75	39.73	革紐付着
59	2	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	A 類	7.2	2.7	0.3	23.6	
59	3	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	B 類	6.5	2.1	0.2	22.75	
59	4	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	B 類	(5.0)	2.5	0.3	16.15	
59	5	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	B 類	(4.5)	2.6	0.2	9.66	
59	6	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	C 類	6.5	2.1	0.3	29.68	
59	7	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	D 類	5.7	2.2	0.3	18.57	
59	8	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	伊予札	その他	6.1	2.7	0.3	16.33	3 列穴、径均等
59	9	48	D4	3-2 層	鉄製品	伊予札	不明	(1.4)	1.9	0.2	2.82	両端欠損
59	10	48	E6	3-4 層（西）	鉄製品	鏃	丸根Ⅱ式	9.0	1.2		26.38	
59	11	48	D3	3-2 層	鉄製品	鏃	堅根Ⅰ式	(9.0)	0.35	0.5	26.02	
59	12	48	E6	3-4 層（西）	鉄製品	鏃	不明	(7.8)	(0.6)	0.5	8.5	
59	13	48	D3	3-2 層	鉄製品	鏃	丸根Ⅱ式	4.1	0.9		6.27	
59	14	48	D2	3-2 層	鉄製品	鏃	丸根Ⅱ式	(6.3)	(1.1)	(0.3)	23.61	
59	15	48	C3	3-2 層	鉄製品	釘隠し	円形	3.9	3.9	(0.2)	10.50	孔なし
59	16	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	釘隠し	四葉	2.0	2.2	0.2	5.19	
59	17	48	C4	3-4 層（西）	鉄製品	小刀		(16.3)	1.4 ～2.1	0.6 ～0.7	107.47	同一個体2 片
59	18	48	C4	3-4 層（西）	鉄製品	小刀		(15.5)	1.5 ～2.1	0.7	67.56	同一個体2 片
59	19	48	D3	3-2 層	鉄製品	鉄刀？		6.4	4.1		49.23	
59	20	48	E6	3-2 層	鉄製品	鉄刀？		(13.1)	(3.1)	0.5	56.19	
59	21	48	C4	3-4 層（西）	鉄製品	刀子？		9.9	1.2	0.3	12.59	
59	22	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	鋸		8.2	2.1	0.2	23.32	
60	1	48	C3	3-4 層（西）	鉄製品	釣り針		3.8	0.5	0.4	13.69	
60	2	48	C3	3-4 層（西）	鉄製品	釣り針？		3.8	2.4		8.86	
60	3	48	D5	3-2 層	鉄製品	釣り針		7.2	0.5	0.4	14.68	
60	4	48	D3	3-2 層	鉄製品	釣り針		2.0	1.6	(0.2)	2.23	
60	5	48	D4	3-4 層（西）	鉄製品	釣り針？		(1.6)	(2.0)	(0.5)	4.79	
60	6	48	C4	3-4 層（西）	鉄製品	ヤリガンナ		3.5	1.3	0.3	3.75	
60	7	48	F7	3-4 層（西）	鉄製品	石突？		4.2	1.0		12.60	中空、ソケット状
60	8	48	F7	3-4 層（西）	鉄製品	火箸		26.4	1.4	0.5	57.43	
60	9	48	D4	3-2 層	鉄製品	三角形板状		3.9	1.7		7.76	孔 1 ヵ所
60	10	48	D3	3-4 層（西）	鉄製品	舌状		4.3	3.0	1.3	19.68	孔 3 ヵ所
60	11	48	D4	3-2 層	鉄製品	フック？		4.7	1.8	1.2	27.94	
60	12	48	E4	3-1 層	鉄製品	板状		6.8	5.8	1.7	45.33	折り返し
60	13	48	C3	3-4 層（西）	鉄製品	板状		6.4	1.5	0.4	18.10	孔 1 ヵ所
60	14	48	C3	3-4 層（西）	鉄製品	板状		6.5	2.8	0.7	43.88	
60	15	48	D2	3-4 層（西）	鉄製品	板状		7.65	4.3	0.9	29.08	
60	16	48	D4	3-2 層	鉄製品	環状				0.4	29.81	
60	17	48	D4	3-4 層（西）	鉄製品	環状		2.1	3.2	0.4	20.57	
60	18	48	B3	3-3 層	鉄製品	台形		(上)2.2 (下)1.9	(上)6.9 (下)9.3	(上)0.3 (下)0.3	51.05	2 点重なる
60	19	48	D3	3-2 層	鉄製品	板棒状		15.0	1.6	0.6	70.49	
60	20	48	C4	3-4 層（西）	鉄製品	板棒状		(7.7)	1.5	0.4	19.92	
60	21	48	F8	3-4 層（西）	鉄製品	板棒状		(11.8)	1.3	0.3	18.05	孔1 ヵ所
60	22	48	I9	3-4 層（西）	鉄製品	板棒状		(6.9)	0.9	0.3	10.99	
61	1	49	D3	3-2 層	鉄製品	釘	折釘	4.2	1.9	1.7	19.11	
61	2	49	D3	3-2 層	鉄製品	釘	折釘	5.0	1.5	0.4	13.79	
61	3	49	D3	3-2 層	鉄製品	釘	折釘	5.0	1.4	0.6	13.57	
61	4	49	C3	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘	3.7	2.1		7.87	
61	5	49	D4	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘	5.7	0.35	0.45	7.14	
61	6	49	D5	3-4 層（西）	鉄製品	釘	角釘	12.7	1.2	0.6	69.98	
61	7	49	C4	3-4 層（西）	鉄製品	釘	叩折釘？	3.2	0.5	0.4	4.46	
61	8	49	E3	3-2 層	鉄製品	釘	折釘	5.8	1.1	0.4	17.76	
61	9	49	C3	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘？	7.45	1.3	0.55	28.81	
61	10	49	D2	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘	4.05		0.5	12.48	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
61	11	49	C3	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘	9.5	0.8	0.8	29.54	
61	12	49	D3	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘	5.7	0.5		11.88	
61	13	49	D3	3 層	鉄製品	釘	折釘	12.7	0.4	0.4	20.58	
61	14	49	D4	3-2 層	鉄製品	釘	折釘	6.8	1.0	0.5	14.84	
61	15	49	C4	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘	3.4	0.4	0.3	2.31	
61	16	49	F7	3-4 層（西）	鉄製品	釘	折釘？	(4.7)	1.6	0.7	10.27	
61	17	49	D3	3-4 層（西）	鉄製品	釘		(a)4.6 (b)4.7	(a)0.6 (b)0.6	(a)0.4 (b)0.4	18.68	2 本 固着
61	18	49	D4	3-4 層（西）	鉄製品	釘塊		10.0	8.0	3.5	260	約20 本
62	1	49	D4	3-4 層（西）	鉄製品	棒状		8.7	0.4	0.25	12.57	
62	2	49	C2	3 層	鉄製品	棒状		7.4	0.35	0.4	8.32	
62	3	49	D5	3 層	鉄製品	棒状		6.6	0.3	0.35	7.36	
62	4	49	D4	3-2 層	鉄製品	棒状		8.3	0.5	0.7	13.65	
62	5	49	D4	3-4 層（西）	鉄製品	棒状		10.0	0.6	0.4	17.84	
62	6	49	D4	3-2 層	鉄製品	棒状		6.1	0.4	0.4	8.28	
62	7	49	D3	3-4 層（西）	鉄製品	棒状		6.4	0.5		9.08	
62	8	49	D3	3 層	鉄製品	棒状		7.7	0.8		9.65	
62	9	49	D2	3-2 層	鉄製品	棒状		7.2	0.7		14.17	
62	10	49	E4	3-2 層	鉄製品	棒状		(6.7)	0.4	0.4	6.01	
62	11	49	D4	3-4 層（西）	鉄製品	棒状		7.7	0.7	(0.4)	7.94	
62	12	49	E4	3-2 層	鉄製品	棒状		7.6	0.7	(0.3)	7.85	
62	13	49	C3	3-2 層	鉄製品	棒状		6.4	0.6		1029	
62	14	49	D3	3-4 層（西）	鉄製品	棒状		6.9	0.35	0.3	6.31	
62	15	49	E4	3-2 層	鉄製品	棒状		6.3	0.4		8.96	
62	16	49	D6	3-4 層（西）	鉄製品	棒状		7.7	0.5	0.4 以上	11.31	
62	17	49	F9	3 層	鉄製品	棒状		8.7	0.8	(0.5)	14.38	
62	18	49	F9	3 層	鉄製品	棒状		(7.9)	0.6	0.6	12.45	
62	19	49	G8	3 層	銭貨	祥符通寶		2.5	2.5	0.1	3.28	宋銭、1009 年～
62	20	49	D5	3-4 層（西）	銭貨	天聖元寶		2.5	2.4	0.1	2.97	北宋、1023 年～
62	21	49	D3	3-4 層（西）	銭貨	嘉祐元寶		2.4	2.4	0.1	2.99	北宋、1056 年～
62	22	49	D5	3-2 層	銭貨	熙寧元寶		2.4	2.4	0.1	2.88	北宋、1068 年～
62	23	49	D4	3-2 層	銭貨	元豊通寶		2.4	2.5	0.2	4.31	北宋、1078 年～
62	24	49	D4	3-4 層（西）	銭貨	紹熙元寶		2.5	2.5	0.15	2.45	裏面に「三」字宋、1190 年～
62	25	49	D4	3-4 層（西）	銭貨	永楽通寶		2.6	2.6	0.1	3.00	明、1408 年～
62	26	49	C5	3-4 層（西）	銭貨	寛永通寶	古寛永	2.4	2.4	0.1	3.34	1636 ～1659 年
62	27	49	I9	3 層	銭貨	寛永通寶	古寛永	2.5	2.5	0.1	2.94	1636 ～1659 年

第13表　3-4層（東側）出土遺物観察表

3-4 層（東側）陶磁器・須恵器・土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様·調整·その他	備考
								口径	器高	底径				
63	1	50	H7	3-4 層（東）	景徳鎮窯系青花	皿	小野 B1 群	(11.8)	2.4	7.2	灰白色	透明釉、青料	外：圏線、唐草文 内：圏線、玉取獅子文	16 ～17C 初
63	2	50	E 3	3-4 層（東）	萩焼	皿	TH-2	(13.2)	3.6	4.8	薄灰褐色	藁灰釉		腰部灰落ち、17C 代？
63	3	50	F2	3-4 層（東）	土師質土器	皿	褐色系	(7.8)		(3.8)	砂粒少し含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：回転ナデ 内：回転ナデ	16C 初？
63	4	50	H6	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 4 期？	17.5			砂粒少し含む	外：灰色5Y6/1 内：灰白色2.5Y8/2	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	6C 末？
63	5	50	G5	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見5 期	11.5			砂粒極少含む	外：灰白色5Y8/2 内：淡黄色5Y8/3	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	7C 初
63	6	50	G7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 6B 期	12.0			砂粒極少含む	外：褐灰色10YR4/1 内：橙色7.5YR6/6	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	7C 前半
63	7	50	H7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 6B 期	7.8			砂粒極少含む	外：灰色N6/ 内：灰色N6/	外：ナデ 内：ナデ	7C 前半
63	8	50	H6	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 6C 期	11.2	3.1	つまみ 1.25	砂粒僅かに含む	外：浅黄色2.5Y7/3 内：淡黄色2.5Y8/3	外：回転ナデ、ケズリ後回転ナデ 内：回転ナデ	7C 中頃
63	9	50	G6	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 7 期？	13.1	4.2	つまみ 2.6	砂粒多く含む	外：灰白色N7/ 内：灰白色N7/	外：回転ナデ 内：回転ナデ	短頸壺 7C 後半
63	10	50	G6	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 7 ～8 期	15.8	2.7	つまみ 2.7	砂粒少し含む	外：黄灰色2.5Y5/1 内：灰色7.5Y5/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	7C 後半～8C 初
63	11	50	H7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 7 ～8 期	14.7	2.9	つまみ 3.0	砂粒極少含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰白色2.5Y8/1	外：回転ナデ、 内：回転ナデ	7C 後半～8C 初
63	12	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見8 期	15.2	2.6	つまみ 2.9	砂粒多く含む	外：灰色N6/ 内：灰色N6/	外：カキメ 内：回転ナデ、ナデ	7C 末～8C 初
63	13	50	G7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見9 期	14.6	2.3	つまみ 2.8	砂粒少し含む	外：灰白色5Y7/1 内：淡黄色2.5Y8/3	外：ナデ、ケズリ後ナデ 内：ナデ、回転ナデ	7C 末～8C 初
63	14	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 9A 期	13.8	2.9	つまみ 6.4	黒色粒多く含む	外：灰色7.5Y6/1 内：灰色N5/	外：ナデ消し、回転ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉 内：回転ナデ	8C 中頃
63	15	51	H7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 9B 期	15.5	2.4	つまみ 5.9	砂粒僅かに含む	外：灰白色5Y8/1 内：灰白色5Y8/2	外：回転ナデ、回転糸切り 内：ナデ	8C 後半
63	16	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	蓋	石見 9B 期	14.4	2.6	つまみ 6.9	砂粒やや多く含む	外：灰白色N7/ 内：灰白色N8/	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ後ナデ	8C 後半
64	1	51	F5	3-4 層（東）	須恵器	坏	石見1 期	10.6			砂粒やや多く含む	外：灰色10Y5/1 内：灰色7.5Y5/1	外：ナデ 内：ナデ	5C 後半～6C 初
64	2	51	F1	3-4 層（東）	須恵器	坏	石見 3 ～4 期	(10.2)			砂粒若干含む	外：暗青灰色10BG4/1 内：灰色N5/	外：回転ナデ 内：回転ナデ	6C 末
64	3	52	H6	3-4 層（東）	須恵器	坏	石見4 期	11.0			砂粒やや多く含む	外：灰色N6/ 内：オリーブ灰色 2.5GY6/1	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	6C 末
64	4	52	H6	3-4 層（東）	須恵器	坏	石見4 期	11.2	4.5		砂粒少し含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰色5Y6/1	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	6C 末

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
64	5	52	G6	3-4 層（東）	須恵器	坏	石見 6B 期	9.7	3.1		砂粒少量含む	外：黄灰色2.5Y6/1 内：灰白色2.5Y7/1	外：ケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	7C 前半
64	6	52	G7	3-4 層（東）	須恵器	高台付坏	石見 6C 期	(15.9)	5.9	(11.4)	黒色粒子多く含む	外：灰色N6/1 内：灰色N6/1	外：回転ナデ、自然釉 内：回転ナデ、ナデ	7C 中頃、貼付高台
64	7	51	H7	3-4 層（東）	須恵器	高台付坏	石見 9B 期？	13.2	5.7	8.8	砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：淡黄色2.5Y8/3	外：回転ナデ 内：回転ナデ	8C 後半
64	8	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	坏	石見 9B 期？	(13.6)	4.5	(9.8)	砂粒多く含む	外：灰白色7.5Y7/1 内：灰白色7.5Y7/1	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	8C 後半
64	9	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	高台付皿	石見10 期以降	13.4	2.5	7.0	砂粒僅かに含む	外：灰色7.5Y6/1 内：灰白色2.5Y7/1	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	9C 以降
64	10	51	F2	3-4 層（東）	須恵器	坏				(7.4)	砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：にぶい橙色10YR7/3	外：回転ナデ、回転糸切り 内：ナデ	中世？
64	11	51	H7	3-4 層（東）	須恵器	高台付碗		20.0	7.9	13.6	砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：淡黄色2.5Y8/3	外：回転ナデ、回転ヘラ切り、ケズリ 内：回転ナデ	11C 代？
64	12	52	H6-H7 G7	3-4 層（東）	須恵器	高台付碗		17.8			砂粒ほぼ含まない	外：淡黄色2.5Y8/3 内：淡黄色2.5Y8/3	外：回転ナデ、ヘラケズリ 内：回転ナデ	中世？
64	13	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	高坏		12.9			砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y8/1 内：灰白色5Y8/2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
64	14	51	H7	3-4 層（東）	須恵器	高坏	石見 5-6 期	15.6			砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y7/1 内：浅黄色2.5Y7/3	外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	7C 初？
64	15	52	F3	3-4 層（東）	須恵器	高坏	石見 6B 期			8.9	砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：灰白色2.5Y8/1	外：回転ナデ、 回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	7C 前半
64	16	51	G7	3-4 層（東）	須恵器	高坏	不明	17.9			砂粒少し含む	外：灰色5Y6/1 内：灰色5Y6/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
64	17	52	G7	3-4 層（東）	須恵器	鉢	石見 1 〜2 期			3.0	砂粒極僅かに含む	外：灰色N4/ 内：灰色N6/	外：回転ナデ、ナデ、 波状文、沈線文、列点文 内：回転ナデ、灰被り	5C 末〜6C 前半、窯印
64	18	51	F4	3-4 層（東）	須恵器	鉢	石見3 期			7.7	砂粒少し含む	外：青灰色10BG6/1 内：暗青灰色5PB4/1	外：ナデ、ケズリ、 刺突文、沈線文 内：ナデ	6C 末
64	19	52	F3	3-4 層（東）	須恵器	鉢	石見4 期			4.5	微砂粒、黒色粒を含む	外：灰色5Y6/1 内：灰色7.5Y6/1	外：ナデ、回転ナデ 内：ナデ、回転ナデ	6C 末以降
64	20	52	G6	3-4 層（東）	須恵器	鉢	石見4 期			3.6	砂粒やや多く含む	外：灰色N5/ 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：回転ナデ、列点文 沈線文、回転ヘラケズリ 内：ナデ	6C 末〜7C 初
64	21	53	G7	3-4 層（東）	須恵器	提瓶	石見 5-6A 期	4.8	15.2		微砂粒含む	外：灰色N6/1 内：灰色N6/1	外：ヨコナデ、カキメ、 タタキ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、指頭痕	7C 初
64	22	51	G6	3-4 層（東）	須恵器	提瓶					砂粒少し含む	外：灰色5Y6/1 内：灰白色5Y8/1	外：カキメ、ナデ 内：同心円状当具痕、ナデ	
65	1	53	G6	3-4 層（東）	須恵器	小壺		6.8	4.7	7.7	砂粒少し含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰白色5Y7/1	外：ナデ 内：ナデ	線刻あり、記号？
65	2	54	H6	3-4 層（東）	須恵器	小鉢？				7.3	砂粒ほぼ含まない	外：灰オリブ色5Y6/2 内：灰色5Y5/1	外：波状文、ナデ 内：ナデ	
65	3	53	H7	3-4 層（東）	須恵器	小鉢？		12.4	8.9	8.9	砂粒少量含む	外：灰白色N8/ 内：灰白色N8/	外：回転ナデ、波状文、 内：回転ナデ	
65	4	53	G6	3-4 層（東）	須恵器	長頸壺				15.4	砂粒やや多く含む	外：淡黄色2.5Y8/3 内：浅黄色2.5Y7/3	外：ナデ、ケズリ 内：ナデ	
65	5	53	H6-H7 G6-G7	3-4 層（東）	須恵器	壺					砂粒少し含む	外：灰白色N6/ 内：灰白色N6/	外：ナデ、カキメ、 平行タタキ 内：ナデ、同心円状当具痕	
65	6	54	G5	3-4 層（東）	須恵器	長頸壺	石見8 期以降			10.3	砂粒やや多く含む	外：灰白色N6/ 内：灰白色N6/	外：回転ナデ回転糸切り 内：回転ナデ	7C 末〜8C 初以降
65	7	54	G7	3-4 層（東）	須恵器	壺				7.6	砂粒多く含む	外：暗赤褐色2.5YR3/3 内：褐灰色10YR5/1	外：ケズリ後ナデ、自然釉 内：回転ナデ、底部自然釉	
65	8	53	H6-H7	3-4 層（東）	須恵器	直口壺		13.4			砂粒少し含む	外：黄灰色2.5Y6/1 内：灰黄色2.5Y7/2	外：ナデ、回転ナデ、ケズリ 内：ナデ、回転ナデ	
65	9	53	F5-H6 G6	3-4 層（東）	須恵器	壺		11.3			砂粒少量含む	外：暗青灰色5PB3/1 内：灰色N4/1	外：平行タタキ、カキメ 内：ナデ、 同心円文状当て具痕	
65	10	54	H7	3-4 層（東）	須恵器	甕		19.8			砂粒ほぼ含まない	外：灰色7.56/1 内：灰オリーブ色7.5Y6/2	外：ナデ、平行タタキ 内：ナデ、放射状当具痕	
65	11	54	H6	3-4 層（東）	須恵器	甕		14.8			砂粒少し含む	外：灰白色5Y7/1 内：黄灰色2.5Y6/1	外：ナデ、平行タタキ後ナデ消し、自然釉 内：ナデ、同心円状当て具痕、ナデ消し	外面黄緑色の自然釉
65	12	54	G6-G7	3-4 層（東）	須恵器	甕		16.6			砂粒少し含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰色5Y6/1	外：ナデ、ハケ、カキメ 内：ナデ、同心円状当て具痕	
66	1	54	H6-H7 G7	3-4 層（東）	須恵器	甕		21.4			白色、灰色砂粒含む	外：灰色5Y6/1 内：灰色7.5Y6/1	外：ナデ、平行タタキ、 カキメ 内：ナデ、同心円状当て具痕	
66	2	54	G6-G7	3-4 層（東）	須恵器	甕					暗灰色砂粒少し含む	外：灰白色5Y8/2 内：灰白色2.5Y8/1	外：平行タタキ、ナデ 内：放射状の当て具痕	
66	3	54	H7	3-4 層（東）	須恵器	甕					白色砂粒含む	外：灰色N5/ 内：灰色5Y6/1	外：平行タタキ後ナデ 内：同心円状当て具痕	
67	1	53	F4	3-4 層（東）	須恵器	甕		20.0	51.5		白色粒子多く含む	外：灰白色N7/ 内：灰白色N7/	外：回転ナデ、平行タタキ 内：回転ナデ、 同心円状当て具痕	8C 後葉〜9C 初？丸底
68	1	55	F4	3-4 層（東）	土師器	甕	大木式（草田6 期）	(15.8)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
68	2	55	E 3	3-4 層（東）	土師器	甕	小谷1 式（草田6 期）	(15..8)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ、 指頭痕	外面煤付着
68	3	55	G6	3-4 層（東）	土師器	甕	小谷1 式（草田6 期）	(20.0)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、擬凹線文、 ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 指頭痕	外面煤付着
68	4	55	H7	3-4 層（東）	土師器	甕	小谷2 式	(18.0)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕 内：ヨコナデ、ナデ、指頭痕	外面煤付着
68	5	55	F3	3-4 層（東）	土師器	甕	布留系	(17.2)			砂粒多く含む	外：黒色10YR2/1 内：橙色2.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ 後ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着
68	6	55	F2	3-4 層（東）	土師器	甕	布留系	(17.8)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰褐色7.5YR5/2	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
68	7	55	E4	3-4 層（東）	土師器	甕	小谷 4 式？	（16.6）			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケケズリ	
68	8	55	E2	3-4 層（東）	土師器	甕	小谷 4 式？	（16.8）			砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	口縁端部上面に指頭痕
68	9	55	G7	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	（14.4）			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	
68	10	55	E 3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	（18.0）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
68	11	55	E 3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	（14.8）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：明赤褐色5YR5/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ、ケズリ、指頭痕	
68	12	55	F4	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	（17.0）			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
68	13	56	H7	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	15.5			砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/1 内：暗灰色N3/	外：ヨコナデ、指頭痕、ナデ 内：ヨコナデ、指頭痕、ナデ	
68	14	55	E3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	（13.6）			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
68	15	56	E4	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（12.8）			砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 後ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケ ハケ後ナデ、ケズリ、指頭痕	
68	16	55	E3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（11.4）			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 指頭痕	
68	17	56	H6	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（12.6）			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色2.5YR6/6	外：ハケ後ヨコナデ、ハケ 内：ハケ後ナデ、ケズリ 指頭痕	外面煤付着
68	18	56	F3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（15.0）			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	
68	19	56	H6	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（13.4）			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR6/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ、ナデ、ケズリ	
68	20	55	F3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（13.8）			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、指頭痕 ナデ、ケズリ	
68	21	56	F4	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1~3 式	（16.8）			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ、指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ、指頭痕	
69	1	56	F3	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 1 ～3 式	（11.5）	15.7	3.6	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ、指頭痕	
69	2	57	G7	3-4 層（東）	土師器	甕	大東 3-4 式？	（17.2）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
69	3	57	E1	3-4 層（東）	土師器	甕	不明	（14.0）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ミガキ？、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ、爪痕	
69	4	57	F1	3-4 層（東）	土師器	甕	大東4-5 式～古代	（17.4）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
69	5	57	H6	3-4 層（東）	土師器	甕	大東4-5 式～古代	（20.6）			砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/6 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
69	6	57	E2	3-4 層（東）	土師器	甕	大東4-5 式～古代	（19.6）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい赤褐色 5YR4/4	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
69	7	57	F4	3-4 層（東）	土師器	壺	小谷式	（23.5）			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、 内：ナデ、ケズリ後ナデ？	
69	8	57	G6	3-4 層（東）	土師器	壺	大東 1 ～3 式	23.6			砂粒やや多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ミガキ、 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
69	9	57	F4	3-4 層（東）	土師器	壺	不明	（16.2）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、突帯 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ、ケズリ	
69	10	57	E 3	3-4 層（東）	土師器	壺	小谷式	（13.8）			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR7/6	外：ヨコナデ、 内：ヨコナデ、ケズリ	
69	11	57	F4	3-4 層（東）	土師器	壺	小谷～大東 1 ～3 式	（12.6）			砂粒多く含む	外：褐灰色5YR5/1 内：にぶい赤褐色 5YR5/1	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	
69	12	56	E4	3-4 層（東）	土師器	高坏	大東 1 ～3 式	17.4	13.1	12	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ハケ後ヨコナデ、ナデ後ミガキ 内：ハケ後ヨコナデ、ケズリ	
69	13	56	G6	3-4 層（東）	土師器	高坏	小谷式	15.7			砂粒少し含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：回転ナデ、ミガキ 内：回転ナデ、ミガキ、刺突暗文	
69	14	57	G7	3-4 層（東）	土師器	高坏	小谷～大東 1 ～3 式	（14.3）			砂粒僅かに含む	外：橙色2.5YR6/6 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ナデ、赤彩 内：ナデ	
69	15	57	E 3	3-4 層（東）	土師器	高坏	小谷～大東 1 ～3 式	（13.6）			砂粒少し含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	
69	16	57	E3	3-4 層（東）	土師器	高坏	小谷～大東 1 ～3 式	14.2			砂粒少し含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ、ハケ	
69	17	57	F4	3-4 層（東）	土師器	高坏	小谷～大東 1 ～3 式	16.8			砂粒少し含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ハケ、ナデ 内：摩滅の為不明	
69	18	58	F2	3-4 層（東）	土師器	高坏	大東1 ～3 式？			（10.5）	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ナデ、指頭痕 内：ヨコナデ、ナデ	円盤充填？
69	19	58	G6	3-4 層（東）	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			（13.0）	砂粒やや多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：橙色2.5YR6/6	外：ハケ、ナデ 内：ハケ、ナデ	円盤充填
69	20	58	H7	3-4 層（東）	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			10.5	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	円盤充填
69	21	58	G4	3-4 層（東）	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			11.1	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：指頭痕、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	円盤充填
69	22	58	F4	3-4 層（東）	土師器	低脚高坏	大東 4-5 式			（7.8）	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ナデ、指頭痕、ヨコナデ 内：ヨコナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
70	1	58	H7	3-4 層（東）	土師器	低脚坏	小谷～大東1～3式？	12.9	6.9	(5.3)	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色5YR7/6	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ	
70	2	58	H7	3-4 層（東）	土師器	低脚坏	小谷～大東1～3式？	(11.9)	(6.5)	(6.9)	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ハケ後ナデ 内：ナデ	
70	3	59	G6	3-4 層（東）	土師器	鼓形器台	草田6期			(16.8)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	
70	4	58	H7	3-4 層（東）	土師器	坏	大東1-2式？	(16.8)	8.2	2.5	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ケズリ後ミガキ	
70	5	59	F5	3-4 層（東）	土師器	坏	大東3-4式	(14.4)	5.3	(2.8)	砂粒多く含む	外：赤褐色2.5YR4/6 内：橙色5YR6/6	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ	
70	6	59	F3	3-4 層（東）	土師器	坏	大東3-4式	(16.6)			砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	
70	7	58	G7	3-4 層（東）	土師器	坏	不明	(12.9)	6.9	(3.2)	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色5YR7/6	外：ハケ、ケズリ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕、ケズリ後ミガキ	
70	8	58	G7	3-4 層（東）	土師器	小型壺	小谷式	(9.6)			砂粒少し含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	
70	9	58	F3	3-4 層（東）	土師器	小型壺	小谷式？	(11.6)			砂粒僅かに含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ、ケズリ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ミガキ、指頭痕	外面煤付着
70	10	59	F3	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	10.0	11.2		微粒子、砂粒含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ヨコハケ、ナデ、ケズリ	
70	11	59	E3	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	9.6	9.3		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ハケ後ヨコナデ、ナデ 内：ハケ後ヨコナデ、ケズリ、ナデ、刺突列点文	
70	12	59	F3	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	7.4	9.3		砂粒僅かに含む	外：橙色7.5YR7/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ 内：ハケ後ナデ、ケズリ	
70	13	59	F3	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	(6.4)			砂粒少量含む	外：橙色5YR7/6 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
70	14	59	H7	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	4.7	8.4	2.6	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ	
70	15	59	G7	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	(9.4)	9.6		砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色2.5YR7/6	外：ナデ、ハケ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
70	16	59	F3	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	8.2	8.7		微砂粒含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	焼成時破裂痕あり
70	17	58	E2	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	(10.0)			砂粒多く含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰黄褐色10YR6/2	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ、指頭痕 内：ヨコナデ、ナデ	
70	18	58	G5	3-4 層（東）	土師器	小型壺	大東1～3式	(10.3)			砂粒やや多く含む	外：橙色2.5Y7/8 内：橙色2.5Y7/8	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	
70	19	59	G6	3-4 層（東）	土師器	小型鉢	大東1～3式	9.5	8.5	3.8	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ後ナデ、指頭痕 内：ナデ	
70	20	59	F4	3-4 層（東）	土師器	小型鉢	大東1～3式	(10.2)	7.4	3.1	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/3	外：ナデ 内：ナデ	外面煤付着、焼成時破裂痕あり
70	21	58	G6	3-4 層（東）	土師器	小型鉢	大東1～3式？	(10.4)	6.7		砂粒少量含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：にぶい褐色 7.5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ	
70	22	59	H7	3-4 層（東）	土師器	小型鉢	大東1～3式？	9.3	7.3	7.8	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、ハケ、指頭痕 内：ナデ	
70	23	59	F3	3-4 層（東）	土師器	小型鉢	大東1～3式？	10.2	8.0	2.5	微砂粒、砂粒含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ハケ後ナデ 内：ナデ	外面煤付着、穿孔2ヵ所
70	24	60	F5	3-4 層（東）	土師器	甑	古代	20.6	19.0	14.4	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/6	外：ナデ 内：ケズリ	環状把手、穿孔8ヵ所
70	25	58	H6	3-4 層（東）	土師器	甑	大東4-5式～古代	(16.5)	(10.8)		砂粒やや多く含む	外：黒褐色10YR3/1 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	
70	26	58	E1	3-4 層（東）	土師器	甑	大東4-5式～古代			(12.4)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ 内：ケズリ、ヨコナデ、ナデ	
70	27	58	E3	3-4 層（東）	土師器	甑	大東4-5式～古代				砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ナデ、指頭痕 内：ケズリ	
71	1	60	H6	3-4 層（東）	土師器	土製支脚	岩橋ⅢC類or大橋BⅠ類				砂粒やや多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：橙色5YR7/6	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ、ハケ	
71	2	60	E3	3-4 層（東）	土師器	土製支脚	岩橋ⅠC類				砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：	外：ナデ、指頭痕 内：	
71	3	60	E4	3-4 層（東）	土師器	漆容器？	不明	(6.4)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ	
72	1	61	E3	3-5 層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	3.3	3.2	4.1	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：明赤褐色7.5YR5/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	種子圧痕あり
72	2	61	E2	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	(3.6)	4.0	(0.6)	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/4 内：橙色5YR6/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ	
72	3	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	2.8	4.1	1.6	砂粒多く含む	外：褐灰色5YR4/1 内：黒色5YR ＊1.7/	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	4	61	G6	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	2.8	4.9	2.8	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/6	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、指頭痕	
72	5	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	4.1	4.7	2.9	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：橙色2.5YR6/8	外：ハケ後ナデ 内：ナデ	
72	6	61	F4	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	4.8	4.4	0.9	砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/4	外：ナデ 内：ナデ	
72	7	60	E2	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	5.6	4.0	(1.5)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	8	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	4.8	4.1	0.5	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
72	9	61	G6	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	3.8	3.8	3.3	砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：灰褐色7.5YR5/2	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	10	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	4.9	4.5		砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 7.5YR6/4	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	11	60	E3	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	(6.2)			砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色 5YR5/4 内：にぶい赤褐色 2.5YR5/4	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ, 指頭痕	
72	12	61	G7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	6.0	4.2	3.3	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ、指頭痕	
72	13	61	G7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	5.8	5.4	2.1	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色2.5YR6/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	14	61	F3	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	6.9	5.8	2.4	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	15	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	7.1	4.8		砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	16	61	E3	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	7.7	4.6		砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、指頭痕、線刻？ 内：ヨコナデ、指頭痕	
72	17	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	(4.7)	3.2	2.2	砂粒多く含む	外：灰褐色5YR4/2 内：にぶい赤褐色 5YR5/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	18	60	F4	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	(7.8)	(3.7)		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
72	19	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	7.7	4.8	2.4	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：橙色5YR7/8	外：ナデ、ヘラ描き線刻 内：指頭痕、ナデ	
72	20	60	G7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	(6.4)	5.4	(3.8)	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ハケ後ナデ、 ヘラ描き線刻 内：ナデ	
72	21	61	F2	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	5.5	6.1	5.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色10YR6/4	外：ヨコナデ、ナデ、 指頭痕 内：ヨコナデ、指頭痕	
72	22	61	E2	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	2.8	5.1	2.5	砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR6/4	外：ハケ、ナデ、指頭痕 内：指頭痕、ナデ	
72	23	61	F4	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	2.0	5.4		砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：指頭痕、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、指頭痕	穿孔1 ヵ所
72	24	61	F4	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	4.8	5.2	1.0	微砂粒含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	
72	25	61	H7	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	(6.2)	6.5	0.9	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ナデ、ハケ 内：ナデ	
72	26	61	E3	3-4 層（東）	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式？	6.9	6.6	3.8	微砂粒少し含む	外：淡黄色2.5Y8/3 内：淡黄色2.5Y8/3	外：ナデ、ハケ 内：ハケ、ナデ	
73	1	61	G6	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式	(28.6)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/3 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、刻目 ハケ後ナデ、沈線文1 条 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ	
73	2	61	G7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式	(20.2)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/4 内：橙色5YR7/6	外：ナデ、ハケ、指頭痕 内：ナデ、ハケ	
73	3	61	E3	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式			(8.2)	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/4 内：にぶい赤褐色 5YR5/3	外：ハケ、ナデ 内：ミガキ	外面煤付着
73	4	61	G7	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1様式	(13.6)			砂粒多く含む	外：褐灰色10YR5/1 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ミガキ 内：ミガキ	外面煤付着
73	5	61	G7	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1様式				砂粒多く含む	外：にぶい橙色 7.5YR6/4 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：ミガキ、沈線文、羽状文 内：ハケ後ミガキ	
73	6	61	H6	3-4 層（東）	弥生土器	壺	綾羅木・高槻系				砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y7/1 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ミガキ、羽状文、 刺突直線文、 断面M 字刻目突帯 内：ナデ	
73	7	61	E2	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式			11.2	砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：明褐灰色7.5YR7/2	外：ハケ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
73	8	61	H7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅲ-2～Ⅳ-1様式	(15.3)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、指頭痕 内：ヨコナデ、指頭痕	外面煤付着
73	9	61	H7-G7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅲ-2～Ⅳ-1様式				砂粒多く含む	外：灰白色7.5YR8/2 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ヨコナデ、刻目突帯文 2 条 内：ナデ	
73	10	61	G7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅲ～Ⅳ様式			(4.8)	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR7/2 内：黒色N2/	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	
73	11	61	G6	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式	(12.8)			砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/1 内：灰白色2.5Y8/2	外：ヨコナデ、刻目 凹線文4 条 内：ヨコナデ	穿孔 2 ヵ所
73	12	61	G6	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式				砂粒多く含む	外：灰黄色2.5Y7/2 内：黄灰色2.5Y4/1	外：ヨコナデ、凹線文4 条 内：ヨコナデ、刺突文	
73	13	61	H7	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見Ⅲ～Ⅳ様式			(3.2)	砂粒多く含む	外：灰黄色2.5Y5/1 内：灰黄褐色10YR5/2	外：ハケ 内：ケズリ	内外面煤付着
73	14	61	G7	3-4 層（東）	弥生土器	高坏	石見Ⅳ様式	(21.4)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：にぶい黄橙色 10YR7/2	外：ヨコナデ、円形浮文 凹線文3 条-4 条、刻目 内：ヨコナデ	
73	15	61	E 3	3-4 層（東）	弥生土器	高坏	石見Ⅳ-1様式			(19.6)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ、凹線文7 条 内：ケズリ	
74	1	62	G6	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(19.8)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：淡黄色2.5YR8/3	外：ヨコナデ、ナデ、 凹線文4 条、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	肩部施文： 櫛歯状工具
74	2	62	H7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(14.6)			砂粒多く含む	外：にぶい褐色 7.5YR6/3 内：褐灰色7.5YR6/2	外：ヨコナデ、ナデ、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	吹きこぼれ痕あり 肩部施文： 幅約1.3cm の工具刺突

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様· 調整· その他	備考
								口径	器高	底径				
74	3	62	G7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見V-1様式	(19.2)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、凹線文4 条、重層刻目文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	外面煤付着 肩部施文：貝類
74	4	62	H6	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見V-1様式	(25.4)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/1 内：灰白色5Y7/2	外：ヨコナデ、凹線文6 条連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁？
74	5	62	G7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見V-1様式	(22.2)			砂粒多く含む	外：褐灰色10YR6/1 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着 肩部施文：ヘラ状工具？
74	6	62	G6	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見V-2様式	(15.8)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：褐灰色10YR5/1	外：ヨコナデ、擬凹線文5 条波状文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面僅かに煤付着
74	7	62	H7	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見V-2様式	(18.6)			砂粒多く含む	外：褐灰色7.5YR4/1 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、凹線文後ナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	外面僅かに煤付着
74	8	62	F3	3-4 層（東）	弥生土器	甕	石見V-2様式？	(19.2)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、擬凹線文9 条刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着
74	9	62	G7	3-4 層（東）	弥生土器	壺	石見V-1様式？	(20.4)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい橙色7.5YR7/2	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	
74	10	62	G6	3-4 層（東）	弥生土器	壺	西部瀬戸内系？				砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ刺突文 内：ヨコナデ	突帯施文：二枚貝腹縁
74	11	62	G7	3-4 層（東）	弥生土器	高坏	石見V-1様式？			(14.8)	砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ヨコナデ、凹線文2 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
74	12	62	E1	3-4 層（東）	弥生土器	高坏or器台	石見V-1様式			(19.6)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR 内：橙色5YR6/6	外：ミガキ、擬凹線文6 条ハケ後ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
74	13	62	H7	3-4 層（東）	弥生土器	鼓形器台	石見V-2様式			(18.0)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：黒色N ＊1.5/	外：ヨコナデ、擬凹線文10 条 内：ナデ	
74	14	62	G6	3-4 層（東）	弥生土器	小型鉢	石見V-1様式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ナデ、突帯文、沈線文、刺突文 内：ナデ、ケズリ後ミガキ	
74	15	62	H7	3-4 層（東）	弥生土器	装飾壺	石見V-2様式				砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：赤褐色2.5YR4/6	外：突帯文、刺突文、ナデ 内：ケズリ	
74	16	62	E4	3-4 層（東）	縄文土器	砲弾形深鉢	布勢式？				砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：にぶい黄橙色10YR6/4	外：細密条痕？、ナデ 内：ナデ	
74	17	62	E2	3-4 層（東）	縄文土器	深鉢	柳浦IIC 類				砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ、刺突文	口縁部施文：巻貝殻頂部
74	18	62	G6	3-4 層（東）	縄文土器	深鉢	突帯文3 期？				砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色5YR5/4 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ、刺突文、刻目突帯文 内：ミガキ	外面煤付着

3-4 層（東側）土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
74	19	63	E3	3-4 層（東）	土製品	管状土錘	A 類	3.2	1.15	0.4	4.14	密	外：黄灰色2.5Y4/1	ナデ
74	20	63	E1	3-4 層（東）	土製品	管状土錘	D1 類	5.65	2.65	0.4	41.98	密	外：赤黒色2.5YR2/1	ナデ
74	21	63	H7	3-4 層（東）	土製品	勾玉		4.2		1.4	10.02	微砂粒少し含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4	ナデ

3-4 層（東側）石製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	材質	備考
							長さ	幅	厚さ			
75	1	63	E5	3-4 層（東）	石製品	石鏃	1.6	1.5	0.3	0.42	流紋岩？	
75	2	63	E2	3-4 層（東）	石製品	石鏃	1.8	1.4	0.5	1.11	安山岩	未成品
75	3	63	H7	3-4 層（東）	石製品	石釧	外径(7.4)	内径(6.2)	1.1	3.56	緑色凝灰岩	一凹式
75	4	63	F1	3-4 層（東）	石製品	磨製石斧	(12.6)	(7.3)	(3.3)	507.77	塩基性片岩	未製品（剥離段階）
75	5	63	E3	3-4 層（東）	石製品	磨製石斧	(12.4)	(7.6)	(5.2)	774.31	塩基性片岩	未成品（敲打段階）
75	6	63	E2	3-4 層（東）	石製品	砥石	(9.5)	(4.5)	(4.2)	178.59	砂岩	3 面使用
75	7	63	E3	3-4 層(東)	石製品	凹石	15.3	(10.3)	7.4	761.54	デイサイト	軽石、凹部は全て打痕
76	1	63	F4	3-4 層（東）	石製品	石臼	(45.8)			2400.0	不明	鑿痕あり

3-4 層（東側）鉄製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量 () 内復元値 (cm)			重量 (g)	備考
								長さ	幅	厚		
77	1	63	E3	3-4 層（東）	青銅製品	青銅鏡	盤龍鏡？	復元径(12.0)		0.1 ～0.6	21.73	破鏡の可能性 後漢（漢鏡6 期）
77	2	64	E3	3-4 層（東）	鉄製品	伊予札	D 類	5.8	2.1	0.2	19.84	
77	3	64	E4	3-4 層（東）	鉄製品	鏃		7.2	1.9	0.2	28.74	
77	4	64	G7	3-4 層（東）	鉄製品	鏃	不明	(4.3)	(0.9)	0.4	6.08	
77	5	64	G6	3-4 層（東）	鉄製品	鎌	不明	(8.7)	(2.4)	(0.4)	32.48	
77	6	64	H7	3-4 層（東）	鉄製品	ミニチュア鉄斧		3.5	2.0	(1.3)	12.58	袋状に作る
77	7	64	E3	3-4 層（東）	鉄製品	鏟		8.2	1.7	1.9	56.74	
77	8	64	G7	3-4 層（東）	鉄製品	板状		8.3	2.5	(0.7)	57.73	
77	9	64	H7	3-4 層（東）	鉄製品	板状		(5.4)	(2.3)	0.8	13.97	2 点固着
77	10	64	E3	3-4 層（東）	鉄製品	板状		6.0	8.7	0.3	61.72	
77	11	64	F3	3-4 層（東）	鉄製品	板状		7.5	3.0	0.7	95.60	
77	12	64	G7	3-4 層（東）	鉄製品	釘	折釘	(9.4)	1.1	0.6	132.8	
77	13	64	E4	3-4 層（東）	鉄製品	釘	角釘？	6.8	0.6	0.4	6.93	
77	14	64	E4	3-4 層（東）	鉄製品	釘	叩折釘or巻頭釘	(4.9)	(頭部)1.1	0.4	9.82	
77	15	64	H7	3-4 層（東）	鉄製品	釘	不明	3.7	0.8	0.4	4.99	
77	16	64	E4	3-4 層（東）	鉄製品	棒状		7.5	0.5	0.7	11.58	
77	17	64	E5	3-4 層（東）	鉄製品	棒状		7.0	0.4	0.4	4.49	
77	18	64	F3	3-4 層（東）	鉄製品	ヤスor モリ		(21.3)	0.7	0.9		

第14表　4層出土遺物観察表

4層陶磁器・須恵器・土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
120	1	64	E6	4-3 層	中国白磁	碗	大宰府 II 類？	(13.0)			灰色7	透明釉	玉縁口縁	11C 後半～12C 前半
120	2	64	H8	4-3 層	中国白磁	碗	大宰府 II 類？				灰色	透明釉	玉縁口縁	11C 後半～12C 前半
120	3	64	C4、C3、D3	4-3・4-6 層	中国白磁	碗	大宰府 IV類	(14.4)			灰色	透明釉	玉縁口縁	12C 前半
120	4	64	E7、E6	4-3 層	中国白磁	碗	大宰府 IV類	(13.0)			灰色	透明釉	内：目跡4 点	二次焼成、大宰府C 期、11C 後半～12C 前半
120	5	64	F7	4-3 層	中国白磁	碗	大宰府 IV-1a 類			7.6	灰白色	透明釉	内：沈線	大宰府C 期、11C 後半～12C 前半
120	6	64	E6	4-5 層	中国白磁	碗	大宰府 Ⅷ類			(6.2)	灰白色	透明釉	外：高台内墨書「日」？ 内：蛇の目釉剥ぎ	大宰府D 期 12C 中頃～後半
120	7	64	E6	4-4 層	中国白磁	皿	大宰府 VI-2 類				灰白色	透明釉	外：沈線3 条 内：不明文様	大宰府C 期、11C 後半～12C 前半
120	8	64	D4	4-4 層	龍泉窯系青磁	碗	大宰府 I -4b 類			(6.4)	灰色	青磁釉	内：沈線1 条、不明文様	12C 中頃～後半
120	9	64	C2、D2	4-3 層	龍泉窯系青磁	碗	上田 B3 類	16.6	7.8	6.2	灰白色	青磁釉	外：蓮弁文 内：文字「天」？	15 ～16C
120	10	64	F7	4-3 層	福建省系陶器？	盤	大宰府 I -1b 類				灰色	黄釉	外：沈線1 条 内：鉄絵	11C 後半～12C 前半
120	11	64	G8	4-3 層	福建省系陶器？	盤	大宰府 I -1b 類				灰色	黄釉	内：鉄絵	11C 後半～12C 前半
120	12	64	H8	4-3 層	福建省陶器	盤	不明			(24.4)	灰色	黄釉	内：鉄絵	11C 後半～12C 前半
121	1	65	D4、D3	4-1・3-4 層	中国白磁	皿	森田D 群	(12.6)	(4.1)	4.2	にぶい黄橙色	透明釉	削り高台	15C
121	2	65	D3	4-1 層	中国白磁	八角坏	森田D 群	(8.8)			にぶい黄橙色	透明釉	外：腰折れより下無釉	15C
121	3	65	C3	4-2 層	同安窯系青磁	皿	大宰府 I -1b 類	(11.0)	2.2	(5.8)	灰白色	青磁釉	外：底部露胎 内：圏線、印花文	12C 後半
121	4	65	D3	4-1 層	龍泉窯系青磁	碗	上田D 類	(15.8)	7.1	(5.6)	灰色	青磁釉		15C
121	5	65	C3	4-1 層	龍泉窯系青磁	碗	上田D 類			(6.8)	灰白色	青磁釉	外：高台内蛇の目釉剥ぎ 内：蓮弁文	15C
121	6	65	D4、D2	4-1・2、3-2 層	龍泉窯系青磁	坏	大宰府 III -2 b 類			(7.0)	灰色	青磁釉	外：高台内雑な蛇の目釉剥ぎ 内：印花文	13C 中頃～14C 初
121	7	65	F9	4-1 層	備前焼	擂鉢	IVA 類				砂粒多く含む	外：灰色N5/ 内：灰色N4/	外：回転ナデ 内：回転ナデ	14C 中頃～後半
121	8	65	D2	4-1 層	備前焼	擂鉢	IVA 類				砂粒多く含む	外：灰白色5Y7/1 内：褐灰色10YR4/1	外：ナデ 内：ナデ、擦り目4 条以上	14C 中頃～後半
121	9	65	D4、C3、D3、C4	4-1-2 層	瓦質土器	擂鉢					砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、指頭圧痕 内：ハケ、ナデ、擦り目6 条	15C ～16C ？
121	10	65	D4	4-2 層	瓦質土器	擂鉢				10.5	砂粒やや多く含む	外：灰白色5Y8/2 内：灰白色5Y8/1	外：ハケ後ナデ 内：擦り目僅かに残す	13C ～14C ？
122	1	65	H7	4 層	土師質土器	高台付皿or 碗	白色系			10.5	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/8 内：淡黄色2.5Y8/4	外：回転ナデ 内：回転ナデ	10C 代
122	2	65	D3、C3 E3	4-4 層	土師質土器	高台付坏	白色系			(5.6)	砂粒若干含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：灰白色2.5Y8/2	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	11C ？
122	3	65	E7	4-3 層	土師質土器	高台付坏	褐色系			7.0	砂粒僅かに含む	外：橙色5YR6/6 内：明赤褐色2.5YR5/6	外：回転ナデ 回転糸切り後ナデ消し 内：回転ナデ	内面煤付着 11C ？
122	4	65	C3	4-6・4-7 層	土師質土器	高台付坏	褐色系			(8.3)	砂粒少量含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：回転ナデ 内：回転ナデ	11C ～12C ？
122	5	65	C2、C3	4-6 層	土師質土器	高台付坏	褐色系			(8.0)	砂粒少量含む	外：橙色5YR6/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	11C ～12C ？
122	6	65	D3	4-9 層	土師質土器	坏	白色系			5.4	砂粒極少量含む	外：淡黄色2.5Y8/3 内：淡黄色2.5Y8/3	外：回転ナデ、ナデ、 回転糸切り、墨書「サ」？ 内：回転ナデ	11C ？
122	7	65	D3、D4	4-6・4-7・4-9 層	土師質土器	坏	白色系	(12.2)	(4.5)	(5.8)	砂粒少量含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：灰白色2.5Y8/2	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	11C 後半～12C 中頃
122	8	65	C3	4-6 層	土師質土器	坏	褐色系			(6.0)	砂粒少量含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：ナデ	11C ？
122	9	65	D3	4-3 層	土師質土器	皿	褐色系	(8.7)	1.4	(6.8)	砂粒微量含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：ナデ、回転糸切り 内：ナデ	13C 前半？
122	10	66	E4、C4 D5	4-4・4-6・4-7・8 層	土師質土器	皿	白色系	10.0	2.9	4.9	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	13C 後半～14C 前半？
122	11	65	F7	4-6 層	土師質土器	皿	褐色系	(11.2)	2.4	(5.6)	砂粒若干含む	外：橙色5YR7/6 内：にぶい褐色7.5YR6/3	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	13C 後半～15C 前半
122	12	65	E6	4-3 層	土師質土器	皿	褐色系	(7.6)	2.8	(3.8)	砂粒僅かに含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR7/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	16C 初？
122	13	65	G8	4-3 層	土師質土器	皿	褐色系	(8.0)	2.1	(4.4)	砂粒若干含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/8	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	16C 初
122	14	65	D5	4-3 層	土師質土器	坏	大内式	(13.6)			砂粒極少量含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：回転ナデ 内：回転ナデ	16C
122	15	66	C3	4-2 層	土師質土器	坏	褐色系			(7.2)	砂粒極少量含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	16C ？
122	16	65	C2、D3	3-4・4-1 層	土師質土器	皿	褐色系	(8.1)	1.85	(5.0)	砂粒極少量含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	内面煤付着 16C ？
122	17	65	D4	4-2 層	土師質土器	皿	褐色系			(5.6)	砂粒微量含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	16C 後半～末
123	1	66	I9	4-3 層	須恵器	蓋	石見1 期			(10.8)	砂粒極僅かに含む	外：暗青灰色5PB4/1 内：暗青灰色5PB3/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	TK208 併行？ 5C 中頃
123	2	66	H7	4 層	須恵器	蓋	石見5 期	13.3	4.5		砂粒多く含む	外：黄灰色2.5Y6/1 内：灰色5Y6/1	外：ヘラ起こし、ナデ、板状痕 内：ナデ	石東型？、7C 初
123	3	66	G7	4 層	須恵器	坏蓋	石見6B ～6C 期	11.4	3.1	つまみ 1.1	やや粗い砂粒含む	外：灰色N6/1 内：灰色N6/1	外：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	7C 中頃
123	4	66	G7	4 層	須恵器	蓋	石見6C 期	(12.6)			砂粒少し含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰白色5Y7/2	外：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内：回転ナデ	7C 中頃

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
123	5	66	G7	4 層	須恵器	蓋（短頸壺 or 皿）	石見8 期	18.4	2.9	つまみ 3.0	砂粒少し含む	外：灰白色5Y8/2 内：灰白色5Y8/1	外：カキメ、回転ナデ 内：ナデ	7C 末～8C 初
123	6	66	D4	4-2 層	須恵器	蓋	石見8 ～ 9B 期			つまみ (4.4)	砂粒やや多く含む	外：灰色7.5Y4/1 内：灰色N5/	外：回転ヘラケズリ、ナデ 内：ナデ	8C
123	7	66	H7	4 層	須恵器	坏	石見7 期	12.7	4.4	7.3	細砂粒含む	外：灰白色N8/ 内：灰白色N8/	外：回転ナデ、底部未調整 内：回転ナデ	7C 後半
123	8	66	F7	4-6 層	須恵器	転用硯？（高台付坏）	石見 9B 期？			7.9	砂粒多く含む	外：オリーブ灰色5GY5/1 内：灰色N5/	外：ナデ、回転糸切り 内：ナデ	8C 末
123	9	66	C3	4-1 層	須恵器	転用硯（高台付坏）	石見 8 ～9 期			9.4	砂粒少し含む	外：暗青灰色5B4/1 内：灰色5Y5/1	外：ナデ、回転ヘラケズリ 内：ナデ	両面転用硯、底面朱墨？、8C 代
123	10	66	G7	4 層	須恵器	坏	石見10 期以降	11.8	4.6	8.0	砂粒少し含む	外：黄灰色2.5Y6/1 灰白色2.5Y8/1 内：灰白色2.5Y8/2	外：ナデ、回転糸切り 内：ナデ	9C
123	11	66	C3	4-9 層	須恵器	坏	石見10 期以降			5.6	砂粒多く含む	外：灰色5Y6/1 内：灰オリーブ6/2	外：ナデ、ヘラ切り後ナデ 内：ナデ	9 ～10C
123	12	66	C2	4-6 層	須恵器	高台付皿	石見10 期以降	(14.2)	2.7	7.3	砂粒若干含む	外：灰白色5Y7/1 内：灰白色7.5Y7/1	外：回転ナデ、回転糸切り 内：回転ナデ	内面煤付着 9C
123	13	66	D4	4-7 層	須恵器	高坏	石見3 期	(10.2)			砂粒少し含む	外：暗灰色N3/1 内：灰白色5Y7/2	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	6C 末
123	14	66	G7	3-4 層	須恵器	壺				8.1	砂粒非常に多く含む	外：オリーブ灰色2.5Y5/1 内：灰色N6/	外：ケズリ？ 内：ナデ	
123	15	66	C3	4-6・4-7 層	須恵器	甕		(33.2)			砂粒少し含む	外：灰色7.5Y4/1 内：灰色7.5Y6/1	外：ナデ、波状文、沈線文 内：ナデ	
123	16	67	H7	4 層	須恵器	甕		(25.3)			砂粒含む	外：灰色7.5Y6/1 内：灰白色7.5Y7/1	外：ナデ、平行タタキ 内：ナデ、扇状当具痕、指頭痕	
124	1	67	F7、F8	4-7 層	土師器	甕	草田6 期	(18.6)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ ケズリ後ミガキ	外面煤付着
124	2	67	F7	4 層	土師器	甕	草田6 期	14.4			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ、列点文？ 内：ヨコナデ、ケズリ	
124	3	67	G4	4 層	土師器	甕	大東1-2 式	13.2			砂粒多く含む	外：浅黄色10YR8/4 内：浅黄色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
124	4	67	E5	4 層	土師器	甕	草田6 期	(15.8)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色2.5YR6/6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	
124	5	67	E7、F7	4-7 層	土師器	甕	小谷3-4 式	(14.6)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
124	6	67	F7	4-4 層	土師器	甕	大東1-2 式	(15.4)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、指頭痕 ハケ後ナデ、線刻 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
124	7	69	G7	3-4 層	土師器	甕	大東 1 ～3 式？	12.8			砂粒多く含む	外：暗赤褐色5YR3/4 内：明赤褐色5YR5/6	外：ヨコナデ、ハケ後ミガキ 赤彩 内：ヨコナデ、ケズリ	
124	8	67	H7	4 層	土師器	甕	大東 1 ～3 式？	(13.2)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ	
124	9	68	I9	4-4・5 層	土師器	甕	大東 1 ～3 式	(13.2)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：褐灰色5YR4/1	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	
124	10	68	D4	4-7 層	土師器	甕	大東3-4 式	(14.6)			砂粒少量含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色2.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
124	11	68	H7	4 層	土師器	甕	大東3-4 式	(25.0)			砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ、指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	
124	12	68	F8	4-3 層	土師器	甕	古代	(23.0)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：赤褐色2.5YR4/6	外：ナデ 内：ナデ	
124	13	68	F8	4-3 層	土師器	甕	古代	(11.0)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4 内：橙色7.5YR6/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、ケズリ、指頭痕	
125	1	68	H7	4 層	土師器	壺	小谷式	(16.4)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ ケズリ	
125	2	69	F7	4-7 層	土師器	壺	大東 1-2. 式？	16.4			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	外面に液垂れ痕
125	3	68	G7	4 層	土師器	壺	大東 1 ～3 式	(15.8)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	
125	4	68	F7	4-4・5 層	土師器	壺	大東1-2 式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
125	5	68	E5	4 層	土師器	壺	小谷式	(12.8)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR7/8	外：ナデ、ハケ後ミガキ 内：ミガキ、ナデ	外面煤付着 焼成時破裂痕あり
125	6	68	G7	4-4 層	土師器	壺	大東 1 ～3 式	(12.4)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、ハケ後ナデ、工具痕 内：ナデ、ハケ後ナデ、ケズリ、 工具痕	
125	7	68	G8	4-8 層	土師器	壺	大東 1 ～3 式？	(13.0)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/4 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ、 ケズリ	
125	8	69	F7	4 層	土師器	高坏	小谷 3-4 式？	(15.4)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色2.5YR7/8	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ミガキ	円盤充填
125	9	69	E5	4-1・2 層	土師器	高坏	小谷 3-4 式？	(15.2)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ、 ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ	円盤充填
125	10	69	H8	4 層	土師器	高坏	大東1-2 式	14.4	13.7	10.1	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ミガキ、ハケ後ミガキ 内：ミガキor ナデ、ナデ	円盤充填
125	11	69	F7	4-7 層	土師器	高坏	大東1-2 ？	15.7			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい橙色10YR7/4	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ	坏部と脚部別作り
125	12	69	F8	4-8 層	土師器	高坏	大東 1 ～3 式？	(16.8)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ハケ後ナデ	
125	13	69	G7	4 層	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			11.1	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ後ミガキ 指頭痕 内：ナデ、ケズリ	円盤充填
125	14	70	G7	4 層	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			11.0	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/6 内：橙色2.5YR7/6	外：ハケ後ミガキ 内：ケズリ、ハケ後ミガキ	円盤充填
125	15	70	E5	4 層	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			11.6	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ハケ後ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ	穿孔1 ヵ所 円盤充填
125	16	70	E5	4-4 層	土師器	高坏	大東 1 ～3 式			8.3	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/8 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ナデor ミガキ、ナデ？ 内：ナデ、ケズリ	円盤充填？
125	17	70	E5	4 層	土師器	低脚坏	小谷式	12.2	6.8	6.0	砂粒やや多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ケズリ後ナデor ミガキ 内：ミガキ	
125	18	70	E5	4 層	土師器	低脚坏	大東1 式？	11.2	5.5	4.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4 内：橙色7.5YR6/6	外：ケズリ後ナデ 内：ケズリ後ナデ、ミガキ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
125	19	70	F7	4-7 層	土師器	低脚坏？	小谷式～大東 1 ～3 式	12.0	8.3	5.8	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ、指頭痕	
126	1	70	H7	4 層	土師器	鼓形器台	草田6 期			(19.8)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ 内：ミガキ、ナデ、ケズリ	
126	2	70	D5	4-1 層	土師器	鼓形器台	小谷2 式以降？				砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、羽状文？ 内：ナデ、ケズリ	
126	3	71	G7	4 層	土師器	坏	大東1･2 式	(12.4)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ？	
126	4	71	G7	4 層	土師器	坏	大東 1 ～3 式	(14.6)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色5YR6/6	外：ケズリ後ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ	
126	5	71	H7	4 層	土師器	坏	大東 1 ～3 式？	11.6	6.3	3.6	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ケズリ後ハケ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	
126	6	71	G7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？				砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/6	外：ハケ、ナデ 内：ハケ後ナデ、ナデ	焼成時破裂痕あり
126	7	71	G7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？	9.0			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ハケ後ナデ、ナデ	
126	8	71	H7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？				砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：灰黄色2.5Y6/2	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ	
126	9	71	H7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？	7.4	9.8		砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、ハケ 内：ハケ、ナデ	
126	10	71	H7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？				砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：灰白色5YR8/1	外：ハケ後ナデ、ハケ 内：ナデ、ケズリ	
126	11	71	G7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？	5.8	7.5		砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ナデ、ケズリ	
126	12	71	G7	4 層	土師器	小型壺	大東 1 ～3 式？	6.8	8.1	3.4	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、ハケ後ナデ、指頭痕 内：ナデ、ハケ	粘土付着
126	13	71	G7	4 層	土師器	小型鉢	大東 1 ～3 式？	(10.5)	7.4		砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、指頭痕 内：ハケ後ヨコナデ、ナデ	
126	14	71	G7	4 層	土師器	小型鉢	大東 1 ～3 式？	7.6	7.5		砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/3 内：にぶい橙色7.5YR6/3	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ケズリ	126-20 と入れ子
126	15	71	F8	4-8 層	土師器	小型鉢	大東 1 ～3 式？	6.6	7.4		砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：浅黄色2.5YR7/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
126	16	70	H7	4 層	土師器	甑or 甕	大東 4･5 式？	(18.0)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ、指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	
126	17	71	H7	4 層	土師器	支脚	九州系？大橋B1 類		7.2	7.5	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ	
126	18	70	C3	4-2 層	土師器	とりべ？		(6.3)	4.3		砂粒少量含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
126	19	72	H7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	2.3	3.1		砂粒多く含む	外：黒色10YR2/1 明赤褐色5YR5/6 内：黒褐色10YR3/1	外：ナデ 内：ナデ、ケズリ	
126	20	72	G7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	4.2	3.6		砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/8 内：にぶい褐色7.5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ	126-14 と入れ子
126	21	72	G7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	4.7	4.4		砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ	
126	22	72	G7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	5.2	6.2		砂粒多く含む	外：にぶい赤褐色5YR5/4 内：橙色5YR6/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
126	23	72	G7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	4.4	5.6	2.3	砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR5/4 内：にぶい褐色7.5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ	
126	24	72	H8	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	4.8	5.9	2.7	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ	
126	25	72	G7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	7.3	4.4	5.3	砂粒多く含む	外：赤褐色2.5YR4/6 内：橙色5YR6/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
126	26	71	F7	4-7 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	4.8	4.8	2.4	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：にぶい橙色5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ、指頭痕	
126	27	71	G7	4 層	土師器	ミニチュア土器	大東1 ～3 式～大東 4･5 式	(6.7)	(4.9)	(5.0)	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ	円盤充填
127	1	72	C3	4-3 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1 様式	(22.6)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、刻み目、ナデ ハケ、口縁、段、刻目 内：ヨコナデ、ナデ、指頭痕	外面煤付着 段施文： 巻貝殻頂部
127	2	72	G7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1 ～2 様式	(27.8)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後沈線文1 条 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ	
127	3	72	G8	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1 ～2 様式	(13.6)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ、指頭痕 沈線文1 条 内：ナデ、ハケ	
127	4	72	F7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式			(12.4)	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい褐色7.5YR6/3	外：ハケとナデ 内：ナデ？	
127	5	72	G8	4-4-5 層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式			(8.0)	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/4 内：にぶい橙色5YR6/4	外：ケズリ、ハケ、ナデ 内：ハケ後ナデ	
127	6	72	E8、F8	4-7 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1 様式	(26.8)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色5YR6/6	外：ハケ 内：ミガキ	
127	7	72	G7	4 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-2 様式				砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：明赤褐色10YR7/6	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	
127	8	73	C3	4-1 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-3 様式	(16.0)			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ナデ、沈線文1 条 内：ナデ	
127	9	73	F6	4 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式			(8.6)	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/4 内：灰色N5/	外：ミガキ 内：不明	
127	10	73	F7	4-5 層	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式			(10.0)	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色2.5YR6/6	外：ミガキ 内：ミガキ	
127	11	73	F7	4-3 層	弥生土器	甕	石見Ⅲ-2 様式	(22.0)			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：灰白色5Y8/1	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ミガキ	
127	12	73	D4	4-2 層	弥生土器	甕	塩町式 石見Ⅳ-2 様式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ハケ、重層刻目文5 条 内：ハケ	肩部施文： 二枚貝腹縁
127	13	73	G7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅲ･Ⅳ様式			(7.6)	砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR5/2 内：にぶい黄橙色10YR5/4	外：ハケ、ナデ 内：ケズリ	
127	14	73	F8	4 層	弥生土器	高坏	石見Ⅳ-2 様式	(31.2)			砂粒多く含む	外：灰色N5/ 内：灰色N5/	外：ヨコナデ、凹線文6 条 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
127	15	73	C3	4-6 層	弥生土器	大型高坏	石見Ⅳ-2 様式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR5/3	外：ミガキ、刻目、棒状浮文 内：不明	
128	1	73	G7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(21.4)			砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ナデ、凹線文3 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部・胴部施文： (上) 巻貝殻頂部 (下) 二枚貝腹縁
128	2	73	F4	4-4・5 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(15.8)			砂粒多く含む	外：浅黄色2.5Y7/3 内：浅黄色2.5Y7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 凹線文4 条、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 指頭痕	肩部施文： 巻貝殻頂部
128	3	73	I10	4-7 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(18.0)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、凹線文4 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 櫛歯状工具
128	4	73	I8	4-3 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(18.4)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、凹線文5 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 巻貝殻頂部
128	5	73	G7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(19.4)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/4 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ミガキ 重層刻目文、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、工具痕 ケズリ後ミガキ	肩部・胴部施文： (上) 二枚貝腹縁 (下) 櫛歯状工具
128	6	73	G7	4-4 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(24.6)			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、凹線文2 条以上 羽状文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 二枚貝腹縁
128	7	73	C3	4-9 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1 様式	(14.8)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、沈線文2 条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	
128	8	73	I9	4-4・5 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-2 様式	(23.4)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
128	9	74	G7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-3 様式	(19.2)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰黄褐色10UR5/2	外：ヨコナデ、擬凹線文10 条 連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	肩部施文： 二枚貝腹縁
128	10	74	D4	4-1 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-3 様式	(15.6)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 擬凹線文7 条、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
128	11	74	H8、H9	4-4・5 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-3 様式	(23.4)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR5/2 内：にぶい褐色7.5YR6/3	外：ヨコナデ、擬凹線文5 条 内：ヨコナデ、ハケ後ケズリ	
128	12	74	F7	4 層	弥生土器	甕	石見Ⅴ様式？			(4.4)	砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色5Y8/1	外：ハケ後ナデ 内：ケズリ	
128	13	74	G7	4 層	弥生土器	壺	石見Ⅴ-1 様式	(19.2)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ヨコナデ、凹線文 5 条と10 条 内：ヨコナデ、ミガキ	
128	14	74	G7	4-4 層	弥生土器	壺	石見Ⅴ-1 様式	(17.4)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/6 内：橙色2.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ後ミガキ 凹線文4 条、沈線文12 条 内：ヨコナデ、ナデ、指頭痕	
128	15	74	I10	4-4・5 層	弥生土器	壺	石見Ⅴ-2 様式	(14.4)			砂粒多く含む	外：灰色5Y5/1 淡黄色2.5Y8/3 内：浅黄橙色10YR8/3 褐灰色7.5YR4/2	外：ヨコナデ、凹線文5 条 内：ヨコナデ、ケズリ後ミガキ	内面煤付着
128	16	74	D4	4-6 層	弥生土器	壺	石見Ⅴ-2 様式	(18.2)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、擬凹線文5 条 内：ヨコナデ、ケズリ	
128	17	74	H4	4 層	弥生土器	壺	石見Ⅴ-3 様式	(17.8)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色2.5Y7/1	外：ヨコナデ、 擬凹線文7 ～8 条 内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
128	18	74	F8	4-7 層	弥生土器	壺	西部瀬戸内系				砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ、 波状文、沈線文5 条 内：ミガキ	
128	19	74	G7	4 層	弥生土器	鼓形器台	石見Ⅴ-2 様式	(18.6)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ後ミガキ 凹線文10 条 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕、絞り痕	
128	20	76	F7	4 層	弥生土器	脚台	石見Ⅴ-1 様式			(9.2)	砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色10YR8/1	外：ナデ、ハケ 内：ケズリ、ナデ	円盤充填
129	1	75	E6	4-4・5 層	縄文土器	深鉢（花弁状底部）	大歳山？			(8.8)	砂粒多く含む	外：暗灰色N3/ 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
129	2	75	E7	4-8 層	縄文土器	深鉢	波子式				砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR5/3 内：にぶい黄褐色10YR7/4	外：ナデ、縄文 内：ナデ、縄文	
129	3	75	D3	4-6 層	縄文土器	深鉢	布勢式併行				砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ナデ、沈線文 内：ナデ、ミガキ？	
129	4	75	F5、E5	4 層	縄文土器	屈曲形深鉢	布勢式併行	(23.2)			砂粒多く含む	外：明黄褐色10YR7/6 内：にぶい橙色10YR7/4	外：ナデ、沈線、刻目 内：ナデ	外面煤付着
129	5	75	D4	4-9 層	縄文土器	深鉢	暮地式～布勢式併行				砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ミガキ、凹線文、刻目 内：ミガキ	内面煤付着
129	6	75	D3	4-3 層	縄文土器	深鉢	波子式？			10.2	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/2 内：灰色N4/	外：縄文、ナデ 内：ナデ	
129	7	75	D4	4-4 層	縄文土器	深鉢	波子式			(7.6)	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：縄文、ナデ 内：ナデ	
129	8	75	D3、E3	4-3・4-6 層	縄文土器	皿形浅鉢	布勢式併行	(44.7)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：粗いミガキ 内：ミガキ、赤彩？	
129	9	75	D2	4-3 層	縄文土器	ボール形浅鉢	布勢式併行				砂粒多く含む	外：オリーブ黒色5Y3/1 内：灰色5Y5/1	外：ミガキ、円形渦巻文 内：ミガキ	松ノ木式類似
129	10	75	D3	4-4 層	縄文土器	バケツ形浅鉢	暮地式				砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ミガキ、磨消縄文 内：ミガキ	
129	11	75	E6	4-1 層	縄文土器	深鉢	突帯文5 期？				砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR5/2 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ、ハケ？、刻目突帯文 内：ナデ	

4 層土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
130	1	75	C3、D3	4-9 層	土製品	管状土錘	A 類	2.9	1.05	0.4	2.85	密	にぶい褐色7.5YR5/3	布目、両端面切断痕
130	2	75	D3	4-3 層	土製品	管状土錘	A 類	3.2	0.9	0.35	1.87	密	橙色5YR6/6	布目、ナデ
130	3	75	D4	4-4 層	土製品	管状土錘	A 類	3.25	1.1	0.45	3.34	密	橙色5YR6/8	布目、ナデ、両端面切断痕
130	4	75	C3	4-6 層	土製品	管状土錘	A 類	3.0	0.95	0.45	2.2	密	黒褐色2.5Y3/1	布目、ナデ、両端面切断痕
130	5	75	D3	4-4 層	土製品	管状土錘	B2 類	4.3	1.3	0.45	6.36	密	明褐色7.5YR5/6	ナデ、片方端面切断痕
130	6	75	D3	4-6 層	土製品	管状土錘	B2 類	4.0	1.45	0.5	7.37	密	にぶい黄褐色10YR5/3	ナデ
130	7	75	C2	4-6 層	土製品	管状土錘	C 類	5.0	1.6	0.5	11.83	砂粒極少量含む	にぶい赤褐色5YR4/4	ナデ
130	8	75	D2	4-4 層	土製品	管状土錘	C 類	5.8	1.4	0.5	9.93	密	にぶい黄橙色10YR6/3	ナデ、両端面切断痕
130	9	75	G8	4-3 層	土製品	管状土錘	E	7.9	3.5	1.5	71.43	砂粒多く含む	橙色2.5YR6/8	ナデ

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
130	10	75	G8	4-4 層	土製品	有溝土錘		(5.7)	2.6	厚 2.1	31.51	砂粒多く含む	橙色5YR7/6	ナデ
130	11	75	G7	4-4 層	土製品	分銅形土製品		5.8	(6.8)	厚 1.3	42.25	微砂粒多く含む	にぶい黄橙色10YR7/2	下半部
130	12	75	F7	4-7 層	土製品	勾玉？		3.0	径 0.9	0.1	2.66	微砂粒少量含む	褐灰色10YR4/1	ナデ
130	13	75	D3	4-1 層	土製品	管状土錘	A 類	2.35	0.9	0.4	1.5	密	橙色7.5YR6/6	ナデ、両端面切断痕
130	14	75	D5	4-1 層	土製品	管状土錘	A 類	2.85	1.0	0.45	2.03	密	にぶい黄褐色10YR7/3	布目、両端面切断痕
130	15	75	D5	4-2 層	土製品	管状土錘	A 類	3.15	1.25	0.4	4.01	密	橙色7.5YR6/6	ナデ
130	16	75	C2	4-1 層	土製品	管状土錘	B1 類	3.7	1.4	0.5	6.37	密	橙色7.5YR6/6	ナデ
130	17	75	C4	4-2 層	土製品	管状土錘	B2 類	4.15	1.4	0.5	6.98	密	橙色7.5YR6/6	ナデ、両端部切断痕
130	18	75	D2	4-1 層	土製品	管状土錘	B2 類	4.65	1.0	0.4	3.19	密	明黄褐色2.5YR5/6	ナデ、両端部切断痕
130	19	75	C2	4-1 層	土製品	管状土錘	C 類	5.8	1.45	0.4	9.22	密	オリーブ黒色5Y3/1	ナデ、片方端部切断痕
130	20	75	C2	4-1 層	土製品	管状土錘	C 類	5.7	1.5	0.5	10.3	砂粒極少量含む	明赤褐色2.5YR4/8	ナデ
130	21	75	C3	4-2 層	土製品	管状土錘	D 類	6.45	2.8	1.1	39.7	砂粒少量含む	にぶい褐色7.5YR6/3	ナデ
130	22	75	C3	4-2 層	土製品	管状土錘	E 類	6.8	6.8	1.4	73.1	密	にぶい黄橙色10YR7/3	ナデ、両端部切断痕
130	23	75	C3	4-1 層	土製品	管状土錘	E 類	7.7	3.8	1.6	70.27	微砂粒含む	黄橙褐色10YR5/2	ナデ片方端部切断痕
130	24	75	C2	4-1 層	土製品	管状土錘	E 類	7.8	3.05	1.4	60.64	砂粒極少量含む	にぶい黄橙色10YR7/4	ナデ、両端部切断痕
130	25	75	C3	4-1 層	土製品	管状土錘	E 類	7.2	3.4	1.3	60.41	砂粒極少量含む	橙色7.5YR6/6	ナデ、片方端部切断痕
130	26	75	C2	4-2 層	土製品	管状土錘	E 類	7.8	3.7	1.55	88.3	砂粒極少量含む	橙色7.5YR7/6	ナデ、両端部切断痕
130	27	75	E6	4-1 層	土製品	管状土錘	E 類	8.7	3.4	1.3	65.55	砂粒若干含む	橙色5YR7/6	ナデ
130	28	75	C3	4-2 層	土製品	分銅？		(5.8)	(4.3)	厚 (3.1)	58.65	砂粒多く含む	橙色2.5YR6/8	ナデ、指頭痕
130	29	75	C3	4-2 層	土製品	焼土塊		6.9	5.5	厚 2.4	76.22	密	外面：橙色2.5YR6/6 内面：浅黄橙色10YR8/3	土器焼成関連遺物？

4 層石製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量() 内遺存/ 復元値(cm)			重量(g)	材質	備考
							長さ	幅	厚			
131	1	76	H7	4 層	石製品	小玉	直径 0.5	孔径 0.2	0.2	0.07	滑石	
131	2	76	I10	4-4-5 層	石製品	管玉	直径 0.45	0.2		0.1	緑色凝灰岩？	
131	3	76	C4 ～D5	4-7 層	石製品	石鏃	2.3	1.8	0.4	1.01	安山岩	
131	4	76	C4 ～D5	4-7 層	石製品	石鏃	2.0	1.6	0.3	0.56	安山岩	
131	5	76	C3	4-2 層	石製品	石鏃	1.4	1.2	0.3	0.31	安山岩	
131	6	76	D5	4-9 層	石製品	楔形石器	2.6	2.6	2.3	1.3	黒曜石	
131	7	76	C3	4-3 層	石製品	スクレイパ	11.3	5.1	0.9	52.68	安山岩	
131	8	76	D4	4-2 層	石製品	磨製石斧	15.7	5.3	2.3	232.93	塩基性片岩	未成品（剥離段階）
131	9	76	D3	4-4 層	石製品	磨製石斧	13.4	5.0	3.3	317.48	塩基性片岩	未成品（敲打段階）
131	10	76	C3	4-8 層	石製品	磨製石斧	10.7	4.8	3.0	197.30	塩基性片岩	未成品（敲打段階）
131	11	76	C3	4 -64	石製品	磨製石斧	(7.8)	5.4	2.4	174.87	塩基性片岩	
131	12	76	D3	4-4 層	石製品	磨製石斧	10.4	6.5	2.0	206.02	不明	
131	13	76	D3	4-4 層	石製品	撥形石斧	14.8	5.3	2.0	159.70	塩基性片岩	
132	1	77	C4	4 層	石製品	板状砥石	4.2	3.6	0.5	14.32	不明	板石硯？
132	2	77	D5	4-2 層	石製品	板状砥石	3.3	3.0	0.6	9.90	不明	板石硯？
132	3	77	C4	4-7 層	石製品	板状砥石	(2.0)	(3.2)	0.6	4.93	砂岩？	板石硯？
132	4	77	C2·3	4-1 層	石製品	板状砥石	(2.9)	(2.8)	0.4	2.20	不明	板石硯？
132	5	77	D4	4-2 層	石製品	板状砥石	(9.9)	5.8	2.8	164.36	不明	板石硯？
132	6	77	D4	4-2 層	石製品	一字一石経	5.1	4.1	1.5	46.99	不明	墨書「而」？
132	7	77	D3	4-4 層	石製品	石錘	4.6	3.8	1.2	27.94	不明	
132	8	77	D3	4-4 層	石製品	石錘	7.4	5.2	2.2	108.20	不明	
132	9	77	D3	4-4 層	石製品	石錘	6.3	4.9	1.5	65.30	不明	
132	10	77	D5	4-9 層	石製品	石錘	5.1	3.0	1.0	21.82	不明	
132	11	77	F8	4-3 層	石製品	石鍋					滑石	木戸編年 III －a 期、12C
132	12	77	E6	4-4 層	石製品	台石	(33.1)	(23.6)	5.5	5400	花崗岩	片面に被熱痕、中央やや凹む

4 層鉄製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚		
133	1	78	D3	4-3 層	鉄製品	伊予札	A 類	7.1	2.6	0.2	27.25	
133	2	78	D6	4-3 層	鉄製品	伊予札	A 類	7.0	2.8	0.3	49.82	
133	3	78	D3	4 層	鉄製品	伊予札	C 類	6.2	2.1	0.3	21.97	
133	4	78	D3	4-4 層	鉄製品	革紐		(2.0)	1.7	0.5	2.22	
133	5	78	D2	4 層	鉄製品	革紐？					5.65	
133	6	78	E4	4 層	鉄製品	鏃	放頭斧箭 II 式	(8.1)	2.6	1.2	22.92	9C 後半～11C 前半
133	7	78	G7	4 層	鉄製品	鏃	柳葉式	(4.2)	1.0	0.6	7.30	時期不明
133	8	78	H7	4 層	鉄製品	鏃	無茎平根三角形式	4.2	2.9	0.4	15.28	無茎凹基、穿孔1 ヵ所
133	9	78	D3	4-3 層	鉄製品	八反金具		17.8	2.4	0.3	93.91	猪目透かし
133	10	78	D3	4-3 層	鉄製品	八反金具？		(15.5)	2.4	0.5	70.25	猪目透かし
133	11	78	D3	4-3 層	鉄製品	釘隠し	六葉	7.9	7.0		78.35	猪目透かし6 ヵ所
133	12	78	D3	4-3 層	鉄製品	釘隠し	円形	4.4	(3.7)	0.2	13.16	
133	13	78	D3	4-3 層	鉄製品	釘隠し	四葉	2.1	2.0	0.2	6.62	
133	14	78	D3	4-3 層	鉄製品	釘隠し	四葉	2.1	2.1	0.2	4.9	
134	1	78	G8	4-7 層	鉄製品	鉄？		(11.4)	(3.8)	(0.5)	96.99	
134	2	78	D5	4-5 層	鉄製品	釣り針？		2.5	0.9		6.64	
134	3	78	C3	4-5 層	鉄製品	釣り針？		10.9	0.4	0.4	17.85	
134	4	78	E8·F8	4-7 層	鉄製品	鉄斧	袋状	(6.8)	4.2	(3.4)	118.8	
134	5	78	D2	4-4 層	鉄製品	火打金		(4.2)	6.6	0.3	49.07	透かし
134	6	78	D3	4-3 層	鉄製品	環状			(0.7 ～1.0)	(0.25 ～0.4)	16.62	
134	7	78	D3	4-3 層	鉄製品	釣り針or 鍵		6.8	0.9	0.75	18.97	環状部あり
134	8	78	D2	4 層	鉄製品	棒状		6.9	1.1	0.5	12.40	
134	9	78	G7	4-4 層	鉄製品	棒状		(5.2)	1.3	0.4	14.95	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚		
134	10	78	D3	4-3 層	鉄製品	釘	叩折釘？	(4.3)	(0.45)		16.71	
134	11	78	D3	4-3 層	鉄製品	釘	折釘？	(3.7)	0.35	0.4	8.43	
134	12	78	D3	4-4 層	鉄製品	釘	巻頭釘？	(3.0)	0.6	0.5	7.54	
134	13	78	F8	4-3 層	鉄製品	釘	折釘	(5.7)	1.3	0.8	15.69	
134	14	78	D2	4-4 層	鉄製品	釘	折釘	8.9	0.7		25.84	
134	15	78	D2	4-4 層	鉄製品	釘	折釘	9.6	0.5		53.88	
134	16	78	F7	4-3 層	鉄製品	棒状		(12.5)	(0.8)	(0.8)	20.28	
134	17	79	E3	4 層	鍛冶関連遺物	椀形鍛冶滓		13.8	17.1	1.0 ～2.0	925	分析資料MRH-10
135	1	79	D3	4-3 層	銭貨	開元通寶		2.5	2.5	0.2	2.85	唐銭、621 年～10C 頃
135	2	79	D3	4-4 層	銭貨	開元通寶		2.3	2.3	0.1	2.26	唐銭、621 年～10C 頃
135	3	79	I9	4-4 層	銭貨	咸平元寶		2.4	2.5	0.1	2.55	北宋銭、998 年
135	4	79	E4	4-3 層	銭貨	元豊通寶		2.5	2.5	0.2	2.22	北宋銭、1078 年～
135	5	79	D2	4-5 層	銭貨	元祐通寶		2.5	2.5	0.15	2.41	北宋銭、1086 年～
135	6	79	D3	4-5 層	銭貨	元祐通寶		2.5	2.5	0.15	3.12	北宋銭、1086 年～
136	1	79	C3	4-2 層	鉄製品	伊予札	A 類	(4.0)	2.5	0.2	10.91	
136	2	79	D5	4-1 層	鉄製品	伊予札	A 類	(3.4)	2.7	0.3	15.59	
136	3	79	C3	4-2 層	鉄製品	伊予札	B 類	(3.7)	2.6	0.3	13.10	
136	4	79	C3	4-1 層	鉄製品	伊予札	C 類	6.2	2.0	0.3	21.26	
136	5	79	E2	4-1·2 層	鉄製品	伊予札	その他	6.7	2.6	0.3	36.85	
136	6	79	D3	4-2 層	鉄製品	革紐					4.92	
136	7	79	D3	4-1·2 層	鉄製品	笠鞋		2.7	1.2	0.5	29.03	
136	8	79	D3	4-1 層	鉄製品	鏃	雁又式	(10.0)	0.4、0.6	0.4	58.89	中世
136	9	79	D3	4-1 層	鉄製品	鏃	雁又式	5.4	3.0	1.0	19.19	9C 後半以降
136	10	79	D4	4-2 層	鉄製品	鏃	鏨根式	(11.6)	1.1	0.55	77.08	11C 後半以降
136	11	79	D4	4-2 層	鉄製品	鏃	丸根Ⅱ式	2.3	2.0	0.2	4.59	15 ～16C
136	12	79	E4	4-1·2 層	鉄製品	釘隠し	四葉	4.4	0.3	0.3	10.49	
136	13	79	C2	4-1 層	鉄製品	楔状		(9.8)	(3.6、5.6)		332.82	建具金具？
136	14	79	C4	4-1 層	鉄製品	刃物		(6.9)	1.2	0.3	15.98	
136	15	79	C3	4-2 層	鉄製品	刃物		(8.1)	1.2	0.6	14.69	
136	16	79	D4	4-1 層	鉄製品	穂摘鎌？		4.6	3.1	0.3	26.88	
136	17	79	D3	4-1 層	鉄製品	鋸		(7.9)	2.2	1.6	32.3	
136	18	79	F8	4-1·2 層	鉄製品	釣り針			0.15		8.51	
136	19	79	D3	4-1 層	鉄製品	釣り針？		(2.6)	1.4		6.4	
136	20	79	C3	4-1·2 層？	鉄製品	釣り針		6.4	1.6		21.33	
136	21	79	C3	4-2 層	鉄製品	釣り針？		5.9	3.6		20.26	
136	22	79	G8	4-1·2 層	鉄製品	釣り針？		(4.3)	3.8	0.6	8.98	
136	23	79	C3	4-1 層	鉄製品	鍵状		(9.4)		0.4	52.46	環状部あり
136	24	79	C2	4-1 層	鉄製品	棒状		6.4	2.7	2.2	19.56	板材貫通
136	25	79	D3	4-1·2 層	鉄製品	環状			2.0	1.2	5.19	
136	26	79	F8	4-1·2 層	鉄製品	石突？		4.4	1.3		14.77	中空
136	27	79	D2	4-1 層	鉄製品	石突？		2.8	1.0	0.9	3.58	中空
137	1	80	C2	4-1 層	鉄製品	板状		11.3	2.2	0.6	57.44	
137	2	80	C4	4-2 層	鉄製品	板状		5.8	2.7	0.4	22.85	
137	3	80	D4	4-2 層	鉄製品	板状		4.1	3.2	0.3	15.20	
137	4	80	D3	4-1·2 層	鉄製品	板状		5.3	3.2	0.5	34.77	
137	5	80	D3	4-1 層	鉄製品	板状		3.7	2.7	0.4	21.03	
137	6	80	D2	4-1·2 層	鉄製品	板状		5.9	2.5	0.3 ～0.4	42.29	
137	7	80	D2	4-1·2 層	鉄製品	板状		5.4	2.4	0.3 ～0.4	20.53	
137	8	80	C3	4-2 層	鉄製品	釘	不明	7.2	1.3	0.2	9.48	
137	9	80	C3	4-1 層	鉄製品	釘	不明	7.2	1.4	0.3	9.23	
137	10	80	C3	4-1 層	鉄製品	釘	叩折釘	7.5	1.7	1.6	35.95	
137	11	80	D4	4-2 層	鉄製品	釘	叩折釘	6.1	0.6	0.5	18.5	
137	12	80	D3	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	6.7		0.6	15.94	
137	13	80	D4	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	10.6	0.9	0.6	28.25	
137	14	80	D5	4-2 層	鉄製品	釘	折釘	5.25		0.7	13.70	
137	15	80	D3	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	7.45	1.1		17.57	
137	16	80	C3	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	5.8	0.65		16.74	
137	17	80	F8	4-1·2 層	鉄製品	釘	折釘	5.8	2.3	(2.0)	38.40	
137	18	80	C3	4-1 層	鉄製品	釘	叩折釘	3.4		0.65	10.19	
137	19	80	C2	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	(4.2)	0.5	0.4	12.56	
137	20	80	C3	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	4.25	0.5		8.55	
137	21	80	E7	4-1·2 層	鉄製品	釘	折釘	(4.5)	1.2	0.5	10.40	
137	22	80	D5	4-2 層	鉄製品	釘	折釘	(4.5)	0.6	0.7	16.25	
137	23	80	D4	4-1·2 層	鉄製品	釘束	折釘	13.7	8.0	4.8	562.0	約22 本
137	24	80	C2	4-1 層	鉄製品	釘	不明	(4.3)	(1.0)	0.6	7.78	
137	25	80	D3	4-1 層	鉄製品	釘	折釘	3.7	0.4		3.14	
137	26	80	D5	4-2 層	鉄製品	釘	折釘	(5.65)	0.5	0.5	10.30	
137	27	80	D4	4-2 層	鉄製品	釘？	折釘	8.3	0.5	0.3	11.42	
138	1	79	D6	4-1 層	鉄製品	棒状		(10.8)	0.9	0.6	38.79	
138	2	79	D4	4-2 層	鉄製品	棒状		9.3	0.6	0.5	16.42	
138	3	79	C3	4-1 層	鉄製品	棒状		9.5	0.7		24.05	
138	4	79	C3	4-1·2 層	鉄製品	棒状		(10.2)	0.4		14.34	
138	5	79	C4	4-2 層	鍛冶関連遺物	鉄塊系遺物		3.6	4.2	2.5	42.33	分析資料MRH-9

第15表　5層出土遺物観察表

5層陶磁器・須恵器・土器

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
139	1	80	E2	5層	肥前系陶器	皿	TB-2-胎土目	(11.4)	3.7	4.8	褐色	灰釉、鉄釉	鉄絵、草花化？、目跡2点	被熱跡あり 1594～1610年代
139	2	80	D5	5層	美濃焼陶器	志野向付	TC-3-角鉢				乳褐色	長石釉（志野釉）		16C末葉～17C前葉
139	3	80	G6	5層	土師質土器	坏	褐色系			6.5	砂粒少し含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：回転ナデ、ヘラ切り 板目状痕 内：回転ナデ	
140	1	80	F5、G5	5層	須恵器	蓋	石見1期	(11.7)	4.5		砂粒少し含む	外：灰色N6/ 内：灰色N5/	外：ケズリ、ナデ 内：ナデ	5C末
140	2	81	G6	5層	須恵器	蓋（壺）	不明	(8.8)	2.9		砂粒少し含む	外：灰色7.5YR6/1 内：黄灰色2.5Y5/1	外：回転ナデ、ケズリ 内：ナデ	上面に自然釉
140	3	81	G5	5層	須恵器	坏	石見1期	10.9			砂粒多く含む	外：灰色10Y6/1 内：灰色10Y5/1	外：回転ナデ 内：ナデ	5C末
140	4	80	F4	5層	須恵器	坏	石見3～4期	(11.8)	5.4		砂粒多く含む	外：灰色N5/1 内：灰色N6/1	外：ナデ、ケズリ 内：ナデ	6C末
140	5	80	G7	5層	須恵器	坏	石見9B期以降？	(13.5)	4.1	(8.0)	砂粒僅かに含む	外：褐灰色10YR6/1 内：褐灰色10YR5/1	外：回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ 内：回転ナデ	8C末葉以降？
140	6	80	H8	5層	須恵器	高台付稜碗	石見10期以降	17.4	5.7	9.4	砂粒多く含む	外：灰色5Y6/1 内：灰色5Y6/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	貼付高台 9C後半～10C代
140	7	81	G5	5層	須恵器	高坏	石見1期				砂粒少し含む	外：黄灰色2.5Y6/1 内：灰色N5/	外：回転ナデ、カキメ、透かし1ヵ所以上 内：回転ナデ	5C末
140	8	81	H7	5層	須恵器	高坏	石見3～4期				砂粒少し含む	外：灰色5Y5/1 内：灰色5Y5/1	外：回転ナデ、カキメ透かし3ヵ所？ 内：ナデ、同心円状当具痕	6C末
140	9	81	E4	5層	須恵器	高坏	石見4期？			7.6	砂粒やや多く含む	外：オリーブ黒色7.5Y3/2 内：オリーブ黒色7.5Y3/2	外：回転ナデ 内：ナデ	6C末？
140	10	81	F4	5層	須恵器	高坏	石見4期～5-6A期			9.1	砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：灰白色2.5Y8/2	外：ナデ 内：ナデ	6C末～7C初
140	11	81	F6、G6	5層	須恵器	把手付碗	石見1期	(10.7)	8.1	丸底	細密	外：灰色N4/ 内：灰色N6/1	外：回転ナデ、把手、波状文 内：回転ナデ、ナデ	TK208併行？
140	12	81	F3	5層	須恵器	甕	石見3期？	12.3			砂粒少し含む	外：暗オリーブ色7.5Y4/3 内：灰色7.5Y5/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	著しい歪み
140	13	81	H7	5層	須恵器	壺		(19.9)			砂粒少し含む	外：灰白色2.5Y7/1 内：灰白色2.5Y7/1	外：回転ナデ、ヘラ描き波状文3条 内：回転ナデ	焼成不良
140	14	81	G7、H6	5層	須恵器	壺		(22.6)			砂粒多く含む	外：灰色N6/ 内：灰白色5Y8/2	外：回転ナデ、櫛描き波状文 内：回転ナデ、櫛描き波状文	焼成不良
140	15	81	G5	5層	須恵器	長頸壺					砂粒少し含む	外：灰色N5/ 内：褐灰色10YR5/1	外：回転ナデ、列点文 内：回転ナデ	下から上へ自然釉流れる
140	16	81	F3、F4	5層	須恵器	壺					砂粒含む	外：灰色N6/1 内：灰色7.5Y6/1	外：ナデ、カキメ 内：ナデ、同心円状当具痕	
140	17	81	H7	3-4-5層	須恵器	長頸壺					砂粒少し含む	外：灰色N6/ 内：灰色N6/	外：ナデ、絞り目 内：ナデ、絞り目	
140	18	82	F4	5層	須恵器	甕		16.9			砂粒やや多く含む	外：灰色5Y6/1 内：灰白色5Y7/1	外：ナデ、平行タタキ 内：ナデ、同心円状当具痕	
140	19	82	G6	5層	須恵器	甕		(32.8)			砂粒少し含む	外：灰色N4/ 内：灰白色N7/	外：ナデ、格子タタキ 内：ナデ、同心円状当具痕	重ね焼痕
141	1	83	F3	5層	土師器	甕	草田6期	15.8	23.5		砂粒含む	外：浅黄橙色2.5Y8/3 内：浅黄橙色2.5Y8/3	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ、平行線文 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	底部穿孔1ヵ所
141	2	83	F3、F4	5層	土師器	甕	草田6期	(16.0)		2.0	砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR5/2 内：明褐灰色7.5YR7/2	外：ヨコナデ、ハケ、平行線文 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	
141	3	83	G6	5層	土師器	甕	小谷2～3式	23.5			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
141	4	83	G6	5層	土師器	甕	小谷3～4式	(13.0)			白色砂粒含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/8	外：ヨコナデ、ハケ、平行線文 内：ヨコナデ、ケズリ	
141	5	83	G5	5層	土師器	甕	小谷2式？	12.4			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：橙色2.5YR7/6	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	口縁に穿孔あり
141	6	83	E1	5層	土師器	甕	大東1-2式？	9.6			砂粒多く含む	外：橙色5YR7/8 内：橙色5YR7/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ、ナデ、ケズリ	
141	7	83	G5	5層	土師器	甕	小谷2～3式	18.0			砂粒多く含む	外：赤褐色5YR5/4 内：にぶい橙色5YR6/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
141	8	83	F6	5層	土師器	甕	小谷3～4式	(16.9)			白色砂粒少し含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
141	9	83	E1	5層	土師器	甕	大東1～3式	11.0			砂粒多く含む	外：明黄褐色10YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ、線刻 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
141	10	83	E3、F3 E4、F4	5層	土師器	甕	大東1～3式	17.2			砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色10YR7/4 内：にぶい黄褐色10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
141	11	83	E3	5層	土師器	甕	吉備型甕 草田6期	14.8			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい褐色7.5YR5/3	外：ヨコナデ、擬凹線文8条 内：ヨコナデ、ケズリ？	
142	1	84	E3、F1	5層	土師器	甕	草田6期？	14.4			砂粒微量含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/3	外：ヨコナデ、右上がりタタキ 内：ヨコナデ、ミガキ状ナデ	
142	2	84	E3、E4	5層	土師器	甕	草田6期？	14.2			砂粒少し含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：にぶい黄橙色10YR4/1	外：ヨコナデ、右上がりタタキ 内：ヨコナデ、ナデ ミガキ状ナデ	
142	3	84	H7	5層	土師器	甕	布留系小谷2式以前	(15.0)			白色砂粒やや多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面タール状付着物
142	4	84	G7	5層	土師器	甕	布留系小谷2式以前	(14.2)			白、赤色の砂粒やや多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着
142	5	84	G6	5層	土師器	甕	大東1～3式	(12.4)			砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	
142	6	84	E4	5層	土師器	甕	大東1～3式	17.0			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/3 内：にぶい橙色7.5YR7/3	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
142	7	84	E2	5層	土師器	甕	大東1～3式	19.0			砂粒やや多く含む	外：灰白色7.5YR8/2 内：灰白色7.5YR8/2	外：ヨコナデ、ハケ、 内：ヨコナデ、ケズリ	
142	8	85	E2	5層	土師器	甕	大東1-2式？	(19.0)			砂粒多く含む	外：黄橙色10YR8/6 内：黄橙色10YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ、沈線文1条 内：ヨコハケ、ケズリ	焼成時破裂痕あり
142	9	85	G5	5層	土師器	甕	大東1～3式	(16.0)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 浅黄橙色7.5YR8/4 内：橙色5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ケズリ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
142	10	84	G6	5層	土師器	甕	大東1･2式	(13.0)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ	
142	11	85	G5	5層	土師器	甕	大東 1～3式	(18.0)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR7.5YR8/4	外：ハケ後ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	
142	12	85	G6	5層	土師器	甕	大東 1～3式	(22.2)			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/8 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
143	1	84	F3	5層	土師器	甕	大東 1～3式	19.0			砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色10YR7/4 内：にぶい黄褐色10YR7/4	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
143	2	84	F3	5層	土師器	甕	大東 1～3式	13.8	21.8		砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ、ケズリ	
143	3	85	E4	5層	土師器	甕	大東3式？	17.2			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ、線刻	
143	4	86	E4	5層	土師器	甕	大東3式？	20.0			砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR6/3 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ヨコナデ、ナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ？、ケズリ	
143	5	86	E1、E2	5層	土師器	甕	大東 1～3式	(19.2)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
143	6	86	F6	5層	土師器	甕	大東3式？	(18.2)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ 後ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
143	7	85	G7	5層	土師器	甕	大東3式？	14.6			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：明赤褐色2.5YR5/6	外：ヨコナデ、ハケ、 ハケ後ナデ、指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ	
143	8	85	F6	5層	土師器	甕	大東 1～3式	17.8			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色2.5YR6/6	外：ハケ後ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
143	9	85	F5	5層	土師器	甕	大東 1～3式？	(9.8)			砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ、ナデ	
144	1	86	E4	5層	土師器	甕	大東3式？	15.0			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：橙色2.5YR7/8	外：ナデ、ハケ 内：ハケ、ナデ、ケズリ	
144	2	86	E2	5層	土師器	甕	大東3式？	(16.6)			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
144	3	86	E3	5層	土師器	甕	大東3式？	(13.8)			砂粒多く含む	外：赤橙色10YR6/8 内：赤橙色10YR6/8	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ハケ、ケズリ	
144	4	87	F3	5層	土師器	甕	大東3式？	14.7			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
144	5	87	G6	5層	土師器	甕	大東3式？	12.1			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ ナデ、指頭痕	
144	6	86	E1	5層	土師器	甕	大東 3～5式	(22.0)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	
144	7	87	E4、F4	5層	土師器	甕	大東 3～5式	13.2			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ ケズリ、線刻	
144	8	86	F4	5層	土師器	甕	大東 3～5式	21.8			砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ、工具痕	
144	9	86	F4	5層	土師器	小型甕	不明	10.4			砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ、ナデ ケズリ	
145	1	87	G7、 H7、H8	5層	土師器	壺	大東 1～3式	(22.8)			白、赤色砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ナデ ハケ、指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ	
145	2	87	F4	5層	土師器	壺	大東 1～3式？	19.0			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	
145	3	87	E4	5層	土師器	壺	小谷 2～3式				砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ハケ、突帯文 内：ヨコナデ、ナデ	
145	4	87	G5	5層	土師器	壺	小谷 3～4式	14.4			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
145	5	88	F7	5層	土師器	壺	小谷2式	17.2			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
145	6	88	F5	5層	土師器	壺	小谷2式？	18.8			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
145	7	87	E2	5層	土師器	壺	大東1･2式	11.4			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ、刺突文 内：ヨコナデ、ハケ、 ナデ、ケズリ	
145	8	87	G6、F7	5層	土師器	壺	小谷式？				砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/8	外：板状工具によるナデ 線刻、刺突文、竹管文 内：ナデ、ケズリ	
146	1	88	G4	5層	土師器	高坏	小谷4式～ 大東1･2式	(15.2)		(9.1)	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR7/8	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ ミガキ、指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ？、 ケズリ、ナデ	接合法不明
146	2	88	F5	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	13.7	10.7	10.5	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：赤色7.5YR4/6	外：ミガキ、ハケ後ナデ 内：ハケ、ミガキ、ナデ	円盤充填
146	3	88	F4	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	15.4			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：灰白色10YR8/2	外：ハケ、ヨコナデ 内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	円盤充填
146	4	88	F5	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	(12.4)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：明赤褐色5YR5/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	接合法不明
146	5	88	F4	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	17.5	12.0	11.4	砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	円盤充填
146	6	88	G4	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	25.6		14.1	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ、ナデ	円盤充填
146	7	88	G6	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	(17.3)	17.6	12.8	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/6 内：淡赤橙色2.5YR7/4	外：ハケ、ナデ 内：ハケ、ナデ	坏部と胴部別作り
146	8	88	F4	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	(14.9)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	円盤充填
146	9	89	F5	5層	土師器	高坏	小谷4式～ 大東1･2式	(15.2)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ ミガキ 内：ヨコナデ、ハケ ハケ後ナデ、工具痕	円盤充填
146	10	89	F5	5層	土師器	高坏	小谷4式～ 大東1･2式	14.5			砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ ＋指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕、暗文状刺突	円盤充填
146	11	89	F6	5層	土師器	高坏	小谷4式～ 大東1･2式	14.8			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色2.5YR7/6	外：ハケ後ヨコナデ 内：ハケ後ヨコナデ、ナデ	円盤充填
146	12	89	G5	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	(14.0)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ヨコナデ、ケズリ後ナデ 内：ヨコナデ	円盤充填
146	13	89	E2	5層	土師器	高坏	大東 1～3式	17.4			砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/1 内：灰白色2.5Y8/1	外：ヨコナデ、ハケ 内：ハケ、ナデ	坏部と胴部別作り

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
146	14	89	F3	5層	土師器	高坏	大東1～3式	15.4			砂粒多く含む	外：浅黄色7.5YR8/6 内：浅黄色7.5YR8/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ	坏部と胴部別作り
146	15	89	F5	5層	土師器	高坏	大東1～3式	(22.0)			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ミガキ、指頭痕 内：ハケ、ミガキ	坏部と胴部別作り
147	1	90	H7	5層	土師器	高坏	小谷式？			(11.4)	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ナデ、ハケ後ミガキ、ヨコナデ、指頭痕 内：ナデ、ハケ後ナデ、ヨコナデ	接合法不明
147	2	90	F4、G4	5層	土師器	高坏	小谷式？				砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ミガキ 内：ミガキ、ナデ	円形透かし4ヵ所 円盤充填
147	3	89	F7	5層	土師器	高坏	小谷式？			10.4	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：灰白色10YR8/2	外：ハケ後ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	接合法不明
147	4	90	G5	5層	土師器	高坏	外来系			(19.4)	砂粒少し含む	外：にぶい黄橙色10YR7/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ハケ後ミガキ、ヨコナデ 内：ケズリ後ナデ	円形透かし2ヵ所以上 外面煤付着
147	5	89	F4	5層	土師器	高坏	大東1-2式？			11.0	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ミガキ、ヨコナデ、指頭痕 内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	円盤充填
147	6	89	E1	5層	土師器	高坏	大東1～3式			12.0	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：橙色2.5YR7/8	外：ハケ後ミガキ、ナデ、工具痕 内：ケズリ、ヨコナデ	円盤充填
147	7	89	E3	5層	土師器	高坏	大東1～3式			11.7	金雲母、砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい赤褐色5YR5/4	外：ヨコナデ 内：ケズリ、ヨコナデ	円盤充填 外面煤付着
147	8	89	F4	5層	土師器	高坏	大東1～3式			(11.0)	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：明赤褐色5YR5/8	外：ハケ後ナデ 内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	円形透かし1ヵ所 円盤充填
147	9	90	F4	5層	土師器	高坏	大東1～3式			9.4	砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：灰白色2.5Y8/2	外：ミガキ、ヨコナデ 内：ケズリ、ヨコナデ	円形透かし1ヵ所 接合法不明
147	10	89	F5	5層	土師器	高坏	大東1～3式？			8.4	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ヨコナデ 内：ケズリ後ナデ、ヨコナデ	円盤充填？
147	11	90	E1	5層	土師器	低脚高坏	大東4-5式？			8.9	砂粒含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ナデ 内：ケズリ	一体作り
147	12	90	F4	5層	土師器	低脚高坏	大東4-5式？			9.0	砂粒含む	外：橙色5YR6/8 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	一体作り
147	13	90	F4	5層	土師器	低脚高坏	大東4-5式？			9.6	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ナデ 内：ナデ	一体作り
147	14	90	F4	5層	土師器	低脚高坏	大東4-5式？			8.8	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、指頭痕 内：ケズリ後ナデ、ケズリ後ヨコナデ	一体作り
147	15	90	F4、G4	5層	土師器	低脚坏	小谷3-4式～大東1式	(11.1)			砂粒若干含む	外：淡橙色5YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ハケ後ヨコナデ、ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	
147	16	90	F4	5層	土師器	低脚坏	小谷3-4式～大東1式	12.0			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ	
147	17	90	E2	5層	土師器	低脚坏	小谷式			7.0	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ 内：ミガキ、ヨコナデ	
147	18	90	G6	5層	土師器	低脚坏	小谷式			5.6	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：灰白色7.5YR8/2	外：ヨコナデ 内：ミガキ、ヨコナデ	
147	19	90	F5	5層	土師器	低脚坏	小谷3-4式～大東1式	(14.0)	12.9	7.5	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ハケ後ナデ、ナデ？	
147	20	90	E2	5層	土師器	低脚坏	小谷3-4式～大東1式	(11.4)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ハケ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	
147	21	90	F3	5層	土師器	低脚坏	小谷3-4式～大東1式			6.2	砂粒多く含む	外：橙色5YR7/8 内：橙色5YR7/8	外：ハケ、ナデ 内：ミガキ	
147	22	90	F4	5層	土師器	低脚坏	小谷3-4式～大東1式			5.6	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
147	23	90	E2	5層	土師器	小型器台	小谷2式以前			10.8	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/8	外：ミガキ、タタキ？ 内：風化の為不明	円形透かし1ヵ所
147	24	90	F6	5層	土師器	小型器台	小谷2式以前			(8.4)	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ハケ後ミガキ、ナデ 内：ナデ、ハケ	円形透かし1ヵ所
147	25	90	F6	5層	土師器	鼓形器台	小谷2式以降			(21.2)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ 内：風化の為不明	
147	26	91	F4	5層	土師器	坏	大東1-2式	12.5	4.0		砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/7	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：風化の為不明	
147	27	91	F3	5層	土師器	坏	大東1-2式	13.4	5.1		砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR7/6	外：ハケ 内：ナデ	
147	28	90	F6	5層	土師器	坏	大東1-2式	(11.8)	5.2		砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：灰色7.5Y4/1	外：ヨコナデ、ナデ、指頭痕 内：ハケ後ナデ、指頭痕	
147	29	91	G6	5層	土師器	坏	大東3式	15.5	6.2	5.2	砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色5YR7/6	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ	
147	30	91	F6	5層	土師器	坏	大東3式	15.4			砂粒多く含む	外：赤褐色2.5YR4/6 内：明赤褐色2.5YR5/6	外：ナデ、ハケ後ヨコナデ、ケズリ後ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕？	
147	31	91	F5	5層	土師器	坏	大東3式	15.9	7.7		砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：赤色10YR5/8	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ	148-8と入れ子
148	1	91	G7、H7、H8	5層	土師器	小型壺	小谷式	(10.8)	6.7		砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：風化の為不明 内：風化の為不明	
148	2	92	F5	5層	土師器	小型壺	小谷式？	(9.8)	9.1		砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ナデ？、指頭痕 内：ヨコナデ、指頭痕、ナデ	外面煤付着
148	3	92	F4	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	9.6	7.8	3.5	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：黒褐色5YR6/4	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
148	4	91	E2	5層	土師器	小型壺	大東1-2式	8.2			微砂粒多く含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
148	5	91	E2	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	(8.8)			砂粒多く含む	外：明黄褐色10YR7/6 内：明黄褐色10YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ケズリ	焼成時破裂痕あり
148	6	92	E2	5層	土師器	小型壺or小型甕	小谷式？	11.2	13.0		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ、指頭痕	内外面煤付着
148	7	91	E2	5層	土師器	小型壺	大東1-2式	15.4	(10.0)		砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ？、ハケ 内：風化の為不明	
148	8	92	F5	5層	土師器	小型壺	大東3式	12.3	11.3		砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：淡黄色2.5Y8/3	外：ヨコナデ、指頭痕 内：ヨコナデ、ナデ	147-31と入れ子 内外面煤付着
148	9	91	E3	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	8.0			砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色5YR7/8	外：ヨコナデ、ハケ、赤彩 内：ヨコナデ、指頭痕	
148	10	92	F5	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	(8.3)	11.8		砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色2.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ指頭痕	
148	11	92	F5	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	(5.0)	9.5		砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：淡橙色5YR6/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ指頭痕	外面煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様·調整·その他	備考
								口径	器高	底径				
148	12	91	E4	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	9.4	4.5		砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ケズリ	
148	13	92	F4	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	9.5	9.0		砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/8 内：橙色2.5YR6/6	外：ヨコナデ、ハケ、指頭痕 内：ヨコナデ、ハケ ナデ、ケズリ	不定形な穿孔1ヵ所
148	14	92	G4	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	6.1	6.1	3.9	砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ヨコナデ、ナデ、指頭痕 内：ナデ、ヨコナデ	
148	15	92	G6	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	(5.7)	6.9		砂粒多く含む	外：橙色2.5YR7/8 内：にぶい橙色2.5YR6/4	外：ナデ、ハケ後ナデ 内：ナデ	不明圧痕あり
148	16	92	F5	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	(9.6)	7.4	4.6	砂粒多く含む	外：にぶい橙色2.5YR6/4 内：にぶい橙色7.5YR6/4 黒色＊1.5/	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	
148	17	91	F4	5層	土師器	小型壺	大東1～3式	13.4			砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR5/3 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ナデ、工具によるナデ 内：ナデ	
149	1	93	E4、F4	5層	土師器	甑	大東4-5式？	28.0			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ハケ後ヨコナデ 内：ヨコナデ	
149	2	93	E3	5層	土師器	甑	大東4-5式～古代			14.4	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色5YR6/6	外：ハケ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ	円形の穿孔1ヵ所
149	3	93	F3	5層	土師器	甑or鍋（把手）	大東4-5式？	長さ6.6	幅3.9	厚3.7	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：橙色5YR6/6	外：ナデ（把手） ハケ（胴部） 内：ケズリ（胴部） ナデ（把手）	
149	4	93	F4	5層	土師器	甑（把手）	大東4-5式？	長さ5.7	幅4.0	厚4.0	砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ 内：ケズリ	
149	5	93	F1	5層	土師器	甑（把手）	大東1～3式	長さ3.2	幅3.3	厚1.6	微砂粒含む	外：褐灰色5YR4/1 内：褐灰色5YR5/1	外：ナデ 内：ナデ	須恵質
149	6	93	F4	5層	土師器	甑？（把手）	大東4-5式？	長さ(7.2)	幅3.6	厚3.7	砂粒少し含む	外：橙色5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	
149	7	93	F6	5層	須恵器模倣土師器	蓋	石見1期	(16.4)			砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：橙色5YR7/6	外：ヨコナデ、ケズリ 後ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	つまみが付く蓋 初期須恵器模倣
149	8	93	H7 G6	5層	須恵器模倣土師器	高坏	不明	(10.4)			砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/8 内：橙色2.5YR6/8	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	有蓋高坏
149	9	92	G6、G7	5層	須恵器模倣土師器	蓋	黒色磨研石見2-3期	14.2	4.1		砂粒多く含む	外：黒色N1.5/ にぶい黄色2.5Y6/3 内：黒色N2/	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ、ナデ	坏として使用？
150	1	93	F6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	3.3	2.0		砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
150	2	93	F6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	4.9	3.1		砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ナデ 内：ナデ	
150	3	93	F6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	5.4	3.8		砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
150	4	93	F6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	5.4	5.1		砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ 内：ナデ	
150	5	93	G6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式		5.0	2.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：にぶい赤褐色5YR5/4	外：ナデ 内：ナデ、工具痕	
150	6	93	G6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	4.5	5.5		砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：明赤褐色5YR5/6	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
150	7	93	H8	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	4.9	5.5		長石、石英少し含む	外：橙色7.5YR7/6 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ 内：ナデ	
150	8	93	F6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	3.2	4.5	3.4	砂粒多く含む	外：青黒色5B ＊1.7/ 内：青黒色5B2/1	外：ハケ後ナデ 内：ナデ	
150	9	93	H8	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	5.7	5.4	2.0	褐色粒少し含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	底部に溝上の凹凸
150	10	93	F2	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	7.0	4.9		褐色粒と微砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/6 内：浅黄橙色7.5YR8/6	外：ナデ 内：ナデ	
150	11	93	G6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	4.0	3.9	2.8	砂粒多く含む	外：橙色5YR6/6 内：にぶい赤褐色5YR5/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
150	12	93	G6	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	(4.8)	5.2	5.0	砂粒多く含む	外：明赤褐色2.5YR5/6 内：明赤褐色2.5YR5/8	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕	
150	13	93	E3	5層	土師器	ミニチュア土器	大東1～3式	5.8	7.2	3.4	微砂粒少し含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ？ 内：ナデ	
151	1	94	F4	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式	22.2			砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR5/2 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ、段、刻目 内：風化の為不明	
151	2	94	F4	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式	29.6			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4 内：にぶい橙色5YR6/4	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ、段 内：ヨコナデ、ハケ	内面煤付着
151	3	94	F4	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式	30.6			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色 10YR477/4 内：橙色5YR7/6	外：ナデ、ハケ、段 内：風化の為不明	
151	4	94	E3	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-1様式	29.8			砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR6/2 内：褐灰色10YR5/1	外：風化の為調整不明 刻目、沈線文1条 内：ナデ、ハケ	
151	5	94	F5	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ-2様式	(24.6)			砂粒多く含む	外：灰褐色10YR5/2 内：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ハケ	
151	6	94	G7	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式			(9.2)	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：灰褐色7.5YR6/2	外：ハケ、ナデ 内：ナデ	
151	7	94	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅰ様式			7.9	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ハケ、ナデ 内：ハケ	内外面煤付着
151	8	94	E3	5層	弥生土器	壺	石見Ⅰ-1様式	14.6			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色5YR7/6	外：風化の為調整不明 沈線文2条、口頸部境段 内：ハケ後ミガキ、ナデ	
151	9	94	G6	5層	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式			(8.5)	砂粒多く含む	外：明赤褐色5YR5/6 内：橙色5YR7/6	外：ミガキ、ナデ 内：ミガキ	
151	10	94	H8	5層	弥生土器	壺	石見Ⅰ様式			10.6	長石、石英多く含む	外：明黄褐色10YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ハケ後ミガキ 内：ミガキ	
151	11	94	E3	5層	弥生土器	蓋	石Ⅰ-1様式？	頭5.7			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR6/4 内：にぶい黄褐色10YR7/4	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ミガキ	
152	1	95	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ-1様式？	(18.4)			砂粒ほぼ含まない	外：にぶい橙色5YR6/3 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、ハケ 内：ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
152	2	95	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ-1様式？	(18.2)			白色砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ナデ、ハケ、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ハケ、 指頭痕	胴部施文： 櫛歯状工具
152	3	95	F5	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式	17.6			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ 凹線文3条、刺突文 内：ヨコナデ、ハケ	外面吹きこぼれ痕あり 胴部施文：二枚貝腹縁

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
152	4	95	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式塩町式	18.0			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ヨコナデ、ハケ、ミガキ、凹線文2条 重層刻目文2条 内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ後ミガキ	肩部施文具不明
152	5	96	E3	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式塩町式	25.0			砂粒多く含む	外：褐灰色10YR6/1 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ヨコナデ、ハケ、凹線文3条、重層刻目文4条 内：ヨコナデ、ハケ	肩部施文：二枚貝腹縁
152	6	96	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式塩町式	(14.5)			黄褐色、灰色の砂粒多く含む	外：淡橙色5YR8/3 内：灰白色10YR8/2	外：ナデ、凹線文3条 重層刻目文？ 内：ナデ	肩部施文具不明
152	7	96	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式塩町式	(27.6)			灰色の砂粒非常に多く含む	外：淡黄色2.5Y8/3 内：淡黄色2.5Y8/3	外：ヨコナデ、板ナデ、凹線文3条、重層刻目文4条 内：ナデ	肩部施文：幅広工具による刺突
152	8	96	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式塩町式	(16.6)			褐色、灰色の砂粒非常に多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ヨコナデ、凹線文3条 重層刻目文、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ	外面煤付着 肩部施文：二枚貝腹縁
152	9	96	G5	5層	弥生土器	小型甕	石見Ⅳ様式				白色小砂粒僅かに含む	外：暗赤灰色2.5YR3/1 内：にぶい橙色5YR3/1	外：ナデ、重層刻目文6条 列点文 内：ナデ	肩部施文：ヘラ状工具？
152	10	96	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式？			(7.0)	砂粒多く含む	外：淡橙色5YR8/4 内：暗青灰色5B3/1	外：ハケ 内：ハケ後ナデ	
152	11	96	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅳ様式？			8.5	白色砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR5/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ミガキ、ナデ 内：ケズリ	
153	1	96	E4、F4	5層	弥生土器	壺	石見Ⅲ-2様式？	(34.0)			砂粒多く含む	外：灰黄色2.5Y6/2 内：淡黄色2.5Y8/3	外：風化の為調整不明 内：ヘラ描き綾杉文	
153	2	96	E3～E4	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-1様式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ナデ、凹線文2条 内：ナデ、綾杉文＋円形浮文	
153	3	97	F5	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-1様式	16.6			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色10YR7/1	外：ヨコナデ、ミガキ 凹線文2条、3条、刺突文 内：ミガキ、ナデ？	
153	4	96	G6	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式				砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：黄灰色2.5Y6/1	外：ヨコナデ、重層刻目文6条 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ 指頭痕、凹線文3条以上	
153	5	96	F4	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式	23.8			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ナデ、凹線文3条 内：ナデ、ミガキ、凹線文5条	
153	6	96	G6	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式	(24.6)			砂粒多く含む	外：淡黄色2.5Y8/3 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、ハケ 凹線文4条、9条、刺突文 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ、絞り痕	
153	7	96	G6	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式				砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5Y7/4 内：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ハケ後ナデ、凹線文2条 綾杉文 内：ミガキ？	
153	8	96	G5	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ-2様式				砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/4 内：明赤褐色5YR5/6	外：ハケ、擬凹線文3条 刺突文 内：ハケ	
153	9	96	E4	5層	弥生土器	小型壺	石見Ⅳ-2様式				微砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/3 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ナデ、重層刻目文 内：ナデ、指頭痕	
153	10	96	H8	5層	弥生土器	壺？	石見Ⅳ様式？			3.5	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR6/4 内：灰黄褐色10YR5/2	外：ハケ、ナデ 内：ケズリ	外面煤付着
153	11	96	F5	5層	弥生土器	壺	石見Ⅳ様式？			5.2	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/4	外：ハケ 内：風化の為不明	
154	1	97	G6	5層	弥生土器	高坏	石見Ⅳ様式			11.4	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：にぶい黄橙色10YR7/3	外：ミガキ、凹線文14条、3条 内：ミガキ、ケズリ、絞り目	円形透かし7ヵ所
154	2	97	F4	5層	弥生土器	高坏	石見Ⅳ様式				砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色10YR7/4 内：にぶい橙色5YR6/4	外：ナデ、凹線文16条 内：ナデ、ケズリ	円盤充填？
154	3	97	G6	5層	弥生土器	高坏	石見Ⅳ様式	(25.2)			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/2 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ヨコナデ、ミガキ、凹線文3条以上、沈線文17条 内：ヨコナデ、ケズリ	
154	4	97	G6	5層	弥生土器	高坏	石見Ⅳ様式	21.4	(22.0)	15.0	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、ミガキ、凹線文5条 内：ナデ、ミガキ、凹線文6条	円形透かし 上（8ヵ所） 下（9ヵ所以上）
155	1	98	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(14.8)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ナデ 凹線文3条、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	肩部施文： 二枚貝腹縁
155	2	98	H7	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(38.8)			白色小砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：褐灰色10YR6/1	外：ヨコナデ、凹線文6条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： 巻貝殻頂部？
155	3	98	G7	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(24.8)			白色小砂粒多く含む	外：橙色5YR6/8 内：橙色5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ凹線文3条 重層刻目文？4条 内：ヨコナデ、ナデ	肩部施文具不明
155	4	98	F5	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(17.6)			白色小砂粒多く含む	外：橙色2.5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、凹線文3条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： (上)ヘラ状工具 (下)不明
155	5	98	F4	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	20.2			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰黄褐色10YR6/2	外：ヨコナデ、凹線文4条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着 肩部施文： 幅広のハケ状工具
155	6	98	F5	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(23.0)			白色砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/2 内：黄灰色2.5Y5/1	外：ヨコナデ、沈線文2条 刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： (上)ヘラ状工具 (下)二枚貝腹縁
155	7	98	F6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(18.6)			白色砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ナデ、凹線文3条 刺突文、沈線文2条 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： (上)ヘラ状工具
155	8	98	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(20.2)			白色砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：灰黄褐色10YR6/2	外：ヨコナデ、凹線文3条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： (上)ヘラ状工具
155	9	98	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(20.2)			白色砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、波状文、刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文： 竹管を3本結束？
155	10	98	F6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(20.5)			赤褐色砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ナデ、凹線文4条、刺突文 内：ナデ、ケズリ	肩部施文二枚貝腹縁
155	11	98	F6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-1様式	(25.0)			砂粒多く含む	外：灰黄褐色10YR6/2 内：灰黄褐色10YR4/2	外：ヨコナデ、ミガキ、凹線文4条、擬凹線文2条 内：ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	
156	1	99	F6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-2様式	(17.6)			白色砂粒やや多く含む	外：橙色2.5YR5/6 内：橙色5YR6/8	外：ナデ、擬凹線文2条 刺突文 内：ナデ、ケズリ後ナデ	肩部施文具不明
156	2	99	G6	5層	弥生土器	甕	石見Ⅴ-2様式	(17.4)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色10YR8/2	外：ナデ、擬凹線文4条 刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文： 二枚貝腹縁

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
156	3	99	F6	5層	弥生土器	甕	石見V-2様式	(17.5)			灰色砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：浅黄橙色10YR8/3	外：凹線文9条、刺突文 平行直線文？ 内：ナデ、ケズリ	頸部不明圧痕あり 肩部施文： 二枚貝腹縁？
156	4	99	F4	5層	弥生土器	甕	石見V-2様式	13.6			砂粒多く含む	外：灰白色7.5YR8/2 内：黄灰色2.5YR6/1	外：ヨコナデ、ハケ 擬凹線文7～8条、刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文具不明
156	5	99	F5	5層	弥生土器	甕	石見V-2様式	(20.2)			砂粒多く含む	外：灰白色2.5Y8/1 内：灰白色2.5Y8/1	外：ヨコナデ、擬凹線文5条 連続波状文、波状文 内：ヨコナデ、ケズリ、 指頭痕	肩部施文：二枚貝腹縁
156	6	99	F6	5層	弥生土器	甕	石見V-2様式	(18.8)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/4 内：灰白色10YR8/2	外：ヨコナデ、擬凹線文5条 連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
156	7	99	F6	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	(14.4)			砂粒若干含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、多条擬凹線文 連続刺突文 内：ヨコナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
156	8	99	F6	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	17.5			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：にぶい橙色5YR7/4	外：ヨコナデ、ミガキ 擬凹線文12条 連続刺突文、波状文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
156	9	99	H8	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	(25.4)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR{7/4 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ヨコナデ、多条凹線文 波状列点文 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着 肩部施文：二枚貝腹縁
156	10	99	F6	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	(19.8)			砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR6/2 内：にぶい黄橙色10YR7/4	外：ヨコナデ、擬凹線文8条 連続刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	肩部施文：二枚貝腹縁
156	11	99	F5	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	18.0			砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR6/2 内：灰褐色7.5YR6/2	外：ヨコナデ、擬凹線文6条 刺突文 内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	肩部施文： ヘラ状工具？
156	12	100	F6	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	23.8			砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：灰黄褐色10YR6/2	外：ヨコナデ、ハケ 擬凹線文8条2段 連続刺突文2段 内：ヨコナデ、ケズリ	煤付着 被熱痕あり
156	13	100	E5	5層	弥生土器	甕	石見V-3様式	30.0			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/1 内：灰白色10YR8/1	外：ヨコナデ、ハケ、ナデ 擬凹線9条、波状文 内：ヨコナデ、ケズリ	
157	1	99	G6	5層	弥生土器	甕	石見V-4様式	(19.0)			小砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR6/3 内：にぶい黄橙色10YR5/3	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ	
157	2	101	G5	5層	弥生土器	甕	石見V-4様式	(16.0)			灰色砂粒含む	外：淡橙色5YR8/4 内：淡橙色5YR8/4	外：ヨコナデ、ナデ、 平行直線文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
157	3	101	G6	5層	弥生土器	甕	石見V-4様式	(14.8)			白色砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR5/2 内：にぶい褐色7.5YR5/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 平行直線文 内：ヨコナデ、ケズリ	
157	4	101	H7、H8	5層	弥生土器	壺	石見V-1様式				砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 凹線文5～6条、擬凹線文 5条4段、波状文？ 内：ヨコナデ、ハケ 後ヨコナデ、ケズリ	
157	5	101	F6	5層	弥生土器	壺	石見V-1様式	(14.8)			砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：灰白色2.5Y8/2	外：ハケ、凹線文4条？ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ 工具痕	
157	6	101	E4	5層	弥生土器	壺	石見V-2様式	17.6			砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ、擬凹線文 4条以上、刺突文 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
157	7	101	E3	5層	弥生土器	壺	石見V-1様式？	17.6			砂粒多く含む	外：明褐灰色7.5YR7/2 内：にぶい黄褐色10YR7/2	外：ヨコナデ、凹線文3条、 3条以上 内：ヨコナデ、ケズリ	
157	8	101	H8	5層	弥生土器	壺	石見V-2様式？	(14.6)			砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR6/3 内：明褐灰色7.5YR7/2	外：ヨコナデ、凹線文2条、 指頭痕、不明文様 内：ヨコナデ、指頭痕、ケズリ	
157	9	101	H8	5層	弥生土器	壺	石見V-1様式	(13.7)			砂粒多く含む	外：灰白色10YR8/2 内：灰白色10YR8/2	外：ナデ、ハケ後ナデ 円形刺突文 内：ナデ、ケズリ	外面煤付着
157	10	101	G4	5層	弥生土器	壺	石見V-3～4様式	(17.8)			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR7/8 内：橙色5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケ後ナデ、 ケズリ？	
157	11	102	F6	5層	弥生土器	壺	九州系下大隈式？				砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：にぶい黄橙色10YR6/4	外：ヨコナデ、ハケ、刻目突帯 内：ハケ	
157	12	101	F5	5層	弥生土器	壺	石見V-2様式？	14.0			褐色粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	
157	13	102	G5	5層	弥生土器	壺	石見V-4様式	(18.6)			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：浅黄橙色7.5YR8/4	外：ヨコナデ、 内：ヨコナデ、ハケ後指頭痕 ケズリ	
157	14	102	G6	5層	弥生土器	壺	石見V-4様式				砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/3 内：褐灰色10YR4/1	外：ヨコナデ、C字刺突文 内：ナデ	
157	15	102	G5、G6	5層	弥生土器	鉢	石見V-1様式	(18.2)			白色砂粒多く含む	外：にぶい黄褐色10YR5/4 内：にぶい黄褐色10YR6/3	外：ヨコナデ、ナデ、刺突文2段 内：ヨコナデ、ケズリ	外面煤付着 上げ底
157	16	101	F6	5層	弥生土器	鉢	石見V-2様式	16.8	13.5	5.8	砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ヨコナデ、ハケ、 擬凹線文5条 内：ヨコナデ、ケズリ後ナデ	外面煤付着
157	17	102	E4	5層	弥生土器	鉢	石見V-2様式	21.6			砂粒多く含む	外：明褐灰色7.5YR7/2 内：褐灰色7.5YR4/1	外：風化の為調整不明 内：ヨコナデ、ケズリ後ミガキ	外面煤付着
157	18	102	F5	5層	弥生土器	高坏	石見V-3～4様式	26.8			砂粒多く含む	外：橙色7.5YR6/6 内：橙色7.5YR6/6	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ	脚柱部中実 接合法不明
157	19	101	F6	5層	弥生土器	高坏	石見V-3～4様式			12.8	砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR6/2 内：にぶい褐色7.5YR6/3	外：ハケ後ミガキ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ナデ	接合法不明
158	1	102	E2	5層	弥生土器	鼓形器台	石見V-3様式	18.8			砂粒多く含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR6/4	外：ナデ、多条擬凹線文 内：ヨコナデ、ナデ	
158	2	102	G5	5層	弥生土器	鼓形器台	石見V-4様式			22.2	砂粒多く含む	外：浅黄橙色7.5YR8/3 内：浅黄橙色7.5YR8/3	外：ヨコナデ 内：ケズリ、指頭痕	外面煤付着
158	3	102	F5	5層	弥生土器	器台	石見V-3～4様式	24.8			長石、石英多く含む	外：橙色7.5YR7/6 内：橙色7.5YR7/6	外：ヨコナデ、ミガキ、ナデ 内：ヨコナデ、ミガキ、ナデ	
158	4	103	G6	5層	弥生土器	脚台	石見V-1～2様式			9.2	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/3 内：灰白色5Y8/1	外：ヨコナデ、ナデ、指頭痕 内：ケズリ	外面煤付着
158	5	103	G6	5層	弥生土器	脚台	石見V-1～2様式			10.8	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ナデ 内：ケズリ	
158	6	102	H6	5層	弥生土器	脚台	石見V-1～2様式			9.0	砂粒多く含む	外：にぶい橙色5YR7/4 内：にぶい黄橙色10YR7/2	外：ナデ、刺突 内：ナデ、指頭痕	
158	7	103	H6	5層	弥生土器	脚台	石見V-1～2様式			(10.2)	砂粒多く含む	外：浅黄橙色10YR8/3 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ナデ、擬凹線文4条 内：ナデ	

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			胎土	色調	文様・調整・その他	備考
								口径	器高	底径				
158	8	102	F6	5 層	弥生土器	甕or 鉢	石見 V -1 様式？	(21.2)			砂粒多く含む	外：灰赤色2.5YR5/2 内：浅黄橙色10YR8/3	外：ナデ、刺突文 内：ナデ	口縁外面粘土紐巻き込み
158	9	102	H7	5 層	弥生土器	注口	石見 V -1 ～2 様式	長さ 4.2	外径 2.7	内径 1.0	砂粒多く含む	外：灰色10YR8/2 内：灰色10YR8/2	外：ナデ 内：ナデ	外面煤付着
158	10	102	H8	5 層	弥生土器	注口	石見 V 2 ～3 様式	長さ 4.8	外径 2.4	内径 1.1	砂粒少量含む	外：にぶい橙色7.5YR7/4 内：にぶい橙色7.5YR7/4	外：ナデ、ハケ	
158	11	102	G6	5 層	弥生土器	把手	石見 V -1 ～2 様式	長さ (8.0)	幅 (5.5)	径 2.0	砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/3	外：凹線文2 条	
158	12	103	E2	5 層	縄文土器	単純口縁深鉢	突帯文直前～2 期？				微砂粒多く含む	外：にぶい黄橙色10YR7/2 内：灰黄褐色10YR5/2	外：二枚貝条痕、刻目 内：ナデ？	
158	13	103	F4	5 層	縄文土器	深鉢	突帯文 1 ～2 期？				砂粒多く含む	外：明黄褐色10YR6/6 内：褐灰色10YR4/1	外：ナデ、突帯文、「O」字刻目 内：ナデ	
158	14	103	F4	5 層	縄文土器	深鉢	中山B 式突帯文4 期				微砂粒多く含む	外：灰褐色7.5YR4/2 内：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ナデ？、刻目突帯文 山形沈線文 内：ミガキ	
158	15	103	E2	5 層	縄文土器	浅鉢	柳浦B2 類突帯文 1 期以前？				微砂粒多く含む	外：褐灰色10YR5/1 内：褐灰色10YR4/1	外：ミガキ 内：ミガキ	穿孔1 ヵ所 外面煤付着

5 層土製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 内復元値(cm)			重量(g)	胎土	色調	備考
								長さ	幅	孔径				
159	1	103	E3	5 層	土製品	管状土錘	E 類	6.6	3.9	1.3	55.5	密	橙色5YR5/8	ナデ
159	2	103	F5	5 層	土製品	紡錘車		直径 4.1	厚 1.1	0.7	18.83	微砂粒を少し含む	外：橙色5YR6/6 裏：にぶい橙色5YR6/4	焼成前穿孔、ナデ
159	3	103	F6	5 層	土製品	土錘or 把手?		4.3	厚 1.3			砂粒多く含む	外：にぶい褐色7.5YR6/3 内：にぶい黄橙色10YR6/3	外：ナデ、指頭痕 内：ナデ、指頭痕
159	4	103	南壁T	5 層	土製品	焼土塊		長さ (11.6)	幅 (10.0)	厚 (3.0 ～3.5)	490	砂粒殆ど含まない	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：橙色5YR6/6	土器焼成関連遺物？
159	5	103	G6	5 層	土製品	焼土塊		長さ (8.6)	幅 (5.4)	厚 (4.6)	146	砂粒殆ど含まない	外：にぶい黄橙色10YR7/3 内：橙色5YR7/6	土器焼成関連遺物？
159	6	103	F4	5 層	土製品	焼土塊		長さ (7.7)	幅 (7.6)	厚 (2.4 ～4.0)	154	砂粒殆ど含まない	外：浅黄橙色7.5YR8/4 内：橙色5YR7/4	土器焼成関連遺物？

5 層石製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	法量() 内遺存/ 復元値(cm)			重量(g)	材質	備考
							長さ	幅	厚さ			
160	1	103	F4	5 層	石製品	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.43	安山岩	
160	2	103	F4	5 層	石製品	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.72	安山岩	
160	3	103	E2	5 層	石製品	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.51	安山岩	未成品
160	4	103	F2	5 層	石製品	石鏃	1.8	1.3	0.4	0.79	黒曜石	
160	5	103	E3	5 層	石製品	石錐	2.0	1.1	0.4	0.76	安山岩	
160	6	103	F5	5 層	石製品	不明剥片	(1.9)	4.1	0.65	3.55	緑色凝灰岩	未貫通の孔あり
160	7	103	H7	5 層	石製品	模造品	(3.3)	3.05	(7.44)	7.45	滑石	穿孔 1 ヵ所
161	1	104	F4	5 層	石製品	石核	6.1	3.6	1.4	28.81	安山岩	
161	2	104	E3	5 層	石製品	スクレイパ	7.2	5.1	0.6	22.97	安山岩	
161	3	104	E 2	5 層	石製品	磨製石斧	21.8	7.3	5.1	1664.81	塩基性片岩	未成品（原石）
161	4	104	E5	5 層	石製品	磨製石斧	20.3	9.4	5.6	1332.81	塩基性片岩	未成品（剥離段階）
161	5	104	E2	5 層	石製品	磨製石斧	16.5	8.3	2.3	544.88	塩基性片岩	未成品（剥離段階）
161	6	104	E4	5 層	石製品	磨製石斧	12.2	6.0	4.5	411.65	塩基性片岩	未成品（剥離段階）
162	1	104	E3	5 層	石製品	磨製石斧	(17.5)	7.6	6.4	1256.85	塩基性片岩	未成品（敲打段階）
162	2	104	F4	5 層	石製品	磨製石斧	16.4	4.5	3.4	392.54	塩基性片岩	未成品（敲打段階）
162	3	104	F3	5 層	石製品	磨製石斧	(9.8)	3.4	2.2	131.33	塩基性片岩	未成品（研磨段階）
162	4	104	E4	5 層	石製品	磨製石斧	(11.8)	4.5	2.9	210.23	塩基性片岩	未成品（研磨段階）
162	5	104	E3	5 層	石製品	石製支脚？	22.7	7.3	4.0	1053.44	不明	被熱痕あり
162	6	104	E3	5 層	石製品	石製支脚？	18.1	5.5	4.2	728.75	不明	被熱痕あり
163	1	105	E3	5 層	石製品	石鎌？	(8.8)	5.3	0.8	50.61	安山岩	
163	2	105	F4	5 層	石製品	板状砥石	(12.0)	6.1	0.9	32.27	不明	板石硯？
163	3	105	F4	5 層	石製品	板状砥石	5.1	3.5	0.7	12.11	不明	
163	4	105	F3	5 層	石製品	砥石or 磨石？	8.0	6.1	2.7	305.0	不明	
163	5	105	E4	5 層	石製品	砥石	7.1	7.7	3.5	149.91	砂岩	全面使用
163	6	105	F4	5 層	石製品	石皿	16.9	13.0	5.7	1940.19	不明	1 面使用
164	1	105	F3	5 層	石製品	磨石	13.2	11.7	5.8	1302.51	花崗岩	敲打痕あり
164	2	105	E4	5 層	石製品	磨石	10.7	10.5	6.3	1089.92	花崗岩	敲打痕あり
164	3	105	F3	5 層	石製品	磨石	13.2	11.7	5.8	1302.51	花崗岩	２面に使用痕あり
164	4	105	F3	5 層	石製品	磨石	13.6	6.3	5.0	625.21	不明	2 ヵ所に打痕あり
164	5	105	E4	5 層	石製品	磨石	11.5	(8.0)	4.7	563.77	花崗岩	打痕、使用面あり
164	6	105	E4	5 層	石製品	磨石	8.8	7.1	4.2	391.91	不明	
164	7	105	E 3	5 層	石製品	石錘	6.2	5.1	1.6	56.20	不明	上下に抉り
165	1	106	E4	5 層	石製品	台石	34.0	296	9.3	1100.0	塩基性片岩	炭化物付着

5 層鉄製品・青銅製品

挿図番号	遺物番号	写真図版	Gr	層位	種別	器種	分類	法量() 遺存/ 内復元値(cm)			重量(g)	備考
								長さ	幅	厚さ		
166	1	106	F3	5 層	鉄製品	伊予札	A 類	(3.3)	(2.5)	0.2	4.94	
166	2	106	F2	5 層	鉄製品	鏃	柳葉 II 式or 雁又式	(7.8)	(3.0)	0.6	13.25	時期不明
166	3	106	F4	5 層	鉄製品	鏃	方頭斧箭1 式	(10.6)	1.6	0.4	49.51	土器付着、8C ～11C 前半
166	4	106	G7、H7、H8	5 層	鉄製品	鏃	五角形式	(8.0)	3.3	0.5	32.55	8C ～11C 前半
166	5	106	E3	5 層	鉄製品	板状		(8.2)	9.3	0.25	74.69	L 字形
166	6	106	E3	5 層	鉄製品	直刃鎌		14.7	2.8	0.4	127.8	
166	7	106	F4	5 層	鉄製品	板状		7.9	3.4	0.4	70.35	
166	8	106	G7	5 層	鉄製品	板状		10.4	(3.8)	0.6	91.73	
166	9	106	D3	5 層	鉄製品	釘	折釘	(6.2)	1.1	0.9	16.06	
166	10	106	D3	5 層	鉄製品	釘	折釘	(4.85)	0.5	0.3	7.89	
166	11	106	D4	5 層	鉄製品	釘	折釘	(3.8)	0.7	0.3	7.10	
166	12	106	E4	5 層	鉄製品	棒状		7.2	0.4		7.36	
166	13	106	G6	5 層	銭貨	寛永通寶	古寛永	2.4	2.4	0.1	2.78	1636 ～1659 年

第16表　近世陶磁器集計表

材質	産地	器種	器形	数量
磁器（J）	肥前系（B）	碗(1)	初期伊万里(a/b)	6
			高台無釉(b)	7
			三角高台(c)	2
			U 字高(d)	5
			U 字低(e)	5
			丸形粗製(g)	10
			朝顔形(r)	2
			浅半球(f)	1
			半球形(j)	1
			半筒形(k)	1
			端反形(n)	2
			不明	8
		小杯(6)	端反形(b)	1
			不明	1
		仏飯器(8)		3
		皿(2)	初期伊万里(a)	11
			初期伊万里(k)	1
			蛇の目高台(h)	1
			U 字高台(e)	1
			平形(k)	3
			深手皿(j)	1
			その他	6
		大皿(3)		1
		紅皿(6)	貝殻(e)	1
		鉢(5)	八角(e)	1
			その他	1
		猪口(7)		3
		香炉(9) ？		1
		瓶(10)	初期伊万里(e)	1
			その他	10
		蓋(00)	端反形碗(c)	1
		その他	青磁染付	3
				30
	瀬戸美濃系(C)	小杯(6)	薄手酒杯(d)	1

材質	産地	器種	器形	数量
陶器（T）	肥前系（B）	碗(1)	灰釉	2
			鉄釉	2
			絵唐津	1
			端反形	1
			呉器形(a)	8
			京焼風(b)	1
			陶胎染付(f)	15
			刷毛目(d)	11
			轆轤形	1
			その他	8
		皿(2)	胎土目(e)	4
			砂目(b)	7
			胎土目/ 砂目	5
			透明釉(d)	4
			青緑釉(a)	3
			その他	6
		鉢(5)	三島手(b)	2
			刷毛目(a)	5
			不明	8
		擂鉢(29)		1
		片口(23)		3
		鉢/ 片口		1
		香炉(9)		1
		鉢/ 鍋		1
		瓶(10)	辣韭形	1
		壺/ 甕(15)	青海波叩き	4
			格子目叩き	6
			不明	3
		蓋(00)		1
		不明		14

材質	産地	器種	器形	数量
陶器（T）	瀬戸美濃系(C)	向付	志野	1
	信楽系（D）	碗(1)	浅半球形	1
			半球形(b)	4
			不明	3
		鉢(5)		1
		不明		2
	萩系（H）	碗(1)	半球形/ 腰張形	1
			不明	4
		皿(2)		18
		大皿(3)		1
		鉢(5)		4
		瓶(10)		1
		不明		1
	須佐焼	擂鉢(29)		1
	在地系	碗(1)	端反形	1
		皿(2)		3
		鉢(5)		5
		捏鉢		4
		擂鉢(29)		1
		水鉢		1
		片口(23)		1
		瓶(10)	燗徳利	2
			不明	1
		壺/ 甕(15)		1
		鍋(33)		2
		鍋/ 土瓶		2
		蓋(00)	土瓶	1
	不明	碗(1)		1
		壺/ 甕(15)		1
		不明		1

第17表　5層出土石製品集計表

〈上段：個数〉〈下段：重量〉	砂岩	泥岩	凝灰岩	黒曜石	安山岩	デイサイト	流紋岩	花崗岩	塩基性片岩	粘板岩	碧玉・瑪瑙	緑色凝灰岩	石英	滑石	不明	石器合計
石鏃				3 2.24	10 19.04											13 21.28
石匙					1 6											1 6
石包丁										2 20.97						2 20.97
スクレイパー					3 49.88										1 32.05	4 81.93
楔形石器				6 23.55	2 8.19							1 3.77				9 35.51
RF					1 1.25							1 0.72				2 1.97
打製石斧（未成品）									3 390.83						1 33.03	4 423.86
磨製石斧（製品）									2 534						3 608.91	5 1142.91
磨製石斧（未成品）									128 60648.93						1 21.52	129 60670.45
敲石						4 765.26		1 950							14 11986.98	19 13702.24
磨石								3 1650.95							30 15297.45	33 16948.4
凹石															1 278	1 278
砥石	10 706.68		1 50.93												15 2143.79	26 2901.4
台石						1 10550			1 11000							2 21550
石皿															5 5348.46	5 5348.46
石錘					1 0.76										2 94.34	3 95.1
石鎌					1 50.61				1 55.83							2 106.44
石核		3 49.81	1 22.02		3 71.84										1 138.96	8 282.63
剥片・チップ		18 105.74	21 122.95	88 132.24	158 440.94		3 169.84	11 209.73	673 19609.99		2 4.79	3 6.01	2 8.65		116 2268.26	1095 23079.14
その他石製品		1 130	1 22.71		1 5.29	20 793.78			5 275.85			1 3.56		1 7.44	5 237.12	35 1475.75
原石・自然礫	2 153.63	3 110.37						3 289.4	166 4331.15	2 59.87			2 73.48		32 5080.68	210 10098.58
石材合計	12 860.31	25 395.92	24 218.61	97 158.03	181 653.8	25 12109.04	3 169.84	18 3100.08	979 96846.58	4 80.84	2 4.79	6 14.06	4 82.13	1 7.44	227 43569.55	1608 158271.02

写真図版

1　令和元年度調査１区遠景（南から）

2　令和元年度調査１区遠景（西から）

図版２

１　４ライン西半土層（南から）

２　４ライン東半土層（南から）

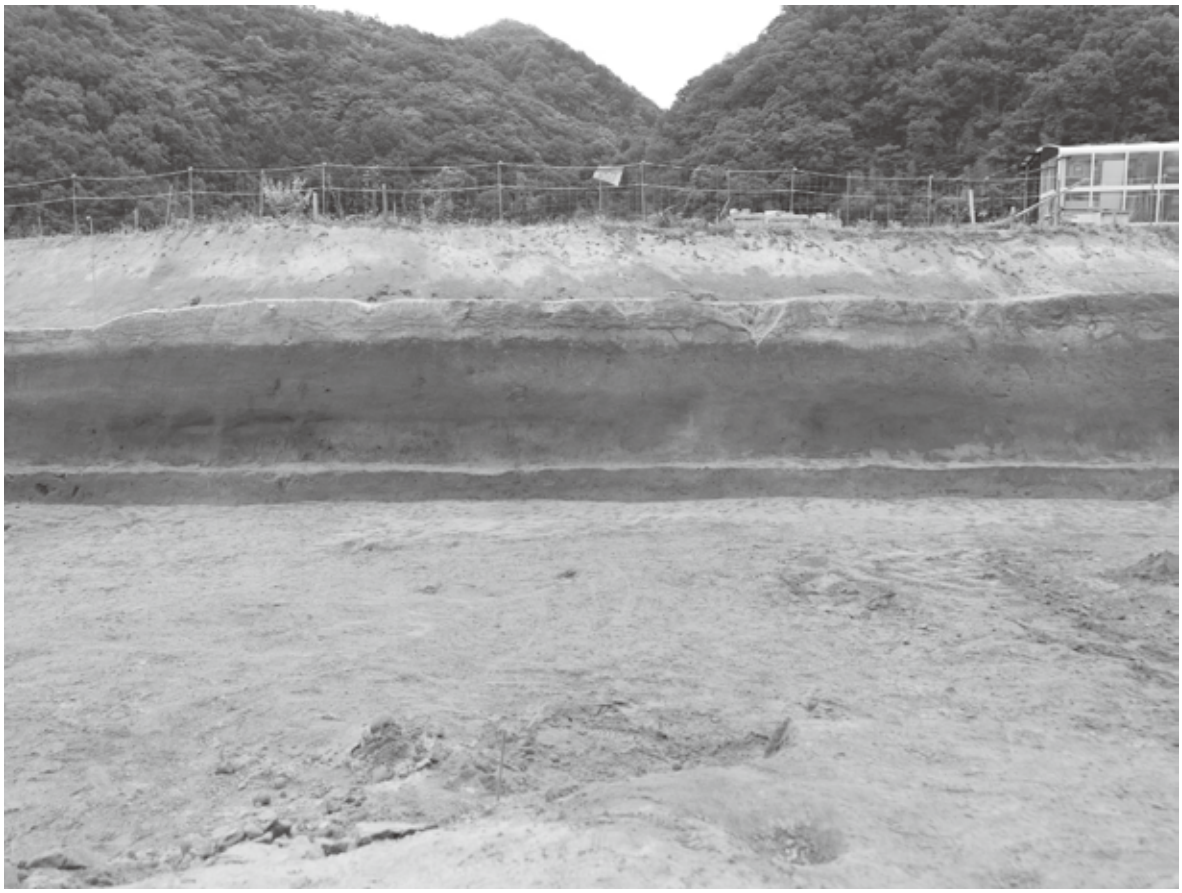
1　7 ライン西半土層（南東から）

2　3 区北壁土層（南東から）

図版 4

1　1区西壁土層（南東から）

2　2区西壁土層（北東から）



1　1区 F ライン北半土層（東から）

2　1区 F ライン南半土層（南西から）

図版 6

1　2区東壁土層（南西から）

2　3区東壁土層（南西から）

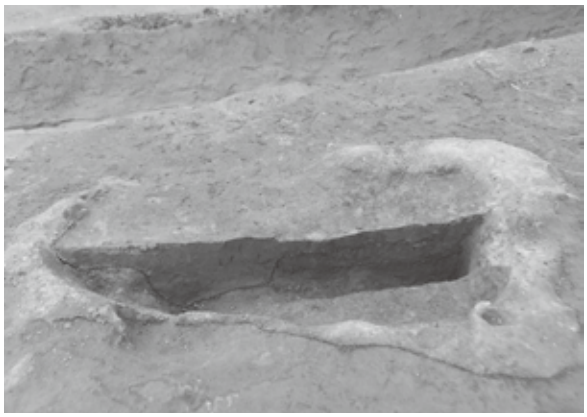
1　遺構 1007 畑検出状況（東から）

2　遺構 1007~1010 畑完掘状況（西から）

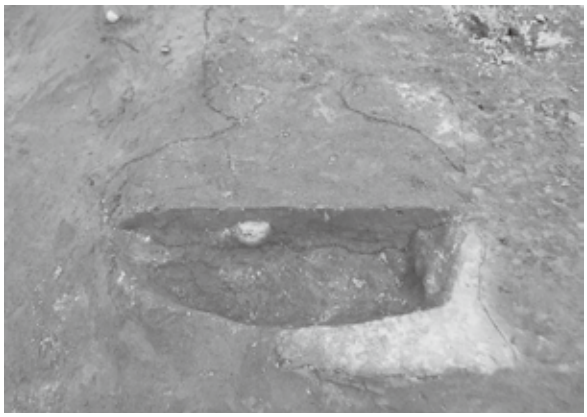
図版 8

1　遺構 2041・2042 畑完掘状況（北西から）

2　遺構 2045 畑、2046~2050 ピット完掘状況（西から）



1　遺構 1003 鍛冶炉半截状況（南から）

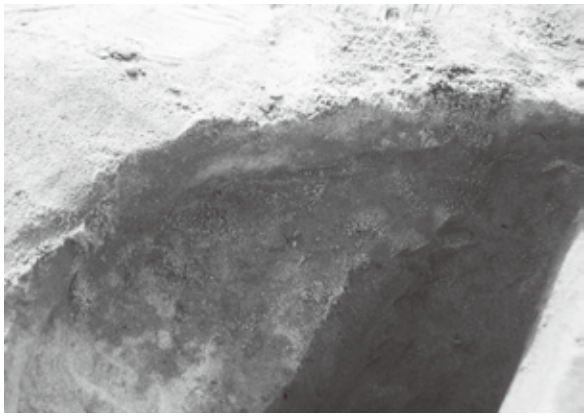


2　遺構 1004 鍛冶炉半截状況（西から）

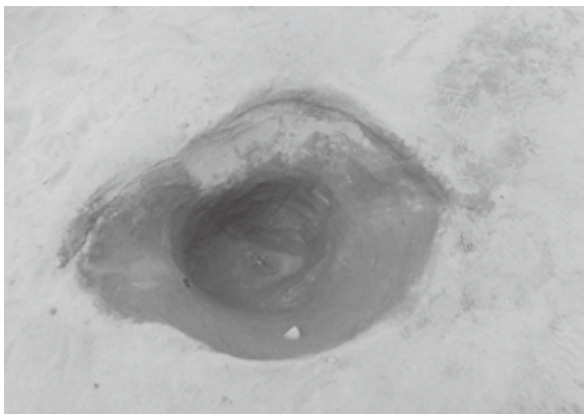
3　遺構 1003・1004 鍛冶炉と遺構 1006 畑（西から）

4　遺構 1005 土坑粘土ブロック検出状況（北から）

5　遺構 1036 遺物出土状況（西から）

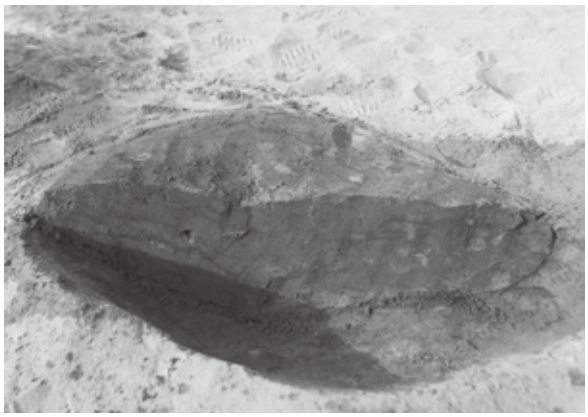


6　遺構 1019 管玉出土状況（北東から）

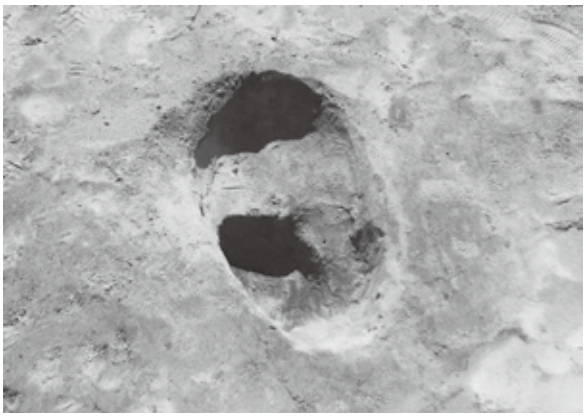


7　遺構 1019 完掘状況（北から）

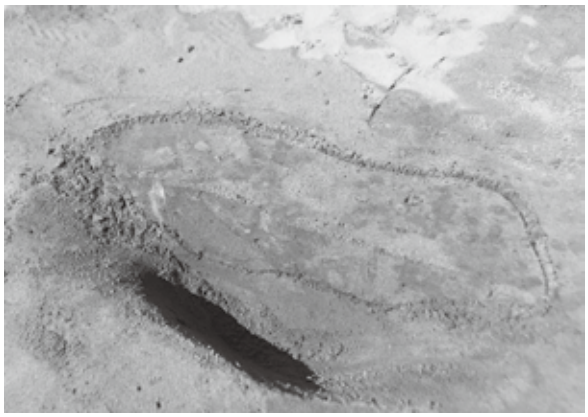
図版 10



1　遺構 1022 ピット半截状況（南から）



2　遺構 1030 ピット完掘状況（北から）

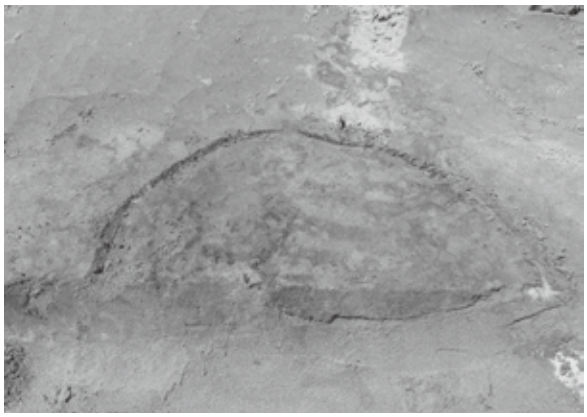


3　遺構 1032 ピット半截状況（南から）

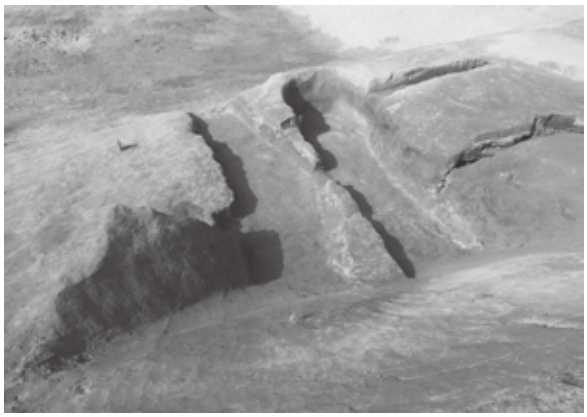
4　遺構 1018 集石検出状況（東から）

5　遺構 1028・1029 集石検出状況（南から）

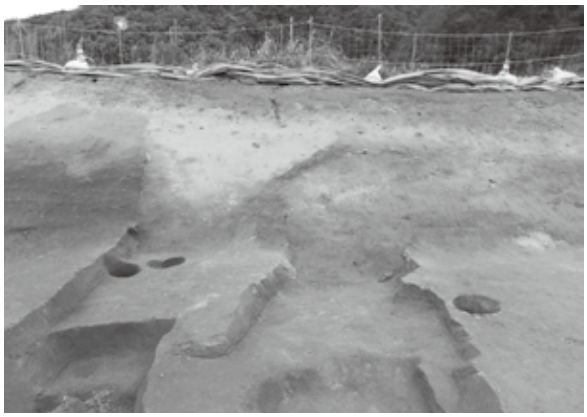
6　遺構 1070 畑検出作業状況（西から）



1　遺構 2063 鍛冶炉？半截状況（南から）

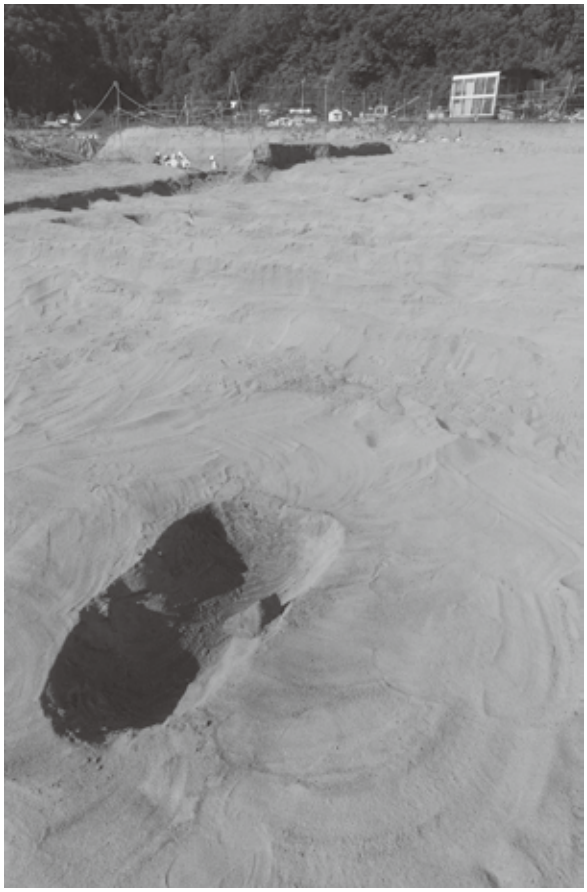


2　遺構 3001・3002 溝完掘状況（南東から）

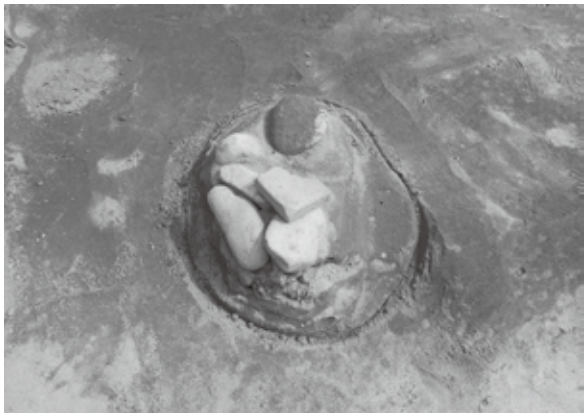


3　遺構 3001・3002 溝横断土層（南から）

4　遺構 3038 土器溜検出状況（北から）



5　遺構 2051 土坑と遺構 2042 畑完掘状況（南西から）



6　遺構 1079 ピット検出状況（東から）

7　遺構 1014 集石検出状況（南西から）

図版 12

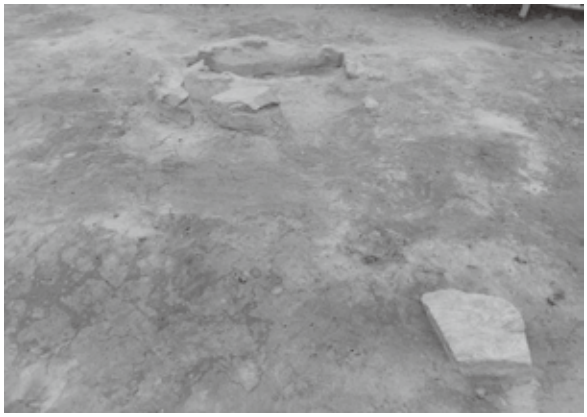
1　遺構 2054 集石検出状況（北東から）

2　遺構 2054 集石と周辺ピット検出状況（北から）

3　遺構 2055~2059・2061 ピット完掘状況（東から）

4　遺構 3037 自然流路完掘状況（北西から）

1　遺構 1064 礎石建物検出状況（南から）



2　遺構 1064 礎石建物東側炭面検出状況（西から）

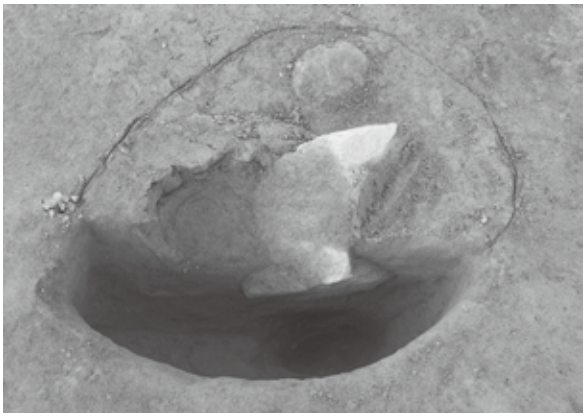
3　遺構 1136 鍛冶炉完掘状況（南東から）

4　遺構 1044 集石、遺構 1136 鍛冶炉検出状況（南から）

図版 14

1　遺構 1216 掘立柱建物完掘状況（西から）

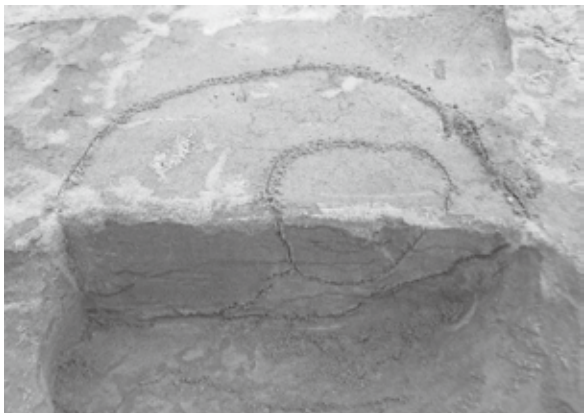
2　遺構 1104 柱穴検出状況（北西から）



3　遺構 1188 柱穴半截状況（南から）

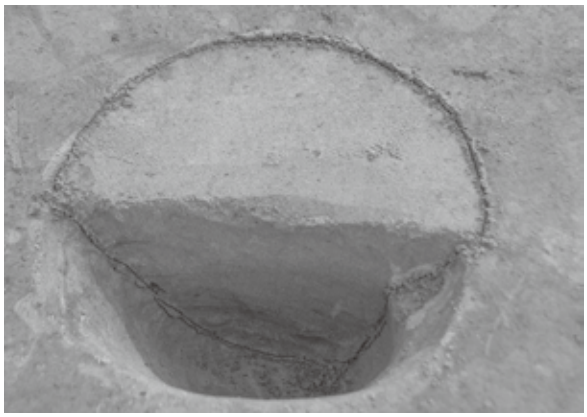
4　遺構 1196 柱穴完掘状況（南から）

5　遺構 1197 柱穴完掘状況（西から）

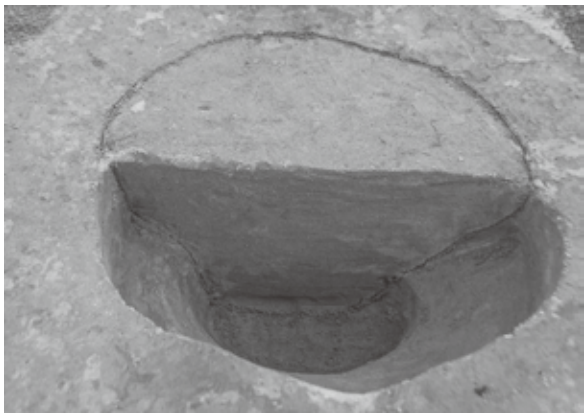


1　遺構 1068 柱穴半截状況（北から）

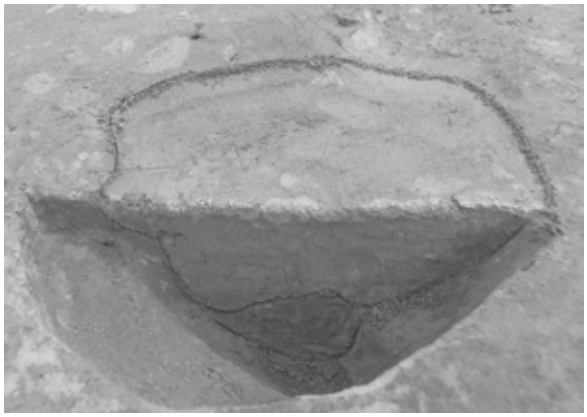
2　遺構 1081 柱穴半截状況（西から）



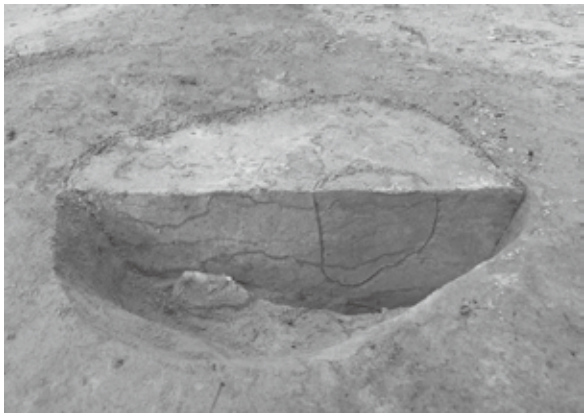
3　遺構 1082 柱穴半截状況（北から）



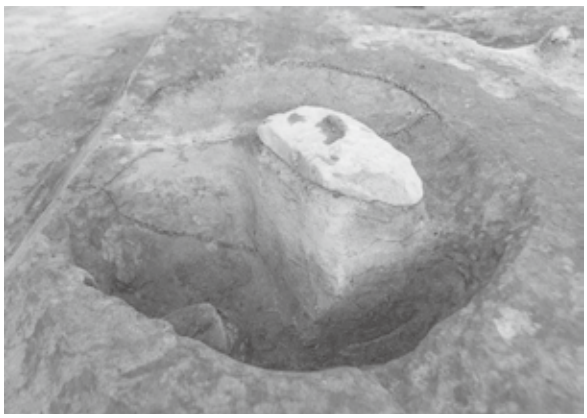
4　遺構 1102 柱穴半截状況（南から）



5　遺構 1103 柱穴半截状況（西から）



6　遺構 1153 柱穴半截状況（南東から）

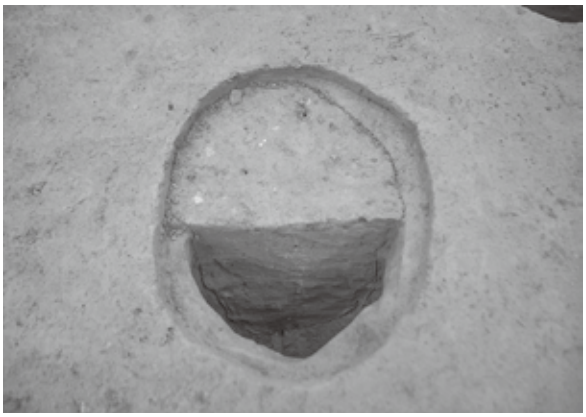


7　遺構 1207 柱穴半截状況（西から）

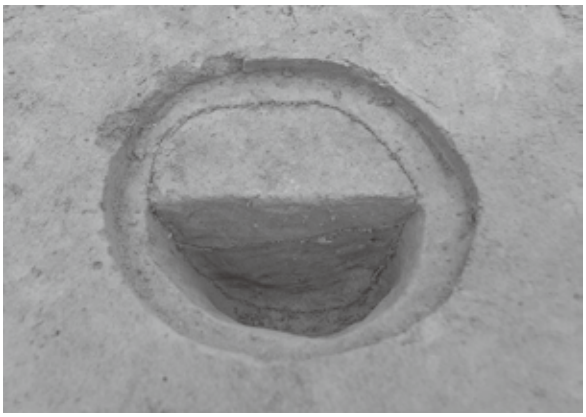
8　遺構 1043 柱穴半截状況（西から）

図版 16

1　遺構 1415・1416 掘立柱建物調査状況（北東から）



2　遺構 1241 柱穴半截状況（東から）



3　遺構 1239 柱穴半截状況（東から）

4　遺構 1095~1097 柱穴検出状況（北から）

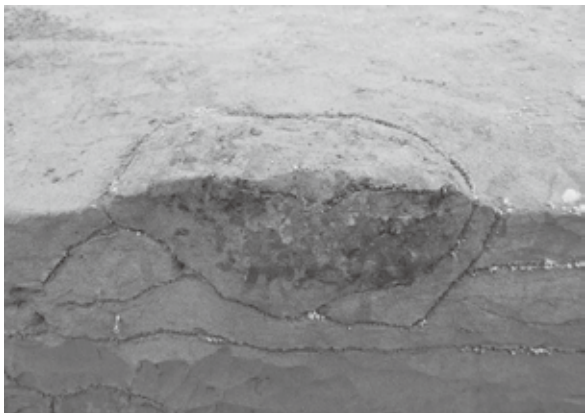
5　遺構 1138 石列検出状況（南西から）

6　遺構 1261 柱穴半截状況（西から）

1　遺構 1131 布掘建物検出状況（東から）

2　1 区中世後半建物群調査状況（南東から）

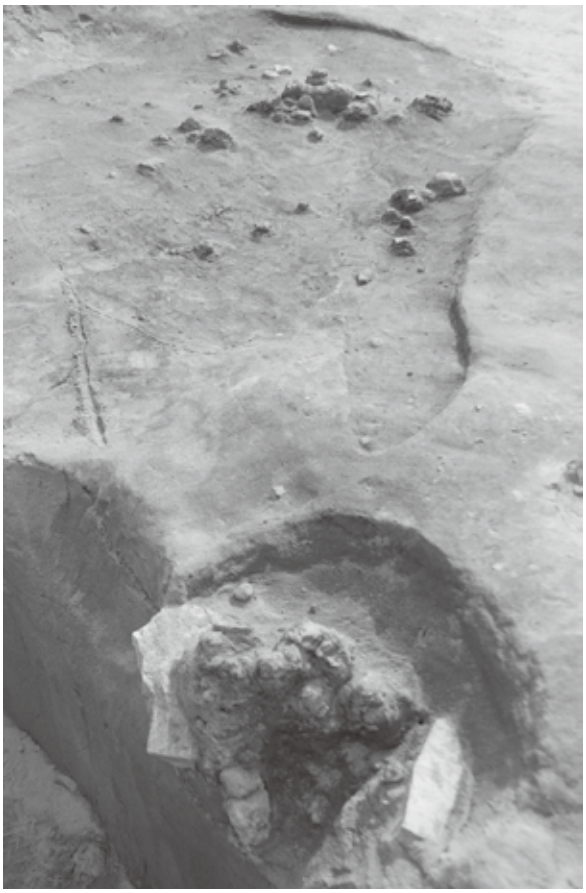
図版 18



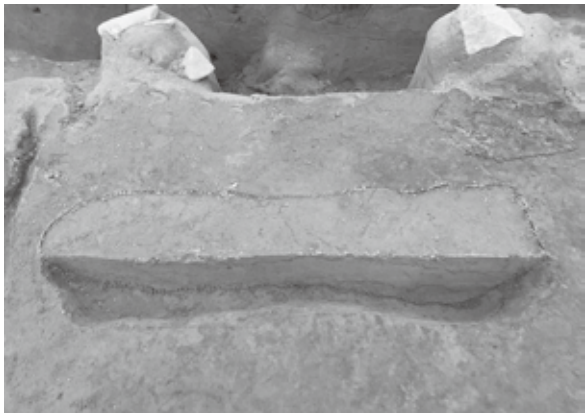
1　遺構 1065 鍛冶炉半截状況（南から）

2　遺構 1066 鍛冶炉半截状況（南から）

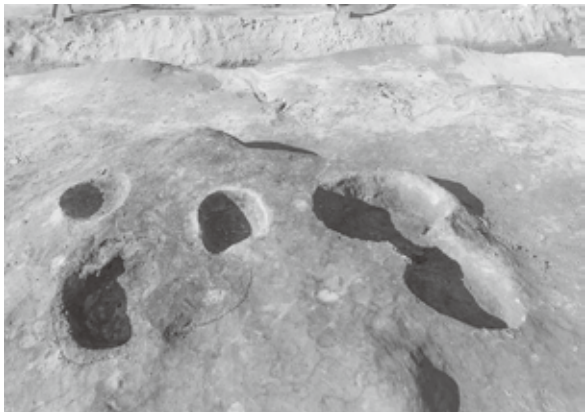
3　遺構 1072 鍛冶炉半截状況（南西から）



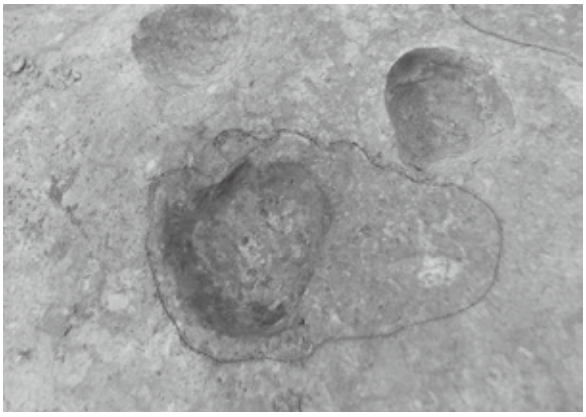
4　遺構 1137 鍛冶炉、遺構 1051 鉄滓廃棄場遺物出土状況（北西から）



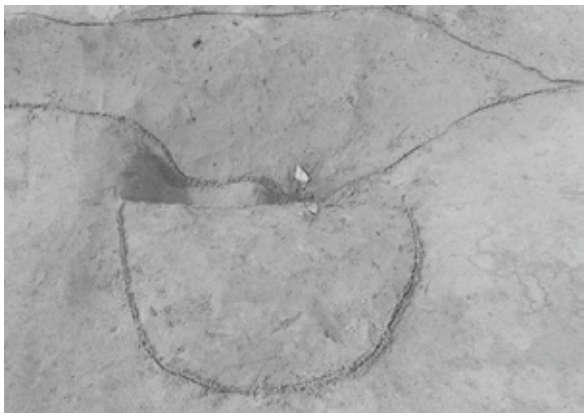
5　遺構 1130 土坑半截状況（南から）



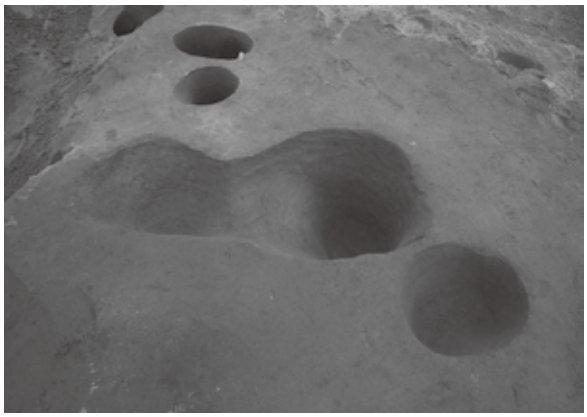
6　遺構 1132~1135 鍛冶炉・ピット完掘状況（南から）



7　遺構 1132 鍛冶炉完掘状況（南から）

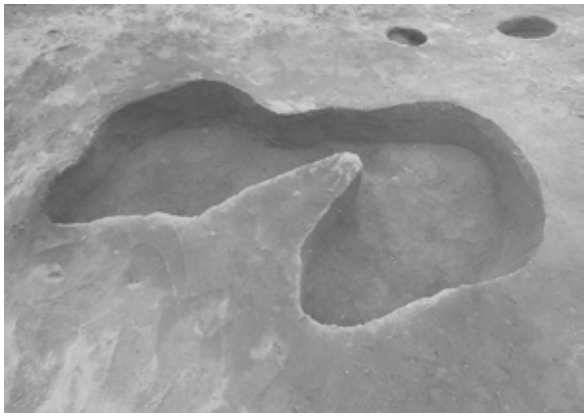


1　遺構 1410 土坑半截状況（南から）



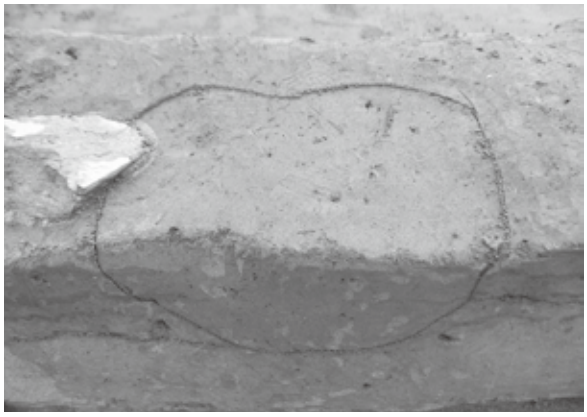
2　遺構 1325 土坑完掘状況（西から）

3　遺構 1194 焼土面検出状況（西から）

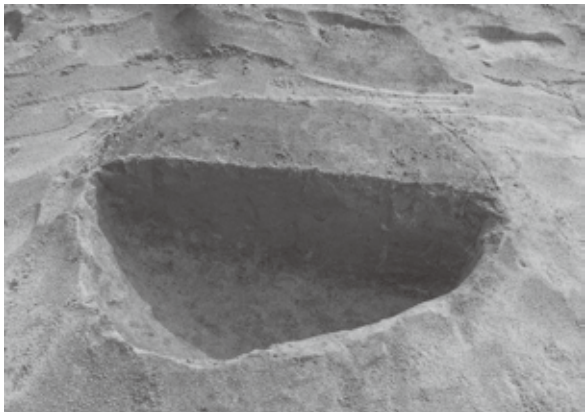


4　遺構 1233 不整形土坑完掘状況（北東から）

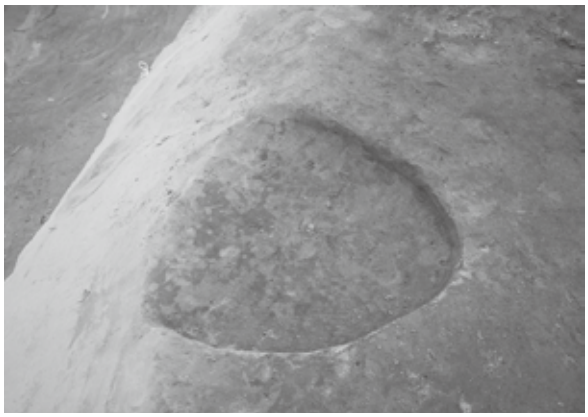
5　遺構 1245 集石土坑半截状況（西から）



6　遺構 1283 土坑半截状況（西から）

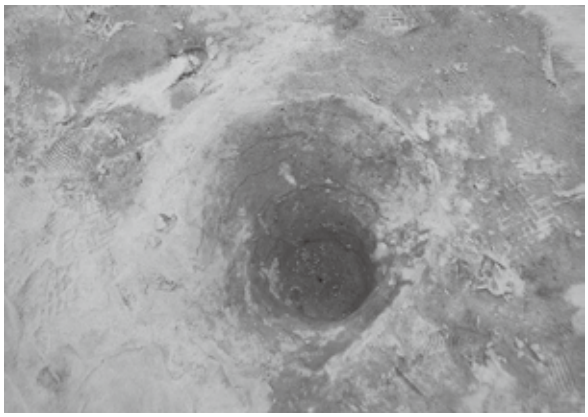


7　遺構 2139 土坑半截状況（西から）

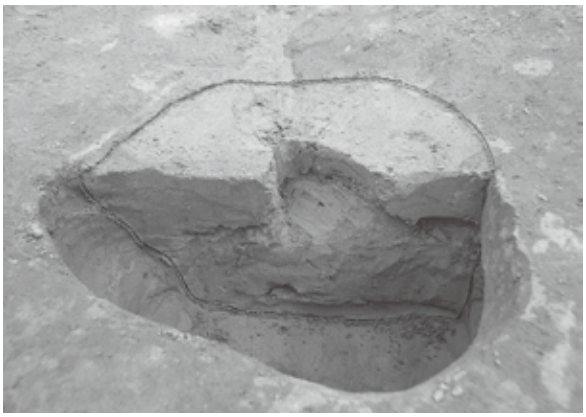


1　遺構 2162 土坑完掘状況（南から）

2　遺構 1228 ピット、遺構 1230 土坑完掘状況（北から）

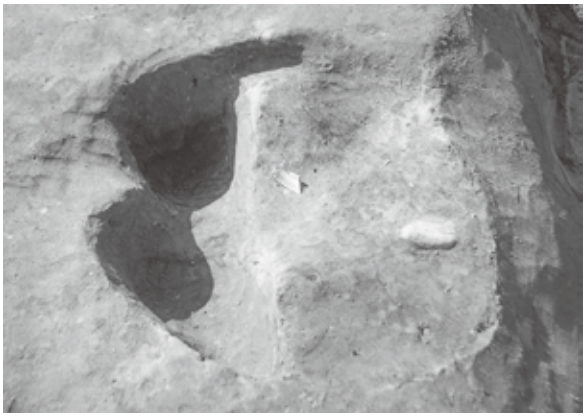


3　遺構 1067 ピット完掘状況（南から）

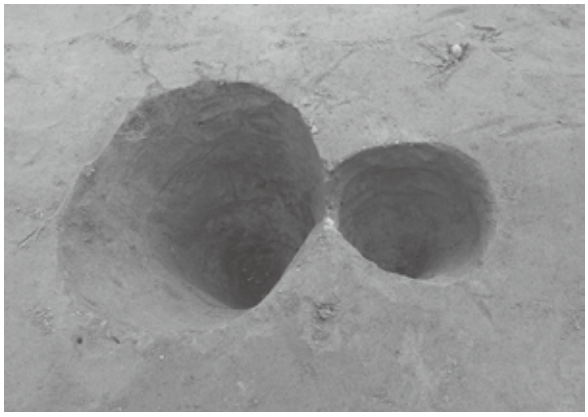


4　遺構 1111 ピット半截状況（南東から）

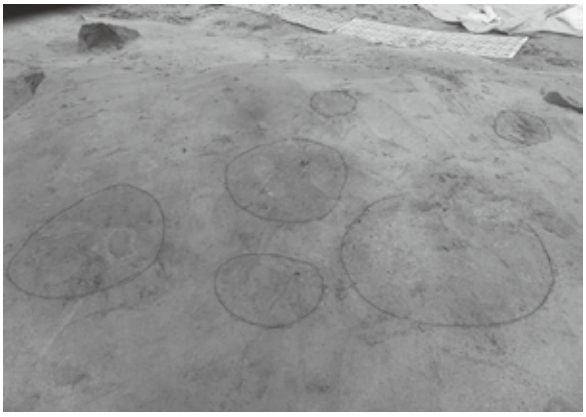
5　遺構 1166 ピット完掘状況（南から）



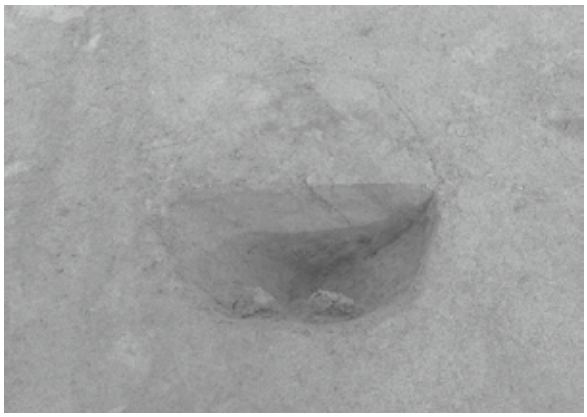
6　遺構 1167 ピット完掘状況（南東から）



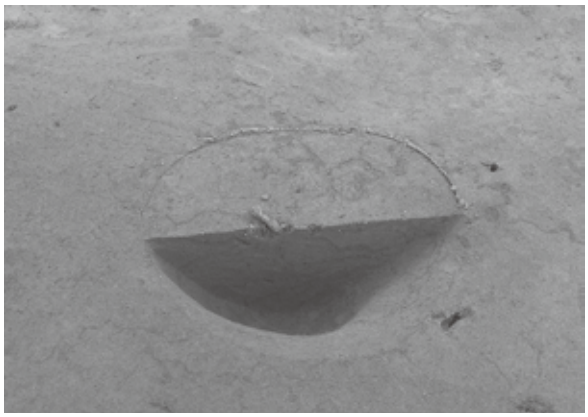
7　遺構 1254・1255 ピット完掘状況（北から）



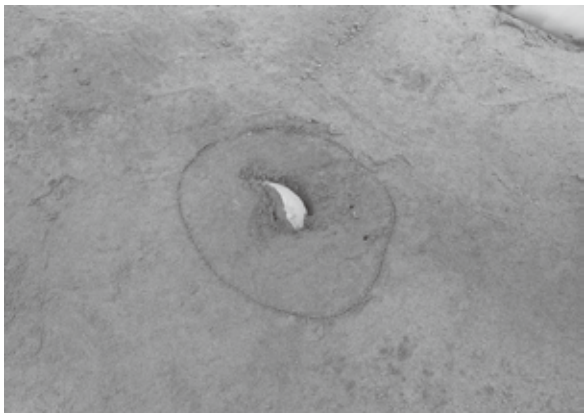
8　遺構 1257~1262 ピット検出状況（東から）



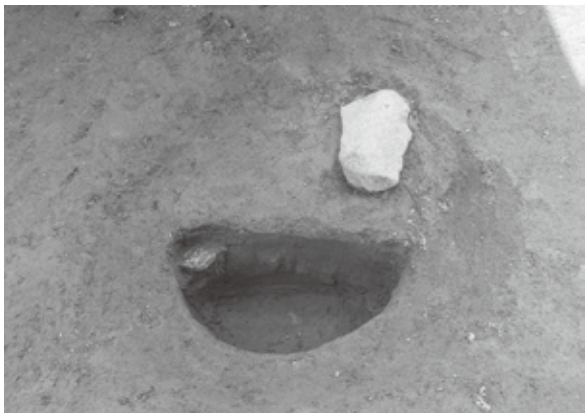
1　遺構 1295 ピット半截状況（南東から）



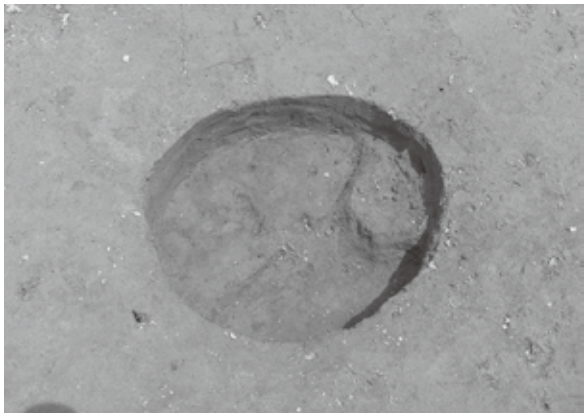
2　遺構 1314 ピット半截状況（南東から）



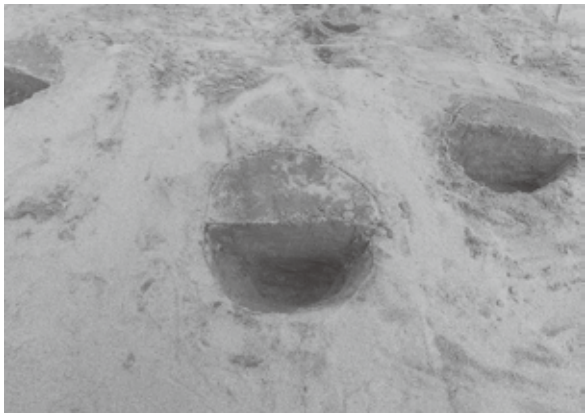
3　遺構 1315 ピット検出状況（北から）



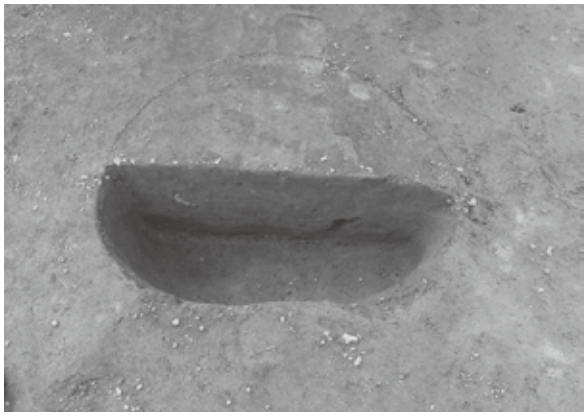
4　遺構 2120 ピット半截状況（北から）



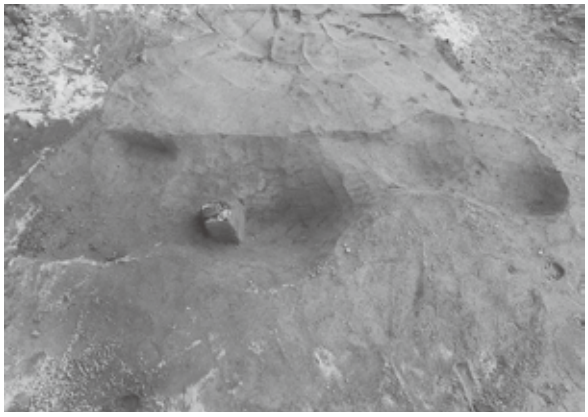
5　遺構 2124 ピット完掘状況（西から）



6　遺構 2133 ピット完掘状況（南東から）



7　遺構 2190 ピット半截状況（東から）



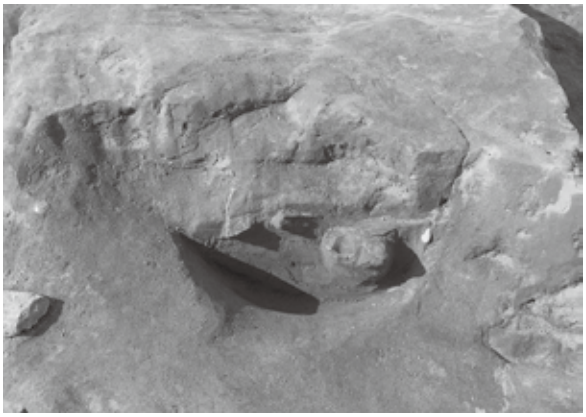
8　遺構 1328 落ち込み完掘状況（北から）

1　遺構 1088 集石検出状況（東から）

2　遺構 1141 集石検出状況（西から）

3　遺構 1142 集石検出状況（南西から）

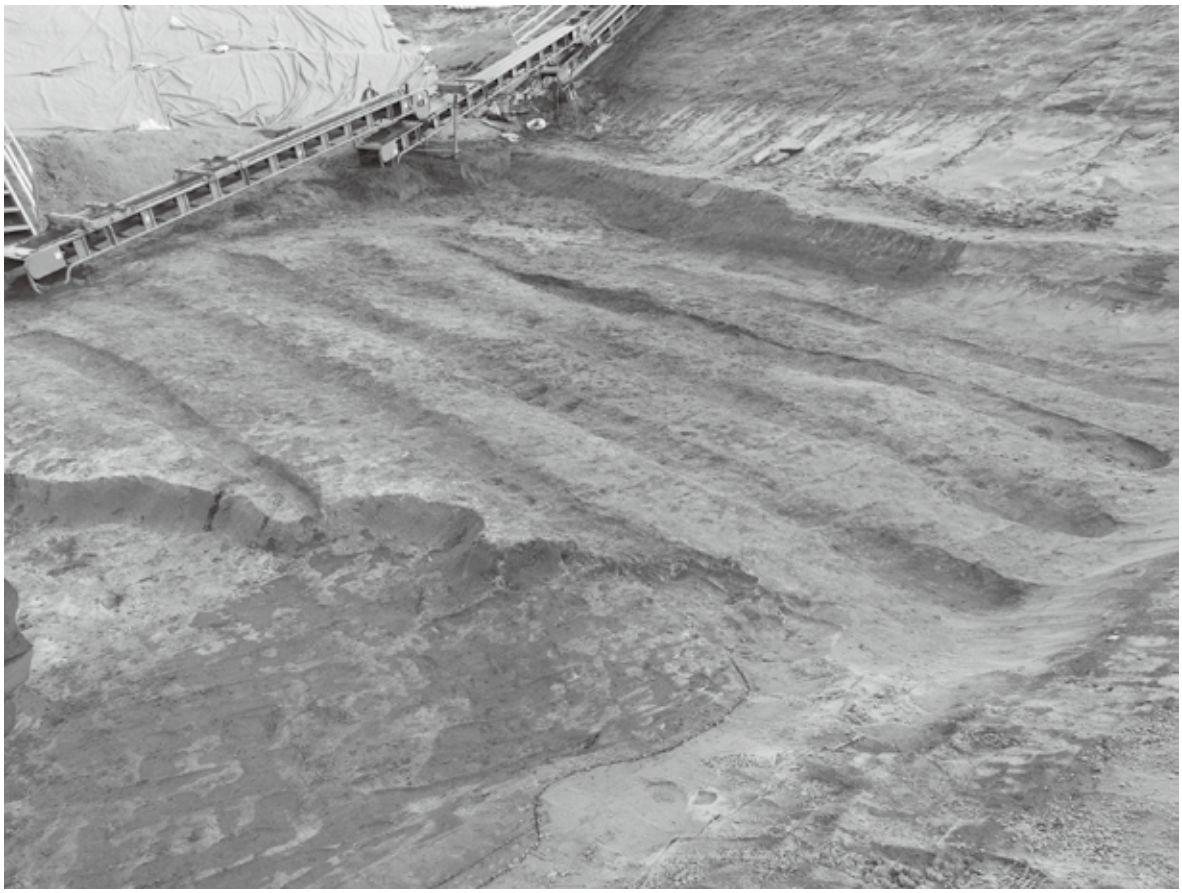
4　遺構 2044 集石検出状況（南西から）



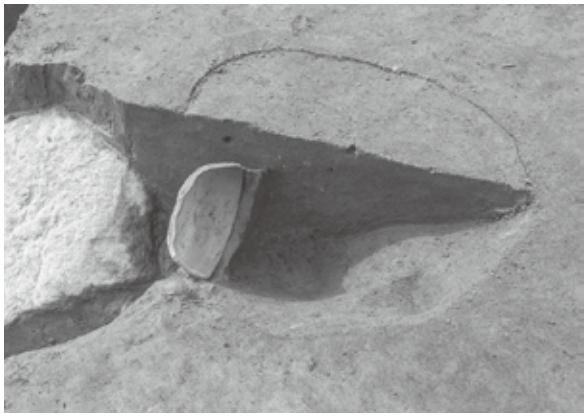
5　遺構 2185 ピット半截状況（南から）

6　遺構 2052 集石検出状況（南西から）

7　遺構 2123 集石検出状況（北から）

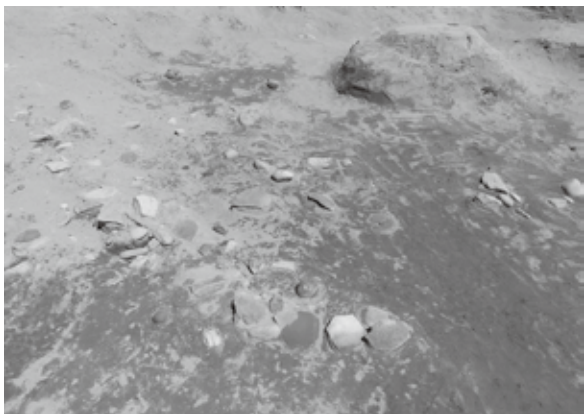


1　遺構 2459 畑完掘状況（北西から）



2　遺構 1347 ピット半截状況（東から）

3　遺構 2144 集石検出状況（北から）



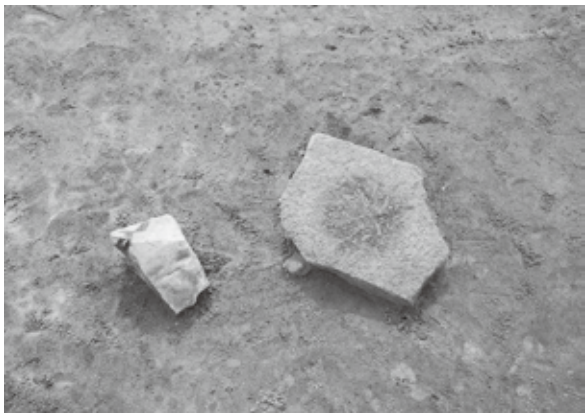
4　遺構 2150・2156 集石検出状況（西から）

5　遺構 2151 集石検出状況（東から）

図版 24

1　遺構 2153 集石検出状況（南から）

2　遺構 2154 集石検出状況（南西から）



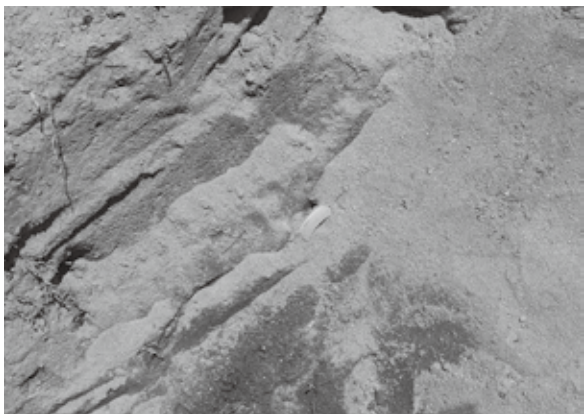
3　遺構 2155 集石検出状況（西から）

4　令和元年度 1 区重機掘削中 3-4 層須恵器甕出土状況（南西から）

1　令和２年度２区 3-4 層調査状況（南から）

2　令和２年度２区 3-4 層調査状況（南東から）

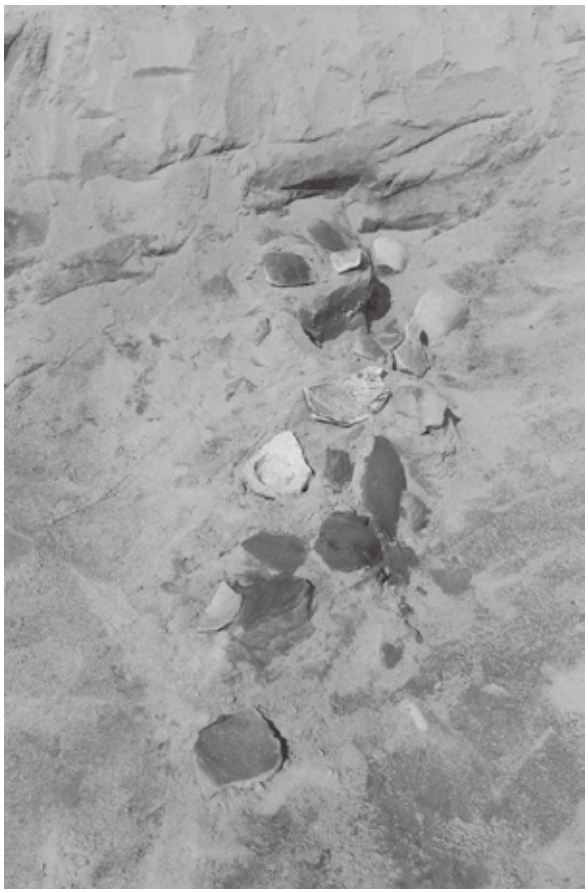
3　令和２年度２区 3-4 層調査状況（南から）



4　令和２年度２区 3-4 層石釧出土状況（南から）

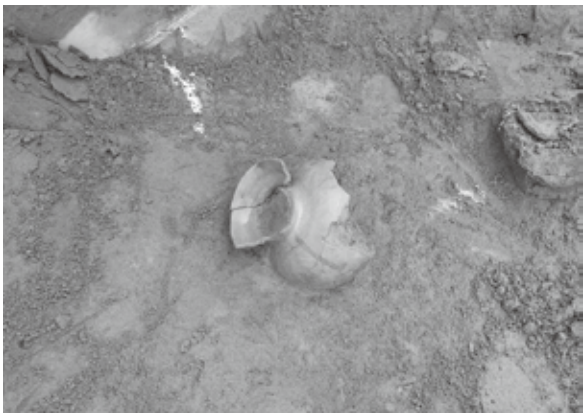
5　令和元年度１区 3-4 層青銅鏡出土状況（東から）

図版 26

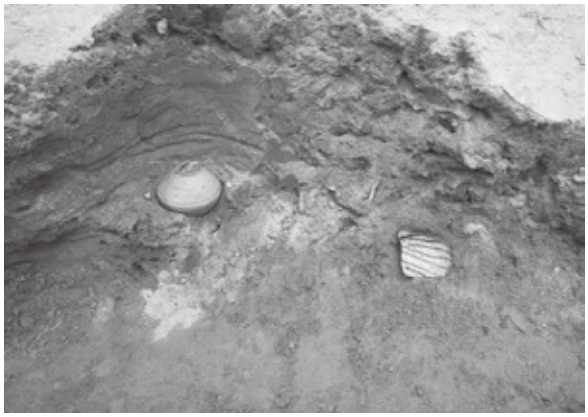


1　令和２年度２区４層調査状況（南から）

2　令和２年度２区４層調査状況（南から）



3　令和２年度２区 4-7 層調査状況（北から）



4　令和２年度２区４層調査状況（南から）

5　令和２年度２区５層調査状況（南から）

6　令和２年度２区５層調査状況（南から）

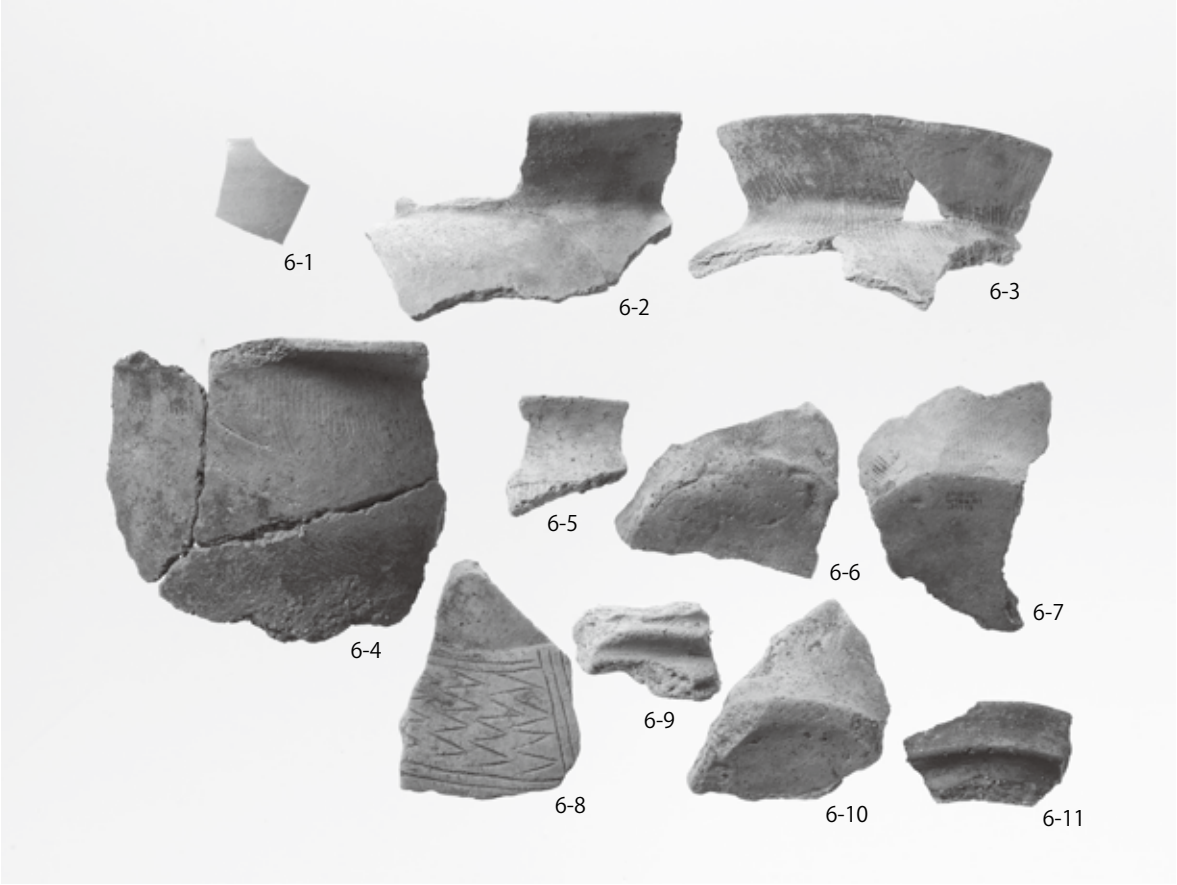
1　令和元年度 1 区南壁 3-1~3-4 層（東）堆積状況（北東から）

2　令和元年度 1 区 C2・3、D2・3 グリッド中世後半遺構調査状況と 4-1 ～ 4-10 層堆積状況（北から）

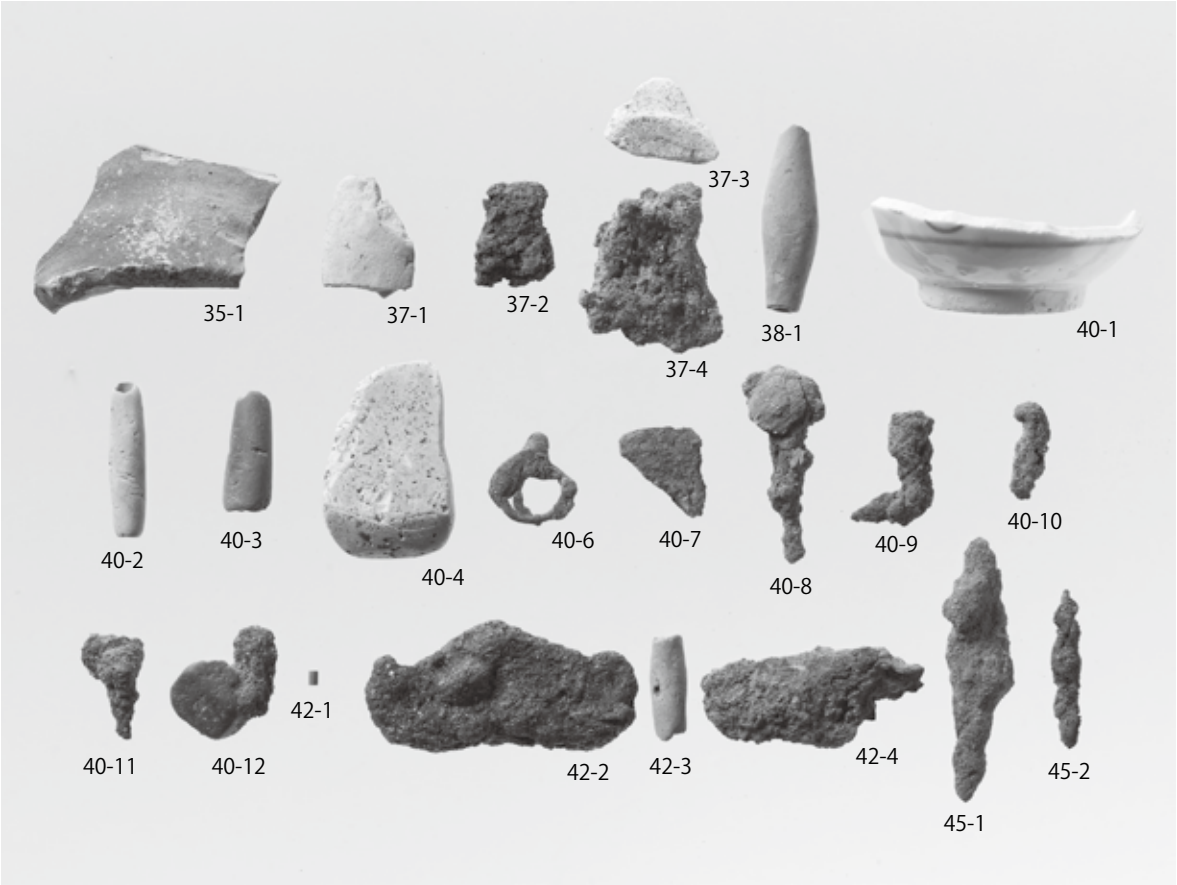
図版 28

1　令和２年度２区 4-3 層（左）・5 層（右奥）検出状況（南東から）

2　令和２年度２区４層調査状況（南東から）

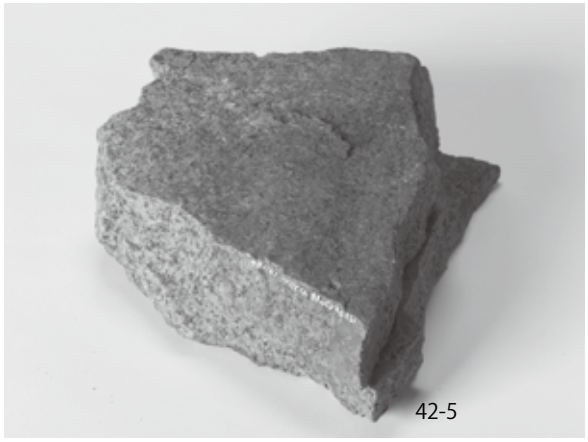


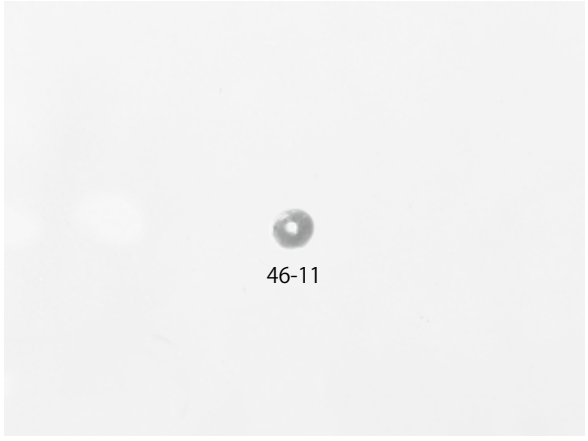
1　試掘出土遺物



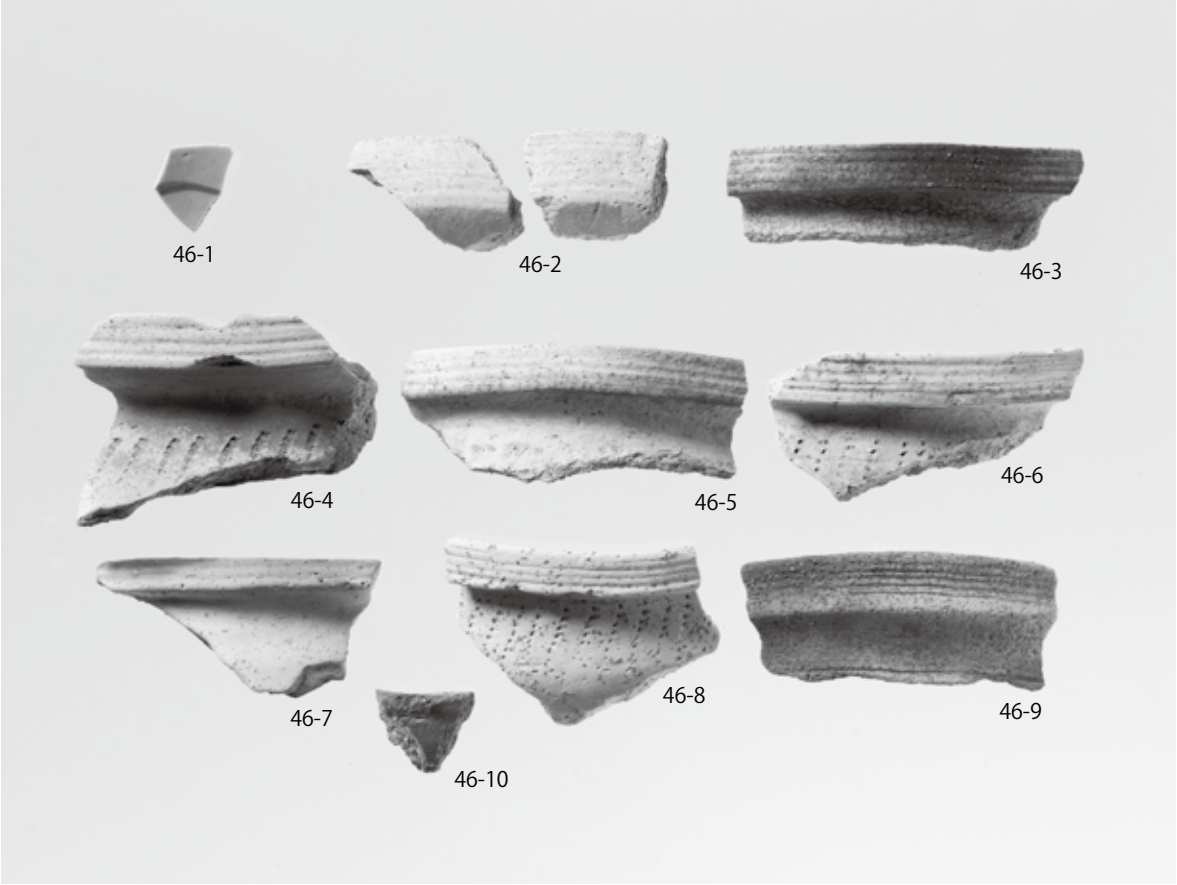
2　遺構出土遺物（１）

1　遺構出土遺物（２）





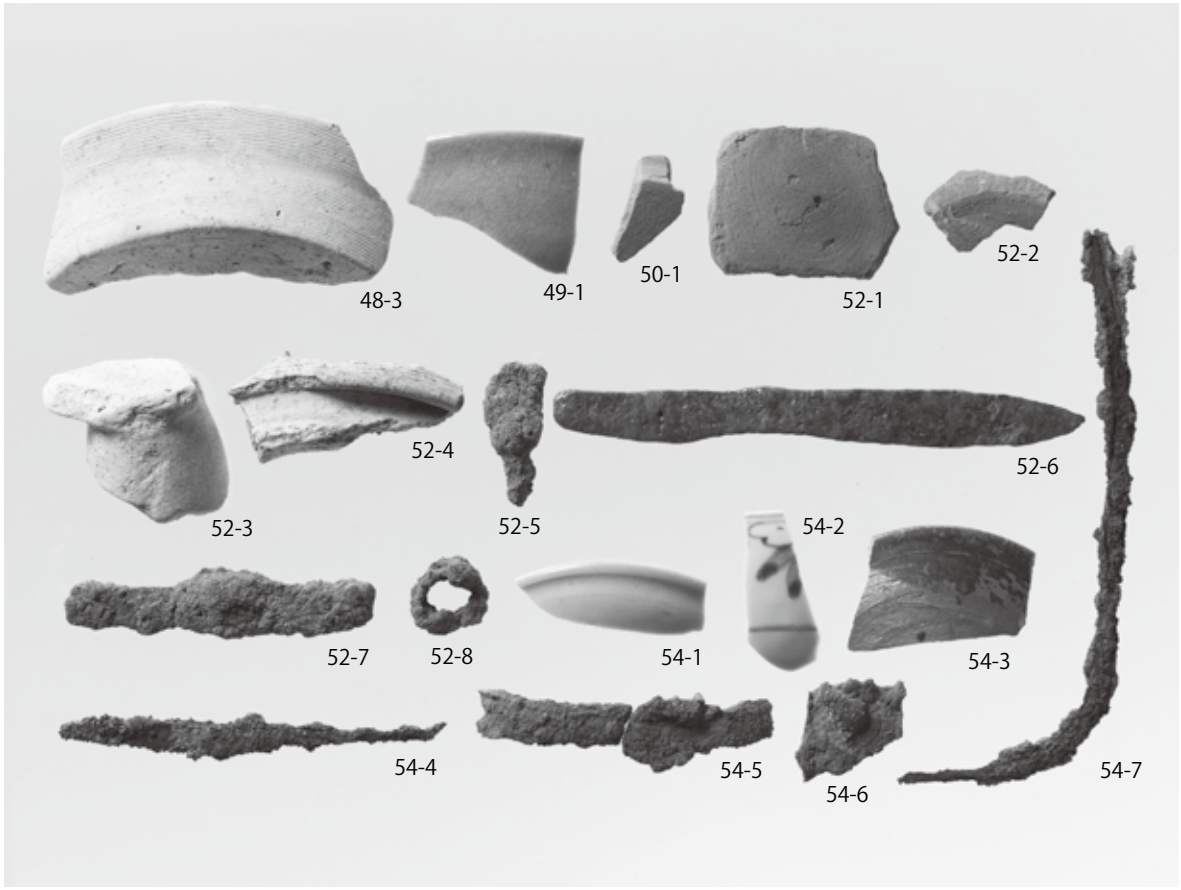
2　遺構出土遺物（３）



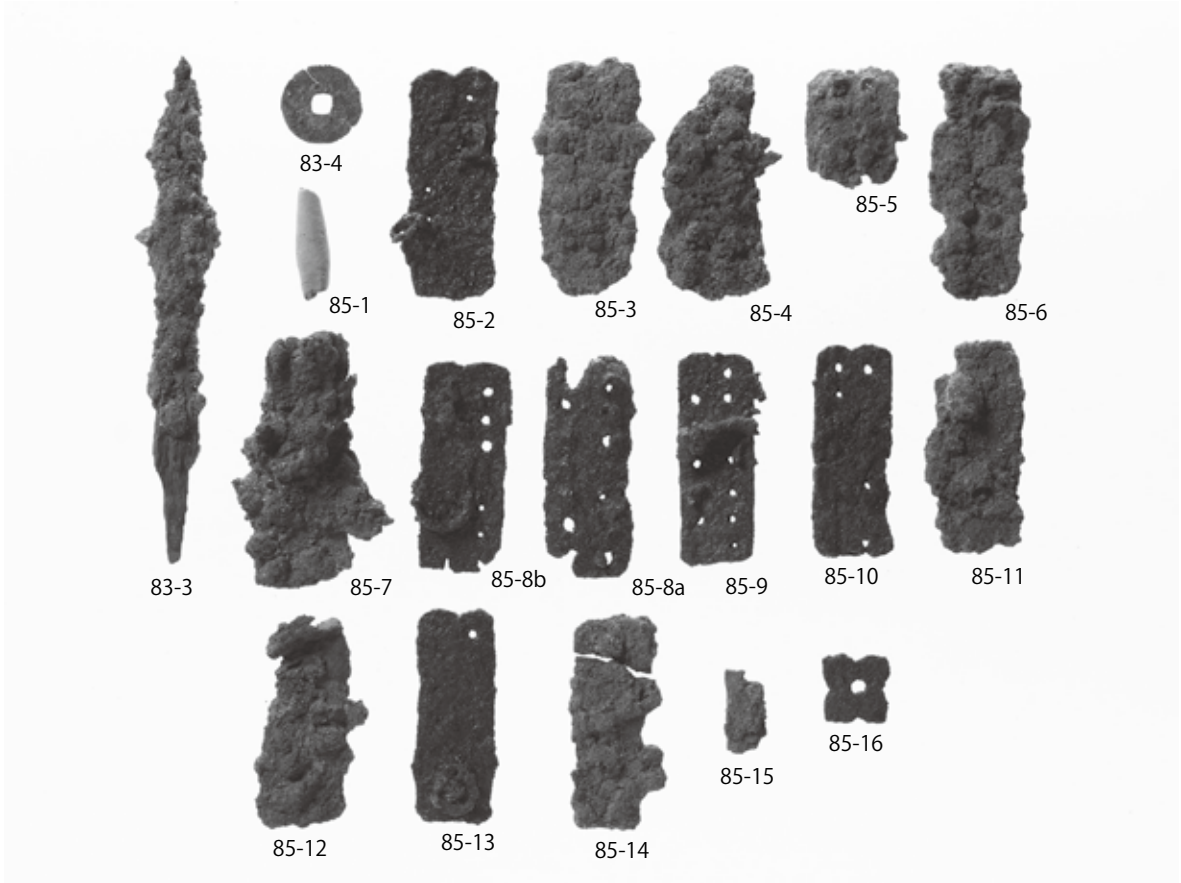
1　遺構出土遺物（４）

2　遺構出土遺物（５）

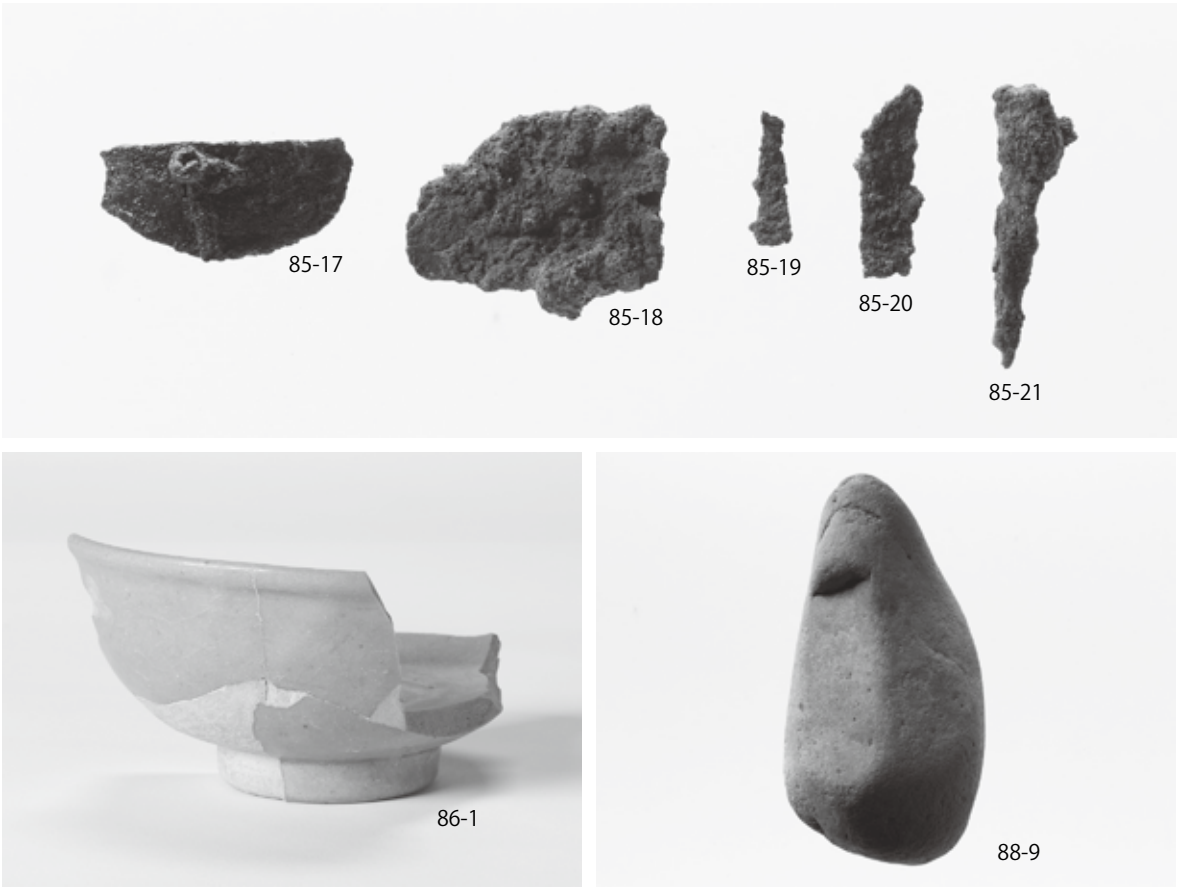
図版 32



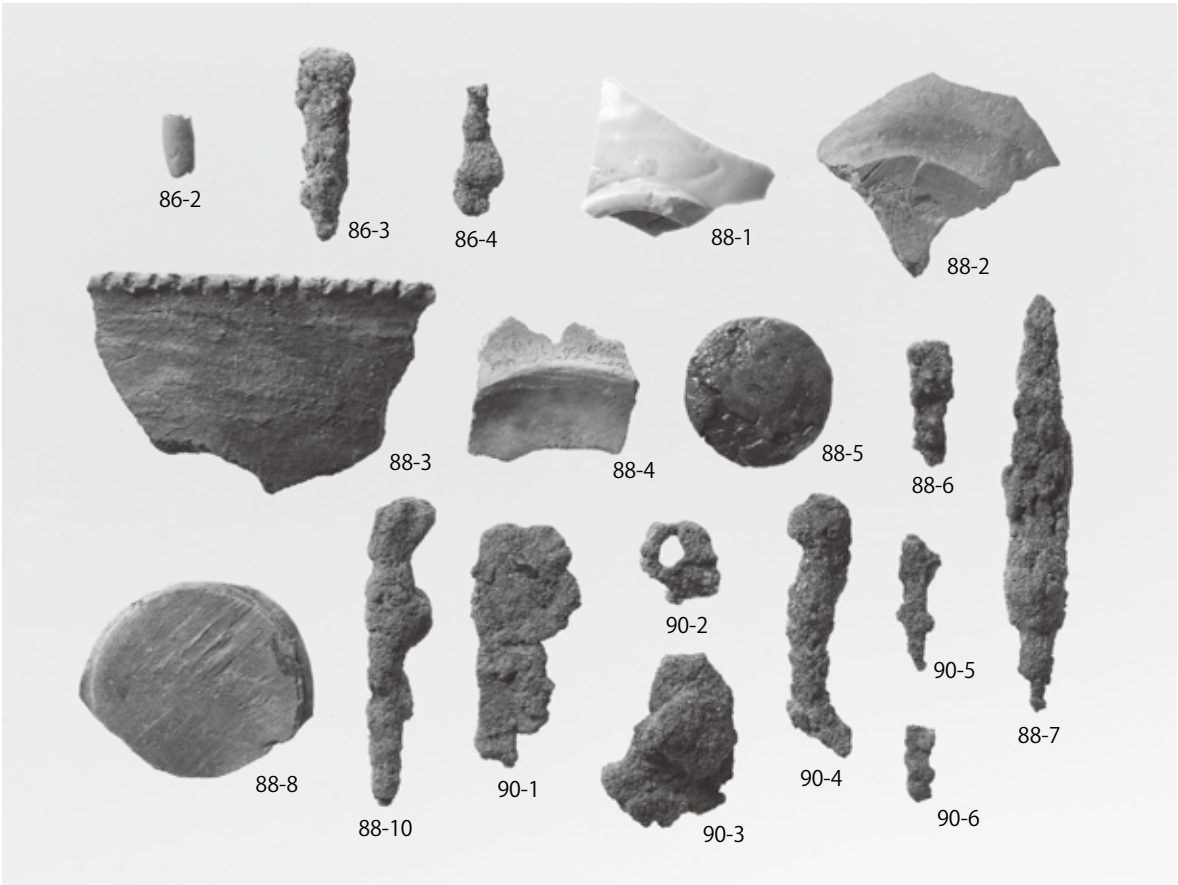
1　遺構出土遺物（６）



2　遺構出土遺物（７）

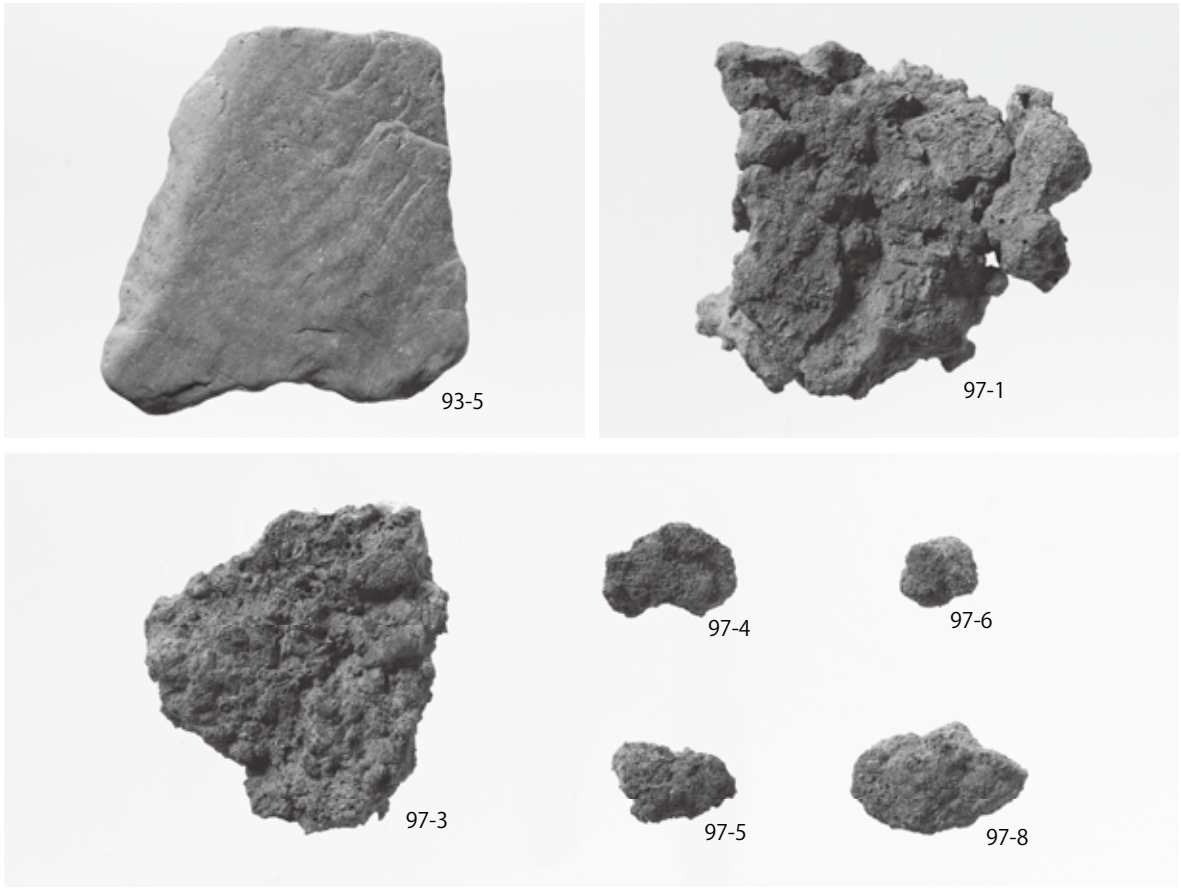


1　遺構出土遺物（８）

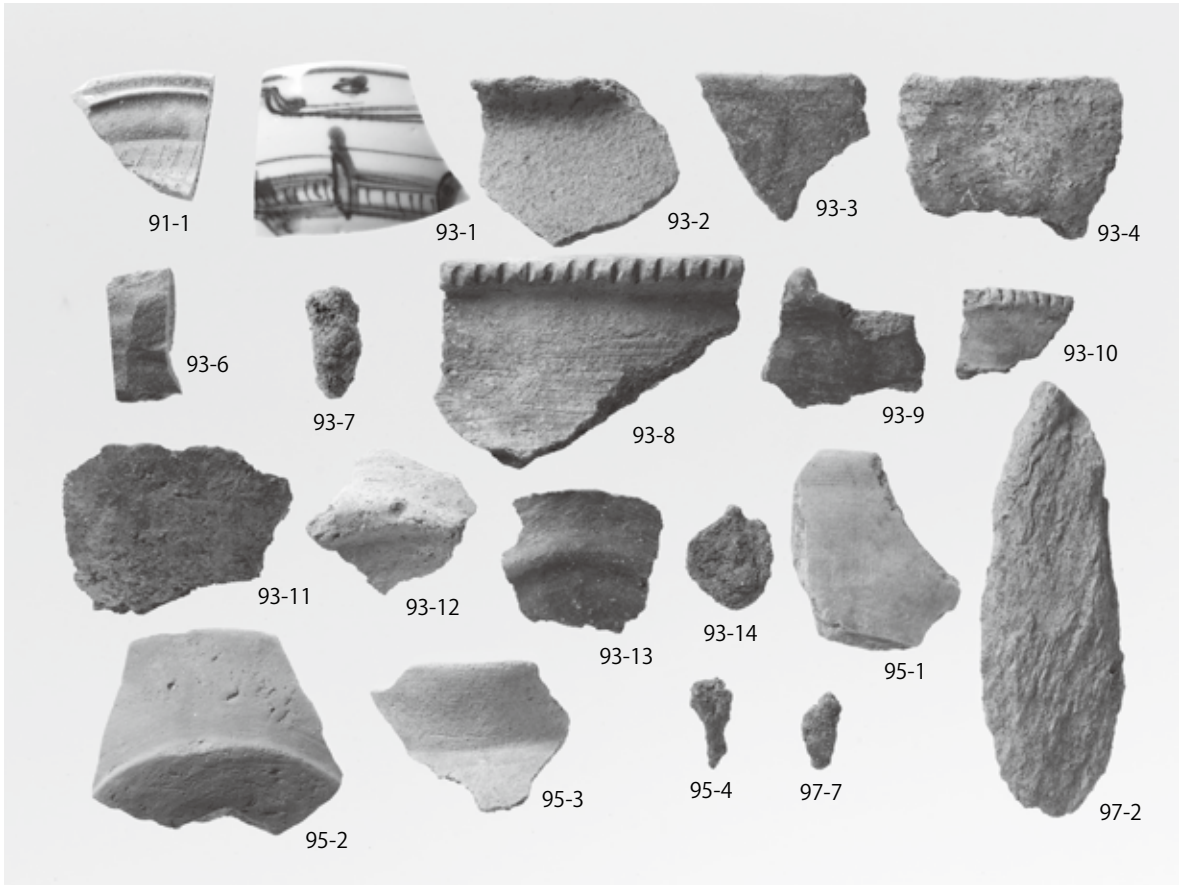


2　遺構出土遺物（９）

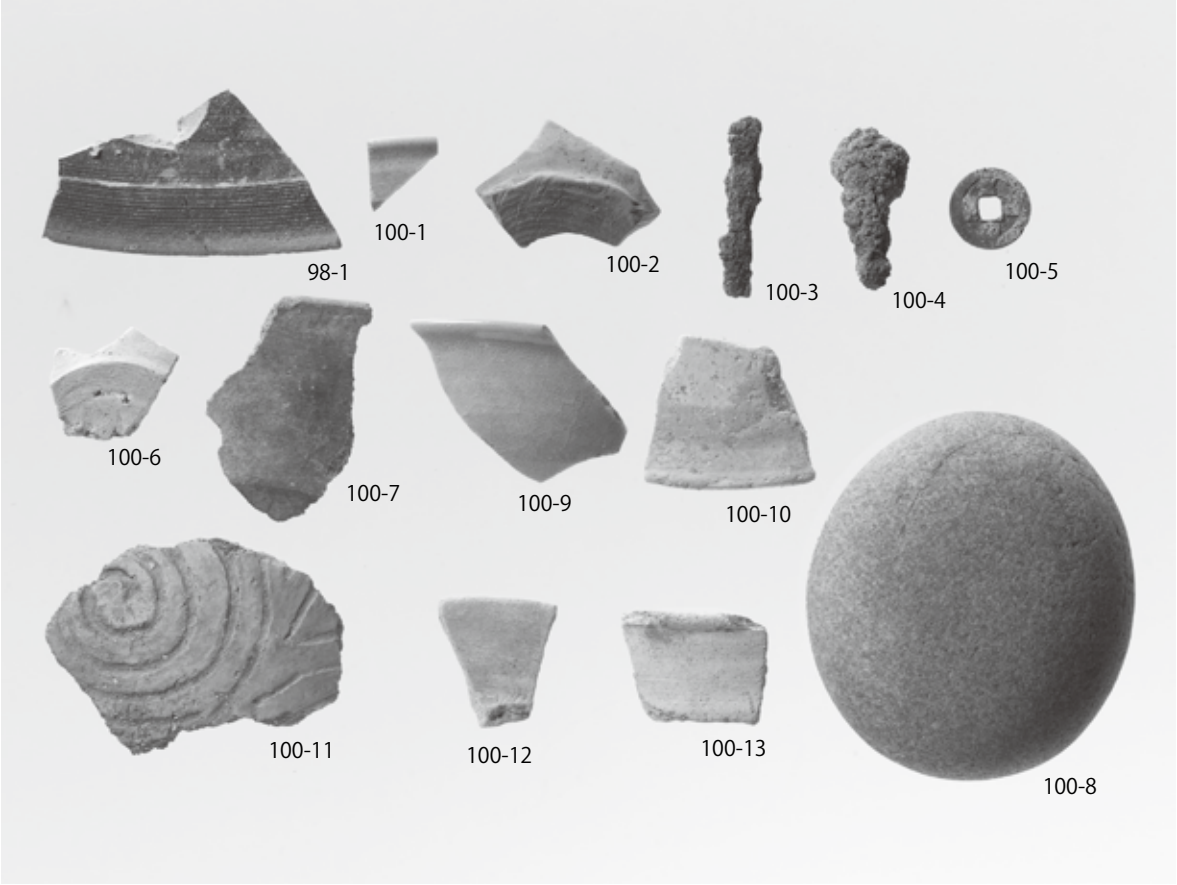
図版 34



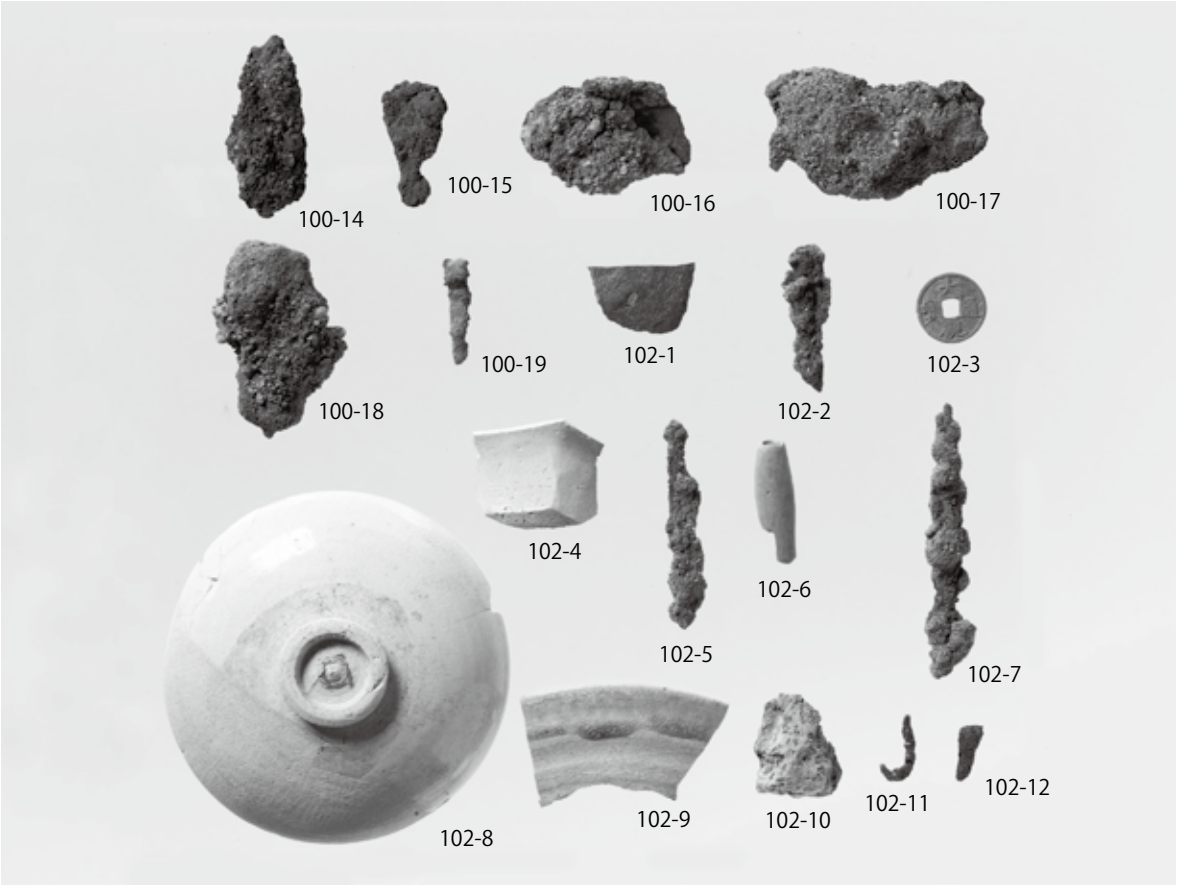
1　遺構出土遺物（10）



2　遺構出土遺物（11）

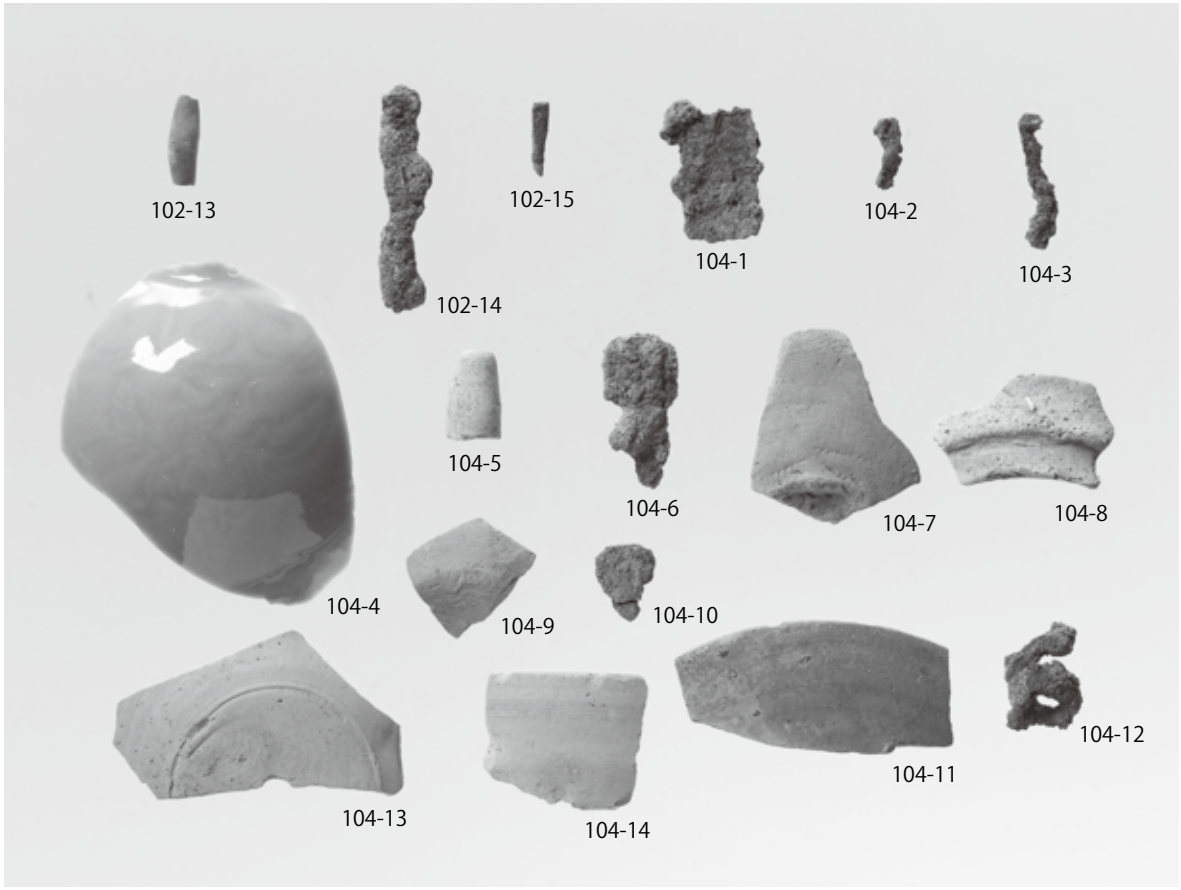


1　遺構出土遺物（12）

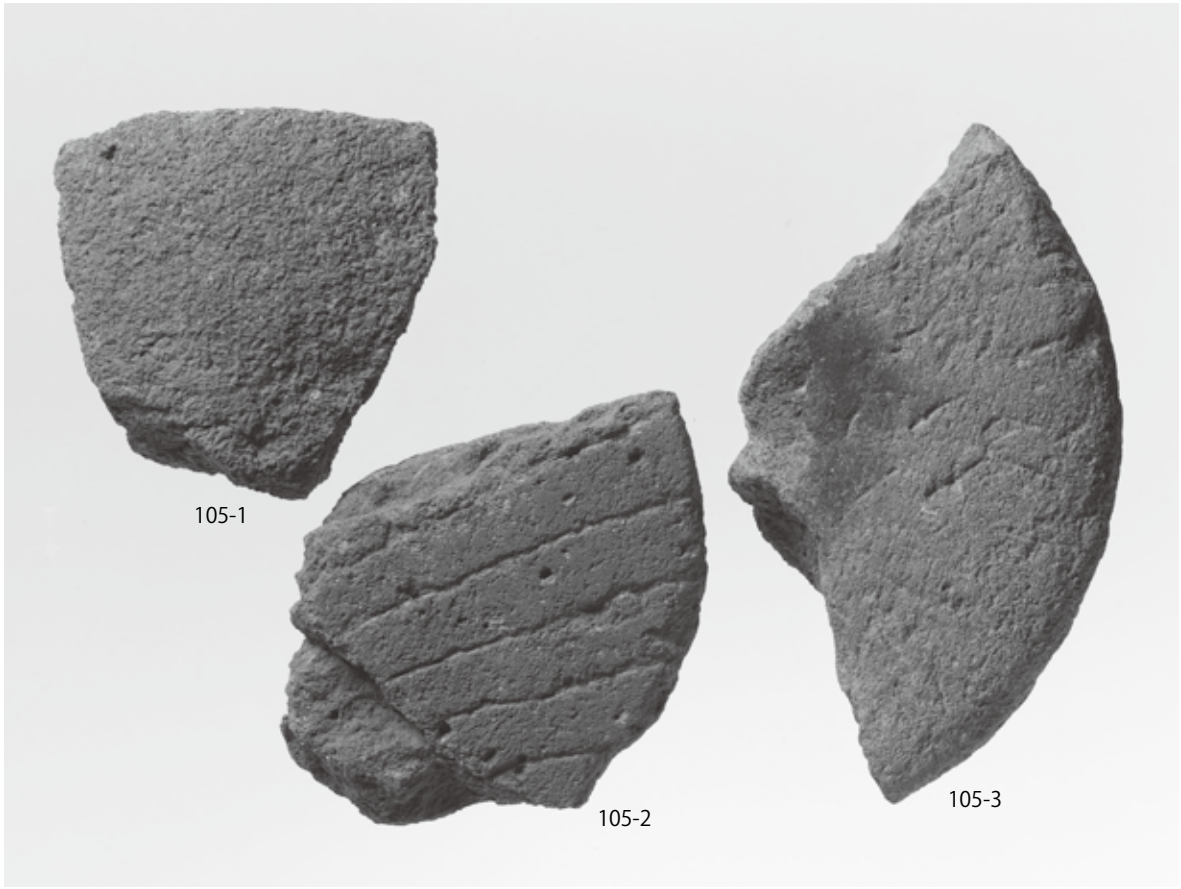


2　遺構出土遺物（13）

図版 36

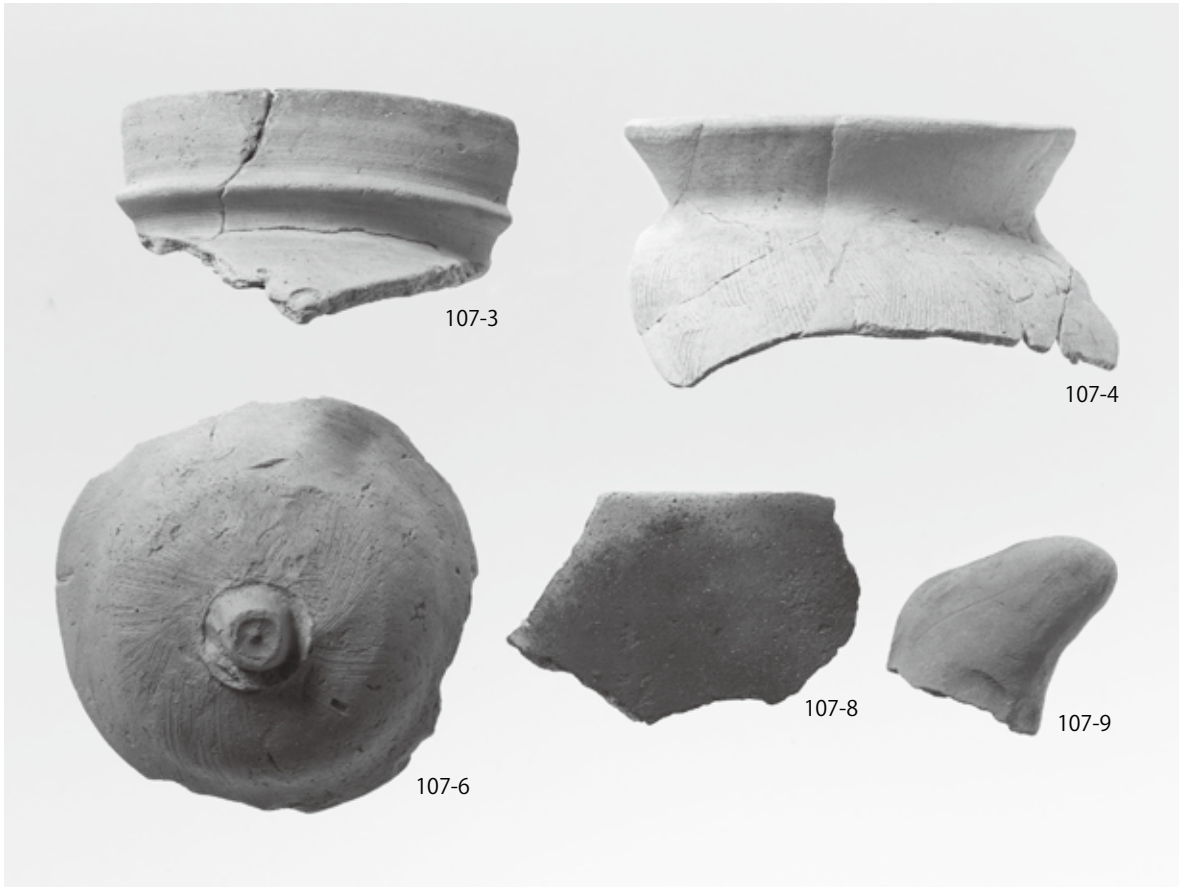


1　遺構出土遺物（14）



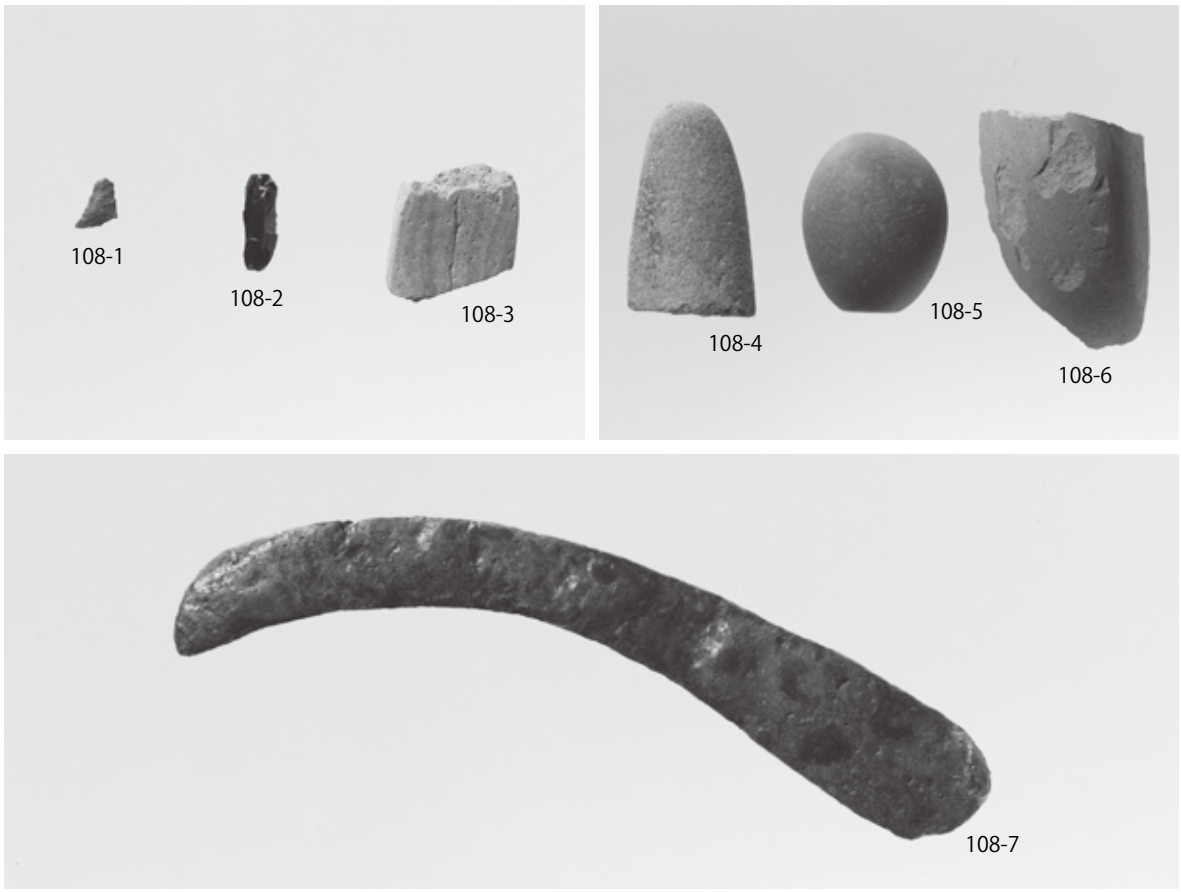
2　遺構出土遺物（15）

1　遺構出土遺物（16）

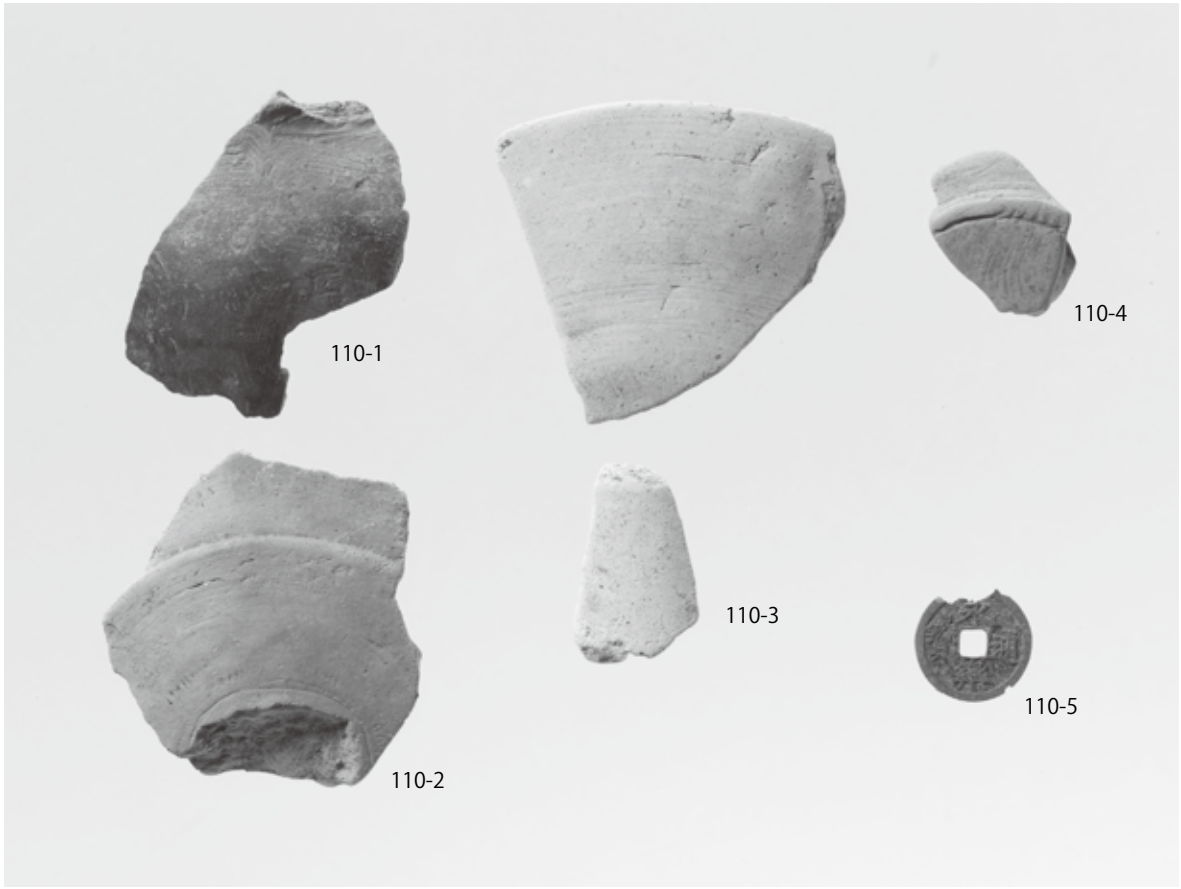


2　遺構出土遺物（17）

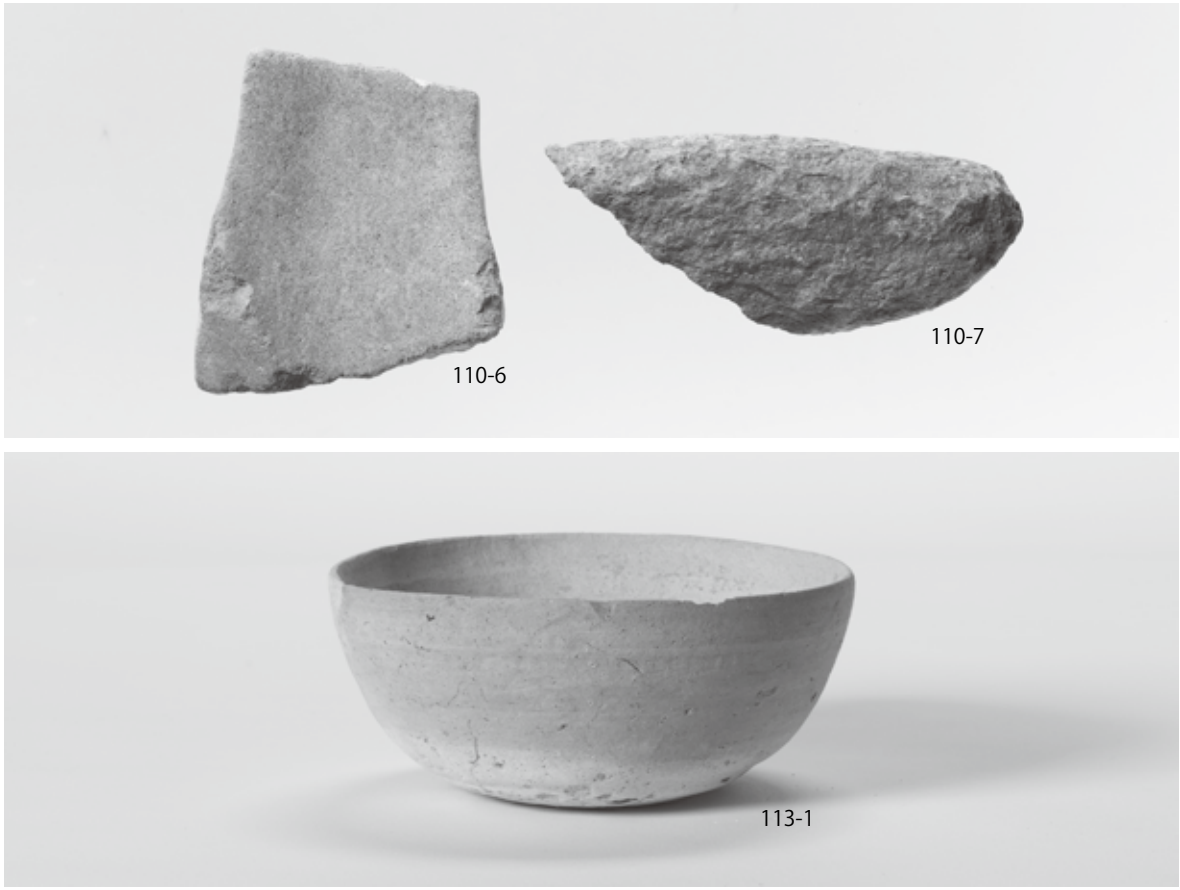
図版 38



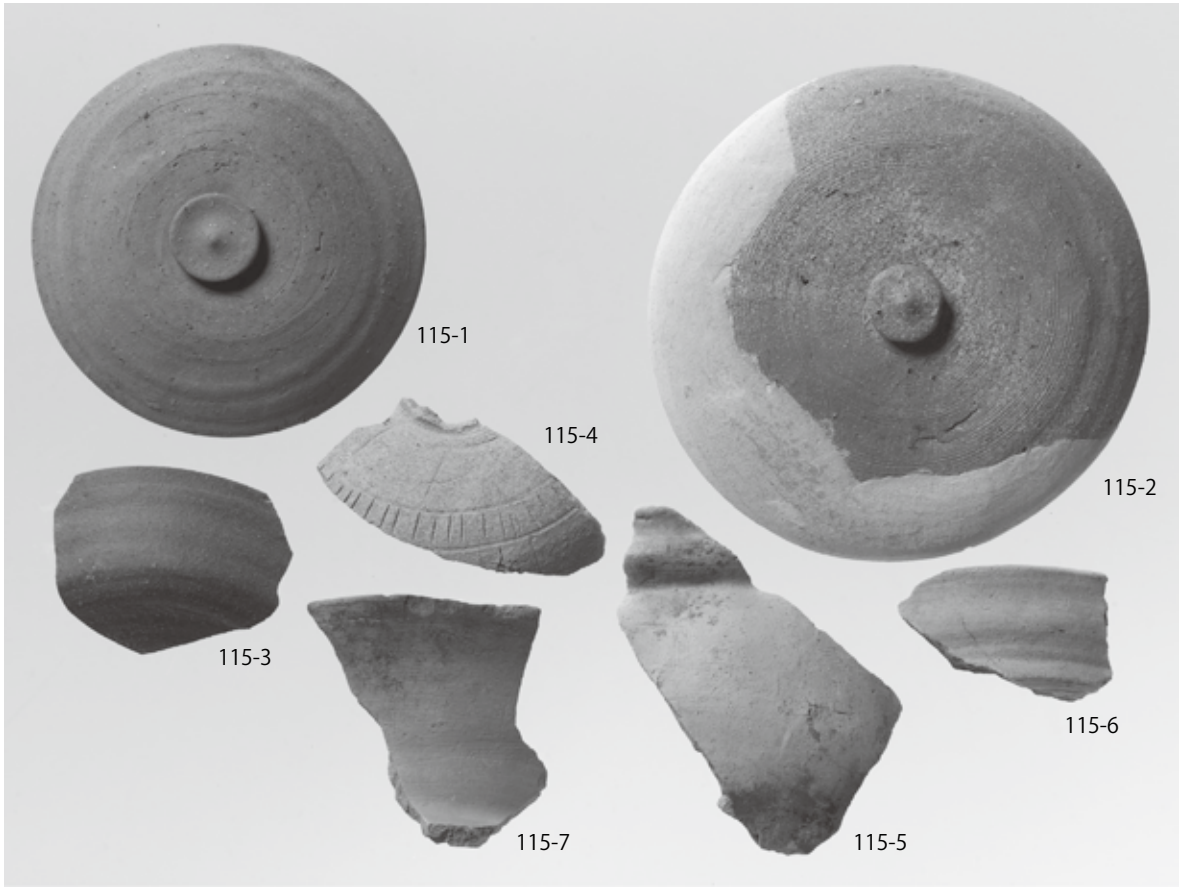
1　遺構出土遺物（18）



2　遺構出土遺物（19）



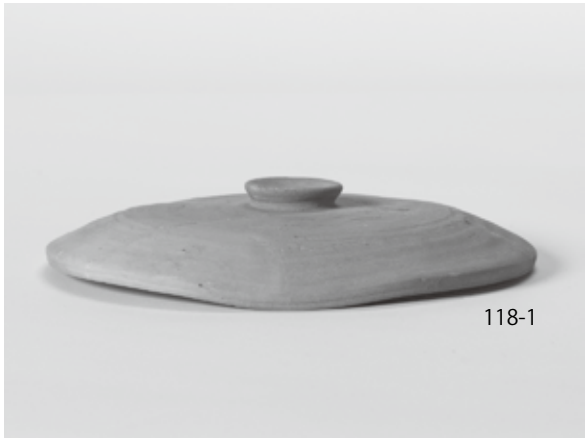
1　遺構出土遺物（20）

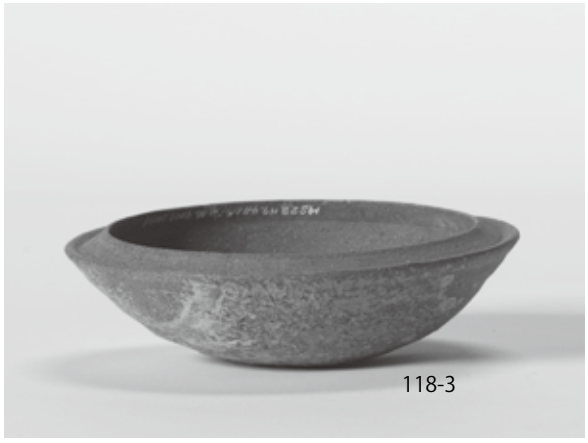


2　遺構出土遺物（21）

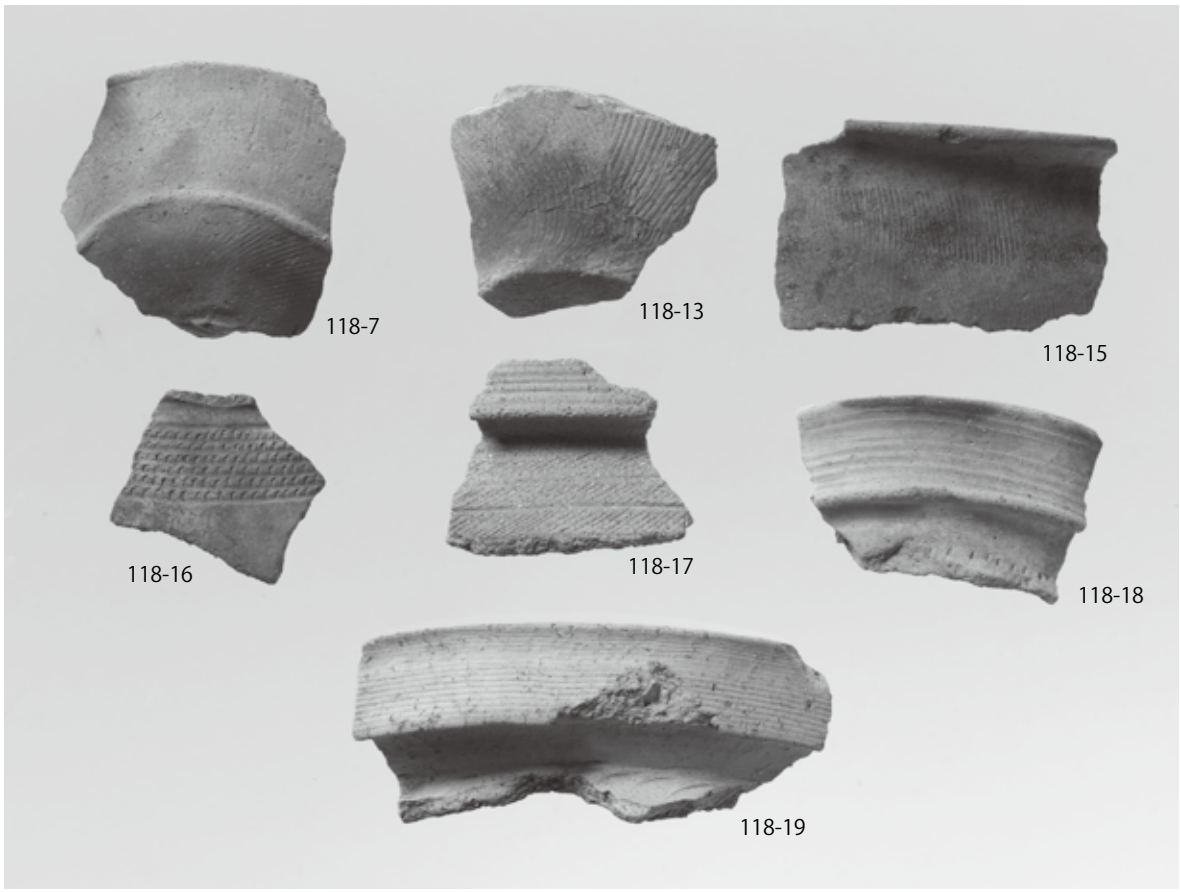
図版 40

1　遺構出土遺物（22）

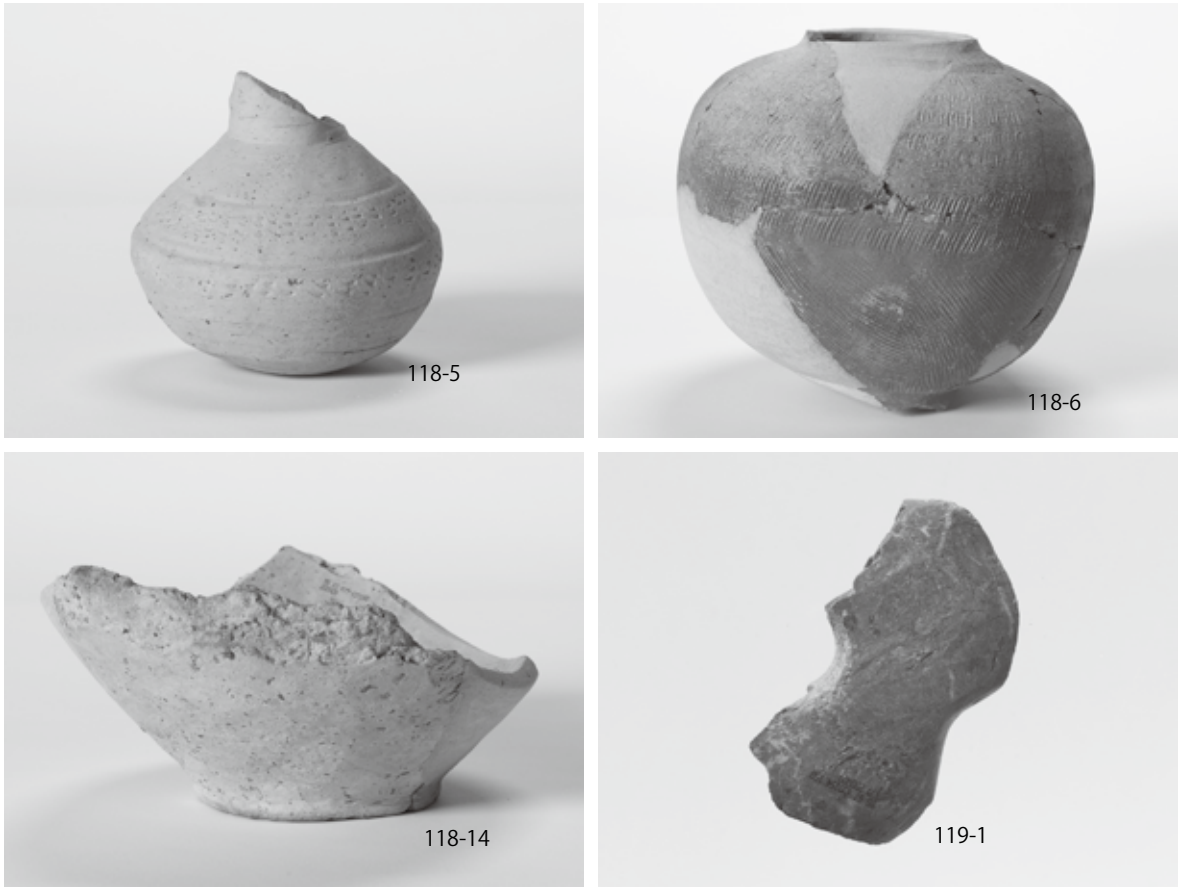




2　遺構出土遺物（23）



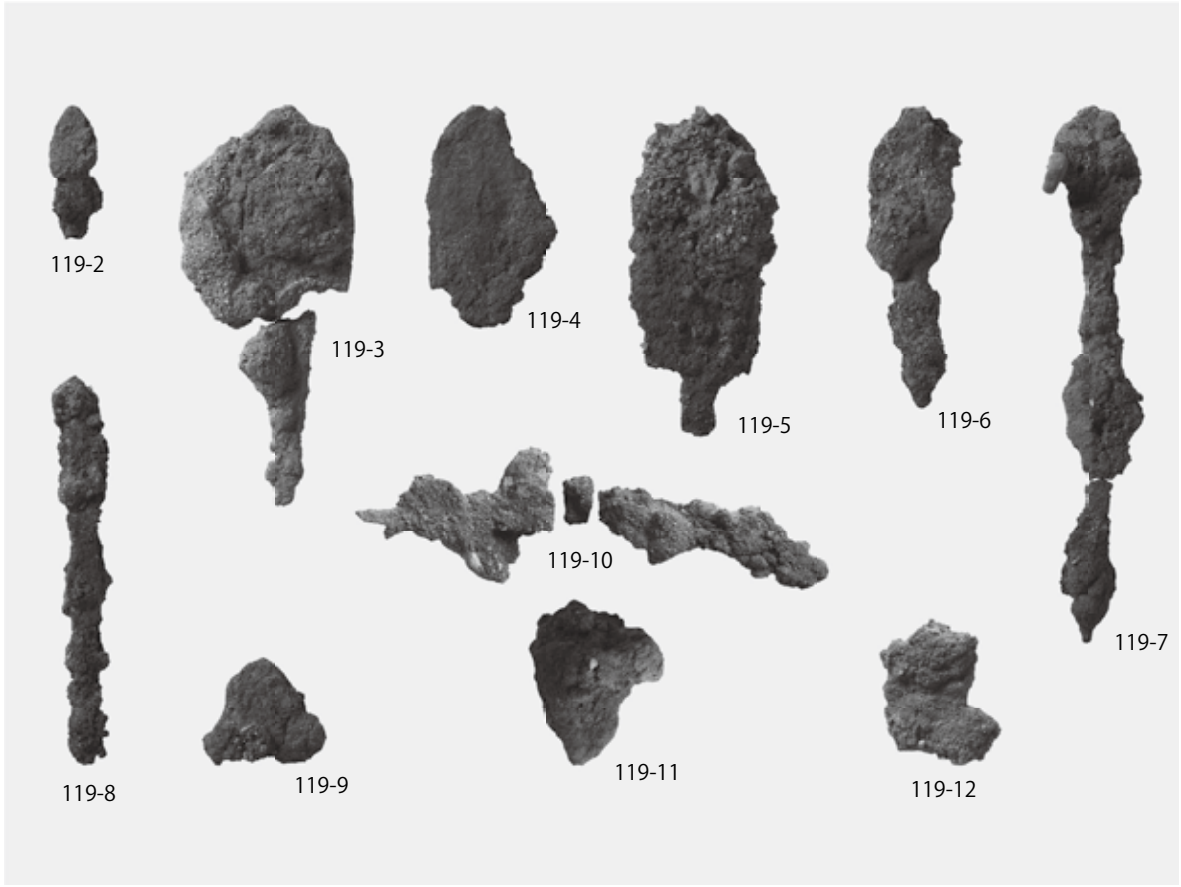
1　遺構出土遺物（24）



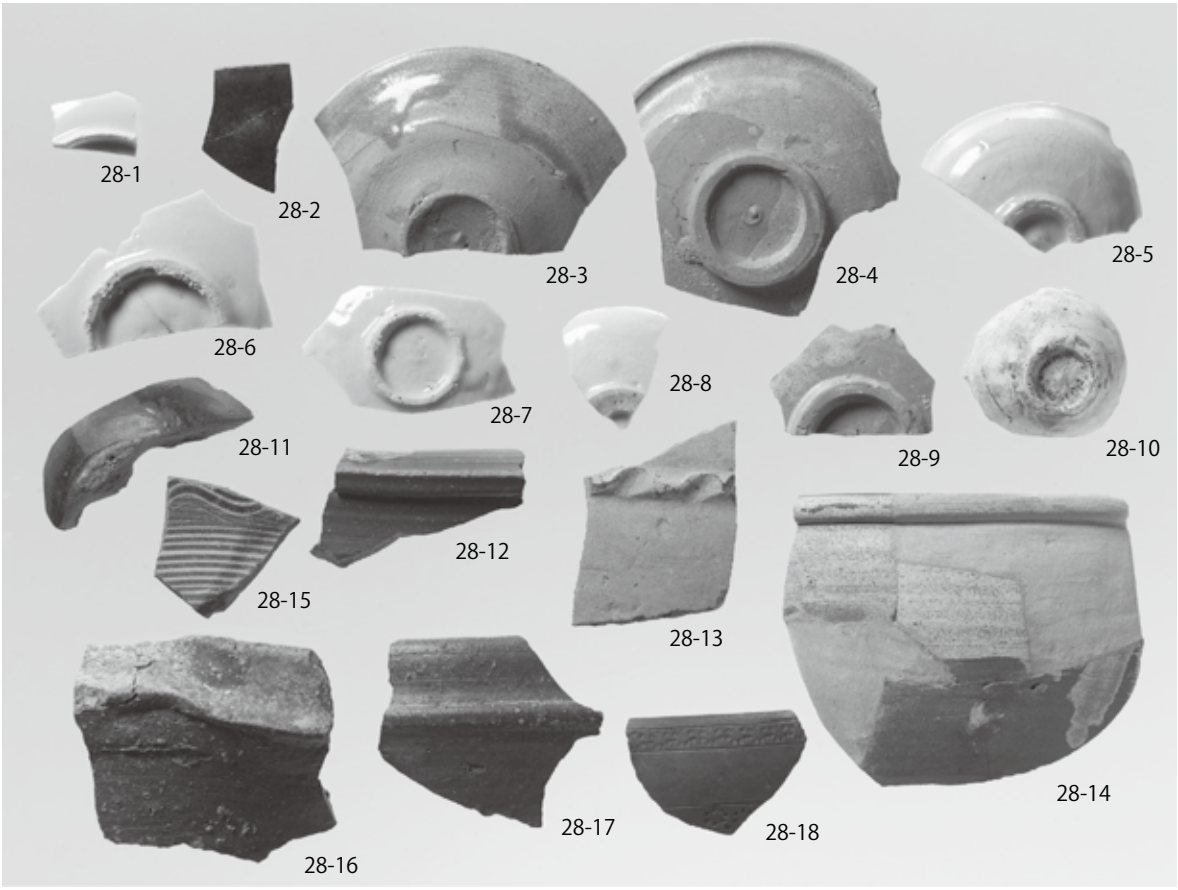
2　遺構出土遺物（25）

図版 42

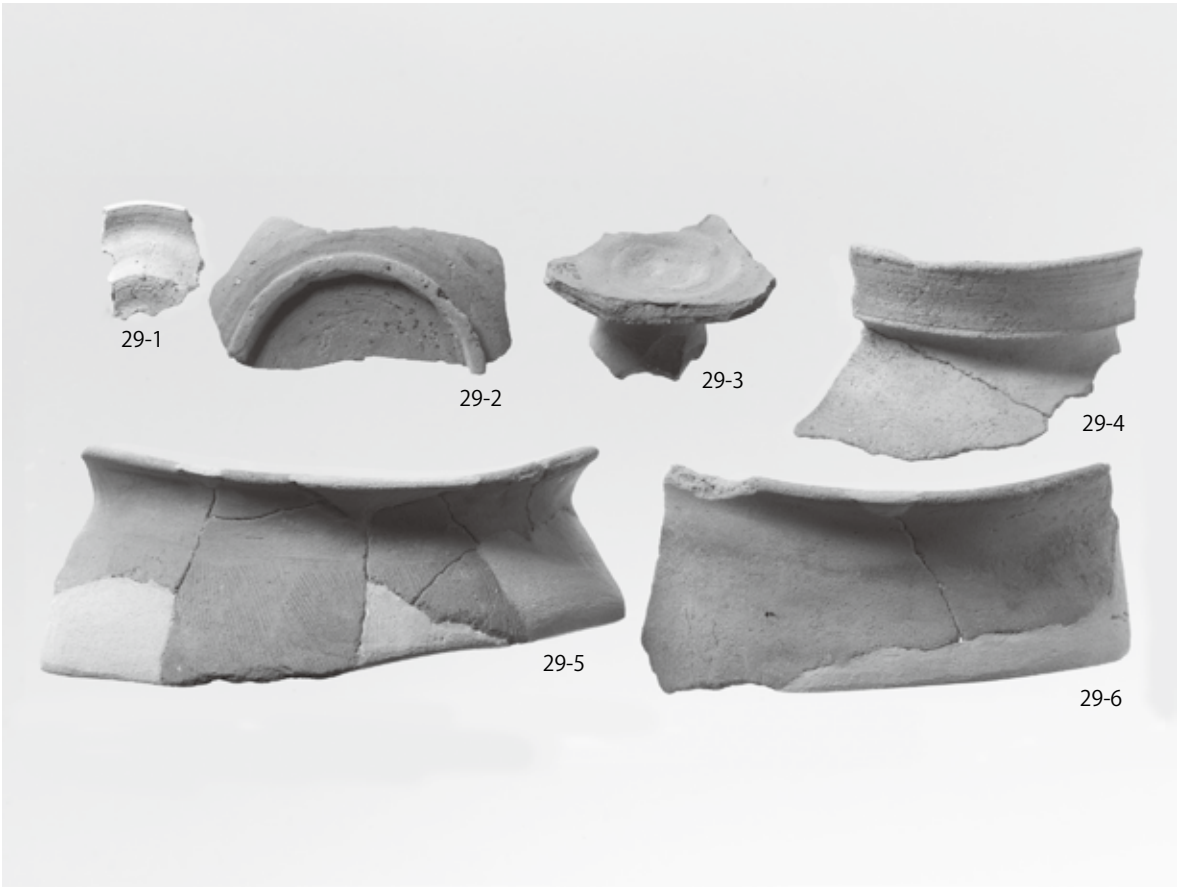
1　遺構出土遺物（26）



2　遺構出土遺物（27）

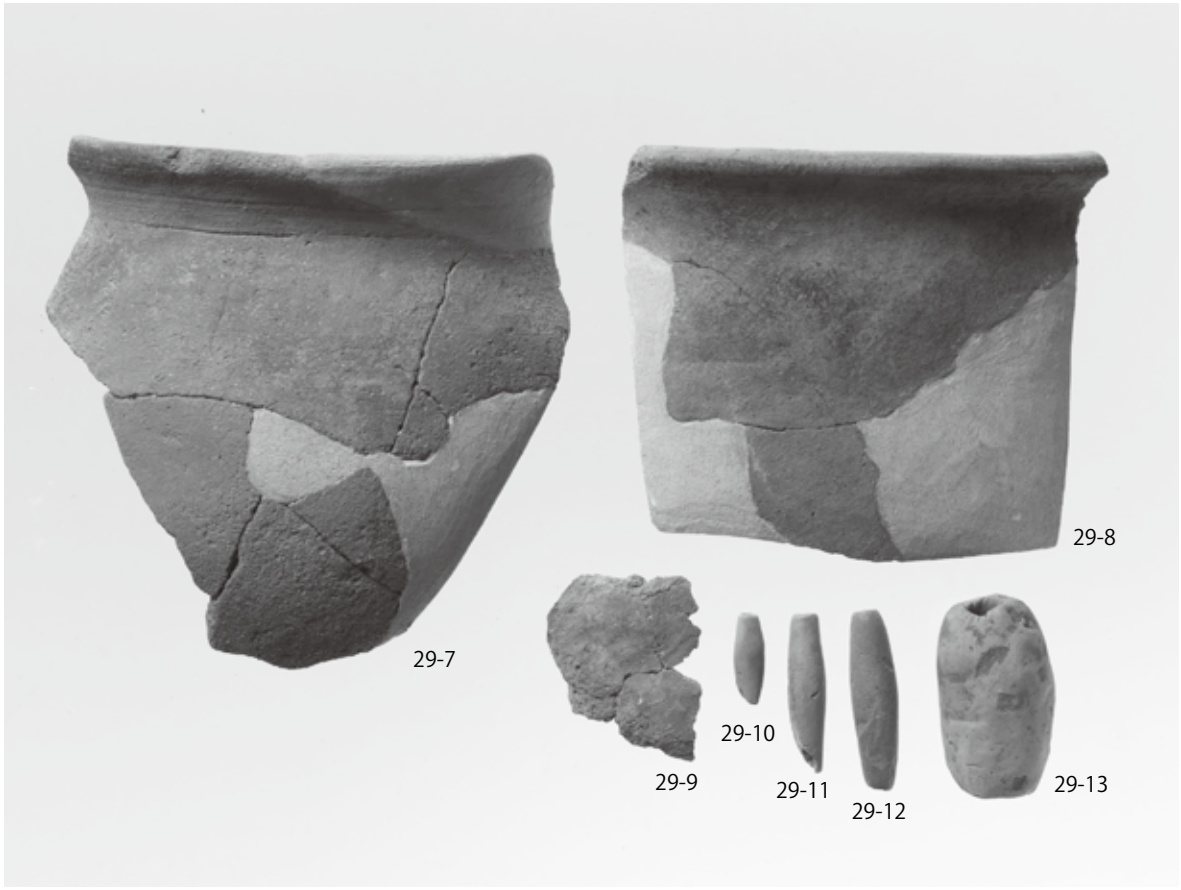


1　２層出土陶磁器

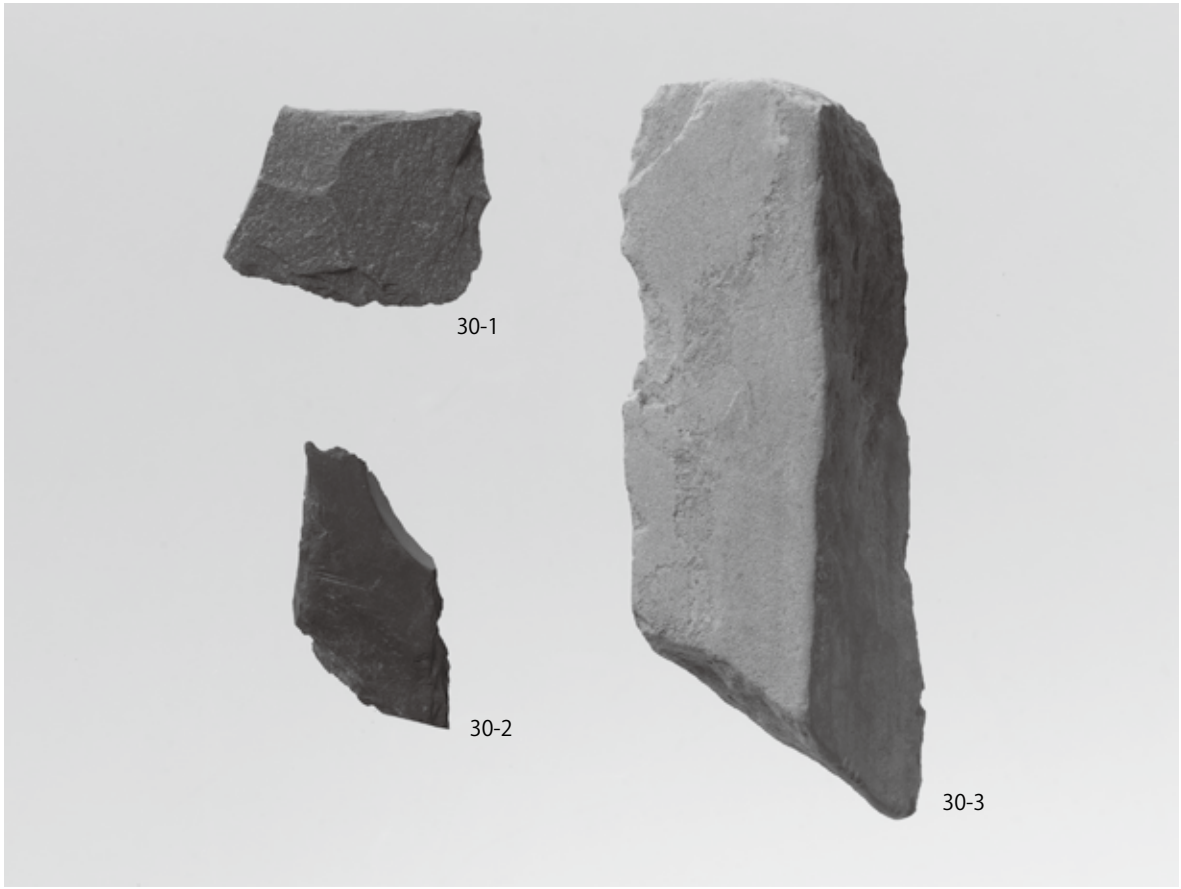


2　２層出土土師質土器・須恵器・土師器

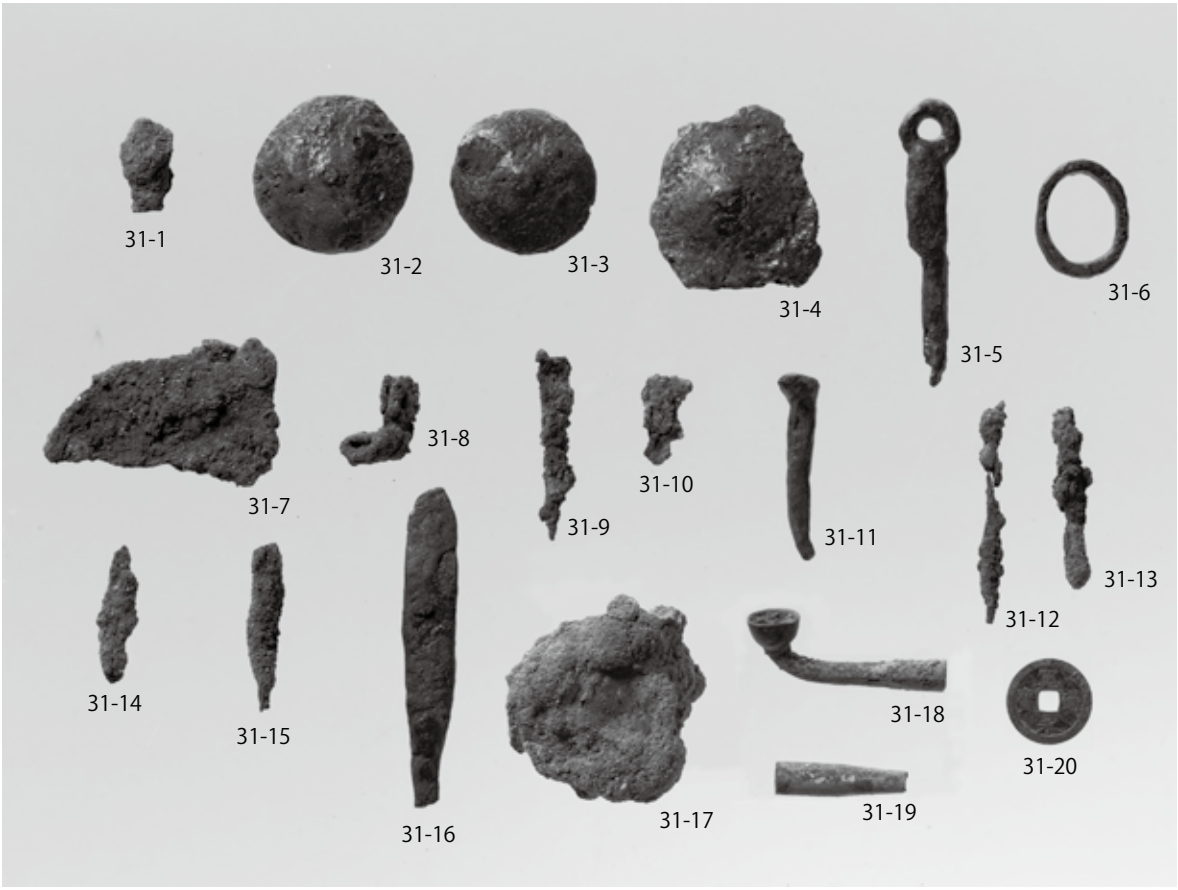
図版 44



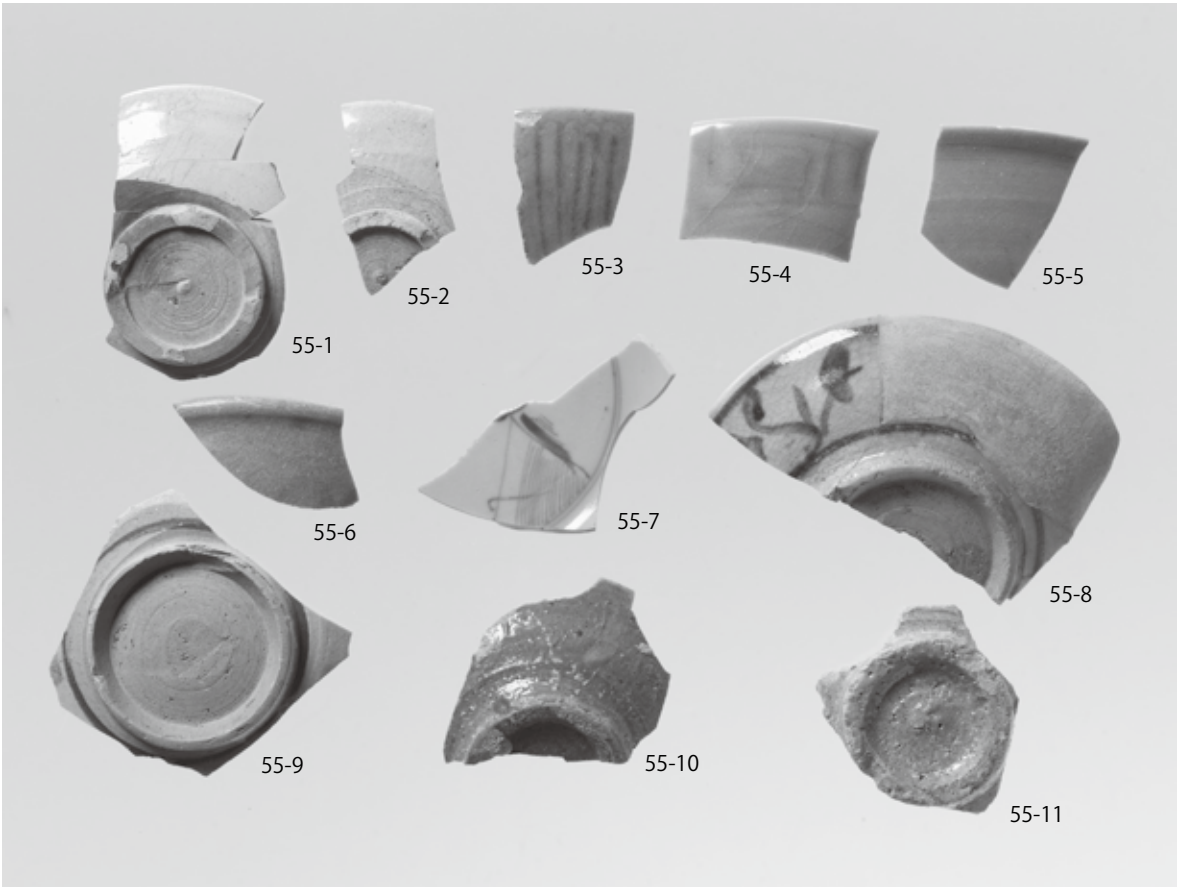
1　2層出土土師器・土製品



2　2層出土石製品

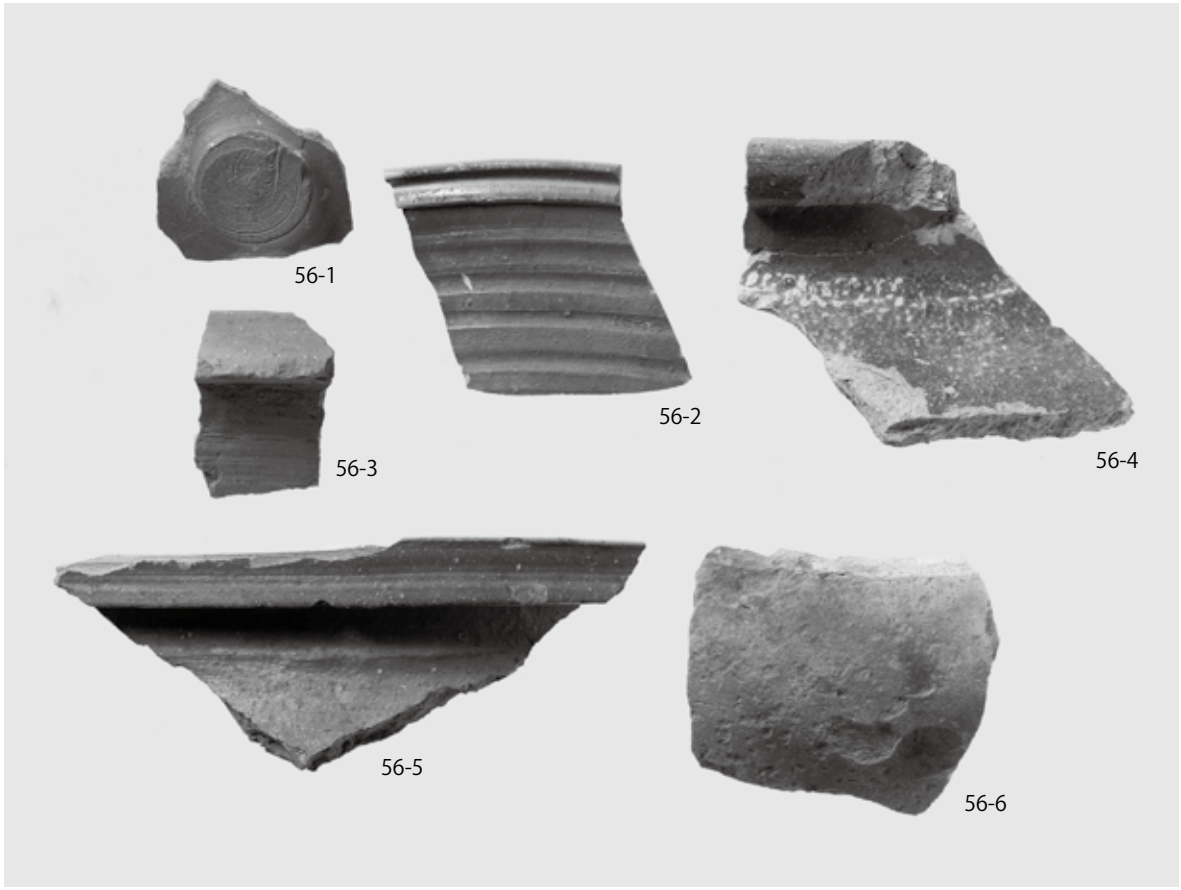


1　2層出土鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品



2　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土土師器

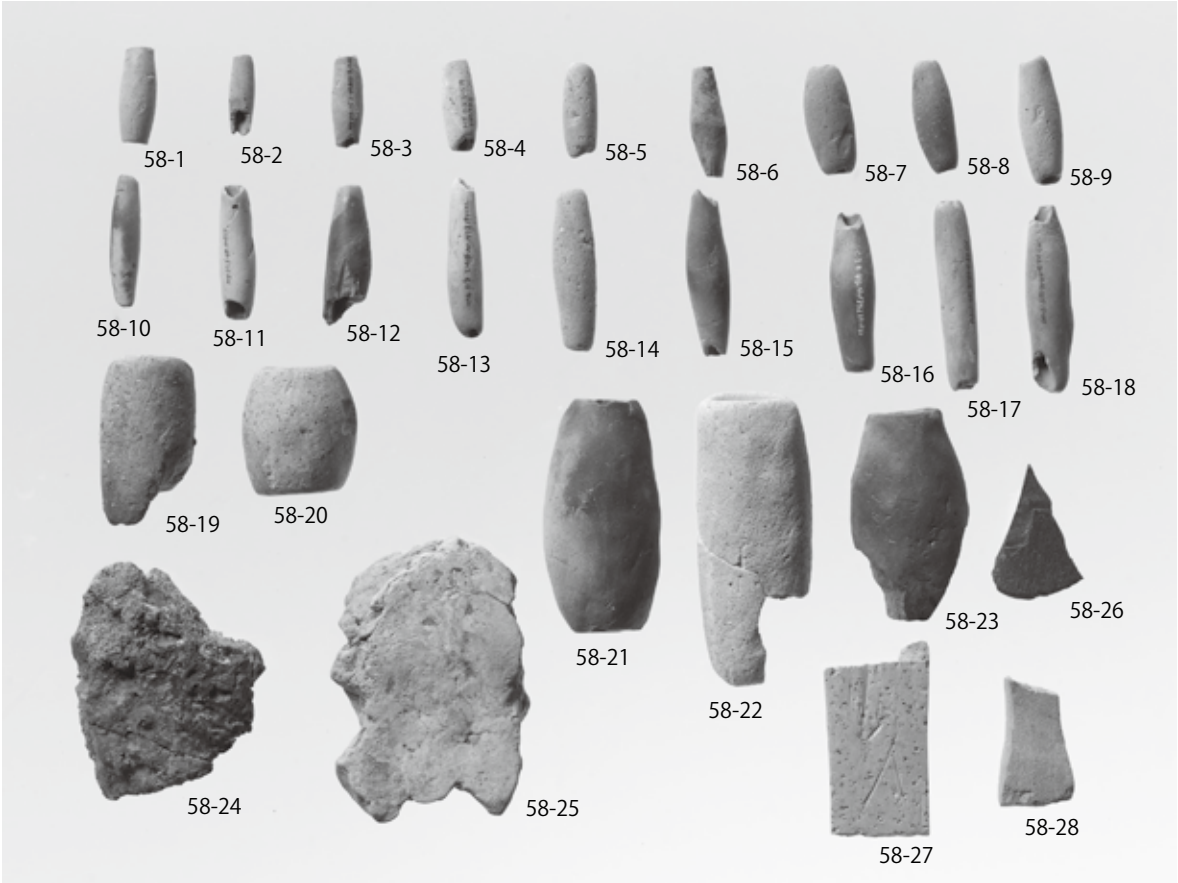
図版 46



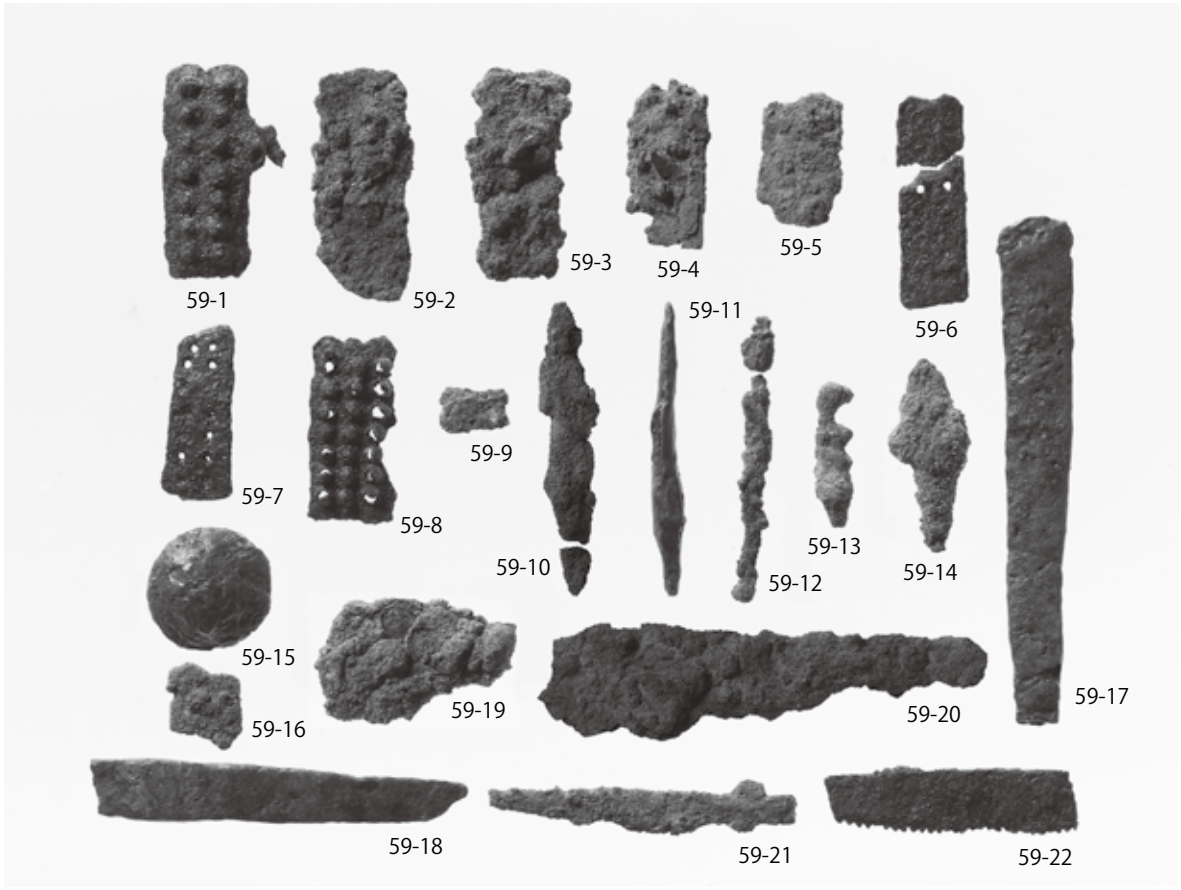
1　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土土師器

2　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土土師質土器・土師器・弥生土器・縄文土器

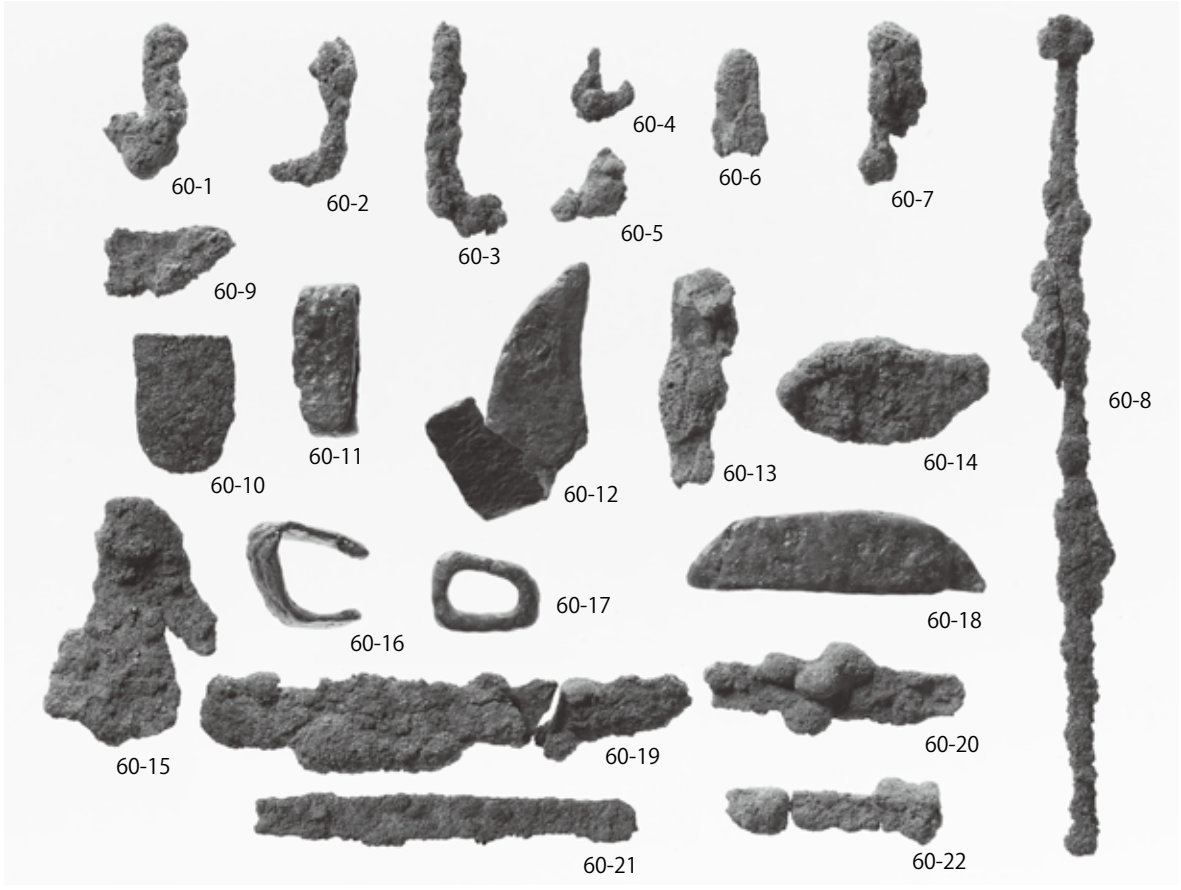
1　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土土師質土器



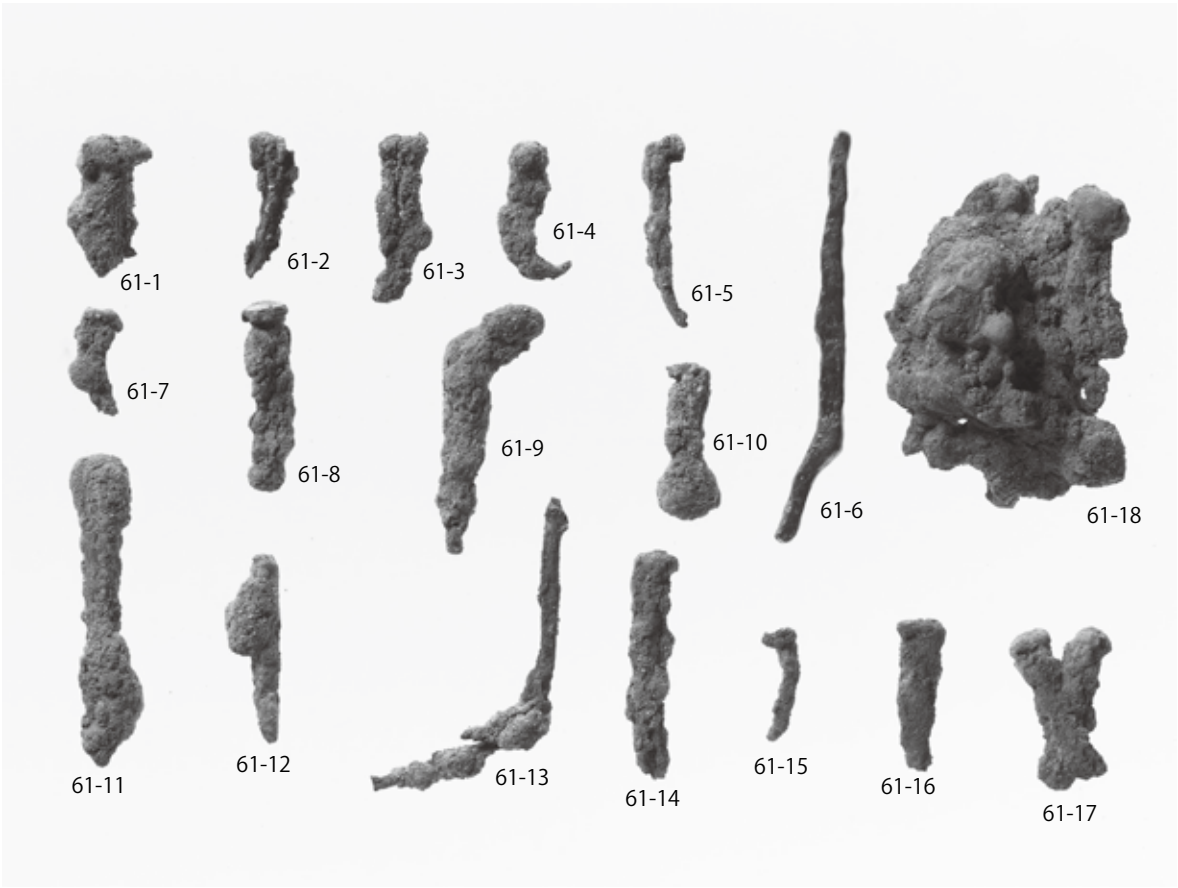
2　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土土製品・石製品



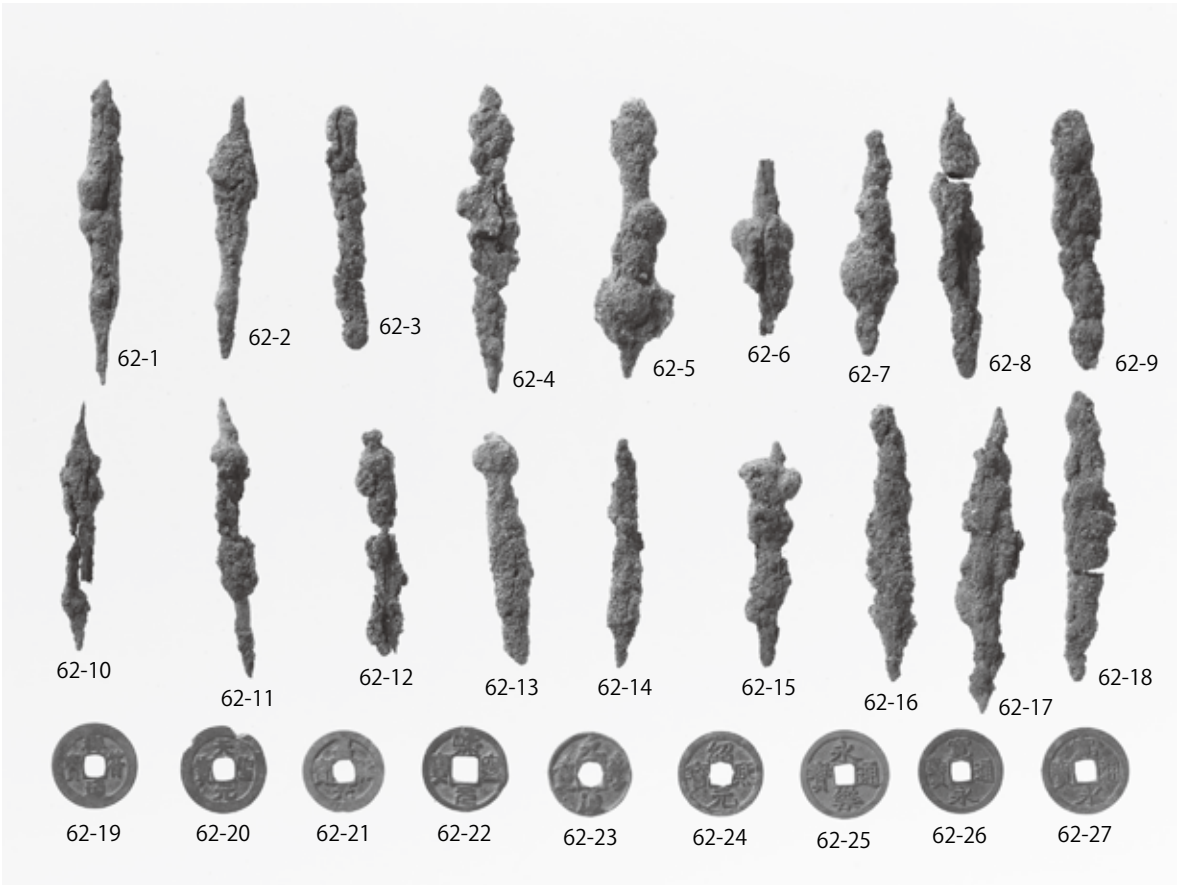
1　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土鉄製品



2　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土鉄製品

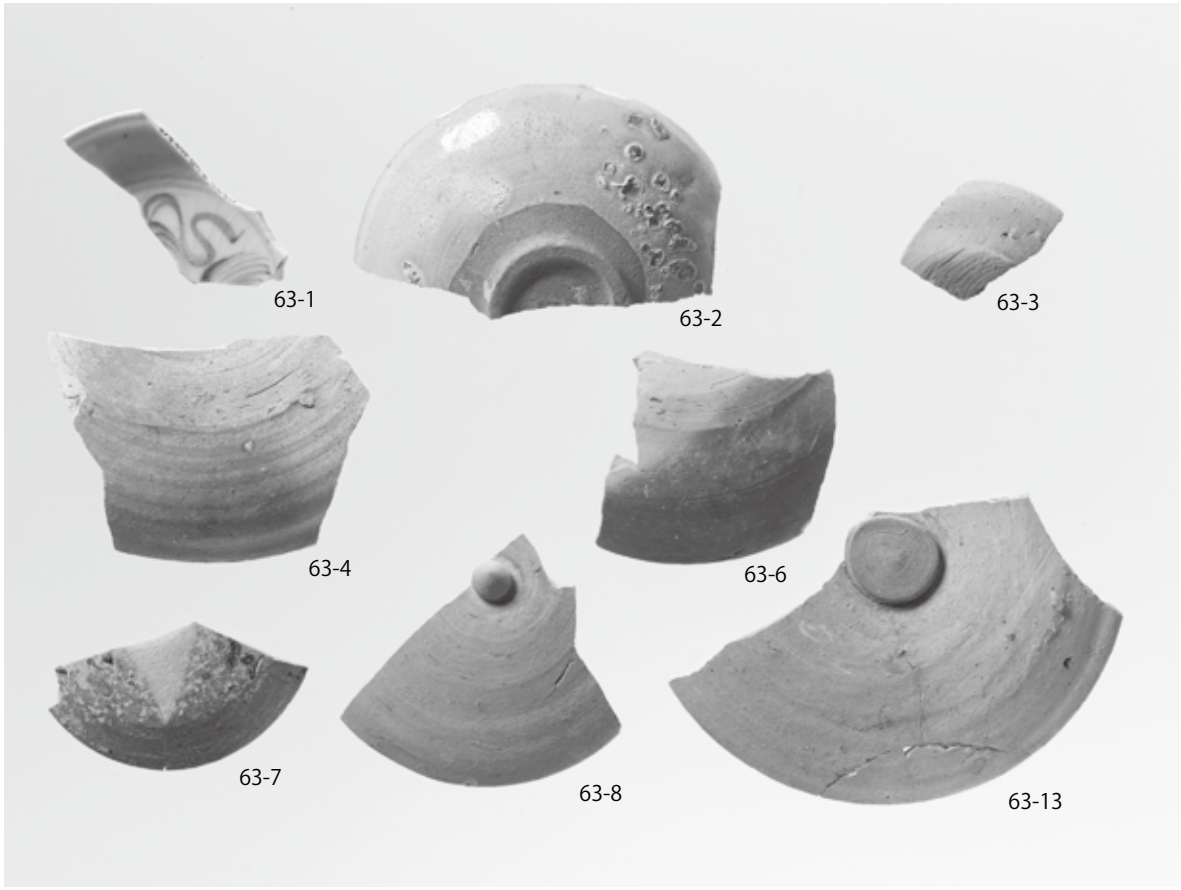


1　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土鉄製品

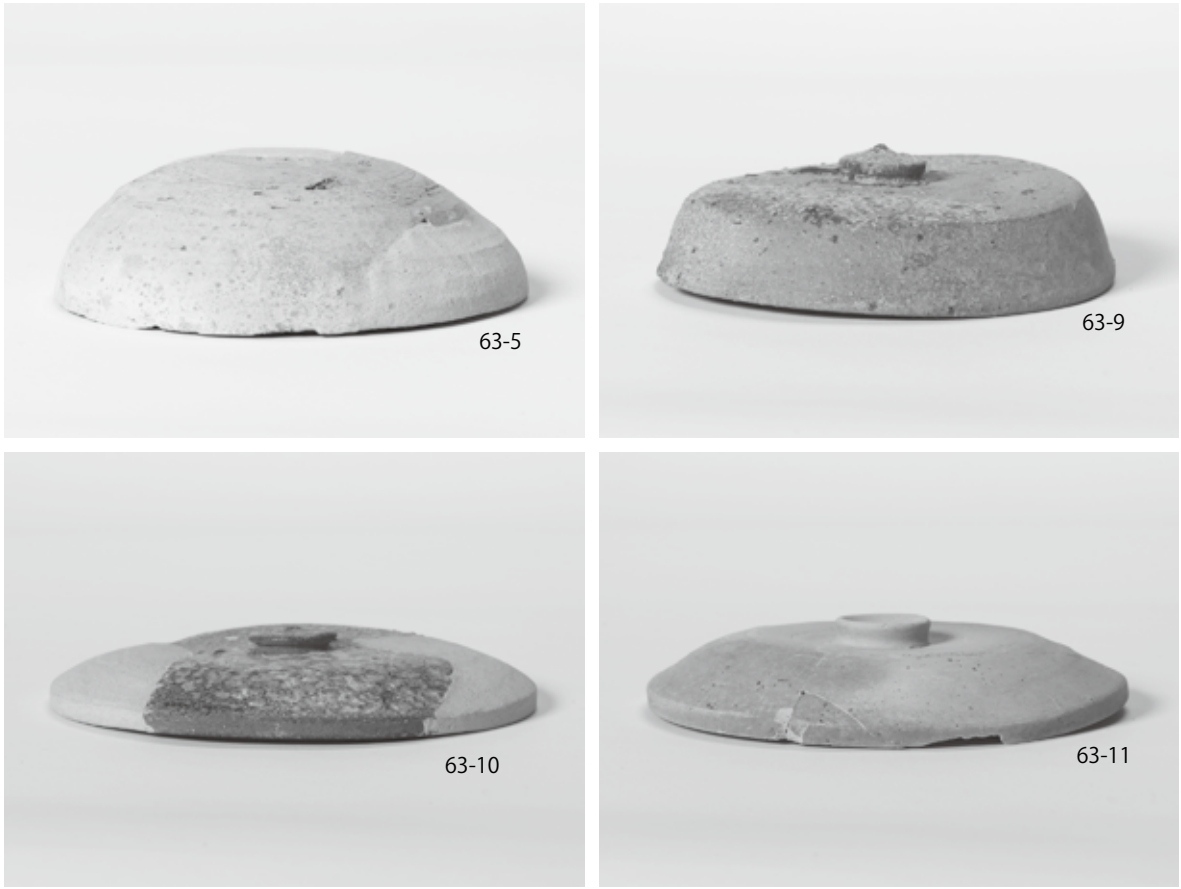


2　3-1 ～ 3-4 層（西側）出土鉄製品・青銅製品

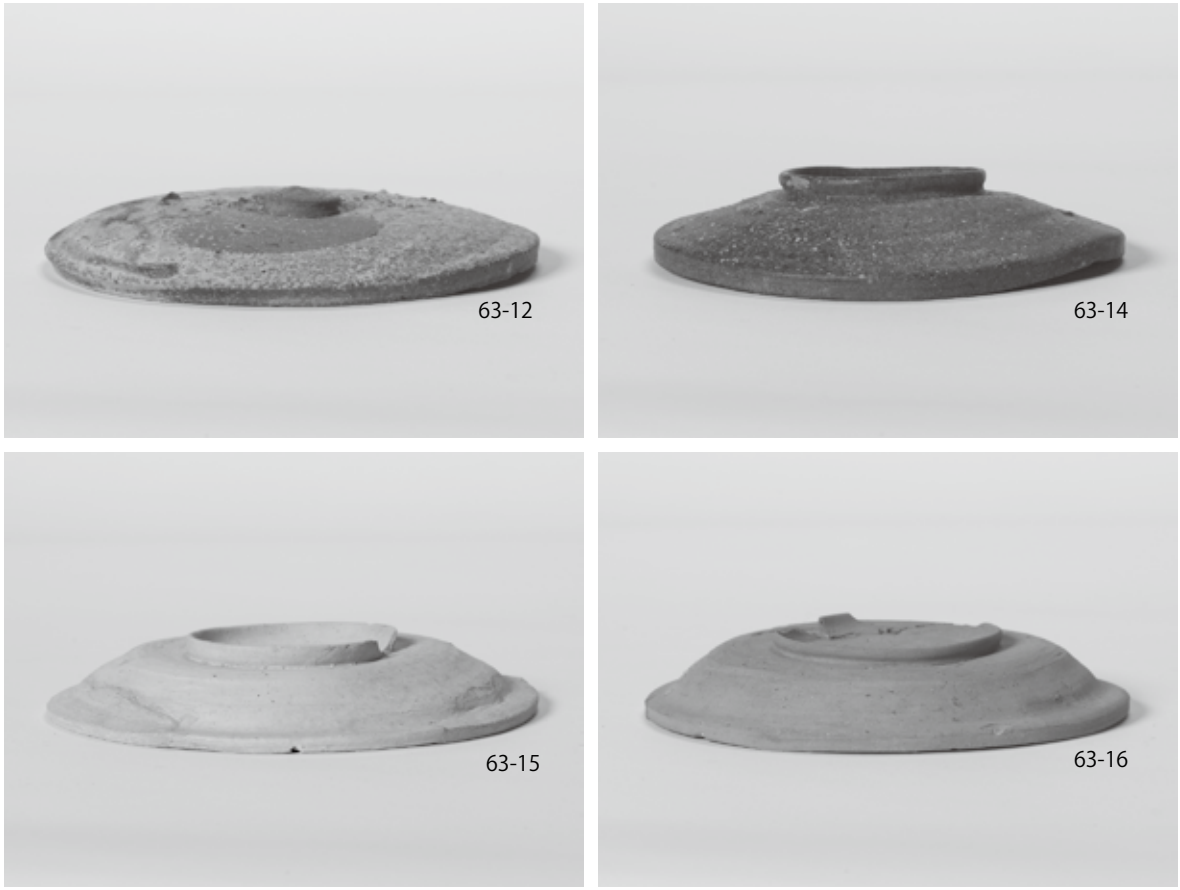
図版 50



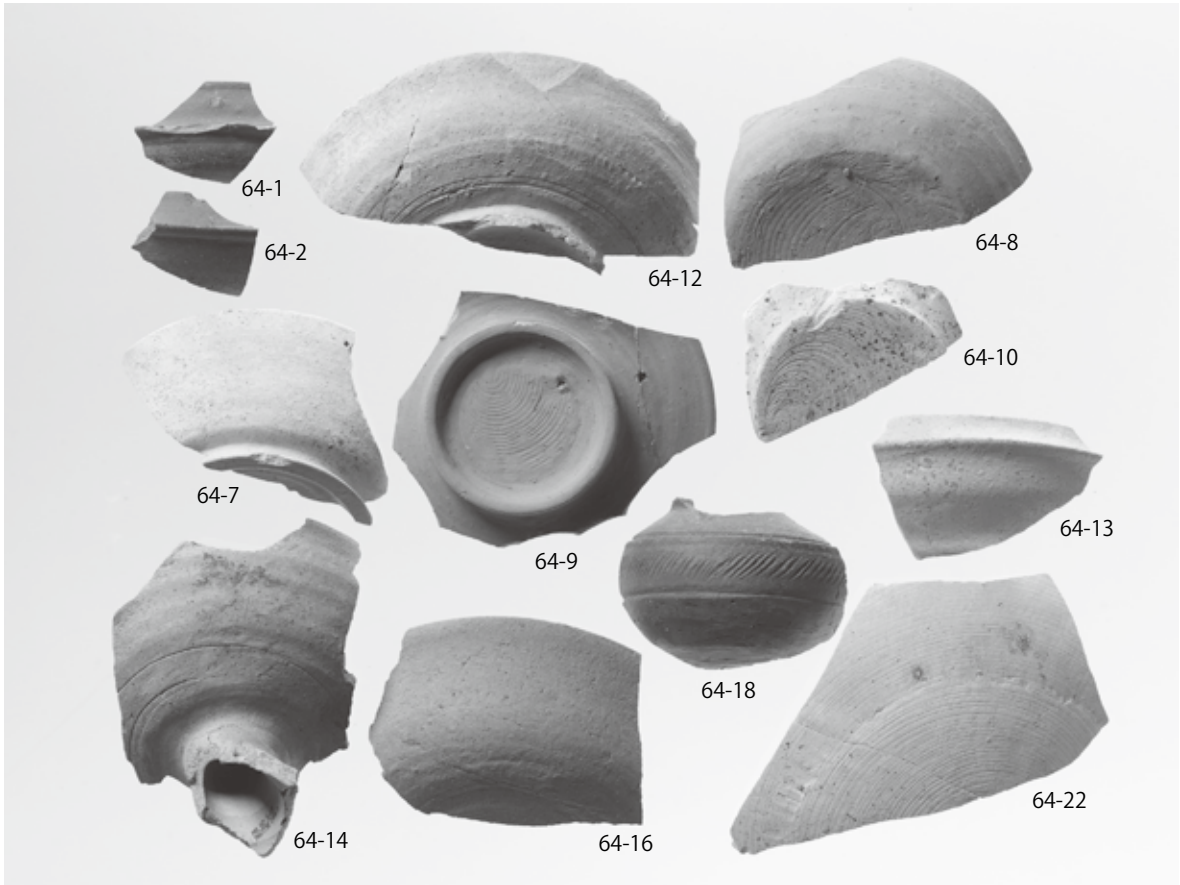
1　3-4 層（東側）出土陶磁器・土師質土器・須恵器



2　3-4 層（東側）出土須恵器

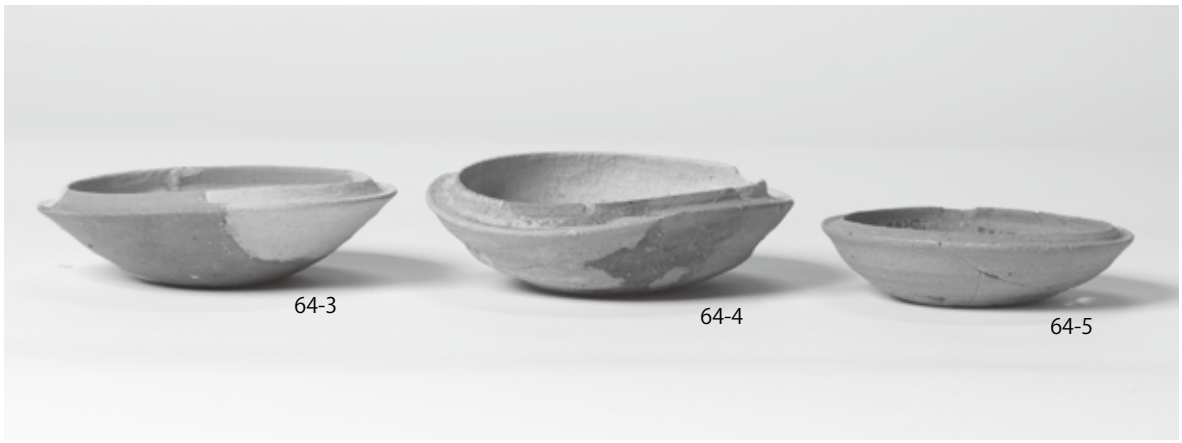


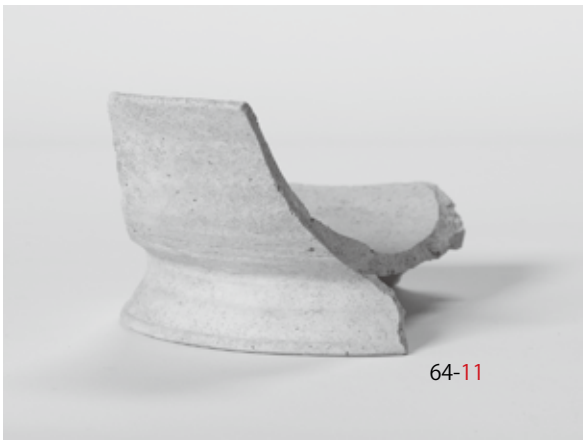
1　3-4 層（東側）出土須恵器



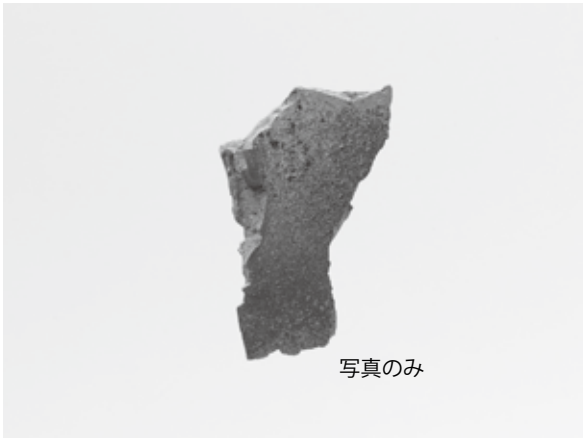
2　3-4 層（東側）出土須恵器

図版 52





1　3-4 層（東側）出土須恵器



2　3-4 層（東側）出土須恵器

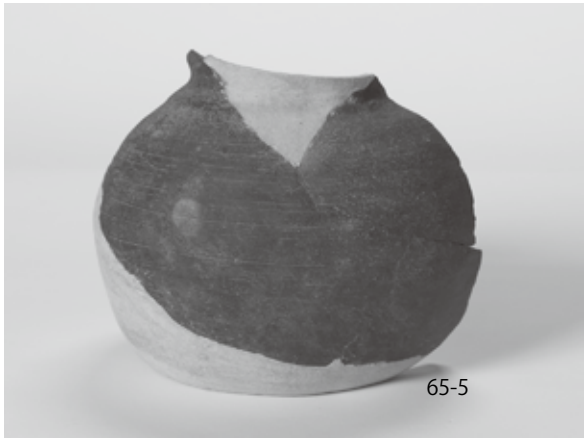
64-21

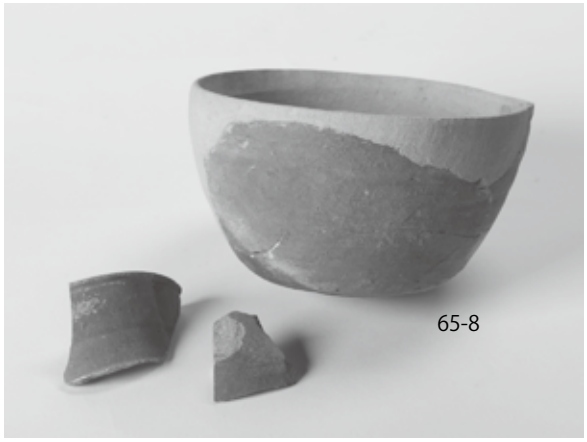
65-1

65-3

65-4

1　3-4 層（東側）出土須恵器


65-5

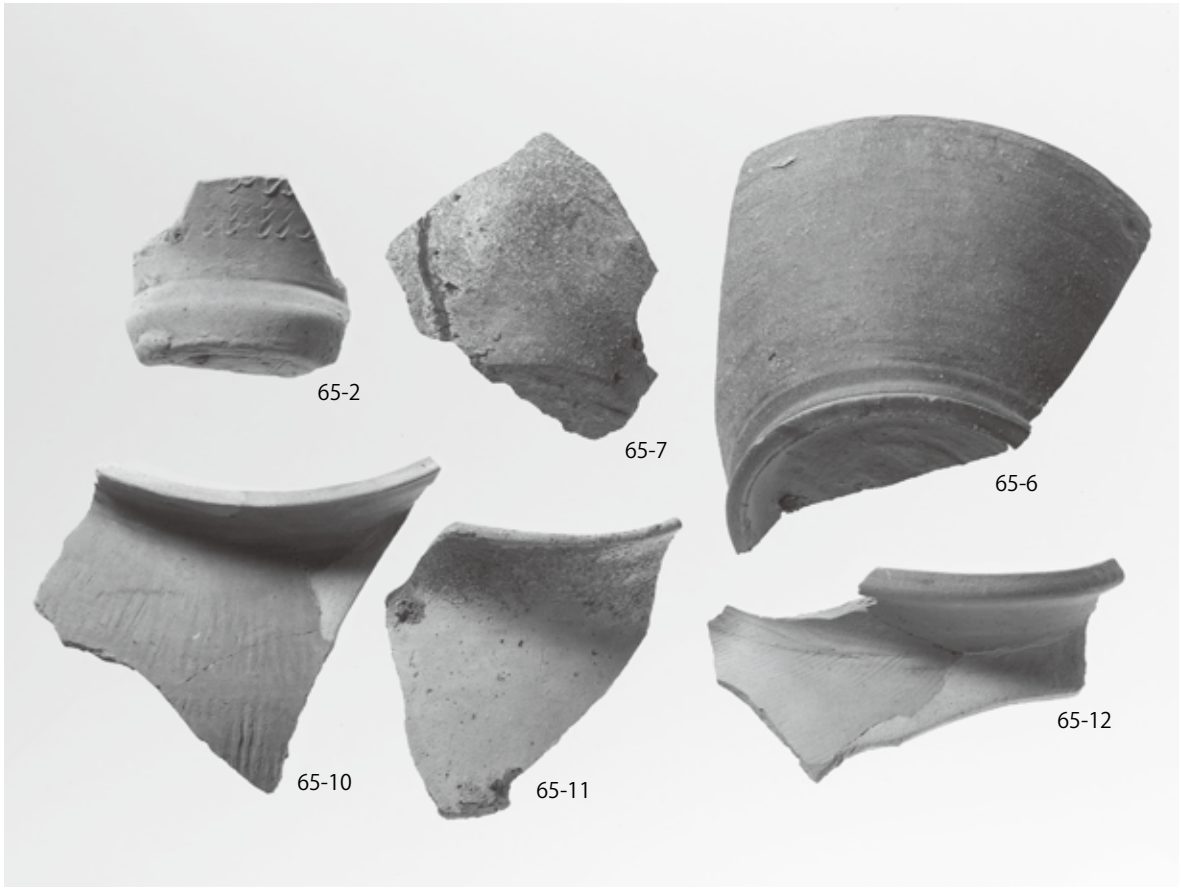

65-8

65-9

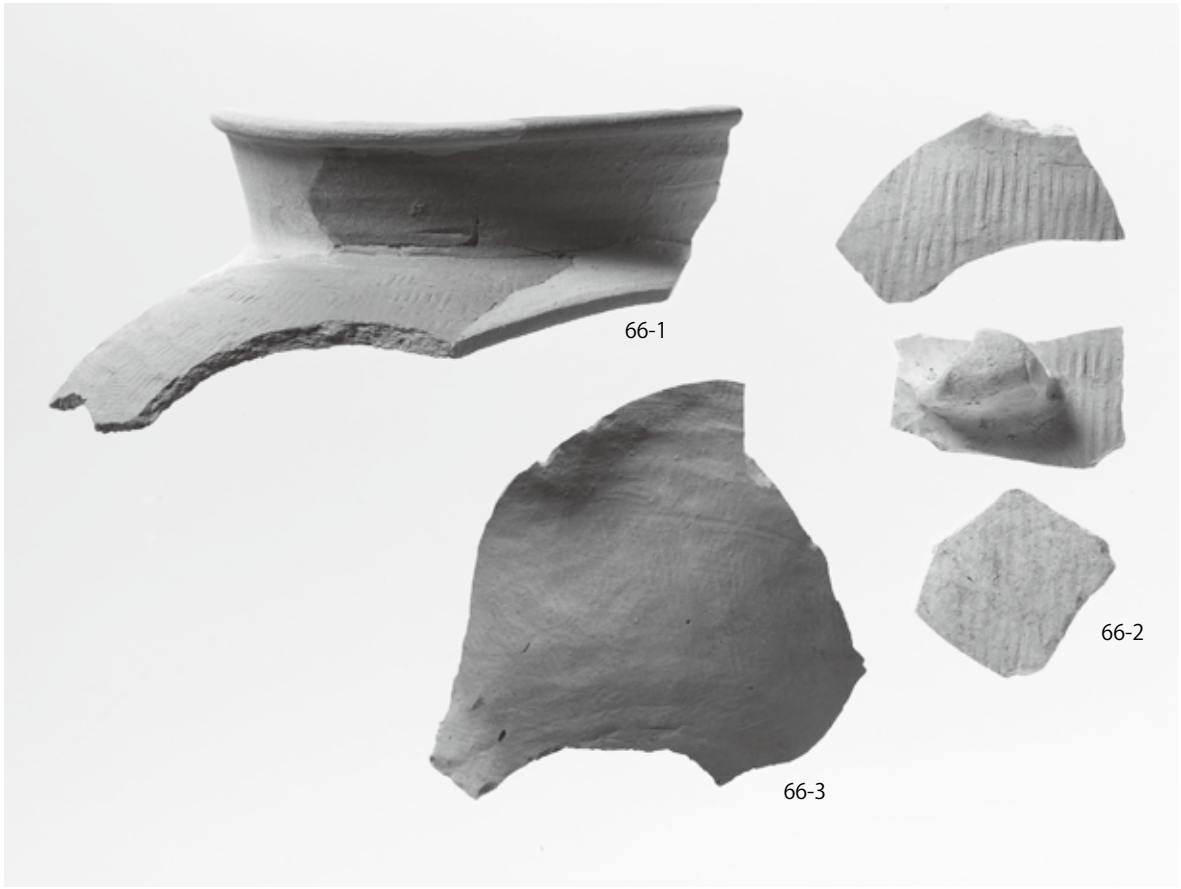
67-1

2　3-4 層（東側）出土須恵器

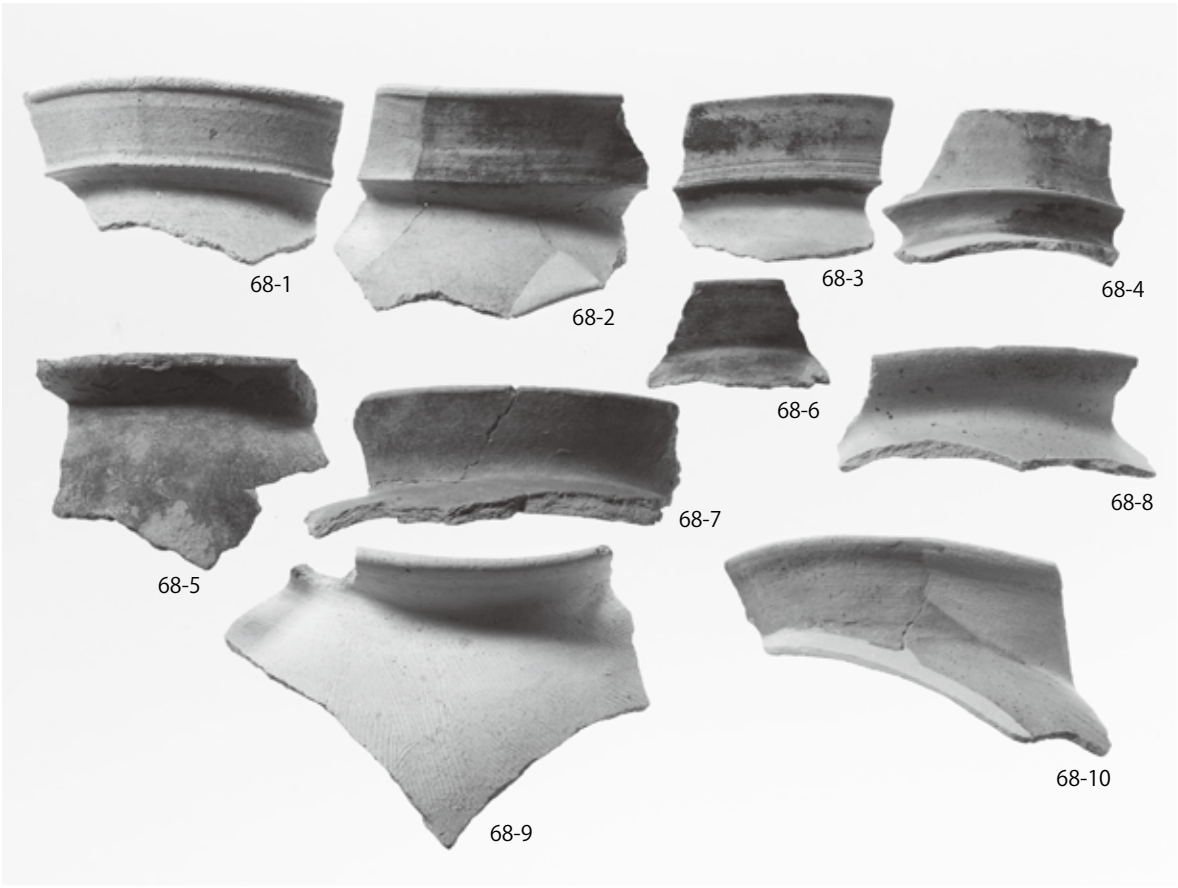
図版 54



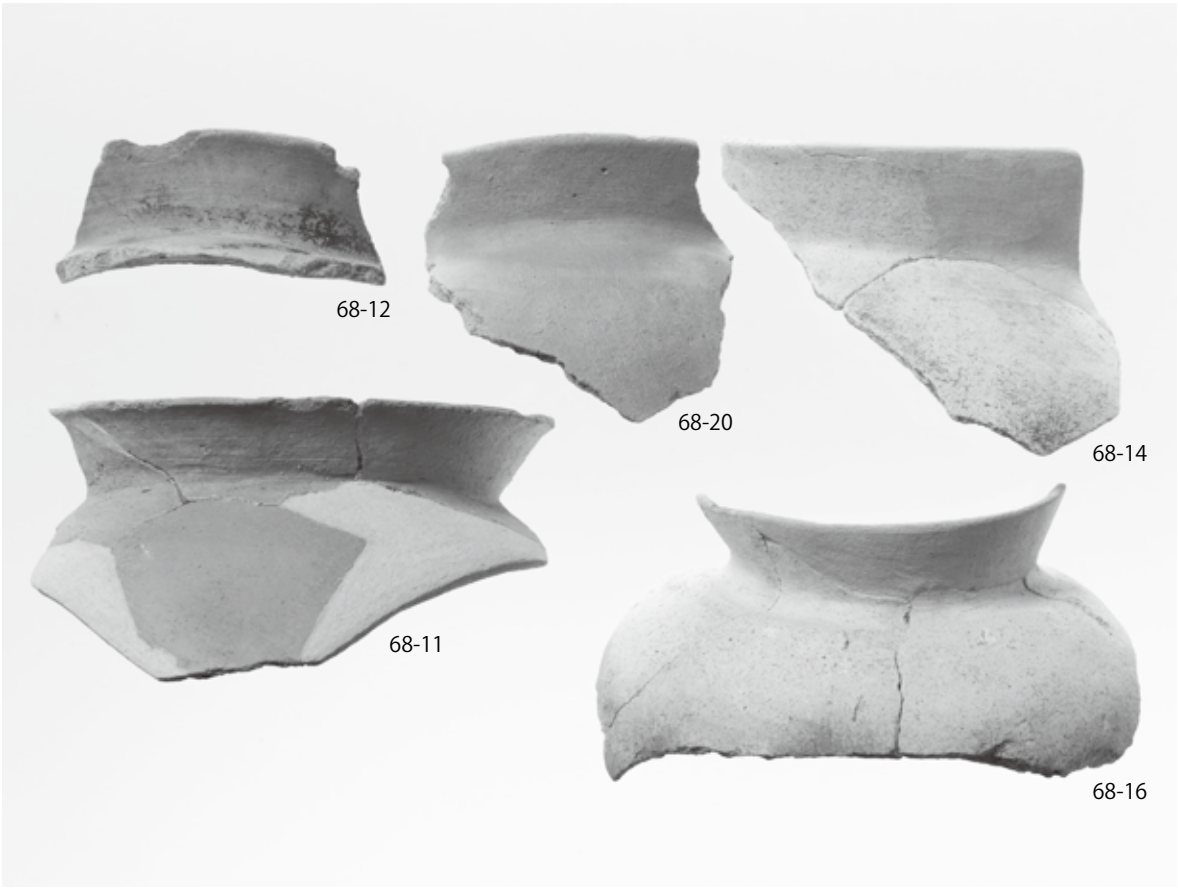
1　3-4 層（東側）出土須恵器



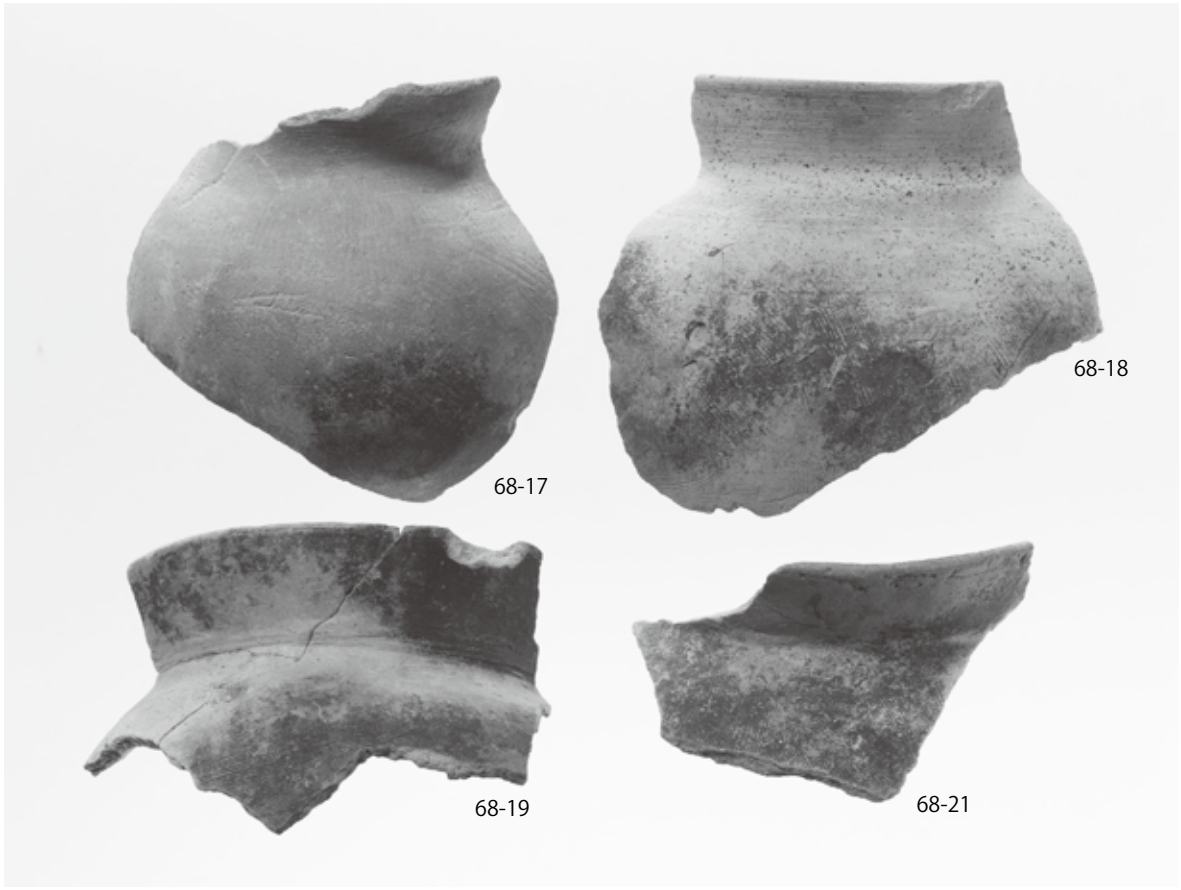
2　3-4 層（東側）出土須恵器



1　3-4 層（東側）出土土師器

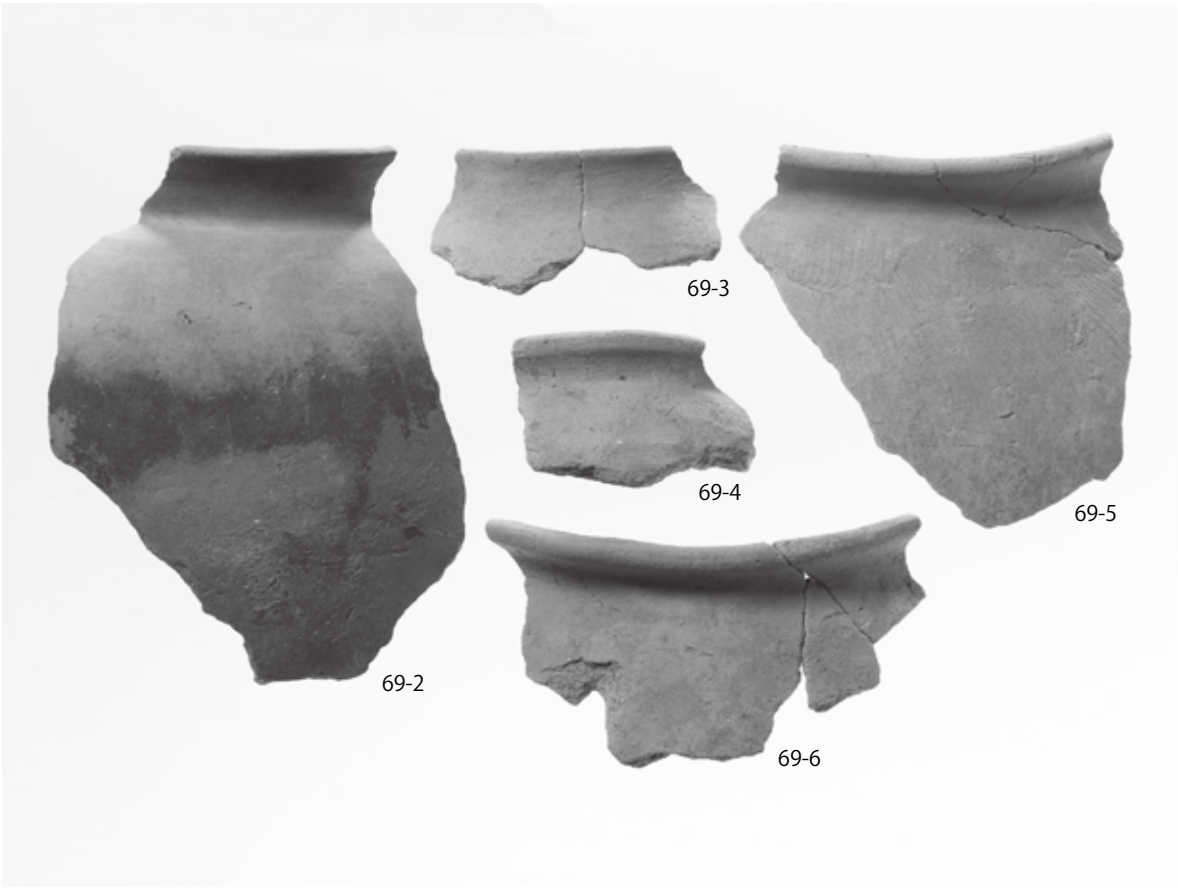


2　3-4 層（東側）出土土師器

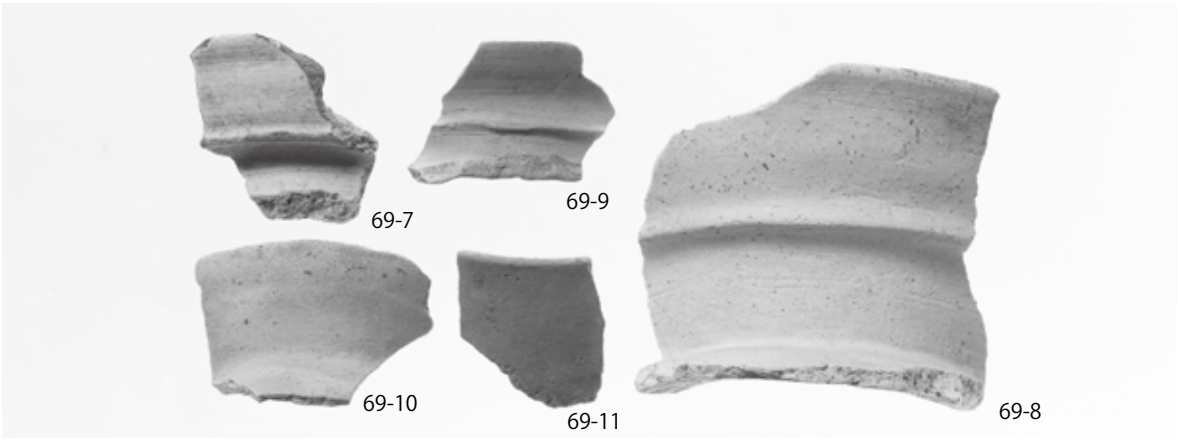


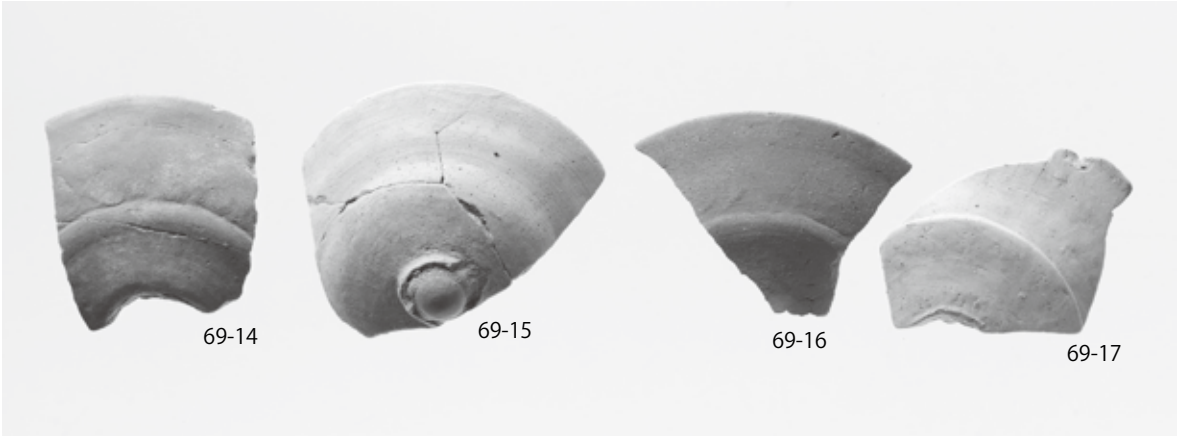
1　3-4 層（東側）出土土師器

2　3-4 層（東側）出土土師器



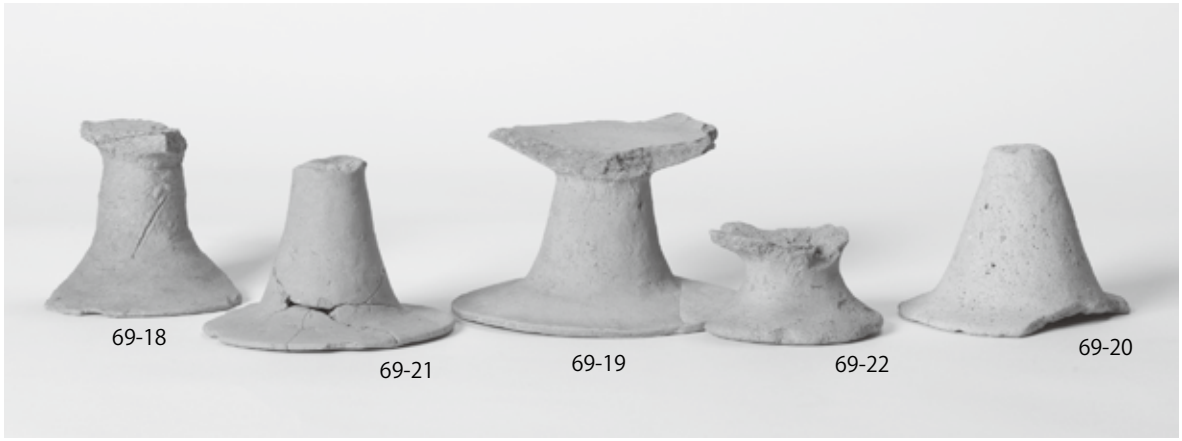
1　3-4 層（東側）出土土師器



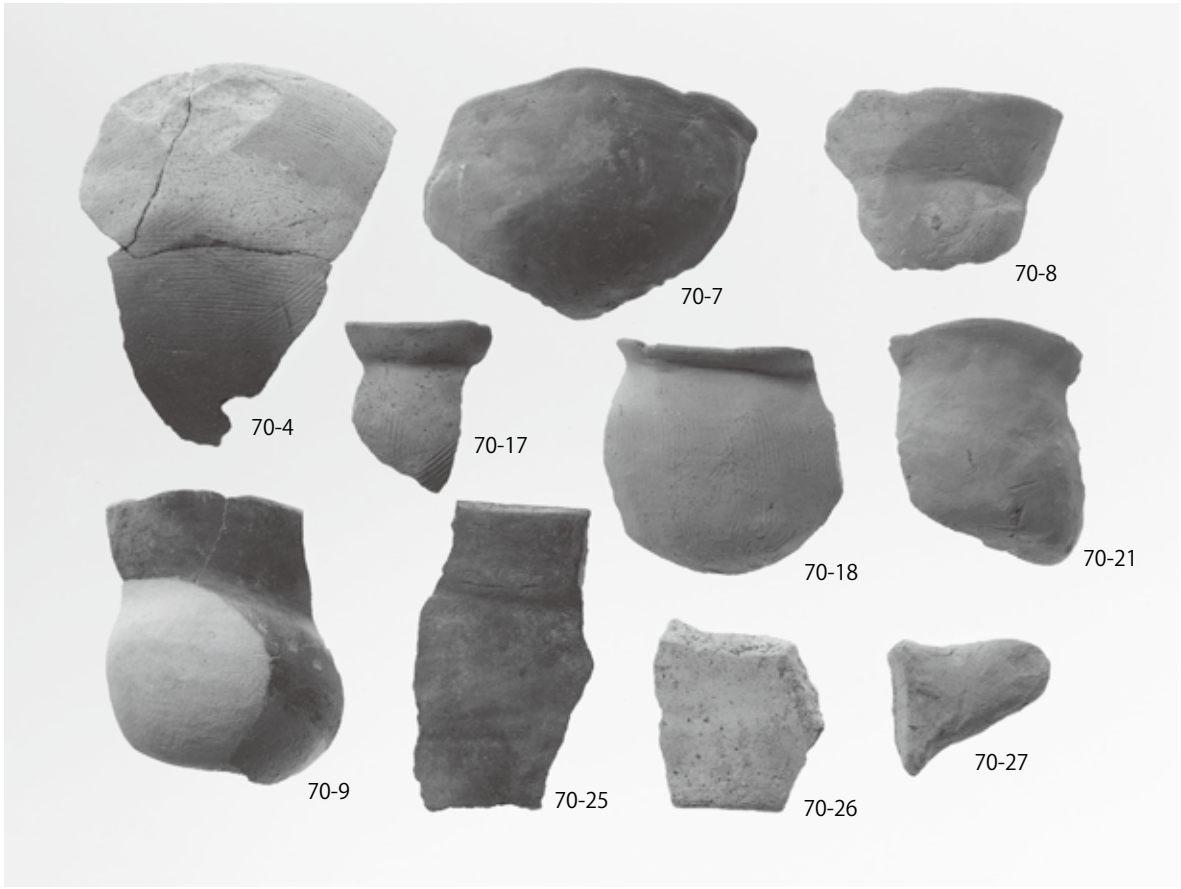


2　3-4 層（東側）出土土師器

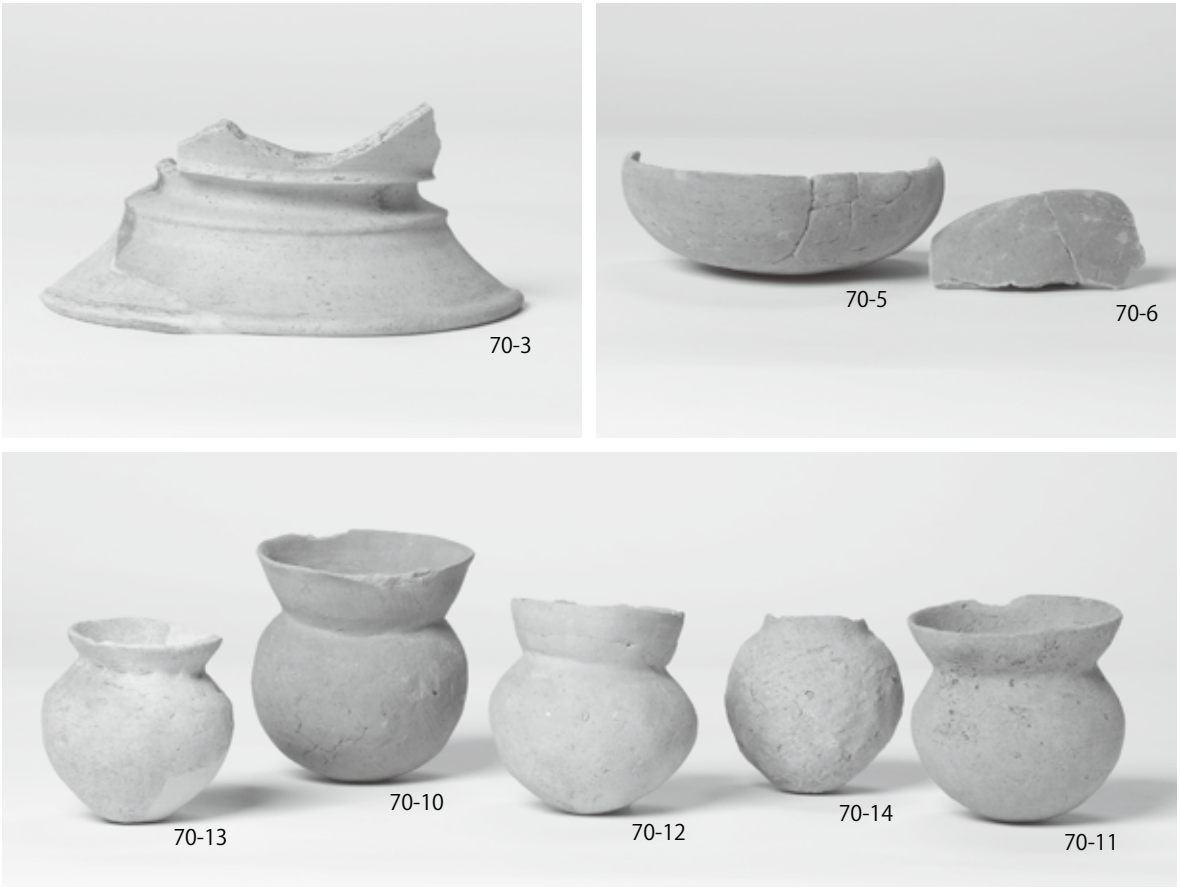
図版 58



1　3-4 層（東側）出土土師器



2　3-4 層（東側）出土土師器

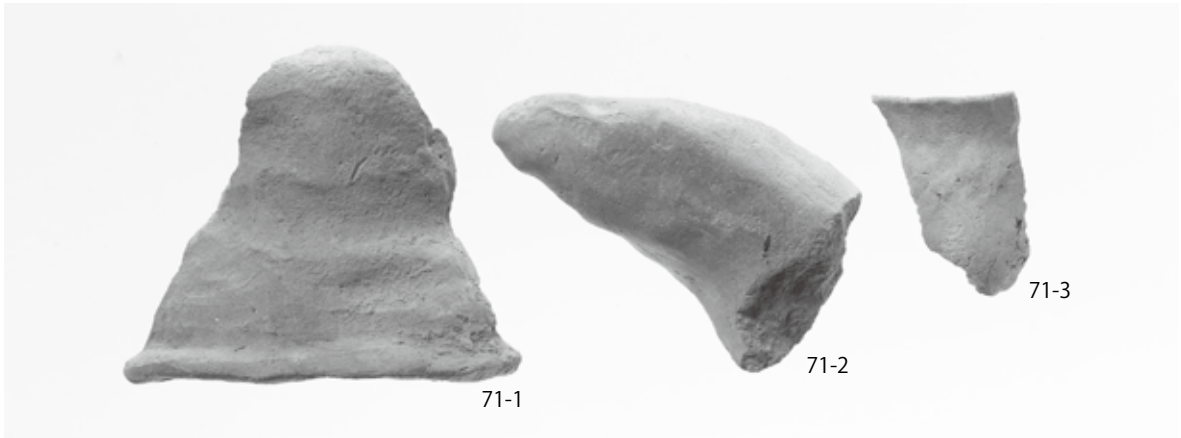


1　3-4 層（東側）出土土師器

2　3-4 層（東側）出土土師器

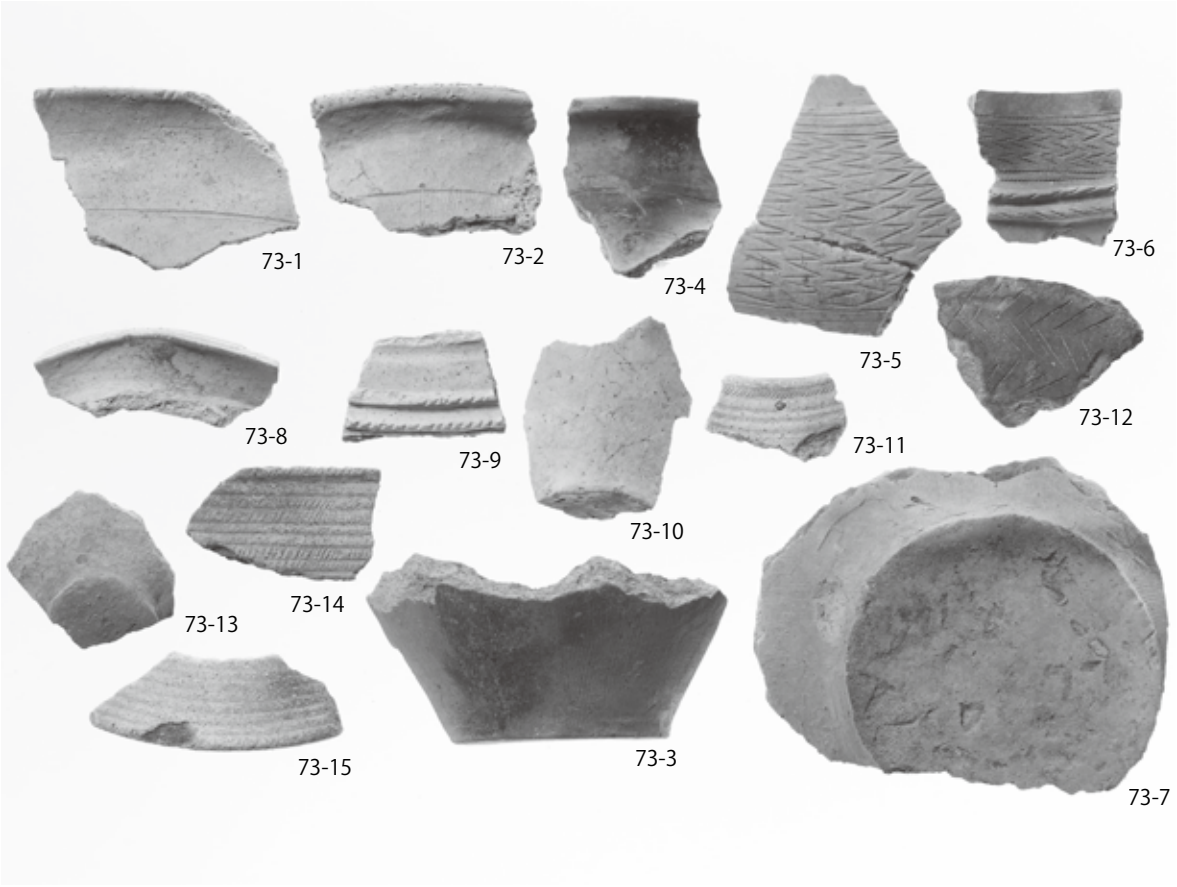
図版 60

1　3-4 層（東側）出土土師器



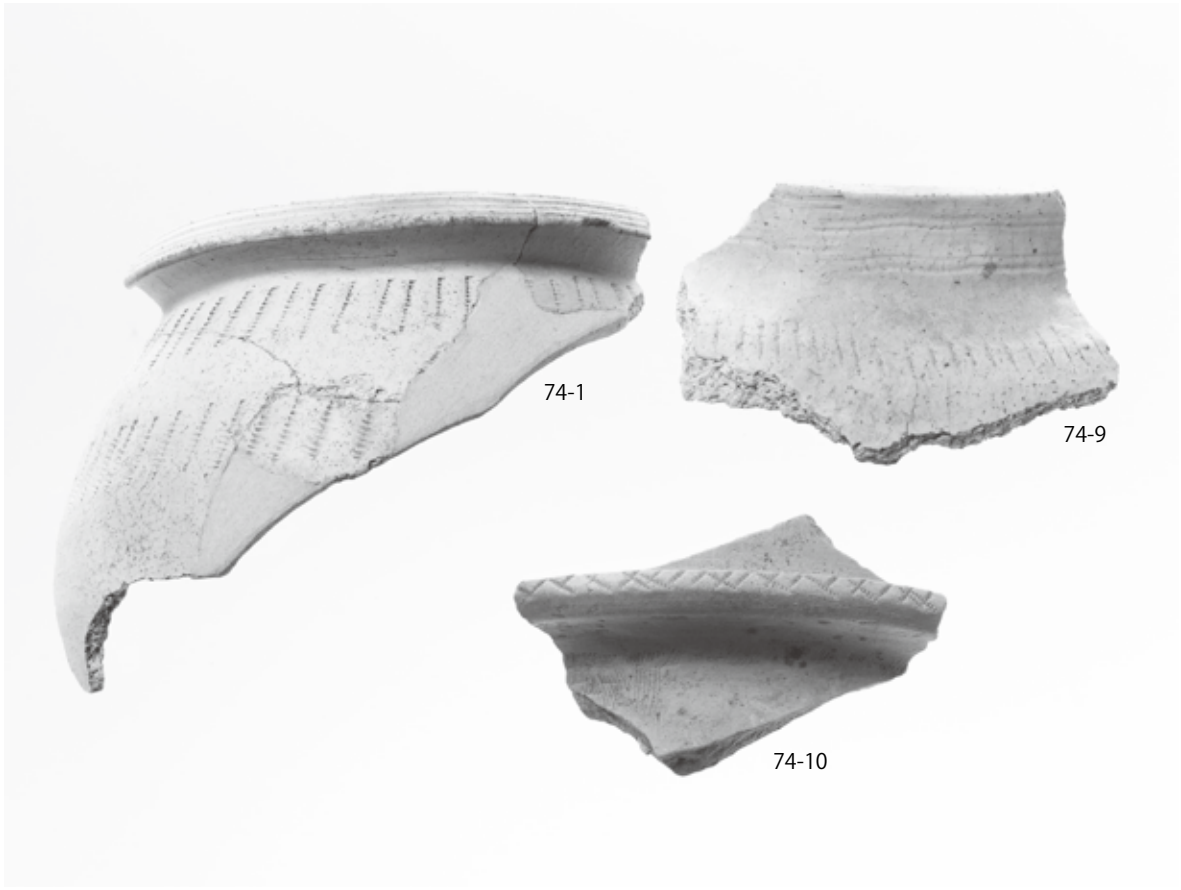
2　3-4 層（東側）出土土師器

1　3-4 層（東側）出土土師器

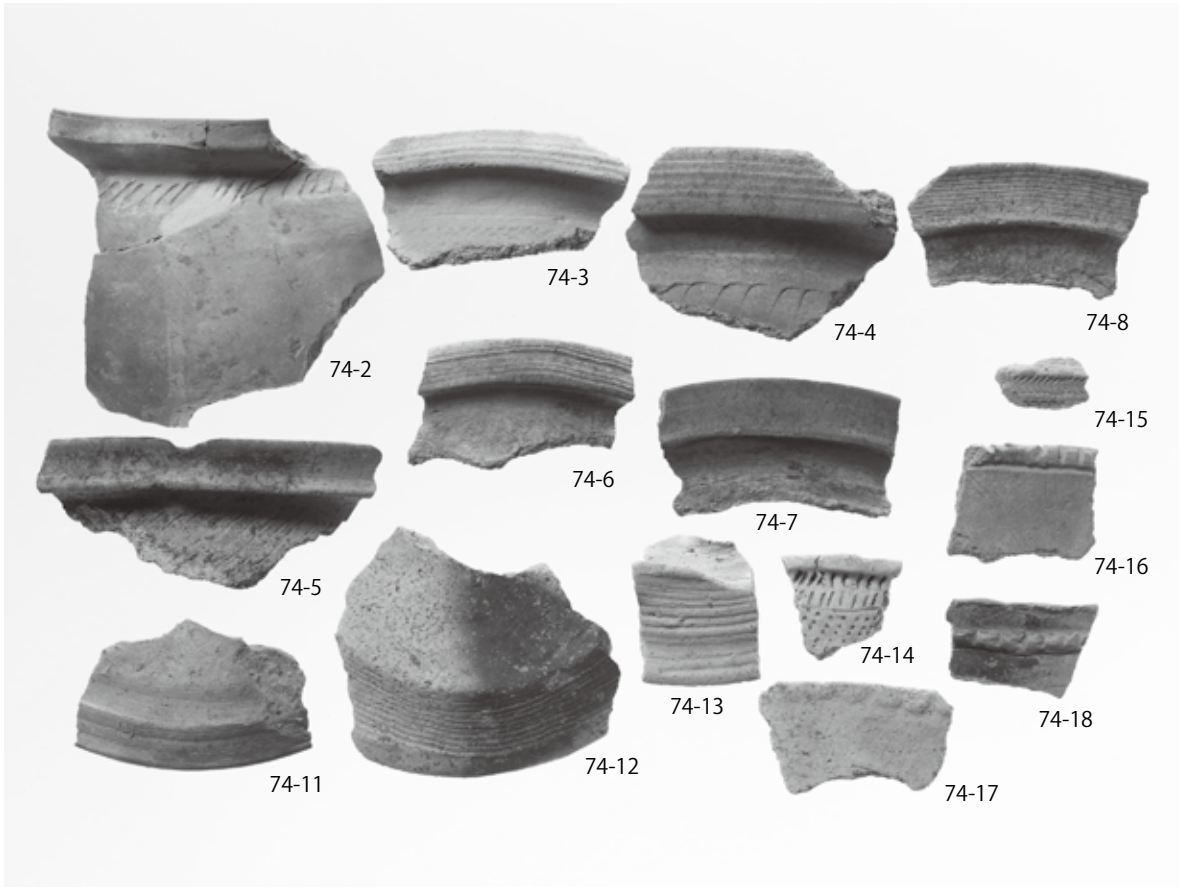


2　3-4 層 (東側) 出土弥生土器

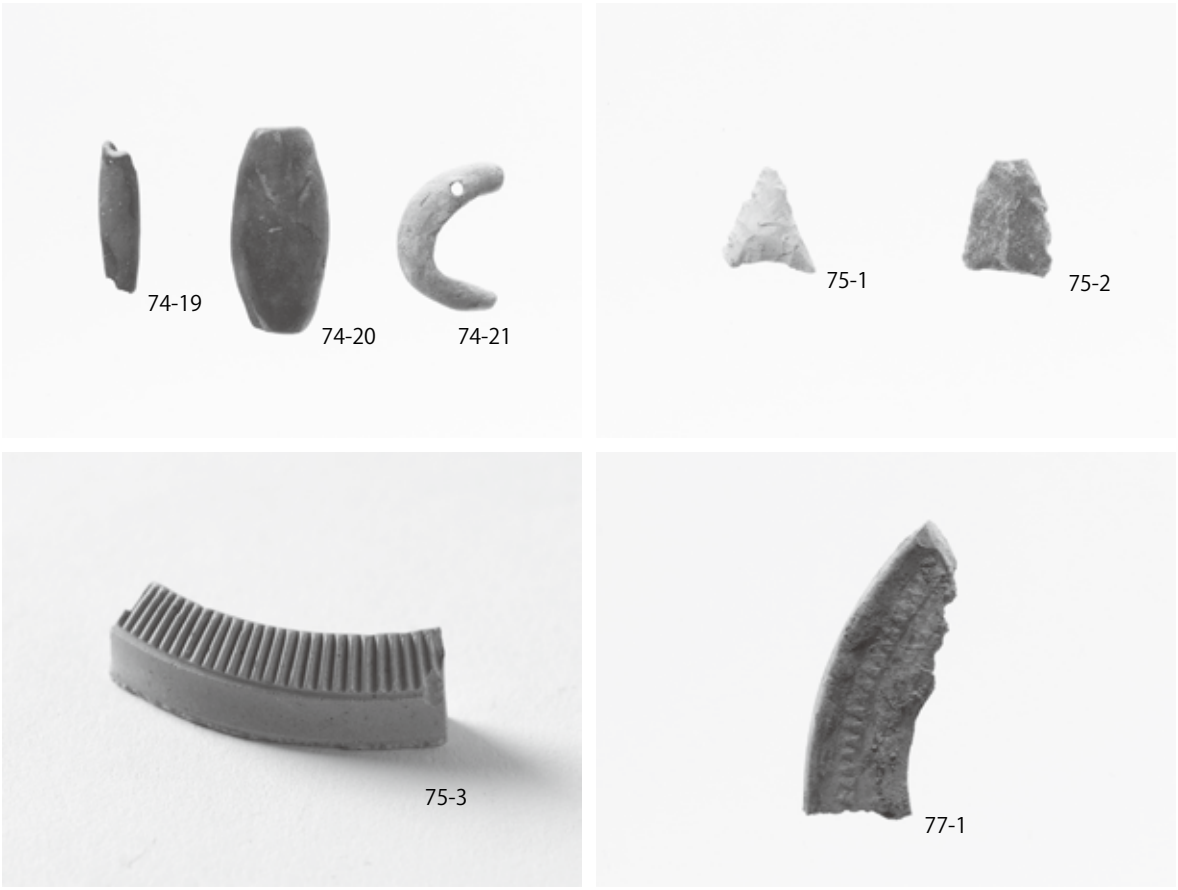
図版 62



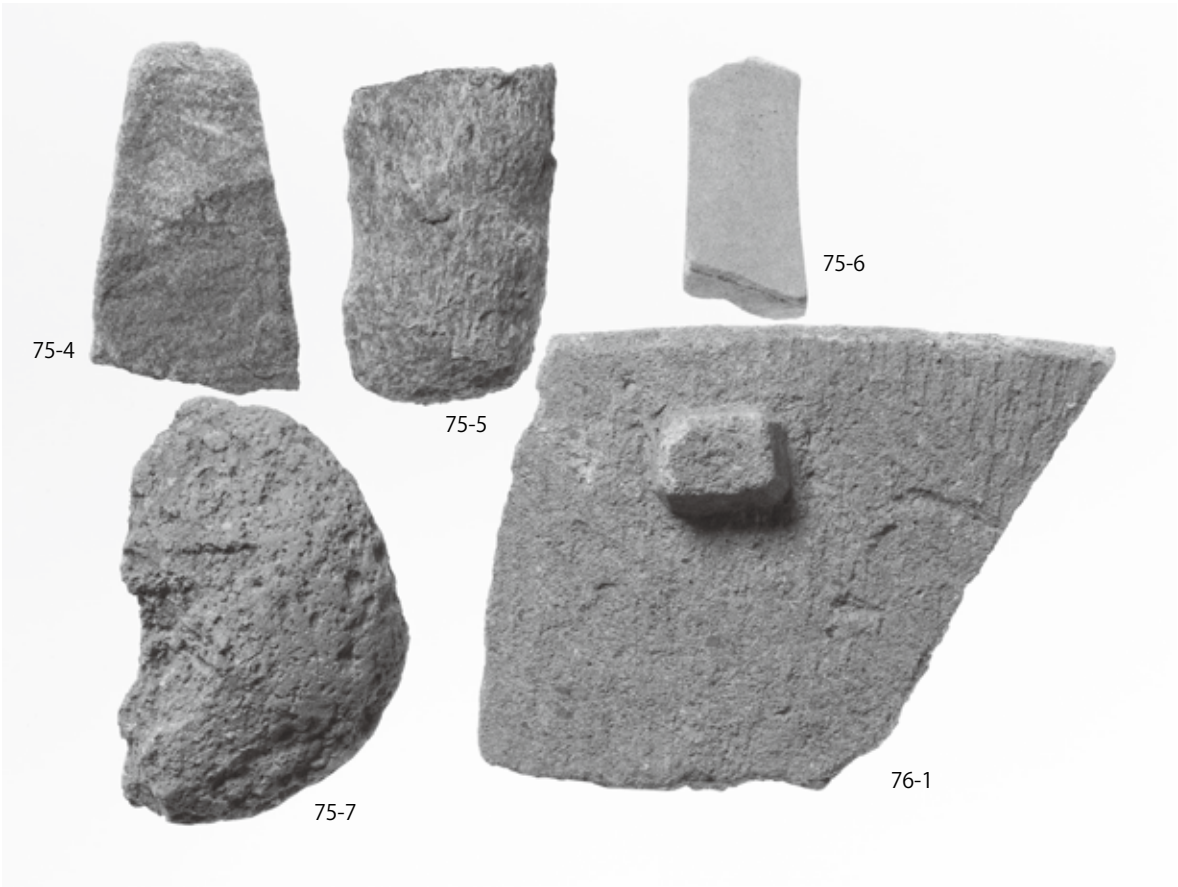
1　3-4 層（東側）出土弥生土器



2　3-4 層（東側）出土弥生土器

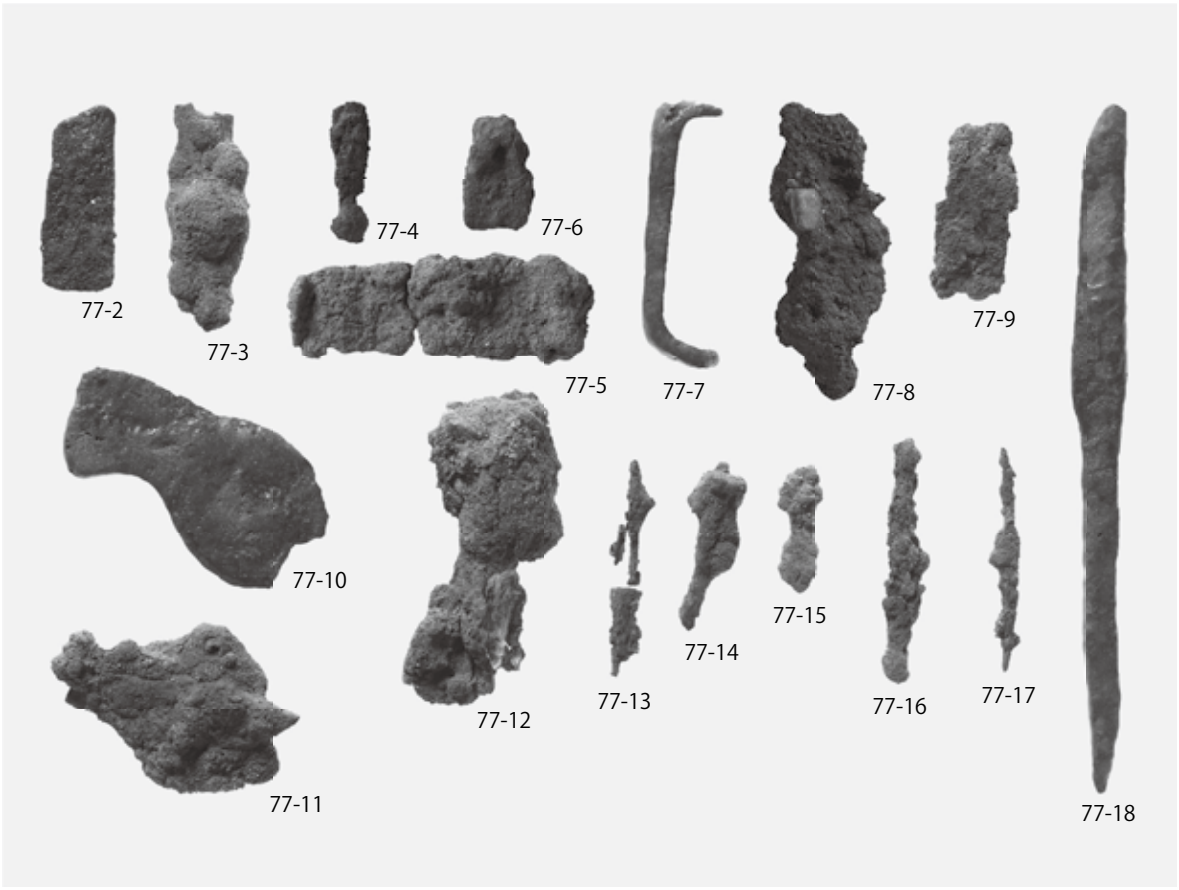


1　3-4 層（東側）出土土製品・石製品・青銅製品

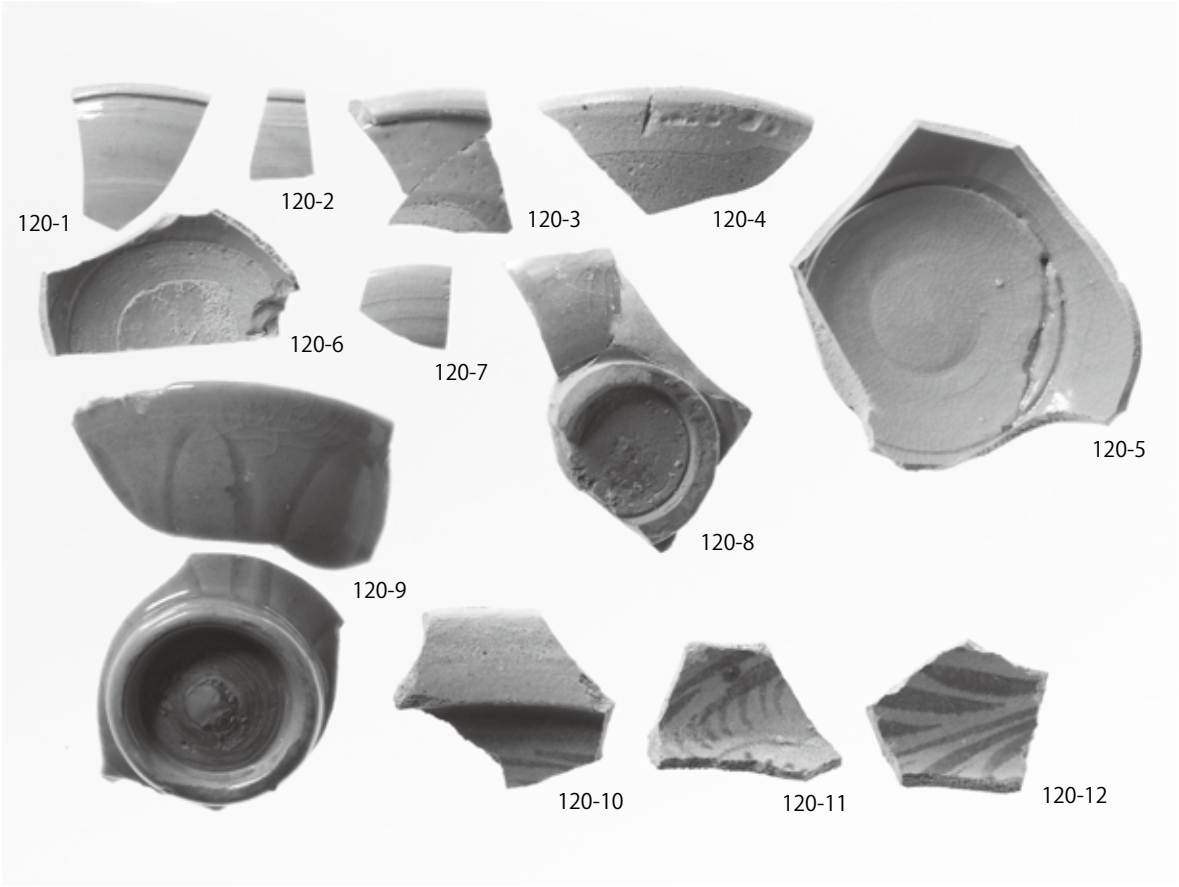


2　3-4 層（東側）出土石製品

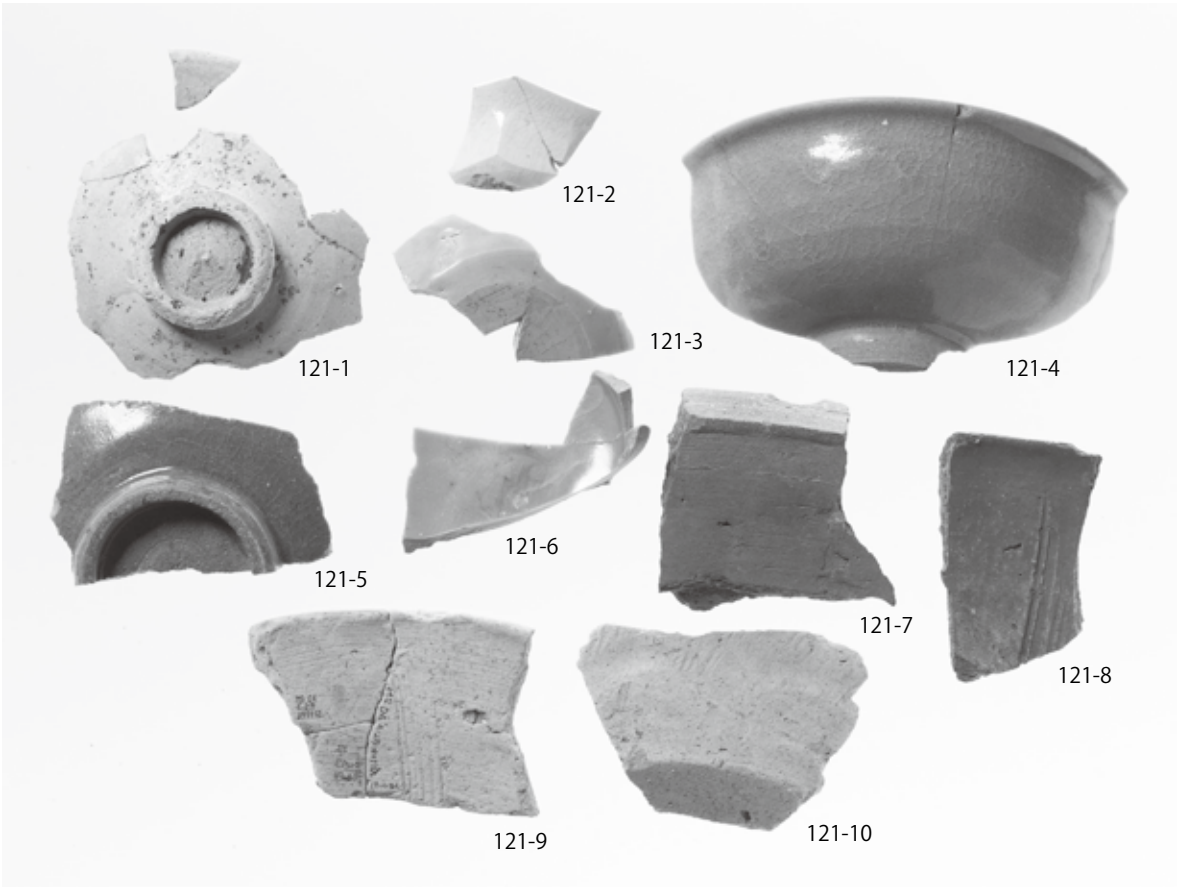
図版 64



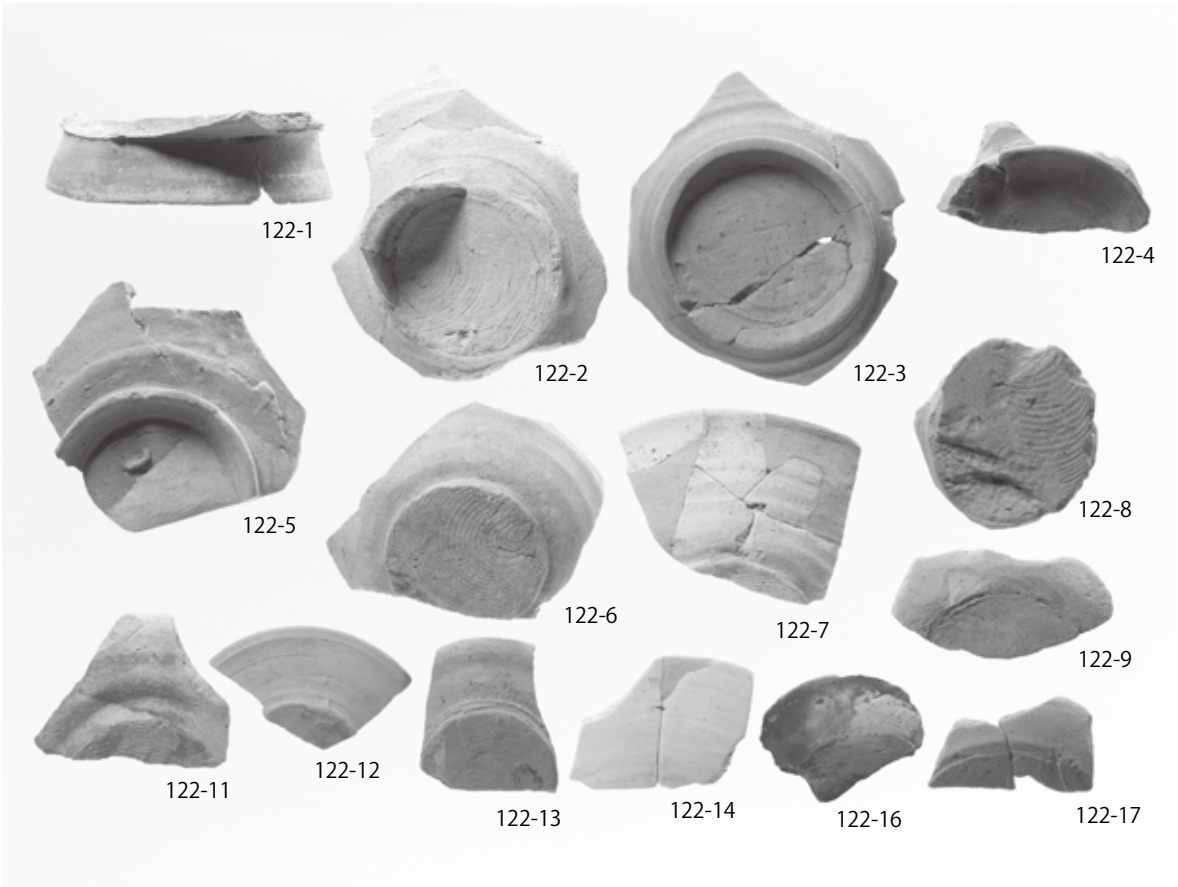
1　3-4 層（東側）出土鉄製品



2　4 層出土陶磁器

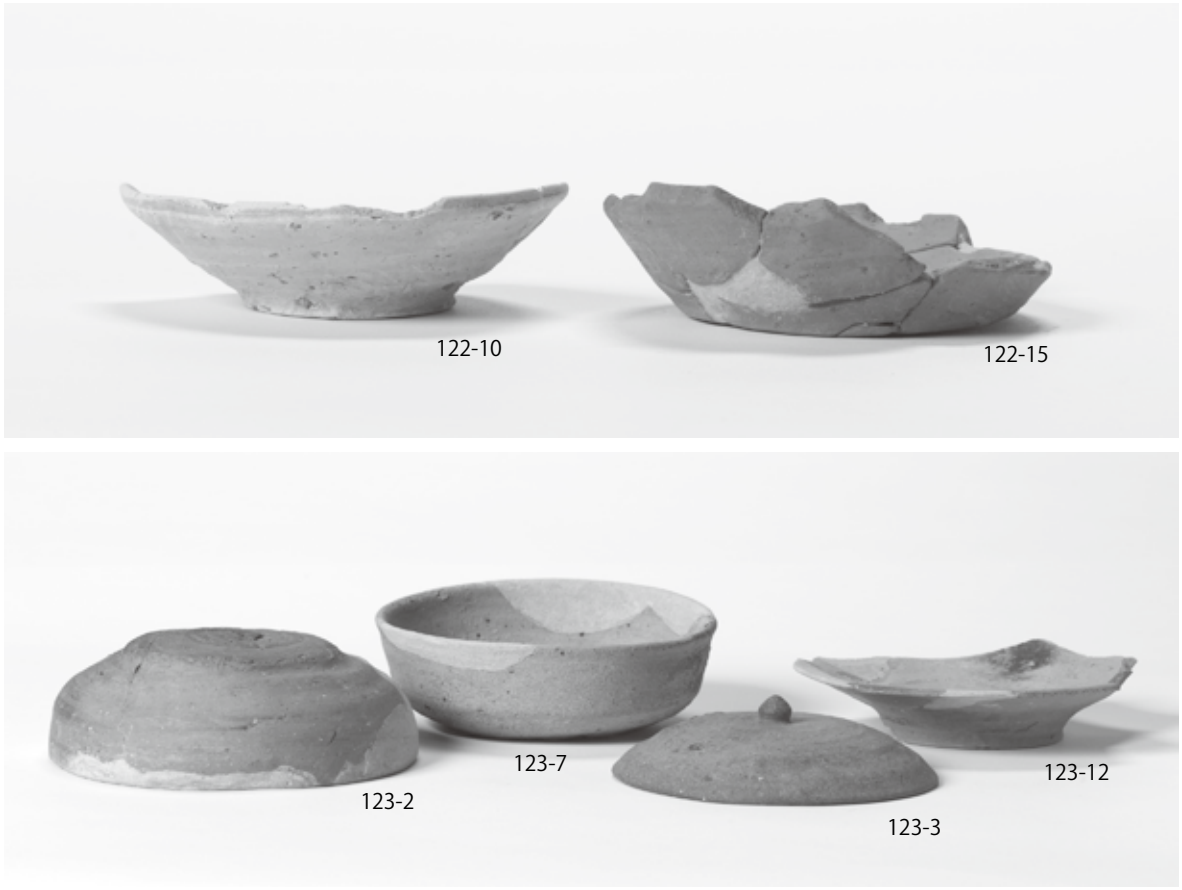


1　4層出土陶磁器

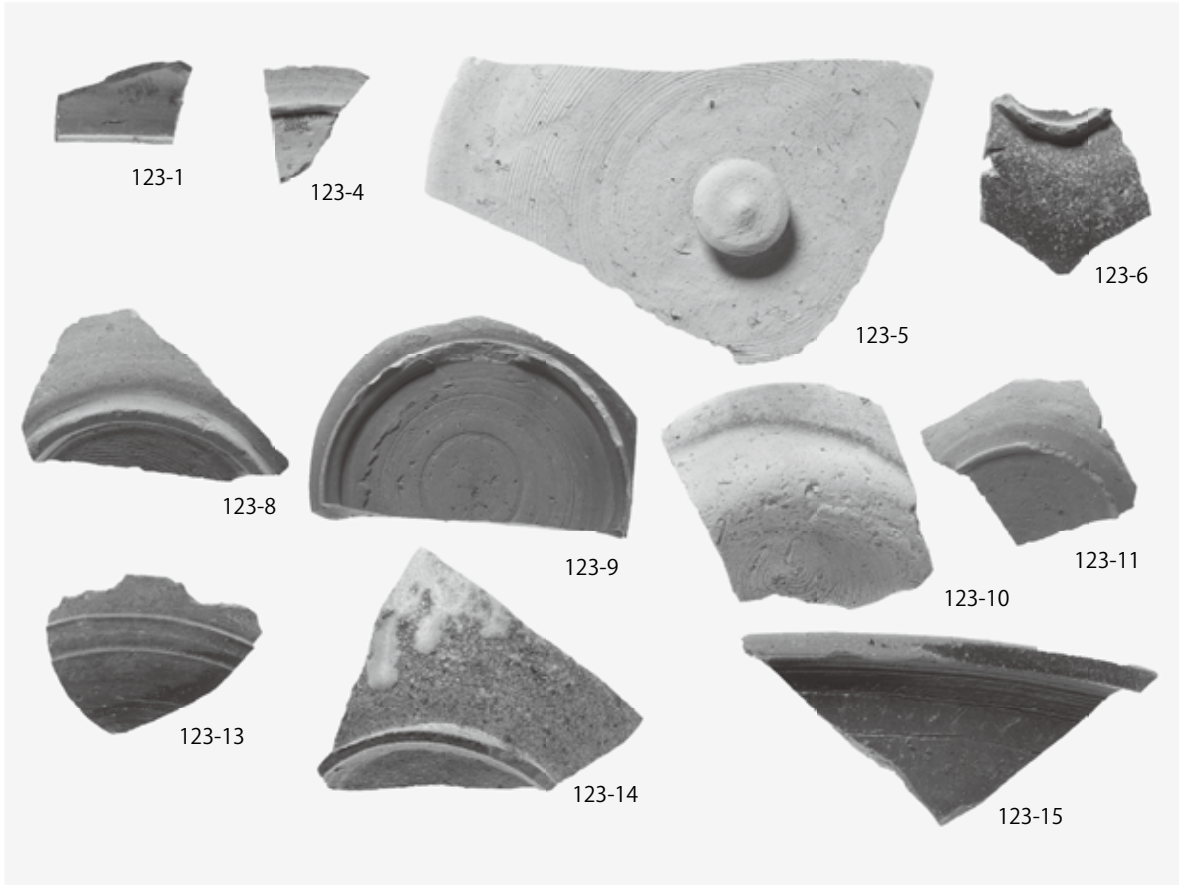


2　4層出土土師質土器

図版 66

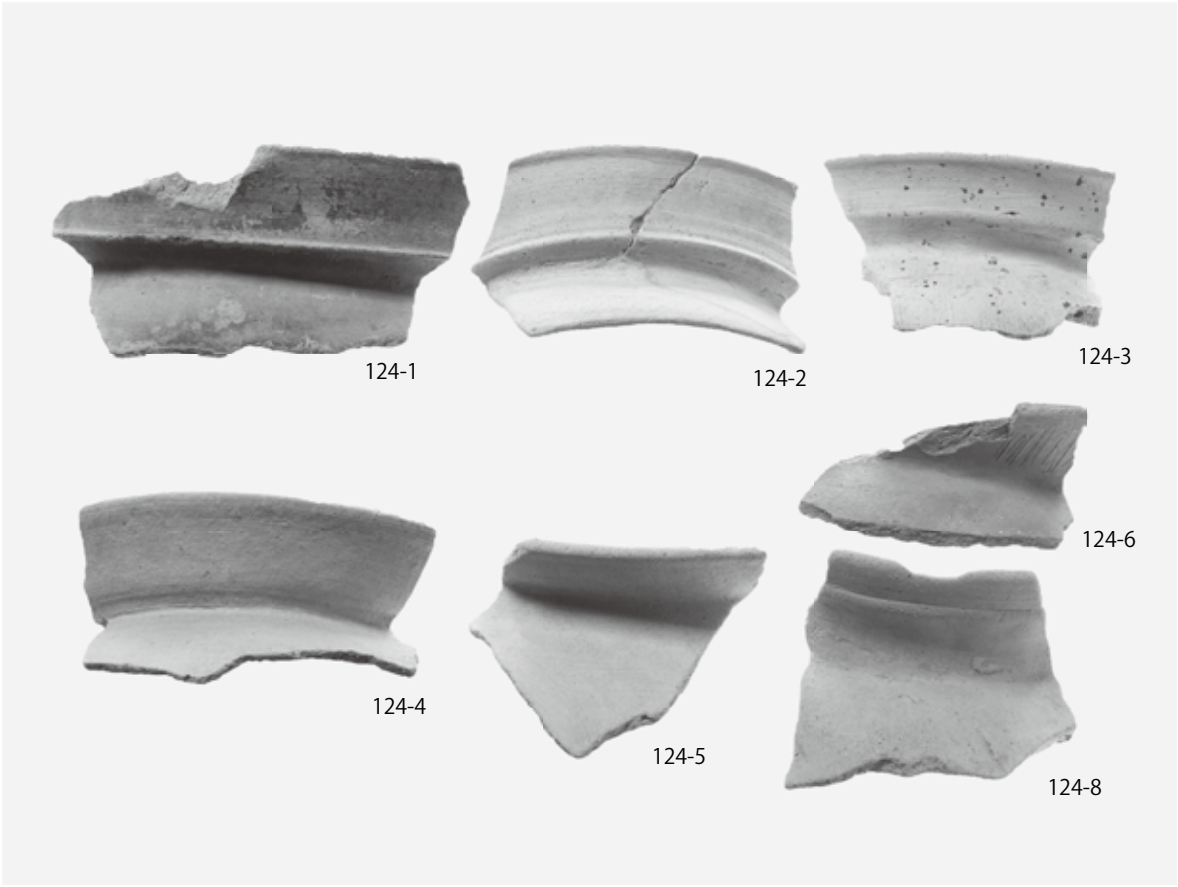


1　４層出土土師質土器・須恵器



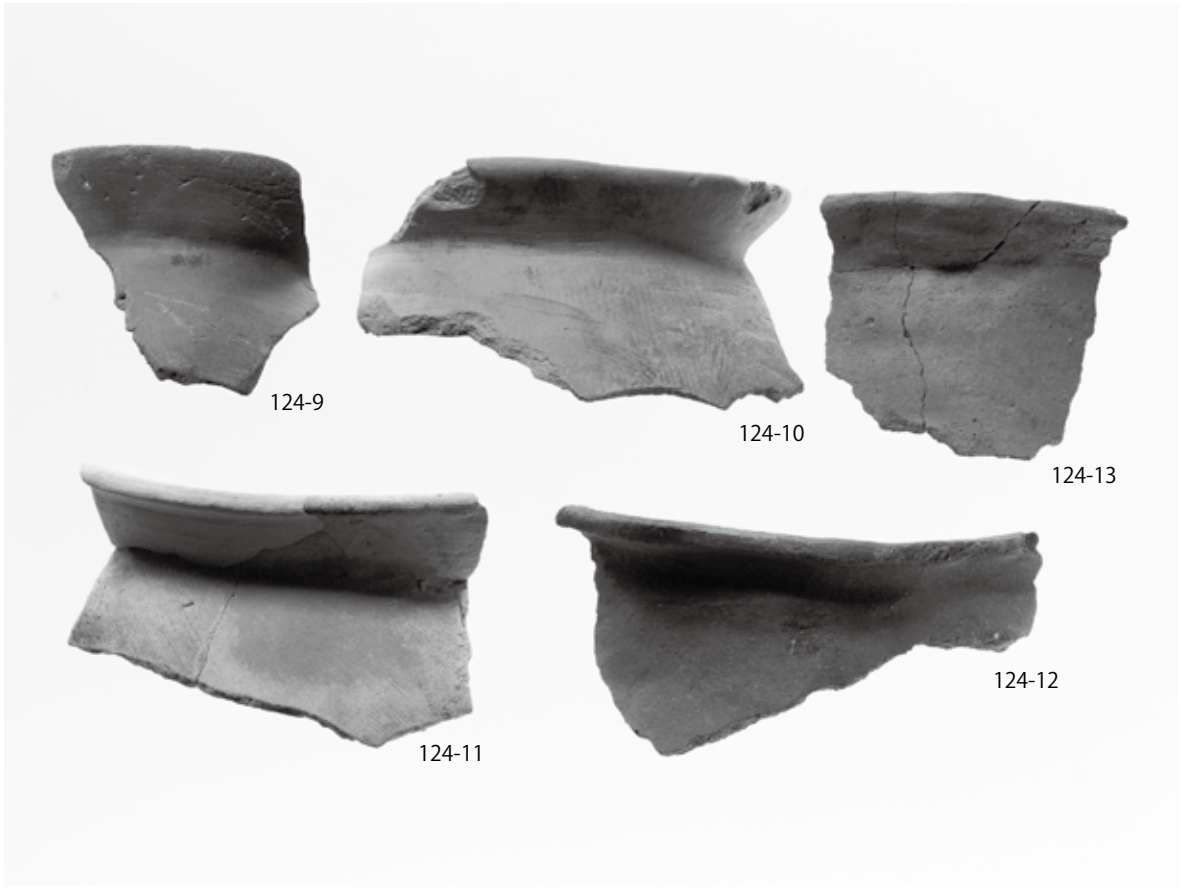
2　４層出土須恵器

1　４層出土須恵器



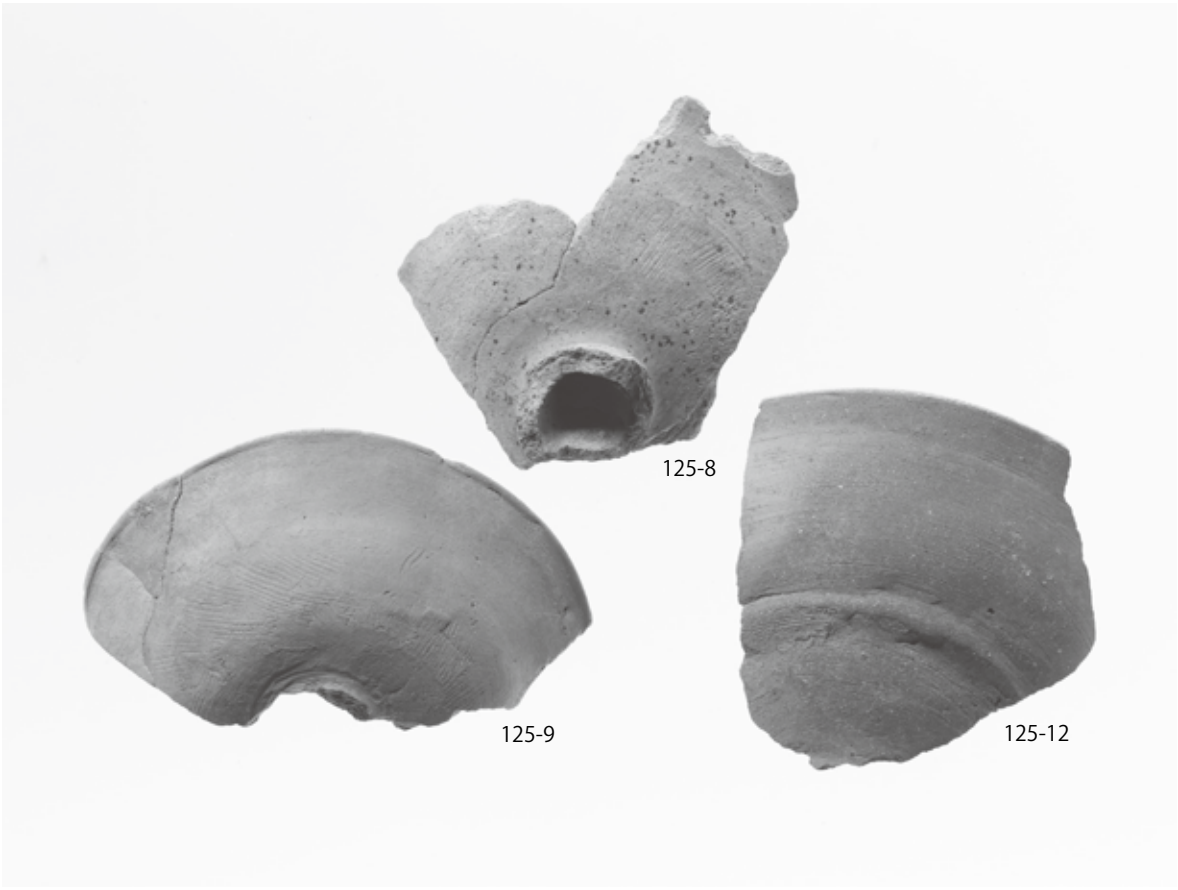
2　４層出土土師器

図版 68

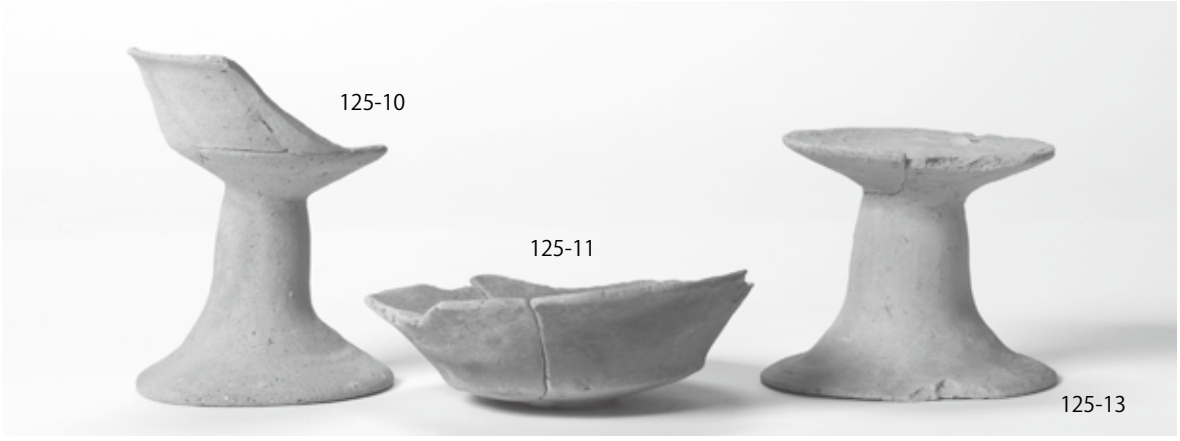


1　４層出土土師器

2　４層出土土師器



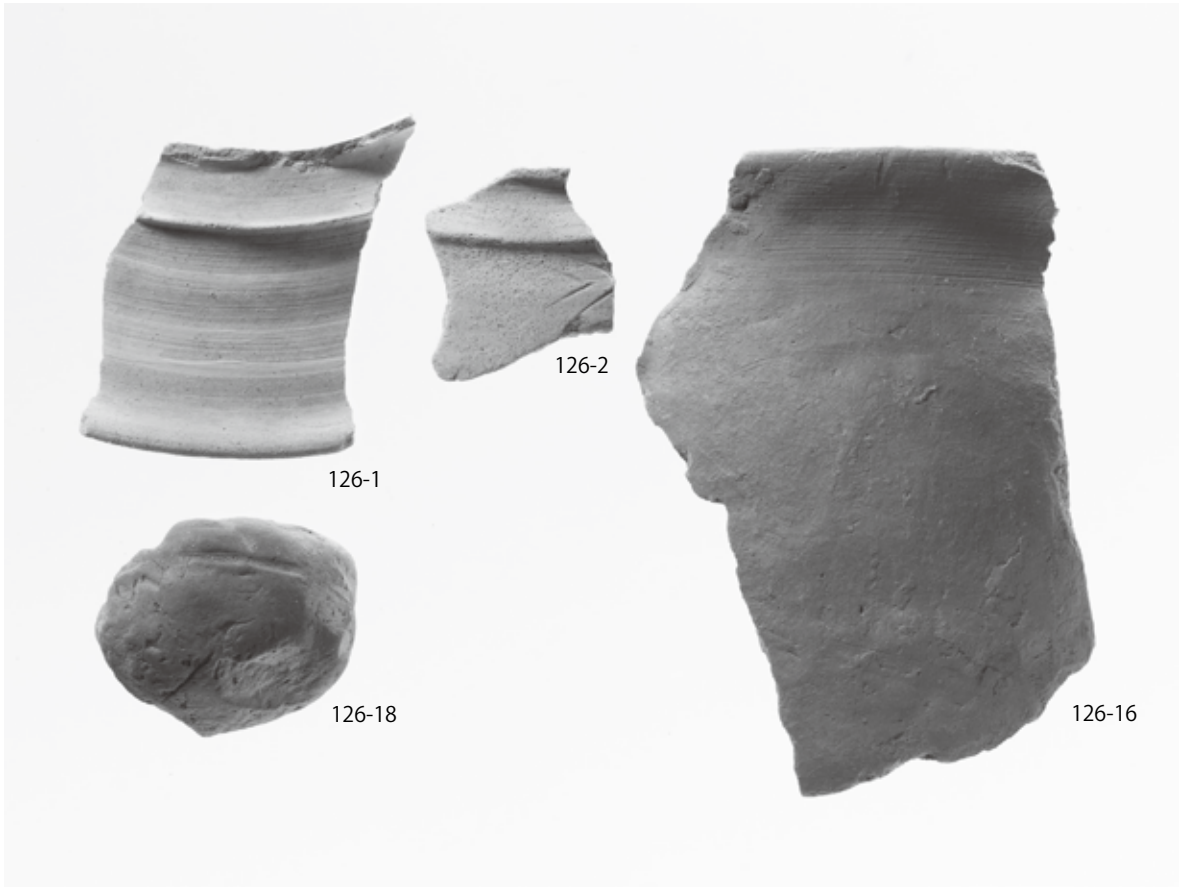
1　４層出土土師器



2　４層出土土師器

図版 70

1　4層出土土師器



2　4層出土土師器

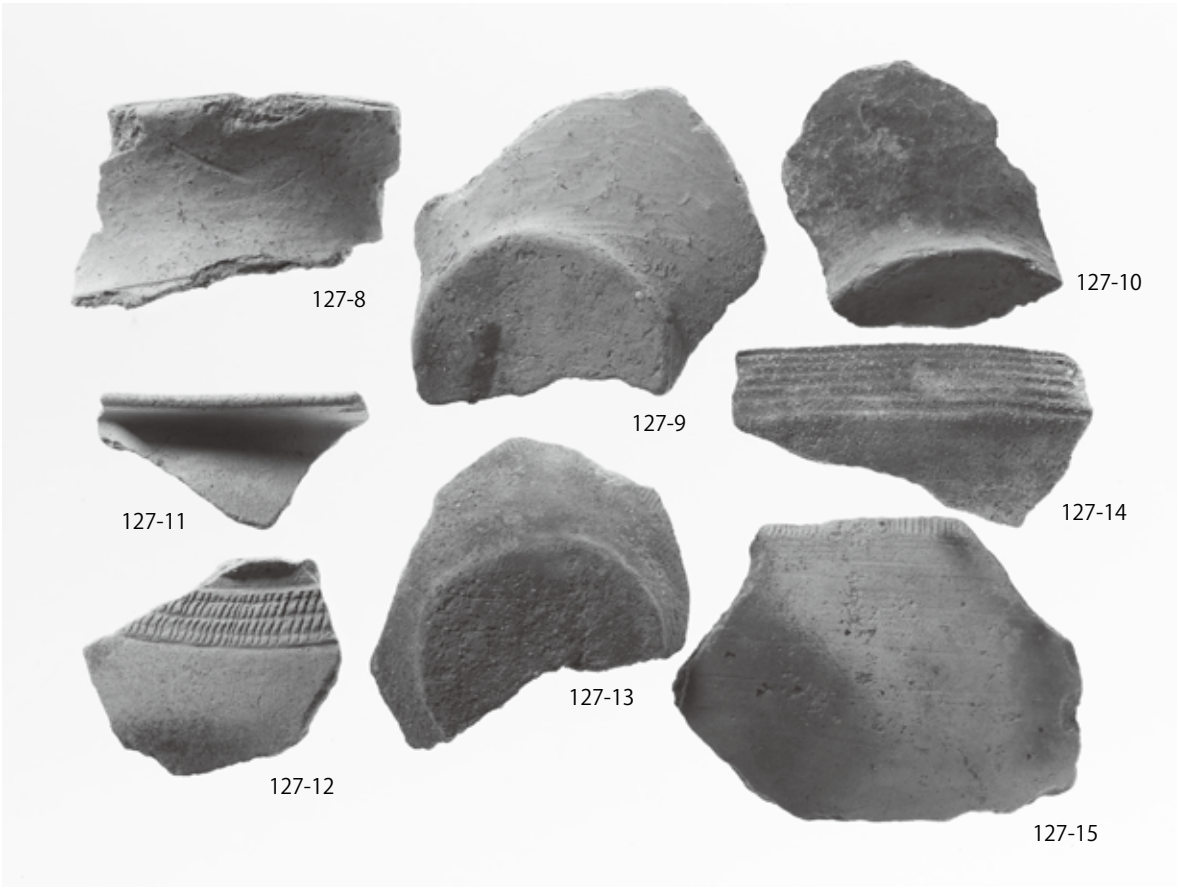
1　４層出土土師器

2　４層出土土師器

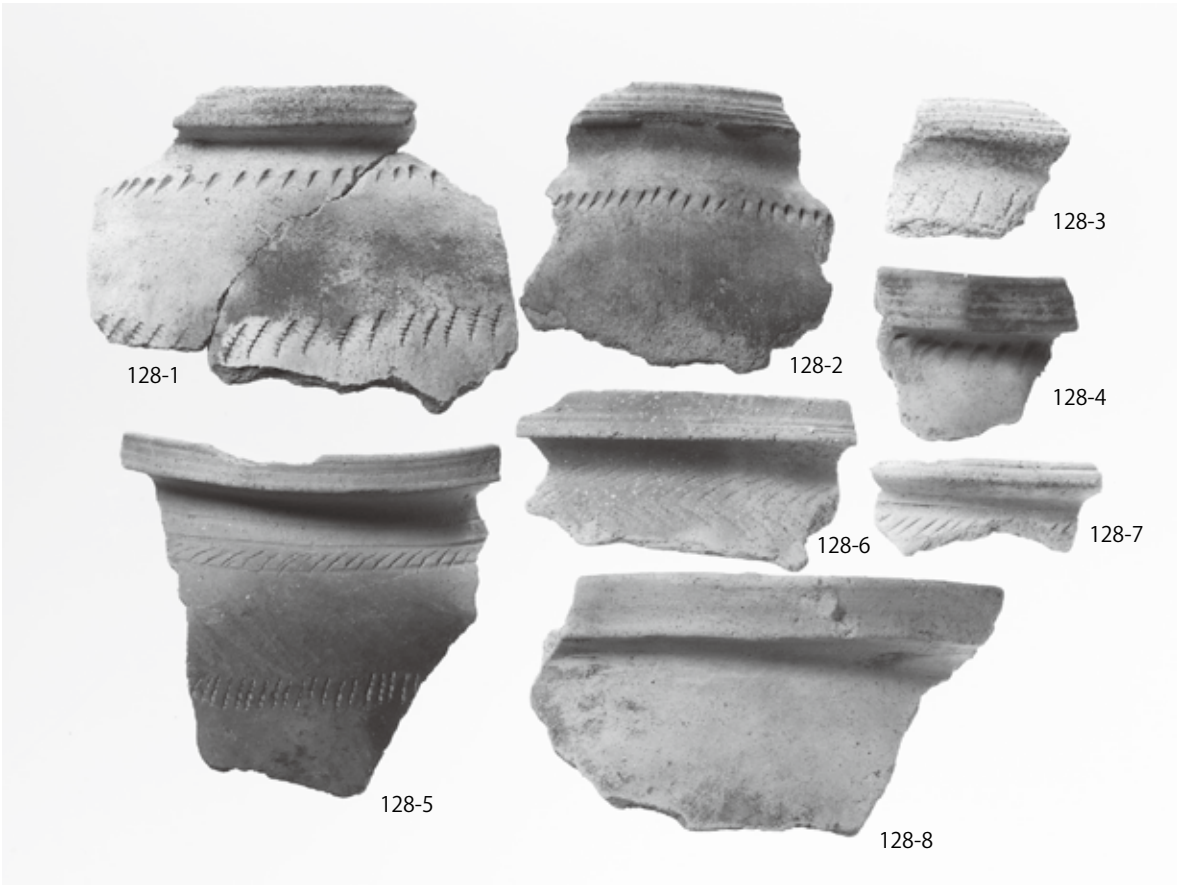
図版 72

1　４層出土土師器

2　４層出土弥生土器

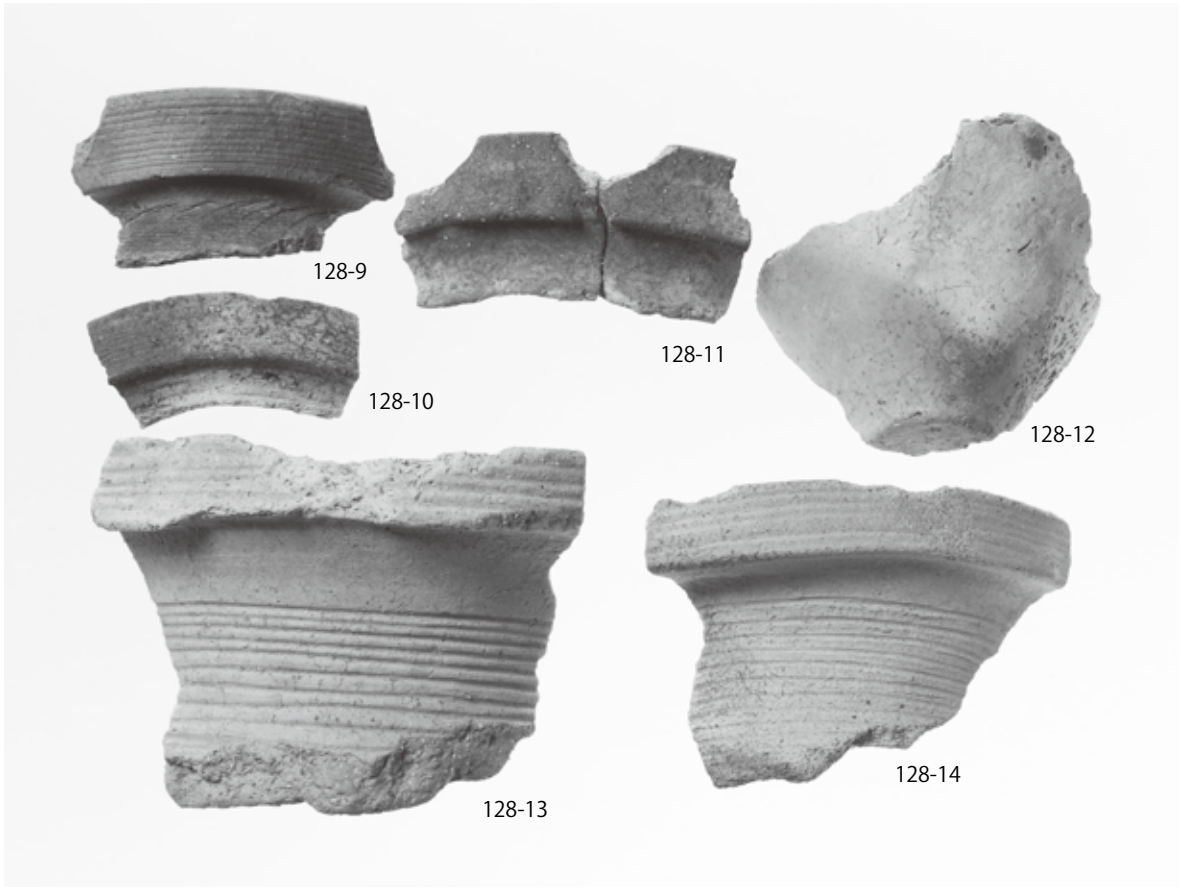


1　４層出土弥生土器

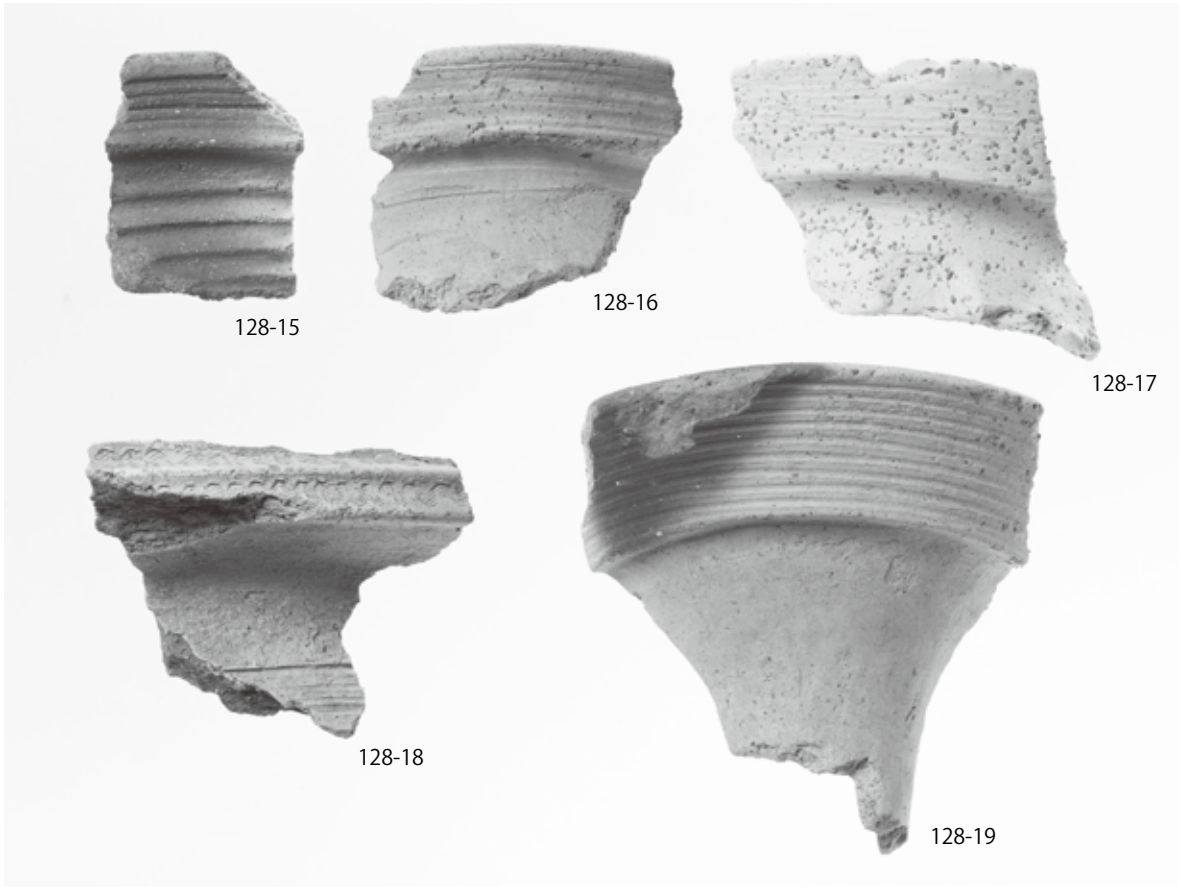


2　４層出土弥生土器

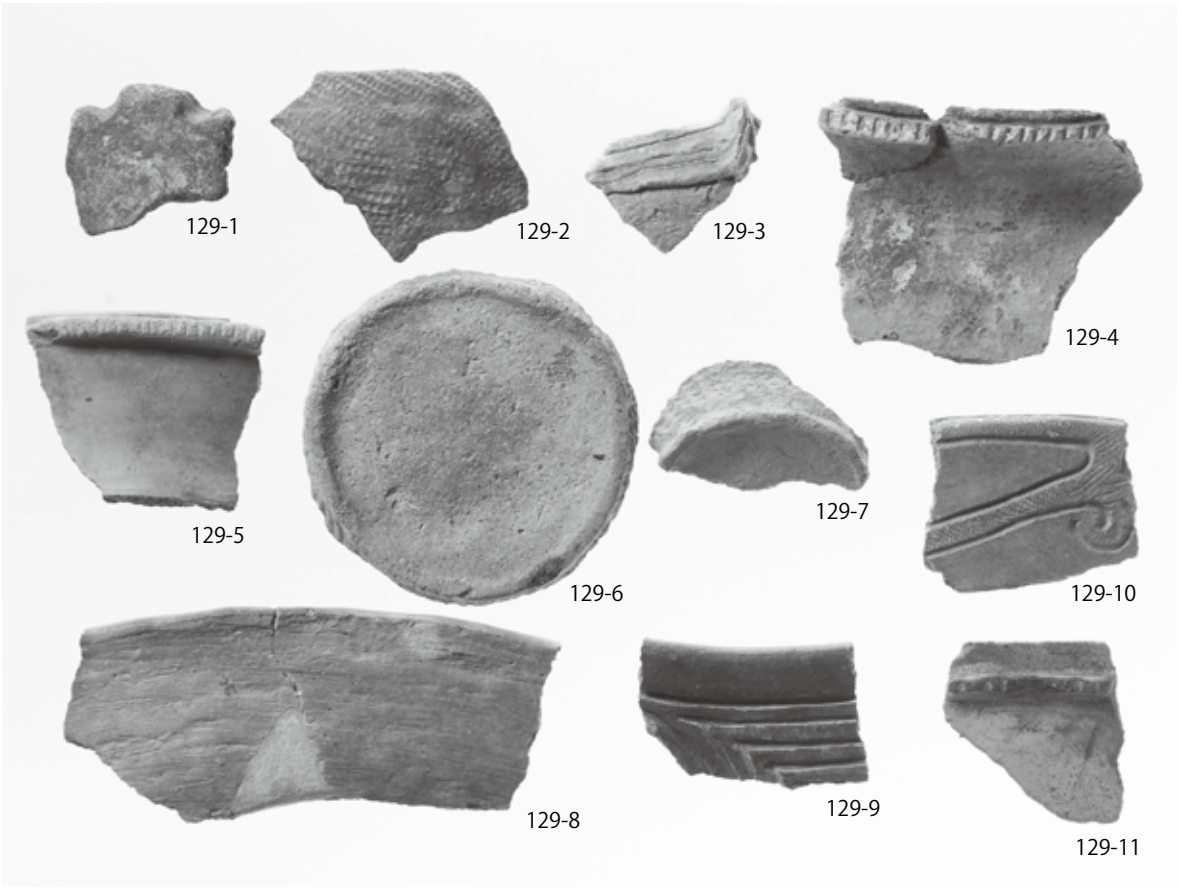
図版 74



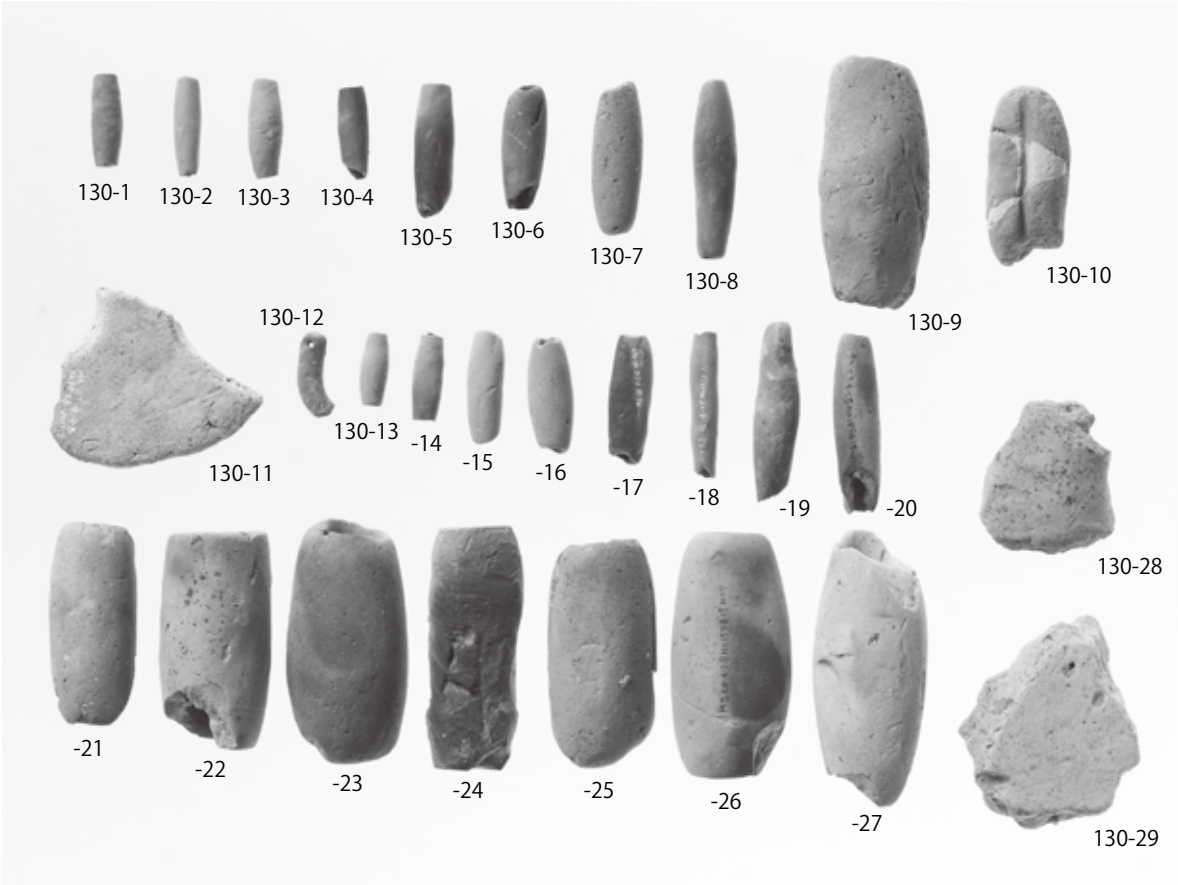
1　４層出土弥生土器



2　４層出土弥生土器

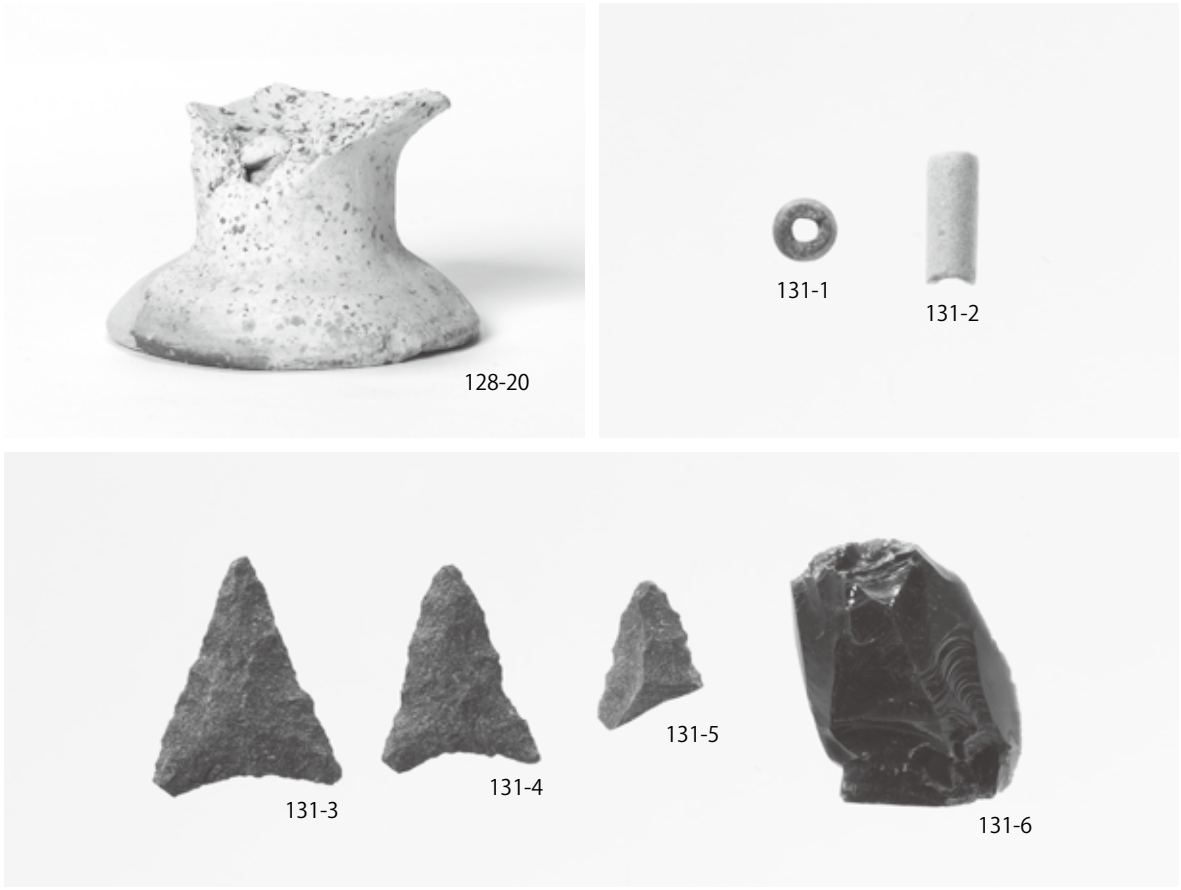


1　４層出土縄文土器

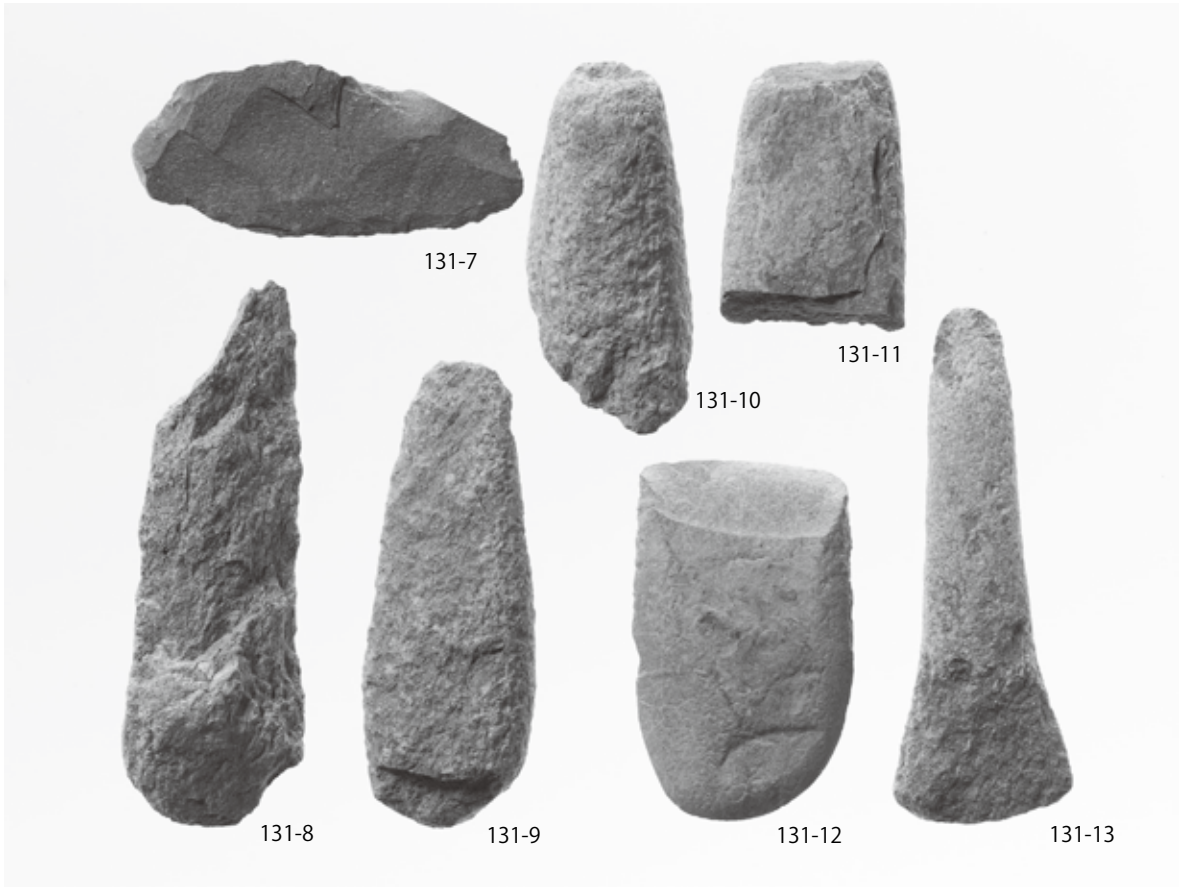


2　４層出土土製品

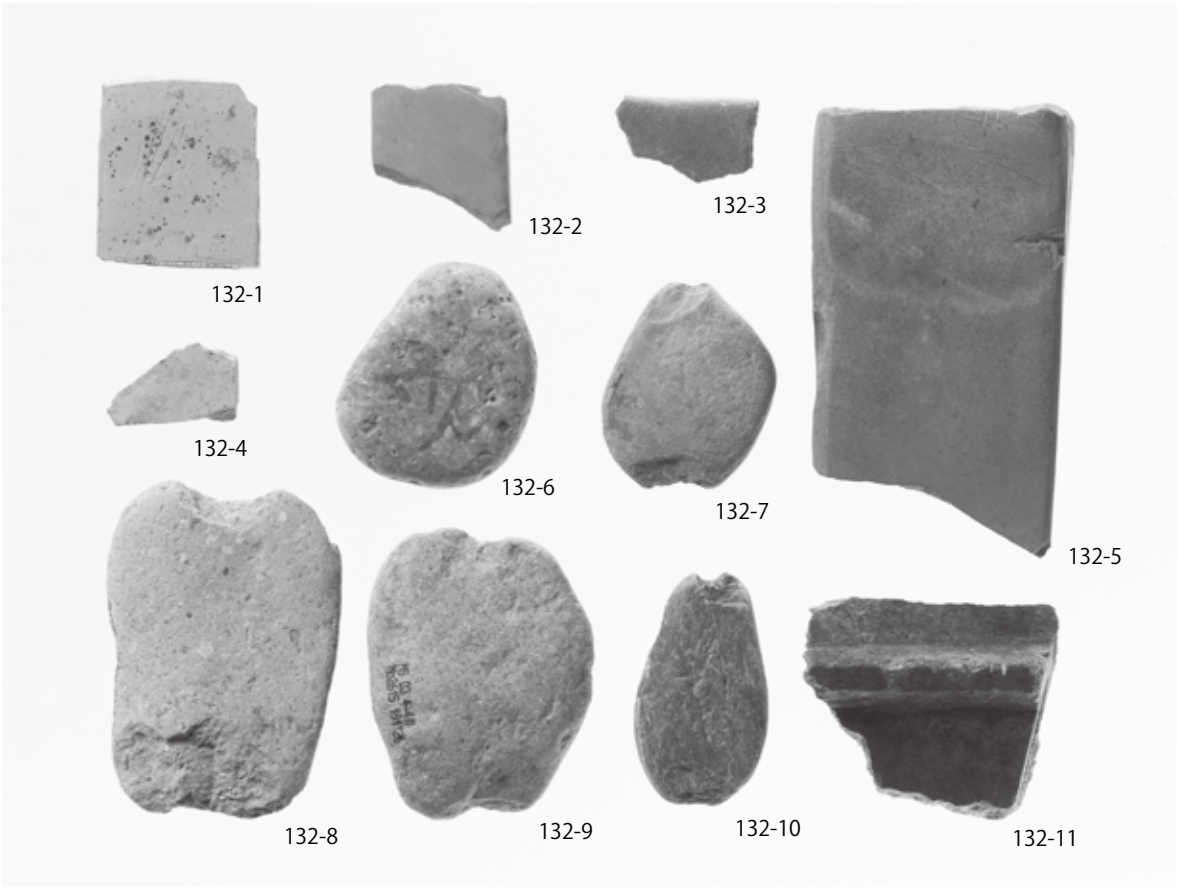
図版 76



1　４層出土弥生土器・石製品

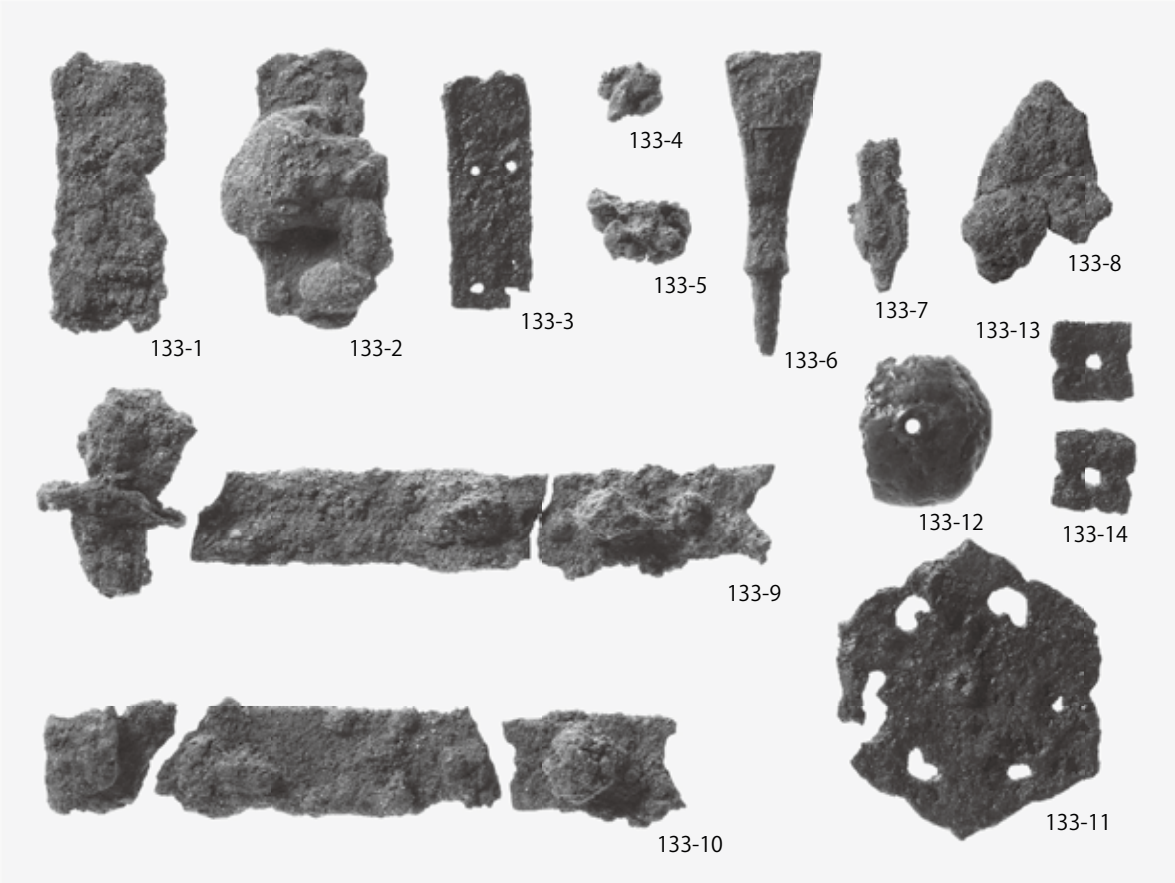


2　４層出土石製品

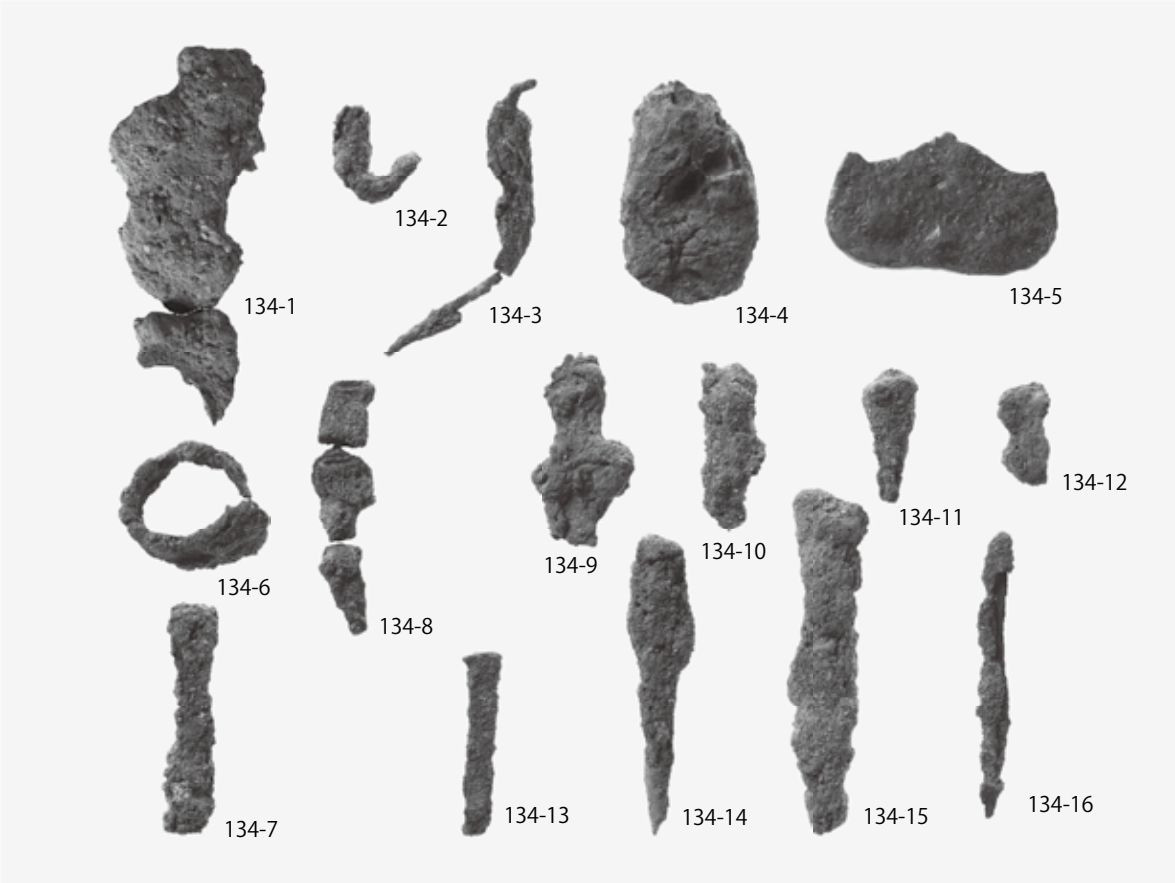


1　4層出土石製品

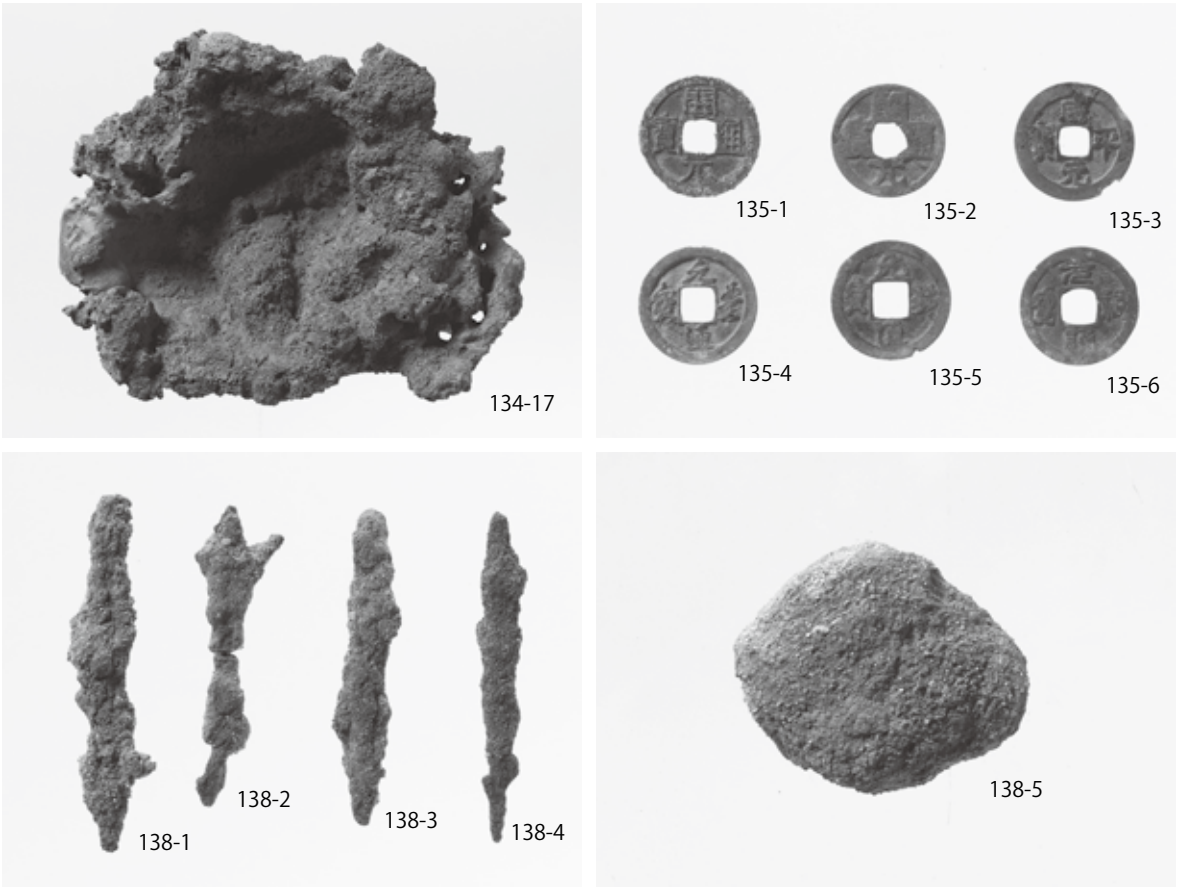
2　4層出土石製品



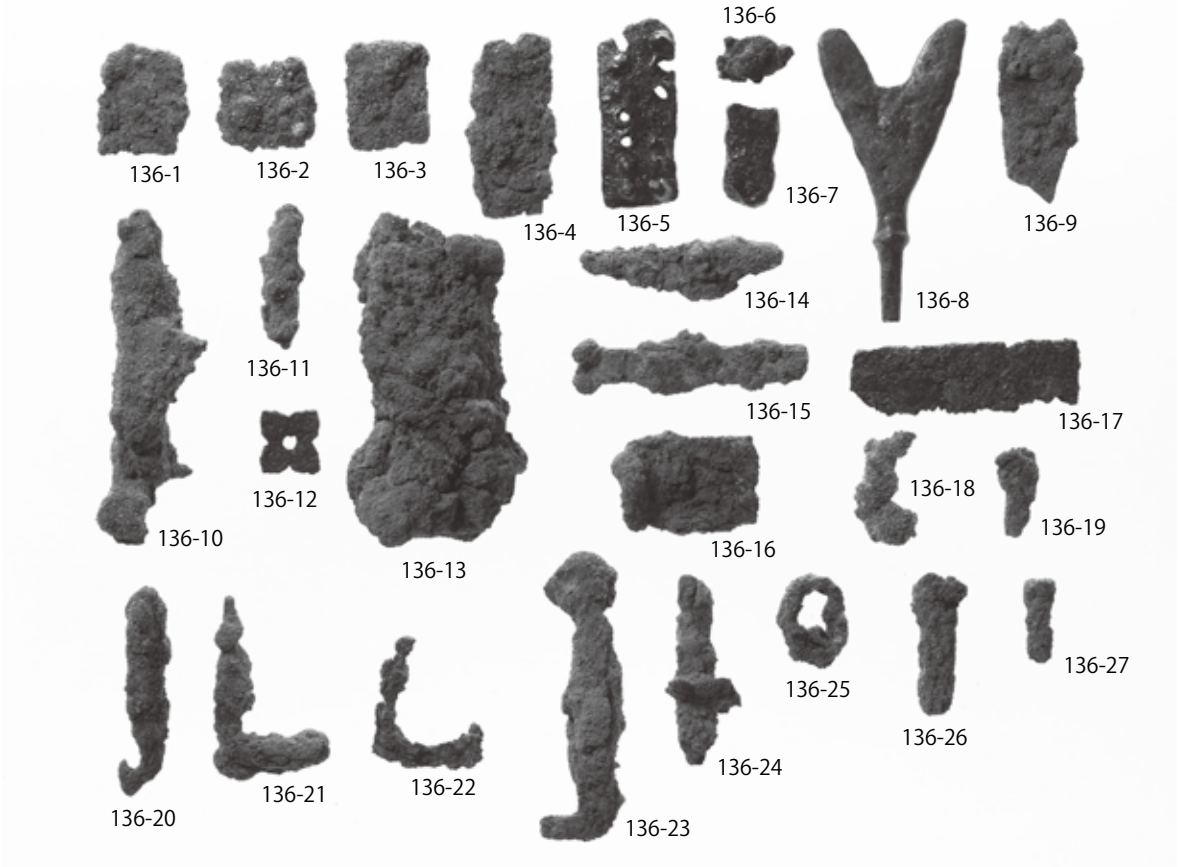
1　4層出土鉄製品



2　4層出土鉄製品

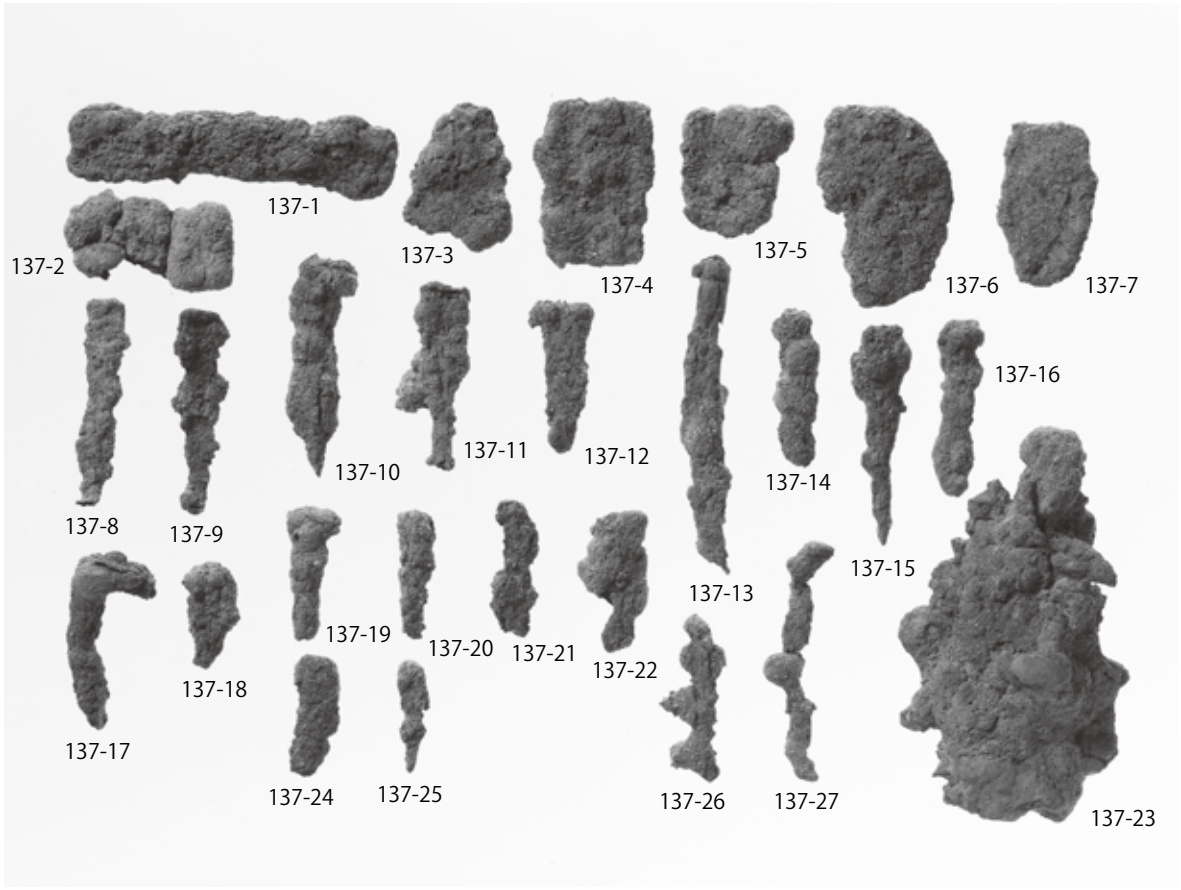


1　４層出土鉄製品・鍛冶関連遺物・青銅製品

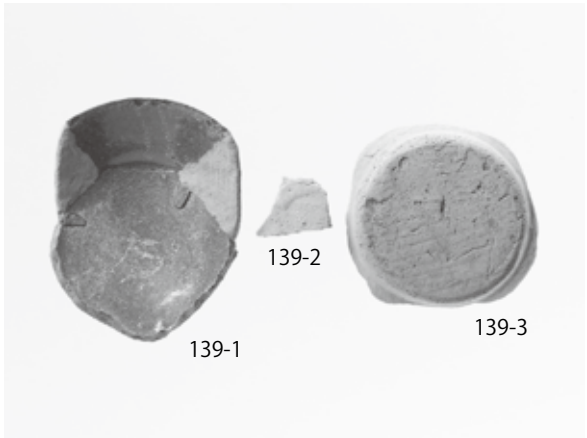


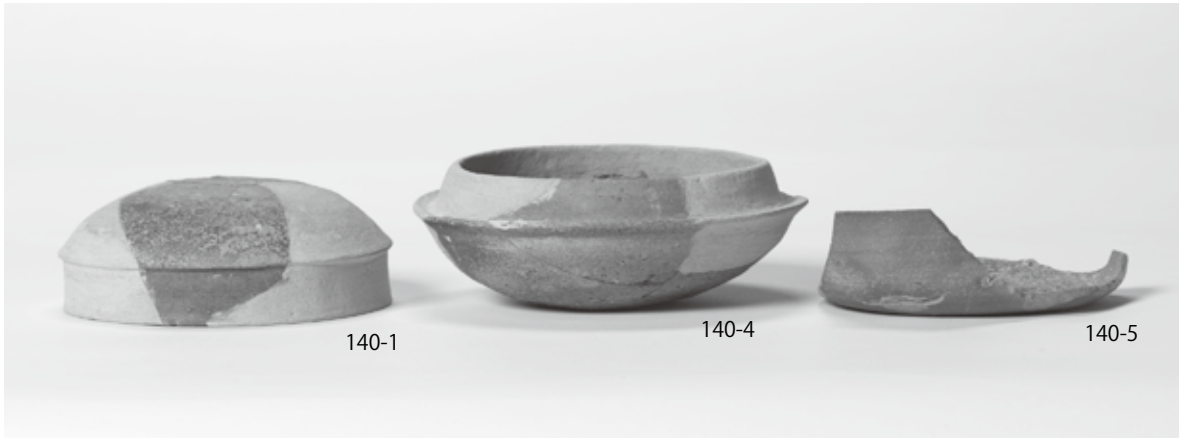
2　４層出土鉄製品

図版 80



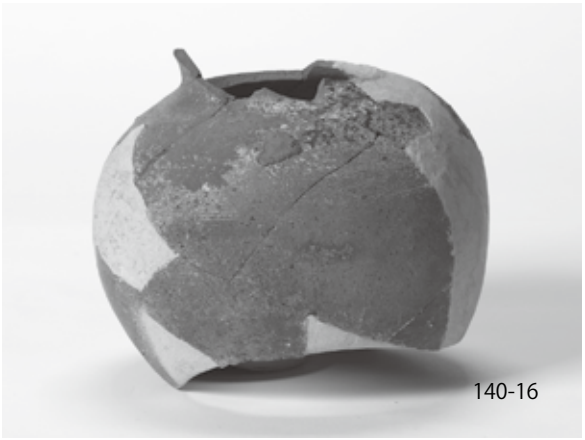
1　4層出土鉄製品





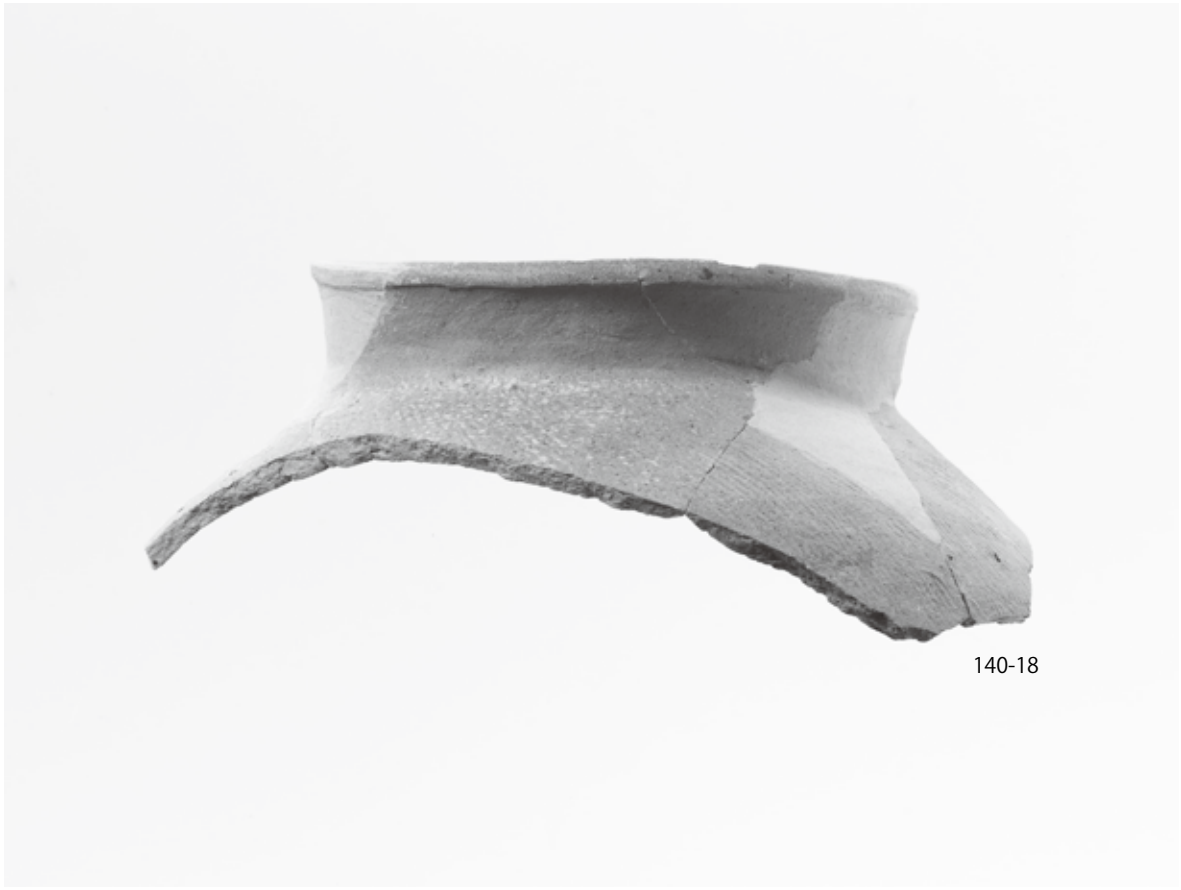
2　5層出土陶磁器・土師質土器・須恵器

1　5 層出土須恵器



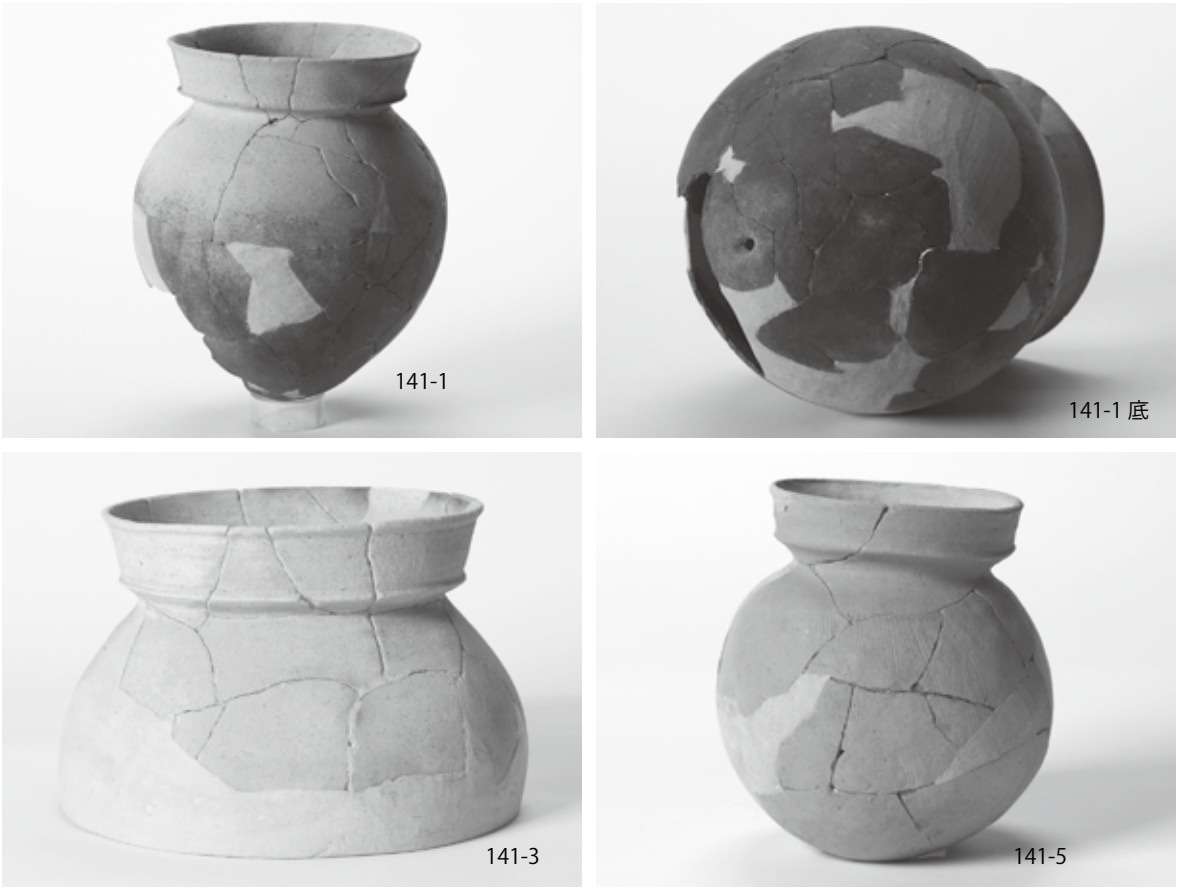
2　5 層出土須恵器

図版 82



1　5 層出土須恵器

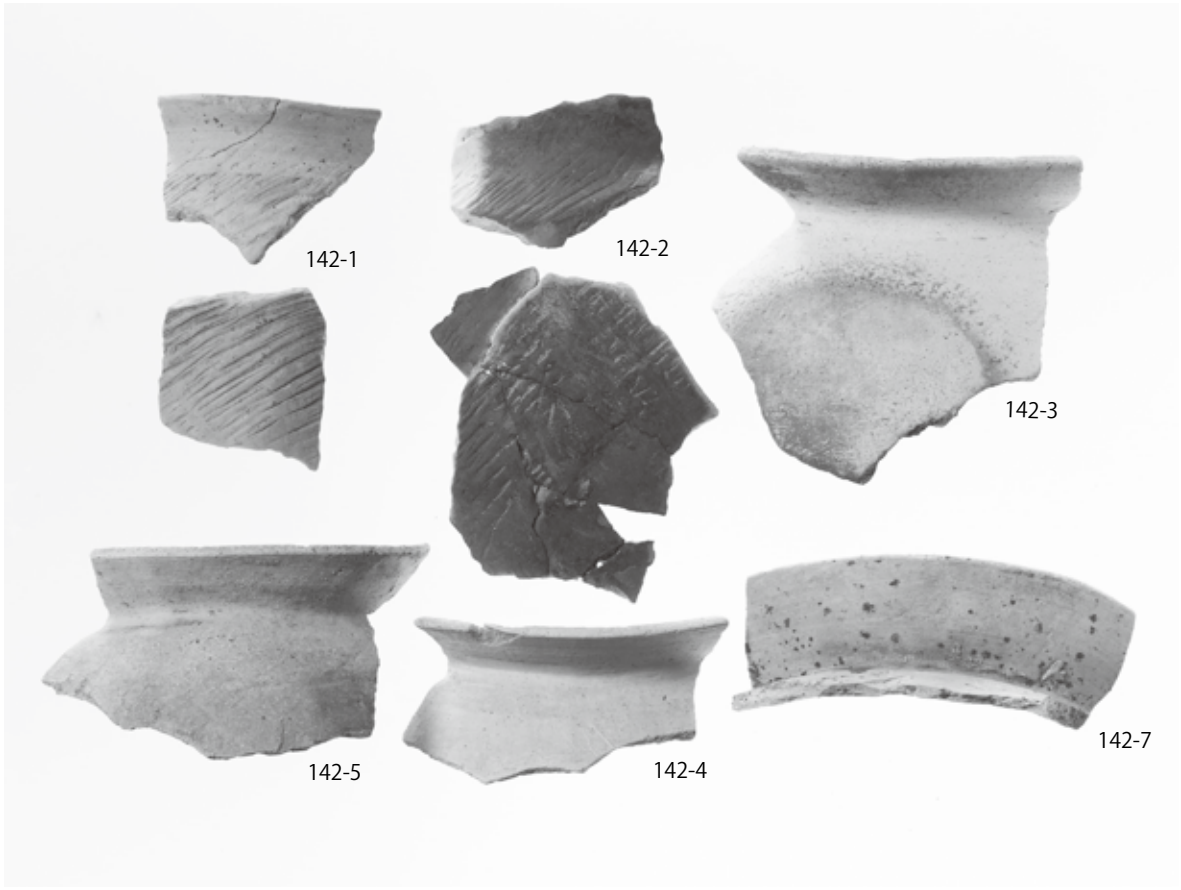
2　5 層出土須恵器



1　5 層出土土師器

2　5 層出土土師器

図版 84



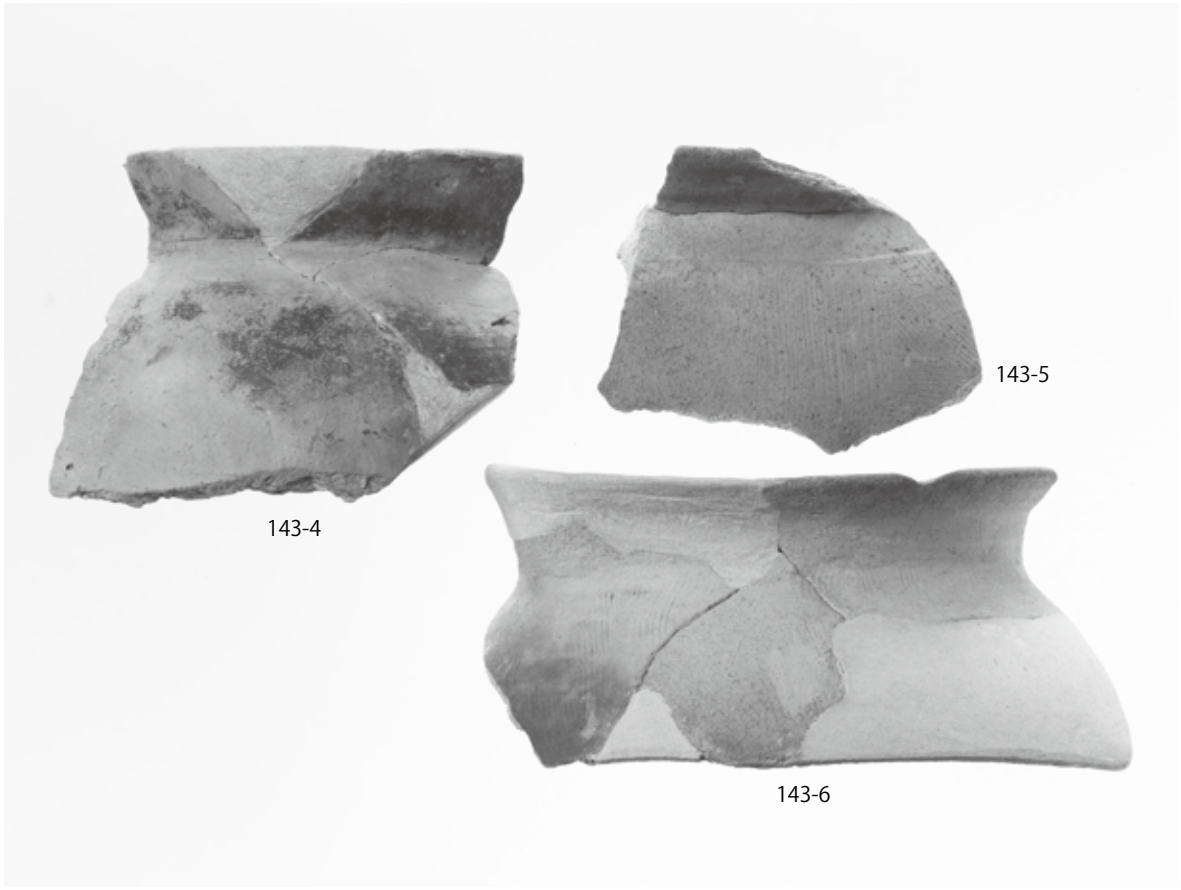
1　5 層出土土師器

2　5 層出土土師器

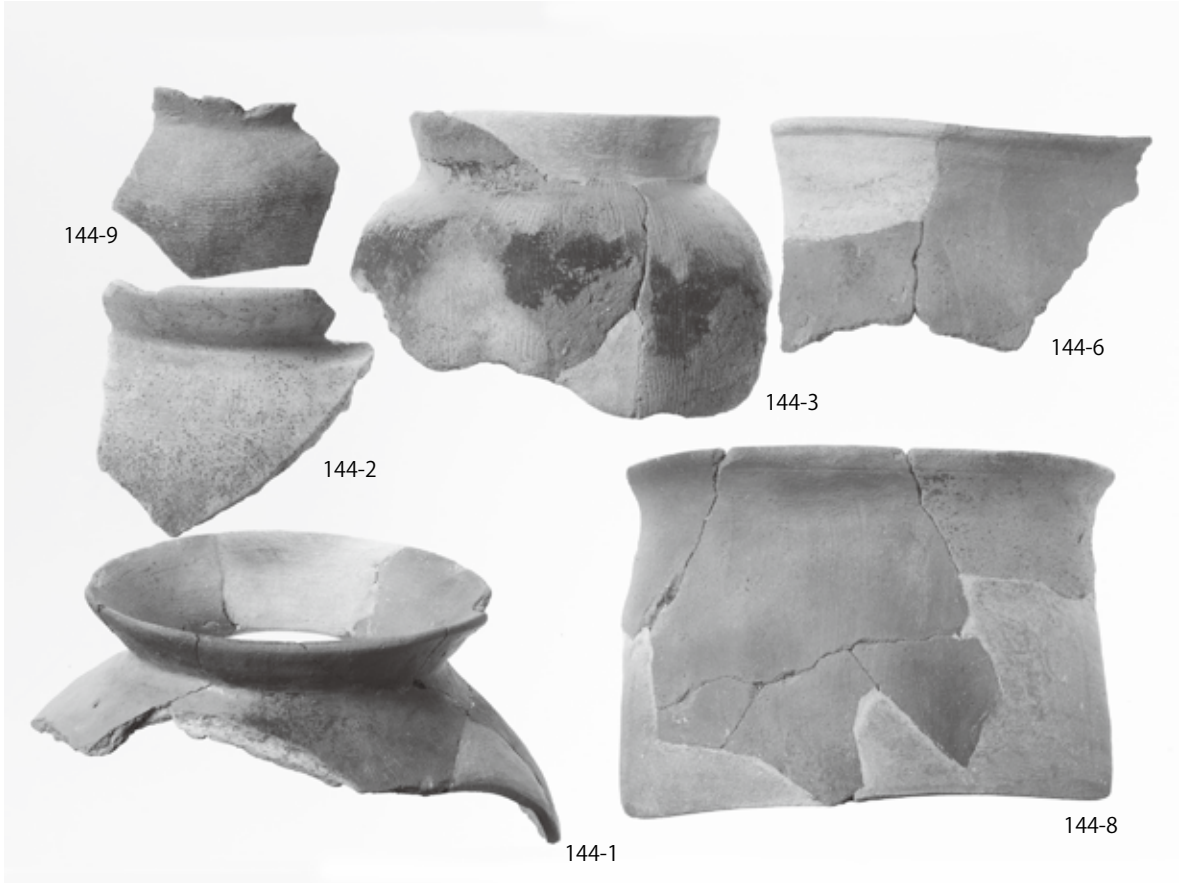
1　5層出土土師器

2　5層出土土師器

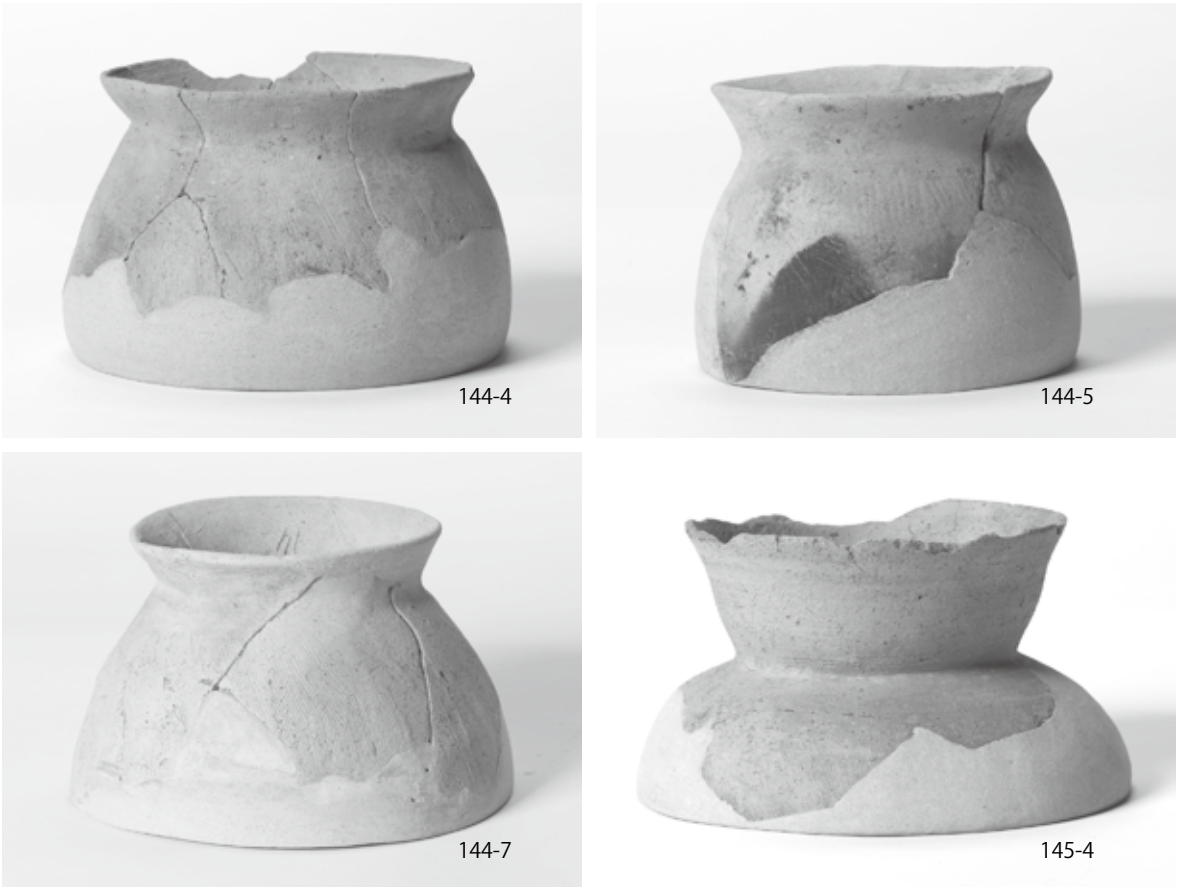
図版 86



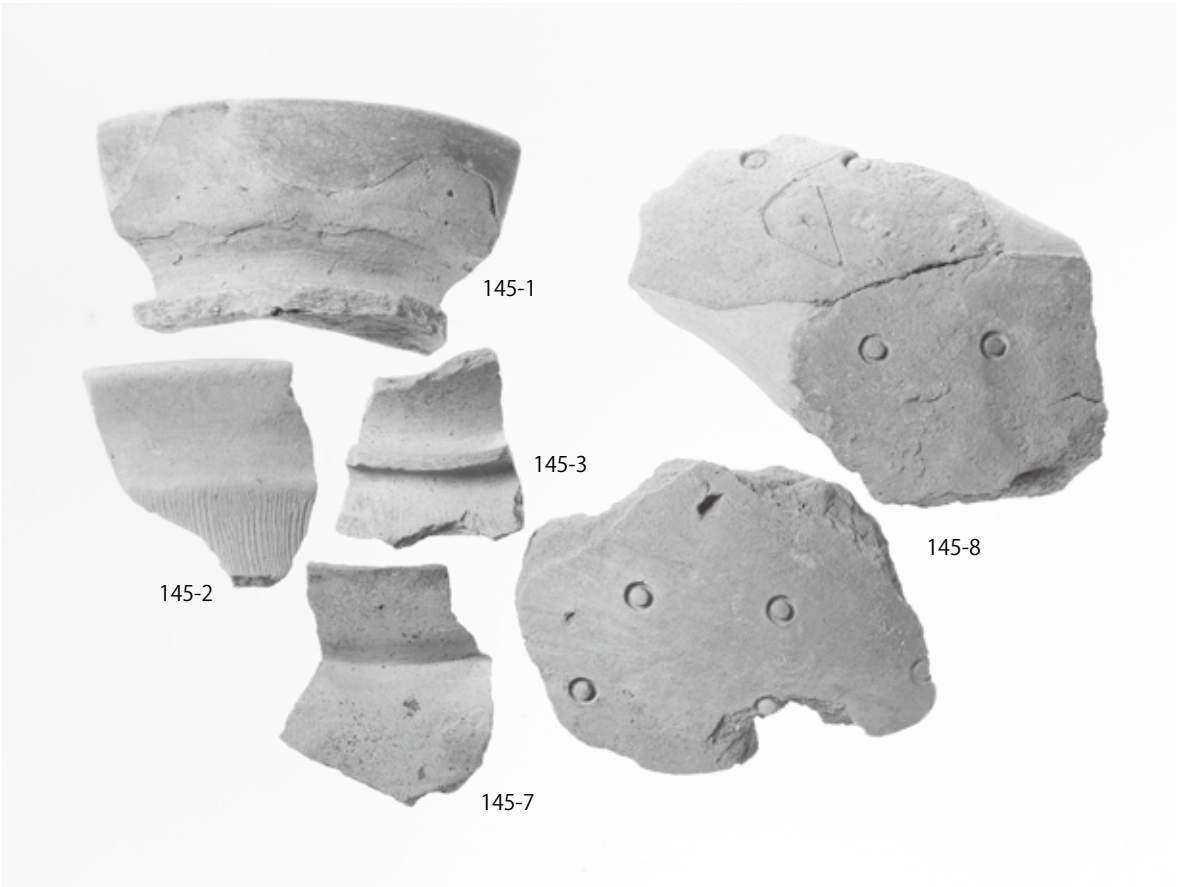
1　5 層出土土師器



2　5 層出土土師器



1　5層出土土師器



2　5層出土土師器

図版 88

145-5

145-6

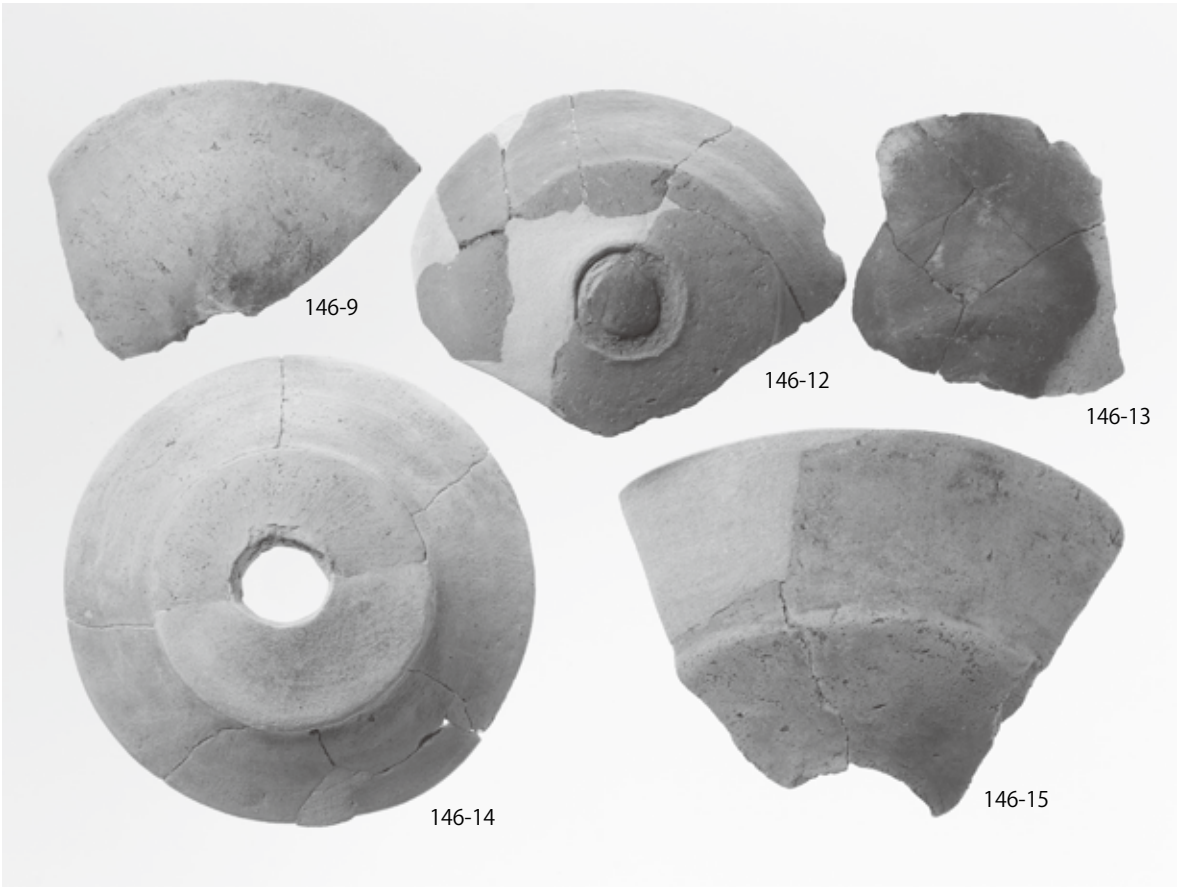
146-1 146-2 146-3 146-4

1　5 層出土土師器

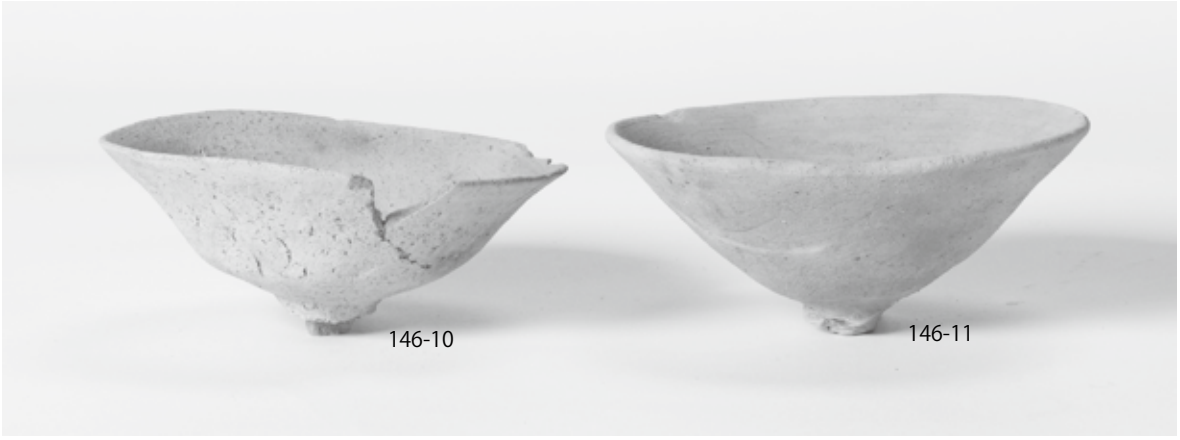
146-5 146-6

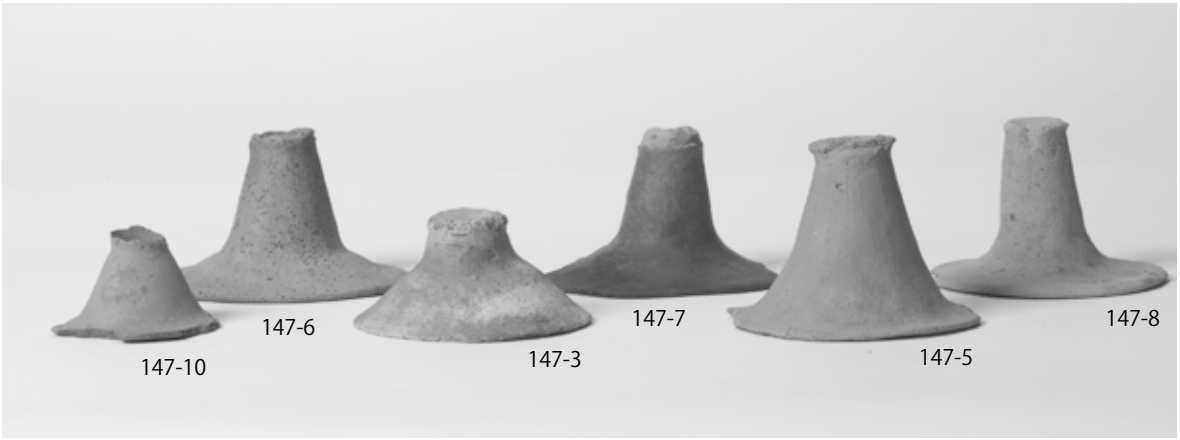
146-8 146-7

2　5 層出土土師器



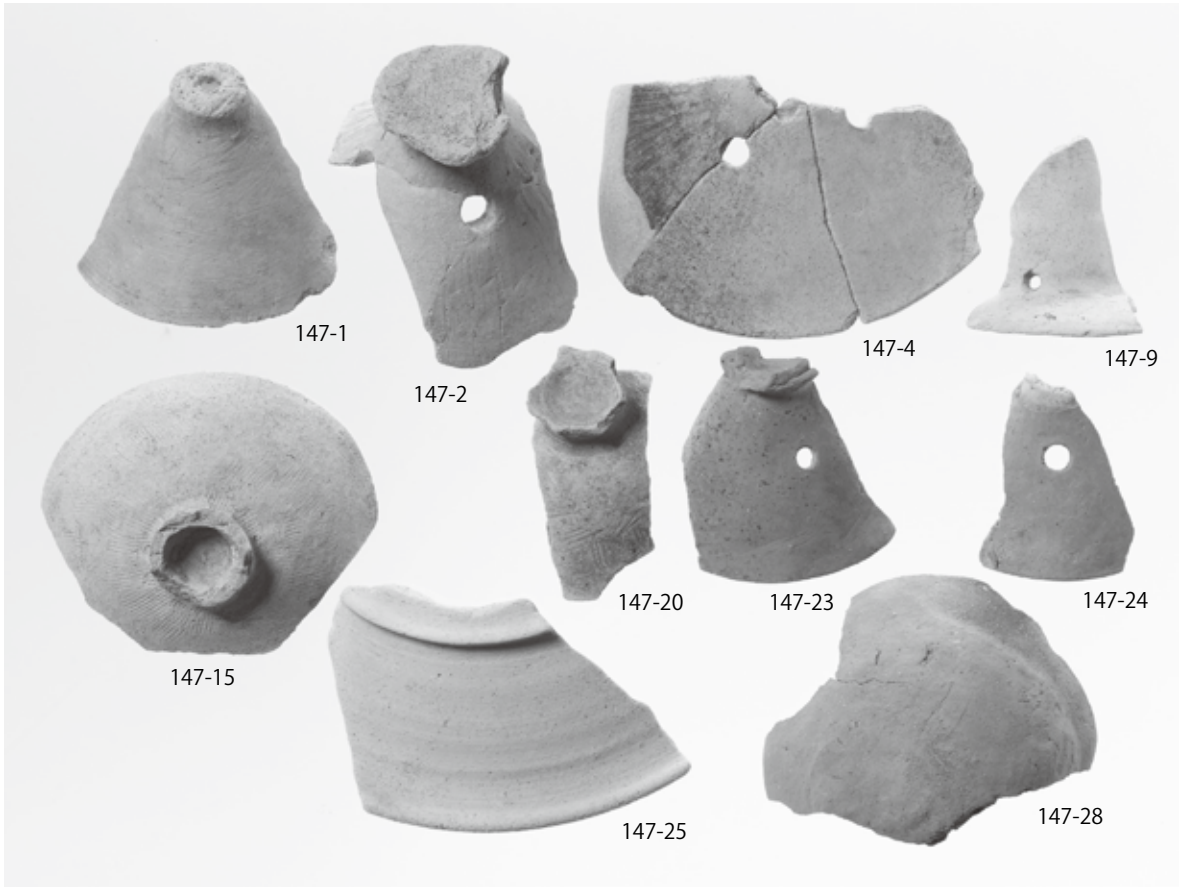
1　5層出土土師器





2　5層出土土師器

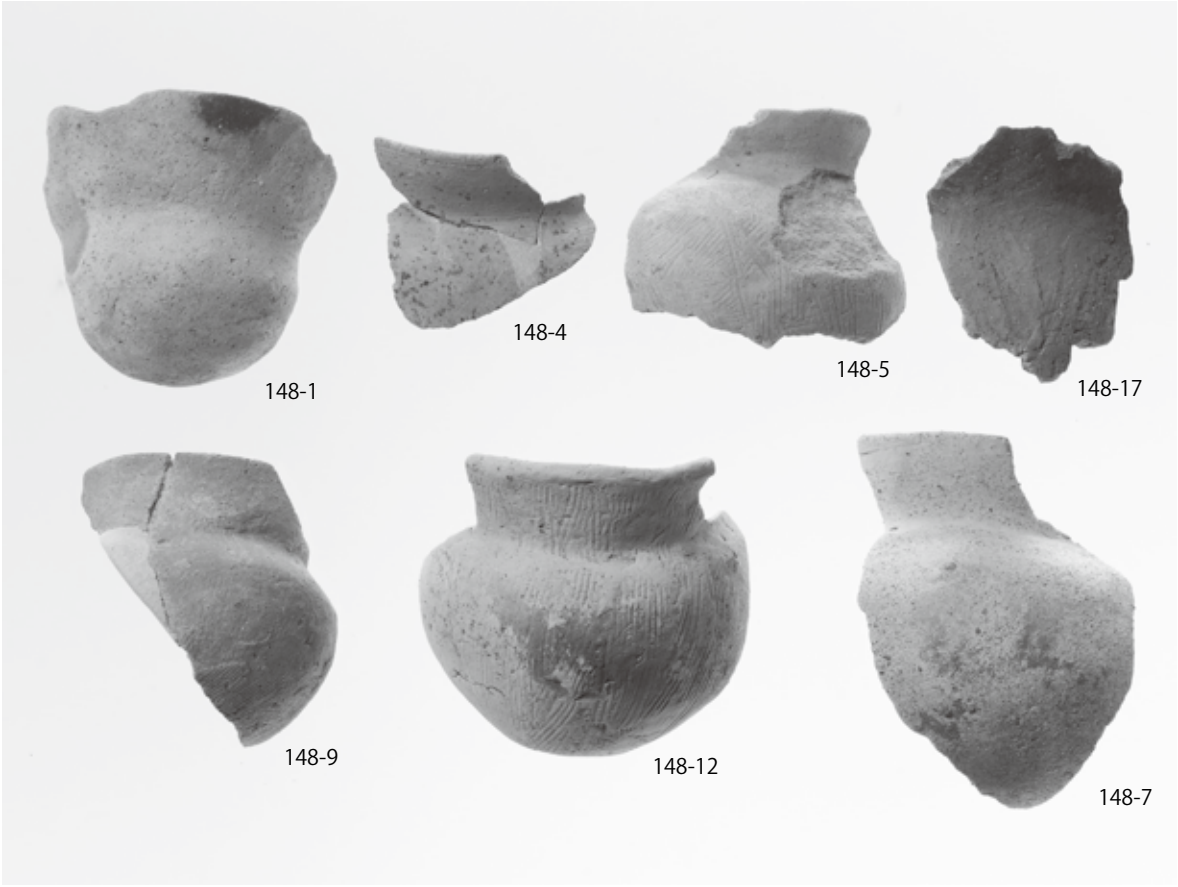
図版 90



1　5 層出土土師器

2　5 層出土土師器

1　5層出土土師器

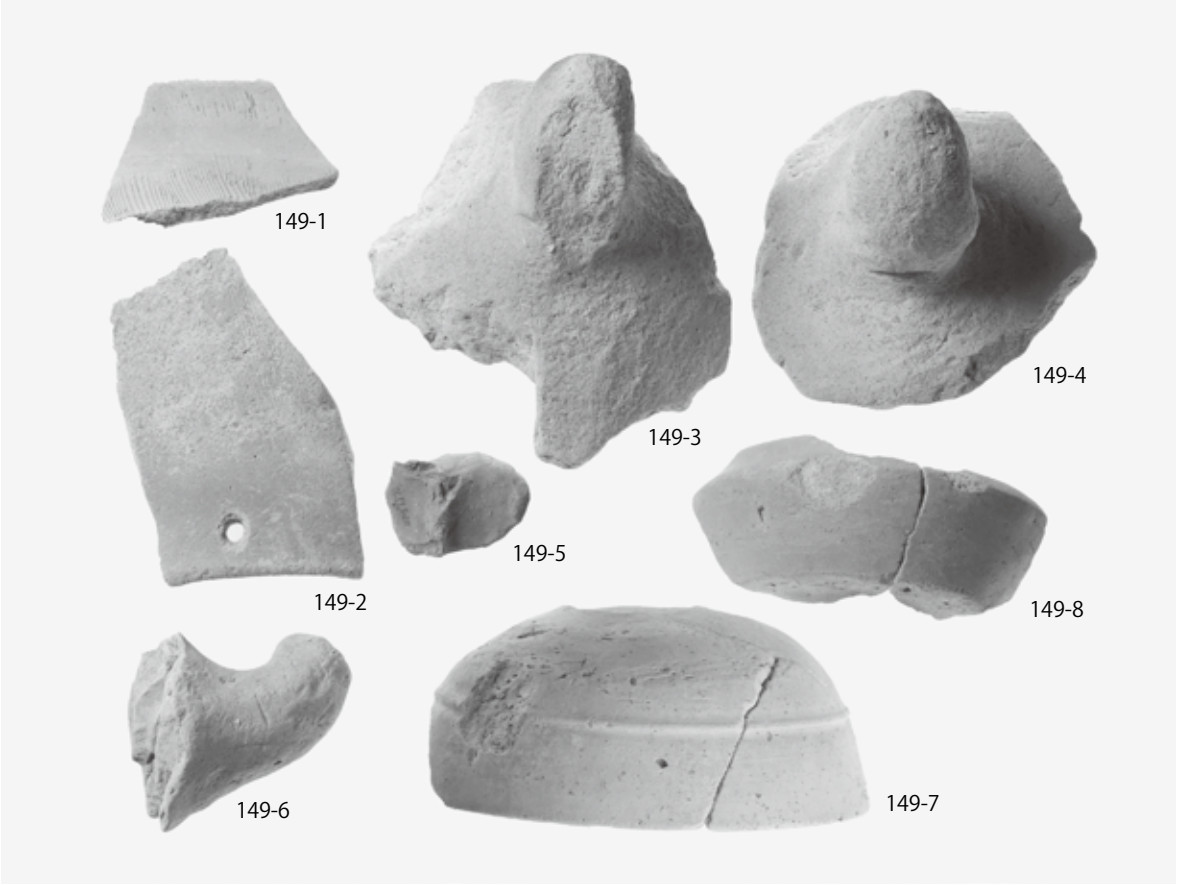


2　5層出土土師器

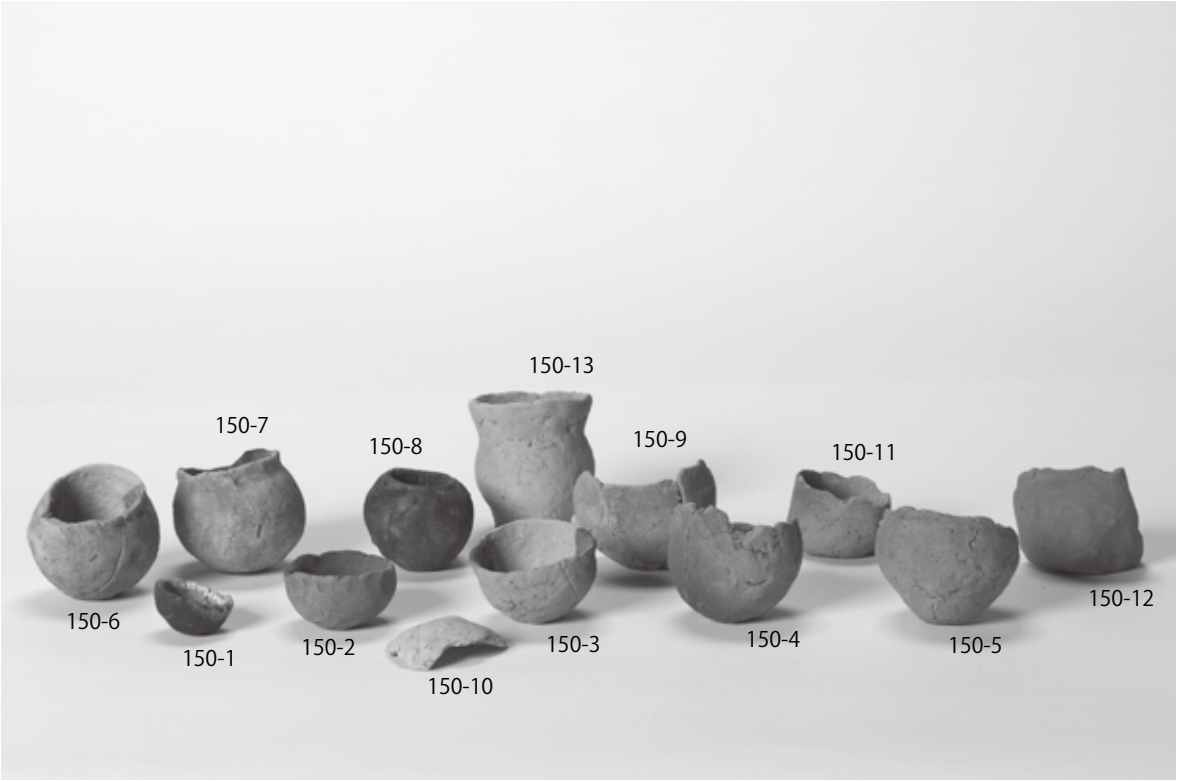
図版 92

1　5 層出土土師器

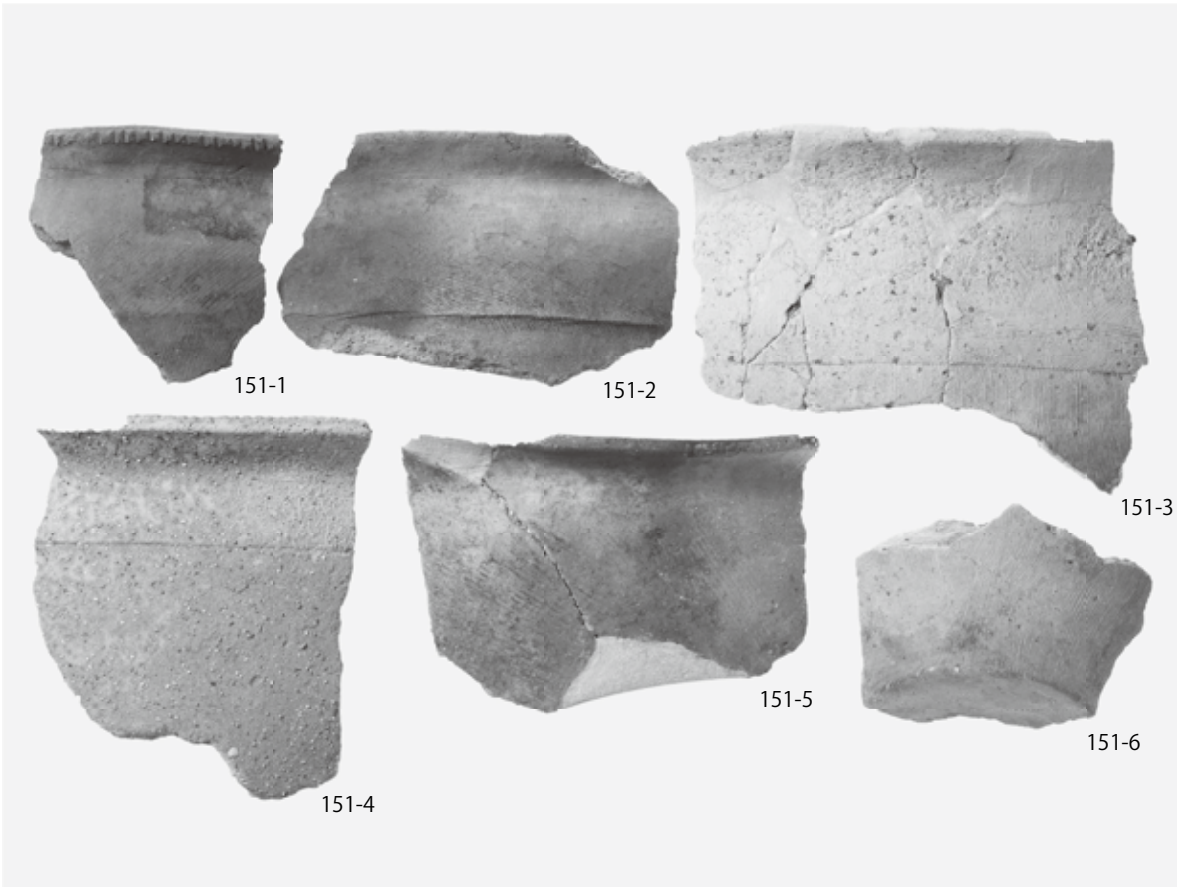
2　5 層出土土師器



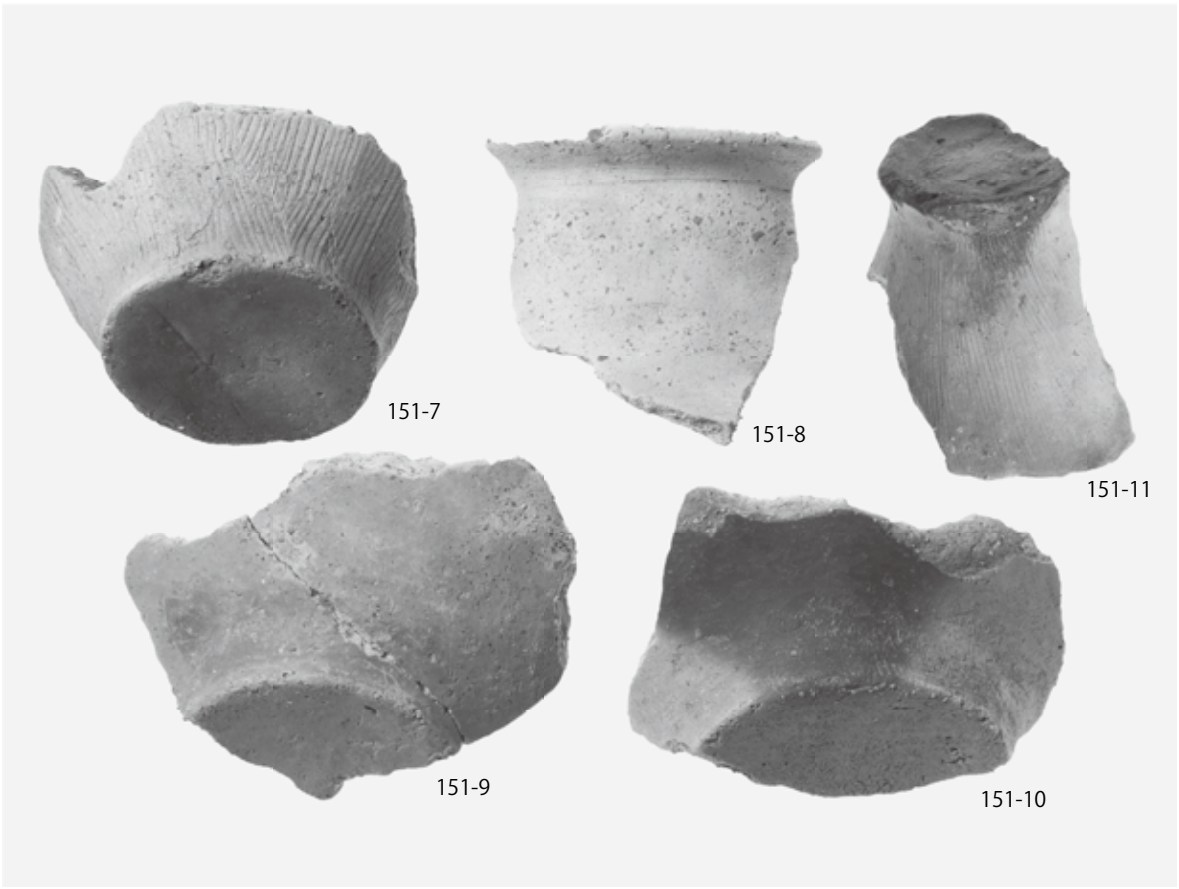
1　5層出土土師器



2　5層出土土師器



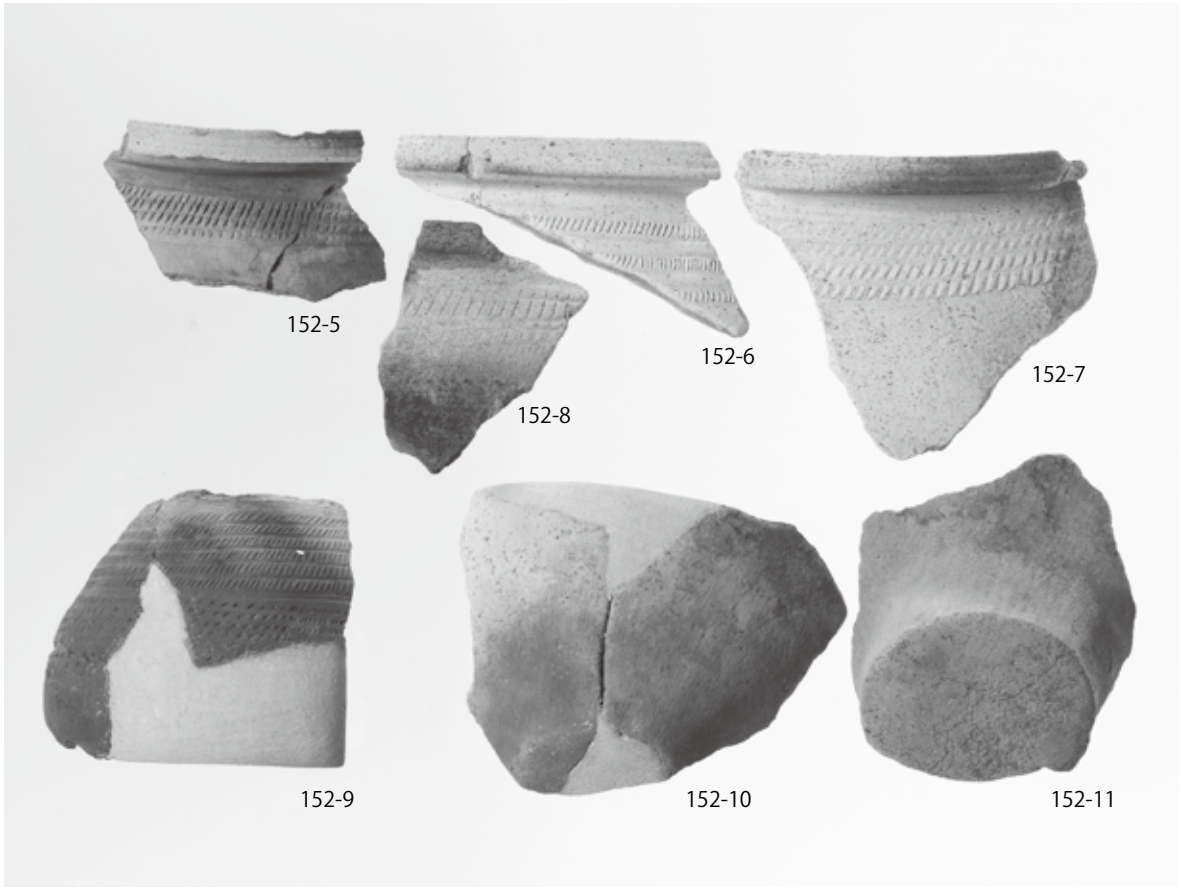
1　5層出土弥生土器



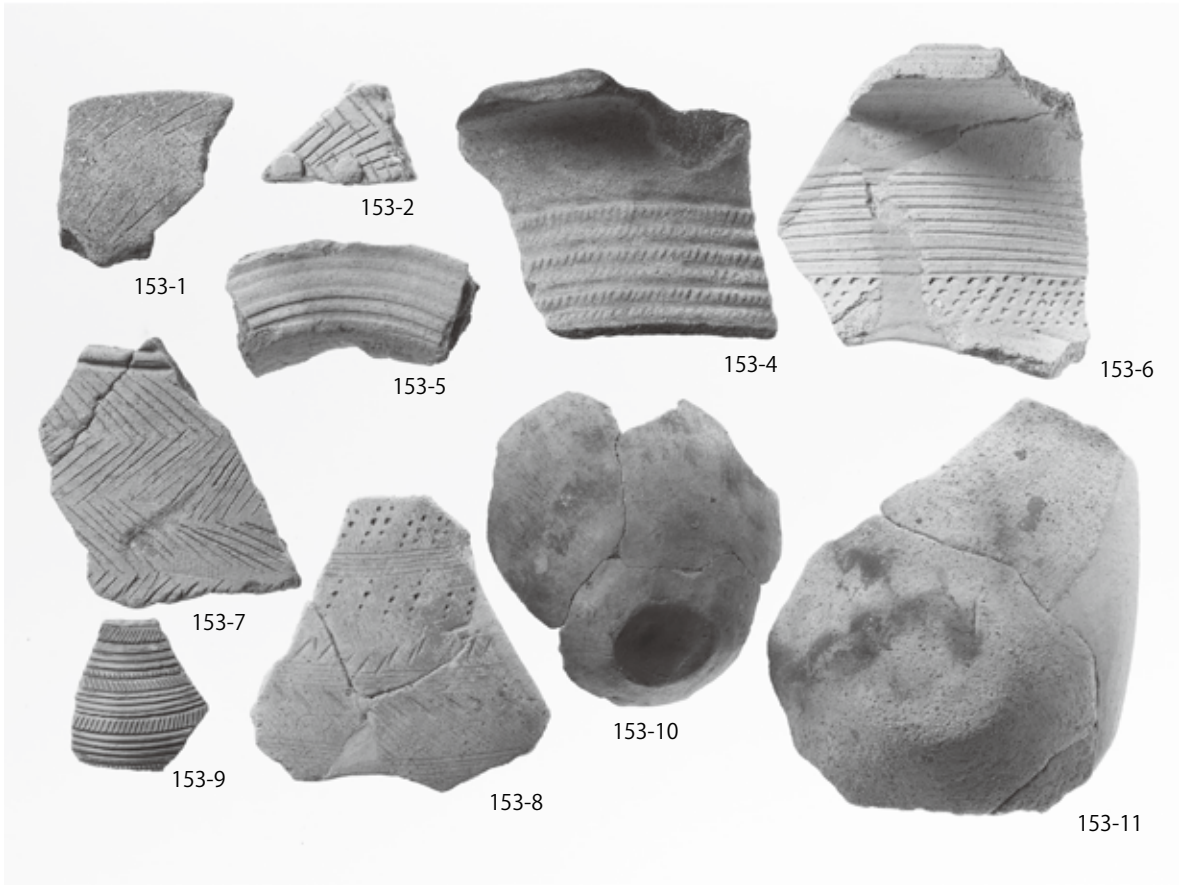
2　5層出土弥生土器

1　5層出土弥生土器

2　5層出土弥生土器

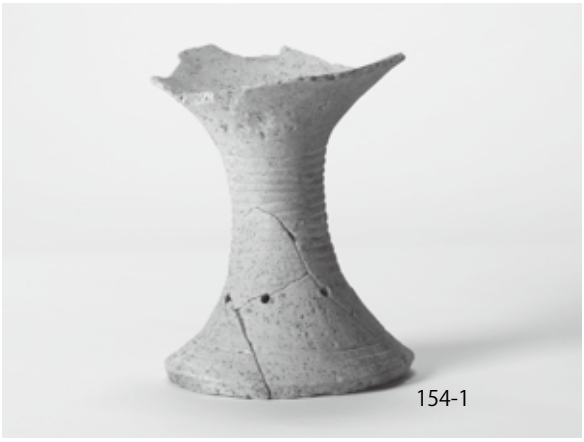


1　5層出土弥生土器



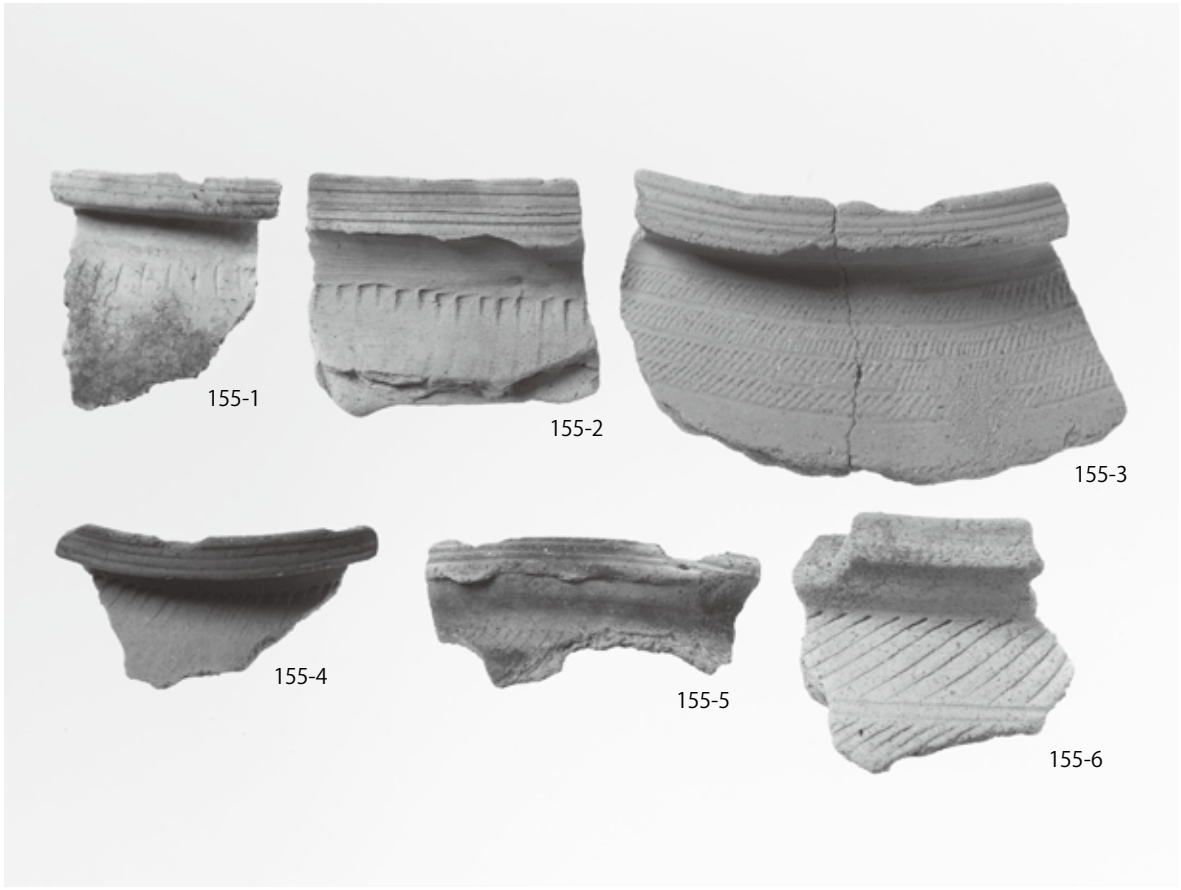
2　5層出土弥生土器

1　5 層出土弥生土器

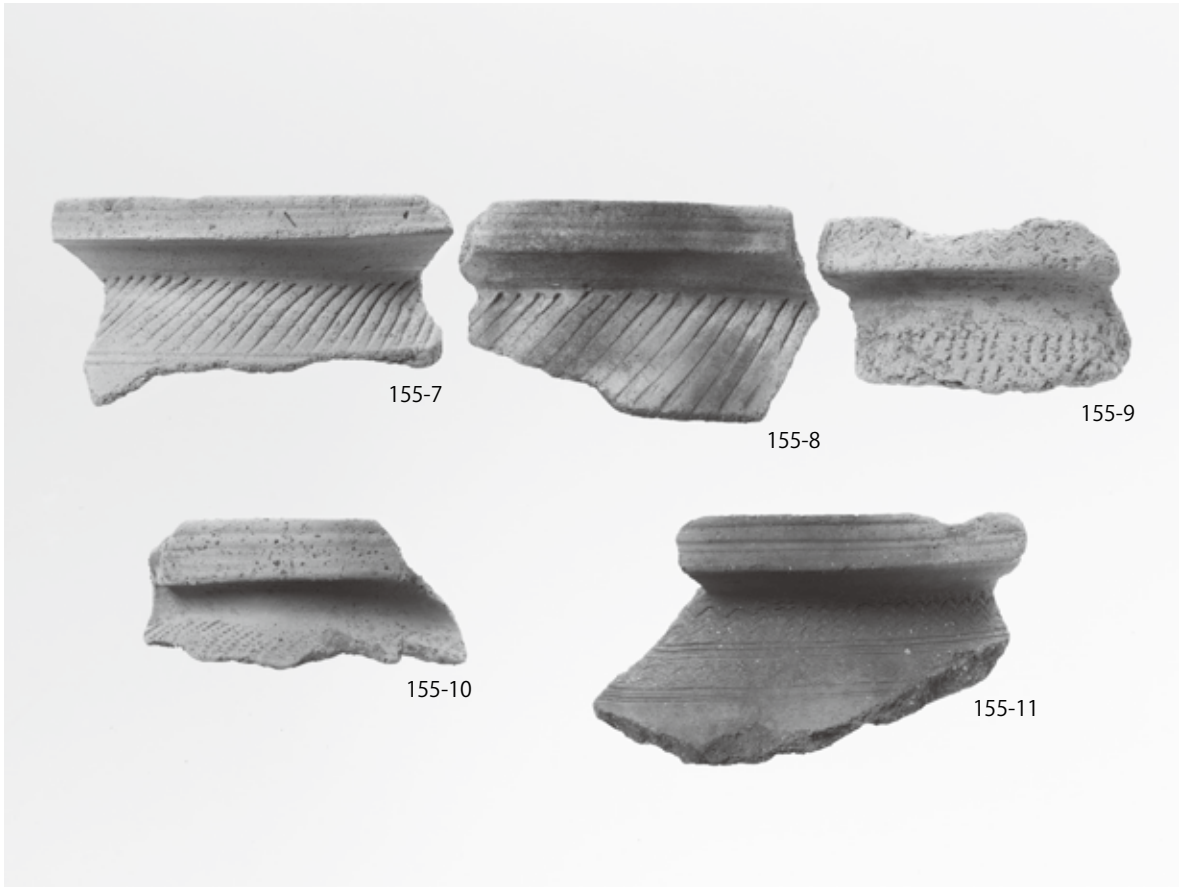


2　5 層出土弥生土器

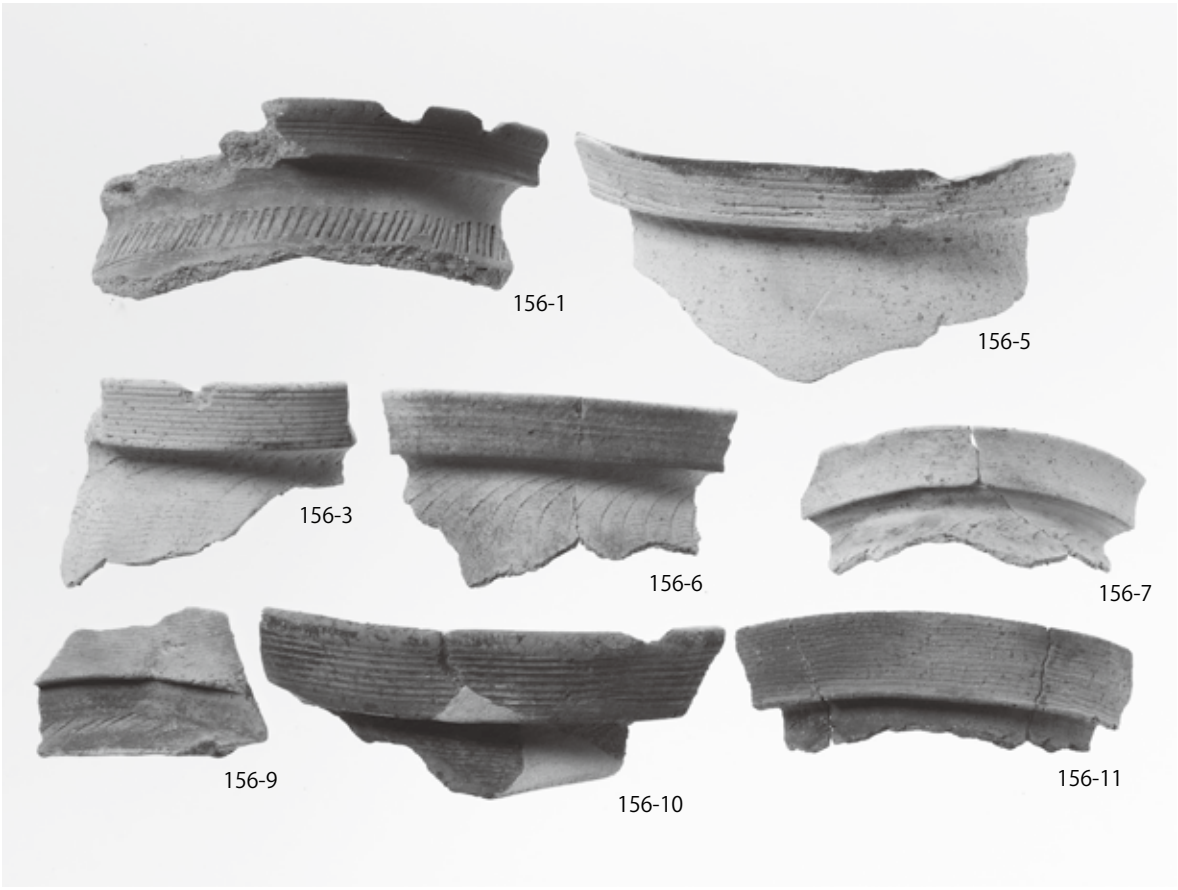
図版 98



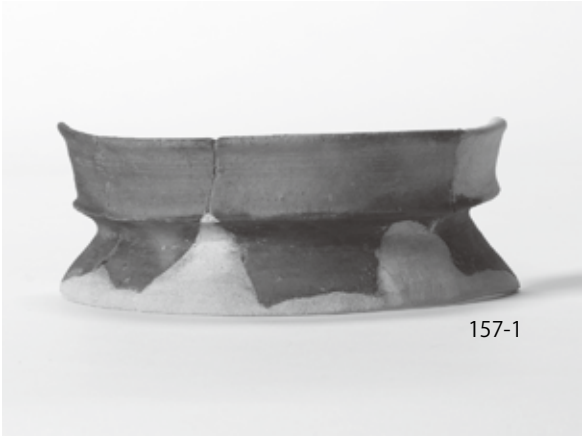
1　5 層出土弥生土器



2　5 層出土弥生土器



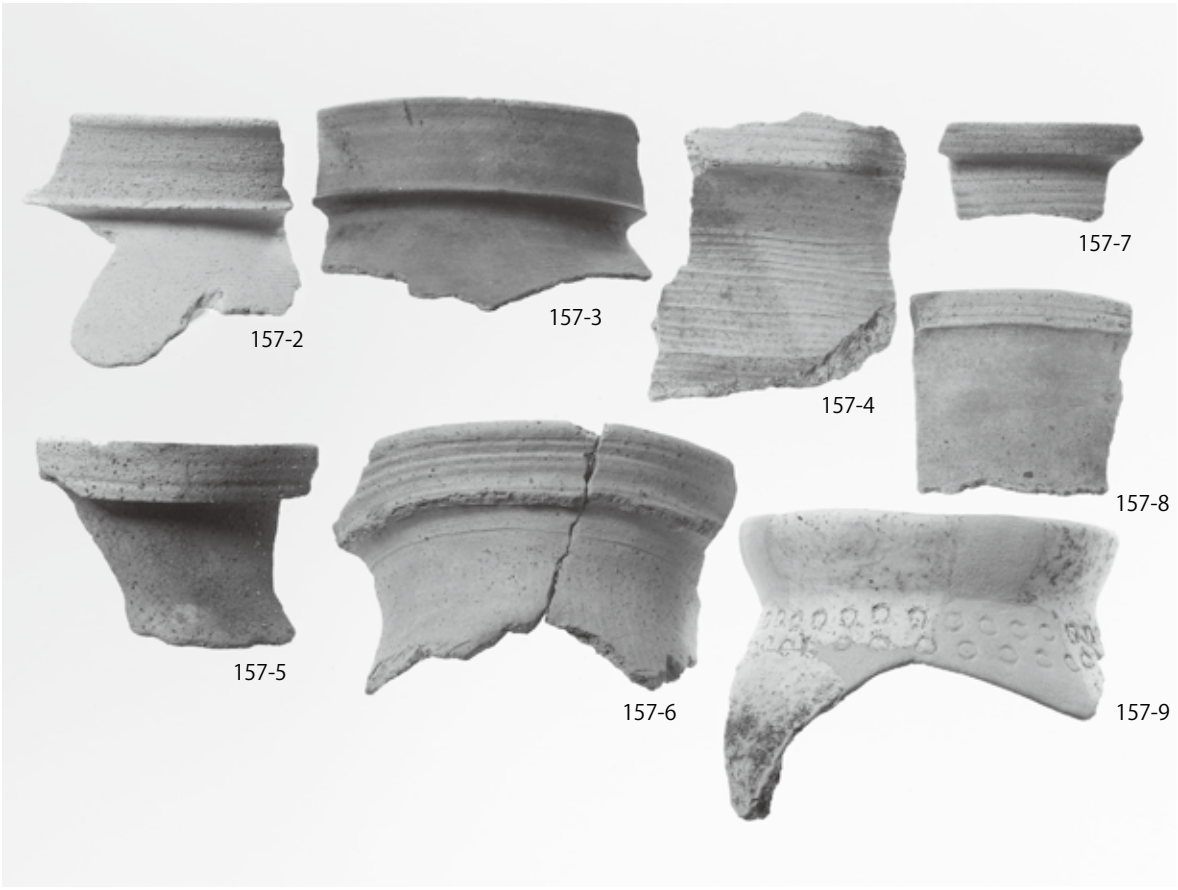
1　5 層出土弥生土器



2　5 層出土弥生土器

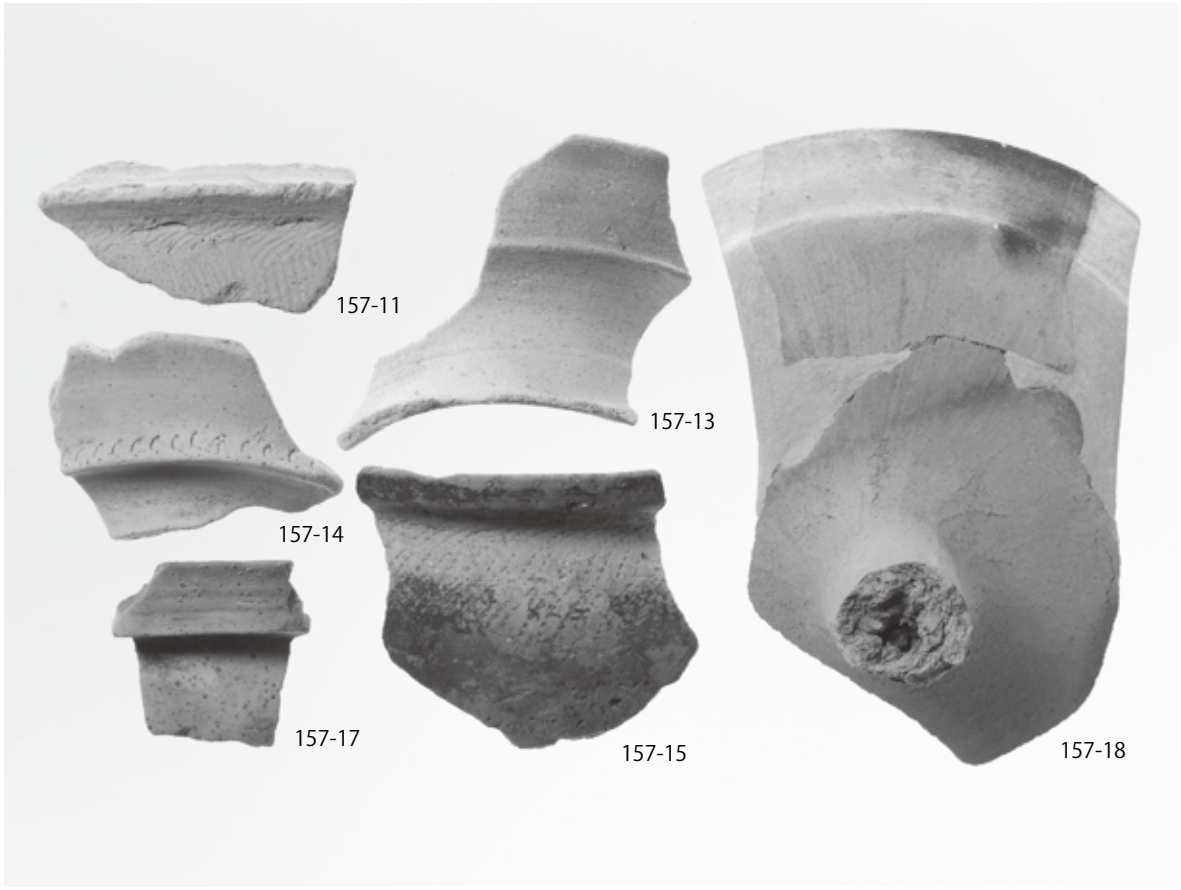
1　5 層出土弥生土器

2　5 層出土弥生土器

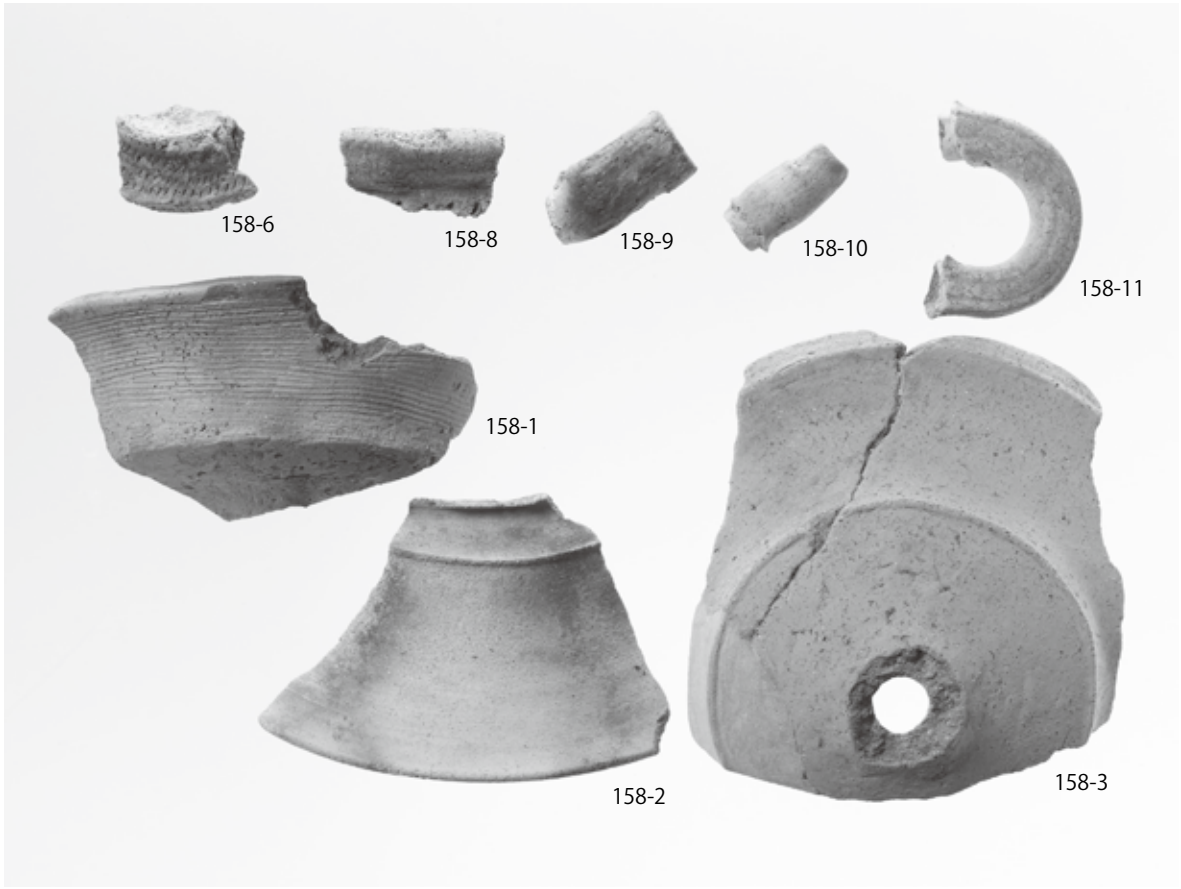


1　5 層出土弥生土器

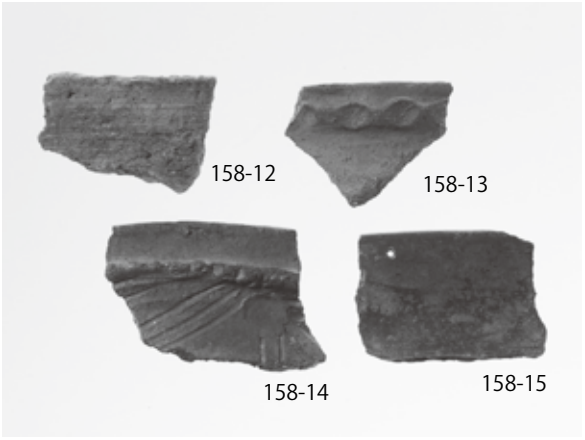
2　5 層出土弥生土器

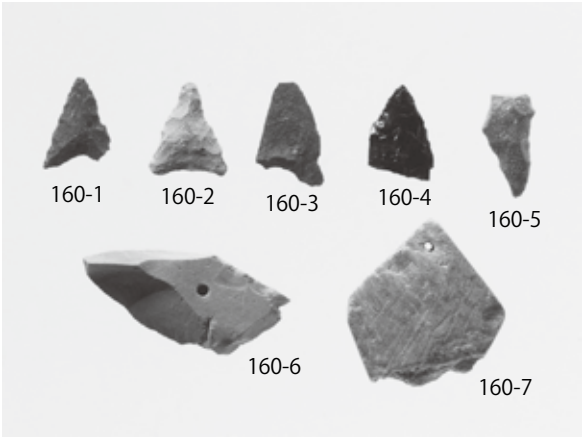


1　5層出土弥生土器

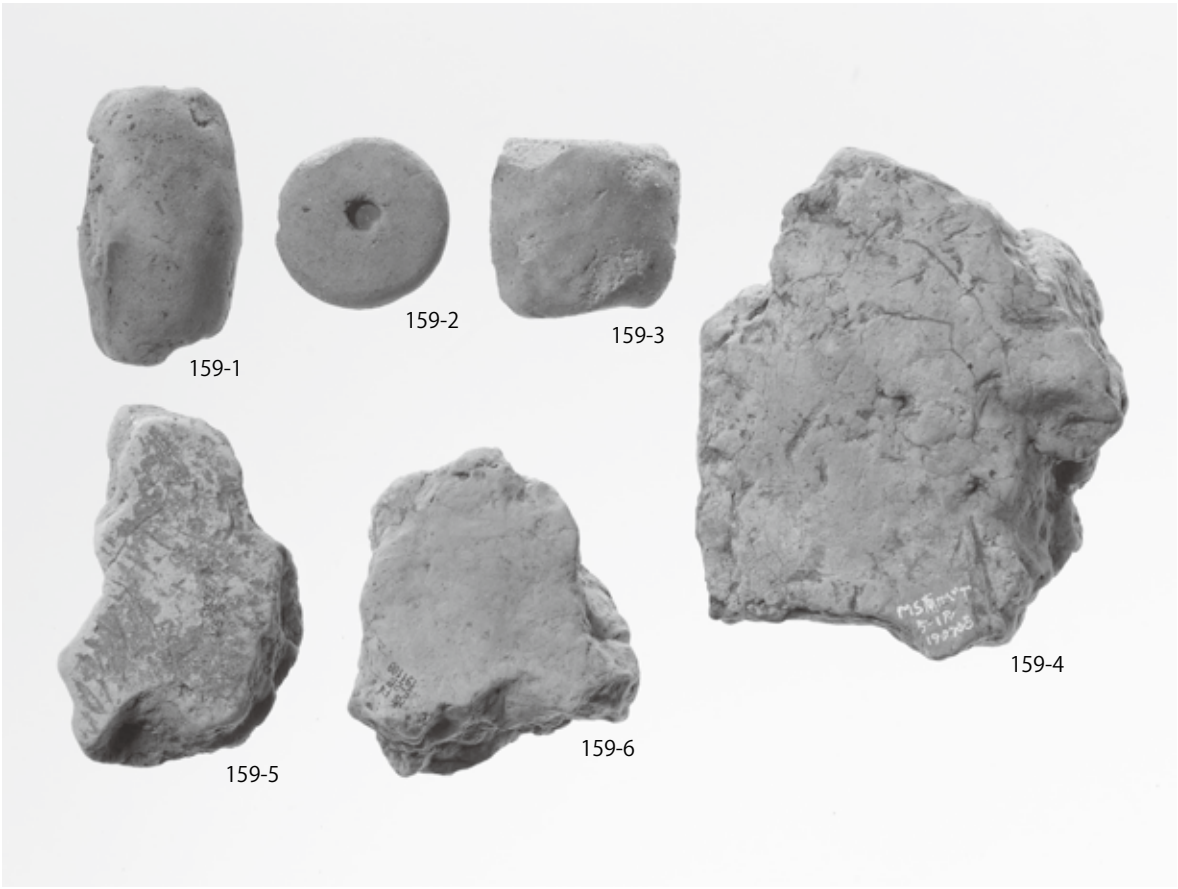


2　5層出土弥生土器



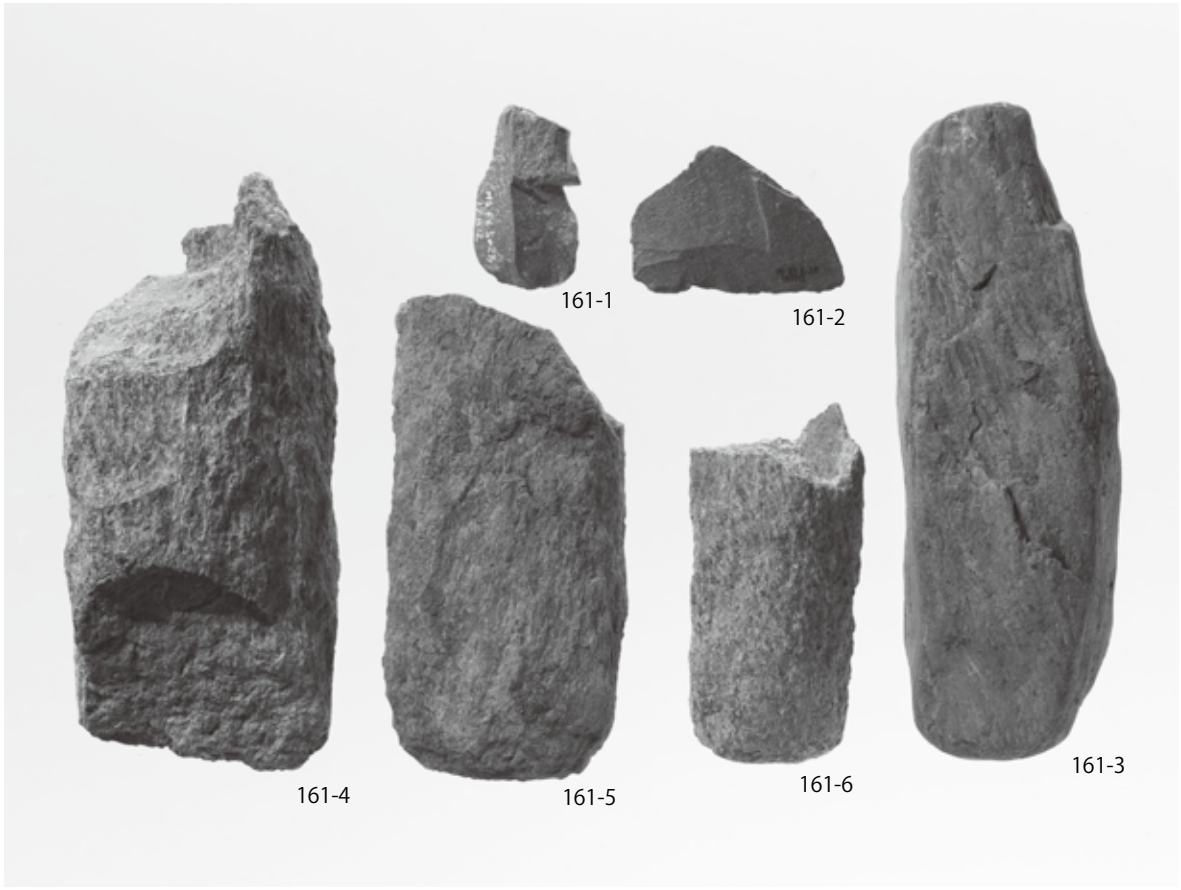


1　5層出土弥生土器・縄文土器・石製品

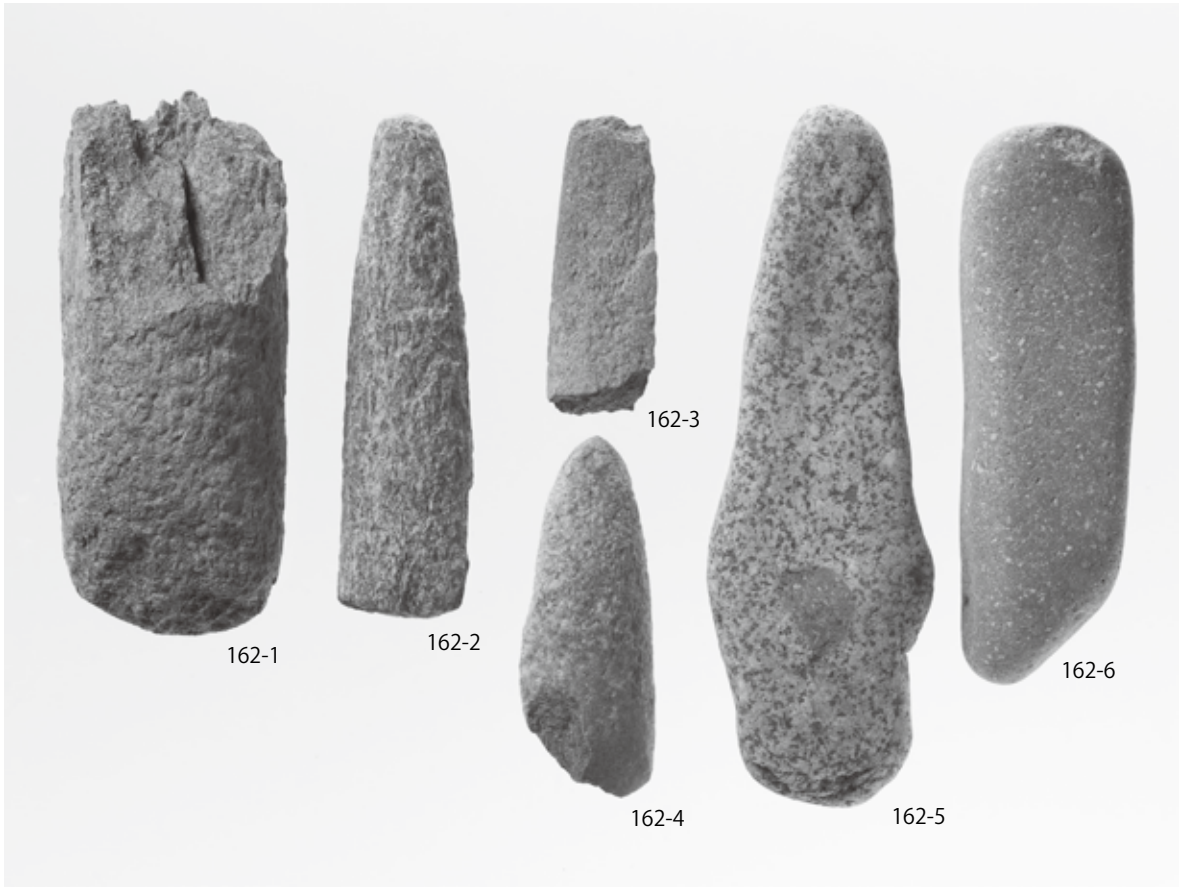


2　5層出土土製品

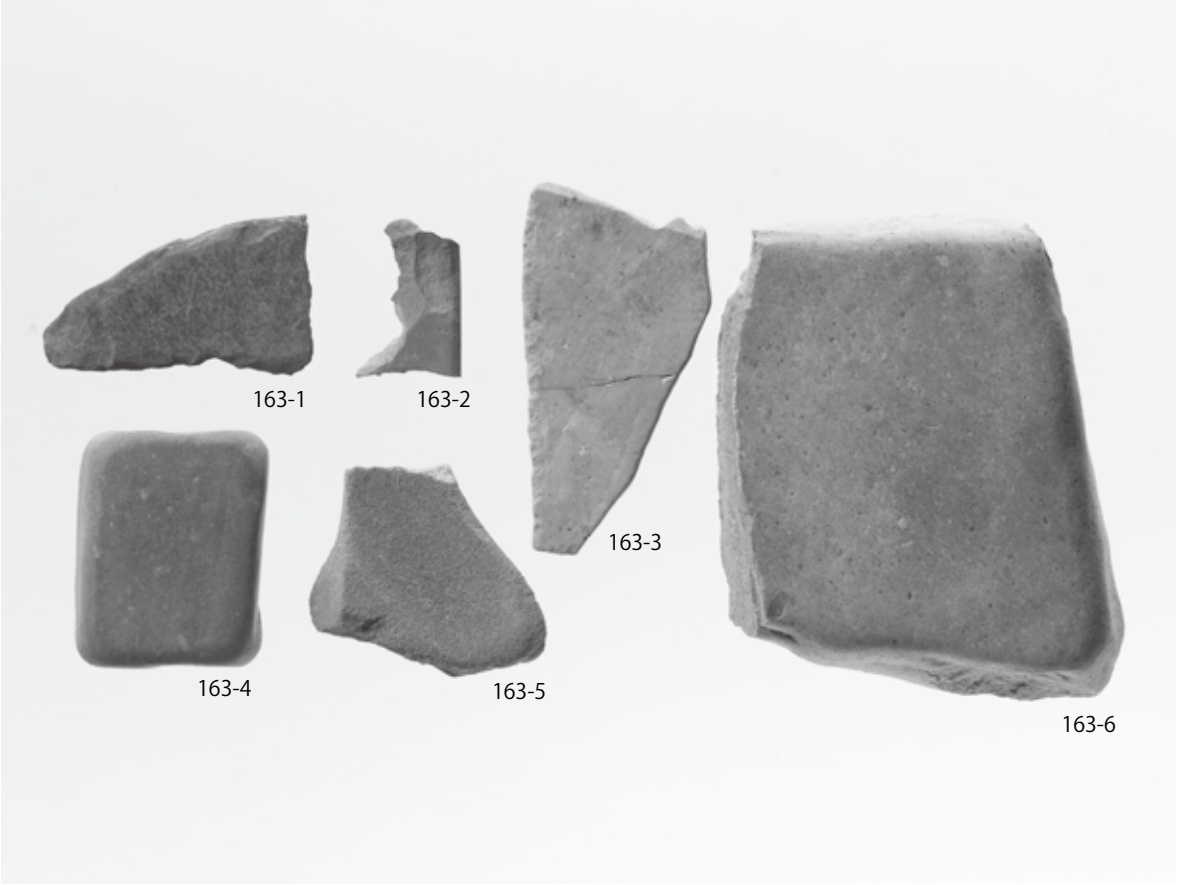
図版 104



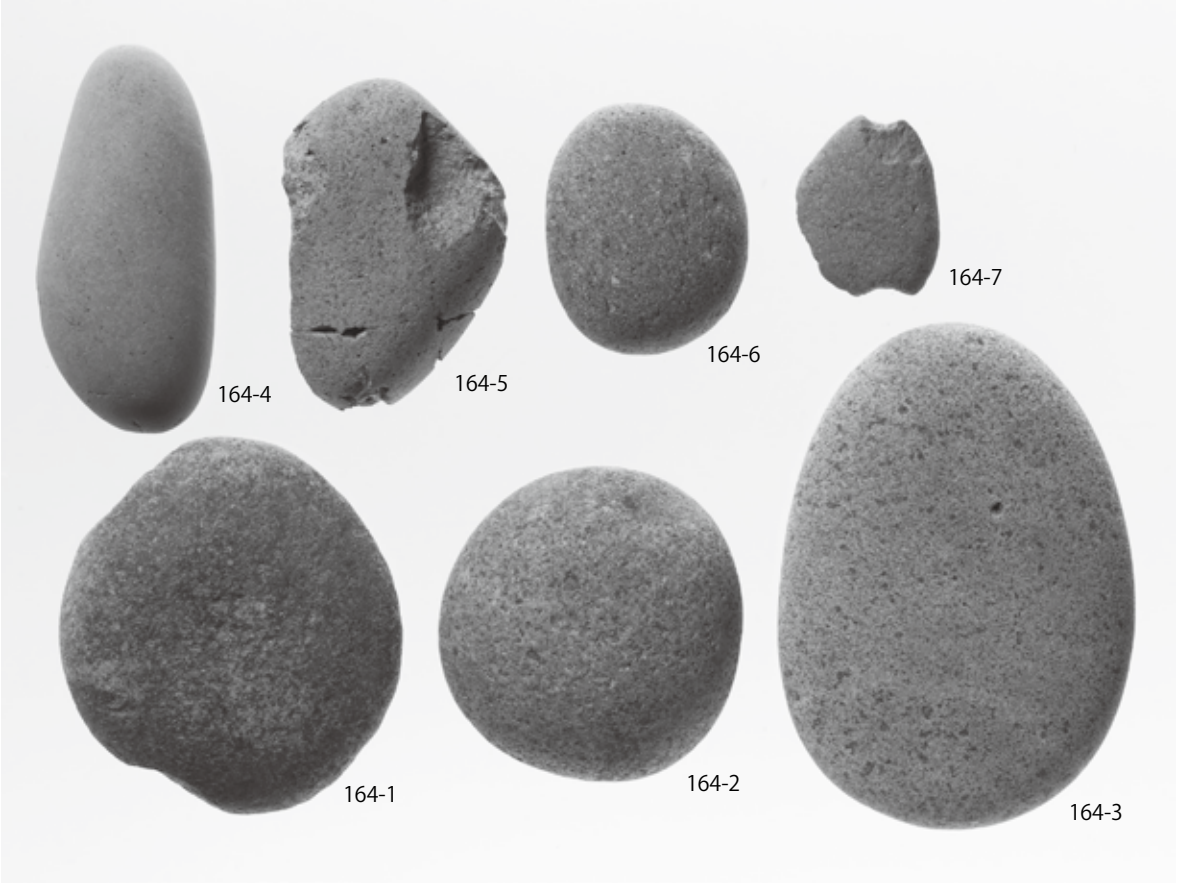
1　5 層出土石製品



2　5 層出土石製品

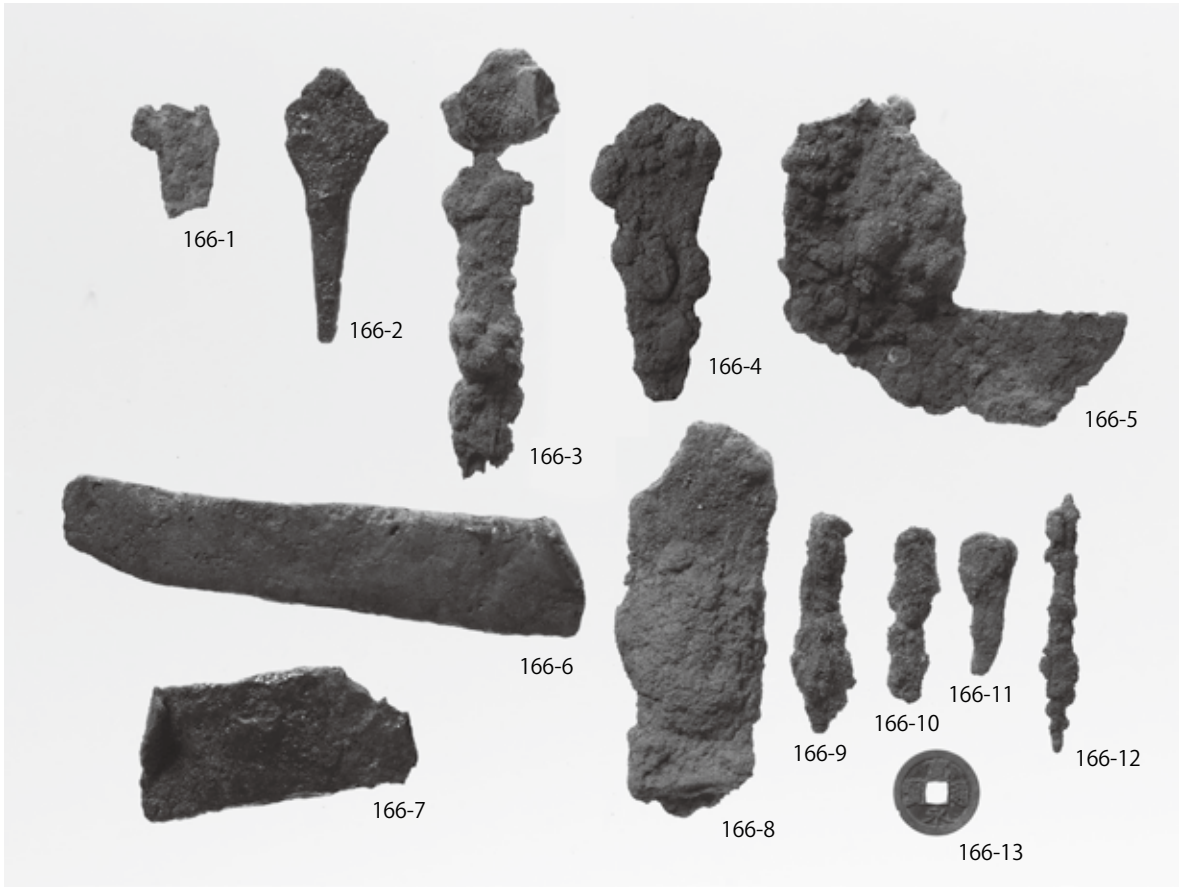


1　5層出土石製品

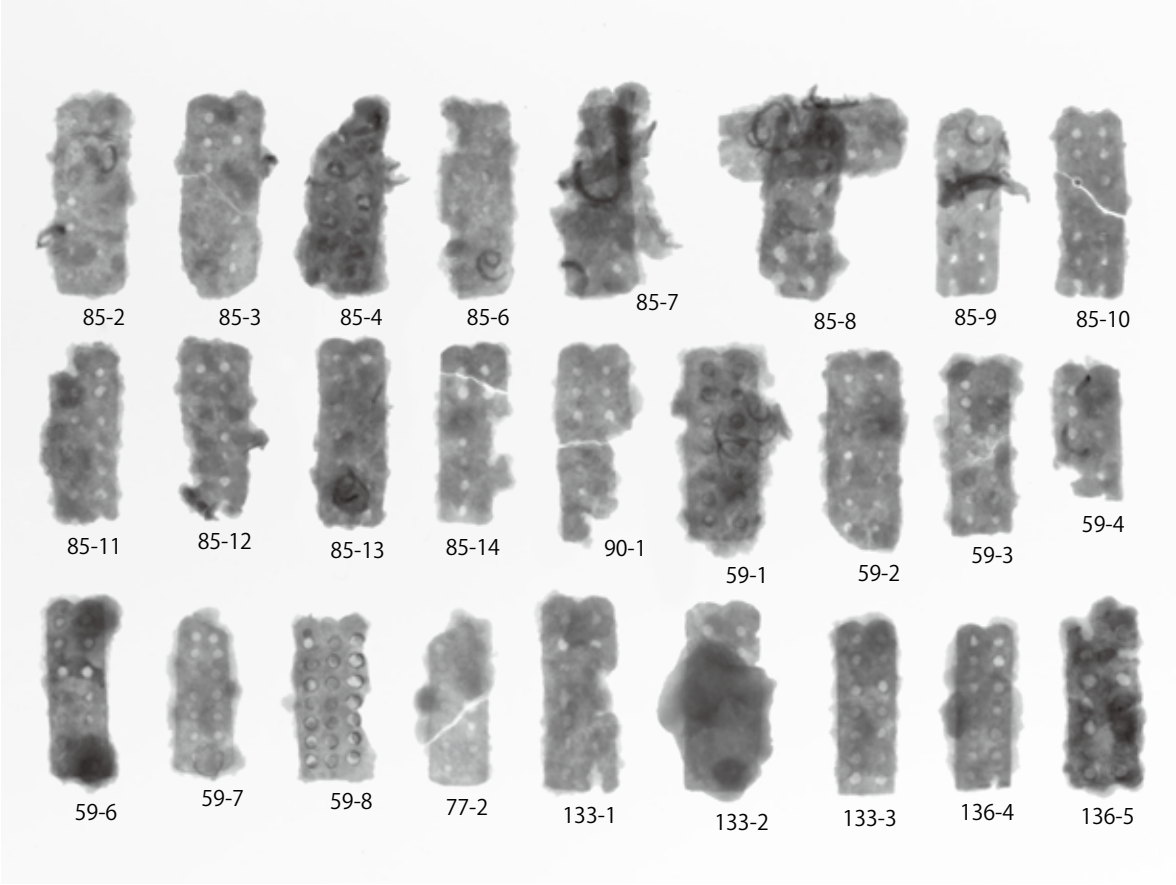


2　5層出土石製品

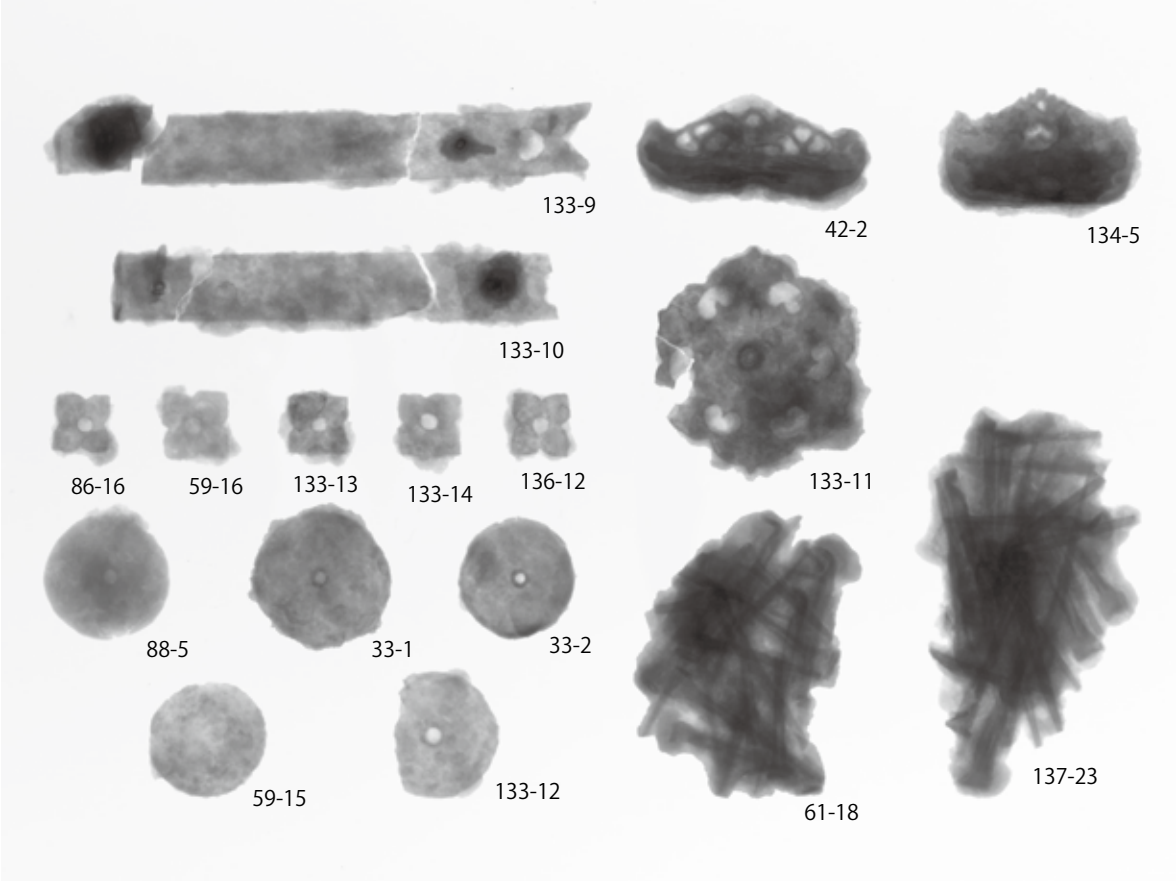
1　5層出土石製品



2　5層出土鉄製品・青銅製品



1　中世後半小札 X 線写真



2　中世後半建物金具・火打金・釘塊 X 線写真

報　告　書　抄　録

ふりがな	もりばらしものはらいせき
書名	森原下ノ原遺跡　1～3区
副書名	古代～近世編
巻次	1
シリーズ名	一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	4
編著者名	真木大空（まき ひろたか）
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
所在地	〒690-0131　島根県松江市打出町33番地　TEL：0852-36-8608　FAX：0852-36-8025 E-mail：maibun@pref.shimane.lg.jp　https：//www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
発行年月日	令和4年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
もりばらしものはら 森原下ノ原 いせき 遺跡 1～3区	しまねけんごうつしまつかわちょうやかみ 島根県江津市松川町八神	32202	D336	35° 00′ 20″	132° 15′ 24″	2019 0603 ～ 2020 0207 2020 0511 ～ 2020 1216	5,000	河川改修

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	近世 中世 古墳時代 弥生時代	畑、鍛冶炉、集石（近世）、礎石建物、掘立柱建物、鍛冶炉、集石（15～16世紀）	陶磁器、須恵器、土師器、弥生土器、縄文土器、石製品、鉄製品	15～16世紀の建物群、鍛冶炉にともなう小札、飾り金具 包含層から後漢鏡、石釧

要約

江の川右岸の自然堤防上で縄文時代中期から近世にかけての複数の遺構面、包含層を確認した。本書はそのうち古代から近世の遺構と弥生時代中期以降の包含層出土遺物について報告した。近世では、少なくとも2層にわたる畑と鍛冶炉を検出した。その下層では15～16世紀の少なくとも2面にわたる遺構面を検出し、礎石建物、掘立柱建物などの複数の建物跡や鍛冶炉を検出した。遺構面からは貿易陶磁器や大量の鉄製品、鍛冶関連遺物が出土し、中でも県内最多となる甲冑の小札や建物の飾り金具などは注目される。遺構・遺物の内容から館もしくは川湊機能を有した集落の一角と考えられる。

また、包含層からは弥生・古墳時代の遺物が大量に出土し、中には後漢鏡や県内2例目となる石釧など貴重品も含まれる。さらに下層では弥生時代後期～古墳時代中期の集落、縄文時代後期の集落、縄文時代中・後期の大量の遺物が出土した包含層を検出しており、これらについては『縄文～古墳時代編』で報告する。

森原下ノ原遺跡
1～3区
1．古代～近世編

一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書4

発　行　2022（令和4）年3月
発行者　島根県教育委員会
編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131　島根県松江市打出町33番地
電話　0852-36-8608
印　刷　有限会社　伊　藤　印　刷